2026年度
スポーツ健康学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

総合教育科目_外国語科目【M0070】総合英語Ⅰ（a）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 1
総合教育科目_外国語科目【M0071】総合英語Ⅰ（a）［山本　三穂］春学期授業/Spring 2
総合教育科目_外国語科目【M0072】総合英語Ⅰ（a）［大塚　孝一］春学期授業/Spring 3
総合教育科目_外国語科目【M0073】総合英語Ⅰ（a）［衣川　清子］春学期授業/Spring 4
総合教育科目_外国語科目【M0074】総合英語Ⅰ（a）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］春学期授業/Spring 5
総合教育科目_外国語科目【M0075】総合英語Ⅰ（a）［ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ］春学期授業/Spring . 6
総合教育科目_外国語科目【M0076】総合英語Ⅰ（a）［ハリントン　クリストフ］春学期授業/Spring 8
総合教育科目_外国語科目【M0080】総合英語Ⅰ（b）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 10
総合教育科目_外国語科目【M0081】総合英語Ⅰ（b）［山本　三穂］秋学期授業/Fall 11
総合教育科目_外国語科目【M0082】総合英語Ⅰ（b）［大塚　孝一］秋学期授業/Fall 12
総合教育科目_外国語科目【M0083】総合英語Ⅰ（b）［衣川　清子］秋学期授業/Fall 13
総合教育科目_外国語科目【M0084】総合英語Ⅰ（b）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］秋学期授業/Fall 14
総合教育科目_外国語科目【M0085】総合英語Ⅰ（b）［ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ］秋学期授業/Fall ... 15
総合教育科目_外国語科目【M0086】総合英語Ⅰ（b）［ハリントン　クリストフ］秋学期授業/Fall 17
総合教育科目_外国語科目【M0090】総合英語Ⅱ（a）［相馬　美明］春学期授業/Spring 19
総合教育科目_外国語科目【M0091】総合英語Ⅱ（a）［浦川　智子］春学期授業/Spring 20
総合教育科目_外国語科目【M0092】総合英語Ⅱ（a）［石井　創］春学期授業/Spring 21
総合教育科目_外国語科目【M0093】総合英語Ⅱ（a）［蒔田　裕美］春学期授業/Spring 23
総合教育科目_外国語科目【M0094】総合英語Ⅱ（a）［川田　アマンディーン］春学期授業/Spring 24
総合教育科目_外国語科目【M0095】総合英語Ⅱ（a）［式町　眞紀子］春学期授業/Spring 26
総合教育科目_外国語科目【M0096】総合英語Ⅱ（a）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］春学期授業/Spring 27
総合教育科目_外国語科目【M0100】総合英語Ⅱ（b）［相馬　美明］秋学期授業/Fall 28
総合教育科目_外国語科目【M0101】総合英語Ⅱ（b）［浦川　智子］秋学期授業/Fall 29
総合教育科目_外国語科目【M0102】総合英語Ⅱ（b）［石井　創］秋学期授業/Fall 30
総合教育科目_外国語科目【M0103】総合英語Ⅱ（b）［蒔田　裕美］秋学期授業/Fall 32
総合教育科目_外国語科目【M0104】総合英語Ⅱ（b）［川田　アマンディーン］秋学期授業/Fall 33
総合教育科目_外国語科目【M0105】総合英語Ⅱ（b）［式町　眞紀子］秋学期授業/Fall 35
総合教育科目_外国語科目【M0106】総合英語Ⅱ（b）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］秋学期授業/Fall 36
総合教育科目_外国語科目【M0110】総合英語Ⅲ（a）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 37
総合教育科目_外国語科目【M0111】総合英語Ⅲ（a）［山本　三穂］春学期授業/Spring 38
総合教育科目_外国語科目【M0112】総合英語Ⅲ（a）［大塚　孝一］春学期授業/Spring 39
総合教育科目_外国語科目【M0113】総合英語Ⅲ（a）［衣川　清子］春学期授業/Spring 40
総合教育科目_外国語科目【M0114】総合英語Ⅲ（a）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］春学期授業/Spring 41
総合教育科目_外国語科目【M0115】総合英語Ⅲ（a）［ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ］春学期授業/Spring . 42
総合教育科目_外国語科目【M0116】総合英語Ⅲ（a）［ハリントン　クリストフ］春学期授業/Spring 44
総合教育科目_外国語科目【M0120】総合英語Ⅲ（b）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 46
総合教育科目_外国語科目【M0121】総合英語Ⅲ（b）［山本　三穂］秋学期授業/Fall 47
総合教育科目_外国語科目【M0122】総合英語Ⅲ（b）［大塚　孝一］秋学期授業/Fall 48
総合教育科目_外国語科目【M0123】総合英語Ⅲ（b）［衣川　清子］秋学期授業/Fall 49
総合教育科目_外国語科目【M0124】総合英語Ⅲ（b）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］秋学期授業/Fall 50
総合教育科目_外国語科目【M0125】総合英語Ⅲ（b）［ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ］秋学期授業/Fall 51
総合教育科目_外国語科目【M0126】総合英語Ⅲ（b）［ハリントン　クリストフ］秋学期授業/Fall 53
総合教育科目_外国語科目【M0130】総合英語Ⅳ（a）［相馬　美明］春学期授業/Spring 55
総合教育科目_外国語科目【M0131】総合英語Ⅳ（a）［浦川　智子］春学期授業/Spring 56

総合教育科目_外国語科目【M0132】 総合英語Ⅳ（a）［石井　創］ 春学期授業/Spring 57
総合教育科目_外国語科目【M0133】 総合英語Ⅳ（a）［蒔田　裕美］ 春学期授業/Spring 59
総合教育科目_外国語科目【M0134】 総合英語Ⅳ（a）［川田　アマンディーン］ 春学期授業/Spring 60
総合教育科目_外国語科目【M0135】 総合英語Ⅳ（a）［式町　眞紀子］ 春学期授業/Spring 62
総合教育科目_外国語科目【M0136】総合英語Ⅳ（a）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］春学期授業/Spring 63
総合教育科目_外国語科目【M0140】 総合英語Ⅳ（b）［相馬　美明］ 秋学期授業/Fall 64
総合教育科目_外国語科目【M0141】 総合英語Ⅳ（b）［浦川　智子］ 秋学期授業/Fall 65
総合教育科目_外国語科目【M0142】 総合英語Ⅳ（b）［石井　創］ 秋学期授業/Fall 66
総合教育科目_外国語科目【M0143】 総合英語Ⅳ（b）［蒔田　裕美］ 秋学期授業/Fall 68
総合教育科目_外国語科目【M0144】 総合英語Ⅳ（b）［川田　アマンディーン］ 秋学期授業/Fall 69
総合教育科目_外国語科目【M0145】 総合英語Ⅳ（b）［式町　眞紀子］ 秋学期授業/Fall 71
総合教育科目_外国語科目【M0146】総合英語Ⅳ（b）［ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ］秋学期授業/Fall 72
総合教育科目_外国語科目【M0150】 英語コミュニケーションⅠ（a）［式町　眞紀子］ 春学期授業/Spring 73
総合教育科目_外国語科目【M0160】 英語コミュニケーションⅠ（b）［式町　眞紀子］ 秋学期授業/Fall 75
総合教育科目_外国語科目【M0170】 英語コミュニケーションⅡ（a）［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］春学期授業/Spring 77
総合教育科目_外国語科目【M0180】 英語コミュニケーションⅡ（b）［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］秋学期授業/Fall 79
総合教育科目_外国語科目【M0190】 日本語1-Ⅰ［三松　国宏］ 春学期授業/Spring 80
総合教育科目_外国語科目【M0191】 日本語1-Ⅰ［重村　美代子］ 春学期授業/Spring 81
総合教育科目_外国語科目【M0192】 日本語1-Ⅰ［三松　国宏］ 春学期授業/Spring 82
総合教育科目_外国語科目【M0193】 日本語1-Ⅰ［安達　万里江］ 春学期授業/Spring 83
総合教育科目_外国語科目【M0200】 日本語1-Ⅱ［三松　国宏］ 秋学期授業/Fall 84
総合教育科目_外国語科目【M0201】 日本語1-Ⅱ［重村　美代子］ 秋学期授業/Fall 85
総合教育科目_外国語科目【M0202】 日本語1-Ⅱ［三松　国宏］ 秋学期授業/Fall 86
総合教育科目_外国語科目【M0203】 日本語1-Ⅱ［安達　万里江］ 秋学期授業/Fall 87
総合教育科目_外国語科目【M0210】 日本語2-Ⅰ［乾　浩］ 春学期授業/Spring 88
総合教育科目_外国語科目【M0211】 日本語2-Ⅰ［ＶＩＣＫＹ　Ａ　ＲＩＣＨＩＮＧＳ］春学期授業/Spring 89
総合教育科目_外国語科目【M0212】 日本語2-Ⅰ［乾　浩］ 春学期授業/Spring 90
総合教育科目_外国語科目【M0213】 日本語2-Ⅰ［李　恵］ 春学期授業/Spring 91
総合教育科目_外国語科目【M0220】 日本語2-Ⅱ［乾　浩］ 秋学期授業/Fall 92
総合教育科目_外国語科目【M0221】 日本語2-Ⅱ［ＶＩＣＫＹ　Ａ　ＲＩＣＨＩＮＧＳ］秋学期授業/Fall 93
総合教育科目_外国語科目【M0222】 日本語2-Ⅱ［乾　浩］ 秋学期授業/Fall 94
総合教育科目_外国語科目【M0223】 日本語2-Ⅱ［李　恵］ 秋学期授業/Fall 95
総合教育科目_外国語科目【M0230】 日本語3-Ⅰ［重村　美代子］ 春学期授業/Spring 96
総合教育科目_外国語科目【M0231】 日本語3-Ⅰ［重村　美代子］ 春学期授業/Spring 97
総合教育科目_外国語科目【M0232】 日本語3-Ⅰ［安達　万里江］ 春学期授業/Spring 98
総合教育科目_外国語科目【M0233】 日本語3-Ⅰ［安達　万里江］ 春学期授業/Spring 99
総合教育科目_外国語科目【M0240】 日本語3-Ⅱ［重村　美代子］ 秋学期授業/Fall 100
総合教育科目_外国語科目【M0241】 日本語3-Ⅱ［重村　美代子］ 秋学期授業/Fall 101
総合教育科目_外国語科目【M0242】 日本語3-Ⅱ［安達　万里江］ 秋学期授業/Fall 102
総合教育科目_外国語科目【M0243】 日本語3-Ⅱ［安達　万里江］ 秋学期授業/Fall 103
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0330】 スポーツ健康学入門［安藤　正志］ 春学期授業/Spring 104
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0331】 スポーツ健康学入門［伊藤　真紀］ 春学期授業/Spring 105
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0332】 スポーツ健康学入門［井上　尊寛］ 春学期授業/Spring 106
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0333】 スポーツ健康学入門［片上　千恵］ 春学期授業/Spring 107
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0334】 スポーツ健康学入門［笹澤　吉明］ 春学期授業/Spring 108
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0335】 スポーツ健康学入門［瀬戸　宏明］ 春学期授業/Spring 109
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0336】 スポーツ健康学入門［高見　京太］ 春学期授業/Spring 110
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0337】 スポーツ健康学入門［吉田　政幸］ 春学期授業/Spring 111
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0320】 スポーツとキャリア形成［伊藤　真紀］ 春学期授業/Spring 112
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0520】 数学［坂本　寛］ 秋学期授業/Fall 113
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0530】 経営学［新海　貴弘］ 春学期授業/Spring 114
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0540】 法学（日本国憲法）［森　浩寿］ 春学期授業/Spring 116
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0550】 コミュニケーション論［片上　千恵］ 春学期授業/Spring 117
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0760】 スポーツとダイバーシティ［伊藤　真紀］ 秋学期授業/Fall 118
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0570】 女性とスポーツ［伊藤　真紀］ 秋学期授業/Fall 119

総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0600】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 120
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0601】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 122
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0602】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 124
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0610】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 126
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0611】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 127
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0612】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 128
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0630】スポーツレクリエーション論［谷本　都栄］秋学期授業/Fall 129
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0680】統計学Ⅰ［畑中　翔］春学期授業/Spring 130
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0690】統計学Ⅱ［畑中　翔］秋学期授業/Fall 131
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0660】哲学［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 132
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0670】生命倫理［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 133
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0710】障害者福祉論［青木　尚人］秋学期授業/Fall 135
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0730】音楽とスポーツ［関野　直樹］春学期授業/Spring 137
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0720】音楽文化論［関野　直樹］春学期授業/Spring 138
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0740】基礎科学［山下　貴司、山下　貴司］秋学期授業/Fall 139
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0780】スポーツ健康学海外演習（夏季）［泉　重樹］オータムセッション/Autumn Session 140
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0770】スポーツ健康学海外演習［泉　重樹］オータムセッション/Autumn Session 141
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0840】スポーツ健康学海外演習（冬季）［吉田　政幸］スプリングセッション/Spring Session 142
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M3250】スポーツビジネス海外演習［吉田　政幸］スプリングセッション/Spring Session 143
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0750】多摩地域形成論［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 144
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M4540】KENDO［小田　佳子］春学期授業/Spring 145
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0790】アスリートキャリア論［片上　千恵］春学期授業/Spring 146
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0802】スポーツ健康学特講［安達　万里江］春学期授業/Spring 148
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0803】スポーツ健康学特講［安達　万里江］秋学期授業/Fall 150
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0810】ドイツ語（a）［新田　誠吾］春学期授業/Spring 152
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0811】ドイツ語（b）［北岡　幸代］春学期授業/Spring 153
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0812】ドイツ語（c）［新田　誠吾］秋学期授業/Fall 154
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0813】ドイツ語（d）［北岡　幸代］秋学期授業/Fall 155
【M0814】フランス語（a）［前之園　春奈］春学期授業/Spring 156
【M0815】フランス語（b）［余語　毅憲］春学期授業/Spring 157
【M0816】フランス語（c）［前之園　春奈］秋学期授業/Fall 158
【M0817】フランス語（d）［余語　毅憲］秋学期授業/Fall 159
【M0818】中国語1(a)［邱　奎福］春学期授業/Spring 160
【M0819】中国語1(b)［邱　奎福］春学期授業/Spring 161
【M0820】中国語1(c)［邱　奎福］秋学期授業/Fall 162
【M0821】中国語1(d)［邱　奎福］秋学期授業/Fall 163
【M0822】ドイツ語コミュニケーション初級A［新田　誠吾］春学期授業/Spring 164
【M0823】ドイツ語コミュニケーション初級B［新田　誠吾］秋学期授業/Fall 165
【M0824】フランス語コミュニケーション初級A［余語　毅憲］春学期授業/Spring 166
【M0825】フランス語コミュニケーション初級B［余語　毅憲］秋学期授業/Fall 167
【M0826】中国語2A［劉　紅］春学期授業/Spring 168
【M0827】中国語2B［劉　紅］秋学期授業/Fall 169
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0828】フランス語コミュニケーション中級A［小室　廉太］春学期授業/Spring 170
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0829】フランス語コミュニケーション中級B［小室　廉太］秋学期授業/Fall 171
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0830】ドイツ語コミュニケーション中級A［阪東　知子］春学期授業/Spring 172
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0831】ドイツ語コミュニケーション中級B［阪東　知子］秋学期授業/Fall 173
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0832】ドイツ語セミナーA［北岡　幸代］春学期授業/Spring 174
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0833】ドイツ語セミナーB［北岡　幸代］秋学期授業/Fall 175
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0834】フランス語セミナーA［桑原　旅人］春学期授業/Spring 176

総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0835】 フランス語セミナーB［桑原　旅人］ 秋学期授業/Fall 177
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1150】 生理学［高見　京太］ 春学期授業/Spring 178
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1160】 機能解剖学A［泉　重樹］ 春学期授業/Spring 179
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1040】 スポーツ哲学［小田　佳子］ 春学期授業/Spring 180
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1630】 スポーツ社会学［望月　拓実］ 秋学期授業/Fall 181
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1170】 ヘルスデザイン論［安藤　正志、林田　はるみ］ 秋学期授業/Fall 182
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1070】 スポーツ心理学A［島本　好平］ 秋学期授業/Fall 183
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1140】 スポーツ史［梶　孝之］ 秋学期授業/Fall 184
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1180】 スポーツ生理学［高見　京太］ 春学期授業/Spring 185
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1080】 運動生理学概論［高見　京太］ 春学期授業/Spring 186
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1120】 スポーツマネジメント論［望月　拓実］ 秋学期授業/Fall 187
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】 スポーツビジネス論Ⅰ［片上　千恵］ 秋学期授業/Fall 188
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】 スポーツコーチング論A［NEMES　ROLAND　JANOS］ 秋学期授業/Fall 189
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1461】 スポーツ実習入門［苅部　俊二］ 春学期授業/Spring 190
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1460】 スポーツ実習入門［小田　佳子］ 春学期授業/Spring 191
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1463】 スポーツ実習入門［永木　耕介］ 春学期授業/Spring 192
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1462】 スポーツ実習入門［NEMES　ROLAND　JANOS］ 春学期授業/Spring 193
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1464】 スポーツ実習入門［苅部　俊二］ 春学期授業/Spring 194
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1467】 スポーツ実習入門［永木　耕介］ 春学期授業/Spring 195
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1466】 スポーツ実習入門［NEMES　ROLAND　JANOS］ 春学期授業/Spring 196
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1465】 スポーツ実習入門［木村　新］ 春学期授業/Spring 197
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】 スポーツトレーニング論Ⅰ［木村　新］ 春学期授業/Spring 198
専門教育科目_専門基幹科目【M1760】 スポーツ法学Ⅰ［森　浩寿］ 秋学期授業/Fall 199
専門教育科目_専門基幹科目【M1780】 予防医学概論［瀬戸　宏明］ 秋学期授業/Fall 200
専門教育科目_専門基幹科目【M1030】 衛生学［笹澤　吉明］ 春学期授業/Spring 201
専門教育科目_専門基幹科目【M1100】 スポーツ栄養学［長谷川　祐子］ 春学期授業/Spring 202
専門教育科目_専門基幹科目【M1110】 スポーツバイオメカニクス［木村　新］ 春学期授業/Spring 204
専門教育科目_専門基幹科目【M1700】 公衆衛生学［笹澤　吉明］ 秋学期授業/Fall 205
専門教育科目_専門基幹科目【M1740】 学校保健［笹澤　吉明］ 春学期授業/Spring 206
専門教育科目_専門基幹科目【M1800】 機能解剖学B［加藤　基］ 秋学期授業/Fall 207
専門教育科目_専門基幹科目【M3070】 スポーツ産業論［吉田　政幸］ 春学期授業/Spring 208
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】 スポーツビジネス論Ⅱ［望月　拓実］ 春学期授業/Spring 209
専門教育科目_専門基幹科目【M1770】 体力測定・評価論［高見　京太、泉　重樹］ 春学期授業/Spring 210
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2010】 運動療法総論［安藤　正志、林田　はるみ］ 秋学期授業/Fall 211
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2020】 リハビリテーション概論［昇　寛］ 春学期授業/Spring . 212
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2230】 健康と疾患［安藤　正志］ 春学期授業/Spring 213
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2040】 アスレティックトレーナー概論［泉　重樹］ 秋学期授業/Fall 214
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1680】 スポーツコンディショニング論Ⅰ［春日井　有輝］ 春学期授業/Spring 215
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2050】 スポーツコンディショニング論Ⅱ［春日井　有輝］ 秋学期授業/Fall 216
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2440】 スポーツコンディショニング演習Ⅰ［春日井　有輝］ 春学期授業/Spring 217
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2350】 テーピング・コンディショニング指導論Ⅰ［春日井　有輝］ 春学期授業/Spring 218
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2450】 スポーツコンディショニング演習Ⅱ［春日井　有輝］ 秋学期授業/Fall 219
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2360】 テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ［春日井　有輝］ 秋学期授業/Fall 220
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2060】 運動処方・負荷テスト［木下　訓光］ 春学期授業/Spring 221
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2370】 スポーツ医学A［日浦　幹夫］ 秋学期授業/Fall 223
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2080】 生活習慣病と身体活動［木下　訓光］ 春学期授業/Spring 226
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2470】 リコンディショニングⅠ［泉　重樹］ 春学期授業/Spring 228

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2380】アスレティックリハビリテーションⅠ［泉　重樹］春学期授業/Spring 229
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2480】リコンディショニングⅡ［鴇田　昌也］秋学期授業/Fall 230
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2390】アスレティックリハビリテーションⅡ［鴇田　昌也］秋学期授業/Fall 231
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2400】スポーツ医学Ｂ［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 232
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］秋学期授業/Fall 233
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2130】ジョギング・ウォーキング実習［坪田　智夫］春学期授業/Spring 235
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2131】ジョギング・ウォーキング実習［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 236
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2140】フィットネス・トレーニング実習［内田　紘平、高見　京太］春学期授業/Spring 237
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2141】フィットネス・トレーニング実習［内田　紘平、高見　京太］春学期授業/Spring 238
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2150】エアロビック運動実習［林田　はるみ］秋学期授業/Fall 239
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2280】健康増進施設実習　［高見　京太］年間授業/Yearly 240
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2490】スポーツ現場実習Ａ［泉　重樹］春学期授業/Spring ... 241
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2491】スポーツ現場実習Ａ［春日井　有輝］春学期授業/Spring 242
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2291】スポーツ現場実習Ａ［泉　重樹］年間授業/Yearly 243
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2492】スポーツ現場実習Ｂ［泉　重樹］春学期授業/Spring ... 244
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2493】スポーツ現場実習Ｂ［春日井　有輝］春学期授業/Spring 245
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2292】スポーツ現場実習Ｂ［春日井　有輝］年間授業/Yearly . 246
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2494】スポーツ現場実習Ｃ［泉　重樹］秋学期授業/Fall 247
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2495】スポーツ現場実習Ｃ［春日井　有輝］秋学期授業/Fall .. 248
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2496】スポーツ現場実習Ｄ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 249
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2170】スポーツリハビリテーション実習［安藤　正志］秋学期授業/Fall 250
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2410】体力測定・評価演習［高見　京太］秋学期授業/Fall 251
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2420】検査・測定と評価演習［泉　重樹］春学期授業/Spring . 252
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2500】運動負荷テスト演習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 253
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2190】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 255
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2310】運動学実習［安藤　正志］秋学期授業/Fall 257
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2510】スポーツ医科学演習［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 258
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2320】スポーツ医科学実習［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 260
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2430】整形外科学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 262
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2330】Health and Exercise Sciences［笹澤　吉明］秋学期授業/Fall 263
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2340】Strength training［内田　紘平］春学期授業/Spring . 264
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2460】スポーツ安全・健康管理論［泉　重樹］秋学期授業/Fall 265
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2090】運動生理学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 266
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2520】スポーツ外傷・障害予防論［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 267
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2271】体力測定・評価実習［高見　京太、泉　重樹］秋学期授業/Fall 268
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3010】レジャー論［谷本　都栄］春学期授業/Spring 269
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3030】スポーツと経済［得田　進介］秋学期授業/Fall 270
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3020】スポーツ経済論［得田　進介］秋学期授業/Fall 271
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3160】地域スポーツ経営論［髙橋　誠］秋学期授業/Fall 272
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3210】スポーツ組織論［得田　進介］秋学期授業/Fall 273
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M1650】スポーツ文化論［梶　孝之］春学期授業/Spring 274
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3040】スポーツ取材論［増島　みどり］秋学期授業/Fall 275
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3050】スポーツと政治［赤堀　宏幸］春学期授業/Spring ... 277
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3060】スポーツマーケティング論［井上　尊寛］春学期授業/Spring 278
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論［片上　千恵］秋学期授業/Fall .. 279
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3090】スポーツ行政論［川崎　登志喜］秋学期授業/Fall 280

専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3220】スポーツ消費者行動論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 281
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3180】スポーツ法学Ⅱ［渡邉　健太郎］秋学期授業/Fall … 282
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3120】スポーツジャーナリズム論（新聞）［片上　千恵］春学期授業/Spring …… 284
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3130】スポーツジャーナリズム論（放送）［加茂　明］秋学期授業/Fall …… 285
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3140】スポーツ政策論［森岡　裕策］秋学期授業/Fall ……. 287
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3190】スポーツビジネス論Ⅲ［吉田　政幸］秋学期授業/Fall 289
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】マーケティングリサーチ実習［山口　和真］春学期授業/Spring …… 291
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習［山口　和真］秋学期授業/Fall …… 292
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3200】Sport Consumer Behavior［徐　子淵］秋学期授業/Fall 293
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4010】トップアスリート論［増島　みどり］春学期授業/Spring 294
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4020】スポーツトレーニング論Ⅱ［木村　新］秋学期授業/Fall …… 295
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4490】スポーツ運動学［工藤　裕仁］春学期授業/Spring . 296
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4500】スポーツコーチング論B［NEMES　ROLAND　JANOS］秋学期授業/Fall …… 297
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4050】スポーツ戦略・戦術論［NEMES　ROLAND　JANOS］秋学期授業/Fall …… 299
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M1690】スポーツ心理学B［島本　好平］秋学期授業/Fall .. 301
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M0700】保健体育概論［永木　耕介］春学期授業/Spring … 302
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】スポーツ戦術論（サッカー）［井上　尊寛］秋学期授業/Fall …… 303
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4030】スポーツ技術論［NEMES　ROLAND　JANOS］春学期授業/Spring …… 304
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4520】スポーツ戦術論（ハンドボール）［NEMES　ROLAND　JANOS］春学期授業/Spring …… 305
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4530】ダンス実習［望月　拓実］春学期授業/Spring …… 306
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4250】ダンス指導論演習［杉山　りん］秋学期授業/Fall .. 307
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4251】ダンス指導論演習［杉山　りん］秋学期授業/Fall .. 308
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4551】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall …. 309
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4550】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall …. 310
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4560】器械運動実習［島本　好平］春学期授業/Spring … 311
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4570】器械運動指導論演習［島本　好平］秋学期授業/Fall 312
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4571】器械運動指導論演習［島本　好平］秋学期授業/Fall 314
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4590】体つくり運動指導論演習［小野田　桂子］春学期授業/Spring …… 316
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4600】サッカー実習［井上　尊寛］春学期授業/Spring … 318
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4601】サッカー実習［井上　尊寛］春学期授業/Spring … 319
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4320】サッカー指導論演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 320
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4321】サッカー指導論演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 321
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4610】バレーボール実習［湯浅　暁子］春学期授業/Spring 322
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4440】バレーボール指導論演習［湯浅　暁子］秋学期授業/Fall …… 323
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4620】バスケットボール実習［清水　貴司］春学期授業/Spring 324
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4621】バスケットボール実習［岩見　雅人］春学期授業/Spring 325
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4460】バスケットボール指導論演習［清水　貴司］秋学期授業/Fall …… 326
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4461】バスケットボール指導論演習［岩見　雅人］秋学期授業/Fall …… 327
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4631】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring …… 328
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4630】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring …… 329
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4340】テニス指導論演習［植村　直己］秋学期授業/Fall .. 330
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4640】バドミントン実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring 331

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4380】 バドミントン指導論演習［升　佑二郎］ 秋学期授業/Fall 332
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4650】 ソフトボール実習［北川　純也］ 春学期授業/Spring 333
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4400】 ソフトボール指導論演習［北川　純也］ 春学期授業/Spring 334
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4760】 陸上競技実習［苅部　俊二］ 春学期授業/Spring ... 335
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4360】 陸上競技指導論演習［髙橋　誠］ 秋学期授業/Fall .. 336
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4660】 野外教育実習（スノー）［高見　京太、島本　好平］ スプリングセッション/Spring Session 337
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4670】 柔道実習［佐藤　伸一郎］ 春学期授業/Spring 338
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4680】 柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］ 秋学期授業/Fall .. 339
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4681】 柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］ 秋学期授業/Fall .. 340
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4770】 スイミング実習［金田　和也］ 春学期授業/Spring . 341
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4771】 スイミング実習［金田　和也］ 春学期授業/Spring . 342
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4421】 スイミング指導論演習［金田　和也］ 秋学期授業/Fall 343
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4420】 スイミング指導論演習［金田　和也］ 秋学期授業/Fall 344
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4690】 ハンドボール実習［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］ 春学期授業/Spring 345
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4700】 ハンドボール指導論演習［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］ 秋学期授業/Fall 347
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4790】 青少年指導演習（サッカー）［井上　尊寛］ 秋学期授業/Fall 349
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】 青少年指導実習（サッカー）［井上　尊寛］ 秋学期授業/Fall 350
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4800】 青少年指導演習（陸上）［苅部　俊二］ 春学期授業/Spring 351
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4720】 青少年指導実習（陸上）［苅部　俊二］ 春学期授業/Spring 352
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4730】 野外教育実習（マリン）［井上　尊寛、木下　訓光］ 秋学期授業/Fall 353
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4740】 野外教育実習（キャンプ）［島本　好平、望月　拓実、笹澤　吉明］ 秋学期授業/Fall 354
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4580】 体つくり運動実習［田丸　由紀子］ 春学期授業/Spring 355
専門教育科目_専門演習【M5010】 専門演習Ⅰ［安藤　正志］ 年間授業/Yearly 356
専門教育科目_専門演習【M5011】 専門演習Ⅰ［泉　重樹］ 年間授業/Yearly 357
専門教育科目_専門演習【M5030】 専門演習Ⅰ［伊藤　真紀］ 年間授業/Yearly 358
専門教育科目_専門演習【M5012】 専門演習Ⅰ［井上　尊寛］ 年間授業/Yearly 360
専門教育科目_専門演習【M5013】 専門演習Ⅰ［小田　佳子］ 年間授業/Yearly 361
専門教育科目_専門演習【M5026】 専門演習Ⅰ［片上　千恵］ 年間授業/Yearly 363
専門教育科目_専門演習【M5014】 専門演習Ⅰ［苅部　俊二］ 年間授業/Yearly 364
専門教育科目_専門演習【M5016】 専門演習Ⅰ［木下　訓光］ 年間授業/Yearly 365
専門教育科目_専門演習【M5024】 専門演習Ⅰ［木村　新］ 年間授業/Yearly 367
専門教育科目_専門演習【M5015】 専門演習Ⅰ［笹澤　吉明］ 年間授業/Yearly 368
専門教育科目_専門演習【M5115】 専門演習Ⅱ［笹澤　吉明］ 年間授業/Yearly 369
専門教育科目_専門演習【M5032】 専門演習Ⅰ［島本　好平］ 年間授業/Yearly 370
専門教育科目_専門演習【M5028】 専門演習Ⅰ［瀬戸　宏明］ 年間授業/Yearly 371
専門教育科目_専門演習【M5018】 専門演習Ⅰ［高見　京太］ 年間授業/Yearly 373
専門教育科目_専門演習【M5017】 専門演習Ⅰ［永木　耕介］ 年間授業/Yearly 374
専門教育科目_専門演習【M5029】 専門演習Ⅰ［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］ 年間授業/Yearly 375
専門教育科目_専門演習【M5021】 専門演習Ⅰ［望月　拓実］ 年間授業/Yearly 377
専門教育科目_専門演習【M5027】 専門演習Ⅰ［吉田　政幸］ 年間授業/Yearly 378
専門教育科目_専門演習【M5031】 専門演習Ⅰ［越智　英輔］ 年間授業/Yearly 380
専門教育科目_専門演習【M5020】 専門演習Ⅰ［中澤　史］ 年間授業/Yearly 381
専門教育科目_専門演習【M5110】 専門演習Ⅱ［安藤　正志］ 年間授業/Yearly 383
専門教育科目_専門演習【M5111】 専門演習Ⅱ［泉　重樹］ 年間授業/Yearly 384
専門教育科目_専門演習【M5130】 専門演習Ⅱ［伊藤　真紀］ 年間授業/Yearly 385
専門教育科目_専門演習【M5112】 専門演習Ⅱ［井上　尊寛］ 年間授業/Yearly 386

専門教育科目_専門演習【M5113】 専門演習Ⅱ ［小田　佳子］ 年間授業/Yearly 388
専門教育科目_専門演習【M5126】 専門演習Ⅱ ［片上　千恵］ 年間授業/Yearly 389
専門教育科目_専門演習【M5114】 専門演習Ⅱ ［苅部　俊二］ 年間授業/Yearly 390
専門教育科目_専門演習【M5116】 専門演習Ⅱ ［木下　訓光］ 年間授業/Yearly 391
専門教育科目_専門演習【M5124】 専門演習Ⅱ ［木村　新］ 年間授業/Yearly 393
専門教育科目_専門演習【M5132】 専門演習Ⅱ ［島本　好平］ 年間授業/Yearly 394
専門教育科目_専門演習【M5128】 専門演習Ⅱ ［瀬戸　宏明］ 年間授業/Yearly 395
専門教育科目_専門演習【M5118】 専門演習Ⅱ ［高見　京太］ 年間授業/Yearly 396
専門教育科目_専門演習【M5117】 専門演習Ⅱ ［永木　耕介］ 年間授業/Yearly 397
専門教育科目_専門演習【M5129】 専門演習Ⅱ ［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］ 年間授業/Yearly 398
専門教育科目_専門演習【M5121】 専門演習Ⅱ ［望月　拓実］ 年間授業/Yearly 400
専門教育科目_専門演習【M5127】 専門演習Ⅱ ［吉田　政幸］ 年間授業/Yearly 401
専門教育科目_専門演習【M5131】 専門演習Ⅱ ［越智　英輔］ 年間授業/Yearly 403
専門教育科目_専門演習【M5120】 専門演習Ⅱ ［中澤　史］ 年間授業/Yearly 404
専門教育科目_専門演習【M5210】 専門演習Ⅲ ［安藤　正志］ 年間授業/Yearly 406
専門教育科目_専門演習【M5230】 専門演習Ⅲ ［伊藤　真紀］ 年間授業/Yearly 407
専門教育科目_専門演習【M5211】 専門演習Ⅲ ［泉　重樹］ 年間授業/Yearly 409
専門教育科目_専門演習【M5212】 専門演習Ⅲ ［井上　尊寛］ 年間授業/Yearly 410
専門教育科目_専門演習【M5213】 専門演習Ⅲ ［小田　佳子］ 年間授業/Yearly 411
専門教育科目_専門演習【M5226】 専門演習Ⅲ ［片上　千恵］ 年間授業/Yearly 412
専門教育科目_専門演習【M5214】 専門演習Ⅲ ［苅部　俊二］ 年間授業/Yearly 413
専門教育科目_専門演習【M5216】 専門演習Ⅲ ［木下　訓光］ 年間授業/Yearly 414
専門教育科目_専門演習【M5224】 専門演習Ⅲ ［木村　新］ 年間授業/Yearly 416
専門教育科目_専門演習【M5215】 専門演習Ⅲ ［笹澤　吉明］ 年間授業/Yearly 417
専門教育科目_専門演習【M5232】 専門演習Ⅲ ［島本　好平］ 年間授業/Yearly 418
専門教育科目_専門演習【M5228】 専門演習Ⅲ ［瀬戸　宏明］ 年間授業/Yearly 419
専門教育科目_専門演習【M5218】 専門演習Ⅲ ［高見　京太］ 年間授業/Yearly 420
専門教育科目_専門演習【M5217】 専門演習Ⅲ ［永木　耕介］ 年間授業/Yearly 421
専門教育科目_専門演習【M5229】 専門演習Ⅲ ［ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ］ 年間授業/Yearly 422
専門教育科目_専門演習【M5221】 専門演習Ⅲ ［望月　拓実］ 年間授業/Yearly 424
専門教育科目_専門演習【M5227】 専門演習Ⅲ ［吉田　政幸］ 年間授業/Yearly 425
専門教育科目_専門演習【M5231】 専門演習Ⅲ ［越智　英輔］ 年間授業/Yearly 427
専門教育科目_専門演習【M5220】 専門演習Ⅲ ［中澤　史］ 年間授業/Yearly 428
専門教育科目_専門演習【M5222】 専門演習Ⅲ ［林　容市］ 年間授業/Yearly 430
【M9010】 保健体育科教育法Ⅰ ［小林　稔］ 春学期授業/Spring 432
【M9020】 保健体育科教育法Ⅱ ［笹澤　吉明］ 春学期授業/Spring 433
【M9030】 保健体育科教育法Ⅲ ［永木　耕介］ 秋学期授業/Fall 434
【M9031】 保健体育科教育法Ⅲ ［永木　耕介］ 秋学期授業/Fall 435
【M9040】 保健体育科教育法Ⅳ ［小田　佳子］ 秋学期授業/Fall 436
【M9120】 教職実践演習（中・高）［熊野　真司］ 秋学期授業/Fall 437
【M9210】 教育実習（事前指導）［熊野　真司］ 秋学期授業/Fall 438
【M9310】 教育実習（高）［小田　佳子、永木　耕介］ 年間授業/Yearly 439
【M9320】 教育実習（中・高）［小田　佳子、永木　耕介］ 年間授業/Yearly 440

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

松下　晴彦

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な話題を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英文の正確な読み方を習得し、語彙を増やし、英文を抵抗感なく読むことができる。
最近の情勢について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題を課す場合はHoppiを通してフィードバックをする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Lesson 1 名詞 It's a Long Way to the Top	頂点への道のりについての内容理解および問題演習
第3回	Lesson 2 冠詞 Singapore's Chingay Parade	シンガポールの旧正月についての内容理解および問題演習
第4回	Lesson 3 代名詞(1) English, for Better or for Worse	英語の立ち位置についての内容理解および問題演習
第5回	Lesson 4 代名詞(2) How Important Is Education to You	教育の重要性についての内容理解および問題演習
第6回	Lesson 5 時制 From Anime to Zen	日本文化についての内容理解および問題演習
第7回	Lesson 6 進行形 The Storm	自然災害についての内容理解および問題演習
第8回	Lesson 7 完了形(1) Public Works for the State and the Citizens	公共事業についての内容理解および問題演習
第9回	Lesson 8 完了形(2) Riding an Old Steam Train	蒸気機関車についての内容理解および問題演習
第10回	Lesson 9 助動詞(1) Farm Stays	ファームステイについての内容理解および問題演習
第11回	Lesson 10 助動詞(2) Is Sunshine Really Bad for Us?	日光と皮膚がんについての内容理解および問題演習
第12回	Lesson 11 関係詞(1) What's in a Name?	地名の由来についての内容理解および問題演習
第13回	Lesson 12 関係詞(2) You Are What You Eat	食物についての内容理解および問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『New English Master』Nagaki Kitayama（成美堂：2016）2,090円（本体1,900円+税）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

山本　三穂

サブタイトル：（２）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマから社会問題、科学にわたる多様なテーマから書かれた英文を通して読解力を養成する。英語を自分の力で読みこなすために必要な力を様々な点から身に付けることを目的とする。

【到達目標】
英語を読むために必要な以下の内容を強化・習得することを目標とする。
1. 語彙
2. 文法事項・構文
3. 大意把握

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・パラグラフの構造や文全体の流れを捉えるためのポイントの確認を行い、英文の要点及び大意を把握する。
・語彙、文法、構文に注意しながら英文を丁寧に読む。
・課題については、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・進め方・評価等についての説明
第2回	文型(1)、Unit 1 A History of Canned Laughter(1)	文型解説、Previewing、大意の把握
第3回	文型(2)、Unit 1 A History of Canned Laughter(2)	文型小テスト、精読、語彙構文演習
第4回	品詞(1)、Unit 2 Going Zero Waste(1)	品詞解説、Scanning、大意の把握
第5回	品詞(2)、Unit 2 Going Zero Waste(2)	品詞小テスト、精読、語彙構文演習
第6回	名詞(1)、Unit 3 Leonardo da Vinci(1)	名詞解説、Skimming、大意の把握
第7回	名詞(2)、Unit 3 Leonardo da Vinci(2)	名詞小テスト、精読、語彙構文演習
第8回	動詞(1)、Unit 4 AI: A New World Just Around the Corner(1)	動詞解説、Supporting Details、大意の把握
第9回	動詞(2)、Unit 4 AI: A New World Just Around the Corner (2)	動詞小テスト、精読、語彙構文演習
第10回	時制(1)、Unit 5 Don Quixote(1)	時制解説、Analyzing Characters、大意把握
第11回	時制(2)、Unit 5 Don Quixote(2)	時制小テスト、精読、語彙構文演習
第12回	完了形(1)、Unit 6 Do Appearances Matter?(1)	完了形解説、Facts/Opinions、大意の把握
第13回	完了形(2)、Unit 6 Do Appearances Matter?(2)	完了形小テスト、精読、語彙構文演習
第14回	試験とまとめ	到達度チェックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：　指定された箇所の英文を読み、問題を解いておく
復習：　学習した語彙、文法、構文を見直す。
時間：　一週間につき、予習復習１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書名： Active Reading Strategies Book 2
著者： 角山照彦他
出版社： 成美堂
出版年：　2025年
価格：　2,500円＋税
ISBN：　9784791973064

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下を基に総合的に評価する。
平常点　３０％　課題・小テスト　３０％　定期試験４０％
原則として授業回数の1/3を超えて欠席した場合は単位を認めない。また遅刻早退３回で欠席１回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト、辞書を持参すること。学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の進展状況によって内容や順序が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
・Course outline
The aim of this course is to improve students' English reading skills.
・Learning objectives
By the end of the course, you should be able to improve your vocabulary and knowledge of grammar and read English accurately.
・Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and have completed the required assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
・Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class Contribution: 30%, Assignments and Quizzes: 30%, Term-end Examination: 40%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、オーセンティックな英語のニュース映像とそれに関連する文章を通じて、実用的な英語運用能力を段階的に習得することを目指す。単にニュースの概要を理解するだけでなく、詳細に至る情報を正確に理解し、分析し、自分の意見を発信することも重視する。学生主体の活動を中心に据え、4技能をバランスよく育成するとともに、世界の出来事に関心を持ち、批判的思考力も養う。

【到達目標】
1. オーセンティックな英語ニュースと関連する英文を細部まで理解できるようになる。
2. ニュース映像やリーディング素材文にある単語や表現を理解し、使えるようになる。
3. ニュース映像やリーディング素材文の話題について、自分の考えを表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○ひとつのUnitを3週間かけて学習する。1回目はListeningを、2回目はReadingを、3回目はアウトプットを、それぞれ主軸とし、各回で様々なアクティビティを取り入れる。
○毎週指示する予習課題に取り組んでくること。
○ペアワーク、グループワークを積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 01	Introduction	Orientation
Week 02	Unit 1　Viewing & Listening	The Appeal of Rickshaws
Week 03	Unit 1　Listening & Reading	The History of Rickshaws
Week 04	Unit 1　Speaking & Writing	Rickshaws and Business
Week 05	Unit 6　Viewing & Listening	Food Origin Labeling
Week 06	Unit 6　Listening & Reading	Food Fraud in the United States
Week 07	Unit 6　Speaking & Writing	Food Traceability through Microchip Technology
Week 08	Unit 9　Viewing & Listening	Strength Training in the Metaverse
Week 09	Unit 9　Listening & Reading	The Importance of Exercise
Week 10	Unit 9　Speaking & Writing	The Metaverse in Japan
Week 11	Unit 10　Viewing & Listening	Multi-functional Robots
Week 12	Unit 10　Listening & Reading	AI-Powered Robots
Week 13	Unit 10　Speaking & Writing	The Pros and Cons of Robots in Everyday Life
Week 14	Review	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各1時間以上を標準とする。週に一回100分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習
《1回目》Step 2, Vocabulary Previewの10個の語彙の意味を選択肢から選ぶ
《2回目》Step 7, Vocabulary Viewの10個の語彙の意味を定義から選ぶ
《3回目》Step 10, Free Writing &InterviewingのA, Bの質問に簡潔に日本語で答える
復習
○語彙と文法の再確認をしておくこと。
○リンガポルタの指定箇所に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
書名：Reuters Global News Feed
著者：小林敏彦、Bill Benfield
出版社：成美堂
価格：2,860円（本体2,600円+税）
ISBN：9784791973118

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題：上述の予習課題と、復習課題《30%》
授業内活動：発表、提出物など《30%》
期末試験：授業内容を総括する試験《40%》
以上の成績を総合する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は改善点を多く指摘してもらった。具体的には、英文の難易度、学生との接し方、アクティブラーニングの手法などである。もちろん、私としてはそれぞれに対して自分の考えを元にして実行しているのだが、それが伝えきれなかったということであろう。少しでも多くの学生にとって学びの多い授業を提供することに努める。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）とパソコン、あるいはタブレット。

【その他の重要事項】
【学習姿勢】教員が伝えた情報を鵜呑みにせず、自分で考え、時には質問したり、自分で文献を調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop practical English proficiency through authentic news videos and related reading materials. Students will not only comprehend the main points of news stories but also accurately listen to, understand, and analyze information from video and audio sources, and express their own opinions. The course emphasizes student-centered activities to develop all four language skills in a balanced manner, foster interest in global issues, and cultivate critical thinking skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
1. Comprehend authentic English news videos and related reading materials in detail.
2. Understand and use the vocabulary and expressions found in the materials.
3. Express their own ideas in English about the topics covered in the materials.
【Learning activities outside of classroom】
First class (Listening focus):
Choose the appropriate Japanese meaning for each of the 10 vocabulary items in Step 2 (Vocabulary Preview).
Second class (Reading focus):
Choose the appropriate English definition for each of the 10 vocabulary items in Step 7 (Vocabulary View).
Third class (Output focus):
Write brief answers in Japanese to questions A and B in Step 10 (Free Writing &Interviewing).
Review the content covered in each class and continue developing the four skills in preparation for the final examination.
【Grading Criteria】
In-class contribution《30%》
Assignments《30%》
Final Examination《40%》

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

衣川　清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康に関連する平易なニュースや雑誌記事の内容を把握するトレーニングをする（今年度は動画教材も用いる）。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事を正確に読み、内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書やPC等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①MLB（仮）（以下、記事は原則として直近のもので、内容・難易度ともに学習に適切と思われるもの）
3	見出しのルール	記事②PFCバランス（仮）
4	英語の文型	記事③パラリンピック（仮）
5	品詞の種類	記事④リカバリー（仮）
6	動詞の種類	記事⑤けが予防（仮）
7	句と節	記事①～⑤まとめと復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
8	中間テストと復習	中間テストと付随する活動
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事⑥ジョギング（仮）
10	時制（現在・過去・未来）	記事⑦筋肉をつくる（仮）
11	時制（進行形）	記事⑧ストレス軽減（仮）
12	時制（完了形）	記事⑨陸上競技（仮）
13	時制の一致	記事⑥～⑨まとめと復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストと付随する活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読んだり観たりする習慣をつけること。徐々に読んだり観たりする対象を広げること。
英辞郎やオンライン英英辞典を使い、授業外でも英語のニュース記事を読んだり観たりする努力をすること。
準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト35％＋期末テスト35％＋平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、タブレット等があるとよい。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等はHoppiiで行います。
なお、学生の興味関心や授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will be trained to read relatively easy articles about sports and health (including videos) in English and understand what they are about. They will also learn how to make use of dictionaries, typical expressions and rules of news media English.
Learning Objectives
1. Students will understand relatively easy sports/health articles.
2. Students will get accustomed to English expressions and rules used in sports/health news articles.
Learning Activities Outside of Classroom
Students are recommended to read English and Japanese sports/health news regularly. They are recommended to read more outside classrooms, making use of online dictionaries. Preparations and reviews of each class might take about an hour.
Grading Criteria / Policy
Grades will be based on mid-term exams(35%), end-term exams(35%), and other assignments(30%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（５）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることにより、リスニング・リーディング・ライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1ユニットを前半・後半に分けWarm Upでユニットの学習テーマの掘り起こしをし、文脈に即した語彙の用法を確認する。続いて、ニュース本文をディクテーション形式で完成させ、英文として自然な形を音声とライティングの両面から学習する。さらに本文に関する正誤問題によって内容を把握したうえでサマリーを作成することを基本パターンとして行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価などについて説明する。
第2回	Unit 1： AI in Education（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 1： AI in Education（前半））
第3回	Unit 1： AI in Education（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 1： AI in Education（後半））
第4回	Unit 2： Multitasking（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 2： Multitasking（前半））
第5回	Unit 2： Multitasking（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 2： Multitasking（後半））
第6回	Unit 3： To Nap or Not to Nap?（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 3： To Nap or Not to Nap?（前半））
第7回	Unit 3： To Nap or Not to Nap?（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 3： To Nap or Not to Nap?（後半））
第8回	Unit 4： Domino's Pizza Car （前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 4： Domino's Pizza Car （前半））
第9回	Unit 4： Domino's Pizza Car （後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 4： Domino's Pizza Car （後半））
第10回	Unit 5： What is Flag Football?（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 5： What is Flag Football?（前半））
第11回	Unit 5： What is Flag Football?（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 5： What is Flag Football?（後半））
第12回	Unit 6： Chief UNO Player（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 6： Chief UNO Player（前半））
第13回	Unit 6： Chief UNO Playern（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 6： Chief UNO Playern（後半））
第14回	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために１時間。合計２時間。さらに、メディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN 10 Student News Vol. 13*、朝日出版社、2025年、ISBN: 978-4-255-15727-6　＊複数の版があるので、必ず **Vol.13** を準備すること。

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。学習用オンライン辞典については教室で説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。そのほかにも授業に関係ない行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度40％　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験40％　③Quiz, Dictation 20％　以上３点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度やその時々の世相を反映させ、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do thefollowings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Quizzes/ Dictations.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ

サブタイトル：（６）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment.
First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair &group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
国際的な環境で、主体的なコミュニケーションと相互理解を行うための英語を学びます。
まず、多様なトピックの文章を読み解くことで、読解力を養います。さらに、ペアやグループワーク、プレゼンテーション、パロティング（復唱練習）などの多彩なアクティビティを通じて、スピーキング力を高めます。また、各ユニットのテーマに沿ったリスニング演習や、短いライティング課題も行います。これらの演習を通じ、言語を能動的に使うことに慣れ、文脈の中での語彙に対する意識を高めていきます。
課題への講評や解説、学生からの質問への回答は、毎時間の最後に行われます。
本授業の終了までに、自信を持ってプレゼンテーションができるようになることを目指します。

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities.
You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair &group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you (listening)	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you (reading)	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy (reading and listening)	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy (reading)	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news? (listening and grammar)	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news? (listening and reading)	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry! (listening and grammar)	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry! (listening and reading)	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward (listening and grammar)	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward (reading)	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test.
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework, tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.
積極的に英語でコミュニケーションができるように一緒に頑張りましょう。
大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment.
First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair &group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【授業の概要（Course outline）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment.
First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair &group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【到達目標（Learning Objectives）】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on reading abilities.
You will practice and learn to understand written text, as well as to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homework and pass the final test.
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework, tests: 40%
- Presentations: 40%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（a）

ハリントン　クリストフ

サブタイトル：（7）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students to share
their preferences with classmates on fun topics such as hobbies, food, homes, jobs, people,
entertainment and life choices.
本講義は、新しい教材およびテクノロジーを活用し、実社会で活用できる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、趣味、食べ物、住まい、仕事、人間関係、娯楽、人生の選択といった身近で関心を持ちやすい話題を取り上げ、学生が自らの好みや考えを英語でクラスメートと共有できる英会話力を養う。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations,
such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to
expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving
advice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online
games, entertaining animations and real-world discussion practices. Each class focuses on
important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural
English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	Hobby preferences	Pages 15-19: Preference phrases, hobby preference activities, online language game and animated video listening activity
3	Hobby discussions	Pages 20-22: Real-world hobby discussion practices, online team language game and extended language activities for giving preferences
4	Food preferences	Pages 23-27: Comparatives and superlatives, food preference activities, online language game and animated video listening activity
5	Food discussions	Pages 28-30: Real-world food discussion practices, online team language game and extended language activities for comparing
6	Home preferences	Pages 31-35: Choice phrases, home preference activities, online language game and animated video listening activity
7	Home discussions	Pages 36-38: Real-world home choice discussion practices, extended language activities for explaining choices
8	Review speech 1	Pages 39-42: Speeches in small groups about planning a party (using phrases from classes 2-7)
9	Job/people preferences	Pages 43-47: Asking questions, job/people preference activities, online language game and animated video listening activity
10	Job/people discussions	Pages 48-50: Real-world job discussion practices, online team language game and summary language activities for asking questions
11	Entertainment preferences	Pages 51-55: Possibility phrases, entertainment preference activities, online language game and animated video listening activity
12	Entertainment discussions	Pages 56-58: Real-world entertainment discussion practices, online team language game and summary language activities for discussing possible actions
13	Life choice preferences and discussions	Pages 59-63: Advice phrases, life-choice preference activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Speeches in small groups about planning a trip (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes. The standard preparation and review time for this course is one hour each.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 1, SMART Class Series (3rd Edition) by Robert Stroud (Author), Stephen Harris (Author) Publisher ： SMART Class Series
Publication date ：October 8, 2023 price JPY4,720

【参考書】
not required

【成績評価の方法と基準】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

【学生の意見等からの気づき】
We have not conducted a survey for new courses this year.

【学生が準備すべき機器他】
Please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games). Alternative
exercises are available within the textbook for those without smart phones.

【Outline (in English)】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online
games, entertaining animations and real-world discussion practices. Each class focuses on
important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural
English.
【授業の概要（Course outline）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students to share
their preferences with classmates on fun topics such as hobbies, food, homes, jobs, people,
entertainment and life choices.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations,

such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to
expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving
advice.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes. The standard preparation and review time for this course is one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

松下　晴彦

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英文の正確な読み方を習得し、語彙を増やし、英文を抵抗感なく読むことができる。
最近の情勢について学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Lesson 13 態(1) A Car for the Blind	自動運転についての内容理解および問題演習
第2回	Lesson 14 態(2) Talking Drums	楽器の用途についての内容理解および問題演習
第3回	Lesson 15 不定詞(1) The Future for Farmers	未来の農業についての内容理解および問題演習
第4回	Lesson 16 不定詞(2) The Extraordinary Steve Jobs	起業家についての内容理解および問題演習
第5回	Lesson 17 分詞(1) A Cool Memory	旅の思い出についての内容理解および問題演習
第6回	Lesson 18 分詞(2) Holmes and Watson	コナン・ドイルについての内容理解および問題演習
第7回	Lesson 19 動名詞(1) Aussie English	オーストラリア英語についての内容理解および問題演習
第8回	Lesson 20 動名詞(2) Gar field	アメコミについての内容理解および問題演習
第9回	Lesson 21 形容詞・副詞 Climbing	登山の魅力についての内容理解および問題演習
第10回	Lesson 22 比較(1) Lost in Translation	文学と翻訳についての内容理解および問題演習
第11回	Lesson 23 比較(2) Preservatives	保存食についての内容理解および問題演習
第12回	Lesson 24 前置詞 The Tramp	チャップリンについての内容理解および問題演習
第13回	Lesson 25 仮定法 Presenting Successfully	上手なプレゼンについての内容理解および問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『New English Master』Nagaki Kitayama（成美堂：2016）2,090円（本体1,900円+税）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30％
授業内小テスト： 30％
定期試験： 40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with reading. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

山本　三穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマから社会問題、科学にわたる多様なテーマから書かれた英文を通して読解力を養成する。英語を自分の力で読みこなすために必要な力を様々な点から身に付けることを目的とする。

【到達目標】
英語を読むために必要な以下の内容を強化・習得することを目標とする。
1. 語彙
2. 文法事項・構文
3. 大意把握

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・パラグラフの構造や文全体の流れを捉えるためのポイントの確認を行い、英文の要点及び大意を把握する。
・語彙、文法、構文に注意しながら英文を丁寧に読む。
・課題については、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・進め方・評価等についての説明
第2回	to不定詞(1)、Unit 7 Hidden Wonders(1)	to不定詞解説、Generalizations and Examples、大意の把握
第3回	to不定詞(2)、Unit 7 Hidden Wonders(2)	to不定詞小テスト、精読、語彙構文演習
第4回	分詞(1)、Unit 8 An Introduction to Animal Classification(1)	分詞解説、Classifying、大意の把握
第5回	分詞(2)、Unit 8 An Introduction to Animal Classification(2)	分詞小テスト、精読、語彙構文演習
第6回	態(1)、Unit 9 Genetically Modified Foods(1)	態解説、Identifying Advantages and Disadvantages
第7回	態(2)、Unit 9 Genetically Modified Foods(2)	態小テスト、精読、語彙構文演習
第8回	仮定法(1)、Unit 10 Making the Most of Your Money(1)	仮定法解説、Graphic Form、大意の把握
第9回	仮定法(2)、Unit 10 Making the Most of Your Money(2)	仮定法小テスト、精読、語彙構文演習
第10回	同格(1)、Unit 11 Amir's Kitchen: Online Reviews(1)	同格解説、Critical Reading、大意の把握
第11回	同格(2)、Unit 11 Amir's Kitchen: Online Reviews(2)	同格小テスト、精読、語彙構文演習
第12回	倒置・強調(1)、Unit 12 In the News(1)	倒置・強調解説、News Heading、大意の把握
第13回	倒置・強調(2)、Unit 12 In the News(2)	倒置・強調小テスト、精読、語彙構文演習
第14回	試験とまとめ	到達度チェックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：　指定された箇所の英文を読み、問題を解いておく
復習：　学習した語彙、文法、構文を見直す。
時間：　一週間につき、予習復習１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書名：Active Reading Strategies Book 2
著者：角山照彦他
出版社：成美堂
出版年：　2025年
価格：　2,500円＋税
ISBN：　9784791973064

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下を基に総合的に評価する。
平常点　３０％　課題・小テスト　３０％　定期試験４０％
原則として授業回数の1/3を超えて欠席した場合は単位を認めない。また遅刻早退３回で欠席１回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト、辞書を持参すること。学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の進展状況によって内容や順序が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
・Course outline
The aim of this course is to improve students' English reading skills.
・Learning objectives
By the end of the course, you should be able to improve your vocabulary and knowledge of grammar and read English accurately.
・Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and have completed the required assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
・Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class Contribution: 30%, Assignments and Quizzes: 30%, Term-end Examination: 40%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、オーセンティックな英語のニュース映像とそれに関連する文章を通じて、実用的な英語運用能力を段階的に習得することを目指す。単にニュースの概要を理解するだけでなく、詳細に至る情報を正確に理解し、分析し、自分の意見を発信することも重視する。学生主体の活動を中心に据え、4技能をバランスよく育成するとともに、世界の出来事に関心を持ち、批判的思考力も養う。

【到達目標】
1. オーセンティックな英語ニュースと関連する英文を細部まで理解できるようになる。
2. ニュース映像やリーディング素材文にある単語や表現を理解し、使えるようになる。
3. ニュース映像やリーディング素材文の話題について、自分の考えを表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○ひとつのUnitを3週間かけて学習する。1回目はListeningを、2回目はReadingを、3回目はアウトプットを、それぞれ主軸とし、各回で様々なアクティビティを取り入れる。
○毎週指示する予習課題に取り組んでくること。
○ペアワーク、グループワークを積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 01	Introduction	Orientation
Week 02	Unit 2　Viewing & Listening	Urban Beautification
Week 03	Unit 2　Listening & Reading	The Problem of Waste Management
Week 04	Unit 2　Writing & Speaking	Raising Awareness for Litter Picking
Week 05	Unit 8　Viewing & Listening	AI Medical Diagnosis
Week 06	Unit 8　Listening & Reading	AI and Healthcare
Week 07	Unit 8　Writing & Speaking	AI and Facial Recognition
Week 08	Unit 13　Viewing & Listening	Ways to Utilize Food Waste
Week 09	Unit 13　Listening & Reading	Waste Collection Initiatives by an American Company
Week 10	Unit 13　Writing & Speaking	The Spread of Clean Energy
Week 11	Unit 14　Viewing & Listening	Wildlife Protection
Week 12	Unit 14　Listening & Reading	Wildlife Trafficking
Week 13	Unit 14　Writing & Speaking	Stopping Wildlife Trafficking
Week 14	Review	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各1時間以上を標準とする。週に一回100分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習
《1回目》Step 2, Vocabulary Previewの10個の語彙の意味を選択肢から選ぶ
《2回目》Step 7, Vocabulary Viewの10個の語彙の意味を定義から選ぶ
《3回目》Step 10, Free Writing &InterviewingのA, Bの質問に簡潔に日本語で答える
復習
○語彙と文法の再確認をしておくこと。
○リンガポルタの指定箇所に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
書名：Reuters Global News Feed
著者：小林敏彦、Bill Benfield
出版社：成美堂
価格：2,860円（本体2,600円+税）
ISBN：9784791973118

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題：上述の予習課題と、復習課題《30%》
授業内活動：発表、提出物など《30%》
期末試験：授業内容を総括する試験《40%》
以上の成績を総合する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は改善点を多く指摘してもらった。具体的には、英文の難易度、学生との接し方、アクティブラーニングの手法などである。もちろん、私としてはそれぞれに対して自分の考えを元にして実行しているのだが、それが伝えきれなかったということであろう。少しでも多くの学生にとって学びの多い授業を提供することに努める。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）とパソコン、あるいはタブレット。

【その他の重要事項】
【学習姿勢】教員が伝えた情報を鵜呑みにせず、自分で考え、時には質問したり、自分で文献を調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop practical English proficiency through authentic news videos and related reading materials. Students will not only comprehend the main points of news stories but also accurately listen to, understand, and analyze information from video and audio sources, and express their own opinions. The course emphasizes student-centered activities to develop all four language skills in a balanced manner, foster interest in global issues, and cultivate critical thinking skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
1. Comprehend authentic English news videos and related reading materials in detail.
2. Understand and use the vocabulary and expressions found in the materials.
3. Express their own ideas in English about the topics covered in the materials.
【Learning activities outside of classroom】
First class (Listening focus):
Choose the appropriate Japanese meaning for each of the 10 vocabulary items in Step 2 (Vocabulary Preview).
Second class (Reading focus):
Choose the appropriate English definition for each of the 10 vocabulary items in Step 7 (Vocabulary View).
Third class (Output focus):
Write brief answers in Japanese to questions A and B in Step 10 (Free Writing &Interviewing).
Review the content covered in each class and continue developing the four skills in preparation for the final examination.
【Grading Criteria】
In-class contribution《30%》
Assignments《30%》
Final Examination《40%》

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

衣川　清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上で容易に読めるスポーツや健康に関連する英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事（スポーツニュースやインタビュー動画を含む）を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
比較的最近のスポーツや健康に関する記事のプリント教材（スポーツニュースやインタビュー動画を含む）を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできればPCやタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	イントロダクション
2	英語らしい表現とは	記事①水泳（仮） （以下、記事は原則として直近のもので、内容・難易度どもに適切と思われるもの）
3	無生物主語	記事②ウォーキング（仮）
4	言い換え表現	記事③登山（仮）
5	仮定法過去	記事④休息（仮）
6	前半のまとめ・復習	記事①～④のまとめ・復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
7	中間テスト	中間テストと付随する活動
8	中間テスト返却、講評 仮定法過去完了	記事⑤eスポーツ（仮）
9	句と節	記事⑥ストレッチ（仮）
10	直接話法と間接話法	記事⑦球技（仮）
11	分詞構文	記事⑧トレーナーの仕事（仮）
12	付帯状況	記事⑨冬のスポーツ（仮）
13	後半のまとめ・復習	記事⑤～⑨のまとめ・復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
14	期末テスト	期末テストと付随する活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読んだり観たりする習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
授業以外でも英辞郎やオンライン英英辞典を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読んだり観たりすることに挑戦すること。
準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい記事を読むため、教員が配布するプリントを使用する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト35％＋期末テスト35％＋平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCやタブレット等があるとよい。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等はHoppiiで行います。
学生の興味関心、理解度、授業の進展状況等によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles/videos in English about sports and health (more advanced level than English I(a)) as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target.
Learning Objectives
1. Students will understand relatively easy sports/health articles using dictionaries.
2. Students will get accustomed to English expressions and rules used in sports/health news articles.
Learning Activities Outside of Classroom
Students are recommended to read English and Japanese sports/health news regularly. They are recommended to read more outside classrooms, making use of online dictionaries. Preparations and reviews of each class might take about an hour.
Grading Criteria / Policy
Grades will be based on mid-term exams(35%), end-term exams(35%), and other assignments(30%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（５）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることで、先学期よりもスピーディーにリスニング・リーディング、そしてライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期同様に、Warm Upにはじまり、リスニングやリーディングなどの練習問題を解いていく中で、トピックに関連する問題を考え、意見をまとめることで仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期のふりかえりと秋学期の進め方の説明などを行う。
第2回	Unit 7 ： Basketball Superstar（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 7 ： Basketball Superstar（前半））
第3回	Unit 7 ： Basketball Superstar（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 7 ： Basketball Superstar（後半））
第4回	Unit 8 ： Creating Eco-Accessories（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 8 ： Creating Eco-Accessories（前半） ）
第5回	Unit 8 ： Creating Eco-Accessories（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 8 ： Creating Eco-Accessories（後半））
第6回	Unit 9 ： Secret Education for Women（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 9 ： Secret Education for Women（前半））
第7回	Unit 9 ： Secret Education for Women（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 9 ： Secret Education for Women（後半））
第8回	Unit 10 ： Drones at the Beach（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 10 ： Drones at the Beach（前半））
第9回	Unit 10 ： Drones at the Beach（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 10 ： Drones at the Beach（後半））
第10回	Unit 11 ： Flying High School（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 11 ： Flying High School（前半））
第11回	Unit 11 ： Flying High School（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 11 ： Flying High School（後半））
第12回	Unit 12 ： From TikTok to the Art Gallery（前半）	Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph News Listening（Unit 12 ： From TikTok to the Art Gallery（前半））
第13回	Unit 12 ： From TikTok to the Art Gallery（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Summary Writing（Unit 12 ： From TikTok to the Art Gallery（後半））
第14回	Review exam	学習内容の理解度を確認する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために１時間。合計２時間。さらにメディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN10 Students News* Vol. 13、朝日出版社、2025年、ISBN: 978-4-255-15727-6、定価：2,420円　＊複数の版があるので、必ず Vol. 13 を購入すること（新規受講者）。

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。学習用オンライン辞典については教室で説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。学習に関係ない行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度40％　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験40％　③Quizzes/ Dictations 20％　以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「今まで強弱を意識して読んだことがなかったので、リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「品詞によってその強弱が決定されることも学習できたので、どんな品詞が強く読まれるのか、反対にどんな品詞が弱く読まれるのかをしっかり覚えて、リズムのある読み方を心掛けたい。」など、学生が学習成果を実感できる授業運営を引き続き心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度やその時々の世相を反映させ、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to further develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading by utilizing the skills and vocabulary gained in English II(a). Students deal with more complex and sophisticated content presented in English that is relevant to their university life and subsequent academic work including lectures and academic texts.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do
the followings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading,
Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Quizzes / Dictations.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

BANNERMAN　ERNEST

サブタイトル：（6）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts.
In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts.
In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（2022年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更は学習支援システム等で提示します。/Method(s) may change depending on the online lesson. Changes will be reflected in the Learning Management System, etc.）
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語 のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people (speaking)	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people (TED video)	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices (speaking)	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices (TED video)	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities (speaking)	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities (TED video)	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving (speaking)	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: will for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving (TED video)	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity
Week 11	Unit 10 Mind and machine (speaking)	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine (watching)	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
Learning English for active communication and understanding in the international environment.
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking.
You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【授業の概要（Course outline）】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts.
In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【到達目標（Learning Objectives）】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts.
In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
By the end of the course, students should be able to make presentations confidently.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語Ⅰ（b）

ハリントン　クリストフ

サブタイトル：（7）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
この授業では、刺激的な最新の教材とテクノロジーを活用して、実践的な英語コミュニケーション能力を向上させます。授業で学ぶ英会話スキルは、自分の意見を伝えたり、自身の過去・現在・未来に関する楽しいトピックについて英語で対話したりする際に役立ちます。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for
many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively
for explaining experiences and memories, current habits/routines and future
hopes/dreams.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online
games, entertaining animations and real-world discussion practices. Each class focuses on
important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural
English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	City life opinions	Pages 15-19: Opinion phrases, city life opinion activities, online language game and animated video listening activity
3	City life discussions	Pages 20-22: Real-world city life discussion practices, online team language game and extended language activities for giving opinions
4	Study opinions	Pages 23-27: Support phrases, study opinion activities, online language game and animated video listening activity
5	Study discussions	Pages 28-30: Real-world study discussion practices, online team language game and extended language activities for supporting opinion
6	Fashion opinions	Pages 31-35: Persuasion phrases, fashion opinion activities, online language game and animated video listening activity
7	Fashion discussions	Pages 36-38: Real-world fashion discussion practices, extended language activities for persuading others
8	Review speech 1	Pages 39-42: Opinion speeches in small groups about junk food (using phrases from classes 2-7)
9	Technology opinions	Pages 43-47: Checking opinions, technology opinion activities, online language game and animated video listening activity
10	Technology discussions	Pages 48-50: Real-world technology discussion practices, online team language game and summary language activities for checking opinions
11	Travel opinions	Pages 51-55: Reaction phrases, travel opinion activities, online language game and animated video listening activity
12	Travel discussions	Pages 56-58: Real-world travel discussion practices, online team language game and summary language activities for reacting to opinions
13	Fame and fortune opinions and discussions	Pages 59-66: Opinion challenge phrases, fame and fortune opinion activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Opinion speeches in small groups about part-time jobs (using phrases from classes 7 13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 2, SMART Class Series (3rd Edition)
出版社 ：SMART Class Series
ISBN ：978-4991190384

【参考書】
not required

【成績評価の方法と基準】
25%: Clasd participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

【学生の意見等からの気づき】
survey not given

【Outline (in English)】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
【授業の概要（Course outline）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for
many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively
for explaining experiences and memories, current habits/routines and future
hopes/dreams.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

25%: Clasd participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film①
3	Greetings	Film①～②,Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film③～④
6	Requesting Information	Film④～⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film⑤～⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧～⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film⑨
12	Ex.1～4まとめ	Film⑨～⑩
13	Filmまとめ、リスニング最終確認、レポート提出	Filmまとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English (2001年出版）価格2,200円
ISBN 4-7647-3725-6　C1082（金星堂), およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60%), レポート（10%), プレゼンテーション(10%), 平常点（20%), また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.
【Learning Objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Students will hopefully get accustomed to reading and listening to those daily English expressions.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: 1 hour
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Attendance &active participation （20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の3点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を復習する。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。その上でパラグラフ・ライティングに挑戦する。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後リスニングやアクティビティ、テーマに沿ったライティングをおこなう。課題等の提出・フィードバックは主に授業内でおこなうが、「学習支援システム」を活用することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Self-introduction	英語のエッセイの書き方
3	Self-introduction	自己紹介の表現方法と文法（語順）
4	Lesson 1: Hi Jason	長文読解
5	Lesson 1: Activities	メールの書き方
6	Lesson 2: Crash Closes Bridge during Storm	長文読解
7	Lesson 2: Grammar	品詞（名詞、形容詞、副詞など）
8	Lesson 2: Activities	英字新聞の特徴
9	Lesson 3: Hightones Reunion Concert	長文読解
10	Lesson 3: Grammar	5文型
11	Lesson 3: Activities	記事の要約
12	Lesson 4: Dear Sirs: A Letter of Request	長文読解
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べて全文和訳してからから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著『スキル統合型：英作文トレーニング (Read to Write ― An Integrated Course for College Students ―)』朝日出版社、2013年、2,090円(本体1,900円+税)。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：40％、課題：20％、期末試験：40％、合計100％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of the course is to learn how to write essays, and how to express opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills.
[Learning Objectives] The goal of this course is to understand the paragraph writing.
[Learning activities outside of classroom] Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
[Grading Criteria] Grading will be decided based on in-class contribution (40%), essay (20%), and Term-end examination (40%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

石井　創

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語のライティングのルールに則り、短めかつ論理的なパッセージを複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれたパッセージの読解練習やそのルールに基づくライティングの演習問題・課題を通じて、英語でパッセージを書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法をきちんと定着させ、それを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージなどに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．パラグラフ・ライティングなどの文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプのパッセージをそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１．形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合がありえます。
２．進め方
授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別の教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading のパッセージを読解しながら、そのパッセージ内でポイントとなる文法やパラグラフの構成についての解説を行い、その後に演習問題を解いてそれら学んだ知識の定着を図ります。
２回目の授業では、１回目で取り上げたパラグラフの構成やライティングのルールをさらに詳しく解説していきます。その後、それらの内容をきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
教科書のパッセージ読解や演習問題は、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。また、教科書の各 Unit が終わるごとに、学習内容のまとめとなるライティング課題を課していきます。ライティング課題は基本的には授業外で（一部、授業内でも）取り組み、期限までに提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価などの説明
第2回	Unit 1 Things Happen for a Reason	Reading: The Effects of Smartphone Use on University Students, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第3回	Unit 1 Things Happen for a Reason	Writing Strategy: 原因・理由と結果を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第4回	Unit 2 Same or Different?	Reading: Chicken or Fish?, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第5回	Unit 2 Same or Different?	Writing Strategy: 比較を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第6回	Unit 3 Here's What I Think	Reading: What's Your Travel Preference?, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第7回	Unit 3 Here's What I Think	Writing Strategy: to 不定詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第8回	Unit 4 Sorting Things Out	Reading: Great Movies Need Great Endings, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第9回	Unit 4 Sorting Things Out	Writing Strategy: 受動態, Sentence Writing, Paragraph Writing
第10回	Unit 5 Step by Step	Reading: How Anime Is Made, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第11回	Unit 5 Step by Step	Writing Strategy: 時を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第12回	Unit 6 Feeling Through Your Senses	Reading: The Mona Lisa Continues to Fascinate People, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第13回	Unit 6 Feeling Through Your Senses	Writing Strategy: 形容詞と副詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第14回	学期末まとめ	学習した文法やライティングのルールの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading のパッセージを読んで内容を把握してくる、文法やライティングルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
教科書のパッセージにおける複雑な構造の文の意味解釈や文法、ライティングのルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理してください。また、教科書の各 Unit の学習が終わった時点で、その Unit のまとめとなるライティング課題を毎回課しますので、授業外で作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純. (2020).『Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 70%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）30%
２．欠席が５回に達すると自動的に単位取得不可
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウント（30 分以上の遅刻は欠席とみなされる）
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、欠席とみなされる

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度は、「解説が充実しており、予習の段階でわからなくても授業内で理解できた」、「スライドでの文法説明がわかりやすかった」など、「わかりやすさ」の点では肯定的な感想を比較的多く得られた。しかし他方で、英語への苦手意識が強い受講生へのフォローが不十分であり、そのために「進度が早く、説明についていくのが難しかった」などの批判的な意見もいくつかいただいた。この点を反省して、今年度は授業内で受講生の理解度をより細かく確認しながら説明を展開するよう心掛けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。授業中にライティングの演習問題・課題が追加で出る場合があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】
１．学習支援システムからの授業や提出課題に関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。
２．大学が指定する感染症に罹患して授業への出席停止措置を受けた学生は、大学発行の欠席配慮願を教員に提出してください。また、大学体育会の活動参加や忌引等による欠席の場合も、同様にそれを証明する書類を提出してください。これらの配慮願や証明書が提出された授業回に関しては出席扱いにいたします。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students learn to write short, logical passages based on English writing rules. Therefore, the course will emphasise learning the rules needed to write passages in English, as well as reviewing grammar topics that students have already studied, through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the following:
(a) Absorbing grammatical knowledge studied in previous years and being able to write clear sentences using this knowledge;
(b) Acquiring vocabulary in various fields included in the textbook.
(c) Understanding the basic rules of essay writing (e.g., paragraph writing) and being able to compose a variety of passages based on these rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the 'Reading' passages in each unit of the textbook, looking up unfamiliar words and idioms in the dictionary, and figure out the content of the passages. They also need to solve the practice problems in the textbook, reading through the grammar and writing explanations included in each unit.
(b) Review and submitting writing assignments
Students are required to review the day's class content, for example, comprehending the meaning of structurally complicated sentences, grammar, and writing rules. Furthermore, students will be given an assignment to write a passage in each unit, which they must complete and submit.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 70%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes and other homework): 30%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

蒔田　裕美

サブタイトル：（４）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとれるように英語の総合的なフォー・スキルズ（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を向上させることである。学生は効果的なプレゼンテーションの手法やエッセイの作成を通して、英語で自分の意見を発信することを目指す。

【到達目標】
１　学生が様々な場面で役立つ英語表現を学び、実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。
２　学生はアカデミック・ライティングで用いられるパラグラフの概念を学び、パラグラフの集合体であるエッセイを書くことができる。
３　学生が効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最初に発音記号、英語特有の音声変化、リズムを指導するので、積極的に発声練習を行うこと。ペアワークを通して、様々な場面で役立つ英語表現をアウトプットしながら実践的なコミュニケーション能力を培っていく。クラスメート全員の前で実施するプレゼンテーションと期末課題のエッセイについては、グーグルクラスルームを通して全員にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Self-Introduction in English	Confirm the teaching approach and how to prepare for lessons. Students introduce themselves in English.
2	Contrast General and Current Actions	Grammar: Verb Tense Review, Vocabulary: Healthy Diets and Types of Food
3	Describe Regional Foods	General and Focused Listening: An Interview Comparing Diets, Discussing Types of Food, Linking Words Together
4	Describe Favorite Dishes	Reading: The Paleo Diet: Natural and Healthy? Writing: Main Ideas and Supporting Details
5	Discuss Diet Trends	Video Journal: Wide Awake Bakery
6	Talk about Yourself	Grammar: The Present Perfect vs. The Simple Past, Vocabulary: Culture and Communication, Starting a Conversation
7	Make Small Talk with New People	General and Focused Listening: Conversations: Small Talk, Have or Has vs. Contractions
8	Discuss Endangered Languages	Reading: Endangered Languages, Writing: Giving Examples
9	Start a Conversation	Video Journal: Marie's Dictionary
10	Make Predictions about Your City or Town	Grammar: Future with Will, Vocabulary: Changing Cities, City Life
11	Explain What Makes a Good Neighborhood	General and Focused Listening: A Radio Interview: Jardin Nomade in Paris, Discussing the Future of Your City
12	Discuss the Pros and Cons of City Life	Reading: Streets for People, Writing: A Paragraph with a Good Topic Sentence
13	Presentation and Self-evaluation	Make a 4 minute presentation and conduct a self-evaluation
14	Final Assignment	Learn how to write Academic Writing. Submit a essay and check the feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組んでおくこと。
授業後は、授業で学んだ発音や表現を実際に声に出して繰り返し練習し、プレゼン準備やエッセイの作成に備えること。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Kristin L. Johannsen 他『World English Level 2: Combo Split 2A』National Geographic Learning、2022年 (ISBN: 9798214085418)¥ 3070

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Presentation ５０%、Assignment ５０%

【学生の意見等からの気づき】
学生が質問しやすい環境を整え、学習者の理解度に合わせた授業展開を心がけたい。また、ペアワークやディスカッションを通して、学生が主体的に取り組めるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームを通して資料配布、課題作成、質問の受付やコメントのやりとりを行う。
プレゼンやエッセイの作成時期には、授業時にもノートPCがあると課題に取り組みやすい。

【Outline (in English)】
This course deals with four basic English skills. In order to improve these skills, we will mainly do the following tasks; (1)learn the pronunciation of English to enhance listening and speaking skills (2) learn the basic skills of paragraph writing, and (3) write essays and make presentations based on the knowledge acquired.
The goals of this class are to (1) learn useful English expressions used in different contexts (2) learn how to write essays effectively, and (3) feel confident in giving presentations in English.
Students must undertake assigned homework activities and prepare for upcoming discussions, presentations and writing. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading will be decided based on the final presentation (50%) and the essay (50%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースの目的は、学生が英語の基礎力を高め、さまざまな実際の場面で自分の考えや意見を自由に交換できるようになることを支援することです。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to:
- Develop fundamental skills and accuracy in expressing ideas in English and
delivering presentations.
- Understand a range of topics presented in various written English texts and
write about them effectively.
- Strengthen their communicative abilities in listening and participating in
discussions in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Because many presentations will be incorporated, students are expected to participate actively during lectures and exercises rather than remain passive. They are encouraged to be proactive and to do their best without fear of making mistakes. In addition, emphasis will be placed on checking vocabulary and grammar while reading English texts, as well as on understanding key expressions and structures. In the writing exercises, students will be asked to produce sentences or short paragraphs by referring to model examples and paying close attention to organization and structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Teacher and students introductions, textbook guidance, grading system explanation, scheduling of presentation dates
2	Unit 1, The Last Chance for a First Impression	We examine the significance of first impressions through class discussions, reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises, and a writing activity describing personal first impressions.
3	Unit 2, Why Learn English?	We explore motivations for learning English through discussions, reading comprehension on its global use, vocabulary exercises related to language and communication, and a writing activity explaining personal reasons for learning English.
4	Unit 3, Focus on Photography	We explore photography through class discussions about personal experiences, vocabulary exercises on photography and visual communication, and a writing activity describing a photograph and its meaning.
5	Unit 4, Gender Inequality in Japan	We examine gender roles and social issues in Japan through class discussions, reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on gender and equality, and a writing activity expressing opinions on gender equality.
6	Unit 5, Social Media &The Internet	We explore the role and impact of social media through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on digital communication, and a writing activity analyzing its advantages and disadvantages.
7	Unit 5, Social Media &The Internet (continued)	We explore social media and internet use through class discussions on personal experiences, listening comprehension activities on daily online habits, speaking practice on advantages and disadvantages, and interactive tasks sharing opinions on responsible internet use.
8	Unit 6, Indigenous Peoples of the World	We explore indigenous cultures through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on culture and traditions, and a writing activity on the importance of protecting indigenous communities.
9	Unit 6, Indigenous Peoples of the World (continued)	We explore indigenous cultures through class discussions, listening comprehension activities on indigenous communities, speaking practice on cultural diversity and traditions, and interactive listening and speaking tasks expressing opinions about indigenous issues.
10	Unit 7, Great People in History	We explore influential historical figures through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on history and leadership, and a writing activity describing a historical figure and their impact.
11	Unit 7, Great People in History (continued)	We explore influential historical figures through class discussions, listening comprehension on their lives and achievements, speaking practice comparing historical figures, and presentations sharing opinions about a favorite historical figure.
12	Unit 8, The Road Less (or More) Traveled	We explore the purposes and impacts of travel through reading comprehension activities on historical and personal motivations for travel, and writing exercises about how travel can help people learn about the world and different cultures.
13	Unit 8, The Road Less (or More) Traveled (continued)	We explore reasons for travel through listening activities and speaking discussions about travel experiences and cultural understanding.
14	End- of- semester review	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Jono David: What's That You Say?
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17944-3, 2023 年, 2640 円

【参考書】
What's That You Say?
Jono David

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Active participation in class: 30%
- Written work (assignments, homework, tests): 40%

- Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The lesson content and schedule may be adjusted according to the needs and language level of the students in this class. Communication is the key. Please feel free to speak up. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
The goal of this course is to build the English skills needed for university study.
Students will work on understanding English and expressing themselves in English, both orally and in writing.
They will read and understand texts logically, sometimes considering cultural context.
They will learn to use English independently by using what they read to communicate in presentations, conversations, and written work.
(Learning activities outside of classroom)
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following (11.03.)
-Class participation: 30%
-Written work (assignments, homework, tests): 40%
-Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

式町　眞紀子

サブタイトル：（6）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることにより、リスニング・リーディング・ライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
1ユニットを前半・後半に分けWarm Upでユニットの学習テーマの掘り起こしをし、文脈に即した語彙の用法を確認する。続いて、ニュース本文をディクテーション形式で完成させ、英文として自然な形を音声とライティングの両面から学習する。さらに本文に関する正誤問題によって内容を把握したうえでサマリーを作成することを基本パターンとして行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価などについて説明する。
第2回	Unit1： AI in Education（前半）	Watch the News on "AI" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第3回	Unit1： AI in Education（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit1
第4回	Unit2： Multitasking（前半）	Watch the News on "Multitusking" Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph
第5回	Unit2： Multitasking（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit2
第6回	Unit3： To Nap or Not to Nap?（前半）	Watch the News on "To Nap or Not to Nap" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第7回	Unit3： To Nap or Not to Nap?（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit3
第8回	Unit4： Domino's Pizza Car （前半）	Watch the News on "Domino's Pizza Car" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第9回	Unit4： Domino's Pizza Car （後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit4
第10回	Unit5： What is Flag Football?（前半）	Watch the News on "Flag Football" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第11回	Unit5： What is Flag Football?（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit5
第12回	Unit6： Chief UNO Player（前半）	Watch the News on "UNO Player" Warm Up, Vocabulary Check & Exercise, Topic Paragraph
第13回	Unit6： Chief UNO Playern（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit6
第14回	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために１時間。合計２時間。さらに、メディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN 10 Student News Vol. 13*、朝日出版社、2025年、ISBN: 978-4-255-15727-6　2,200円+税
＊複数の版があるので、必ず **Vol.13** を準備すること。

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。学習用オンライン辞典については教室で説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。そのほかにも授業に関係ない行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度40％　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験40％　③Quiz, Dictation 20％　以上３点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」「なぜそうなるのか、根拠をもって答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度やその時々の世相を反映させ、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading. Students will use English to understand and respond to content that is relevant to their university life and subsequent academic work.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do thefollowings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Quizzes/ Dictations.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（a）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（７）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To be able to communicate smoothly in English.
Understand the culture surrounding the English language as well.
Cultivating confidence is another key aspect of this course.
英語で円滑にコミュニケーションができるようになること。
英語圏の文化についても理解を深めること。
そして、自信を養うこともこの授業の重要な要素です。

【到達目標】
This course will be conducted mainly in English. First of all, you will develop reading skills by dealing with texts written on a variety of topics. Furthermore, your speaking skills will be enhanced by participating in a variety of activities, such as pair &group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be listening exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, you will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Conservation, listening and speaking	Listening and speaking exercise: talking about endangered animals; Grammar explanation and practice: present simple and present continuous
Week 3	Unit 1 Conservation, TED video	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Homework: reading with comprehension
Week 4	Unit 2 Family connections, listening and speaking	Listening and speaking exercise: talking about family; Grammar used when talking about future plans
Week 5	Unit 2 Family connections, TED video	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading exercise: A passion for genealogy
Week 6	Unit 3 Global stories, speaking	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Speaking exercise: talking about books; Grammar: defining relative clauses
Week 7	Unit 3 Global stories, TED video	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Writing exercise: writing a book review
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Music, listening and speaking	Listening and speaking: talking about music; Grammar explanation and practice: countable and uncountable nouns
Week 10	Unit 4 Music, TED video	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading exercise: Music and the brain
Week 11	Unit 5 Good design, listening and speaking	Listening and speaking: talking about design; Grammar explanation and practice: prepositions and adverbs of place
Week 12	Unit 5 Good design, TED video	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading with comprehension: Chicago's much loved flag
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.
(Learning activities outside of classroom)
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
(Grading Criteria /Policy)
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
　読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film①
3	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film①
4	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film①～②
5	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
6	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film②, She's got a way.
7	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film②～③
8	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film⑦
9	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film③, The Story of O-TEI
10	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film③～④
11	思いを表現する　プレゼン　第1グループ	プレゼンテーション 発表者の思いを聞く
12	思いを表現する　プレゼン　第2グループ	プレゼンテーション 要点を意識してリスニングする
13	思いを表現する　プレゼン第3グループ	プレゼンテーション 自分の意見を言葉に変える
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English (2001年出版）価格2,200円
ISBN 4-7647-3725-6　C1082（金星堂), およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60%), レポート（10%), プレゼンテーション(10%), 平常点（20%), また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
　学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.
【Learning Objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Students will hopefully get accustomed to reading and listening to those daily English expressions.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: 1 hour
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Attendance &active participation （20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の3点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を復習する。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。その上でパラグラフ・ライティングに挑戦する。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後リスニングやアクティビティ、テーマに沿ったライティングをおこなう。課題等の提出・フィードバックは主に授業内でおこなうが、「学習支援システム」を活用することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 7: Stranded! Leaves Us Cold	長文読解
3	Lesson 7: Grammar	春学期の文法の復習
4	Lesson 7: Activities	トピック・センテンスに関して
5	Lesson 12: How Long Can People Live?	長文読解
6	Lesson 12: Grammar	文法（動名詞、分詞、分詞構文）
7	Lesson 12: Activities	論文調の文章
8	Lesson 5: Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	長文読解
9	Lesson 5: Grammar	文法（thatの用法）
10	Lesson 5: Activities	手順の順序
11	Lesson 17: Super White	長文読解
12	Lesson 17: Activities	広告
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べて全文和訳してからから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著『スキル統合型：英作文トレーニング (Read to Write ― An Integrated Course for College Students ―)』朝日出版社、2013年、2,090円(本体1,900円+税)。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：40％、課題：20％、期末試験：40％、合計100％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of the course is to learn how to write essays, and how to express opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills.
[Learning Objectives] The goal of this course is to understand the paragraph writing.
[Learning activities outside of classroom] Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
[Grading Criteria] Grading will be decided based on in-class contribution (40%), essay (20%), and Term-end examination (40%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

石井　創

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語のライティングのルールに則り、短めかつ論理的なパッセージを複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれたパッセージの読解練習やそのルールに基づくライティングの演習問題・課題を通じて、英語でパッセージを書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法をきちんと定着させ、それを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージなどに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．パラグラフ・ライティングなどの文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプのパッセージをそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１．形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合がありえます。
２．進め方
授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別の教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading のパッセージを読解しながら、そのパッセージ内でポイントとなる文法やパラグラフの構成についての解説を行い、その後に演習問題を解いてそれら学んだ知識の定着を図ります。
２回目の授業では、１回目で取り上げたパラグラフの構成やライティングのルールをさらに詳しく解説していきます。その後、それらの内容をきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
教科書のパッセージ読解や演習問題は、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。また、教科書の各 Unit が終わるごとに、学習内容のまとめとなるライティング課題を課していきます。ライティング課題は基本的には授業外で（一部、授業内でも）取り組み、期限までに提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価などの説明、春学期の内容振り返り
第2回	Unit 7 Don't You Agree?	Reading: Listening to Music While Studying Can Make You a Better Student, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第3回	Unit 7 Don't You Agree?	Writing Strategy: 無生物主語, Sentence Writing, Paragraph Writing
第4回	Unit 8 You Be the Judge	Reading: UNIQLO - Four Strategies for Success, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第5回	Unit 8 You Be the Judge	Writing Strategy: 完了時制, Sentence Writing, Paragraph Writing
第6回	Unit 9 Two Sides to Every Story	Reading: The Debate over Animal Testing, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第7回	Unit 9 Two Sides to Every Story	Writing Strategy: 相関接続詞と群前置詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第8回	Unit 10 A Bit of Advice	Reading: Keys to a Successful Job Interview, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第9回	Unit 10 A Bit of Advice	Writing Strategy: 形式主語, Sentence Writing, Paragraph Writing
第10回	Unit 11 Please Don't Misunderstand	Reading: Violent Video Games and Real-Life Violence, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第11回	Unit 11 Please Don't Misunderstand	Writing Strategy: 否定を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第12回	Unit 12 Revisiting the Past	Reading: Michael Collins Remembers Apollo 11, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第13回	Unit 12 Revisiting the Past	Writing Strategy: 他者の言葉を伝える, Sentence Writing, Paragraph Writing
第14回	学期末まとめ	学習した文法やライティングのルールの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading のパッセージを読んで内容を把握してくる、文法やライティングルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、『『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
教科書のパッセージにおける複雑な構造の文の意味解釈や文法、ライティングのルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理してください。また、教科書の各 Unit の学習が終わった時点で、その Unit のまとめとなるライティング課題を毎回課しますので、授業外で作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島 純．(2020).『Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 70%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）30%
２．欠席が５回に達すると自動的に単位取得不可
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウント（30 分以上の遅刻は欠席とみなされる）
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、欠席とみなされる

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度は、「解説が充実しており、予習の段階でわからなくても授業内で理解できた」、「スライドでの文法説明がわかりやすかった」など、「わかりやすさ」の点では肯定的な感想を比較的多く得られた。しかし他方で、英語への苦手意識が強い受講生へのフォローが不十分であり、そのために「進度が早く、説明についていくのが難しかった」などの批判的な意見もいくつかいただいた。この点を反省して、今年度は授業内で受講生の理解度をより細かく確認しながら説明を展開するよう心掛けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。授業中にライティングの演習問題・課題が追加で出る場合があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】
１．学習支援システムからの授業や提出課題に関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。

２．大学が指定する感染症に罹患して授業への出席停止措置を受けた学生は、大学発行の欠席配慮願を教員に提出してください。また、大学体育会の活動参加や忌引等による欠席の場合も、同様にそれを証明する書類を提出してください。これらの配慮願や証明書が提出された授業回に関しては出席扱いにいたします。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students learn to write short, logical passages based on English writing rules. Therefore, the course will emphasise learning the rules needed to write passages in English, as well as reviewing grammar topics that students have already studied, through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the following:
(a) Absorbing grammatical knowledge studied in previous years and being able to write clear sentences using this knowledge;
(b) Acquiring vocabulary in various fields included in the textbook.
(c) Understanding the basic rules of essay writing (e.g., paragraph writing) and being able to compose a variety of passages based on these rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the 'Reading' passages in each unit of the textbook, looking up unfamiliar words and idioms in the dictionary, and figure out the content of the passages. They also need to solve the practice problems in the textbook, reading through the grammar and writing explanations included in each unit.
(b) Review and submitting writing assignments
Students are required to review the day's class content, for example, comprehending the meaning of structurally complicated sentences, grammar, and writing rules. Furthermore, students will be given an assignment to write a passage in each unit, which they must complete and submit.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 70%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes and other homework): 30%

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

蒔田　裕美

サブタイトル：（４）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとれるように英語の総合的なフォー・スキルズ（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を向上させることである。学生は効果的なプレゼンテーションの手法やエッセイの作成を通して、英語で自分の意見を発信することを目指す。

【到達目標】
１　学生が様々な場面で役立つ英語表現を学び、実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。
２　学生はアカデミック・ライティングで用いられるパラグラフの概念を学び、パラグラフの集合体であるエッセイを書くことができる。
３　学生が効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最初に発音記号、英語特有の音声変化、リズムを指導するので、積極的に発声練習を行うこと。ペアワークを通して、様々な場面で役立つ英語表現をアウトプットしながら実践的なコミュニケーション能力を培っていく。クラスメート全員の前で実施するプレゼンテーションと期末課題のエッセイについては、グーグルクラスルームを通して全員にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Evaluate Solutions to a Problem	Video Journal: How to Reinvent the Apartment Building
2	Discuss Ways to Stay Healthy	Grammar: The Comparative, Superlative, and Equative, Vocabulary: Human Organs Everyday Ailments
3	Talk about Healthy Lifestyles	Listening: Discussions: Different Lifestyles, Talking about Staying Healthy
4	Suggest Helpful Natural Remedies	Reading: Attitude is Everything, Writing: A Paragraph Using Supporting Details
5	Describe the Benefits of a Positive Attitude	Video Journal: Living Beyond Limits
6	Talk about Facing Challenges	Grammar: Past Continuous vs. the Simple Past, Vocabulary: Physical and Mental Challenges Phrasal Verbs
7	Describe Past Accomplishments	Listening: An Interview: Dr. Jenny Daltry: Wildlife Conservationist and Ecologist, Discussing Challenges: Talking about Abilities
8	Use Too and Enough to Talk about Abilities	Reading: Making a Difference: Bali, Writing: A Paragraph about a Challenging Experience
9	Discuss Steps Toward a Goal	Video Journal: Success Story: Recycling in the Philippines
10	Talk about Different Stages in Your Life	Grammar: The Past Perfect, Vocabulary: Describe Life Events Adjectives for Age
11	Talk about the Best Age to Do Something	Listening: Conversation: Becoming an Adult, Talking about Events in Your Life
12	Ask Questions to Get More Information	Reading: Innovation in Africa, Writing: A Paragraph to Describe a Life Transition
13	Presentation and Self-evaluation	Make a 4 minute presentation and conduct a self-evaluation
14	Final Assignment	Learn how to write Academic Writing. Submit a essay and check the feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組んでおくこと。
授業後は、授業で学んだ発音や表現を実際に声に出して繰り返し練習し、プレゼン準備やエッセイの作成に備えること。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Kristin L. Johannsen 他『World English Level 2: Combo Split 2A』National Geographic Learning、2022年 (ISBN: 9798214085418)￥3070

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Presentation ５０%、Assignment ５０%

【学生の意見等からの気づき】
学生が質問しやすい環境を整え、学習者の理解度に合わせた授業展開を心がけたい。また、ペアワークやディスカッションを通して、学生が主体的に取り組めるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームを通して資料配布、課題作成、質問の受付やコメントのやりとりを行う。
プレゼンやエッセイの作成時期には、授業時にもノートPCがあると課題に取り組みやすい。

【Outline (in English)】
This course deals with four basic English skills. In order to improve these skills, we will mainly do the following tasks; (1)learn the pronunciation of English to enhance listening and speaking skills (2) learn the basic skills of paragraph writing, and (3) write essays and make presentations based on the knowledge acquired.
The goals of this class are to (1) learn useful English expressions used in different contexts (2) learn how to write essays effectively, and (3) feel confident in giving presentations in English.
Students must undertake assigned homework activities and prepare for upcoming discussions, presentations and writing. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading will be decided based on the final presentation (50%) and the essay (50%).

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースの目的は、学生が英語の基礎力を高め、さまざまな実際の場面で自分の考えや意見を自由に交換できるようになることを支援することです。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to:
- Develop fundamental skills and accuracy in expressing ideas in English and
delivering presentations.
- Understand a range of topics presented in various written English texts and
write about them effectively.
- Strengthen their communicative abilities in listening and participating in
discussions in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Because many presentations will be incorporated, students are expected to participate actively during lectures and exercises rather than remain passive. They are encouraged to be proactive and to do their best without fear of making mistakes. In addition, emphasis will be placed on checking vocabulary and grammar while reading English texts, as well as on understanding key expressions and structures. In the writing exercises, students will be asked to produce sentences or short paragraphs by referring to model examples and paying close attention to organization and structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Textbook guidance, grading system explanation, scheduling of presentation dates
2	Unit 9, The Culture of Food	We explore global food traditions through reading comprehension on food culture, vocabulary exercises on cooking and dining, and a writing activity describing a traditional dish or food-related experience.
3	Unit 9, The Culture of Food　(continued)	We explore food traditions and eating customs around the world through listening comprehension activities and discussions about cultural similarities and differences.
4	Unit 10, Freedom an Responsibility	We explore personal and societal freedom through reading comprehension on examples of freedom and responsibility, vocabulary exercises on social obligations, and a writing activity reflecting on personal experiences of freedom and responsibility.
5	Unit 11, Love one, Love All	We explore love and relationships through reading comprehension on cultural or literary examples, vocabulary exercises on emotions and relationships, and a writing activity reflecting on personal views about love.
6	Unit 11, Love one, Love All　(continued)	We explore themes of love and relationships through listening comprehension activities and discussions based on different perspectives and experiences of love.
7	Unit 12, Money and Finance, Dollars and Sense	We explore personal finance through reading comprehension, vocabulary exercises on money and banking, and a writing activity reflecting on personal financial goals.
8	Unit 12, Money and Finance, Dollars and Sense　(continued)	We explore topics related to money and personal finance through listening comprehension activities and discussions about financial habits, budgeting, and financial responsibility.
9	Unit 13, Careers: Nice Job!	We explore career goals through reading comprehension on career paths and professions, vocabulary exercises on jobs and workplace skills, and a writing activity describing an ideal job.
10	Unit 13, Careers: Nice Job!　(continued)	We explore careers and professional goals through listening comprehension activities and discussions about different jobs, career paths, and workplace experiences.
11	Unit 14, Across the Universe: If Earth Were a Cherry Tomato	We explore space and planets through reading comprehension on Earth and planetary comparisons, vocabulary exercises on astronomy and scientific terms, and a writing activity explaining an interesting fact about Earth or space.
12	Unit 15, Risks: Take Your Chances	We explore personal and real-life risk-taking through reading comprehension on examples of risks, vocabulary exercises on decision-making and consequences, and a writing activity reflecting on personal experiences with risk.
13	Unit 15, Risks: Take Your Chances (continued)	We explore the concept of risk-taking through listening comprehension activities and discussions about personal experiences, decision-making, and consequences.
14	End- of- semester review	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Jono David: What's That You Say?
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17944-3, 2023 年, 2640 円

【参考書】
What's That You Say?
Jono David

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
-Class participation: 30%
-Written work (assignments, homework, tests): 40%
-Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The lesson content and schedule may be adjusted according to the needs and language level of the students in this class. Communication is the key. Please feel free to speak up. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
The goal of this course is to build the English skills needed for university study.

Students will work on understanding English and expressing themselves in English, both orally and in writing.
They will read and understand texts logically, sometimes considering cultural context.
They will learn to use English independently by using what they read to communicate in presentations, conversations, and written work.
(Learning activities outside of classroom)
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following (11.03.)
-Class participation: 30%
-Written work (assignments, homework, tests): 40%
-Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

式町　眞紀子

サブタイトル：（6）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ニュースに基づくさまざまなトピックや会話、聞き手や読み手に的確に伝わるように洗練された英文を、実践的な練習問題をとおして学習し、「なんとなくわかる」で終わらずに「明確にわかる」ことを目指す。

【到達目標】
文法・語彙力の裏付けを確実なものにすることで、先学期よりもスピーディーにリスニング・リーディング、そしてライティングのいずれでも文脈をきちんと把握できるようになる。単語のアクセント、リズムやイントネーションを的確に反映させて、英語として自然な発音や発話ができるようになり、総合的に表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期同様に、Warm Upにはじまり、リスニングやリーディングなどの練習問題を解いていく中で、トピックに関連する問題を考え、意見をまとめることで仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期のふりかえりと秋学期の進め方の説明などを行う。
第2回	Unit7： Basketball Superstar（前半）	Watch the News on "Basketball Superstar" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第3回	Unit7： Basketball Superstar（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit7
第4回	Unit8： Creating Eco-Accessories（前半）	Watch the News on "Creating Eco-Accessories" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第5回	Unit8： Creating Eco-Accessories（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit8
第6回	Unit9： Secret Education for Women（前半）	Watch the News on "Secret Education for Women" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第7回	Unit9： Secret Education for Women（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit9
第8回	Unit10： Drones at the Beach（前半）	Watch the News on "Drones at the Beach" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第9回	Unit10： Drones at the Beach（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit10
第10回	Unit11： Flying High School（前半）	Watch the News on " Flying High School" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第11回	Unit11： Flying High School（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit11
第12回	Unit12： From TikTok to the Art Gallery（前半）	Watch the News on "From TikTok to the Art Gallery" Warm Up, Vocabulary Check &Exercise, Topic Paragraph
第13回	Unit 12： From TikTok to the Art Gallery（後半）	Transcription Completion, Comprehension Questions, Dictation for Unit12
第14回	Review exam	学習内容の理解度を確認する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習1時間、復習は間違えた問題や新しく理解した内容を掘り下げるために1時間。合計2時間。さらにメディアを通してリアルタイムでさまざまな英語に触れることは無制限に行うべき。

【テキスト（教科書）】
SEKIDO, Fuyuhiko, Masato Kogure, Jake Arnold, Christopher Mattson *CNN10 Students News* Vol. 13、朝日出版社、2025年、ISBN: 978-4-255-15727-6　2,200円+税
＊複数の版があるので、必ず Vol. 13 を購入すること（新規受講者）。

【参考書】
英和辞典（紙・電子）。学習用オンライン辞典については教室で説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。学習に関係ない行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加態度40％　演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。②試験40％　③Quizzes/ Dictations 20％　以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「今まで強弱を意識して読んだことがなかったので、リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「品詞によってその強弱が決定されることも学習できたので、どんな品詞が強く読まれるのか、反対にどんな品詞が弱く読まれるのかをしっかり覚えて、リズムのある読み方を心掛けたい。」など、学生が学習成果を実感できる授業運営を引き続き心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度やその時々の世相を反映させ、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of the course is to further develop effective communication skills in English with a particular emphasis on listening and reading by utilizing the skills and vocabulary gained in English II(a). Students deal with more complex and sophisticated content presented in English that is relevant to their university life and subsequent academic work including lectures and academic texts.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Quizzes / Dictations.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

総合英語 II（b）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（７）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To be able to communicate smoothly in English.
Understand the culture surrounding the English language as well.
Cultivating confidence is another key aspect of this course.
英語で円滑にコミュニケーションができるようになること。
英語圏の文化についても理解を深めること。
そして、自信を養うこともこの授業の重要な要素です。

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on listening skills and ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
ビデオやオーディオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語 のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people (speaking)	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people (TED video)	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices (speaking)	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices (TED video)	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities (speaking)	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities (TED video)	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving (speaking)	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: will for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving (TED video)	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity
Week 11	Unit 10 Mind and machine (speaking)	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine (watching)	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3, 定価：4,477円

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
To be able to communicate smoothly in English.
Understand the culture surrounding the English language as well.
Cultivating confidence is another key aspect of this course.
(Learning activities outside of classroom)
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
(Grading Criteria /Policy)
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homework and tests: 40%
- Presentations: 40%

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

松下　晴彦

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴く、読む、書く練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を書くという語学的な技術を習得することに加え、現代社会の様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Unit 1 Confronting backlash	男女同権についての内容理解および問題演習
第3回	Unit 2 Japanese Novelist Asako Yuzuki	男性中心のメディアについての内容理解および問題演習
第4回	Unit 3 South Korea, deepfake	ディープフェイクについての内容理解および問題演習
第5回	Unit 4 Greenlanders unite	グリーンランドについての内容理解および問題演習
第6回	Unit 5 Latin Countries Accept Deportees	中南米諸国の強制送還についての内容理解および問題演習
第7回	Unit 6 Trump's 'Gulf of America' comment	メキシコ湾の呼称についての内容理解および問題演習
第8回	Unit 7 Angry protesters from New York	反トランプについての内容理解および問題演習
第9回	Unit 8 European Force for Ukraine	欧州軍のウクライナ派遣についての内容理解および問題演習
第10回	Unit 9 Turkey and Israel	トルコ、イスラエル間の緊張についての内容理解および問題演習
第11回	Unit 10 Tiananmen and Taiwan	中国製AIについての内容理解および問題演習
第12回	Unit 11 Trump Officials Texted War Plans	軍事計画の送信についての内容理解および問題演習
第13回	Unit 12 Ohtani	大谷選手の功績についての内容理解および問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ニュースメディアの英語 ―演習と解説 2026年度版―』高橋優身（朝日出版:2026年）2,200円(本体2,000円+税)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30％
授業内小テスト： 30％
定期試験： 40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and Final Examination 40%.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

山本　三穂

サブタイトル：（２）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマから社会問題、科学にわたる多様なテーマから書かれた英文を通して読解力を養成する。英語を自分の力で読みこなすために必要な力を様々な点から身に付けることを目的とする。

【到達目標】
英語を読むために必要な以下の内容を強化・習得することを目標とする。
1. 語彙
2. 文法事項・構文
3. 大意把握

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・パラグラフの構造や文全体の流れを捉えるためのポイントの確認を行い、英文の要点及び大意を把握する。
・語彙、文法、構文に注意しながら英文を丁寧に読む。
・課題については、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・進め方・評価等についての説明
第2回	文型(1)、Unit 1 A History of Canned Laughter(1)	文型解説、Previewing、大意の把握
第3回	文型(2)、Unit 1 A History of Canned Laughter(2)	文型小テスト、精読、語彙構文演習
第4回	品詞(1)、Unit 2 Going Zero Waste(1)	品詞解説、Scanning、大意の把握
第5回	品詞(2)、Unit 2 Going Zero Waste(2)	品詞小テスト、精読、語彙構文演習
第6回	名詞(1)、Unit 3 Leonardo da Vinci(1)	名詞解説、Skimming、大意の把握
第7回	名詞(2)、Unit 3 Leonardo da Vinci(2)	名詞小テスト、精読、語彙構文演習
第8回	動詞(1)、Unit 4 AI: A New World Just Around the Corner(1)	動詞解説、Supporting Details、大意の把握
第9回	動詞(2)、Unit 4 AI: A New World Just Around the Corner (2)	動詞小テスト、精読、語彙構文演習
第10回	時制(1)、Unit 5 Don Quixote(1)	時制解説、Analyzing Characters、大意把握
第11回	時制(2)、Unit 5 Don Quixote(2)	時制小テスト、精読、語彙構文演習
第12回	完了形(1)、Unit 6 Do Appearances Matter?(1)	完了形解説、Facts/Opinions、大意の把握
第13回	完了形(2)、Unit 6 Do Appearances Matter?(2)	完了形小テスト、精読、語彙構文演習
第14回	試験とまとめ	到達度チェックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：　指定された箇所の英文を読み、問題を解いておく
復習：　学習した語彙、文法、構文を見直す。
時間：　一週間につき、予習復習１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書名： Active Reading Strategies Book 2
著者： 角山照彦他
出版社： 成美堂
出版年：　2025年
価格：　2,500円＋税
ISBN：　9784791973064

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下を基に総合的に評価する。
平常点　３０％　課題・小テスト　３０％　定期試験４０％
原則として授業回数の1/3を超えて欠席した場合は単位を認めない。また遅刻早退３回で欠席１回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト、辞書を持参すること。学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の進展状況によって内容や順序が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
・Course outline
The aim of this course is to improve students' English reading skills.
・Learning objectives
By the end of the course, you should be able to improve your vocabulary and knowledge of grammar and read English accurately.
・Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and have completed the required assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
・Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class Contribution: 30%, Assignments and Quizzes: 30%, Term-end Examination: 40%

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、オーセンティックな英語のニュース映像とそれに関連する文章を通じて、実用的な英語運用能力を段階的に習得することを目指す。単にニュースの概要を理解するだけでなく、詳細に至る情報を正確に理解し、分析し、自分の意見を発信することも重視する。学生主体の活動を中心に据え、4技能をバランスよく育成するとともに、世界の出来事に関心を持ち、批判的思考力も養う。

【到達目標】
1. オーセンティックな英語ニュースと関連する英文を細部まで理解できるようになる。
2. ニュース映像やリーディング素材文にある単語や表現を理解し、使えるようになる。
3. ニュース映像やリーディング素材文の話題について、自分の考えを表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○ひとつのUnitを3週間かけて学習する。1回目はListeningを、2回目はReadingを、3回目はアウトプットを、それぞれ主軸とし、各回で様々なアクティビティを取り入れる。
○毎週指示する予習課題に取り組んでくること。
○ペアワーク、グループワークを積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 01	Introduction	Orientation
Week 02	Unit 1　Viewing & Listening	The Appeal of Rickshaws
Week 03	Unit 1　Listening & Reading	The History of Rickshaws
Week 04	Unit 1　Speaking & Writing	Rickshaws and Business
Week 05	Unit 6　Viewing & Listening	Food Origin Labeling
Week 06	Unit 6　Listening & Reading	Food Fraud in the United States
Week 07	Unit 6　Speaking & Writing	Food Traceability through Microchip Technology
Week 08	Unit 9　Viewing & Listening	Strength Training in the Metaverse
Week 09	Unit 9　Listening & Reading	The Importance of Exercise
Week 10	Unit 9　Speaking & Writing	The Metaverse in Japan
Week 11	Unit 10　Viewing & Listening	Multi-functional Robots
Week 12	Unit 10　Listening & Reading	AI-Powered Robots
Week 13	Unit 10　Speaking & Writing	The Pros and Cons of Robots in Everyday Life
Week 14	Review	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各1時間以上を標準とする。週に一回100分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習
《1回目》Step 2, Vocabulary Previewの10個の語彙の意味を選択肢から選ぶ
《2回目》Step 7, Vocabulary Viewの10個の語彙の意味を定義から選ぶ
《3回目》Step 10, Free Writing &InterviewingのA, Bの質問に簡潔に日本語で答える
復習
○語彙と文法の再確認をしておくこと。
○リンガポルタの指定箇所に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
書名：Reuters Global News Feed
著者：小林敏彦、Bill Benfield
出版社：成美堂
価格：2,860円（本体2,600円+税）
ISBN：9784791973118

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題：上述の予習課題と、復習課題《30%》
授業内活動：発表、提出物など《30%》
期末試験：授業内容を総括する試験《40%》
以上の成績を総合する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は改善点を多く指摘してもらった。具体的には、英文の難易度、学生との接し方、アクティブラーニングの手法などである。もちろん、私としてはそれぞれに対して自分の考えを元にして実行しているのだが、それが伝えきれなかったということであろう。少しでも多くの学生にとって学びの多い授業を提供することに努める。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）とパソコン、あるいはタブレット。

【その他の重要事項】
【学習姿勢】教員が伝えた情報を鵜呑みにせず、自分で考え、時には質問したり、自分で文献を調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop practical English proficiency through authentic news videos and related reading materials. Students will not only comprehend the main points of news stories but also accurately listen to, understand, and analyze information from video and audio sources, and express their own opinions. The course emphasizes student-centered activities to develop all four language skills in a balanced manner, foster interest in global issues, and cultivate critical thinking skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
1. Comprehend authentic English news videos and related reading materials in detail.
2. Understand and use the vocabulary and expressions found in the materials.
3. Express their own ideas in English about the topics covered in the materials.
【Learning activities outside of classroom】
First class (Listening focus):
Choose the appropriate Japanese meaning for each of the 10 vocabulary items in Step 2 (Vocabulary Preview).
Second class (Reading focus):
Choose the appropriate English definition for each of the 10 vocabulary items in Step 7 (Vocabulary View).
Third class (Output focus):
Write brief answers in Japanese to questions A and B in Step 10 (Free Writing &Interviewing).
Review the content covered in each class and continue developing the four skills in preparation for the final examination.
【Grading Criteria】
In-class contribution《30%》
Assignments《30%》
Final Examination《40%》

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

衣川　清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読したり、動画を視聴したりすることで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールも学ぶ。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主としてVOA News, Japan News, Breaking News English等、動画も含む）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①MLB（仮） （以下、記事は原則として直近のもので、内容・難易度ともに適切と思われるもの）
3	見出しのルール	記事②PFCバランス（仮）
4	リードの役割と読み方	記事③パラリンピック（仮）
5	ニュース英語特有の表現	記事④リカバリー（仮）
6	Reading for Informationのコツ	記事①～④のまとめと復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
7	中間テスト	中間テストと付随する活動
8	中間テスト講評、答案返却 文法復習①五文型	記事⑤けが予防（仮）
9	文法復習②品詞	記事⑥ジョギング（仮）
10	文法復習③動詞の種類	記事⑦筋肉をつくる（仮）
11	文法復習④句と節	記事⑧ストレス軽減（仮）
12	文法復習⑤時制	記事⑨陸上競技（仮）
13	文法復習のまとめ	記事⑤～⑨のまとめと復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
14	期末テスト	期末テストと付随する活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事や動画をふだんから読んだり観たりする習慣をつけ、徐々に読んだり観たりする対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を英辞郎やオンライン英英辞典などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。
準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
できるだけ新しい教材を使うため、教員が用意するプリントを使用する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト35％＋期末テスト35％＋平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、タブレット等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等はHoppiiで行う。
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English (including videos) as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target. They will also learn how to read headlines, leads, and captions.
Learning Objectives
1. Students will understand relatively easy sports/health articles.
2. Students will get accustomed to English expressions and rules used in sports/health news articles.
Learning Activities Outside of Classroom
Students are recommended to read English and Japanese sports/health news regularly. They are recommended to read more outside classrooms, making use of online dictionaries. Preparations and reviews of each class might take about an hour.
Grading Criteria / Policy
Grades will be based on mid-term exams(35%), end-term exams(35%), and other assignments(30%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（５）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to help students deepen their basic knowledge of English and to work on the skill of openly exchanging ideas and opinions in a variety of authentic contexts.
この授業の目的は、学生が英語の基礎知識を深め、さまざまな状況で考えや意見を率直に交わすスキルを磨くことを支援することです。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Develop fundamental skills and precision in expressing ideas in English and in delivering presentations
-Understand various topics in a variety of written English texts
-Develop communicative skills for listening and for having discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Since many presentations will be used, students should not be passive during lectures and exercises but should be proactive and do their best without fear of making mistakes. Besides, emphasis will be placed on checking English vocabulary and grammar while reading English sentences, as well as on understanding English expressions and structures. In the writing exercises, students should write English sentences by referring to the samples and paying attention to the structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation (ガイダンス)	授業の進め方、テキストなどについての説明、発表担当日決め、自己紹介など。
2	Unit 1, Music and the Mind	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (adjective clauses)
3	Unit 2, Body Language across Cultures	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (the passive voice)
4	Unit 3, Turning Waste into Wealth	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (not only... but also)
5	Unit 4, The Search for Other Worlds	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (such as + gerund)
6	Unit 5, Crowdsourcing	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (present perfect tense)
7	Unit 5, Crowdsourcing	Speaking and listening activities. Talking about The Internet
8	Unit 6, Urban Landmarks	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (comparatives)
9	Unit 6, Urban Landmarks	Speaking and listening activities. Talking about Architecture and Identity
10	Unit 7, Food Safety	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (despite &in spite of)
11	Unit 7, Food Safety	Speaking and listening activities. Talking about Health
12	Unit 8, Spending a Fortune	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (subject-verb agreement &prepositional phrases)
13	Unit 8, Spending a Fortune	Speaking and listening activities. Talking about Entertainment
14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one　hour to understand　the course content.
Work required: class preparation, vocabulary review, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Andrew E. Bennett: Reading Fusion 1, second edition
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17972-6, 出版年月　2025 年 2 月, 定価 2,640円

【参考書】
Reading Fusion 1, second edition
Andrew E. Bennett

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class and homework assignments: 30%
In class contribution: 30%
Presentation: 40%.
Students are allowed a maximum of 3 absences. More than that will result in a fail grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The content of lessons and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class. Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
【Course outline】【Learning Objectives】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one　hour to understand　the course content.
Work required: class preparation, vocabulary review, homework, and presentation preparation.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class and homework assignments: 30%
In class contribution: 30%
Presentation: 40%.
Students are allowed a maximum of 3 absences. More than that will result in a fail grade.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ

サブタイトル：（６）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文読解力の習熟を目標に、語彙と文法を重視し、現代英語の幅広い素材のテキストにより、講読を中心とした授業をおこなう。本科目ではまた、テキスト精読に加えて、日本語の固有名詞や慣用表現など、非英語言語を英語ではどのように表すかというタスクを設定し、パラフレーズやリフレーズの訓練の機会とみなす。さらにプレゼンテーションも取り入れ、具体的かつ主体的に英語運用力を高めていく。

【到達目標】
(1)正確な読解をもとに語彙力の強化と文章構成の理解を深めて、自分の意見や主張を英語で表現できる。
(2)日本の歴史について英語で学び、英語によって説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半と後半に分け、前半を精読による内容理解を中心として行い、後半は内容に関連した練習問題（語彙・正誤判断・サマリー作成）を行う。各時代の概要については動画資料なども活用し、高校時代に日本史を選択しなかった学生や留学生においても理解しやすい導入を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(1) 授業に関する一般的な説明や自己紹介 (2) イントロダクション「日本の歴史を英語で表すことについて」
2	Chapter 1 "The Jomon Period"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 1 "The Jomon Period")
3	Chapter 1 "The Jomon Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 1 "The Jomon Period" (continued))
4	Chapter 2 "The Yayoi Period"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 2 "The Yayoi Period")
5	Chapter 2 "The Yayoi Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 2 "The Yayoi Period" (continued))
6	Chapter 3 "The Tumulus Period"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 3 "The Tumulus Period")
7	Chapter 3 "The Tumulus Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 3 "The Tumulus Period" (continued))
8	Presentation Day (1)	Group presentation: Review chapters 1-3
9	Chapter 4 "The Asuka Period Part 1"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 4 "The Asuka Period Part 1")
10	Chapter 5 "The Asuka Period Part 2" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 5 "The Asuka Period Part 2" (continued))
11	Chapter 6 "The Nara Period"	In-depth Reading and Exercises (A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 6 "The Nara Period")
12	Chapter 7 "The Heian Period"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 7 "The Heian Period")
13	Chapter 7 "The Heian Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 7 "The Heian Period" (continued))
14	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習ともそれぞれ2時間。理解のよすがとなるように、テレビなどの歴史番組やドキュメンタリー番組の視聴や、美術館や博物館の関連企画等の鑑賞など、学外での学習時間を積極的に増やすことが望ましい。その際、英文のキャプションやパンフレットにも目を配り、英語ではこのように表現するのか、という気づきにもつなげると良い。

【テキスト（教科書）】
五十嵐昭人 *The General History of Japan*『英語で学ぶ日本の歴史』南雲堂、2016、ISBN: 9784853178248
定価　2,200円

【参考書】
(1) 小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞24』研究社、2016年　＊学部資料室に在架
(2) 英和辞典（紙または電子版）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。授業ではスクリーンにオンライン学習辞典を投影の上適宜利用する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％: 積極的な取り組みや探求心を評価する。予習が認められない場合などは当然減点となるなど、ただ出席していることは評価につながらない。試験40%: 理解度の確認。20％: プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「(答えが) なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合がある。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This is a compulsory language course aimed at fostering practical English skills for effective intercultural communication. This course is basically designed to build reading strategies such as scanning and skimming for a variety of texts to improve reading comprehension skills. Students will expand their reading vocabulary to understand different types of materials in English and become familiar with text organization. Students will learn skills such as discerning the main idea and supporting ideas of reading selections to build accurate reading skills. Communication skills will be reinforced through classroom activities such as oral summaries and presentations.
Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]

40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Presentation.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（a）

ハリントン　クリストフ

サブタイトル：（7）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students to share
their preferences with classmates on fun topics such as hobbies, food, homes, jobs, people,
entertainment and life choices.
この授業では、刺激的な最新の教材とテクノロジーを活用して、実践的な英語コミュニケーション能力を向上させます。授業で学ぶ英会話スキルは、趣味、食べ物、住まい、仕事、人物、エンターテインメント、人生の選択といった楽しいトピックについて、クラスメートと自分の好みや考えを共有するのに役立ちます。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations,
such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to
expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving
advice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online
games, entertaining animations and real-world discussion practices. Each class focuses on
important interactional skills and preference-focused dialogues to learn more natural
English usage.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	Hobby preferences	Pages 15-19: Preference phrases, hobby preference activities, online language game and animated video listening activity
3	Hobby discussions	Pages 20-22: Real-world hobby discussion practices, online team language game and extended language activities for giving preference
4	Food preferences	Pages 23-27: Comparatives and superlatives, food preference activities, online language game and animated video listening activity
5	Food discussions	Pages 28-30: Real-world food discussion practices, online team language game and extended language activities for comparing
6	Home preferences	Pages 31-35: Choice phrases, home preference activities, online language game and animated video listening activity
7	Home discussions	Pages 36-38: Real-world home choice discussion practices, extended language activities for explaining choices
8	Review speech 1	Pages 39-42: Speeches in small groups about planning a party (using phrases from classes 2-7)
9	Job/people preferences	Pages 43-47: Asking questions, job/people preference activities, online language game and animated video listening activity
10	Job/people discussions	Pages 48-50: Real-world job discussion practices, online team language game and summary language activities for asking questions
11	Entertainment preferences	Pages 51-55: Possibility phrases, entertainment preference activities, online language game and animated video listening activity
12	Entertainment discussions	Pages 56-58: Real-world entertainment discussion practices, online team language game and summary language activities for discussing possible actions
13	Life choice preferences and discussions	Pages 59-66: Advice phrases, life-choice preference activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Speeches in small groups about planning a trip (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 1, SMART Class Series (3rd Edition)
出版社 ：SMART Class Series
ISBN ：978-4991190377

【参考書】
not required

【成績評価の方法と基準】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 9-13)

【学生の意見等からの気づき】
survey not given

【学生が準備すべき機器他】
Please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games). Alternative
exercises are available within the textbook for those without smart phones.

【Outline (in English)】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students to share
their preferences with classmates on fun topics such as hobbies, food, homes, jobs, people,
entertainment and life choices.
【授業の概要（Course outline）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students to share
their preferences with classmates on fun topics such as hobbies, food, homes, jobs, people,
entertainment and life choices.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations,

such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to
expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving
advice.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 9-13)

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

松下　晴彦

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Unit 13 Nihon Hidankyo Wins Nobel Peace	ノーベル平和賞受賞についての内容理解および問題演習
第3回	Unit 14 More countries grapple with aging populations	高齢化社会についての内容理解および問題演習
第4回	Unit 15 Vigilantes fight back	自警団についての内容理解および問題演習
第5回	Unit 16 Asking store employees to smile is harassment	カスタマー・ハラスメントについての内容理解および問題演習
第6回	Unit 17 Cook Islands	クック諸島についての内容理解および問題演習
第7回	Unit 18 Indonesia showcases returned artifacts	インドネシアの古代遺物についての内容理解および問題演習
第8回	Unit 19 Africa must act to stem youth brain drain	アフリカの若者についての内容理解および問題演習
第9回	Unit 20 Odor-Detecting Drone	匂い検知ドローンについての内容理解および問題演習
第10回	Unit 21 Japan: carbon problem	日本の二酸化炭素問題についての内容理解および問題演習
第11回	Unit 22 India: Hindu festival	インドの宗教行事についての内容理解および問題演習
第12回	Unit 23 'More Ethical' Version of French Delicacy	倫理的フランス料理についての内容理解および問題演習
第13回	Unit 24 "Shogun" wins record-breaking 14 Emmys	映画「将軍」についての内容理解および問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ニュースメディアの英語 ―演習と解説 2026年度版―』高橋優身（朝日出版:2026年）2,200円(本体2,000円+税)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30％
授業内小テスト： 30％
定期試験： 40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
様々な考え方が身についたという意見があった。学生がクリティカル・スィンキングが身につけられるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This coursedeals with newspaper English. Students are required to read lots of articles and think world issues critically.
Learning objectives: By the end of the course, students should be able to improve reading skills and acquire knowledge and awareness of current issues.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30% and FinalExamination 40%.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

山本　三穂

サブタイトル：（２）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマから社会問題、科学にわたる多様なテーマから書かれた英文を通して読解力を養成する。英語を自分の力で読みこなすために必要な力を様々な点から身に付けることを目的とする。

【到達目標】
英語を読むために必要な以下の内容を強化・習得することを目標とする。
1. 語彙
2. 文法事項・構文
3. 大意把握

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・パラグラフの構造や文全体の流れを捉えるためのポイントの確認を行い、英文の要点及び大意を把握する。
・語彙、文法、構文に注意しながら英文を丁寧に読む。
・課題については、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・進め方・評価等についての説明
第2回	to不定詞(1)、Unit 7 Hidden Wonders(1)	to不定詞解説、Generalizations and Examples、大意の把握
第3回	to不定詞(2)、Unit 7 Hidden Wonders(2)	to不定詞小テスト、精読、語彙構文演習
第4回	分詞(1)、Unit 8 An Introduction to Animal Classification(1)	分詞解説、Classifying、大意の把握
第5回	分詞(2)、Unit 8 An Introduction to Animal Classification(2)	分詞小テスト、精読、語彙構文演習
第6回	態(1)、Unit 9 Genetically Modified Foods(1)	態解説、Identifying Advantages and Disadvantages
第7回	態(2)、Unit 9 Genetically Modified Foods(2)	態小テスト、精読、語彙構文演習
第8回	仮定法(1)、Unit 10 Making the Most of Your Money(1)	仮定法解説、Graphic Form、大意の把握
第9回	仮定法(2)、Unit 10 Making the Most of Your Money(2)	仮定法小テスト、精読、語彙構文演習
第10回	同格(1)、Unit 11 Amir's Kitchen: Online Reviews(1)	同格解説、Critical Reading、大意の把握
第11回	同格(2)、Unit 11 Amir's Kitchen: Online Reviews(2)	同格小テスト、精読、語彙構文演習
第12回	倒置・強調(1)、Unit 12 In the News(1)	倒置・強調解説、News Heading、大意の把握
第13回	倒置・強調(2)、Unit 12 In the News(2)	倒置・強調小テスト、精読、語彙構文演習
第14回	試験とまとめ	到達度チェックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：　指定された箇所の英文を読み、問題を解いておく
復習：　学習した語彙、文法、構文を見直す。
時間：　一週間につき、予習復習１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書名：Active Reading Strategies Book 2
著者：角山照彦他
出版社：成美堂
出版年：　2025年
価格：　2,500円＋税
ISBN：　9784791973064

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
以下を基に総合的に評価する。
平常点　３０％　課題・小テスト　３０％　定期試験４０％
原則として授業回数の1/3を超えて欠席した場合は単位を認めない。また遅刻早退３回で欠席１回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト、辞書を持参すること。学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の進展状況によって内容や順序が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
・Course outline
The aim of this course is to improve students' English reading skills.
・Learning objectives
By the end of the course, you should be able to improve your vocabulary and knowledge of grammar and read English accurately.
・Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and have completed the required assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
・Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class Contribution: 30%, Assignments and Quizzes: 30%, Term-end Examination: 40%

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、オーセンティックな英語のニュース映像とそれに関連する文章を通じて、実用的な英語運用能力を段階的に習得することを目指す。単にニュースの概要を理解するだけでなく、詳細に至る情報を正確に理解し、分析し、自分の意見を発信することも重視する。学生主体の活動を中心に据え、4技能をバランスよく育成するとともに、世界の出来事に関心を持ち、批判的思考力も養う。

【到達目標】
1. オーセンティックな英語ニュースと関連する英文を細部まで理解できるようになる。
2. ニュース映像やリーディング素材文にある単語や表現を理解し、使えるようになる。
3. ニュース映像やリーディング素材文の話題について、自分の考えを表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
○ひとつのUnitを3週間かけて学習する。1回目はListeningを、2回目はReadingを、3回目はアウトプットを、それぞれ主軸とし、各回で様々なアクティビティを取り入れる。
○毎週指示する予習課題に取り組んでくること。
○ペアワーク、グループワークを積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 01	Introduction	Orientation
Week 02	Unit 2　Viewing & Listening	Urban Beautification
Week 03	Unit 2　Listening & Reading	The Problem of Waste Management
Week 04	Unit 2　Writing & Speaking	Raising Awareness for Litter Picking
Week 05	Unit 8　Viewing & Listening	AI Medical Diagnosis
Week 06	Unit 8　Listening & Reading	AI and Healthcare
Week 07	Unit 8　Writing & Speaking	AI and Facial Recognition
Week 08	Unit 13　Viewing & Listening	Ways to Utilize Food Waste
Week 09	Unit 13　Listening & Reading	Waste Collection Initiatives by an American Company
Week 10	Unit 13　Writing & Speaking	The Spread of Clean Energy
Week 11	Unit 14　Viewing & Listening	Wildlife Protection
Week 12	Unit 14　Listening & Reading	Wildlife Trafficking
Week 13	Unit 14　Writing & Speaking	Stopping Wildlife Trafficking
Week 14	Review	Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業における予習・復習の時間は各1時間以上を標準とする。週に一回100分の授業のみで、到達目標を高いレベルで達成することは極めて難しい。履修者諸君の授業時間外の努力も必要である。
予習
《1回目》Step 2, Vocabulary Previewの10個の語彙の意味を選択肢から選ぶ
《2回目》Step 7, Vocabulary Viewの10個の語彙の意味を定義から選ぶ
《3回目》Step 10, Free Writing &InterviewingのA, Bの質問に簡潔に日本語で答える
復習
○語彙と文法の再確認をしておくこと。
○リンガポルタの指定箇所に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
書名：Reuters Global News Feed
著者：小林敏彦、Bill Benfield
出版社：成美堂
価格：2,860円（本体2,600円+税）
ISBN：9784791973118

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題：上述の予習課題と、復習課題《30%》
授業内活動：発表、提出物など《30%》
期末試験：授業内容を総括する試験《40%》
以上の成績を総合する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は改善点を多く指摘してもらった。具体的には、英文の難易度、学生との接し方、アクティブラーニングの手法などである。もちろん、私としてはそれぞれに対して自分の考えを元にして実行しているのだが、それが伝えきれなかったということであろう。少しでも多くの学生にとって学びの多い授業を提供することに努める。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞典（中級以上のもの、紙・電子は問わない）とパソコン、あるいはタブレット。

【その他の重要事項】
【学習姿勢】教員が伝えた情報を鵜呑みにせず、自分で考え、時には質問したり、自分で文献を調べたりする。自分の意見を他人と交わし、最終的に、結論を他人に伝える方法を常に自分で追求して欲しい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop practical English proficiency through authentic news videos and related reading materials. Students will not only comprehend the main points of news stories but also accurately listen to, understand, and analyze information from video and audio sources, and express their own opinions. The course emphasizes student-centered activities to develop all four language skills in a balanced manner, foster interest in global issues, and cultivate critical thinking skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
1. Comprehend authentic English news videos and related reading materials in detail.
2. Understand and use the vocabulary and expressions found in the materials.
3. Express their own ideas in English about the topics covered in the materials.
【Learning activities outside of classroom】
First class (Listening focus):
Choose the appropriate Japanese meaning for each of the 10 vocabulary items in Step 2 (Vocabulary Preview).
Second class (Reading focus):
Choose the appropriate English definition for each of the 10 vocabulary items in Step 7 (Vocabulary View).
Third class (Output focus):
Write brief answers in Japanese to questions A and B in Step 10 (Free Writing &Interviewing).
Review the content covered in each class and continue developing the four skills in preparation for the final examination.
【Grading Criteria】
In-class contribution《30%》
Assignments《30%》
Final Examination《40%》

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

衣川　清子

サブタイトル：（4）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康と生活の質をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事（今年度は動画教材も用いる）を多読することで読解力を強化する。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主としてVOA News, Japan News, Breaking News English等）をプリント教材として配布する（今年度は動画教材も用いる）。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	仮定法	記事①水泳（仮） （以下、記事は原則として直近のもので、内容・難易度ともに適切と思われるもの）
3	分詞構文	記事②ウォーキング（仮）
4	関係代名詞	記事③登山（仮）
5	不定詞	記事④休息（仮）
6	前半のまとめ	記事①～④のまとめ・復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
7	中間テスト	中間テストと付随する活動
8	中間テスト返却、講評 itの構文	記事⑤eスポーツ（仮）
9	能動態と受動態	記事⑥ストレッチ（仮）
10	修飾語句	記事⑦球技（仮）
11	間接話法と直接話法	記事⑧トレーナーの仕事（仮）
12	間違いやすい文法事項	記事⑨冬のスポーツ（仮）
13	後半のまとめ・復習	記事⑤～⑨のまとめ・復習（理解と定着のための練習問題・応用問題）
14	期末テスト	期末テストと付随する活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　インターネット上のスポーツや健康に関する記事や動画をふだんから読んだり観たりする習慣をつけ、徐々に読んだり観たりする対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
　授業にとどまらず、興味のわいた記事を英辞郎やオンライン英英辞典などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。
準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
できるだけ新しい教材を使うため、教員が用意するプリントを使用する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト35％＋期末テスト35％＋平常点30％

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち運び可能なPC、タブレット、電子辞書等。

【その他の重要事項】
連絡や資料提示等はHoppiiで行う。
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles/videos in English (more advanced level than English III (a)) as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target.
Learning Objectives
1. Students will understand relatively easy sports/health articles using dictionaries.
2. Students will get accustomed to English expressions and rules used in sports/health news articles.
Learning Activities Outside of Classroom
Students are recommended to read English and Japanese sports/health news regularly. They are recommended to read more outside classrooms, making use of online dictionaries. Preparations and reviews of each class might take about an hour.
Grading Criteria / Policy
Grades will be based on mid-term exams(35%), end-term exams(35%), and other assignments(30%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（５）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to help students deepen their basic knowledge of English and to work on the skill of openly exchanging ideas and opinions in a variety of authentic contexts.
本授業では、英語の基礎を深めるとともに、実生活に即した多様な状況下で、自らの考えや意見を自由に交換できる能力を養うことを目指します。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Develop fundamental skills and precision in expressing ideas in English and in delivering presentations
-Understand various topics in a variety of written English texts
-Develop communicative skills for listening and for having discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Since many presentations will be used, students should not be passive during lectures and exercises but should be proactive and do their best without fear of making mistakes. Besides, emphasis will be placed on checking English vocabulary and grammar while reading English sentences, as well as on understanding English expressions and structures. In the writing exercises, students should write English sentences by referring to the samples and paying attention to the structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation（ガイダンス）	授業の進め方、テキストなどについての説明、発表担当日決め、自己紹介など。
2	Unit 9, Wonders of the Deep	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (parallel structure)
3	Unit 10, Product Placement	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (present and future conditional tenses)
4	Unit 11, White-Collar Crime	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (past perfect tense)
5	Unit 11, White-Collar Crime	Speaking and listening activities. Talking about Law and Crime
6	Unit 12, Working Disabled	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (reduced adjectives clauses)
7	Unit 12, Working Disabled	Speaking and listening activities. Talking about Social Issues
8	Unit 13, Pet Therapy	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (so... that)
9	Unit 13, Pet Therapy	Speaking and listening activities. Talking about Healing
10	Unit 14, Quantum Computers	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (noun clauses)
11	Unit 14, Quantum Computers	Speaking and listening activities. Talking about Science and Technology
12	Unit 15, Breaking the Poverty Cycle	Reading and writing activities, getting new vocabulary and improving communicative grammar skills (along with, besides, &in addition to)
13	Unit 15, Breaking the Poverty Cycle	Speaking and listening activities. Talking about Globalization
14	Review	学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one　hour to understand　the course content.
Work required: class preparation, vocabulary review, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Andrew E. Bennett: Reading Fusion 1, second edition
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17972-6, 出版年月　2025 年 2 月, 定価 2,640円

【参考書】
Reading Fusion 1, second edition
Andrew E. Bennett

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class and homework assignments: 30%
In class contribution: 30%
Presentation: 40%.
Students are allowed a maximum of 3 absences. More than that will result in a fail grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The content of lessons and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class. Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
【Course outline】【Learning Objectives】
The goal is to acquire the comprehensive English skills necessary for university education.
Students will not only work on improving the reception of English, but also on improving the transmission of English.
They will read and comprehend English texts logically, sometimes taking into account cultural circumstances.
They will develop the ability to use English on their own by using the information and knowledge gained from reading to communicate through presentations and conversations.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one　hour to understand　the course content.
Work required: class preparation, vocabulary review, homework, and presentation preparation.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class and homework assignments: 30%
In class contribution: 30%
Presentation: 40%.
Students are allowed a maximum of 3 absences. More than that will result in a fail grade.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

ＢＡＮＮＥＲＭＡＮ　ＥＲＮＥＳＴ

サブタイトル：（６）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、英文読解力の習熟を目標に、語彙と文法を重視し、現代英語の幅広い素材のテキストにより、講読を中心とした授業をおこなう。本科目ではまた、テキスト精読に加えて、日本語の固有名詞や慣用表現など、非英語言語を英語ではどのように表すかというタスクを設定し、パラフレーズやリフレーズの訓練の機会とみなす。さらにプレゼンテーションも取り入れ、具体的かつ主体的に英語運用力を高めていく。

【到達目標】
(1)正確な読解をもとに語彙力の強化と文章構成の理解を深めて、自分の意見や主張を英語で表現できる。
(2)日本の歴史について英語で学び、英語によって説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半と後半に分け、前半を精読による内容理解を中心として行い、後半は内容に関連した練習問題（語彙・正誤判断・サマリー作成）を行う。なお、各時代の概要については動画資料なども活用し、高校時代に日本史を選択しなかった学生や留学生においても理解しやすい導入を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(1) 授業に関する一般的な説明や自己紹介 (2) イントロダクション「日本の歴史を英語で表すことについて」
2	Chapter 9 "The Kamakura Period: Part 1"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 9 "The Kamakura Period: Part 1")
3	Chapter 9 The Kamakura Period: Part 1" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 9 The Kamakura Period: Part 1" (continued))
4	Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2")
5	Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2"(continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2"(continued))
6	Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1")
7	Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1" (continued))
8	Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2"	In-depth Reading: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details. (Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2")
9	Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2" (continued))
10	Presentation Day (1)	Group presentation: Review chapters 9-12
11	Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1"	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1")
12	Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1 (continued）"	In-depth Reading and Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1 (continued）")
13	Chapter 14 "The Azuchi-Momoyama Period : Part 2"	In-depth Reading and Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition (Chapter 14 "The Azuchi-Momoyama Period : Part 2")
14	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習ともそれぞれ2時間。理解のよすがとなるように、テレビなどの歴史番組やドキュメンタリー番組の視聴や、美術館や博物館の関連企画等の鑑賞など、学外での学習時間を積極的に増やすことが望ましい。その際、英文のキャプションやパンフレットにも目を配り、英語ではこのように表現するのか、という気づきにもつなげると良い。

【テキスト（教科書）】
五十嵐昭人 *The General History of Japan*『英語で学ぶ日本の歴史』南雲堂、2016、ISBN: 9784853178248
定価：2,200円

【参考書】
(1) 小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞24』研究社、2016年　＊学部資料室に在架
(2) 英和辞典（紙または電子版）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。授業ではスクリーンにオンライン学習辞典を投影の上適宜利用する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％: 積極的な取り組みや探求心を評価する。予習が認められない場合などは当然減点となるなど、ただ出席していることは評価につながらない。試験40%: 理解度の確認。20％: プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「(答えが）なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合がある。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This is a compulsory language course aimed at fostering practical English skills for effective intercultural communication. This course is basically designed to build reading strategies such as scanning and skimming for a variety of texts to improve reading comprehension skills. Students will expand their reading vocabulary to understand different types of materials in English and become familiar with text organization. Students will learn skills such as discerning the main idea and supporting ideas of reading selections to build accurate reading skills. Communication skills will be reinforced through classroom activities such as oral summaries and presentations.
Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:

— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Presentation.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語III（b）

ハリントン　クリストフ

サブタイトル：（7）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：（ ）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
この授業では、刺激的な最新の教材とテクノロジーを活用し、実践的な英語コミュニケーション能力を向上させます。授業で学ぶ英会話スキルは、自分の意見を述べたり、過去・現在・未来に関する楽しいトピックについて英語で対話したりする際に役立ちます。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for
many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively
for explaining experiences and memories, current habits/routines and future
hopes/dreams.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online
games, entertaining animations and real-world discussion practices. Each class focuses on
important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural
English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	City life opinions	Pages 15-19: Opinion phrases, city life opinion activities, online language game and animated video listening activity
3	City life discussions	Pages 20-22: Real-world city life discussion practices, online team language game and extended language activities for giving opinions
4	Study opinions	Pages 23-27: Support phrases, study opinion activities, online language game and animated video listening activity
5	Study discussions	Pages 28-30: Real-world study discussion practices, online team language game and extended language activities for supporting opinion
6	Fashion opinions	Pages 31-35: Persuasion phrases, fashion opinion activities, online language game and animated video listening activity
7	Fashion discussions	Pages 36-38: Real-world fashion discussion practices, extended language activities for persuading others
8	Review speech 1	Pages 39-42: Opinion speeches in small groups about junk food (using phrases from classes 2-7)
9	Technology opinions	Pages 43-47: Checking opinions, technology opinion activities, online language game and animated video listening activity
10	Technology discussions	Pages 48-50: Real-world technology discussion practices, online team language game and summary language activities for checking opinions
11	Travel opinions	Pages 51-55: Reaction phrases, travel opinion activities, online language game and animated video listening activity
12	Travel discussions	Pages 56-58: Real-world travel discussion practices, online team language game and summary language activities for reacting to opinions
13	Fame and fortune opinions and discussions	Pages 59-66: Opinion challenge phrases, fame and fortune opinion activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Opinion speeches in small groups about part-time jobs (using phrases from classes 7 13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 2, SMART Class Series (3rd Edition)
出版社 ：SMART Class Series
ISBN ：978-4991190384

【参考書】
not required

【成績評価の方法と基準】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

【学生の意見等からの気づき】
survey not given

【学生が準備すべき機器他】
Please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games). Alternative
exercises are available within the textbook for those without smart phones.

【Outline (in English)】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
【授業の概要（Course outline）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new
materials and technology. The English conversation skills taught will help students give
their opinions and have English conversations about fun topics related to their past,
present and future lives.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for
many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively
for explaining experiences and memories, current habits/routines and future
hopes/dreams.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.
Each class requires one hour of preparatory study and one hour of review outside of scheduled class hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
25%: Class participation
25%: Textbook homework
25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7)
25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ①〜②, Your Song , Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③〜④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤〜⑥
9	Power Exercises ＋α , レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥〜⑦
11	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧〜⑨
13	Power Exercises ＋α , まとめ	Power Exercises, Film ⑨〜⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％），レポート（10％），平常点（20％），プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance &active participation （20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の3点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を復習する。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。その上でパラグラフ・ライティングに挑戦する。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後リスニングやアクティビティ、テーマに沿ったライティングをおこなう。課題等の提出・フィードバックは主に授業内でおこなうが、「学習支援システム」を活用することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Self-introduction	英語のエッセイの書き方
3	Self-introduction	自己紹介の表現方法と文法（語順）
4	Unit 1: Tiny Houses	長文読解
5	Unit 1: Activities	トピックの把握とアクティビティ
6	Unit 2: Faberge Eggs	長文読解
7	Unit 2: Grammar	品詞（名詞、形容詞、副詞など）
8	Unit 2: Activities	説明文
9	Unit 3: Dog Walkers	長文読解
10	Unit 3: Grammar	5文型
11	Unit 3: Activities	英字新聞の特徴
12	TOEIC読解	メールの書き方
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べて全文和訳してからから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
北野マグダ 編著、『リーディングから発信へ―パラグラフライティングへの第一歩 (Idea Garden -First Steps in Paragraph Writing)』、朝日出版、2023年、1,980円(本体1,800円+税)。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：40％、課題：20％、期末試験：40％、合計100％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of the course is to learn how to write essays, and how to express opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills.
[Learning Objectives] The goal of this course is to understand the paragraph writing.
[Learning activities outside of classroom] Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
[Grading Criteria] Grading will be decided based on in-class contribution (40%), essay (20%), and Term-end examination (40%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

石井　創

サブタイトル：（３）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語のライティングのルールに則り、短めかつ論理的なパッセージを複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれたパッセージの読解練習やそのルールに基づくライティングの演習問題・課題を通じて、英語でパッセージを書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法をきちんと定着させ、それを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージなどに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．パラグラフ・ライティングなどの文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプのパッセージをそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１．形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合がありえます。
２．進め方
授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別の教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading のパッセージを読解しながら、そのパッセージ内でポイントとなる文法やパラグラフの構成についての解説を行い、その後に演習問題を解いてそれら学んだ知識の定着を図ります。
２回目の授業では、１回目で取り上げたパラグラフの構成やライティングのルールをさらに詳しく解説していきます。その後、それらの内容をきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
教科書のパッセージ読解や演習問題は、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。また、教科書の各 Unit が終わるごとに、学習内容のまとめとなるライティング課題を課していきます。ライティング課題は基本的には授業外で（一部、授業内でも）取り組み、期限までに提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価などの説明
第2回	Unit 1 Things Happen for a Reason	Reading: The Effects of Smartphone Use on University Students, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第3回	Unit 1 Things Happen for a Reason	Writing Strategy: 原因・理由と結果を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第4回	Unit 2 Same or Different?	Reading: Chicken or Fish?, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第5回	Unit 2 Same or Different?	Writing Strategy: 比較を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第6回	Unit 3 Here's What I Think	Reading: What's Your Travel Preference?, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第7回	Unit 3 Here's What I Think	Writing Strategy: to 不定詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第8回	Unit 4 Sorting Things Out	Reading: Great Movies Need Great Endings, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第9回	Unit 4 Sorting Things Out	Writing Strategy: 受動態, Sentence Writing, Paragraph Writing
第10回	Unit 5 Step by Step	Reading: How Anime Is Made, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第11回	Unit 5 Step by Step	Writing Strategy: 時を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第12回	Unit 6 Feeling Through Your Senses	Reading: The Mona Lisa Continues to Fascinate People, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第13回	Unit 6 Feeling Through Your Senses	Writing Strategy: 形容詞と副詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第14回	学期末まとめ	学習した文法やライティングのルールの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading のパッセージを読んで内容を把握してくる、文法やライティングルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
教科書のパッセージにおける複雑な構造の文の意味解釈や文法、ライティングのルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理してください。また、教科書の各 Unit の学習が終わった時点で、その Unit のまとめとなるライティング課題を毎回課しますので、授業外で作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純．(2020).『Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 70%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）30%
２．欠席が５回に達すると自動的に単位取得不可
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウント（30 分以上の遅刻は欠席とみなされる）
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、欠席とみなされる

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度は、内容について「スライドが工夫されており、難しい構文や文法などの細かいところまで学べた」という肯定的な感想と「細かい部分まで解説をしすぎていて進度が遅かったので、もう少し説明を要約してほしい」という批判的な感想の両方をいただいた。そのため、今年度は解説する内容をクラスのレベルに照らしてより吟味し、適切に取捨選択していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。授業中にライティングの演習問題・課題が追加で出る場合があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】
１．学習支援システムからの授業や提出課題に関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。
２．大学が指定する感染症に罹患して授業への出席停止措置を受けた学生は、大学発行の欠席配慮願を教員に提出してください。また、大学体育会の活動参加や忌引等による欠席の場合も、同様にそれを証明する書類を提出してください。これらの配慮願や証明書が提出された授業回に関しては出席扱いにいたします。

【Outline (in English)】
In this course, students are expected to achieve the following:
(a) Absorbing grammatical knowledge studied in previous years and being able to write clear sentences using this knowledge;
(b) Acquiring vocabulary in various fields included in the textbook.
(c) Understanding the basic rules of essay writing (e.g., paragraph writing) and being able to compose a variety of passages based on these rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the 'Reading' passages in each unit of the textbook, looking up unfamiliar words and idioms in the dictionary, and figure out the content of the passages. They also need to solve the practice problems in the textbook, reading through the grammar and writing explanations included in each unit.
(b) Review and submitting writing assignments
Students are required to review the day's class content, for example, comprehending the meaning of structurally complicated sentences, grammar, and writing rules. Furthermore, students will be given an assignment to write a passage in each unit, which they must complete and submit.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 70%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes and other homework): 30%

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

蒔田　裕美

サブタイトル：（４）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとれるように英語の総合的なフォー・スキルズ（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を向上させることである。学生は効果的なプレゼンテーションの手法やエッセイの作成を通して、英語で自分の意見を発信することを目指す。

【到達目標】
１　学生が様々な場面で役立つ英語表現を学び、実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。
２　学生はアカデミック・ライティングで用いられるパラグラフの概念を学び、パラグラフの集合体であるエッセイを書くことができる。
３　学生が効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最初に発音記号、英語特有の音声変化、リズムを指導するので、積極的に発声練習を行うこと。ペアワークを通して、様々な場面で役立つ英語表現をアウトプットしながら実践的なコミュニケーション能力を培っていく。クラスメート全員の前で実施するプレゼンテーションと期末課題のエッセイについては、グーグルクラスルームを通して全員にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Self-Introduction in English	Confirm the teaching approach and how to prepare for lessons. Students introduce themselves in English.
2	Contrast General and Current Actions	Grammar: Verb Tense Review, Vocabulary: Healthy Diets and Types of Food
3	Describe Regional Foods	General and Focused Listening: An Interview Comparing Diets, Discussing Types of Food, Linking Words Together
4	Describe Favorite Dishes	Reading: The Paleo Diet: Natural and Healthy? Writing: Main Ideas and Supporting Details
5	Discuss Diet Trends	Video Journal: Wide Awake Bakery
6	Talk about Yourself	Grammar: The Present Perfect vs. The Simple Past, Vocabulary: Culture and Communication, Starting a Conversation
7	Make Small Talk with New People	General and Focused Listening: Conversations: Small Talk, Have or Has vs. Contractions
8	Discuss Endangered Languages	Reading: Endangered Languages, Writing: Giving Examples
9	Start a Conversation	Video Journal: Marie's Dictionary
10	Make Predictions about Your City or Town	Grammar: Future with Will, Vocabulary: Changing Cities, City Life
11	Explain What Makes a Good Neighborhood	General and Focused Listening: A Radio Interview: Jardin Nomade in Paris, Discussing the Future of Your City
12	Discuss the Pros and Cons of City Life	Reading: Streets for People, Writing: A Paragraph with a Good Topic Sentence
13	Presentation and Self-evaluation	Make a 4 minute presentation and conduct a self-evaluation
14	Final Assignment	Learn how to write Academic Writing. Submit a essay and check the feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組んでおくこと。
授業後は、授業で学んだ発音や表現を実際に声に出して繰り返し練習し、プレゼン準備やエッセイの作成に備えること。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Kristin L. Johannsen 他『World English Level 2: Combo Split 2A』National Geographic Learning、2022年 (ISBN: 9798214085418)¥ 3070

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Presentation ５０%、Final Assignment ５０%

【学生の意見等からの気づき】
学生が質問しやすい環境を整え、学習者の理解度に合わせた授業展開を心がけたい。また、ペアワークやディスカッションを通して、学生が主体的に取り組めるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームを通して資料配布、課題作成、質問の受付やコメントのやりとりを行う。
プレゼンやエッセイの作成時期には、授業時にもノートPCがあると課題に取り組みやすい。

【Outline (in English)】
This course deals with four basic English skills. In order to improve these skills, we will mainly do the following tasks; (1)learn the pronunciation of English to enhance listening and speaking skills (2) learn the basic skills of paragraph writing, and (3) write essays and make presentations based on the knowledge acquired.
The goals of this class are to (1) learn useful English expressions used in different contexts (2) learn how to write essays effectively, and (3) feel confident in giving presentations in English.
Students must undertake assigned homework activities and prepare for upcoming discussions, presentations and writing. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading will be decided based on the final presentation (50%) and the essay (50%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

川田　アマンディーン

サブタイトル：（5）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースの目的は、学生が英語の基礎力を高め、さまざまな実際の場面で自分の考えや意見を自由に交換できるようになることを支援することです。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to:
- Develop fundamental skills and accuracy in expressing ideas in English and
delivering presentations.
- Understand a range of topics presented in various written English texts and
write about them effectively.
- Strengthen their communicative abilities in listening and participating in
discussions in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Because many presentations will be incorporated, students are expected to participate actively during lectures and exercises rather than remain passive. They are encouraged to be proactive and to do their best without fear of making mistakes. In addition, emphasis will be placed on checking vocabulary and grammar while reading English texts, as well as on understanding key expressions and structures. In the writing exercises, students will be asked to produce sentences or short paragraphs by referring to model examples and paying close attention to organization and structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Teacher and students introductions, textbook guidance, grading system explanation, scheduling of presentation dates
2	Unit 1, The Last Chance for a First Impression	We examine the significance of first impressions through class discussions, reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises, and a writing activity describing personal first impressions.
3	Unit 2, Why Learn English?	We explore motivations for learning English through discussions, reading comprehension on its global use, vocabulary exercises related to language and communication, and a writing activity explaining personal reasons for learning English.
4	Unit 3, Focus on Photography	We explore photography through class discussions about personal experiences, vocabulary exercises on photography and visual communication, and a writing activity describing a photograph and its meaning.
5	Unit 4, Gender Inequality in Japan	We examine gender roles and social issues in Japan through class discussions, reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on gender and equality, and a writing activity expressing opinions on gender equality.
6	Unit 5, Social Media &The Internet	We explore the role and impact of social media through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on digital communication, and a writing activity analyzing its advantages and disadvantages.
7	Unit 5, Social Media &The Internet (continued)	We explore social media and internet use through class discussions on personal experiences, listening comprehension activities on daily online habits, speaking practice on advantages and disadvantages, and interactive tasks sharing opinions on responsible internet use.
8	Unit 6, Indigenous Peoples of the World	We explore indigenous cultures through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on culture and traditions, and a writing activity on the importance of protecting indigenous communities.
9	Unit 6, Indigenous Peoples of the World (continued)	We explore indigenous cultures through class discussions, listening comprehension activities on indigenous communities, speaking practice on cultural diversity and traditions, and interactive listening and speaking tasks expressing opinions about indigenous issues.
10	Unit 7, Great People in History	We explore influential historical figures through reading comprehension to identify main ideas, vocabulary exercises on history and leadership, and a writing activity describing a historical figure and their impact.
11	Unit 7, Great People in History (continued)	We explore influential historical figures through class discussions, listening comprehension on their lives and achievements, speaking practice comparing historical figures, and presentations sharing opinions about a favorite historical figure.
12	Unit 8, The Road Less (or More) Traveled	We explore the purposes and impacts of travel through reading comprehension activities on historical and personal motivations for travel, and writing exercises about how travel can help people learn about the world and different cultures.
13	Unit 8, The Road Less (or More) Traveled (continued)	We explore reasons for travel through listening activities and speaking discussions about travel experiences and cultural understanding.
14	End- of- semester review	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Jono David: What's That You Say?
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17944-3, 2023 年, 2640 円

【参考書】
What's That You Say?
Jono David

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class participation: 30%
- Written work (assignments, homework, tests): 40%

- Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The lesson content and schedule may be adjusted according to the needs and language level of the students in this class. Communication is the key. Please feel free to speak up. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
The goal of this course is to build the English skills needed for university study.
Students will work on understanding English and expressing themselves in English, both orally and in writing.
They will read and understand texts logically, sometimes considering cultural context.
They will learn to use English independently by using what they read to communicate in presentations, conversations, and written work.
(Learning activities outside of classroom)
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following (11.03.)
-Class participation: 30%
-Written work (assignments, homework, tests): 40%
-Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

式町　眞紀子

サブタイトル：（6）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文読解力の習熟を目標に、語彙と文法を重視し、現代英語の幅広い素材のテキストにより、講読を中心とした授業をおこなう。本科目ではまた、テキスト精読に加えて、日本語の固有名詞や慣用表現など、非英語言語を英語ではどのように表すかというタスクを設定し、パラフレーズやリフレーズの訓練の機会とみなす。さらにプレゼンテーションも取り入れ、具体的かつ主体的に英語運用力を高めていく。

【到達目標】
(1)正確な読解をもとに語彙力の強化と文章構成の理解を深めて、自分の意見や主張を英語で表現できる。
(2)日本の歴史について英語で学び、英語によって説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前半と後半に分け、前半を精読による内容理解を中心として行い、後半は内容に関連した練習問題（語彙・正誤判断・サマリー作成）を行う。各時代の概要については動画資料なども活用し、高校時代に日本史を選択しなかった学生や留学生においても理解しやすい導入を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(1) 授業に関する一般的な説明や自己紹介 (2) イントロダクション「日本の歴史を英語で表すことについて」
2	Chapter 1 "The Jomon Period"	In-depth Reading for Chapter1: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
3	Chapter 1 "The Jomon Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter1
4	Chapter 2 "The Yayoi Period"	In-depth Reading for Chapter2: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
5	Chapter 2 "The Yayoi Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition
6	Chapter 3 "The Tumulus Period"	In-depth Reading for Chapter3: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
7	Chapter 3 "The Tumulus Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition
8	Presentation Day (1)	Group presentation: Review chapters 1-3
9	Chapter 4 "The Asuka Period Part 1"	In-depth Reading for Chapter4: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
10	Chapter 5 "The Asuka Period Part 2" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition
11	Chapter 6 "The Nara Period"	In-depth Reading and Exercises for Chapter6: (A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback should be reviewed by WebClass.
12	Chapter 7 "The Heian Period"	In-depth Reading for Chapter7: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
13	Chapter 7 "The Heian Period" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 7
14	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習ともそれぞれ2時間。理解のよすがとなるように、テレビなどの歴史番組やドキュメンタリー番組の視聴や、美術館や博物館の関連企画等の鑑賞など、学外での学習時間を積極的に増やすことが望ましい。その際、英文のキャプションやパンフレットにも目を配り、英語ではこのように表現するのか、という気づきにもつなげると良い。

【テキスト（教科書）】
五十嵐昭人 *The General History of Japan*『英語で学ぶ日本の歴史』南雲堂、2024、ISBN: 9784853178248　2,000円＋税

【参考書】
(1) 小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞24』研究社、2016年　＊学部資料室に在架
(2) 英和辞典（紙または電子版）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。授業ではスクリーンにオンライン学習辞典を投影の上適宜利用する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％: 積極的な取り組みや探求心を評価する。予習が認められない場合などは当然減点となるなど、ただ出席していることは評価につながらない。試験40%: 理解度の確認。20％: プレゼンテーション。なお、プレゼンテーションについては単独評価ではなく、毎回の授業での発表や理解度と関連させる。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「(答えが) なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合がある。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This is a compulsory language course aimed at fostering practical English skills for effective intercultural communication. This course is basically designed to build reading strategies such as scanning and skimming for a variety of texts to improve reading comprehension skills. Students will expand their reading vocabulary to understand different types of materials in English and become familiar with text organization. Students will learn skills such as discerning the main idea and supporting ideas of reading selections to build accurate reading skills. Communication skills will be reinforced through classroom activities such as oral summaries and presentations.
Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Presentation.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（a）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（７）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology.　The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present and future lives.
最新の魅力的な教材やテクノロジーを活用し、実社会で役立つ英語コミュニケーション能力を向上させます。授業で学ぶ英会話スキルを通じて、自身の過去・現在・未来にまつわる楽しいトピックについて、自分の意見を伝えたり、英語で語り合ったりできるようになることを目指します。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations, such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving advice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online games, entertaining animations and real-world discussion practices.　Each class focuses on important interactional skills and preference-focused dialogues to learn more natural English usage.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	Hobby preferences	Pages 15-19: Preference phrases, hobby preference activities, online language game and animated video listening activity
3	Hobby discussions	Pages 20-22: Real-world hobby discussion practices, online team language game and extended language activities for giving preferences
4	Food preferences	Pages 23-27: Comparatives and superlatives, food preference activities, online language game and animated video listening activity
5	Food discussions	Pages 28-30: Real-world food discussion practices, online team language game and extended language activities for comparing
6	Home preferences	Pages 31-35: Choice phrases, home preference activities, online language game and animated video listening activity
7	Home discussions	Pages 36-38: Real-world home choice discussion practices, extended language activities for explaining choices
8	Review speech 1	Pages 39-42: Speeches in small groups about planning a party (using phrases from classes 2-7)
9	Job/people preferences	Pages 43-47: Asking questions, job/people preference activities, online language game and animated video listening activity
10	Job/people discussions	Pages 48-50: Real-world job discussion practices, online team language game and summary language activities for asking questions
11	Entertainment preferences	Pages 51-55: Possibility phrases, entertainment preference activities, online language game and animated video listening activity
12	Entertainment discussions	Pages 56-58: Real-world entertainment discussion practices, online team language game and summary language activities for discussing possible actions
13	Life choice preferences and discussions	Pages 59-66: Advice phrases, life-choice preference activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Speeches in small groups about planning a trip (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Language practice activities, Sentence Builder and Vocabulary Builder, Written speech with all phrases from classes.　Approximately 2 hours per week.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 1, SMART Class Series (3rd Edition) Order a copy HERE (red book)
Publisher ：SMART Class Series
Publication date ：October 16, 2023
ISBN ：978-4991190377

【参考書】
Not required.

【成績評価の方法と基準】
25%: Class attendance and participation 25%: Textbook homework 25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7) 25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

【学生の意見等からの気づき】
Based on teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games). Alternative exercises are available within the textbook for those without smart phones.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations, such as meeting people, travelling and work. They will learn English skills related to expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions and giving advice.
(Learning activities outside of classroom)
Language practice activities, Sentence Builder and Vocabulary Builder, Written speech with all phrases from classes.　Approximately 2 hours per week.
(Grading Criteria /Policy)
25%: Class attendance and participation 25%: Textbook homework 25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7) 25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語Ⅳ（b）

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
3	Power Exercises ＋α	Exercise 10, Coin changer, Film ①
4	Human Creativity	Lesson 8, The Diplomacy, Film ①〜②
5	Power Exercises ＋α, プレゼンテイションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテイションについて指示、説明
6	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
7	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ②〜③
8	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
9	Power Exercises ＋α	Power Exercises, Film ③〜④
10	プレゼンテイション準備	Exercise まとめ,力だめし
11	思いを表現する　プレゼン　第1グループ	プレゼンテイション 発表者の思いを聞く
12	思いを表現する　プレゼン　第2グループ	プレゼンテイション 要点を意識してリスニングする
13	思いを表現する　プレゼン　第3グループ	プレゼンテイション 自分の意見を言葉に変える
14	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％），レポート（10％），平常点（20％），プレゼンテイション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance &active participation （20%）, examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文を参考にしつつ、自分の考えや身近な話題を英語で表現するための力を身に付ける。そのために授業では次の3点に重点をおく。単語や慣用表現、文法などの基礎的知識を復習する。リスニングやアクティビティを通して総合力の向上を目指す。その上でパラグラフ・ライティングに挑戦する。

【到達目標】
メールやエッセイなどテーマごとの表現方法や構成を理解する。これまで学習してきた英単語や文法を使って、自分の意見や身近な話題を分かりやすく英語で伝えることができる。また、論点の明確なパラグラフ・ライティングができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容を確認しつつ、特に重要な表現や文法の解説をおこなう。その後リスニングやアクティビティ、テーマに沿ったライティングをおこなう。課題等の提出・フィードバックは主に授業内でおこなうが、「学習支援システム」を活用することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Unit 4: The Navaho Indians	長文読解
3	Unit 4: Grammar	文法（春学期の復習）
4	Unit 4: Activities	トピック・センテンス
5	Unit 5: Hans, the Talking Horse	長文読解
6	Unit 5: Grammar	文法（動名詞、分詞）
7	Unit 5: Activities	良いイントロダクションとは
8	Unit 6: Jacinda Ardern	長文読解
9	Unit 6: Grammar	文法（分詞構文）
10	Unit 6: Activities	結論
11	Unit 10: Dude Ranches	長文読解
12	取扱説明書、レシピなど	命令文
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない単語や文法については予習の段階で調べて全文和訳してからから授業にのぞむこと。また、課題を各自で進めておくこと。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
北野マグダ 編著、『リーディングから発信へ―パラグラフライティングへの第一歩 (Idea Garden -First Steps in Paragraph Writing)』、朝日出版、2023年、1,980円(本体1,800円+税)。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：40％、課題：20％、期末試験：40％、合計100％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of the course is to learn how to write essays, and how to express opinions in English. In the term, students will increase vocabulary, grasp the point of English articles, and develop their writing skills.
[Learning Objectives] The goal of this course is to understand the paragraph writing.
[Learning activities outside of classroom] Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour.
[Grading Criteria] Grading will be decided based on in-class contribution (40%), essay (20%), and Term-end examination (40%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

石井　創

サブタイトル：（３）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目標は、英語のライティングのルールに則り、短めかつ論理的なパッセージを複数のパターンで書けるようになることです。従って、そのルールに則って書かれたパッセージの読解練習やそのルールに基づくライティングの演習問題・課題を通じて、英語でパッセージを書く際に必要となるルールを学ぶこと、これまで学んできた英文法を復習すること、の２点が本授業の主な柱となります。

【到達目標】
１．高校までに習った文法をきちんと定着させ、それを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージなどに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．パラグラフ・ライティングなどの文章作成の基本ルールを理解したうえで、異なる複数のタイプのパッセージをそのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１．形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合がありえます。
２．進め方
授業２回分で教科書の１つの Unit を終わらせるペースを予定しています。ただし、Unit の難易度や履修者の理解度などに応じて、１つの Unit の消化にかける時間を調節したり、別の教材を用いて授業を進める、演習問題や課題を追加あるいは省略したりする等、授業計画は柔軟に変更していきます（よって、以下の「授業計画」は参考例となります）。
おおまかには、まず１回目の授業でその Unit の Reading のパッセージを読解しながら、そのパッセージ内でポイントとなる文法やパラグラフの構成についての解説を行い、その後に演習問題を解いてそれら学んだ知識の定着を図ります。
２回目の授業では、１回目で取り上げたパラグラフの構成やライティングのルールをさらに詳しく解説していきます。その後、それらの内容をきちんと理解できているかを確認するために演習問題に取り組みます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。
教科書のパッセージ読解や演習問題は、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。また、教科書の各 Unit が終わるごとに、学習内容のまとめとなるライティング課題を課していきます。ライティング課題は基本的には授業外で（一部、授業内でも）取り組み、期限までに提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価などの説明、春学期の内容振り返り
第2回	Unit 7 Don’t You Agree?	Reading: Listening to Music While Studying Can Make You a Better Student, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第3回	Unit 7 Don’t You Agree?	Writing Strategy: 無生物主語, Sentence Writing, Paragraph Writing
第4回	Unit 8 You Be the Judge	Reading: UNIQLO - Four Strategies for Success, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第5回	Unit 8 You Be the Judge	Writing Strategy: 完了時制, Sentence Writing, Paragraph Writing
第6回	Unit 9 Two Sides to Every Story	Reading: The Debate over Animal Testing, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第7回	Unit 9 Two Sides to Every Story	Writing Strategy: 相関接続詞と群前置詞, Sentence Writing, Paragraph Writing
第8回	Unit 10 A Bit of Advice	Reading: Keys to a Successful Job Interview, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第9回	Unit 10 A Bit of Advice	Writing Strategy: 形式主語, Sentence Writing, Paragraph Writing
第10回	Unit 11 Please Don’t Misunderstand	Reading: Violent Video Games and Real-Life Violence, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第11回	Unit 11 Please Don’t Misunderstand	Writing Strategy: 否定を表す, Sentence Writing, Paragraph Writing
第12回	Unit 12 Revisiting the Past	Reading: Michael Collins Remembers Apollo 11, Grammar, Comprehension Questions, Guided Summary
第13回	Unit 12 Revisiting the Past	Writing Strategy: 他者の言葉を伝える, Sentence Writing, Paragraph Writing
第14回	学期末まとめ	学習した文法やライティングのルールの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。例えば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら Reading のパッセージを読んで内容を把握してくる、文法やライティングルールの解説項目に目を通しつつ演習問題を解いてくる、などです。このような予習を行わずに、『『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習・提出課題の作成
教科書のパッセージにおける複雑な構造の文の意味解釈や文法、ライティングのルールといった、その日に学習した内容を教科書・ノートなどを見直して整理してください。また、教科書の各 Unit の学習が終わった時点で、その Unit のまとめとなるライティング課題を毎回課しますので、授業外で作成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
Robert Hickling・八島純．(2020).『Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing　パラグラフのパターン別に学んで磨く英語力』東京：センゲージラーニング.（2,150 円＋税）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際に、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．提出課題 70%、平常点（受講態度、予習状況、宿題など）30%
２．欠席が５回に達すると自動的に単位取得不可
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウント（30 分以上の遅刻は欠席とみなされる）
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、欠席とみなされる

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度は、内容について「スライドが工夫されており、難しい構文や文法などの細かいところまで学べた」という肯定的な感想と「細かい部分まで解説をしすぎていて進度が遅かったので、もう少し説明を要約してほしい」という批判的な感想の両方をいただいた。そのため、今年度は解説する内容をクラスのレベルに照らしてより吟味し、適切に取捨選択していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。授業中にライティングの演習問題・課題が追加で出る場合があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。ただし、その日の予習箇所や宿題の語彙などを調べる目的で授業中に使用するのは禁止です。
２．「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】
１．学習支援システムからの授業や提出課題に関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。
２．大学が指定する感染症に罹患して授業への出席停止措置を受けた学生は、大学発行の欠席配慮願を教員に提出してください。また、大学体育会の活動参加や忌引等による欠席の場合も、同様にそれを証明する書類を提出してください。これらの配慮願や証明書が提出された授業回に関しては出席扱いにいたします。

【Outline (in English)】
1.Course outline
The goal of this course is to help students learn to write short, logical passages based on English writing rules. Therefore, the course will emphasise learning the rules needed to write passages in English, as well as reviewing grammar topics that students have already studied, through reading passages written in accordance with the rules and doing exercises in English composition.
2.Learning objectives
In this course, students are expected to achieve the following:
(a) Absorbing grammatical knowledge studied in previous years and being able to write clear sentences using this knowledge;
(b) Acquiring vocabulary in various fields included in the textbook.
(c) Understanding the basic rules of essay writing (e.g., paragraph writing) and being able to compose a variety of passages based on these rules.
3.Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
Students are expected to read the 'Reading' passages in each unit of the textbook, looking up unfamiliar words and idioms in the dictionary, and figure out the content of the passages. They also need to solve the practice problems in the textbook, reading through the grammar and writing explanations included in each unit.
(b) Review and submitting writing assignments
Students are required to review the day's class content, for example, comprehending the meaning of structurally complicated sentences, grammar, and writing rules. Furthermore, students will be given an assignment to write a passage in each unit, which they must complete and submit.
4.Grading Criteria /Policy
Students will be assessed according to the following criteria:
Writing assignments: 70%
Usual performance score (e.g., attitude in class, preparation for classes and other homework): 30%

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

蒔田　裕美

サブタイトル：（４）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の目的は、学生が自信を持って英語でコミュニケーションをとれるように英語の総合的なフォー・スキルズ（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を向上させることである。学生は効果的なプレゼンテーションの手法やエッセイの作成を通して、英語で自分の意見を発信することを目指す。

【到達目標】
１　学生が様々な場面で役立つ英語表現を学び、実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。
２　学生はアカデミック・ライティングで用いられるパラグラフの概念を学び、パラグラフの集合体であるエッセイを書くことができる。
３　学生が効果的なプレゼンテーションスキルを身につけ、自信を持って英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
最初に発音記号、英語特有の音声変化、リズムを指導するので、積極的に発声練習を行うこと。ペアワークを通して、様々な場面で役立つ英語表現をアウトプットしながら実践的なコミュニケーション能力を培っていく。クラスメート全員の前で実施するプレゼンテーションと期末課題のエッセイについては、グーグルクラスルームを通して全員にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Evaluate Solutions to a Problem	Video Journal: How to Reinvent the Apartment Building
2	Discuss Ways to Stay Healthy	Grammar: The Comparative, Superlative, and Equative, Vocabulary: Human Organs Everyday Ailments
3	Talk about Healthy Lifestyles	Listening: Discussions: Different Lifestyles, Talking about Staying Healthy
4	Suggest Helpful Natural Remedies	Reading: Attitude is Everything, Writing: A Paragraph Using Supporting Details
5	Describe the Benefits of a Positive Attitude	Video Journal: Living Beyond Limits
6	Talk about Facing Challenges	Grammar: Past Continuous vs. the Simple Past, Vocabulary: Physical and Mental Challenges Phrasal Verbs
7	Describe Past Accomplishments	Listening: An Interview: Dr. Jenny Daltry: Wildlife Conservationist and Ecologist, Discussing Challenges: Talking about Abilities
8	Use Too and Enough to Talk about Abilities	Reading: Making a Difference: Bali, Writing: A Paragraph about a Challenging Experience
9	Discuss Steps Toward a Goal	Video Journal: Success Story: Recycling in the Philippines
10	Talk about Different Stages in Your Life	Grammar: The Past Perfect, Vocabulary: Describe Life Events Adjectives for Age
11	Talk about the Best Age to Do Something	Listening: Conversation: Becoming an Adult, Talking about Events in Your Life
12	Ask Questions to Get More Information	Reading: Innovation in Africa, Writing: A Paragraph to Describe a Life Transition
13	Presentation and Self-evaluation	Make a 4 minute presentation and conduct a self-evaluation
14	Final Assignment	Learn how to write Academic Writing. Submit a essay and check the feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前の予習として、テキストの単語の意味を調べ、演習問題に取り組んでおくこと。
授業後は、授業で学んだ発音や表現を実際に声に出して繰り返し練習し、プレゼン準備やエッセイの作成に備えること。本授業の予習と復習時間は各１時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Kristin L. Johannsen 他『World English Level 2: Combo Split 2A』National Geographic Learning、2022年 (ISBN: 9798214085418)￥3070

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Presentation ５０%、Final Assignment ５０%

【学生の意見等からの気づき】
学生が質問しやすい環境を整え、学習者の理解度に合わせた授業展開を心がけたい。また、ペアワークやディスカッションを通して、学生が主体的に取り組めるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルクラスルームを通して資料配布、課題作成、質問の受付やコメントのやりとりを行う。
プレゼンやエッセイの作成時期には、授業時にもノートPCがあると課題に取り組みやすい。

【Outline (in English)】
This course deals with four basic English skills. In order to improve these skills, we will mainly do the following tasks; (1)learn the pronunciation of English to enhance listening and speaking skills (2) learn the basic skills of paragraph writing, and (3) write essays and make presentations based on the knowledge acquired.
The goals of this class are to (1) learn useful English expressions used in different contexts (2) learn how to write essays effectively, and (3) feel confident in giving presentations in English.
Students must undertake assigned homework activities and prepare for upcoming discussions, presentations and writing. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading will be decided based on the final presentation (50%) and the essay (50%).

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

川田　アマンディーン

サブタイトル：（５）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースの目的は、学生が英語の基礎力を高め、さまざまな実際の場面で自分の考えや意見を自由に交換できるようになることを支援することです。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to:
- Develop fundamental skills and accuracy in expressing ideas in English and
delivering presentations.
- Understand a range of topics presented in various written English texts and
write about them effectively.
- Strengthen their communicative abilities in listening and participating in
discussions in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Because many presentations will be incorporated, students are expected to participate actively during lectures and exercises rather than remain passive. They are encouraged to be proactive and to do their best without fear of making mistakes. In addition, emphasis will be placed on checking vocabulary and grammar while reading English texts, as well as on understanding key expressions and structures. In the writing exercises, students will be asked to produce sentences or short paragraphs by referring to model examples and paying close attention to organization and structure.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Textbook guidance, grading system explanation, scheduling of presentation dates
2	Unit 9, The Culture of Food	We explore global food traditions through reading comprehension on food culture, vocabulary exercises on cooking and dining, and a writing activity describing a traditional dish or food-related experience.
3	Unit 9, The Culture of Food　(continued)	We explore food traditions and eating customs around the world through listening comprehension activities and discussions about cultural similarities and differences.
4	Unit 10, Freedom an Responsibility	We explore personal and societal freedom through reading comprehension on examples of freedom and responsibility, vocabulary exercises on social obligations, and a writing activity reflecting on personal experiences of freedom and responsibility.
5	Unit 11, Love one, Love All	We explore love and relationships through reading comprehension on cultural or literary examples, vocabulary exercises on emotions and relationships, and a writing activity reflecting on personal views about love.
6	Unit 11, Love one, Love All　(continued)	We explore themes of love and relationships through listening comprehension activities and discussions based on different perspectives and experiences of love.
7	Unit 12, Money and Finance, Dollars and Sense	We explore personal finance through reading comprehension, vocabulary exercises on money and banking, and a writing activity reflecting on personal financial goals.
8	Unit 12, Money and Finance, Dollars and Sense　(continued)	We explore topics related to money and personal finance through listening comprehension activities and discussions about financial habits, budgeting, and financial responsibility.
9	Unit 13, Careers: Nice Job!	We explore career goals through reading comprehension on career paths and professions, vocabulary exercises on jobs and workplace skills, and a writing activity describing an ideal job.
10	Unit 13, Careers: Nice Job!　(continued)	We explore careers and professional goals through listening comprehension activities and discussions about different jobs, career paths, and workplace experiences.
11	Unit 14, Across the Universe: If Earth Were a Cherry Tomato	We explore space and planets through reading comprehension on Earth and planetary comparisons, vocabulary exercises on astronomy and scientific terms, and a writing activity explaining an interesting fact about Earth or space.
12	Unit 15, Risks: Take Your Chances	We explore personal and real-life risk-taking through reading comprehension on examples of risks, vocabulary exercises on decision-making and consequences, and a writing activity reflecting on personal experiences with risk.
13	Unit 15, Risks: Take Your Chances (continued)	We explore the concept of risk-taking through listening comprehension activities and discussions about personal experiences, decision-making, and consequences.
14	End- of- semester review	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.

【テキスト（教科書）】
Jono David: What's That You Say?
Nan'Un-Do, ISBN 978-4-523-17944-3, 2023 年, 2640 円

【参考書】
What's That You Say?
Jono David

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class participation: 30%
- Written work (assignments, homework, tests): 40%
- Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
The lesson content and schedule may be adjusted according to the needs and language level of the students in this class. Communication is the key. Please feel free to speak up. It is OK to make mistakes.

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
The goal of this course is to build the English skills needed for university study.

Students will work on understanding English and expressing themselves in English, both orally and in writing.
They will read and understand texts logically, sometimes considering cultural context.
They will learn to use English independently by using what they read to communicate in presentations, conversations, and written work.
(Learning activities outside of classroom)
Before / after each class meeting, students are expected to spend about one hour reviewing and consolidating the course content.
Required work includes class preparation, vocabulary study, homework, and presentation preparation.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following (11.03.)
-Class participation: 30%
-Written work (assignments, homework, tests): 40%
-Presentations: 30%
Students may have up to three absences. Exceeding this limit will result in a failing grade.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

式町　眞紀子

サブタイトル：（6）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、英文読解力の習熟を目標に、語彙と文法を重視し、現代英語の幅広い素材のテキストにより、講読を中心とした授業をおこなう（インプット活動）。本科目ではまた、テキスト精読に加えて、日本語の固有名詞や慣用表現など、非英語言語を英語ではどのように表すかというタスクを設定し、パラフレーズやリフレーズの訓練の機会とみなす。さらにプレゼンテーションも取り入れ、具体的かつ主体的に英語運用力を高めていく（アウトプット活動）。

【到達目標】
(1)正確な読解をもとに語彙力の強化と文章構成の理解を深めて、自分の意見や主張を英語で表現できる。
(2)日本の歴史について英語で学び、英語によって説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前半と後半に分け、前半を精読による内容理解を中心として行い、後半は内容に関連した練習問題（語彙・正誤判断・サマリー作成）を行う。なお、各時代の概要については動画資料なども活用し、高校時代に日本史を選択しなかった学生や留学生においても理解しやすい導入を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(1) 授業に関する一般的な説明や自己紹介 (2) イントロダクション「日本の歴史を英語で表すことについて」
2	Chapter 9 "The Kamakura Period: Part 1"	In-depth Reading for Chapter 9: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
3	Chapter 9 The Kamakura Period: Part 1" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 9
4	Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2"	In-depth Reading for Chapter 10: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
5	Chapter 10 "The Kamakura Period: Part 2"(continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 10
6	Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1"	In-depth Reading for Chapter 11: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
7	Chapter 11 "The Muromachi Period: Part 1" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 11
8	Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2"	In-depth Reading for Chapter 12: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
9	Chapter 12 "The Muromachi Period: Part 2" (continued)	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 12
10	Presentation Day (1)	Group presentation: Review chapters 9-12
11	Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1"	In-depth Reading for Chapter 13: skimming for the main idea of a paragraph, skimming for paragraph topics, scanning for details.
12	Chapter 13 "The Azuchi-Momoyama Period: Part 1 (continued）"	Exercises:(A)Vocabulary Matching (B)True or False Questions (C)Summary Completion (D)Composition Feedback for Chapter 13
13	Chapter 14 "The Azuchi-Momoyama Period : Part 2"	In-depth Reading for Chapter 14 Exercises should be reviewed by WebClass for Chapter 14
14	Review exam	理解度の確認を目的とした試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習ともそれぞれ2時間。理解のよすがとなるように、テレビなどの歴史番組やドキュメンタリー番組の視聴や、美術館や博物館の関連企画等の鑑賞など、学外での学習時間を積極的に増やすことが望ましい。その際、英文のキャプションやパンフレットにも目を配り、英語ではこのように表現するのか、という気づきにもつなげると良い。

【テキスト（教科書）】
五十嵐昭人 *The General History of Japan*『英語で学ぶ日本の歴史』南雲堂、2024、ISBN: 9784853178248　　2,000円＋税

【参考書】
（1）小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞24』研究社、2016年　＊学部資料室に在架
（2）英和辞典（紙または電子版）。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。不要の行為は授業参加態度（成績評価の方法と基準参照）から減点する。授業ではスクリーンにオンライン学習辞典を投影の上適宜利用する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％: 積極的な取り組みや探求心を評価する。予習が認められない場合などは当然減点となるなど、ただ出席していることは評価につながらない。試験40%: 理解度の確認。20％: プレゼンテーション。なお、プレゼンテーションについては単独評価ではなく、毎回の授業での発表や理解度と関連させる。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「（答えが）なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合がある。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This is a compulsory language course aimed at fostering practical English skills for effective intercultural communication. This course is basically designed to build reading strategies such as scanning and skimming for a variety of texts to improve reading comprehension skills. Students will expand their reading vocabulary to understand different types of materials in English and become familiar with text organization. Students will learn skills such as discerning the main idea and supporting ideas of reading selections to build accurate reading skills. Communication skills will be reinforced through classroom activities such as oral summaries and presentations.
Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English 4 skills; Reading, Listening, Speaking, and Writing.
— Understand how to connect English texts.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy]
40%: Participation in class activities.
40%: Examination.
20%: Presentation.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

総合英語IV（b）

ＡＢＵＤＵＲＥＨＥＭＡＮ　ＡＤＩＬＡＮ

サブタイトル：（７）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２年次／１単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：（　）カッコ内数字はクラスを示しています。
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology.　The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present and future lives.
この授業では、刺激的な新しい教材やテクノロジーを活用し、実践的な英語コミュニケーション能力を向上させます。授業で学ぶ英会話スキルは、自分の意見を伝えたり、自身の過去・現在・未来に関する楽しいトピックについて英語で対話したりする際に役立ちます。

【到達目標】
Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively for explaining experiences and memories, current habits/routines and future hopes/dreams.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
The students will use fun and interactive activities within class. These include online games, entertaining animations and real-world discussion practices.　Each class focuses on important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Teacher and student introductions, textbook guidance (pages 9-14) and grading system explanation
2	City life opinions	Pages 15-19: Opinion phrases, city life opinion activities, online language game and animated video listening activity
3	City life discussions	Pages 20-22: Real-world city life discussion practices, online team language game and extended language activities for giving opinions
4	Study opinions	Pages 23-27: Support phrases, study opinion activities, online language game and animated video listening activity
5	Study discussions	Pages 28-30: Real-world study discussion practices, online team language game and extended language activities for supporting opinion
6	Fashion opinions	Pages 31-35: Persuasion phrases, fashion opinion activities, online language game and animated video listening activity
7	Fashion discussions	Pages 36-38: Real-world fashion discussion practices, extended language activities for persuading others
8	Review speech 1	Pages 39-42: Opinion speeches in small groups about junk food (using phrases from classes 2-7)
9	Technology opinions	Pages 43-47: Checking opinions, technology opinion activities, online language game and animated video listening activity
10	Technology discussions	Pages 48-50: Real-world technology discussion practices, online team language game and summary language activities for checking opinions
11	Travel opinions	Pages 51-55: Reaction phrases, travel opinion activities, online language game and animated video listening activity
12	Travel discussions	Pages 56-58: Real-world travel discussion practices, online team language game and summary language activities for reacting to opinions
13	Fame and fortune opinions and discussions	Pages 59-66: Opinion challenge phrases, fame and fortune opinion activities, online language game and animated video listening activity
14	Review speech 2	Opinion speeches in small groups about part-time jobs (using phrases from classes 7-13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes.　Approximately 2 hours per week.

【テキスト（教科書）】
SMART Communication 2, SMART Class Series (3rd Edition) Order a copy HERE (orange book)
Publisher ：SMART Class Series
Publication date ：October 8, 2023
ISBN ：978-4991190384

【参考書】
Not required.

【成績評価の方法と基準】
25%: Class attendance and participation 25%: Textbook homework 25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7) 25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

【学生の意見等からの気づき】
Based on the teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Please bring a charged smart phone to class if possible (for classroom games). Alternative exercises are available within the textbook for those without smart phones.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)
This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology.　The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present and future lives.
(Learning activities outside of classroom)
Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes. Approximately 2 hours per week.
(Grading Criteria /Policy)
25%: Class attendance and participation 25%: Textbook homework 25%: Review speech 1 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 2-7) 25%: Review speech 2 (delivered online/face-to-face as a summary of classes 8-12)

LANe100IA（英語 / English language education 100）

英語コミュニケーションⅠ（a）

式町　眞紀子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：金4/Fri.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.
平易ながらも、学生生活・日常生活のいずれの場面においても汎用性の高い「使える英語表現」を学びます。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English speaking skills.
— Increase vocabulary, broaden English speaking skills, gain confidence.
— Develop critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
"Making introductions"、"Talking about sports"、"Asking and talking about learning styles"など、多岐に渡るテーマでひとつのユニットが構成されています。ユニットの内容に基づく学習については前半と後半に分け、前半では、関連する語彙や表現を学ぶインプットの機会とし、後半では、ロールプレイや、各回のテーマに応じた表現をもとに発言、意見交換などのアウトプットの機会として進めます。さらにユニットの締めくくりとして、テーマに関連したトピックで自分の意見を述べるなど、プレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Students will get to know each other, and be introduced to the textbooks and course requirements.
2	Unit Topic "Making introductions"	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject. Wrap-up for "Making introductions"
3	Unit Topic "Describing someone's appearance and personal traits" (1)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays.
4	"Describing someone's appearance and personal traits" (2)	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units. Wrap-up for "Describing someone's appearance and personal traits"
5	Unit Topic "Talking about music preferences" (1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
6	Unit Topic "Talking about music preferences" (2)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays. (continued)
7	Wrap-up for "Talking about music preferences"	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
8	Unit Topic "Asking for directions and describing locations" (1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
9	Unit Topic "Talking about locations in a store" (2)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays. (continued)
10	Wrap-up for "Asking for directions and describing locations", and "Talking about locations in a store"	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
11	Unit Topic "Talking about your daily routine" (1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
12	Unit Topic "Talking about your daily routine" (2)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays. (continued)
13	Wrap-up for "Talking about your daily routine"	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
14	Review	Review and final speaking quiz. Common misunderstandings will be addressed in class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習/復習時間として授業時間と同等の100分を要します。また、メディアやインターネットによる英語でのニュースや動画を積極的に活用し、さまざまな英語表現に触れる機会を持つようにすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
David Nunan, Noriko Tomioka, *Hear Me Out Book 1.Student Book*, 2017, Cengage Learning, ISBN: 9784863123175　2,200円＋税

【参考書】
Please make sure you have a English/ Japanese dictionary book or Electronic.
オンライン辞書については授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％、プレゼンテーション、ロールプレイ、スピーチ等40％、Quizzes, Dictations 20％、以上の観点に基づき、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「（答えが）なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
(1) 本科目は、自発的かつ意欲的に英語を学びたい学生にその機会を提供するものと位置づけられています。従って、**受講を希望する学生は、第一回目の授業に必ず出席すること。**正当な理由が認められない場合は受講を許可しません。＊「受講者選抜科目一覧」を確認すること。
(2) 学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合があります。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students build confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.
[Learning Objectives: 到達目標]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English speaking skills.
— Increase vocabulary, broaden English speaking skills, gain confidence.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom: 授業時間外の学習]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy: 成績評価の方法と基準]
40%: Participation in class activities.
40%: Presentations, Roll-plays, Speeches.
20%: Assignments and Quizzes.

LANe100IA（英語 / English language education 100）

英語コミュニケーションⅠ（b）

式町　眞紀子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.
平易ながらも、学生生活・日常生活のいずれの場面においても汎用性の高い「使える英語表現」を学びます。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English speaking skills.
— Increase vocabulary, broaden English speaking skills, gain confidence.
— Develop critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
"Making introductions"、"Talking about sports"、"Asking and talking about learning styles"など、春学期に引き続き、多岐に渡るテーマでひとつのユニットが構成されています。ユニットの内容に基づく学習については前半と後半に分け、前半では、関連する語彙や表現を学ぶインプットの機会とし、後半では、ロールプレイや、各回のテーマに応じた表現をもとに発言、意見交換などのアウトプットの機会として進めます。さらにユニットの締めくくりとして、テーマに関連したトピックで自分の意見を述べるなど、プレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Students will review the contents of the first half of the course, and set goals for the new semester.
2	Unit Topic "Describing what places are like "(1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
3	Unit Topic "Describing what places are like "(2)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays.(Wrap-up and feedback)
4	Unit Topic "Asking and answering job interview questions"(1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
5	Unit Topic "Asking and answering job interview questions"(2)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject. Wrap-up for "Asking and answering job interview questions"
6	Unit Topic "Ordering food and taking orders"(1)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays.
7	"Ordering food and taking orders"(2)	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units. Wrap-up for "Ordering food and taking orders"
8	Unit Topic "Talking about sports"(1)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on "Talking about sports".
9	Unit Topic "Talking about sports"(2)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays. Wrap-up for "Talking about sports"
10	Unit Topic "Describing yourself"(1)	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
11	Unit Topic "Describing yourself"(2)	Students should read through the unit, look up unfamiliar vocabulary, and consider their answers to the warm-up questions before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject. Wrap-up for "Describing yourself"
12	Unit Topic "Asking and talking about learning styles "(1)	Students should prepare by reviewing the vocabulary, memorising key expressions, and making sentences with the phrases that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches and role-plays.
13	Wrap-up for "Asking and talking about learning styles"(2)	Presentation Day: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
14	Review	Review and final speaking quiz. Common misunderstandings will be addressed in class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習/復習時間として授業時間と同等の100分を要します。また、メディアやインターネットによる英語でのニュースや動画を積極的に活用し、さまざまな英語表現に触れる機会を持つようにすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
David Nunan, Noriko Tomioka, *Hear Me Out Book 1.Student Book*, 2017, Cengage Learning, ISBN: 9784863123175　　2,200円＋税

【参考書】
Please make sure you have a English/ Japanese dictionary book or Electronic.
オンライン辞書については授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加態度40％、プレゼンテーション、ロールプレイ、スピーチ等40％、Quizzes 20％、以上の観点に基づき、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「リズムをつけて読むと内容が理解しやすくなると感じた。」、「（答えが）なぜそうなるのか、根拠を以て答えられるように問題に取り組むようになった。」など、学生の手ごたえに結び付けられるよう、臨機応変な授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスしやすい環境。授業連絡、課題指示などは同システムを通じて行う。必ずメール転送設定を行うこと。

【その他の重要事項】
(1) 本科目は、自発的かつ意欲的に英語を学びたい学生にその機会を提供するものと位置づけられています。従って、**受講を希望する学生は、第一回目の授業に必ず出席すること。**正当な理由が認められない場合は受講を許可しません。＊「受講者選抜科目一覧」を確認すること。
(2) 学生の理解度によって、進度を適切に調整する場合があります。また、より深い読みやそれに対する問題意識を導くために、扱うユニットを変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students build confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.
[Learning Objectives: 到達目標]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
— Acquire fundamentals of English speaking skills.
— Increase vocabulary, broaden English speaking skills, gain confidence.
— Develop critical thinking skills.
[Learning Activities Outside of Classroom: 授業時間外の学習]
You need to spend the same amount of time as the lesson itself for self-study both preview and review. Be sure to review what has been said during class to prepare yourself for next class.
[Grading Criteria / Policy: 成績評価の方法と基準]
40%: Participation in class activities.
40%: Presentations, Roll-plays, Speeches.
20%: Assignments and Quizzes.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

英語コミュニケーションII（a）

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木4/Thu.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本コースでは、日常生活で遭遇する様々な場面における実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。学生は、自己紹介、道案内、買い物、レストランでの注文、友人との会話など、実際の生活で必要となる基本的なコミュニケーションスキルを段階的に習得します。
授業の目的は、学生が英語を使った日常会話に自信を持ち、様々な実生活の場面で適切に対応できるようになることです。学生は、基礎的な語彙と文法の学習を通じて、日常的な話題について明確に意見を述べたり、情報を交換したりする能力を身につけます。また、ペアワークやグループ活動を通じて、実践的なコミュニケーションスキルを磨き、英語でのやり取りに対する不安を軽減し、積極的に英語を使う姿勢を養います。

【到達目標】
本コースを修了することで、学生は以下のことができるようになります。
・日常生活で遭遇する基本的な場面において、英語で適切にコミュニケーションをとることができる
・自己紹介や他者の紹介を、フォーマル・インフォーマル両方の状況で適切に行うことができる
・人物、場所、物事について、基本的な語彙と表現を用いて説明できる
・道順を尋ねたり、説明したりすることができる
・過去の経験や出来事について、適切な時制を用いて話すことができる
・将来の予定や計画について説明し、提案することができる
・日常的な話題について、自分の意見や考えを明確に表現できる
・相手の話を理解し、適切に応答することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The course is structured around interactive and practical learning methods, including:
Group Work: Engaging collaborative activities that promote learning through interaction and shared experiences.
Role-plays: Simulated scenarios that provide students with the opportunity to apply language skills in real-life sports communication contexts.
Speeches: Opportunities for students to articulate their thoughts and demonstrate their command of sports-related vocabulary and concepts in front of the class.
Mini-Lessons: Brief, focused sessions on essential vocabulary and grammar required for each topic, ensuring students are well-prepared for the practical components of the class.
Vocabulary and Grammar Focus: Emphasis on the acquisition of sports-specific vocabulary and the essential grammar needed to communicate effectively in sports contexts.
Student-Centered Presentations: Students will select and present a sports-related theme of interest, facilitating peer learning and fostering a deeper engagement with the material.which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction	Self-introductions and class outline
2回	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3回	Self-introductions ①	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4回	Self-introductions ②	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5回	Speeches	First class speech
6回	Describing people, places, and things ①	Introduction to descriptive vocabulary and adjectives; grammar patterns for physical descriptions; listening activity with sports athletes descriptions
7回	Describing people, places, and things ②	Describing people, places, and things ② 内容：Practice describing sports facilities and equipment; pair work on comparing different venues; presentation of favorite sports location
8回	Places, directions ①	Learning prepositions of place and directional vocabulary; grammar for giving directions; reading comprehension about sports venue layouts
9回	Places, directions ②	Role-play: giving directions to sports facilities on campus; listening to navigation instructions; group presentation on mapping a sports event route
10回	Recalling Past Experiences ①	Past tense verb forms and time expressions; vocabulary for describing sports memories; reading about famous sporting moments
11回	Recalling Past Experiences ②	Sharing personal sports experiences using past tense; partner interviews about memorable games or training; class presentation of a significant sports-related memory
12回	Making Plans ①	Future tense and expressions for planning; vocabulary for scheduling training and events; listening activity on organizing sports tournaments
13回	Making Plans ②	Creating a training schedule in English; group planning of a hypothetical sports event; presentation of future sports goals and action plans
14回	Speeches	Second class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 学生は、授業外でスピーチの準備作業の大部分を行うことが求められます。
宿題は、スピーチの準備、過去の授業の復習、または次回の授業の準備に役立つように設計されています。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
The overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class contribution: 20%
Homework: 20%
Speeches: 30%
Short tests: 30%
Final grade will be calculated according to active participation in pair work, role-plays, and class discussions, completion and quality of homework assignments, performance on two major speeches throughout the semester demonstrating practical communication skills, and results from vocabulary and grammar assessments focused on everyday English.

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese- English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【その他の重要事項】
この授業は英語のレベル的に低い方の受講生向けで、最大20名で行う予定である。条件を満たす人数は20名を上回る場合が抽選を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】

This course focuses on building practical English communication skills for everyday situations. Students will develop the ability to communicate effectively in common real-life scenarios such as introducing themselves, asking for directions, shopping, ordering at restaurants, and engaging in casual conversations with friends and acquaintances.
The aim of this course is to help students gain confidence in using English for daily communication and to respond appropriately in various everyday situations. Through the development of basic speaking, listening, reading, and writing skills, students will enhance their ability to express opinions and exchange information on familiar topics. The course emphasizes practical communication through pair and group work, role-plays, and interactive activities designed to reduce anxiety and encourage active use of English.
【到達目標（Learning Objectives)】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Communicate effectively in basic everyday situations using appropriate English
- Introduce themselves and others in both formal and informal contexts
- Describe people, places, and things using fundamental vocabulary and expressions
- Ask for and give directions in everyday situations
- Talk about past experiences and events using appropriate tenses
- Discuss future plans and make suggestions
- Express personal opinions and ideas clearly on familiar topics
- Understand others' speech and respond appropriately in conversations
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. Homework will be designed to help with preparing for speeches, reviewing vocabulary and grammar from past classes, or preparing for upcoming topics. Students are also encouraged to actively seek opportunities to use English in everyday situations. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class contribution: 20%
Homework: 20%
Speeches: 30%
Short tests: 30%
A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

LANe200IA（英語 / English language education 200）

英語コミュニケーションII（b）

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木4/Thu.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、スポーツおよび日常コミュニケーションの様々な場面で必要とされる具体的な英語表現を学びます。学生は、スポーツに特化した専門用語を習得し、スポーツについて基本的なレベルでコミュニケーションを取るために必要な語彙を身につけます。
本授業の主な目的は、特にスポーツに関連する場面において、学生が実際の英語使用により慣れ親しむことを支援することです。文法よりも語彙と積極的な口頭コミュニケーションに重点を置きます。

【到達目標】
Upon completion, students will emerge with enhanced confidence in their English communication skills and a solid foundation in sports-related vocabulary, enabling them to engage in sports discussions and contexts with greater assurance and competence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
The course is structured around interactive and practical learning methods, including:
Group Work: Engaging collaborative activities that promote learning through interaction and shared experiences.
Role-plays: Simulated scenarios that provide students with the opportunity to apply language skills in real-life sports communication contexts.
Speeches: Opportunities for students to articulate their thoughts and demonstrate their command of sports-related vocabulary and concepts in front of the class.
Mini-Lessons: Brief, focused sessions on essential vocabulary and grammar required for each topic, ensuring students are well-prepared for the practical components of the class.
Vocabulary and Grammar Focus: Emphasis on the acquisition of sports-specific vocabulary and the essential grammar needed to communicate effectively in sports contexts.
Student-Centered Presentations: Students will select and present a sports-related theme of interest, facilitating peer learning and fostering a deeper engagement with the material.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Sports Topics①	About sports in general Vocabulary and discussion
2回	Sports Topics②	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
3回	Sports Topics③	Nutrition, health, fitness and injuries.Vocabulary and discussion
4回	Sports Topics④	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
5回	Speeches, presentations①	First class speech
6回	Sports Topics⑤	Sports training Vocabulary and discussion
7回	Sports Topics⑥	Individual sports Vocabulary and discussion
8回	Sports Topics⑦	Ball sports Vocabulary and discussion
9回	Sports Topics⑧	Water sports Vocabulary and discussion
10回	Sports Topics⑨	Winter sports Vocabulary and discussion
11回	Speeches, presentations②	Second class speech
12回	Student Interest Topic①	Group presentations followed by class discussion
13回	Student Interest Topic②	Group presentations followed by class discussion
14回	Student Interest Topic③	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. Approximately 1-2 hours per week.
学生は、授業外でスピーチの準備作業の大部分を行うことが求められます。宿題は、スピーチの準備、過去の授業で学んだ語彙や文法の復習、または次回の授業で扱うトピックの予習に役立つように設計されています。学生は、日常会話で使用する表現を練習し、習得した英語を実生活で使用する機会を積極的に探すことが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 20%
Homework: 20%
Speeches: 30%
Short tests: 30%

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【その他の重要事項】
Basic (N3 or higher) English knowledge is required.
この授業は英語のレベル的に高い方の受講生向けで、最大20名で行う予定である。条件を満たす人数は20名を上回る場合が抽選を行う。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）】
This semester builds on the general communication skills developed in Semester 1 and introduces English use in sport-related contexts. The course focuses on applying English to situations commonly encountered in health and sport environments while maintaining an emphasis on practical communication rather than specialized technical language.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
- Use sports-specific vocabulary and expressions related to sports, training, teamwork, and physical activity
- Discuss simple rules, activities, performance, and experiences in English
- Explain actions, give basic instructions, and share opinions related to sport and health topics
- Participate in discussions related to sport and health topics with greater fluency and confidence
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. Homework will be designed to help with preparing for speeches, reviewing vocabulary and grammar from past classes, or preparing for upcoming topics. Students are also encouraged to actively seek opportunities to use English in everyday situations. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class contribution: 20%
Homework: 20%
Speeches: 30%
Short tests: 30%
A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1-Ⅰ

三松　国宏

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた1,200～1,600字程度の意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では４つのテーマを取り上げ、レポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1課-1異文化間コミュニケーション（読み物1）	定義を引用し例を挙げる。
第2回	1課-2レポートの作成：レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第3回	2課-1-1新しいサービス（読み物1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第4回	2課-1-2新しいサービス（読み物2）	サービスの長所と短所を述べる。
第5回	2課-2レポートの作成：アウトライン	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第6回	2課-3新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第7回	3課-1-1権利（読み物1）	新聞記事を引用する。
第8回	3課-1-2権利（読み物2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第9回	3課-2レポートの作成：問いの設定とタイトルの付け方	レポートの問いを設定し、レポートを作成する。
第10回	3課-3権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第11回	4課-1-1外来語（読み物1）	引用をし意見を述べる。
第12回	4課-1-2外来語（読み物2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第13回	4課-2-1レポートの作成：レポートの構成	論証型レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	4課-3外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等30％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは「丁寧な個別指導」「レポートの書き方が理解できた」などの声が多く、学習過程を一歩ずつ確認する伴走型の指導が安心感につながることを再確認した。また、出席状況への不公平感に関する指摘もあり、評価基準の明確化に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
授業計画は学生の人数および授業の進行に応じて調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1-Ⅰ

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた1,200～1,600字程度の意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では４つのテーマを取り上げ、レポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1課-1異文化間コミュニケーション（読み物1）	定義を引用し例を挙げる。
第2回	1課-2レポートの作成：レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第3回	2課-1-1新しいサービス（読み物1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第4回	2課-1-2新しいサービス（読み物2）	サービスの長所と短所を述べる。
第5回	2課-2レポートの作成：アウトライン	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第6回	2課-3新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第7回	3課-1-1権利（読み物1）	新聞記事を引用する。
第8回	3課-1-2権利（読み物2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第9回	3課-2レポートの作成：問いの設定とタイトルの付け方	レポートの問いを設定し、レポートを作成する。
第10回	3課-3権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第11回	4課-1-1外来語（読み物1）	引用をし意見を述べる。
第12回	4課-1-2外来語（読み物2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第13回	4課-2-1レポートの作成：レポートの構成	論証型レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	4課-3外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等40％、レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
授業計画は学生の人数および授業の進行に応じて調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1-Ⅰ

三松　国宏

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた1,200～1,600字程度の意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では４つのテーマを取り上げ、レポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1課-1異文化間コミュニケーション（読み物1）	定義を引用し例を挙げる。
第2回	1課-2レポートの作成：レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第3回	2課-1-1新しいサービス（読み物1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第4回	2課-1-2新しいサービス（読み物2）	サービスの長所と短所を述べる。
第5回	2課-2レポートの作成：アウトライン	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第6回	2課-3新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第7回	3課-1-1権利（読み物1）	新聞記事を引用する。
第8回	3課-1-2権利（読み物2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第9回	3課-2レポートの作成：問いの設定とタイトルの付け方	レポートの問いを設定し、レポートを作成する。
第10回	3課-3権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第11回	4課-1-1外来語（読み物1）	引用をし意見を述べる。
第12回	4課-1-2外来語（読み物2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第13回	4課-2-1レポートの作成：レポートの構成	論証型レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	4課-3外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等30％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは「丁寧な個別指導」「レポートの書き方が理解できた」などの声が多く、学習過程を一歩ずつ確認する伴走型の指導が安心感につながることを再確認した。また、出席状況への不公平感に関する指摘もあり、評価基準の明確化に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
授業計画は学生の人数および授業の進行に応じて調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1-Ⅰ

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた1,200～1,600字程度の意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では４つのテーマを取り上げ、レポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1課-1異文化間コミュニケーション（読み物1）	定義を引用し例を挙げる。
第2回	1課-2レポートの作成：レポートとは何か	レポートとは何かを学ぶ。
第3回	2課-1-1新しいサービス（読み物1）	サービスや制度の仕組みを説明する。
第4回	2課-1-2新しいサービス（読み物2）	サービスの長所と短所を述べる。
第5回	2課-2レポートの作成：アウトライン	アウトラインとは何かを学ぶ。レポートを作成する。
第6回	2課-3新しいサービス（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第7回	3課-1-1権利（読み物1）	新聞記事を引用する。
第8回	3課-1-2権利（読み物2）	問題を提起し自分の意見を述べる。
第9回	3課-2レポートの作成：問いの設定とタイトルの付け方	レポートの問いを設定し、レポートを作成する。
第10回	3課-3権利（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第11回	4課-1-1外来語（読み物1）	引用をし意見を述べる。
第12回	4課-1-2外来語（読み物2）	主張と根拠を論理的に述べる。
第13回	4課-2-1レポートの作成：レポートの構成	論証型レポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	4課-3外来語（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等40％、レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは「丁寧な個別指導」「レポートの書き方が理解できた」などの声が多く、学習過程を一歩ずつ確認する伴走型の指導が安心感につながることを再確認した。また、出席状況への不公平感に関する指摘もあり、評価基準の明確化に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
授業計画は学生の人数および授業の進行に応じて調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1- II

三松　国宏

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用・図表を含む2,400～3,200字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4課-2-2レポートの作成：引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第2回	5課-1-1外国人児童（読み物1）	図表を説明する。
第3回	5課-1-2外国人児童（読み物2）	政策を引用し意見を述べる。
第4回	5課-2レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第5回	5課-3外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第6回	6課-1-1教育（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第7回	6課-1-2教育（読み物2）	自分の意見に対して予想される反論と、反駁を述べる。
第8回	6課-2レポートの作成：効果的な引用の仕方	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第9回	6課-3教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第10回	7課-1-1社会と福祉（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第11回	7課-1-2社会と福祉（読み物2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第12回	8課-1情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第13回	7課-2レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	7課-3社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、課題等提出物等30％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは「丁寧な個別指導」「レポートの書き方が理解できた」などの声が多く、学習過程を一歩ずつ確認する伴走型の指導が安心感につながることを再確認した。また、出席状況への不公平感に関する指摘もあり、評価基準の明確化に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1- II

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用・図表を含む2,400～3,200字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4課-2-2レポートの作成：引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第2回	5課-1-1外国人児童（読み物1）	図表を説明する。
第3回	5課-1-2外国人児童（読み物2）	政策を引用し意見を述べる。
第4回	5課-2レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第5回	5課-3外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第6回	6課-1-1教育（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第7回	6課-1-2教育（読み物2）	自分の意見に対して予想される反論と、反駁を述べる。
第8回	6課-2レポートの作成：効果的な引用の仕方	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第9回	6課-3教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第10回	7課-1-1社会と福祉（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第11回	7課-1-2社会と福祉（読み物2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第12回	8課-1情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第13回	7課-2レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	7課-3社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、課題等提出物等40％、レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1- II

三松　国宏

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用・図表を含む2,400～3,200字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4課-2-2レポートの作成：引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第2回	5課-1-1外国人児童（読み物1）	図表を説明する。
第3回	5課-1-2外国人児童（読み物2）	政策を引用し意見を述べる。
第4回	5課-2レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第5回	5課-3外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第6回	6課-1-1教育（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第7回	6課-1-2教育（読み物2）	自分の意見に対して予想される反論と、反駁を述べる。
第8回	6課-2レポートの作成：効果的な引用の仕方	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第9回	6課-3教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第10回	7課-1-1社会と福祉（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第11回	7課-1-2社会と福祉（読み物2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第12回	8課-1情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第13回	7課-2レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	7課-3社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、課題等提出物等30％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは「丁寧な個別指導」「レポートの書き方が理解できた」などの声が多く、学習過程を一歩ずつ確認する伴走型の指導が安心感につながることを再確認した。また、出席状況への不公平感に関する指摘もあり、評価基準の明確化に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語1- II

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①問いを立て、情報を収集してレポートを書くことができる。
②引用・図表を含む2,400～3,200字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。事前課題として読み物を読み、授業では、レポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を作成する課題に取り組む。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4課-2-2レポートの作成：引用の仕方	引用の仕方と参考文献の書き方を学ぶ。
第2回	5課-1-1外国人児童（読み物1）	図表を説明する。
第3回	5課-1-2外国人児童（読み物2）	政策を引用し意見を述べる。
第4回	5課-2レポートの作成：レポートの構成	調査報告型のレポートの基本的な構成を学ぶ。レポートを作成する。
第5回	5課-3外国人児童（レポートを読み合う）	レポートを読み合いを修正する。
第6回	6課-1-1教育（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第7回	6課-1-2教育（読み物2）	自分の意見に対して予想される反論と、反駁を述べる。
第8回	6課-2レポートの作成：効果的な引用の仕方	効果的な引用の入れ方を学ぶ。レポートを作成する。
第9回	6課-3教育（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。
第10回	7課-1-1社会と福祉（読み物1）	社会問題に対する解決策を述べる。
第11回	7課-1-2社会と福祉（読み物2）	政策に対する異なる立場の意見を述べる。
第12回	8課-1情報収集	情報の集め方を学ぶ。
第13回	7課-2レポートの作成：行動提示の文	行動提示の文の書き方を学ぶ。レポートを作成する。
第14回	7課-3社会と福祉（レポートを読み合う）	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『はじめてのレポート作成トレーニング』村上佳恵・李址遠、くろしお出版、2024年、2,750円（税込）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、課題等提出物等40％、レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは、「丁寧な個別指導」「レポートの構成や参考文献の扱いが理解できた」などの声が多く、段階的な準備と伴走型の指導が学習の安心感と理解の深化につながっていることを再確認した。一方で、課題条件や評価に関わる事項について、より分かりやすい説明や見通しを求める意見も見られたため、今後は初期段階で示している内容について、提示方法や確認の機会を工夫することに留意する。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will present strategies for effective learning using two skills, namely, reading and writing. The course will be based on a combination of lectures, thematic class discussions, and peer responses. By the end of the course, students are expected to write coherent and academically supported essays in Japanese. Students are required to read specific articles before the class and to complete assignments after the class. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40%, and report30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2-Ⅰ

乾　浩

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練、発音練習も行う。

【到達目標】
１．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
２．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
３．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
１．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
２．１に対して質疑応答やフィードバックを行う。
３．テキストの本文を確認する。
４．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題に対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	スライド資料の作り方１	スライド作成、自己紹介
3	スライド資料の作り方２	スライド作成、自己紹介
4	①日本の暮らし１	担当者発表、討論
5	①日本の暮らし２	本文の読解と解説
6	②日本の旅１	担当者発表、討論
7	②日本の旅２	本文の読解と解説
8	③日本の食事文化１	担当者発表、討論
9	③日本の食事文化２	本文の読解と解説
10	④日本の年中行事１	担当者発表、討論
11	④日本の年中行事２	本文の読解と解説
12	⑤日本の伝統文化１	担当者発表、討論
13	⑤日本の伝統文化２	本文の読解と解説
14	期末試験とまとめ	試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作教材を使用する。

【参考書】
授業中に言及する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30％)、発表(20％)、課題(20％)、定期試験(30％)をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】
授業中にスライド資料などを作成するため、ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and
lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral
presentations in Japanese.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 30%, presentations 20%,
assignments 20%, and term-end examination 30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2-Ⅰ

ＶＩＣＫＹ　Ａ　ＲＩＣＨＩＮＧＳ

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練、発音練習も行う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学ぶ。課題については、授業で解説を行うとともに、個別にフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。テキストの発売が3月中旬であるため、どのページを扱うかは実際のテキストを見て決定し、オリエンテーション時に受講生へ伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第2回	故郷の紹介（1）	受講生による故郷の紹介
第3回	故郷の紹介（2）	受講生による故郷の紹介
第4回	発表の基本	スライドと発表原稿の作成方法を学ぶ
第5回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（1）
第6回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（2）
第7回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（3）
第8回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（4）
第9回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（5）
第10回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（6）
第11回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（7）
第12回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（8）
第13回	テキストの「社会・環境」分野から	受講生による発表とディスカッション（9）
第14回	まとめ	前期のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2026年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集 「時事力」基礎編（3・4級）』日本ニュース時事能力検定協会編、毎日新聞出版、2026年、1,540円（税込）
発売日：2026年3月6日
※こちらの書籍は毎年刊行されます。使用するのは2026年度版です。

【参考書】
大久保雅子他（2012）『シャドーイングで日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク、1,540円（税込み）
犬飼康弘（2007）『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク、2,500円（税抜）
その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度）30%、課題等提出物等40%、発表30%

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、日本語で発表する経験を通じて運用力が伸びた点が評価されていた。また、段階的な指導が学習の自信につながることを改めて実感した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にLMSが使用できるよう準備をしておくこと。

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course is designed for learners of Japanese and aims to develop their academic language proficiency and presentation skills. Students will present the content of assigned readings and engage in communication activities and pronunciation practice.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2-Ⅰ

乾　浩

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練、発音練習も行う。

【到達目標】
１．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
２．テキストの内容をまとめ、発表することができる。
３．他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
１．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
２．１に対して質疑応答やフィードバックを行う。
３．テキストの本文を確認する。
４．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題に対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	スライド資料の作り方１	スライド作成、自己紹介
3	スライド資料の作り方２	スライド作成、自己紹介
4	①日本の暮らし１	担当者発表、討論
5	①日本の暮らし２	本文の読解と解説
6	②日本の旅１	担当者発表、討論
7	②日本の旅２	本文の読解と解説
8	③日本の食事文化１	担当者発表、討論
9	③日本の食事文化２	本文の読解と解説
10	④日本の年中行事１	担当者発表、討論
11	④日本の年中行事２	本文の読解と解説
12	⑤日本の伝統文化１	担当者発表、討論
13	⑤日本の伝統文化２	本文の読解と解説
14	期末試験とまとめ	試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作教材を使用する。

【参考書】
授業中に言及する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30％)、発表(20％)、課題(20％)、定期試験(30％)をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】
授業中にスライド資料などを作成するため、ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and
lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral
presentations in Japanese.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 30%, presentations 20%,
assignments 20%, and term-end examination 30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2- I

李　恵

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練、発音練習も行う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。発表の原稿の作成方法、スライドの作成方法など、一つずつ実践を通し学んでいく。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第2回	発表①故郷の紹介（1）	受講生による発表。
第3回	発表①故郷の紹介（2）	受講生による発表。
第4回	スライドと発表原稿の作り方／質疑応答の表現	スライドと発表原稿の作成方法を学ぶ。
第5回	発表②テキストの「暮らし」分野から	受講生による発表。
第6回	発表③テキストの「文化」分野から	受講生による発表。
第7回	ディスカッション①テキストの「暮らし」「文化」分野から	受講生によるディスカッション。
第8回	発表④テキストの「科学技術」分野から	受講生による発表。
第9回	発表⑤テキストの「環境問題」分野から	受講生による発表。
第10回	ディスカッション②テキストの「科学技術」「環境問題」分野から	受講生によるディスカッション。
第11回	発表⑥テキストの「教育」分野から	受講生による発表。
第12回	発表⑦テキストの「歴史」分野から	受講生による発表。
第13回	ディスカッション③テキストの「教育」「歴史」分野から	受講生によるディスカッション。
第14回	発表⑧テキストの「多文化共生社会」から	受講生による発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『クローズアップ日本事情15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』佐々木瑞枝、ジャパンタイムズ、2017年、2,750円（税込）

【参考書】
『留学生のためのディスカッショントレーニング』香月裕介他、2024年、2,200円（税込）
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等40％、発表30％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、日本語で発表する経験を通じて運用力が伸びたことや、発表準備の進め方を具体的に学べた点が評価されていた。また、発表原稿作成の力が向上したとの声も多く、段階的な指導が学習の自信につながることを改めて実感した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment.It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assignments40% and presentations30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2- II

乾　浩

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。合わせて、発音練習も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3．発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
1．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
2．1に対して質疑応答やフィードバックを行う。
3．テキストの本文を確認する。
4．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題に対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 夏休みの思い出	授業の進め方 各自発表
2	⑥現代日本の歩み1	担当者発表、討論
3	⑥現代日本の歩み2	本文の読解と解説
4	⑦日本のポップカルチャー1	担当者発表、討論
5	⑦日本のポップカルチャー2	本文の読解と解説
6	⑧日本の働き方1	担当者発表、討論
7	⑧日本の働き方2	本文の読解と解説
8	⑨日本の教育と子供たち1	担当者発表、討論
9	⑨日本の教育と子供たち2	本文の読解と解説
10	⑩日本の社会と制度1	担当者発表、討論
11	⑩日本の社会と制度2	本文の読解と解説
12	⑪多文化共生社会1	担当者発表、討論
13	⑪多文化共生社会2	本文の読解と解説
14	期末試験とまとめ	試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作教材を使用する。

【参考書】
授業中に言及する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30％)、発表(20％)、課題(20％)、定期試験(30％)をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】
授業中にスライド資料などを作成するため、ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based
on a combination of oral presentations by students, class discussions, and
lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral
presentations in Japanese.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 30%, presentations 20%,
assignments 20%, and term-end examination 30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2- II

VICKY　A　RICHINGS

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練、発音練習も行う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学ぶ。課題については、授業で解説を行うとともに、個別にフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。テキストの発売が3月中旬であるため、どのページを扱うかは実際のテキストを見て決定し、オリエンテーション時に受講生へ伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第2回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（1）
第3回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（2）
第4回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（3）
第5回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（4）
第6回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（5）
第7回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（6）
第8回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（7）
第9回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（8）
第10回	テキストの「政治・経済・暮らし・国際」分野から	受講生による発表とディスカッション（9）
第11回	おすすめの本の紹介（1）	受講生による本の紹介
第12回	おすすめの本の紹介（2）	受講生による本の紹介
第13回	おすすめの本の紹介（3）	受講生による本の紹介
第14回	まとめ	後期のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『2026年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集 「時事力」基礎編（3・4級）』日本ニュース時事能力検定協会編、毎日新聞出版、2026年、1,540円（税込）
発売日：2026年3月6日
※こちらの書籍は毎年刊行されます。使用するのは2026年度版です。

【参考書】
大久保雅子他（2012）『シャドーイングで日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク、1,540円（税込み）
犬飼康弘（2007）『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク、2,500円（税抜）
その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度）30%、課題等提出物等40%、発表30%

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、日本語で発表する経験を通じて運用力が伸びた点が評価されていた。また、段階的な指導が学習の自信につながることを改めて実感した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にLMSが使用できるよう準備をしておくこと。

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course is designed for learners of Japanese and aims to develop their academic language proficiency and presentation skills. Students will present the content of assigned readings and engage in communication activities and pronunciation practice.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2- II

乾　浩

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。合わせて、発音練習も行う。

【到達目標】
1．現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2．引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
3．発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
1．発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
2．1に対して質疑応答やフィードバックを行う。
3．テキストの本文を確認する。
4．グループ討論を行う。
授業の始めに、課題に対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 夏休みの思い出	授業の進め方 各自発表
2	⑥現代日本の歩み1	担当者発表、討論
3	⑥現代日本の歩み2	本文の読解と解説
4	⑦日本のポップカルチャー1	担当者発表、討論
5	⑦日本のポップカルチャー2	本文の読解と解説
6	⑧日本の働き方1	担当者発表、討論
7	⑧日本の働き方2	本文の読解と解説
8	⑨日本の教育と子供たち1	担当者発表、討論
9	⑨日本の教育と子供たち2	本文の読解と解説
10	⑩日本の社会と制度1	担当者発表、討論
11	⑩日本の社会と制度2	本文の読解と解説
12	⑪多文化共生社会1	担当者発表、討論
13	⑪多文化共生社会2	本文の読解と解説
14	期末試験とまとめ	試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作教材を使用する。

【参考書】
授業中に言及する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30％)、発表(20％)、課題(20％)、定期試験(30％)をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】
授業中にスライド資料などを作成するため、ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based
on a combination of oral presentations by students, class discussions, and
lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral
presentations in Japanese.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on in-class contribution 30%, presentations 20%,
assignments 20%, and term-end examination 30%.
This course is open only to international students.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

日本語2- II

李　恵

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。合わせて、発音練習も行う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②引用部分と自分の意見を明確に分けて、発表することができる。
③発表を聞いて、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本科目は、受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学ぶ。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。一部のテキストは発売が3月中旬であるため、どのページを扱うかは実際のテキストを見て決定し、オリエンテーション時に受講生へ伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第2回	読解①「社会学の扉」から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第3回	発表①「社会学の扉」から	受講生による発表。
第4回	ディスカッション①「社会学の扉」から	ディスカッションをして報告書を作成する。
第5回	読解②「生活科学の扉」から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第6回	発表②「生活科学の扉」から	受講生による発表。
第7回	ディスカッション②「生活科学の扉」から	ディスカッションをして報告書を作成する。
第8回	読解③「人文学の扉」から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第9回	発表③「人文学の扉」から	受講生による発表。
第10回	ディスカッション③「人文学の扉」から	ディスカッションをして報告書を作成する。
第11回	読解④「芸術学の扉」から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。
第12回	発表④「芸術学の扉」から	受講生による発表。
第13回	ディスカッション④「芸術学の扉」から	ディスカッションをして報告書を作成する。
第14回	読解⑤「工学の扉」から	テーマについての基礎知識を学ぶ。語彙と表現を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『留学生のためのディスカッショントレーニング』香月裕介他、2024年、2,200円（税込）
学びの扉 (留学生のための 分野別)　JASSO 日本語教育センター 編集・制作2022年、2300円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度30％、課題等提出物等40％、発表30％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、日本語で発表する経験を通じて運用力が伸びたことや、発表準備の進め方を具体的に学べた点が評価されていた。また、発表原稿作成の力が向上したとの声も多く、段階的な指導が学習の自信につながることを改めて実感した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will provide the Japanese you need to study effectively in an academic environment. It will highlight strategies for effective learning using two skills, namely, speaking and listening. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to gain effective communication skills and compose coherent and academically supported oral presentations in Japanese.Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score30%, assiments40% and presentations30%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- I

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
対面と法政大学のGoogle クラスルームおよびGoogleドライブとの併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、文章を書いて授業後に提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。作成するレポートは、論証型のレポートとする。提出した文章の相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。学習した内容についての小テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。メールタスクおよび次週以降のミニプレゼンの準備。
第2回	グループワーク・発表 ①メールタスクのフィードバック ②プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第3回	Ⅰ　Good　Writingを目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第5回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第7回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	Ⅲ　リサーチペーパー②発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第10回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。 アウトラインをもとに執筆する。
第12回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現の課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『GoodWritingへのパスポート』田中真理・阿部新、くろしお出版、2014年、2,200円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assiments40％ and reports 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- I

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
対面と法政大学のGoogle クラスルームおよびGoogleドライブとの併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、文章を書いて授業後に提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。作成するレポートは、論証型のレポートとする。提出した文章の相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。学習した内容についての小テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。メールタスクおよび次週以降のミニプレゼンの準備。
第2回	グループワーク・発表 ①メールタスクのフィードバック ②プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第3回	Ⅰ　Good　Writingを目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第5回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第7回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	Ⅲ　リサーチペーパー②発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第10回	Ⅲ　リサーチパーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。 アウトラインをもとに執筆する。
第12回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現の課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『GoodWritingへのパスポート』田中真理・阿部新、くろしお出版、2014年、2,200円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assiments40％ and reports 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- I

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
対面と法政大学のGoogle クラスルームおよびGoogleドライブとの併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、文章を書いて授業後に提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。作成するレポートは、論証型のレポートとする。提出した文章の相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。学習した内容についての小テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。メールタスクおよび次週以降のミニプレゼンの準備。
第2回	グループワーク・発表 ①メールタスクのフィードバック ②プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第3回	Ⅰ　Good　Writingを目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第5回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第7回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	Ⅲ　リサーチペーパー②発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第10回	Ⅲ　リサーチペーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。 アウトラインをもとに執筆する。
第12回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現の課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『GoodWritingへのパスポート』田中真理・阿部新、くろしお出版、2014年、2,200円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、論理的なレポート作成や発表の準備方法が理解でき、自信がついたとの声が多く、学習成果の広がりを実感した。一方で、指摘の仕方や個別指導の待ち時間、発表への具体的支援など改善点も示された。学習意欲を損なわず、より効率的で納得感のある指導体制づくりの重要性を再確認した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assiments40％ and reports 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- I

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法と目的・場面に応じた文書の作成方法を学ぶ。こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①論理的なレポートを作成することができる。
②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。
③レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
対面と法政大学のGoogle クラスルームおよびGoogleドライブとの併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、文章を書いて授業後に提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。作成するレポートは、論証型のレポートとする。提出した文章の相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。学習した内容についての小テストを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介、ミニプレゼンテーション準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。メールタスクおよび次週以降のミニプレゼンの準備。
第2回	グループワーク・発表 ①メールタスクのフィードバック ②プレゼンテーション	今後の円滑なピア活動のため、グループでミニプレゼンを行い、概要をクラスで共有する。
第3回	Ⅰ　Good　Writingを目指そう　文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	Ⅱ　パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマを一つ選択し執筆する。
第5回	Ⅱ　パラグラフライティング②　発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	Ⅱ　パラグラフライティング③　説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマを一つ選んで執筆する。
第7回	Ⅱ　パラグラフライティング④　発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	Ⅲ　リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	Ⅲ　リサーチペーパー②発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（５文程度）を書く。
第10回	Ⅲ　リサーチペーパー③　発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	Ⅲ　リサーチペーパー④　執筆　「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。 アウトラインをもとに執筆する。
第12回	Ⅲ　リサーチペーパー⑤　執筆　「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	Ⅲ　リサーチペーパー⑥　ピアレスポンス１	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	Ⅲ　リサーチペーパー⑦　ピアレスポンス２、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現の課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『GoodWritingへのパスポート』田中真理・阿部新、くろしお出版、2014年、2,200円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、論理的なレポート作成や発表の準備方法が理解でき、自信がついたとの声が多く、学習成果の広がりを実感した。一方で、指摘の仕方や個別指導の待ち時間、発表への具体的支援など改善点も示された。学習意欲を損なわず、より効率的で納得感のある指導体制づくりの重要性を再確認した。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will feature strategies for writing coherent and academically supported essays in Japanese based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of lectures, class discussions about topics, and peer responses. By the end of the course, students are expected to compose coherent and academically supported essays and read and critique essays. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assiments40％ and reports 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- II

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える課題1についてグループでミニプレゼンを行う。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』仁科浩美、くろしお出版、2020年、1,980円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、プレゼンテーション40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assimentss40％ and presentations 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- II

重村　美代子

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える課題1についてグループでミニプレゼンを行う。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』仁科浩美、くろしお出版、2020年、1,980円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、プレゼンテーション40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assimentss40％ and presentations 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- II

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える課題1についてグループでミニプレゼンを行う。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』仁科浩美、くろしお出版、2020年、1,980円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、プレゼンテーション40％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、やることリストの提示やアウトライン作成、発表練習を通して、論理的な構成力や表現力が向上し、自信につながったとの声が多く寄せられ、実践的な学習活動の効果を確認した。また、グループワークや意見交換を通じて、他者の視点に触れる機会を評価する意見も見られた。一方で、個別指導の進め方や待ち時間、課題提出方法・評価基準、AI利用に関する説明について、より分かりやすい提示や見通しを求める意見もあった。これらを踏まえ、学期初期に示している情報について、一覧化や再確認の機会を設けるなど、理解を助ける工夫に留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assimentss40％ and presentations 40%.
This course is open only to international students.

LANj200IA（日本語 / Japanese language education 200）

日本語3- II

安達　万里江

カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：留学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。
こちらの科目は外国人留学生のみ受講できる授業である。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、問いを立て、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報のわかりやすい伝え方等の口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて、問いを立て、計画的に情報収集し、スライド及び発表原稿を作成、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、司会進行・質問・コメント等を積極的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方　発表①テーマ案についてのミニプレゼン	情報をまとめて他者に伝える課題1についてグループでミニプレゼンを行う。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③　プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④　スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤　発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う。
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『留学生のための考えを伝えあうプレゼンテーション』仁科浩美、くろしお出版、2020年、1,980円（税込）

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度20％、課題等提出物等40％、プレゼンテーション40％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、やることリストの提示やアウトライン作成、発表練習を通して、論理的な構成力や表現力が向上し、自信につながったとの声が多く寄せられ、実践的な学習活動の効果を確認した。また、グループワークや意見交換を通じて、他者の視点に触れる機会を評価する意見も見られた。一方で、個別指導の進め方や待ち時間、課題提出方法・評価基準、AI利用に関する説明について、より分かりやすい提示や見通しを求める意見もあった。これらを踏まえ、学期初期に示している情報について、一覧化や再確認の機会を設けるなど、理解を助ける工夫に留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業活動や課題アナウンスで使用するため、大学が発行する個人ID・パスワードを確認し、事前にGoogle クラスルーム、Googleドライブが使用できるよう準備をしておくこと

【その他の重要事項】
学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合がある。

【Outline (in English)】
This course will describe strategies for composing a coherent oral presentation based on texts related to academic topics presented in class. The course will be based on a combination of oral presentations by students, class discussions, and lectures. By the end of the course, students are expected to formulate coherent and academically supported oral presentations, and provide critical comments to presentations. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score20％, assimentss40％ and presentations 40%.
This course is open only to international students.

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

安藤　正志

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

伊藤　真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

井上　尊寛

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

片上　千恵

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

笹澤　吉明

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

瀬戸　宏明

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

高見　京太

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

BSP100IA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スポーツ健康学入門

吉田　政幸

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキル、研究倫理について学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) レポートの書き方
(2) ディスカッションの方法
(3) 研究倫理
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は原則対面で行う。またクラス毎講習と全クラス合同の講義で構成される。新型コロナウイルス感染拡大などの社会情勢により、授業計画、演習の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢について。
2	栄養（全体講習）	スポーツと栄養、スポーツ選手の栄養サポートについて学ぶ。
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動、薬物の理解、対処法について学ぶ。
4	メディカルチェック・体力測定（全体講習）	メディカルチェックと体力測定のフィードバックを行う。
5	教育と研究（研究倫理教育）（全体講習）	各コース（スポーツコーチング、スポーツビジネス、ヘルスデザイン）における学びと研究法および研究倫理について理解を深める。
6	進路・就職活動について（全体講習）	スポーツ健康学部の進路動向、スポーツ健康学を活かした就職活動について（キャリアセンタースタッフによる講習）
7	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、開催の効果、インターンシップへの準備と実施でのマナーについて。
8	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路、留学に関する情報提供、大学院の概要について。
9	ディベートについて（クラス別講習）	論拠とは何か、論理的対話・ディスカッションについて、およびディベートの技術論について学ぶ。
10	調査・研究とその倫理について（クラス別講習）	リサーチクエスチョンの立て方、先行研究の総括、データベースや書誌・資料検索、研究倫理および剽窃・盗用について学ぶ。
11	レポート・論文の作成方法（クラス別講習）	パラグラフライティング、論理的文章の構成・作成方法、図表の作成方法、引用・参照の方法について学ぶ。
12	プレゼンテーションとは（クラス別講習）	プレゼンテーションの方法論・技術、スライド作成アプリケーションの活用方法について学ぶ。
13	プレゼンテーション（クラス別講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う。
14	まとめ（クラス別講習）	春学期の学びを振り返り、身に付けた基礎的なスタディスキルを秋学期以降の学習に役立てることの重要性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として、図書館の利用、レポートの作成、プレゼンテーションの準備などあり。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業ごとに都度、指示する）。

【参考書】
個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点×８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。

【学生の意見等からの気づき】
1年生が大学生活に適応できるよう、仲間づくりや大学での学びを少人数のクラス単位で支援する。

【学生が準備すべき機器他】
レポートを作成したり、プレゼンテーションの資料を作成したりするためのパソコンなどの端末、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）などのアプリケーション。

【その他の重要事項】
授業の場所や内容が授業ごとに異なるので、毎週連絡事項を確認し、指示に従うこと。

【Outline (in English)】
[Course outline] The purpose of this course is to learn the basic knowledge, skills, and ethics in research as a university student. In addition to academic gains, social relationships between the students are also enhanced by a cooperative-learning environment.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to acquire the skills of writing a report, discussion, writing an academic abstract, and effective presentation according to the guidelines of research ethics.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of in-class contribution (40%) and a report handed in and presentation in the classroom (60%).

CAR100IA（キャリア教育 / Career education 100）

スポーツとキャリア形成

伊藤　真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式の授業（ワークシート、グループワーク、ペアワーク、発表）を通して、実践的に学ぶ。

【到達目標】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。ワークシート、グループワーク、ペアワークを通じてを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１４回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（ワークシート、グループワーク、発表）で学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。「なりたい職業」や自己紹介を通じて、「私」について考える。
2	キャリア形成に必要なスキルとは	「Work Shift」、「Life shift」を参考に人生100年時代の働き方について考える。21世紀型スキルに代表される基本的能力（ジェネリックスキル）について学習する。
3	日本のスポーツ界の現状を理解する	日本のスポーツ界の歴史を振り返る。国際的メガイベント、ワールドカップ、オリンピックを中心としてスポーツの発展をスポーツビジネス的観点からみていく。
4	スポーツ界の現状を理解する	スポーツプロダクト（グッズとサービス）について学習し、スポーツマネジメント的観点で現状を捉えるとどのような事例があるかを考える。
5	キャリアプランニング 自分を知ろう１【ライフライン】	キャリア形成プランをたてるために、これまでの自分の歩みをふりかえり、人生の岐路となった経験について考える。
6	キャリアプランニング 自分を知ろう2【Identityについて】	キャリア形成プランをたてるために、Identityとは何か、まずは自分について考える。
7	キャリアプランニング 自分を知ろう3【仕事観と人生観】	キャリア形成プランをたてるために、自分の仕事観と人生観について考え、言語化する。
8	キャリアプランニング: 自分を知ろう4【キャリアアンカー】	キャリア形成プランをたてる、キャリアアンカーについて学び、自分のキャリアアンカーについて考えてみる。
9	キャリアスキル1	構成力、PDCAサイクルの説明、広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える。
10	キャリアスキル2	コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルついて学ぶ。
11	スポーツのキャリアについて	スポーツに関わる職業とは 各自、興味のある職業について調べる。
12	スポーツのキャリア形成：グループプレゼンテーション準備	スポーツに関わる職業について調べプレゼンテーションの準備をする。
13	スポーツのキャリア形成 グループプレゼンテーション	スポーツに関わる職業について調べ、グループで発表する。
まとめ	スポーツのキャリア形成 グループプレゼンテーション総括	各グループプレゼンテーションへのコメント・フィードバックをもとにグループごとに各自の発表についてよかった点、改善点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次回の授業に生かすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
ワーク・シフト　―孤独と貧困から自由になる働き方の未来図< 2025>　リンダ グラットン著　プレジデント社
LIFE SHIFT(ライフ・シフト)　リンダ グラットン著　東洋経済新報社
ライフキャリア　人生を再設計する魔法のフレームワーク　原尻淳一・千葉智之著　プレジデント社
資料はその都度授業内に配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価項目は以下の3項目からなる。
①ワークシート（リアクションペーパーを含む）50%
②レポート30%
③グループ・プレゼンテーション20%
合計：100%

【学生の意見等からの気づき】
ワークシートを作成し、これからの自己分析や今後のキャリアについて考える機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業を通して、個人・グループでの作業に積極的に取り組むことで、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【Outline (in English)】
Course outline and Learning Objectives）
Understanding the current state of sports environment and system in Japan, deepening your understanding of occupations involved in sports, and making a career plan that will serve as a clue to connect what students learn under the theme of their own career development.Practically learn the basic skills (generic skills) which is important in career formation and is required for everyone in order to survive through the modern global society through classes based on active learning form.The lectures will let you imagine your career through group work and pair work, and will help acquire basic skills.
（Learning activities outside of classroom）
After the lecture, thoroughly review the lecture contents and assignments, and make use of them in the next class.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation items consist of the following three items.
① Worksheet (including reaction paper) 50%
② Report 30%
③ Group presentation 20%
Total: 100%

MAT100IA（数学 / Mathematics 100）

数学

坂本　寛

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】
統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。
微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講師からの一方的な講義にならぬよう、授業内にも実習時間を設けます。
数学の問題を解決するために、Maxima等のソフトウェアを活用します。
毎回、学習支援システムを通して課題の出題・提出していきます。
オンライン教材の中で演習課題が出題されます。
演習課題には筆記によるものとPCを利用するものがあります。
毎回、学習支援システムを通して課題の出題・提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima入門	数学学習を支援するソフトウェアとしてMaximaの基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることが出来ます。そのベクトルの基本を学びます。
10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	試験・まとめと解説	授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答できることが求められます。
コンピュータ実習を伴う課題があります。概ね授業時間内での演習課題が出題されますが、授業時間内で課題が完成しない場合は次週授業時間前までに学習支援システムを利用して提出してもらいます。
教科書から出題される宿題。次回授業開始時にレポート形式で提出を求めます。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
統計学のための数学教室 / 永野裕之著
　ISBN:9784478028247
定価：2640円（本体2400円＋税10％）
発行年月：2015年09月

【参考書】
統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著
　ISBN:9784563010041
統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著
　ISBN:9784563010058
統計学のための数学入門30講 / 永田靖著
　ISBN:9784254116335
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題提出(50%)
　毎回、学習支援システムにて課題を提出してもらいます。
期末試験(50%)
　この科目で学習した基本事項を問う筆記試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】
各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続可能なコンピュータが必要。(コンピュータの性能は高くなくて十分です。)
カメラ付きスマートフォン(またはそれに代わる物)。
A4サイズのレポート用紙。
筆記用具。

【その他の重要事項】
統計学I・IIの履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course broadly covers the basics of mathematics for studying statistics.
Learning Objectives: Students are expected to understand the basics of mathematics for studying statistics.
Learning activities outside of classroom: Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria/Policy: Quality of class reports (50%) and final course exam. (50%)

MAN100IA（経営学 / Management 100）

経営学

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業がどのような活動しているのかなど学生諸君の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などで活動することを想定して有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。
本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心に学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。
また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。
「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらうように学習を進めていきますが、企業や経営というものがいったいどのようなものかということを理解してもらうために事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。
講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】
経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。
今後、学生諸君は就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。
学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。
各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。
各講義の資料を用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の形態	企業とはどのようなものか、企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度などの視点から理解する。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら確認する。
5	マネジメント	組織を管理するうえで動機付けの重要性とその論理と手法の確認する。
6	経営組織論(1)：組織とは何か	動議付けの重要性への理解とリーダーシップの重要性を理解する。
7	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を理解する。
8	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性を理解する。
9	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念を理解する。
10	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法を理解する。
11	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントを理解する。
12	マーケティング	マーケティングの基本となる市場ニーズの捉え方や購入促進に関する仕組みを理解する。
13	経営学の展開	企業だけでなくそれ以外の組織体にも経営学が適用されていることを理解する。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。
講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
講義外の自主学習のために以下の書籍をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。
・加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第3版』碩学舎、2021年3月。
その他参考書については講義内および学習支援システムにおいて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の5点に基づいて評価します。
1.講義への参加（20％）
積極的な講義への参加が評価対象です。
2.リアクション・ペーパーの提出（20%）
講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
3.基礎用語・時事用語回答の提出（20%）
講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。
4.課題レポートの提出（20％）
講義の進行にあわせて3回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。
5.期末レポート（20％）
講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】
経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。
講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。
毎年講義中に提出してもらっているリアクション・ペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して独自テキストや配布資料の確認、課題提出を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
・企業において株主総会を中心としたIR業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。
・現在、自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline

This business management class is designed for students who study for the first time to understand the basics knowledge of business administration.Students learn how business science theory is applied to the corporation activities, which is very familiar in their daily life.This class is focused on management strategy and organization theory with variety of case studies. Various cases studies are provided to support deep understanding of the corporate activities and their business operations.
2.Learning Objectives
Business Administration can be regarded as the study of a specific area of corporate activity. However, it is very familiar in our private life, because we use goods or services as the products of suppliers' corporate activities. The goal of this lecture is to understand the basics of business administration as familiar matters.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Students are given an assignment to look up basic terms related to business administration or current terms related to corporate management. Students present their research results and findings during the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Grades for this course will be based on the following five points.
1)Lecture participation (20%)
Active participation in the lecture will be evaluated.
2)Submission of reaction paper (20%)
Submission of a reaction paper summarizing thoughts and opinions on the lecture content after the lecture.
3)Submission of answers to basic and current terminology (20%)
For each lecture, students are required to research basic terms related to business administration and current terms related to corporate management, and submit the results of their research.
4)Submission of assignment reports (20%)
Students will be asked to prepare three reports as the lecture progresses. Must be submitted by the due date. Reports will be evaluated based on the content of the lecture.
5)Final report (20%)
Prepare and submit a report applying what you have learned in the lecture.

LAW100IA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

森　浩寿

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、教職課程の必修科目である。
日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、教育現場で必要な法知識の習得を目指し、加えて、日常生活に関係する法律問題として、子どもの権利、契約、罪と罰などについても対象とする。

【到達目標】
まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに教育現場で必要な法化意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
実際に発生している身近な事例を題材に、どういう法律が整備されているのか、なぜその規定が必要なのか、何が問題なのかなどについて学習する。なお、積極的に議論を行い、自分の考えを言語化することおよび他者との考えを知ることを取り入れていく（意見発出・小レポート）。
提出された小レポート等については、適宜、次回の授業で紹介し、学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 法令の基礎知識	授業の進め方、テキスト、評価について 憲法、法律、条例、規則、条理について
2	近代憲法の誕生と発展	憲法とは、立憲的意味の憲法の特質
3	日本国憲法について	日本憲法史と立憲主義、明治憲法、日本国憲法、憲法改正
4	基本的人権・1（人権とは）	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下の平等
5	基本的人権・2（自由権の保障）	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3（社会権の保障）	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
7	教育と法・1（教育基本法と現代的課題）	教育関連法規、学校教育法、教科書裁判、教師の権利
8	教育と法・2（子どもの権利、校則問題）	子どもの権利条約、校則問題、体罰問題
9	教育と法・3（いじめ問題、不登校問題）	いじめ問題、不登校問題、学習機会の確保
10	労働と法	就職、退職、転職、労働災害補償
11	罪と罰・1（犯罪）	刑法の機能、犯罪の成立
12	罪と罰・2（刑罰）	刑事罰の意味、罰則の適用、死刑制度
13	紛争解決手段	裁判と裁判外紛争解決、裁判制度、仲裁と調停
14	試験・まとめと解説	理解度確認試験、今期の振り返りと試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：シラバスの理解
第2〜3回：日頃から新聞を読む
第4〜9回：社会の出来事から、人権問題をさがす
第10〜14回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
実時数の２／３以上の出席を前提とし、平常点として授業内での発言・小レポート（30％）及び試験（70％）で評価し、合計60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline (in English)】
Course outline
It is one of the required course for the teacher training project.
The goals of this course are to
(1) raise the interest about the Law
(2) obtain some basic knowledge (human rights) about the Constitution
(3) be able to　take the action based on the respect for human rights
Learning Objectives
The goals of this course are to raise awareness about the law, acquire general knowledge of the law, and enable the practice of legalization awareness-based behavior necessary in educational settings.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to be in touch with the news on a regular basis and take an interest in social events. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria
Final grade will be calculated according to the following process Short reports for each meeting (30%) and term-end examination (70%).

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

コミュニケーション論

片上　千恵

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
対人コミュニケーションに必要な対話力とそのベースとなる論理的思考力をロールプレーやグループワークを通じて実践的に身につけることで、情報を正しく捉え、発信する力を養う。あわせて学際的に展開する様々なコミュニケーション理論を用い、現代社会に必要なコミュニケーション能力とは何かを考える。

【到達目標】
・コミュニケーション理論の基礎を理解する。
・伝えたい情報を整理し論理的に発信できる。
・メディアが発信する情報を読み解き、正しく活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを活用した講義形式。コミュニケーションスキルを向上することが主目的であるため、ロールプレーやグループワークでのディスカッションなどを通して、毎授業、可能な限り履修者全員に発言の機会を設ける。後半はグループに分かれて競技ディベートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コミュニケーションの基礎。言語・非言語メッセージがどのように相互理解に繋がるのかを言語学、社会学等の理論やモデルとともに解説する。
2	コミュニケーションスキル①対話	対話と会話の違いとは何か。異文化コミュニケ－ションにおけるコンテクストの違いについて学ぶ。
3	コミュニケーションスキル②パラグラフライティング	情報の整理の仕方。時間配列と空間配列における説明の仕方。文章構成の基礎となるパラグラフライティングについて学ぶ。
4	コミュニケーションスキル③絵の分析	絵画分析を通して、物事を深く観察し、なぜそのように解釈したかを言語化し論証していく。分析力や批判的思考力を鍛える。
5	コミュニケ－ションスキル④テクスト分析	物語の構造を学び、文学作品やスピーチを例にテクストの仕組みを理解し、深く解釈できる観点を学ぶ。
6	マス・コミュニケーションの影響	情報環境の拡大に伴うマスメディアの普及。近代社会におけるマス・コミュニケーションの効果とその影響モデルの変遷について学ぶ。
7	情報社会とコミュニケーション	インターネットの普及によりニューメディアやマルチメディアの開発・普及が目まぐるしく進んだことで、社会構造や文化構造までが変化してきた。情報化の進展におけるコミュニケーション過程の変化について考察する。
8	演劇ワークショップ（ゲスト招聘）	指定の台本をもとに演劇に挑戦する。演じることを通してコンテクストの差異に気付き、コミュニケーションを円滑にするためにデザインすることを学ぶ。
9	ディベートの方法	ディベートの手順と目的。1対1で模擬ディベートを実践し、競技ディベートの仕方を理解する。
10	ディベートの準備	与えられた論題に関する情報・資料を収集し、競技ディベートのグループごとに立論を組み立てる。
11	ディベート実践①情報発信の仕方	グループ対抗でトーナメント戦実施：ノンバーバル・コミュニケーションを意識する。
12	ディベート実践②情報発信のタイミング	グループ対抗でトーナメント戦実施：情報を戦略的に発信する。
13	ディベート実践③聴衆の態度	グループ対抗でトーナメント戦実施：話の聞き方、審判の役割について学ぶ。
14	総括	まとめとレポート作成（授業内テスト）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発言（20％）、授業内レポートと提出物（30％）、ディベート（50％）
※ディベートでのパフォーマンスは授業内で学んできた論理的思考力、情報発信力、対話力、観察力、分析力などを総合的に評価するものとする。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業後に感想や質問などを記入するリアクションペーパーを提出してもらう。次の授業冒頭でその内容についてフィードバックを行うことで、学生の疑問を解決し、前回授業の復習を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Through role-playing and group work, students will practice and acquire practical skills in dialogue necessary for interpersonal communication, as well as the logical thinking skills that form its foundation. This will enable them to accurately grasp and effectively communicate information. Additionally, various interdisciplinary communication theories will be explored to consider what constitutes essential communication skills in contemporary society.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand communication theory and to correctly interpret and utilize information from the media.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Classroom participation (20%), in-class reports and assignments (30%), and debates (50%).

GDR100IA（ジェンダー / Gender 100）

スポーツとダイバーシティ

伊藤　真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的、社会的背景を紐解きながら、多様性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー」(社会・文化的側面)、「セクシャリティー」(生理学的・解剖学的側面)、メディア、プロモーション、様々な角度から多様性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の多様性とスポーツに関連した事例を通して、今後の多様性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】
様々な角度からスポーツと多様性について学び、今後のスポーツと多様性の可能性について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間を設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史Ⅰ：日本や諸外国における女性スポーツの事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史Ⅱ：アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトル IX」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状：女性のスポーツ参画に関する日本ならびに諸外国の現状	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。また、諸外国並びに日本のスポーツ界における女性コーチの現状について学ぶ。
6	女性の身体とスポーツ、スポーツ参加について	女性アスリートの身体について・女性アスリートの３主徴“Female Athlete Triad”について学ぶ。BCS (Body Confident Sport) や、スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」の紹介を聞き、スポーツ実施率について考える。
7	スポーツ界における多様性Ⅰ：スポーツとジェンダー	ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
8	スポーツ界における多様性Ⅱ：諸外国におけるジェンダー関連事項	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関する諸外国のスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
9	スポーツ界における多様性Ⅲ：パラリンピック	パラアスリートについて学ぶ。
10	スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでのアスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅰ	多様性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける多様性戦略の意味を考える。
12	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅱ	視聴覚資料を通じて、多様性について考える。 グループ発表に向けた準備と最終レポート課題についての説明。
13	グループ発表	授業内で提示するテーマの中から、グループ毎にテーマを選び、発表する。
14	総括	授業の振り返り、グループプレゼンテーションの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。
視聴覚資料：DREAM

【成績評価の方法と基準】
成績は、リアクションペーパーの内容（20％）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（30%）、レポートの内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義で扱うテーマについて学生同士の意見交換を行う場（グループディスカッションなど）を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
We will learn about diversity in sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women’s participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of diversity in sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of diversity in sports in the future through the actual cases related to diversity in sports in both Japan and in foreign countries.
(Learning activities outside of classroom)
Compile a report related to the theme covered in class.
(Grading Criteria /Policy)
Grades will be evaluated based on reaction paper content (20%), class room tests (20%), group presentation (30%), and report (30%).

GDR100IA（ジェンダー / Gender 100）

女性とスポーツ

伊藤　真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的、社会的背景を紐解きながら、多様性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー」(社会・文化的側面)、「セクシャリティー」(生理学的・解剖学的側面)、メディア、プロモーション、様々な角度から多様性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の多様性とスポーツに関連した事例を通して、今後の多様性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】
様々な角度からスポーツと多様性について学び、今後のスポーツと多様性の可能性について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間を設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史Ⅰ：日本や諸外国における女性スポーツの事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史Ⅱ：アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトル IX」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状：女性のスポーツ参画に関する日本ならびに諸外国の現状	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。また、諸外国並びに日本のスポーツ界における女性コーチの現状について学ぶ。
6	女性の身体とスポーツ、スポーツ参加について	女性アスリートの身体について・女性アスリートの３主徴“Female Athlete Triad”について学ぶ。BCS (Body Confident Sport) や、スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」の紹介を聞き、スポーツ実施率について考える。
7	スポーツ界における多様性Ⅰ：スポーツとジェンダー	ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
8	スポーツ界における多様性Ⅱ：諸外国におけるジェンダー関連事項	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関する諸外国のスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
9	スポーツ界における多様性Ⅲ：パラリンピック	パラアスリートについて学ぶ。
10	スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでのアスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅰ	多様性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける多様性戦略の意味を考える。
12	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅱ	視聴覚資料を通じて、多様性について考える。 グループ発表に向けた準備と最終レポート課題についての説明。
13	グループ発表	授業内で提示するテーマの中から、グループ毎にテーマを選び、発表する。
14	総括	授業の振り返り、グループプレゼンテーションの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。
視聴覚資料： DREAM

【成績評価の方法と基準】
成績は、リアクションペーパーの内容（20％）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（30%）、レポートの内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義で扱うテーマについて学生同士の意見交換を行う場（グループディスカッションなど）を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
We will learn about diversity in sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women’s participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of diversity in sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of diversity in sports in the future through the actual cases related to diversity in sports in both Japan and in foreign countries.
(Learning activities outside of classroom)
Compile a report related to the theme covered in class.
(Grading Criteria /Policy)
Grades will be evaluated based on reaction paper content (20%), class room tests (20%), group presentation (30%), and report (30%).

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
　また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
　コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
　コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
　情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
　コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
　大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
　ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
　プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
　今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
　講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
　講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
　積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
　講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
　受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
　自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
　また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
　コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
　コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
　情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
　コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
　大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
　ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
　プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
　今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
　講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
　講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
　積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
　講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
　受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
　自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
　また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
　コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
　コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
　情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
　コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
　大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
　ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
　プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
　今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
　講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
　講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
　積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
　講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
　受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
　自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives

To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーII

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村愼一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーII

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村愼一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーII

新海　貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1～4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村愼一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体および企業からのIT講習などの運営受託、社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツレクリエーション論

谷本　都栄

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】
・現代の日本における様々な地域の課題を認識し、スポーツ・レクリエーションがどのように貢献できるかを考える。
・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・各種資料、ケーススタディから具体的に内容を把握できるようにする。
・レクリエーション事業計画では、地域の調査及び企画書の作成を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	レクリエーションの意義と役割	レクリエーションに関わる諸理論、レクリエーションの意義と役割について学ぶ。
第3回	レクリエーション運動の歴史	欧米から始まるレクリエーション運動について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第4回	戦後日本のレクリエーション運動	戦後の日本におけるレクリエーション運動について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第5回	発達・人生課題とレクリエーション	各ライフステージにおける発達課題と人生課題について学ぶ。
第6回	家族とレクリエーション	子育て・子育ち支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第7回	高齢者とレクリエーション	高齢者の介護予防支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第8回	障害者とレクリエーション	障害者の自立支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第9回	ライフスタイルとレクリエーション	第8回までの授業内容の総括
第10回	レクリエーション事業計画　プログラムの組み立て方	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について学ぶ。
第11回	レクリエーション事業計画の実際①　個人・集団・環境への働きかけ	個人・集団・環境への働きかけについて実践事例から学ぶ。
第12回	レクリエーション事業計画の実際②　地域課題へのアプローチ	地域課題へのアプローチについて実践事例から学ぶ。
第13回	安全管理とリスクマネジメント	事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて学ぶ。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・各課題は、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・ワークシートおよびリアクションペーパー70％
・課題Ⅰ　ライフスタイルとレクリエーション10％
・課題Ⅱ　レクリエーション事業計画20％
全ての課題提出を前提条件とし、総合的に成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recreation, leisure and sports activities play an important role in communities. Participation in recreation and sports activities can have many benefits for both the individual and community, that include improving health and well-being, contributing to the empowerment of people by bringing together, and promoting social integration and the development of inclusive communities.
【Learning Objectives】
The program has the following objectives.
1.Provide students the foundational knowledge and skills required for recreation and sport play
2.Encourage students to organize recreation or sport programs in their life
【Learning activities outside of classroom】
・Read materials introduced in lecture to deepen your understanding.
・Prepare for each assignment by referring to the procedure explained in lecture.
・The standard time for preparation and review for this class is 2 hour each.
【Grading Criteria /Policy】
・Worksheets and reaction papers 70%
・Report Ⅰ: Lifestyle and recreation 10%
・Report Ⅱ：Plannning recreation 20%

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学 I

畑中　翔

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データを活用して新たな知見を得たり根拠に基づく選択をするには、統計学を理解し正しく扱うことが求められます。本授業では統計学の基礎の理解とデータ分析の実践的技術の獲得（※）を目的とします。
※フリーの統計解析ソフトRおよびその統合開発環境であるR Studioを用いる。

【到達目標】
1) 統計学の基礎を理解している。
2) 図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握できる。
3) 統計ソフトを用いて初級レベルの統計的分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を繰り返しながら学習を進めます。時間配分は演習を重視し、演習では統計ソフトRおよびR Studioを用います。
数学やコンピュータが苦手であってもついていけるよう配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要・Rのインストールと使い方	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。RおよびR Studioのインストールと基本的な使い方について概説する。
2	記述統計（1）：数量的要約	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）：視覚的要約	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。
5	演習：データの要約	データの要約を各自でできるか例題を用いて実践する。
6	中間テスト	1〜5回目までの内容に関して中間テストをおこなう。
7	中間テストの解答・解説	中間テストの解答と解説をおこなう。
8	推測統計（1）	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、推測統計の基礎について学ぶ。
9	仮説検定（1）	仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準について学ぶ。
10	仮説検定（2）	具体的な仮説検定の手法を学ぶ。
11	演習：仮説検定	統計的仮説検定を各自でできるか例題を用いて実践する。
12	総括	1〜11回目までの内容を復習する。
13	期末テスト	統計学の基礎的理解と解析の実践的技術の習得状況を判定するテストをおこなう。
14	期末テストの解説	中間テストの解答と解説をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・RおよびR Studioの使い方について自学自習を心掛ける。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Rによるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格：2970円）

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/ kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve社 統計WEB｜統計学の時間（無料ウェブ教材）
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・Rによる統計処理（無料ウェブ教材）
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・東京大学Open Course Ware　統計データ解析I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学Open Course Ware　統計データ解析II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）と期末テスト（60%）の成績により評価する。授業内容の理解と実践経験を十分積まないとテストで及第点は得られない。そのため、毎回の授業に出席した上で、各授業において理解不足の点を残さないことは重要である。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や難易度、順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
・自宅等でRおよびR Studioが利用可能なコンピュータを準備できることが望ましい。

【その他の重要事項】
・ノートやメモを適宜取ること。
・PCやオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。エクセルやワードの使い方、メールソフトの使い方などは本授業の範囲外であり、原則としてそれらを指導する機会を設けない。
・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In order to use data to gain new insights and make evidence-based decisions, it is necessary to understand and use statistics correctly. This course is designed to provide students with an understanding of the fundamentals of statistics and practical techniques for data analysis.
The open-source statistical software R (and R Studio) has been adopted in this course to use the software.
[Learning Objectives]
1) Understand the basics of statistics.
2) Understand the characteristics and trends of data using graphs and figures.
3) Perform basic statistical analysis using statistical software.
[Learning activities outside of classroom]
1) Students are expected to learn how to use R and R Studio on their own.
2) The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Students will be evaluated based on their performance on a midterm test (40%) and a final test (60%). Students will not receive a passing grade on the tests unless they have sufficient understanding of the course content and practical experience. Therefore, it is important that students attend every class and do not leave any gaps in their understanding.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学 II

畑中　翔

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データを活用して新たな知見を得たり根拠に基づく選択をするには、統計学を理解し正しく扱うことが求められます。本授業では卒業論文や就職後の仕事で役立つことが見込めるレベルでの統計学の理解とデータ分析の実践的技術の獲得(※)を目的とします。
※フリーの統計解析ソフトRおよびその統合開発環境であるR Studioを用いる。

【到達目標】
1) 統計的分析の基礎的な考え方を理解している。
2) 分析の目的やデータの特徴から分析方法を選択できる。
3) 統計ソフトを用いて統計的分析と結果の解釈ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を繰り返しながら学習を進めます。時間配分は演習を重視し、演習では統計ソフトRおよびR Studioを用います。
数学やコンピュータが苦手であってもついていけるよう配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学Iの復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学Iの内容を復習する。
2	データハンドリング	データを解析しやすい形に整形する方法などについて学ぶ
3	t検定、カイ二乗検定	2群間に、統計学的に意味のある差があるか検討する方法を学ぶ。
4	一元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、1つの要因により、3つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
5	二元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、2つの要因により、3つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
6	演習：群間比較	練習問題を用いて、群間を比較する解析を実践する。また、その結果の解釈について学ぶ。
7	中間テスト	1〜5回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。授業の進捗によっては中間テストを第7回目にずらす可能性がある。
8	中間テストの解答・解説	中間テストに出題された問題の解答と解説をおこなう。
9	回帰分析	一方の変数から他方の変数を予測する分析手法の理論を学ぶ。
10	重回帰分析	間隔・比率尺度である1つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法の理論について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。ダミー変数の作成法について学ぶ。
11	ロジスティック回帰分析	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法の理論について学ぶ。
12	総括・練習問題	期末テストに向けて、サンプルデータセットを用いて練習問題に取り組む。ただし、授業の進捗によっては割愛することもある。
13	期末テスト	1〜13回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学Iでの学習内容もテストに含まれる。
14	期末テストの解説	期末テストの解答と解説をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・RおよびR Studioの使い方について自学自習を心掛ける。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Rによるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格：2970円）

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/ kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve社 統計WEB｜統計学の時間（無料ウェブ教材）
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・Rによる統計処理（無料ウェブ教材）
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・東京大学Open Course Ware　統計データ解析I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学Open Course Ware　統計データ解析II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト(40%)と期末テスト(60%)の成績により評価する。授業内容の理解と実践経験を十分積まないとテストで及第点は得られない。そのため、毎回の授業に出席した上で、各授業において理解不足の点を残さないことは重要である。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
・自宅でRおよびR Studioが利用可能なコンピュータを準備できることが望ましい。

【その他の重要事項】
・統計学Iを未履修であっても受講可であるが、統計学Iを履修し合格済みであることを前提として授業を進める。中間テストや期末テストで、統計学Iの内容が含まれることに留意すること。
・2019年度以前に統計学Iを履修済みで、本年度に統計学IIを受講する者は、使用ソフトがSPSSからRへと変更となっていることに留意すること。
・PCやオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。それらの基本操作を指導する時間は設けない。
・統計学IおよびIIの履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In order to use data to gain new insights and make evidence-based decisions, it is necessary to understand and use statistics correctly. The goal of this course is to provide an understanding of statistics and practical techniques for data analysis at a level that can be expected to be useful for senior theses or work after college graduation.
The open-source statistical software R (and R Studio) has been adopted in this course to use the software.
[Learning Objectives]
1) Understand the basic concepts of statistical analysis.
2) Select a method of analysis based on the purpose of the analysis and the characteristics of the data.
3) Perform statistical analysis and interpret the results using statistical software.
[Learning activities outside of classroom]
1) Students are expected to learn how to use R and R Studio on their own.
2) The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Students will be evaluated based on their performance on a midterm test (40%) and a final test (60%). Students will not receive a passing grade on the tests unless they have sufficient understanding of the course content and practical experience. Therefore, it is important that students attend every class and do not leave any gaps in their understanding.

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

哲学

小館　貴幸

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は考えることなしに生きることができない。したがって、私たちにとって哲学は本質的なものである。本講義では、いくつかのテーマを設定し、それらのテーマに対する複数の考え方とその枠組みを学んでいく。本講義での目的は、多角的な視野を獲得すると同時に、自らじっくり考える力を養うことである。
本講義では、「哲学とは何か」について説明することができ、諸問題に対して哲学的に考えることを学ぶことができる。

【到達目標】
（1）哲学とは何かを説明することができる。
（2）哲学における諸説について述べることができる。
（3）基本的な概念や語句について述べることができる。
（4）諸問題について自分の考えを述べることができる。
（5）物事を多角的な視点で捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する。基本的には講義形式で行っていくが、なるべく対話を重視し、一部グループワークも導入しながら、参加型の講義を志向してしていく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoomによる配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは何か	①イントロダクション ②哲学の定義 ③哲学の成立ち
2	古代ギリシアの哲学（1）：根源の探求	①哲学の誕生 ②自然学派 ③アルケー
3	古代ギリシアの哲学（2）：ソフィストの登場	①アルケーからアレテーへ ②人間尺度説
4	古代ギリシアの哲学（3）：徳の探求①	①ソクラテスの徳論 ②無知の知
5	古代ギリシアの哲学（4）：徳の探求②	①プラトンの徳論 ②アリストテレスの徳論
6	哲学カフェ：哲学の実践	①身近な疑問についての議論 ②哲学的な議論の仕方
7	認識論（1）：大陸合理論	①デカルトの認識論 ②コギト・エルゴ・スム
8	認識論（2）：イギリス経験論	①ロックの認識論 ②タブラ・ラサ
9	認識論（3）：批判論	①カントの認識論 ②コペルニクス的転回
10	死生論（1）：いつから人になるのか	①線引き問題 ②人工妊娠中絶の是非 ③人格論
11	死生論（2）：生の哲学	①生の哲学とは何か ②力への意志、生の躍動 ③「始まり」の哲学
12	死生論（3）：死の哲学	①死とは何か ②人間と死 ③死の人称論
13	愛の哲学（1）	①愛とは何か ②古代ギリシアにおける愛
14	愛の哲学（2）	①フランクルにおける愛 ②フロムにおける愛 ③サルトルにおける愛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の授業内容を再確認する。事前課題がある場合には、その課題に取組む。
復習：配布されたプリントを再度見直し、授業内容の振り返りを行う。課題がある場合は、その課題に取組む。
できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。授業内にプリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20%）、学期末レポート（20％）、課題（60％）、による総合評価。
小テストや課題などは基本的に教室内で実施し、学期末レポートはHoppiiを活用する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・一つの問題に対して各自の意見を聞く機会やグループワークによって、多様な意見に触れることに対する高評価を得たので、これは今後も継続していくことにしたい。
・参加して自ら考えるというワークの機会は、アクティブラーニングの実践であり、受講生からも「面白かった」・「新鮮だった」という評価を得たので、今後も継続していく。
・授業内で皆で議論できる機会や実際にワークしてもらうを増やしていきたい。
・具体例を多めにして、哲学という難しい内容をもう少し分かりやすく説明できるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートや課題などはHoppiiを活用する場合もあるので、これを使用できるようにPC環境を整えておくこと。
遠隔授業による講義となった場合には、配付資料や教材を閲覧できるような情報機器を準備し、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
哲学は自分が行う行為に他ならない。授業で扱う各テーマに対して、他人事ではなく自分のこととして積極的に参加し、脳に汗をかくほど考えてもらいたい。
担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約20年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、人間の問題に関して現実に基づいた意見を伝えていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
It is an essential for us in living to study philosophy. Because man cannot live without thinking. In this lecture, students can learn some theories and some key concepts to resolve problems in some themes. The aim of this lecture is that students can gain a multilateral perspective and deepen own thought. And students can explain what is philosophy and learn what kind of thinking philosophically.
【Learning Objectives】
（1）Be able to explain what is philosophy.
（2）Be able to describe various theories in philosophy.
（3）Be able to basic concepts and key words in philosophy.
（4）Be able to express one's own opinion about problems in philosophy.
（5）Be able to grasp things from various perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation: To review the last lecture. To work at the pre-assignments.
Review: To review what you learned and to refer to the handout. To work at the assignments.
To read a philosophy book which is introduced by a lecture.
Preparation and review in this lecture are assumed two hours a standard.
【Grading Criteria /Policy】
Quiz（20%）、Report（20%）、Reaction papers（60%）。

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

生命倫理

小館　貴幸

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理とは、文字通り生命についての倫理のことである。生命も倫理も一部の専門家だけの問題ではなく、今を生きているすべての人間の問題である。なぜなら、私たち誰もが生命を有しており、他者との関わりの中で倫理的に生活しているからである。
授業を通して、生命にまつわる諸問題について自分の意見を述べることができ、自分で答えを出せる力を養うことが、本講義の最大の目的である。具体的に本講義では、生命倫理の成立ちや諸原則などを学ぶことができ、私たちが実際に直面しうるであろう生命の始まりや終わりに関する具体的な問題について理解することができる。加えて、いのちについて考え、向き合うことができる。

【到達目標】
（1）「いのち」の尊厳を理解し、尊重することできる。
（2）倫理とは何かを説明することができる。
（3）医の倫理と生命倫理の特徴を理解し、両者の違いを述べることができる。
（4）生命倫理の四原則について説明することができる。
（5）現代社会における具体的問題について説明することができる。
（6）生命の始まりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。
（7）生命の終わりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する予定である。基本的には講義形式で行っていく。
授業内において、現場での具体的状況を把握し、当事者の思いを理解できるように、実際の映像資料なども多く取入れていく。
理解を深めるために、教科書も有効に活用していく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容の確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoomによる配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「いのち」について	①イントロダクション ②いのちとは何か ③いのちの尊厳
2	倫理とは何か	①倫理の定義 ②倫理と道徳の違い ③倫理学
3	現代社会における具体的諸問題（1）：孤立死	①孤独死と孤立死 ②セルフネグレクト ③孤立死の問題性
4	医の倫理（1）：医の倫理の全体像	①医の倫理とは何か ②『ヒポクラテスの誓い』 ③医の倫理の三原則
5	医の倫理（2）：医の倫理の本質と問題点	①パターナリズム ②守秘義務 ③医の倫理の問題点
6	生命倫理の成立	①医の倫理の限界 ②人体実験 ③権利の確立
7	生命倫理の四原則（1）：自律尊重の原則とインフォームド・コンセント	①自律尊重の原則とは何か ②診療情報の提供 ③有能性
8	生命倫理の四原則（2）：自律尊重の原則の補足	①セカンド・オピニオン ②インフォームド・アセント ③同意の撤回
9	生命倫理の四原則（3）：善行の原則と無危害の原則	①善行の原則とは何か ②リスク・ベネフィット評価 ③無危害の原則とは何か ④SOLとQOL
10	生命倫理の四原則（4）：正義の原則とまとめ	①正義の原則とは何か ②公平と公正 ③「医の倫理」と「生命倫理」の相違
11	現代社会における具体的諸問題（2）：認知症とそのケア	①認知症とは何か ②認知症者の理解 ③認知症者へのケア
12	生命の始まりをめぐる諸問題：赤ちゃんポスト	①赤ちゃんポストとは何か ②出自を知る権利 ③内密出産
13	生命の終わりをめぐる諸問題（1）：臓器移植	①臓器移植とは何か ②臓器移植をめぐる法律 ③リビングウィル
14	生命の終わりをめぐる諸問題（2）：脳死	①脳死とは何か ②脳死の是非を巡る議論 ③看取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理しておく。事前課題がある場合には、それに取組む。
復習：テキスト及び授業配布資料に基づいて前回授業の内容を復習する。興味があるテーマに関しては自分で調べる。また、課題がある場合には課題に取組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『なぜ生命倫理なのか　第2版』、朝倉輝一編、大学教育出版、2025年。2200円＋税。
（ISBN：978-4-86692-408-3）

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60％）、課題等（25％）、中間レポート（15％）、による総合評価。
遠隔講義となった場合には、Hoppiiを活用して成績評価ができるように変更する場合もありうる。その際には、受講生に事前に連絡する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・現代における具体的問題に関してのリアクションが大きく、「実生活での活かせるようなよい学びの機会となった」という感想を頂いたので、これは継続していくようにしたい。
・医療に対して、患者として受け身にならずに主体的に関わるという視点をしっかりと伝えていくようにしたい。
・医療倫理や生命倫理の本質を理解することは、トレーナーや指導者としての基本的姿勢に通じるものであるので、十分に時間をとって分かりやすく伝えるようにしたい。
・受講生に生命倫理の諸問題をより身近に感じてもらうために、スポーツの事例などを多く取り入れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・お知らせや課題は、Hoppiiを利用するので、パソコンなどのIT環境を整えておくこと。
・遠隔授業による講義となった場合には、配布資料や教材を閲覧できるような情報機器の準備や、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
・受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
・中間レポートは、テキストから出題する。必ずテキストの該当箇所を準備すること。
・担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約20年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、終末期ケアの現状や当事者や家族の生の声を多く紹介していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Bioethics means ethics of life. This is the problem that not only some experts but also we should work on. Because we are possessing life, we live in the relation with others ethically.
The aim of this lecture is to cultivate an ability to work out a solution for those problems by oneself. In this lecture, students can learn basic matters of bioethics including four principles and the history of bioethics. And they can understand some problems of the beginning of life and the end of life that we will face on. In addition, students can think about a life.
【Learning Objectives】
(1) Be able to respect for human dignity and sanctity of life, after understanding about these things.
(2) Be able to explain what is ethics.
(3) Be able to describe the difference between medical ethics and bioethics, after understanding each characteristics.
(4) Be able to explain four principles in bioethics.
(5) Be able to explain problems of life and death in the modern society.
(6) Be able to express one's own opinion about problems in the beginning and end of life.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation: To read the relevant parts of the textbook and to organize a list of questions.
Review: To review what you learned. To refer to a textbook and the handout. To examine questions for oneself.
Preparation and review in this lecture are two hours a standard.
【Grading Criteria /Policy】

Examination（60%）、Reaction papers（25%）、Report（15%）。

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

障害者福祉論

青木　尚人

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、様々な障害に着目し、障害者の定義や彼らの生活実態、取り巻く法制度、辿ってきた歴史を学習する。「障害者」とされる人々が現代社会において生活することについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者について主に社会学や社会福祉学的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるかを学ぶ。

【到達目標】
・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
・障害者の生活実態について知ることができる。
・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心とし、リアクションペーパーを毎回取る。また、授業内に学生自らの考えを披露してもらう場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	障害者福祉の視点	現代において障害者が置かれてきた立場を学ぶ。
2	障害者福祉の歴史	欧米、日本の障害福祉について学ぶ。
3	障害者福祉の基本理念	障害者福祉が追い求めてきた基本理念を学ぶ。
4	障害の概念と障害学	障害とは何かを障害の社会学(障害学)に関連させて学ぶ。
5	障害者福祉の実践	障害者の支援とはどのようなものであるかを学ぶ。
6	障害者の生活とニーズ	障害者の生活がどのようなものであり、彼ら/彼女らが何を必要としているか学ぶ。
7	障害者福祉の法体系と実施機関	障害者福祉に関わる法制度と実施機関を学ぶ。
8	障害福祉のサービス体系	障害者が日常生活で利用するサービスを学ぶ。
9	障害者の社会参加	障害者の社会参加の現状を学ぶ。
10	障害者に対する権利擁護	権利擁護の必要性とどのように行われているかを学ぶ。
11	障害者の生活保障	障害者における就労、教育、所得保障の観点から生活保障を学ぶ。
12	障害者福祉を支える人々	障害者福祉の担い手について学ぶ。
13	障害者に対する虐待	障害者を取り巻く虐待問題と、その対策に関して学ぶ。
14	戦争と障害者	戦争がどのように障害を生み出し、障害者に影響を与えたのかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、各回に提示する課題やテーマについて、新聞などの媒体を活用することで、情報を収集し、自ら考える。
また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用、自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間(合計4時間)を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。
資料を毎回配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加 20％：平常点及び授業態度で評価する。平常点についてはリアクションペーパーの記述内容、授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。
レポート課題 20％：授業期間中に1度提出を求める。
試験 60％：履修者の考えを問う形式にする。
評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】
・授業日程については初回に示します。
・パワーポイントで法律を引用する場合は要点を記して、できるだけ文字を減らすようにします。

【学生が準備すべき機器他】
コロナウイルスに関する社会情勢によっては、オンライン（オンデマンド方式）に変更予定。音声等ファイル等の使用や動画は検討していないため、基本的なインターネット環境があれば対応可能。

【その他の重要事項】
元政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護ケースワーカー、重度知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員を計9年経験した。
学術的な視点での講義だけではなく、障害者支援や関連領域の現業業務をふまえて得た知識や経験を織り交ぜながら、学生に問題意識を持ってもらえるよう講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with definition of disability,legal system and history from the viewpoint of sociology and social welfare.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Students can gain historical knowledge about disabilities.
Students can learn about the actual living conditions of people with disabilities.
Students can understand disabilities by relating theories about disabilities and personal experiences.
Based on theories about disabilities, students can learn experientially about methods of distributing goods.
Students can gain knowledge about the legal system that supports the lives of people with disabilities.
【Learning activites outside of classroom】
Students will collect information and think for themselves by utilizing media such as newspapers on the topics and themes presented in each session. They will also read the literature introduced during the lectures, engage in active discussions with fellow participants, apply it to social phenomena, and be aware of the connection between their own life experiences and theory. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】

Participation in lectures 30%: evaluated based on regular points and class attitude. Regular points are based on the content of reaction papers, and class attitude emphasizes active participation (output of thoughts) (attendance of less than two-thirds is not acceptable). Exam 70%: will take the form of questioning the thoughts of the students. The evaluation points are: 1) based on the knowledge learned in class, and 2) developing one's own thoughts. Purchase reports from websites are not allowed.

ART100IA（芸術学 / Art studies 100）

音楽とスポーツ

関野　直樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火4/Tue.4
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「音楽」を様々な視点で学んだ上で、音楽とスポーツについて考える。
古代ギリシャで発展した音楽がいかに現代までに進化してきたか、西洋音楽を軸に、その歴史的背景を理解した上で、スポーツ健康学部特有の視点から、また現役ピアニストであるから伝えられる、ライヴ演奏と演奏家の身体とメンタル、リズムの基礎とリズムアンサンブル演習など実践的な内容まで、幅広い視点で音楽を学ぶ。
更には様々なスポーツと音楽要素の関わりに関するのディスカッションやリサーチなどを通して、様々な角度から音楽が社会に与える影響を再認識する。

【到達目標】
日常生活において無意識のうちに我々が接してきている音楽が持つ力を意識的に学ぶことを目標とする。
西洋音楽に対する理解を深めることに留まらず、リズム演習などの実践においては、スポーツのリズムとの相違点を認識し、また、ライヴパフォーマンスにおいては、ピアニストの演奏から、ライヴの空気感、音楽の力、また体の使い方や息遣いなどを間近で感じることで、各々の視点から音楽の魅力を発見することを期待する。
最終的には、今後いかに音楽と自分が接していくのかを改めて意識することができると考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業をメインに、必要に応じてはオンラインを活用しながら、授業を進めていく。
音楽という分野であるからこそ、映像・録音資料などを多用しながら、またリズム演習、さらには実際のライヴ演奏など、あらゆる角度から音楽を体感できるように授業展開していく。
受講人数や授業の進み具合から、授業内容に関しては臨機応変対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、レポートに関して説明し、今後の流れを確認する。
2	リズム論	音楽的なリズムとは何か、スポーツにおけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
3	リズム演習	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
4	音楽とスポーツの関わり	スポーツ界においても音楽とはどのような役割なのか。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	スポーツと音楽	スポーツと関わる音楽について、1/fのゆらぎなど集中力を高める、リラックスするなどの効果を検証していく。
6	ミュージカルと音楽	現代における音楽を主とした総合芸術であるミュージカル作品を鑑賞し、現代の音楽のあり方を考える。
7	演奏家の超絶技巧	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
8	リズムアンサンブル基礎	アンサンブルを通して個人のリズムだけでなく、周囲とのリスムの調和を感じ取る。
9	様々なジャンルの音楽	クラシックだけではなく、古代音楽からポップスまで、それぞれの音楽の魅力を考察する。
10	コンサートとライヴ	音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを理解し、実際のクラシックコンサートを体感する。
11	音楽史基礎	主に19世紀の音楽が”文化”として確立された背景と、当時の音楽がもたらした影響を考える。
12	ミュージカルとスポーツ	実際に映像資料とともに、ミュージカルの持つ力、演奏家と音楽の持つ力を体感する。
13	リズムアンサンブル演習	今までより高度なリズムで、周囲との調和を感じ取りながら、アンサンブルを楽しむことを目標とする。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のために準備が必要な際は、その都度指示する。
必要に応じて、授業で扱う演奏動画などを紹介するので、レポート作成の参考とすること。
またリズム演習に関しては、各自復習できるように授業内で資料を配布する。
本授業の準備および復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート50％・最終レポート50％を基本とし、授業内の平常点を考慮し最終評価とする。
欠席連絡は、書面で提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業内レポートでは、通信欄を設けているので、積極的に学生の意見を取り入れていきたい。
本講義ではこれまでの学生の意見から、アクティヴラーニングを積極的に取り入れた内容としている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course explores music from multiple perspectives and examines the relationship between music and sport.
Focusing on the historical development of Western music, students will learn both theoretical knowledge and practical aspects through rhythm exercises, live performances, and discussions. The course aims to help students understand the role of music in relation to physical movement, mental condition, and social interaction.
[Learning objectives]
The objectives of this course are to deepen students' understanding of music and its cultural background, and to develop the ability to analyze rhythm and performance from both musical and sports-related perspectives.
Students are expected to gain practical experience through rhythm ensemble activities and to develop their own understanding of the role of music in society and daily life.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to review class materials and complete assignments after each class.
The total hours for studying outside of classroom are estimated to be approximately four hours per class, including two hours for preparation and two hours for review.
[Grading criteria/policy]
Final grades will be based on in-class reports (50%) and a final report (50%).
Class participation and engagement in class activities will also be taken into consideration.

ART100IA（芸術学 / Art studies 100）

音楽文化論

関野　直樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火4/Tue.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「音楽」を様々な視点で学んだ上で、音楽とスポーツについて考える。
古代ギリシャで発展した音楽がいかに現代までに進化してきたか、西洋音楽を軸に、その歴史的背景を理解した上で、スポーツ健康学部特有の視点から、また現役ピアニストであるから伝えられる、ライヴ演奏と演奏家の身体とメンタル、リズムの基礎とリズムアンサンブル演習など実践的な内容まで、幅広い視点で音楽を学ぶ。
更には様々なスポーツと音楽要素の関わりに関するのディスカッションやリサーチなどを通して、様々な角度から音楽が社会に与える影響を再認識する。

【到達目標】
日常生活において無意識のうちに我々が接してきている音楽が持つ力を意識的に学ぶことを目標とする。
西洋音楽に対する理解を深めることに留まらず、リズム演習などの実践においては、スポーツのリズムとの相違点を認識し、また、ライヴパフォーマンスにおいては、ピアニストの演奏から、ライヴの空気感、音楽の力、また体の使い方や息遣いなどを間近で感じることで、各々の視点から音楽の魅力を発見することを期待する。
最終的には、今後いかに音楽と自分が接していくのかを改めて意識することができると考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面授業をメインに、必要に応じてはオンラインを活用しながら、授業を進めていく。
音楽という分野であるからこそ、映像・録音資料などを多用しながら、またリズム演習、さらには実際のライヴ演奏など、あらゆる角度から音楽を体感できるように授業展開していく。
受講人数や授業の進み具合から、授業内容に関しては臨機応変対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、レポートに関して説明し、今後の流れを確認する。
2	リズム論	音楽的なリズムとは何か、スポーツにおけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
3	リズム演習	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
4	音楽とスポーツの関わり	スポーツ界においても音楽とはどのような役割なのか。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	スポーツと音楽	スポーツと関わる音楽について、1/fのゆらぎなど集中力を高める、リラックスするなどの効果を検証していく。
6	ミュージカルと音楽	現代における音楽を主とした総合芸術であるミュージカル作品を鑑賞し、現代の音楽のあり方を考える。
7	演奏家の超絶技巧	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
8	リズムアンサンブル基礎	アンサンブルを通して個人のリズムだけでなく、周囲とのリスムの調和を感じ取る。
9	様々なジャンルの音楽	クラシックだけではなく、古代音楽からポップスまで、それぞれの音楽の魅力を考察する。
10	コンサートとライヴ	音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを理解し、実際のクラシックコンサートを体感する。
11	音楽史基礎	主に19世紀の音楽が”文化”として確立された背景と、当時の音楽がもたらした影響を考える。
12	ミュージカルとスポーツ	実際に映像資料とともに、ミュージカルの持つ力、演奏家と音楽の持つ力を体感する。
13	リズムアンサンブル演習	今までより高度なリズムで、周囲との調和を感じ取りながら、アンサンブルを楽しむことを目標とする。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のために準備が必要な際は、その都度指示する。
必要に応じて、授業で扱う演奏動画などを紹介するので、レポート作成の参考とすること。
またリズム演習に関しては、各自復習できるように授業内で資料を配布する。
本授業の準備および復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート50％・最終レポート50％を基本とし、授業内の平常点を考慮し最終評価とする。
欠席連絡は、書面で提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業内レポートでは、通信欄を設けているので、積極的に学生の意見を取り入れていきたい。
本講義ではこれまでの学生の意見から、アクティヴラーニングを積極的に取り入れた内容としている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course explores music from multiple perspectives and examines the relationship between music and sport.
Focusing on the historical development of Western music, students will learn both theoretical knowledge and practical aspects through rhythm exercises, live performances, and discussions. The course aims to help students understand the role of music in relation to physical movement, mental condition, and social interaction.
[Learning objectives]
The objectives of this course are to deepen students' understanding of music and its cultural background, and to develop the ability to analyze rhythm and performance from both musical and sports-related perspectives.
Students are expected to gain practical experience through rhythm ensemble activities and to develop their own understanding of the role of music in society and daily life.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to review class materials and complete assignments after each class.
The total hours for studying outside of classroom are estimated to be approximately four hours per class, including two hours for preparation and two hours for review.
[Grading criteria/policy]
Final grades will be based on in-class reports (50%) and a final report (50%).
Class participation and engagement in class activities will also be taken into consideration.

NAS100IA（自然科学全般 / Natural science 100）

基礎科学

山下　貴司、山下　貴司

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火4/Tue.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学・科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】
スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目（実習を含む）学習に必要な科学的思考の基礎を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
生理学、生化学、解剖学等の理解に必要となる生物学の基本的概念や、科学的手法に基づいた論理思考について、骨格筋生理・生化学的応答を題材にして紹介し、グループワークを通して学習する。
また、実験や調査などで取得するデータ・統計解析で使用する基本的な数理処理について、実際に学術論文を用いて解説する。
オンライン授業に変更する場合は、学習支援システムなどでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の確認を行う。
2	自然科学的手法の原理と基礎	スポーツ・トレーニングにおける科学的方法論について解説する。
3	生体を構成する物質（1）	生体の構成要素や細胞の化学成分について紹介する。
4	生体を構成する物質（2）	タンパク質の機能や運動時の物質代謝について紹介する。
5	身体組成と形態	身体を構成する組織や細胞の測定手法や原理を紹介する。
6	骨格筋の応答と適応	運動による骨格筋の生理学・生化学的適応について紹介する。
7	骨格筋活動	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝の測定手法や原理を紹介する。
8	測定結果の分析・解釈方法	数値化された現象を客観的に分析し、根拠に基づいた考察について解説する。
9	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学	平均値、標準偏差など記述統計に必要な用語や、基本的な統計手法の解説する。
10	学術論文検索の方法	インターネットや公的機関を通して信頼性の高い学術論文を入手する方法を紹介する。
11	学術論文の読み解き方	学術論文の構造や基本的な書き方、目的に応じた読み解き方を紹介する。
12	学術論文のまとめ方	パワーポイントを活用した基本的なプレゼンテーション手法を紹介する。
13	論文抄読会：グループワーク	グループに分かれて発表する論文の選定・読み合いを行う。
14	論文抄読会：発表	グループごとに選定した論文の内容をパワーポイントで発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学第3版（羊土社、2016年）
4180円
・分子運動生理学入門第2版（NAP、2024年）　4950円

【参考書】
・パワーズ運動生理学（メディカルサイエンスインターナショナル）
・NSCAスポーツ科学の基礎知識（NSCA）
上記に加えて適宜、授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
中間レポート：40%
授業最後でのプレゼンテーション(討論への参画、資料等)：60%

【学生の意見等からの気づき】
適宜、講義で使用するスライド資料を授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
可能な限り運動生理学を履修する前に本単位を修得することを強く推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports science.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about the base of sports medicine and science included in the curriculum of the Faculty of Sport and Health
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process of midterm paper (40%) and final-term presentation (60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ健康学海外演習（夏季）

泉　重樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・演習
開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　配当年次／
単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における10日間の活動を行い現地の人々との英語でのコミュニケーションを通して、主体的に自ら英語で学ぶ姿勢を涵養する。

【到達目標】
本演習では主に下記3点を到達目標とする。１．米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における10日間の活動を通して、英語にじかに触れ、英語で生活すること。２．米国のカレッジスポーツに直に触れることで日米のスポーツ文化及びスポーツビジネスの違いを感じるとともにスポーツ健康学の学びを深めること。３．現地の人々とのコミュニケーションを通して、自ら積極的に英語で発信すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
米国アイダホ州ボイシにあるBoise State University（BSU）において10日間の演習を行う。主に午前中は英語のクラス、午後はスポーツ健康学領域の様々なワークショップやアクティビティである。出発前と帰国後にそれぞれ事前・事後の演習（1時間ずつ）がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前準備（出発前）	米国アイダホ州ボイシおよびボイシ州立大学について説明するとともに準備に関するグループディスカッションを行う。
2	アイスブレイクと英会話テスト	アイスブレイクを通して、学生同士、現地の教員・学生間のコミュニケーションを開始する（実力確認テストを含む）
3	現地のネイティブスピーカーによる英語の授業	英語でのコミュニケーションに特化した授業が展開される。
4	英語でのワークショップ（グループワーク）	小グループに分かれて、質問に対して英語でディスカッションを行う。
5	BSU学生との英語でのコミュニケーション	各自の考えた質問をBSUの学生にインタビューし、プレゼンテーションを行う。
6	現地の日本語クラスへの参加	BSUで英語を学ぶ学生達のクラスに入り、お互いに学びあっている言語でコミュニケーションを行う。
7	英語でのワークショップ（プロジェクト発表）	小グループに分かれて、英語でのプロジェクトを実施し、発表する。
8	個々の振り返りとフィードバック	これまでの内容を英語で振り返るとともに、残りの期間の到達・実施目標を確認する。
9	BSU学内スポーツファシリティ見学	BSU学内施設を見学／説明および質疑を通して米国スポーツ文化の学びを深める。
10	BSU内のRECセンター（フィットネスクラブのような運動施設）におけるワークショップ	BSU学内運動であるRECセンターにおいて、アクティビティを行いながら大学スポーツ文化を学ぶ。
11	Boise市内のスポーツ施設見学とワークショップ	ボイシ市内にあるスポーツ施設特にフィットネスクラブを見学するとともに、実際に活動参加し市民の活動状況に触れる。
12	アスレティックトレーニングプログラムワークショップ	BSUのアスレティックトレーン―によるテーピング＆ラッピングのワークショップに参加／実践する。
13	BSUスポーツ見学（サッカー、バレーボール、アメリカンフットボールなど）	BSUの学生スポーツを肌で実感する。米国のスポーツ文化を実践から学ぶ。
14	Boise市内のスカベンジャーハントと振り返り	Boiseの街を使って、オリエンテーリングゲームを行う。英語でのコミュニケーションの総仕上げとして実施する内容である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習では間違いを恐れずに英語で会話する姿勢が最も重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
辞書アプリや翻訳アプリを学習のサポートとして用いるとよい。

【成績評価の方法と基準】
本演習（事前授業含む）への参加 60%
レポート提出　40%

【学生の意見等からの気づき】
活動全体を通して、英語への不安よりも現地の人々と積極的にコミュニケーションをしたいという思いが強い学生が参加している印象である。参加した学生からは、10日間1か所で活動することで友人もでき、積極的に会話に取り組めるようになってきたといった前向きな意見が多く寄せられている。

【Outline (in English)】
【Course outline】The primary purpose of this practice is to live in English through a two week program at Boise State University in Boise, Idaho, USA. Secondly, learning differences in sports business between Japan and United States by directly experiencing college sports in US.【Learning objectives】The goals of this course are to live in English at Boise State University in Boise, Idaho, U.S.A., to experience and learn the differences between Japanese and U.S. sports culture and sports business, and to actively communicate in English through interaction with local people.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reports (40%), and the quality of the students'experimental performance in the field (60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ健康学海外演習

泉　重樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・演習
開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　配当年次／
単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における10日間の活動を行い現地の人々との英語でのコミュニケーションを通して、主体的に自ら英語で学ぶ姿勢を涵養する。

【到達目標】
本演習では主に下記3点を到達目標とする。１．米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における10日間の活動を通して、英語にじかに触れ、英語で生活すること。２．米国のカレッジスポーツに直に触れることで日米のスポーツ文化及びスポーツビジネスの違いを感じるとともにスポーツ健康学の学びを深めること。３．現地の人々とのコミュニケーションを通して、自ら積極的に英語で発信すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
米国アイダホ州ボイシにあるBoise State University（BSU）において10日間の演習を行う。主に午前中は英語のクラス、午後はスポーツ健康学領域の様々なワークショップやアクティビティである。出発前と帰国後にそれぞれ事前・事後の演習（1時間ずつ）がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前準備（出発前）	米国アイダホ州ボイシおよびボイシ州立大学について説明するとともに準備に関するグループディスカッションを行う。
2	アイスブレイクと英会話テスト	アイスブレイクを通して、学生同士、現地の教員・学生間のコミュニケーションを開始する（実力確認テストを含む）
3	現地のネイティブスピーカーによる英語の授業	英語でのコミュニケーションに特化した授業が展開される。
4	英語でのワークショップ（グループワーク）	小グループに分かれて、質問に対して英語でディスカッションを行う。
5	BSU学生との英語でのコミュニケーション	各自の考えた質問をBSUの学生にインタビューし、プレゼンテーションを行う。
6	現地の日本語クラスへの参加	BSUで英語を学ぶ学生達のクラスに入り、お互いに学びあっている言語でコミュニケーションを行う。
7	英語でのワークショップ（プロジェクト発表）	小グループに分かれて、英語でのプロジェクトを実施し、発表する。
8	個々の振り返りとフィードバック	これまでの内容を英語で振り返るとともに、残りの期間の到達・実施目標を確認する。
9	BSU学内スポーツファシリティ見学	BSU学内施設を見学／説明および質疑を通して米国スポーツ文化の学びを深める。
10	BSU内のRECセンター（フィットネスクラブのような運動施設）におけるワークショップ	BSU学内運動であるRECセンターにおいて、アクティビティを行いながら大学スポーツ文化を学ぶ。
11	Boise市内のスポーツ施設見学とワークショップ	ボイシ市内にあるスポーツ施設特にフィットネスクラブを見学するとともに、実際に活動参加し市民の活動状況に触れる。
12	アスレティックトレーニングプログラムワークショップ	BSUのアスレティックトレーンーによるテーピング＆ラッピングのワークショップに参加／実践する。
13	BSUスポーツ見学（サッカー、バレーボール、アメリカンフットボールなど）	BSUの学生スポーツを肌で実感する。米国のスポーツ文化を実践から学ぶ。
14	Boise市内のスカベンジャーハントと振り返り	Boiseの街を使って、オリエンテーリングゲームを行う。英語でのコミュニケーションの総仕上げとして実施する内容である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習では間違いを恐れずに英語で会話する姿勢が最も重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
辞書アプリや翻訳アプリを学習のサポートとして用いるとよい。

【成績評価の方法と基準】
本演習（事前授業含む）への参加 60%
レポート提出　40%

【学生の意見等からの気づき】
活動全体を通して、英語への不安よりも現地の人々と積極的にコミュニケーションをしたいという思いが強い学生が参加している印象である。参加した学生からは、10日間1か所で活動することで友人もでき、積極的に会話に取り組めるようになってきたといった前向きな意見が多く寄せられている。

【Outline (in English)】
【Course outline】The primary purpose of this practice is to live in English through a two week program at Boise State University in Boise, Idaho, USA. Secondly, learning differences in sports business between Japan and United States by directly experiencing college sports in US.【Learning objectives】The goals of this course are to live in English at Boise State University in Boise, Idaho, U.S.A., to experience and learn the differences between Japanese and U.S. sports culture and sports business, and to actively communicate in English through interaction with local people.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reports (40%), and the quality of the students'experimental performance in the field (60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ健康学海外演習（冬季）

吉田　政幸

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・演習
開講時期：スプリングセッション/Spring Session ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国スポーツマネジメントに関する事前学習と校外演習を通じて、受講者は米国式カレッジスポーツとプロスポーツのマネジメント理論とその実践について学ぶ。

【到達目標】
受講者は事前学習と校外学習を通じて、以下の目標を達成する：
(1) 米国カレッジスポーツの概要と社会的位置づけを理解し、説明できる。
(2) 米国カレッジスポーツのアスレチック・ディパートメントの仕組みを理解し、説明できる。
(3) 米国プロスポーツのマネジメント理論と実践について学習し、その特徴を説明できる。
(4) 米国プロスポーツのスタジアム運営について学習し、そのビジネスモデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は（1）大学での講義と（2）校外演習によって構成される。大学での講義は、米国カレッジスポーツとプロスポーツの経営的特徴について学習するとともに、校外演習に向けたガイダンスを通じて渡航の準備を行う。校外演習は、カンザス大学の教員による講義とスポーツマネジメント関連の視察（アスレチック・ディパートメント、アリーナ、スタジアム、ホームゲームなどの視察）を主な内容とし、受講者は米国スポーツビジネスについて理論と実践の両面から英語で学習する。
本授業は海外演習であり、社会情勢や為替の変動によって、実施内容と方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前学習：ガイダンス	演習の目的と意義を理解するとともに、校外演習先の文化的、社会的、地理的特徴を理解する。併せて、渡航に向けた準備を開始する。
第2回	事前学習：米国スポーツ	米国スポーツの特徴を理解し、校外学習で学びを深めたい内容を特定する。
第3回	事前学習：カレッジスポーツ	米国カレッジスポーツの概要を理解し、校外学習で学びを深めたい内容を特定する。
第4回	事前学習：目標設定	校外演習で学習したい内容を書き出して目標を設定するとともに、他の受講者の前で発表することで互いに意識を高める。
第5回	英語によるコミュニケーション	校外演習において事前に身に付けておくと便利な英語表現を学ぶ。併せて、出発前の説明（出発当日の行動予定、空港での出国手続き、機内での過ごし方、現地での入国審査の注意点、現地での過ごし方）を受ける。
第6回	校外演習：ガイダンス	海外演習の目的と意義を改めて確認するとともに、各自の目標を明確にする。校外演習のスケジュール、内容、注意点について説明を受ける。
第7回	校外演習：講義（カレッジスポーツ）	カレッジスポーツのマネジメントについて学習する。
第8回	校外演習：視察（アスレチック・ディパートメント）	アスレチック・ディパートメントを視察し、その理念と仕組みを理解する。
第9回	校外演習：視察（カレッジスポーツ施設）	カレッジスポーツ施設を視察し、その構造とビジネスモデルを理解する。
第10回	校外学習：視察（カレッジスポーツのホームゲーム）	カレッジバスケットボールのホームゲームを視察し、実践的な理解を深める。
第11回	校外演習：講義（プロスポーツ）	米国プロスポーツのマネジメントについて学習する。
第12回	校外演習：視察（フットボールスタジアム）	プロのアメリカンフットボール・スタジアムを視察し、実践的な理解を深める。
第13回	校外演習：視察（ベースボールスタジアム）	プロのベースボール・スタジアムを視察し、実践的な理解を深める。
第14回	振り返り	演習を通じて深めた理解と新たに得た気づきを振り返り、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
注意事項の多い海外演習ですので、課される準備学習を着実に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
事前学習の課題レポート：20%
校外演習の課題レポート：80%
【レポートの評価基準】
100%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。
80%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。
60%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。
40%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら論じている。
20%：演習の内容を踏まえて論じている。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（本年度から新規で開講する科目のため、前年度のアンケート結果がありません）

【その他の重要事項】
・米国における校外演習は英語で行います。
・校外演習は2月下旬から3月上旬にかけて行われるため、単位認定は次年度の春学期となります。
・本海外演習の履修にあたり、スポーツ産業論の単位取得（履修中を含む）を完了していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This is an international sport management seminar in the United States. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) understand key theories and practical implications relevant to the management of collegiate and professional sports in the United States.
(Learning objectives)
The goal of this seminar is to learn important theories and practices related to American collegiate and professional sports.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters　and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on short (10%) and final (80%) reports.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツビジネス海外演習

吉田　政幸

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：スプリングセッション/Spring Session ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国スポーツマネジメントに関する事前学習と校外演習を通じて、受講者は米国式カレッジスポーツとプロスポーツのマネジメント理論とその実践について学ぶ。

【到達目標】
受講者は事前学習と校外学習を通じて、以下の目標を達成する：
(1) 米国カレッジスポーツの概要と社会的位置づけを理解し、説明できる。
(2) 米国カレッジスポーツのアスレチック・ディパートメントの仕組みを理解し、説明できる。
(3) 米国プロスポーツのマネジメント理論と実践について学習し、その特徴を説明できる。
(4) 米国プロスポーツのスタジアム運営について学習し、そのビジネスモデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は（1）大学での講義と（2）校外演習によって構成される。大学での講義は、米国カレッジスポーツとプロスポーツの経営的特徴について学習するとともに、校外演習に向けたガイダンスを通じて渡航の準備を行う。校外演習は、カンザス大学の教員による講義とスポーツマネジメント関連の視察（アスレチック・ディパートメント、アリーナ、スタジアム、ホームゲームなどの視察）を主な内容とし、受講者は米国スポーツビジネスについて理論と実践の両面から英語で学習する。
本授業は海外演習であり、社会情勢や為替の変動によって、実施内容と方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前学習：ガイダンス	演習の目的と意義を理解するとともに、校外演習先の文化的、社会的、地理的特徴を理解する。併せて、渡航に向けた準備を開始する。
第2回	事前学習：米国スポーツ	米国スポーツの特徴を理解し、校外学習で学びを深めたい内容を特定する。
第3回	事前学習：カレッジスポーツ	米国カレッジスポーツの概要を理解し、校外学習で学びを深めたい内容を特定する。
第4回	事前学習：目標設定	校外演習で学習したい内容を書き出して目標を設定するとともに、他の受講者の前で発表することで互いに意識を高める。
第5回	英語によるコミュニケーション	校外演習において事前に身に付けておくと便利な英語表現を学ぶ。併せて、出発前の説明（出発当日の行動予定、空港での出国手続き、機内での過ごし方、現地での入国審査の注意点、現地での過ごし方）を受ける。
第6回	校外演習：ガイダンス	海外演習の目的と意義を改めて確認するとともに、各自の目標を明確にする。校外演習のスケジュール、内容、注意点について説明を受ける。
第7回	校外演習：講義（カレッジスポーツ）	カレッジスポーツのマネジメントについて学習する。
第8回	校外演習：視察（アスレチック・ディパートメント）	アスレチック・ディパートメントを視察し、その理念と仕組みを理解する。
第9回	校外演習：視察（カレッジスポーツ施設）	カレッジスポーツ施設を視察し、その構造とビジネスモデルを理解する。
第10回	校外学習：視察（カレッジスポーツのホームゲーム）	カレッジバスケットボールのホームゲームを視察し、実践的な理解を深める。
第11回	校外演習：講義（プロスポーツ）	米国プロスポーツのマネジメントについて学習する。
第12回	校外演習：視察（フットボールスタジアム）	プロのアメリカンフットボール・スタジアムを視察し、実践的な理解を深める。
第13回	校外演習：視察（ベースボールスタジアム）	プロのベースボール・スタジアムを視察し、実践的な理解を深める。
第14回	振り返り	演習を通じて深めた理解と新たに得た気づきを振り返り、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
注意事項の多い海外演習ですので、課される準備学習を着実に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
事前学習の課題レポート：20%
校外演習の課題レポート：80%
【レポートの評価基準】
100%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。
80%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。
60%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。
40%：演習の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら論じている。
20%：演習の内容を踏まえて論じている。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（本年度から新規で開講する科目のため、前年度のアンケート結果がありません）

【その他の重要事項】
・米国における校外演習は英語で行います。
・校外演習は2月下旬から3月上旬にかけて行われるため、単位認定は次年度の春学期となります。
・本海外演習の履修にあたり、スポーツ産業論の単位取得（履修中を含む）を完了していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This is an international sport management seminar in the United States. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) understand key theories and practical implications relevant to the management of collegiate and professional sports in the United States.
(Learning objectives)
The goal of this seminar is to learn important theories and practices related to American collegiate and professional sports.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters　and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on short (10%) and final (80%) reports.

IDN100EA（アイデンティティー教育 / Identity studies 100）

多摩地域形成論

野田　岳仁

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、「法政大学ソーシャルイノベーションセンター（SIC）」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域(1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域(2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域(3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の現代史(1)	多摩地域の住民運動の歴史
第7回	多摩地域の現代史(2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史(3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第9回	これからの多摩地域の形成(1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第10回	これからの多摩地域の形成(2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第11回	これからの多摩地域の形成(3)	地域の資源をエネルギーに
第12回	これからの多摩地域の形成(4)	コミュニティ文化とスポーツ
第13回	これからの多摩地域の形成(5)	多摩キャンパスにおけるソーシャルイノベーション
第14回	まとめ	ふりかえりのワークショップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％程度）と各回のリアクションペーパーによるレポート（70％程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行うことがある。

【その他の重要事項】
〇本授業は先述のように、「法政大学ソーシャルイノベーションセンター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟2階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。
なお、対面を原則とするがゲスト講師の都合等によりオンライン開催となる回もありうる。また、教室の関係上、履修制限も行う場合もある。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to familiarize students with various aspects of the history, culture, politics, economy, social dynamics, and daily life in the vicinity of the Tama Campus. Additionally, the course aims to delve into the distinct significance of residing as university students in this region and the corresponding social responsibilities.
The overarching goals of this course include comprehending the Hosei Tama Campus as the central locus of one's university experience and deriving insights for proactive learning and engagement.
Students are expected to allocate four hours before and after each class session to assimilate the course materials effectively. Grading for the course will be based on the submission of short reports (70%) and active participation during class discussions (30%).

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

KENDO

小田　佳子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「剣道－日本文化としての特性を学ぶ－」
KENDO - Learning the characteristics of Japanese culture
主に海外留学生を対象に「剣道」の技術および礼法を通して、日本武道である剣道への理解を深め、同時に身体技法を習得することを目的とする。

【到達目標】
①日本の身体運動文化としての「剣道」の歴史や特性に触れ理解する。
②剣道の基本動作と基本技能を習得する。
③剣道の歴史や伝統的、文化的知識を習得する。
(1) To understand the history and characteristics of kendo as a Japanese culture of physical training
(2) To acquire the basic movements and basic skills of kendo
(2) To acquire the knowledge of its history, tradition and culture of kendo.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This class does not require the high kendo skill level as it is mainly about learning the basic skills of kendo.　However, some exercise is required.　The class will be primarily conducted in English, but sometimes explaining certain kendo concepts will require Japanese.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation What is KENDO ? History and Now	Reiho-manners Footwork Suburi-swing Kamae-position
2	Basic Movements Kamae-position Foot work	Kendo armors Footwork Kamae-position Suburi-swing (up and down, left and right) Men, Kote, and Do by Shinai
3	Basic Techniques① Men/Kote/Do/Tsuki	Swinging (single action/leaping strike) Practice of shinai strike in the opponent's movement
4	Basic Technique② Men/Kote/Do/Tsuki	Wearing Men mask Shikake-techniques (Men/Kote/Do)
5	Basic Technique③ Renzoku-waza continuous-techniques	Basic technique①②review Kata practice with wooden sword ③
6	Basic Technique④ Harai-waza, brush off	Basic technique①-③review Kata practice with wooden sword ④
7	Fireldwork in Hino city	Hinojyuku-Honjin Visiting the old house of Shinsen-gumi
8	Basic Technique⑤ Nuki-waza	Basic technique①-④review Kata practice with wooden sword ⑤
9	Basic Technique⑥ Kaeshi-waza	Basic technique①-⑤review Kata practice with wooden sword ⑥
10	All Japan Student Kendo Tournament _Field Work	Visiting Nippon Budokan for watching All Japan Student Kendo Tournament
11	Basic Striking: Practice1	Basic Striking with Bogu and shinai①-②
12	Basic Striking: Practice2	Basic Striking with Bogu and shinai③-④
13	Basic Striking: Practice3	Basic Striking with Bogu and shinai⑤-⑥
14	Basic Technique Basic Striking (Test and Summary)	Basic technique①-⑥with wooden sword Basic Striking with Bogu and shinai①-⑥

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class requires two hours of learning overtime.
Require to read Japanese and English literature on kendo history and techniques.
For example;
All Japan Kendo Federation, Japanese-English Dictionary of kendo, 2000
All Japan Kendo Federation, The Official Guide for Kendo Instruction, 2011

【テキスト（教科書）】
Text materials will be handed out when necessary.

【参考書】
All Japan Kendo Federation, Japanese-English Dictionary of kendo, 2000
All Japan Kendo Federation, The Official Guide for Kendo Instruction, 2011

【成績評価の方法と基準】
Attitude and participation (40%)
Kendo skills(40%)
Understanding the key concepts and vocabulary of kendo in Japanese (20%)

【学生の意見等からの気づき】
Use Japanese and English together as much as possible to ensure that kendo terminology (in Japanese) can be understood naturally.

【学生が準備すべき機器他】
The shinai,bamboo sword, kendo-gi, training wear, and other kendo equipment will be provided by Hosei university.
Please bring your own tenugui, Japanese towel (to wear under Men mask).

【その他の重要事項】
Those who wish to take this KENDO course must attend the first class on Wednesday, April 8th in 2026.

【Outline (in English)】
【Course outline】
KENDO - Learning the characteristics of Japanese culture
KENDO is one area of BUDO, martial ways in Japan, students can learn its history and characteristics at first, then learn the basic movements and techniques.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to deepen understanding of Japanese martial ways of kendo and to acquire physical techniques through kendo techniques and etiquette, mainly for international students.
【Learning activities outside of classroom】
This class requires two hours of learning overtime.
Require to read Japanese and English literature on kendo history and techniques.
【Grading Criteria /Policy】
Attitude and participation (40%)
Kendo skills(40%)
Understanding the key concepts and vocabulary of kendo in Japanese (20%)

HSS200LB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

アスリートキャリア論

片上　千恵

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
招聘講師のスポーツにまつわる多様なキャリアに関する講義を聞き、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学びをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランについて考える。また、日本のスポーツのしくみや現状を理解し、スポーツキャリアの可能性を知ることを目的とする。

【到達目標】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。
講義を通じて、自分のキャリアをイメージし、キャリアプランを立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
学生時代に競技活動に励み、現在は社会で活躍している方(ゲストスピーカー)を招いて講義を行う。そこで得られるさまざまな情報や学びを基に自分なりに考察して各種レポートを作成することで、自らのキャリアを考えていく。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかを学んでいく。授業で記入してもらったリアクションペーパーはゲストにも共有し、いただいたフィードバックは次の授業内、もしくは「学習支援システム」を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概要の説明（全体）	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。
2	招聘講義: 広告代理店	講師(ゲストスピーカー)の広告代理店の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
3	招聘講義: サービス	講師(ゲストスピーカー)のサービス業の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
4	招聘講義: 審判員	講師(ゲストスピーカー)の審判員の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
5	招聘講義: 通訳	講師(ゲストスピーカー)の通訳の仕事内容に関する講義内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
6	招聘講義: スポーツ組織①	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
7	招聘講義: スポーツ組織②	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ組織における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
8	招聘講義: メディア	講師(ゲストスピーカー)のメディアにおける仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
9	招聘講義: スポーツ広報	講師(ゲストスピーカー)のスポーツ広報における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
10	招聘講義: 競技指導者	講師(ゲストスピーカー)に競技指導者における仕事内容に対して、自らの考えを説明できるようになる。
11	招聘講義: 研究	講師(ゲストスピーカー)の研究に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
12	招聘講義:メーカー	講師(ゲストスピーカー)のメーカーに関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
13	招聘講義: 起業家	講師(ゲストスピーカー)の起業家に関わる仕事内容の講義に対して、自らの考えを説明できるようになる。
14	総括	講義のまとめ：この授業を通して学んだこと、これからのキャリアプランにどのように生かしていきたいかを期末レポートとしてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前に次回ゲストに関するキャリアについて調べることを課題とします。講義後は授業で学んだこと、感じたことを復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の授業レポート（講義の感想並びに自身の意見をまとめる。）70%
②最終レポート 30%
合計：100%

【学生の意見等からの気づき】
受講者が少しでもアスリートや自らのキャリアに興味をもち、これからのキャリア形成を計画的に進めるための有意義な機会となるように努める。講義内では、学生が自由に質問しやすいようアプリを導入するなどしてゲストと学生間の双方向性を高める。

【学生が準備すべき機器他】
授業を通して、講義を聞くだけではなく、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になることがあります。

【Outline (in English)】
Learning Objectives

Athletes will be invited to give lectures on their diverse careers to help students understand the current state of the Japanese sports world. Students will be trained to create a career plan based on what they learn during their university years and how they will connect what they learn to their careers after graduation.
Learning activities outside of classroom
Review what you have learned in each lecture. As a preparation, try to find out about the career and backgrounds of the next lecturers.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on
① Every class report (summarize your impressions of the lecture and your own opinions) 70%
②Final report 30%
Total: 100%

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

スポーツ健康学特講

安達　万里江

サブタイトル：ビジネス日本語１
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、学部留学生を対象とした科目である。就職活動をする際に必要な日本語を習得することを目標とする。日本の就職活動の流れを理解し、適切な時期に必要な準備ができるようになることを目指す。どのような言語表現を用いるかだけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのか、そしてその文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①日本における就職活動の概要を理解し、就職活動に必要な日本語を身につけることができる。
②場面と対話相手に応じて適切な日本語を使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
受講生は、教員の講義の後に文書作成や会話の練習などの課題に取り組む。受講生同士で課題を読み合ったり、活動の成果を評価し合い学習を進めていく。授業後には、事後課題に取り組む。事後課題については、授業中に教員が解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・日本の就職活動の大まかな流れ	授業の進め方の説明と、日本の大学生の就職活動についておおまかな流れを知る
第2回	第１課「自己分析をしよう！」（１）	自己分析をする。
第3回	第１課「自己分析をしよう！」（２）	自己分析をする。
第4回	第２課「仕事を決めよう！」（１）	志望する業界・職種・企業について知り、考える。
第5回	第２課「仕事を決めよう！」（２）	志望する業界・職種・企業について知り、考える。
第6回	第３課「OB・OG訪問をしよう！」	OB・OG訪問を行うまでのやりとりを知る。
第7回	第４課「志望動機を考えよう！」（１）	志望動機を考える。
第8回	第４課「志望動機を考えよう！」（２）	志望動機を考える。
第9回	第５課「エントリーシート・履歴書を書こう！」（１）	エントリーシート・履歴書の書き方を学ぶ。
第10回	第５課「エントリーシート・履歴書を書こう！」（２）	エントリーシート・履歴書の書き方と送り方を学ぶ。
第11回	第６課「インターンシップに参加しよう！」	インターンシップに参加するまでの日本語のやりとりを知る。
第12回	第７課「会社説明会に参加しよう！」	会社説明会での会話例を学ぶ。
第13回	第８課「面接を受けよう！」（１）	面接で使用する日本語表現について学ぶ、
第14回	第８課「面接を受けよう！」（２）	面接で使用する日本語表現と、グループディスカッションについて学ぶ、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
栗田奈美　他『解いて学ぼう 留学生の就職活動』（2023）スリーエーネットワーク　1,650円（税込）

【参考書】
・「法政大学キャリアセンター　外国人留学生対象イベント」（2025年度のもの）https://www.hosei.ac.jp/careercenter/info/article-20250424171117/
・「法政大学就職活動手帳」（2025年度のもの）https://www.hosei.ac.jp/application/shibboleth_general/1517/4424/7348/27_.pdf
・日本学生支援機構（JASSO）「外国人留学生のための就活ガイド」https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_j/job/guide.html
その他、授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、課題等提出物60％、授業内活動（発表・報告）20％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、日本での就職活動の流れやグループディスカッション、面接に向けた実践的な練習を通して、具体的なイメージを持つことができ、自信につながったとの声が多く寄せられた。特に、留学生同士で意見を交換しながら取り組む活動が、不安の共有や理解の深化に有効であったことが確認された。一方で、面接時のマナーや敬語、企業分析やエントリーシート作成に関するより体系的な説明や資料、戦略的視点を求める意見も見られた。これらを踏まえ、今後は実践練習と併せて、事前の考え方や手順を整理した支援の充実に留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
・使用教室によっては各自PCまたはタブレット端末を持参してください。
・本科目は本学のアカウントでGoogleのクラスルーム、ドライブ、メール、チャット等を使用します。スマートフォンからでも、使用・確認できるよう事前のインストール・設定をしておいてください。

【その他の重要事項】
・学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合があります。
・本科目は、日本での就職活動を具体的に見据え、学生自身の主体的な準備と実践を重視する授業です。受動的な参加を前提とした授業ではないため、主体的な学習や継続的な取り組みが難しい場合には、授業の特性上、十分な学習効果が得られない可能性があります。特に、受講にあたっては以下の点を前提としています。
①日本の社会や職場に関する知識、マナー、日本語コミュニケーションの表現について、授業内外で自ら学び、改善しようとする姿勢があること
②就職活動に必要な日本語運用力（JLPT N1相当）を重要な基盤として捉え、継続的に向上させる意識を持っていること
③本学キャリアセンターの支援や外部情報を積極的に活用し、授業外でも就職活動に関する情報収集や準備を自ら行うこと
④企業研究や自己分析等について、教員からの指示を待つだけでなく、自ら調べ、考え、授業活動に反映させること
⑤授業内での学習活動において、対話や協力を通じて相互理解を深め、教員およびクラスメートと良好な人間関係を築こうとする姿勢を持つこと
※職場におけるビジネス日本語（文書作成・電話対応等）に関する活動は、秋学期開講予定の関連科目で扱います。

【Outline (in English)】
Through a combination of lectures, class discussions, and peer responses, this course introduces all the Japanese you need to get a job and how to communicate with people from different cultures. You will also learn all you need to know about Japanese working culture and how to secure a job. By the end of the course, you will be able to produce the necessary documents to seek and gain employment, such as a curriculum vitae, and you will also have the skills to effectively promote yourself in job interviews. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score25%, assignments55%, and short reports20%.

LANj100IA（日本語 / Japanese language education 100）

スポーツ健康学特講

安達　万里江

サブタイトル：ビジネス日本語２
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、学部留学生を対象とした科目である。本科目では、就労する際に必要な日本語の習得を目指す。ビジネス文書の書き方、メールの書き方、電話応対など、就労場面で必要となる日本語を学ぶ。また、どのような言語表現を用いるかだけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのか、そしてその文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①就労する際に、場面・目的・媒体等に応じて適切な日本語を使えるようになる。
②就労場面で起こり得る衝突に対し適切に対処する方法を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
受講生は、教員の講義の後に、場面を設定したうえで、文書作成や会話の練習などの課題に取り組む。受講生同士で課題を読み合ったり、活動の成果を評価し合ったりしながら学習を進めていく。授業後には、事後課題に取り組む。事後課題については、授業中に教員が解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション 初回実力テスト	授業の進め方の説明 初回実力テスト（会話）
第2回	社内と社外メールの比較	社内・社外のメールと文書の共通点と相違点を比較する
第3回	社内メール	作成した社内宛てのメールを読み合い、話し合う
第4回	社外メール	作成した社外宛てのメールを読み合い、話し合う
第5回	会話（社外電話）	場面に応じた電話対応（社外）の仕方を学ぶ
第6回	会話（社内電話）	場面に応じた電話対応（社内）の仕方を学ぶ
第7回	会話（会議）	会議場面に応じた話し方および議事録作成について学び、模擬会議を行う
第8回	ビジネス文書（議事録）	作成した議事録を読み合い、話し合う
第9回	ビジネス文書（報告書）	作成した報告書を読み合い、話し合う
第10回	ビジネス文書（稟議書）	作成した稟議書を読み合い、話し合う
第11回	ケーススタディ・ロールプレイ①	職場内で起こる問題の解決を目指した話し合いと会話練習①
第12回	ケーススタディ・ロールプレイ②	職場内で起こる問題の解決を目指した話し合いと会話練習②
第13回	ケーススタディ・ロールプレイ③	職場内で起こる問題の解決を目指した話し合いと会話練習③
第14回	期末テスト 今学期のふり返り	期末テスト（会話） ふり返り（話し合い・アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『タスクで学ぶ日本語ビジネスメ-ル・ビジネス文書』村野節子他、スリーエーネットワーク（2014年）1,540円（税込）

【参考書】
・『ビジネス日本語オール・イン・ワン[改訂版] 聴く・読む・話す・書く』小野塚若菜他、ジャパンタイムス（2025年）2,970円（税込）
・『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子他、スリーエーネットワーク（2012年）2,200円（税込）
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、授業内活動20％、提出課題30％、期末テスト20％

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、就労場面を想定した敬語・謙譲語の使い分けやビジネス文書の作成、ロールプレイを通して、業務場面で必要とされる日本語表現やコミュニケーションの取り方を具体的に理解できたとの声が寄せられた。また、毎回異なるメンバーでのグループ活動により、多様なやり取りを経験できた点も評価された。一方で、学んだ表現を用いた会話練習の機会や、日本語表現の正確さを確認できる工夫を求める意見も見られた。これらを踏まえ、今後は文書作成と口頭表現のつながりを意識した活動の充実に留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
・使用教室によっては各自PCまたはタブレット端末を持参してください。
・本科目は本学のアカウントでGoogleのクラスルーム、ドライブ、メール、チャット等を使用します。スマートフォンからでも、使用・確認できるよう事前のインストール・設定をしておいてください。

【その他の重要事項】
・学生の人数および授業の進行に応じて授業計画を調整する場合があります。
・本科目は、日本社会における就労場面を具体的に想定し、学生自身の主体的な準備と実践を重視する授業です。受動的な参加を前提とした授業ではないため、主体的な学習や継続的な取り組みが難しい場合には、授業の特性上、十分な学習効果が得られない可能性があります。特に、受講にあたっては以下の点を前提としています。
①日本の社会や就労場面に関する知識、マナー、日本語コミュニケーションの表現について、授業内外で自ら学び、改善しようとする姿勢があること
②就労場面に必要な日本語運用力（JLPT N1相当）を重要な基盤として捉え、継続的に向上させる意識を持っていること
③生成AIを積極的に活用し、かつ、授業外でも情報収集や準備を自ら行うこと
④教員からの指示を待つだけでなく、自ら調べ、考え、授業活動に反映させること
⑤授業内での学習活動において、対話や協力を通じて相互理解を深め、教員およびクラスメートと良好な人間関係を築こうとする姿勢を持つこと
※就職活動におけるビジネス日本語（面接・ES対策等）に関する活動は、春学期開講予定の関連科目で扱います。

【Outline (in English)】
This course gives you the language skills and cultural knowledge to use appropriate Japanese in a range of business situations and communicate with people from different cultures. Using a combination of lectures, class discussions, and peer responses, you will learn to write and speak Japanese based on specific situations, purposes, medium, and the people you may have to communicate with. By the end of the course, you will have gained the skills to produce various work documents, such as business mail and business reports. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score25％, assignments35％, and term-end examination40%.

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語（a）

新田　誠吾

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は初めてドイツ語を学ぶ人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。簡単な表現を「聞く」「話す」ことを中心に「読む」「書く」ことも行います。授業は、まったく初めての人でも分かるように進め、楽しく学べるようにします。さらに映像等を使って、ドイツ語圏の文化や日常生活を紹介します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) 学んだ表現を、ペアワーク、グループワークで口頭練習を行い、再現する力につなげます。
(4) 授業内容の見直しと定着のための課題をその都度提出し、フィードバックとして添削を返却します。必ず間違いを確認し、正確な知識を身に着けます。
(5) グループによる協同学習やパフォーマンス課題も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス 自己紹介(1)〜あいさつ	自己紹介の表現 アルファベット
2回	自己紹介(2)〜出身を聞く	sein の活用 du と Sie の違い
3回	自己紹介(3)〜初めまして	動詞の活用
4回	家族(1)〜両親です	家族を紹介する
5回	家族(2)〜元気です	自分の調子を伝える mein など所有冠詞。
6回	家族(3)〜離婚しました	これまでの復習 数字
7回	買い物(1)〜いりません	kein を使った表現
8回	買い物(2)〜二つください	名詞の複数形
9回	買い物(3)〜いくらですか	値段を言う
10回	住まい(1)〜居間はこちら	住居に関する表現
11回	住まい(2)〜明るい、広い	形容詞の使い方
12回	住まい(3)〜お気に入り	好みを言う
13回	授業内試験	口頭試験
14回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では、各テーマで使用する重要語彙の発音と意味を調べます。
・復習として、授業内容の確認・定着のための課題を出します。
・本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ１〜２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Schritte international Neu 1(2022). Huerber. 4,800円（※為替により価格が変動します）

【参考書】
アクセス独和辞典（第4版）, 三修社, 2021年（推奨）
参考書は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末に、筆記試験と口頭試験を行います。授業中に必要に応じて小テストも行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（20％）、授業内筆記テスト（50％）、口頭試験（30％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、学生から高い評価を受けました。今年度はさらに質向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
音声・動画教材視聴のためのスマートフォンまたはタブレット

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は、初回授業で「抽選」を行います。履修を希望される方は、初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is a beginner-level German class designed for those learning German for the first time.
The course focuses on listening and speaking simple expressions, while also covering reading and writing. Lessons are conducted in a way that is understandable even for complete beginners, ensuring an enjoyable learning experience. Additionally, we use videos and other materials to introduce the culture and daily life of German-speaking regions.
【Learning Objectives】 To be able to pronounce German correctly, to be able to understand what others say and actually speak German in certain everyday situations in elementary conversation, and to be able to respect the values of people from different cultural and historical backgrounds by learning German.
【Learning activities outside the classroom】 Students will learn the pronunciation and meaning of important vocabulary used in each topic. Homework will be assigned as a review to check and consolidate the class content. Estimated preparation and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria】 At the end of the term, there will be a written and oral exam. Quizzes will be given in class as necessary.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (20%), in-class written test (50%), and oral exam (30%), with a passing grade of 60% or higher.
If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語（b）

北岡　幸代

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初習者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、ドイツ語の正確な発音を身につけ、日常生活の特定の場面において、ドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。そして何よりも、新しい言葉を学び、使うことの楽しさを体感します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
（1）日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
（2）ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
（3）ペアワーク、グループワークによる発話練習を行い、再現する力につなげます。
（4）授業内容の見直しと定着のため、授業外でも課題プリントで学びます。課題等のフィードバックは、配布物・対面フィードバックを行い、必要に応じて「学習支援システム」も使用して行う予定です。
（5）運用練習に多くの時間を割くため、進度はゆっくりめになりますが、丁寧にじっくり取り組んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方・学び方について。 第二外国語を学ぶ意義について。 みんなでドイツ語を話してみよう。
02	人と知り合う（1）	君の名前は？ アルファベートで名前をつづろう。
03	人と知り合う（2）	あいさつをしよう。 相手の調子・気分を尋ねよう。
04	人と知り合う（3）	出身を尋ねよう。 自分の友人を紹介しよう。
05	人と知り合う（4）	du と Sie の使い分け。
06	職業について（1）	インタヴュー： 名前・年齢・住んでいるところ・婚姻状況
07	職業について（2）：	数字の数え方： 0〜100
08	職業について（3）	あなたの職業は？ 職業をめぐる表現。
09	職業について（4）	自己紹介カードを書いてみよう。
10	家族について（1）	家族構成員に関する語彙。 所有冠詞を付けて。
11	家族について（2）	家族構成を語ろう。 否定疑問文への答え方。
12	家族について（3）	家族についての会話： 疑問詞を使う。あるいは、一般疑問文で、情報を引き出す。
13	家族について（4）	誰がどんな言語を話せますか？
14	口頭試験	口頭試験 春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習としては、各テーマで使用する重要語彙の発音と意味をオンラインの学習アプリで学びます。
・復習として、授業内容の確認・定着のために練習プリントの課題を行い、提出します。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『MOMENTE A1.1 Kursbuch』Hueber社、2020年。約3500円。

【参考書】
辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適時紹介し、補助教材・動画教材等は、「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒヤリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、口頭試験（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上の達成で合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・単語の発音やアクセントも、適宜示唆していきます。
・文法事項は、各場面の言い回しで使われている個所から、明示的に説明していきます。
・ドイツ語圏の映画やドイツ語圏の文化・社会に関する時事ニュースの紹介も、好評でしたので積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】
・Quizletという単語学習アプリを使って、授業内ゲームを随時行います。QRコードを読み込んでゲームに参加していただきますので、スマホやタブレットをご用意ください。
・教科書は、スマホやタブレットから画像を読み込んで、音声や動画、文法説明を、自分で使いながら学習することができます。

【その他の重要事項】
・初回のガイダンスには必ず出席して下さい。今後の学習の方向性と意義、継続して学習するための動機づけを提示し、春学期の学習準備の作業等を行います。
・語学の運用授業の勉強は、テーマとなる場面ごとの言い回しやフレーズの発音、意味や使い方をまず理解し、実際にワークで発話練習を繰り返しながら定着につなげていきます。授業内のそれぞれの段階をないがしろにすると、次の段階の学習がうまく機能しません。簡単に思われる学習でも、しっかり取り組むことが、運用と定着のためにとても大事です。
・復習としての課題プリントでは、それらをもう一度整理して、学習ポイントをつかみ、しっかりとした定着を目指しましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a beginner's German class for students who are new to the language.
Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.
【Learning activities outside of classroom】
Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語（c）

新田　誠吾

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：火4/Tue.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を1学期以上学んだことのある人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。
簡単な表現を「聞く」「話す」ことを中心に「読む」「書く」ことも行います。授業は、初修者でも分かるように進め、楽しく学べるようにします。さらに映像等を使って、ドイツ語圏の文化や日常生活を紹介します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) 学んだ表現を、ペアワーク、グループワークで口頭練習を行い、再現する力につなげます。
(4) 授業内容の見直しと定着のための課題をその都度提出し、フィードバックとして添削を返却します。必ず間違いを確認し、正確な知識を身に着けます。
(5) グループによる協同学習やパフォーマンス課題も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	一日の行動(1)〜何時ですか	時刻の表現
2回	一日の行動(2)〜買い物をする	分離動詞
3回	一日の行動(3)〜部屋を片付ける	予定を述べる
4回	一日の行動(4)〜復習	これまでの復習
5回	余暇(1)〜ドライブをする	余暇の行動
6回	余暇(2)〜明日は雨	天候の表現
7回	余暇(3)〜寒い	esを使った表現
8回	余暇(4)〜チーズがない	4格を使った表現
9回	過去の経験を話す(1)〜行ってみたかった	助動詞で意思を伝える
10回	過去の経験を話す(2)〜行ってみた	過去分詞
11回	過去の経験を話す(3)〜買い物をした	現在完了
12回	過去の経験を話す(4)〜起床した	現在完了
13回	授業内試験	口頭試験
14回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では、各テーマで使用する重要語彙の発音と意味を調べます。
・復習として、授業内容の確認・定着のための課題を出します。
・本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ１〜２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Schritte international Neu 1(2022). Huerber. 4,800円（※為替により価格が変動します）

【参考書】
アクセス独和辞典（第4版）, 三修社, 2021年（推奨）
参考書は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末に、筆記試験と口頭試験を行います。授業中に必要に応じて小テストも行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（20％）、授業内筆記テスト（50％）、口頭試験（30％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、学生から高い評価を受けました。今年度はさらに質向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
音声・動画教材視聴のためのスマートフォンまたはタブレット

【その他の重要事項】
春学期の内容を踏まえた授業のため、なるべく春学期の授業も受講するようにしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is a beginner-level German class designed for those learning German for the first time.
The course focuses on listening and speaking simple expressions, while also covering reading and writing. Lessons are conducted in a way that is understandable even for complete beginners, ensuring an enjoyable learning experience. Additionally, we use videos and other materials to introduce the culture and daily life of German-speaking regions.
【Learning Objectives】 To be able to pronounce German correctly, to be able to understand what others say and actually speak German in certain everyday situations in elementary conversation, and to be able to respect the values of people from different cultural and historical backgrounds by learning German.
【Learning activities outside the classroom】 Students will learn the pronunciation and meaning of important vocabulary used in each topic. Homework will be assigned as a review to check and consolidate the class content. Estimated preparation and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria】 At the end of the term, there will be a written and oral exam. Quizzes will be given in class as necessary.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (20%), in-class written test (50%), and oral exam (30%), with a passing grade of 60% or higher.
If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語（d）

北岡　幸代

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：木4/Thu.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初習者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、ドイツ語の正確な発音を身につけ、日常生活の特定の場面において、ドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。そして何よりも、新しい言葉を学び、使うことの楽しさを体感します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
（1）日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
（2）ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
（3）ペアワーク、グループワークによる発話練習を行い、再現する力につなげます。
（4）授業内容の見直しと定着のため、授業外でも課題プリントで学びます。課題等のフィードバックは、配布物・対面フィードバックを行い、必要に応じて「学習支援システム」も使用して行う予定です。
（5）運用練習に多くの時間を割くため、進度はゆっくりめになりますが、丁寧にじっくり取り組んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業の進め方・学び方の再確認。 ドイツ語圏の最新トピックの紹介。 春学期の復習ワーク。
02	買い物をしよう（1）	家具製品の語彙。 物の価値を表現する形容詞。
03	買い物をしよう（2）	名詞の性： 定冠詞と代名詞の使い分けを、会話で行う。
04	買い物をしよう（3）	100以上の数字。 値段に関する表現。
05	買い物をしよう（4）	品物の感想を述べる。
06	身の回りの物（1）	これは何ですか？ 不定冠詞einと否定冠詞keinの使い方。
07	身の回りの物（2）	物の素材と色を表現しよう。
08	身の回りの物（3）	部屋の中にある様々なものについて。 少し長めのテキストの内容を理解しよう。
09	身の回りの物（4）	オンラインで品物を注文してみよう。
10	余暇と趣味（1）	趣味や余暇活動に関する語彙と表現。 行為を価値づける形容詞。
11	余暇と趣味（2）	助動詞können を使う表現。 相手の趣味活動をほめる。
12	余暇を趣味（3）	「出来る」表現のグラデーション。
13	余暇と趣味（4）	頻度を示す副詞を使おう。
14	口頭試験	口頭試験 秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習としては、各テーマで使用する重要語彙の発音と意味をオンラインの学習アプリで学びます。
・復習として、授業内容の確認・定着のために練習プリントの課題を行い、提出します。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『MOMENTE A1.1 Kursbuch』Hueber社、2020年。約3500円。

【参考書】
参考書等は授業中に適時紹介し、補助教材・動画教材等は、「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒヤリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、口頭試験（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上の達成で合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・単語の発音やアクセントも、適宜示唆していきます。
・文法事項は、各場面の言い回しで使われている個所から、明示的に説明していきます。
・ドイツ語圏の映画やドイツ語圏の文化・社会に関する時事ニュースの紹介も、好評でしたので積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】
・Quizletという単語学習アプリを使って、授業内ゲームを随時行います。QRコードを読み込んでゲームに参加していただきますので、スマホやタブレットをご用意ください。
・教科書は、スマホやタブレットから画像を読み込んで、音声や動画、文法説明を、自分で使いながら学習することができます。

【その他の重要事項】
・語学の運用授業の勉強は、テーマとなる場面ごとの言い回しやフレーズの発音、意味や使い方をまず理解し、実際にワークで発話練習を繰り返しながら定着につなげていきます。授業内のそれぞれの段階をないがしろにすると、次の段階の学習がうまく機能しません。簡単に思われる学習でも、しっかり取り組むことが、運用と定着のためにとても大事です。
・復習としての課題プリントでは、それらをもう一度整理して、学習ポイントをつかみ、しっかりとした定着を目指しましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a beginner's German class for students who are new to the language.
Emphasis will be placed on familiarizing students with native voices and speaking in German in everyday situations. The cultural and historical background behind German expressions will be covered as necessary.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to understand what the other person is saying and actually speak in German, if it is elementary conversation, and to be able to respect the values of people with different cultural and historical backgrounds from learning German.
【Learning activities outside of classroom】
Use the online learning application for preparation. You will be given assignments to submit as a review of the class. The standard preparation and review time for this class is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on a comprehensive assessment of the following: achievement of daily submitted assignments (30%), in-class performance and quizzes during the semester (35%), final oral exam (35%).

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語（a）

前之園　春奈

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びながら「読む」・「書く」・「聞く」そして「話す」練習をします。

【到達目標】
フランス語の初級文法を習得し、旅先で役に立ちそうな表現を覚えて使えるようになるのが目標です。
実用フランス語技能検定試験5級〜4級程度の知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進めていきます。
まず各課にある基本会話の映像を見ます。どのような場面か、どのような音声が聞こえるかを確認してから関連する文法項目の説明をします。その後で問題演習をします。練習問題には聞き取り問題や会話練習のための問題もあります。
時間にゆとりがある時にはフランス語の音楽や短い映像を紹介する予定です。
授業内容についての質問や意見は教室で受け付けます。その都度対応するのでいつでも言ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	アルファベ
		簡単な挨拶
2回	自己紹介	動詞être
3回	家族について話す	動詞avoir
4回	物を指し示す	名詞の性と数
		不定冠詞
5回	好き嫌いを言う	-er動詞
		定冠詞
		否定文
6回	今日の日付や誕生日	疑問文
	を言う	指示形容詞
7回	行先や出身地を言う	動詞aller・venir
		前置詞と定冠詞の縮約
8回	交通手段を言う	命令形
9回	どの？ どんな？	疑問形容詞
10回	食事について話す	部分冠詞
11回	欲しいもの・やりた	動詞vouloir
	いことを言う	-ir動詞
12回	時間・天気を言う	非人称構文
		直接目的語の人称代名詞
13回	値段をたずねる・注	動詞prendre
	文する	間接目的語の人称代名詞
14回	前回までの復習	文法項目の見直し・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書にある会話の映像や練習問題の音声は付属のDVDで確認できます。授業の予習復習に利用しましょう。音声を聞いて自分でも発音してみましょう。フランス語の音に慣れるのに効果的です。
授業に出てきた会話表現や動詞の活用は見直して少しずつ覚えていきましょう。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ピエールとユゴー［三訂版］』（DVD付）
小笠原洋子著
白水社
2500円＋税
ISBN978-4-560-06130-5

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。皆さんの様子を見てペースを調整します。
分からないことや不安なこと、気になることがあれば遠慮せずに言って下さい。できる限り対応します。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】
仏和辞典は必要です。詳しいことは初回の授業で説明します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire knowledge of French grammar.
By the end of the course, students should be able to have simple daily conversations in French.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based to the following Term-end examination:70%, in class contribution:30%.

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語（b）

余語　毅憲

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の発音や音読を重視するとともに、基礎的な文法知識や語彙の習得も目指す。

【到達目標】
短いフランス語会話の文章を発話できる。身の回りのことが平易なフランス語で表現できる（到達レベル：仏検4級）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にリアクションペーパーを課する。授業内容に関する質問は次回の授業で回答する。各課のまとめとして音読発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	綴り字の読み方など
2	カフェで注文してみよう①（学習）	1名詞の性と数　2不定冠詞など
3	カフェで注文してみよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
4	自分について話そう①（学習）	1主語人称代名詞 2否定文と疑問文
5	自分について話そう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
6	家族のことを話そう①（学習）	1主語人称代名詞 2形容詞など
7	家族のことを話そう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
8	趣味などを話そう①（学習）	1定冠詞　2強勢形
9	趣味などを話そう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
10	年齢や持ち物を言ってみよう①（学習）	1疑問形容詞　2否定のdeなど
11	年齢や持ち物を言ってみよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
12	交通手段などを伝えよう①（学習）	1疑問代名詞　2il y a　3縮約
13	交通手段などを伝えよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習:前回の範囲を見直しておく。復習:主に音読。予習・復習の目安（計4時間ほど）

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布。

【参考書】
授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：60％ 平常点：40％

【学生の意見等からの気づき】
実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 60% ; in class contribution : 40%

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語（c）

前之園　春奈

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びながら「読む」・「書く」・「聞く」そして「話す」練習をします。

【到達目標】
フランス語の初級文法を習得し、旅先で役に立ちそうな表現を覚えて使えるようになるのが目標です。
実用フランス語技能検定試験5級～4級程度の知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進めていきます。
まず各課にある基本会話の映像を見ます。どのような場面か、どのような音声が聞こえるかを確認してから関連する文法項目の説明をします。その後で問題演習をします。練習問題には聞き取り問題や会話練習のための問題もあります。
課題を出した場合は、提出していただいたものを確認し個別に添削して返却します。
時間にゆとりがある時にはフランス語の音楽や短い映像を紹介する予定です。
授業内容についての質問や意見は教室で受け付けます。その都度対応するのでいつでも言ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	春学期で学習したことの復習
2回	近い未来・近い過去について話す	近接未来・近接過去
3回	料理の注文をする	中性代名詞
4回	比べる	比較級・最上級
5回	過去のことを話す	直説法複合過去
6回	数字	～10000
7回	思い出話をする	直説法半過去
8回	未来のことを話す	単純未来
9回	許可を求める 都合をたずねる	動詞pouvoir
10回	願望を言う	条件法現在
11回	～しなければならない	接続法現在
12回	関係代名詞を使って説明する	関係代名詞
13回	～しながら・～したら・～なので	現在分詞・ジェロンディフ
14回	前回までの復習	文法項目の見直し・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書にある会話の映像や練習問題の音声は付属のDVDで確認できます。授業の予習復習に利用しましょう。音声を聞いて自分でも発音してみましょう。フランス語の音に慣れるのに効果的です。
授業に出てきた会話表現や動詞の活用は見直して少しずつ覚えていきましょう。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ピエールとユゴー［三訂版］』（DVD付）
小笠原洋子著
白水社
2500円＋税
ISBN978-4-560-06130-5

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。皆さんの様子を見てペースを調整します。
分からないことや不安なこと、気になることがあれば遠慮せずに言って下さい。できる限り対応します。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】
仏和辞典は必要です。詳しいことは初回の授業で説明します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire knowledge of French grammar.
By the end of the course, students should be able to have simple daily conversations in French.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based to the following Term-end examination:70%, in class contribution:30%.

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語（d）

余語　毅憲

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金5/Fri.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の発音や音読を重視するとともに、基礎的な文法知識や語彙の習得も目指す。

【到達目標】
短いフランス語会話の文章を発話できる。身の回りのことが平易なフランス語で表現できる（到達レベル：仏検4級）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にリアクションペーパーを課する。授業内容に関する質問は次回の授業で回答する。各課のまとめとして音読発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	毎日の習慣について話そう①（学習）	1代名動詞 2時刻の表現など
2	毎日の習慣について話そう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
3	人を誘ってみよう①（学習）	1近接未来 2 近接過去など
4	人を誘ってみよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
5	複数のものを比べよう①（学習）	1形容詞の比較級 2 形容詞の最上級など
6	複数のものを比べよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
7	買い物をしよう①（学習）	直接・間接目的語代名詞
8	買い物をしよう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
9	自分の体験や過去のことを話そう①（学習）	1過去分詞 2 複合過去
10	自分の体験や過去のことを話そう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
11	アドバイスができるようになろう①（学習）	1il faut 2 命令法
12	アドバイスができるようになろう②（実践）	練習問題、アクティヴィテ
13	予備日（ここまでの復習ないしは進度調整）	半過去、もしくは未来形
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習:前回の範囲を見直しておく。復習:主に音読。予習・復習の目安（計4時間ほど）

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布。

【参考書】
授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：60％ 平常点：40％

【学生の意見等からの気づき】
実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basics of French. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 60% ; in class contribution : 40%

LANc100IA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語1(a)

邱　奎福

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面でを実施する予定です。
講義と演習が中心、毎回数名を指名し、習得度を確認する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	教科書などの説明
2	単母音・子音	単母音の発音の仕方 有気音と無気音の区別
3	声調・複合母音	４声・複合母音
4	鼻母音・音節	鼻母音ｎとｎｇの区別
5	発音の復習	中国語の発音の特徴
6	これは何ですか（文法説明）	疑問詞疑問文
7	これは何ですか（会話練習）	人称代名詞 指示代名詞
8	本は机の上にあります（文法説明）	存在を表す“在”
9	本は机の上にあります（会話練習）	存在、所有を表す“有”
10	私と私の家（文法説明）	名詞述語文 数の数え方
11	私と私の家（会話練習）	年月日、曜日の言い方
12	東京の夏は暑い（文法説明）	形容詞述語文
13	東京の夏は暑い（会話練習）	反復疑問文 選択疑問文
14	達成度チェック	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習1時間が目安。CDを繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』邱奎福(白帝社 2015年3月)

【参考書】
『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度50％・試験50％。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A,中国語1B,中国語1C,中国語1Dをセットで受けたが望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
Strengthening the foundation of Chinese pronunciation.
Learning Objectives
The course focuses on dialog exercises such as pronunciation and greetings.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100IA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語1(b)

邱　奎福

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
中国語の発音の基礎を固める。授業の重点は発音とあいさつなどの会話練習です。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回指名し、発音させて、個別にチェックします。CD を活用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書などの説明
2	第1課	声調　単母音　複母音
3	第2課	子音　無気音と有気音
4	第3課	鼻音（-nと-ng）
5	第4課	“不”の声調変化　“一”の声調変化
6	第5課　どうぞよろしく	“□”を使う疑問文
7	第6課　お名前は	省略疑問文
8	第7課　ご出身は	動詞述語文
9	発音と第5課～第7課の復習	会話練習
10	第8　飲み物は	反復疑問文
11	第9課　おいくつ	名詞述語文
12	第10課　和食はいかが	選択疑問文
13	第8課～第10課の復習	会話練習
14	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
予習は毎回１時間以上すること。

【テキスト（教科書)】
『日中いぶこみ交差点 エッセンシャル版』相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　(朝日出版社 2024年1月）

【参考書】
『初級中国語簡明課本』邱奎福(白帝社 2004年4月)

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、テスト50％。

【学生の意見等からの気づき】
こまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A,中国語1B,中国語1C,中国語1Dをセットで受けた方が望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
Strengthening the foundation of Chinese pronunciation.
Learning Objectives
The course focuses on dialog exercises such as pronunciation and greetings.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100IA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語1(c)

邱　奎福

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習が中心。楽しい会話を徹底的に練習する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	教科書などの説明
2	私は中国語を勉強します（文法説明）	動詞述語文
3	私は中国語を勉強します（会話練習）	状況語の使い方
4	あなたは何をしていますか（文法説明）	現在進行形
5	あなたは何をしていますか（会話練習）	助動詞“想”
6	私は北京に行きました（文法説明）	動作の完了と過去を表わす“了”
7	私は北京に行きました（会話練習）	経験のを表す“☒”
8	私は図書館に勉強をしにいきます（文法説明）	連動文
9	私は図書館に勉強をしにいきます（会話練習）	時間、数量補語など
10	私は読んでわかります（文法説明）	結果補語と可能補語
11	第９項 私は読んでわかります（会話練習）	仮定の表現
12	明日私は行けなくなりました（文法説明）	助動詞“会”“能”
13	明日私は行けなくなりました（会話練習）	助動詞“得”など
14	まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習1時間が目安。CDを繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2015年3月）

【参考書】
　『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度50%,試験50%。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A、中国語1B、中国語1C、中国語1Dをセットで受けた方が望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
The course is designed to guide students to pass the fourth grade of the Chinese language examination.
Learning Objectives
The course focuses on listening and analysis of common verbs, adjectives and nouns related to grammar.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100IA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語1(d)

邱　奎福

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では簡単な中国語の文法を習得できます。　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習。毎回個別に指名し、発音練習をさせます。重要な内容は課題を出し、定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	授業の進め方など
2	第11課　家庭訪問	主述述語文
3	第12課　買い物	連動文
4	第13課　道案内	動作の完了・実現をあらわす“了”
5	第14課　中秋節	「もうすぐ～なる」
6	第15課　食事の前は	時間量の言い方
7	第11課～第15課の復習	会話練習
8	第16課　手作り料理	結果補語
9	第17課　カニの季節	可能補語
10	第18課　スキー場で	様態補語と程度補語
11	第19課　おみやげ	現在進行形
12	第20課　空港まで	“把”構文　受け身
13	第16課～第20課の復習	会話練習
14	達成度チェック	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は毎回１時間目安です。

【テキスト（教科書）】
『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　（朝日出版社　2024年１月　2400円＋税）

【参考書】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2004年4月）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、テスト50％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A, 中国語1B, 中国語1C, 中国語1Dをセットで受けたが望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
The course is designed to guide students to pass the fourth grade of the Chinese language examination.
Learning Objectives
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
The course focuses on listening and analysis of common verbs, adjectives and nouns related to grammar.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語コミュニケーション初級A

新田　誠吾

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は初めてドイツ語を学ぶ人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。第二外国語がドイツ語以外の人でも履修できます。
簡単な表現を「聞く」「話す」ことを中心に「読む」「書く」ことも行います。授業は、まったく初めての人でも分かるように進め、楽しく学べるようにします。さらに映像等を使って、ドイツ語圏の文化や日常生活を紹介します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) 学んだ表現を、ペアワーク、グループワークで口頭練習を行い、再現する力につなげます。
(4) 授業内容の見直しと定着のための課題をその都度提出し、フィードバックとして添削を返却します。必ず間違いを確認し、正確な知識を身に着けます。
(5) グループによる協同学習やパフォーマンス課題も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方・学び方について。 みんなでドイツ語を話してみよう。
02	人と知り合う（1）	あいさつをする。名前、出身、調子・気分をたずねる。
03	人と知り合う（2）	職業を言う。住んでいる場所を言う。
04	人と知り合う（3）	家族について話す。 数字（1）
05	人と知り合う（4）	ここまでの復習
06	買い物をする（1）	家具を買う。価格をたずねる。 数字（2）
07	買い物をする（2）	動詞 finden を使って感想を述べる。
08	物の名前（1）	品物の名称をたずねる／答える。
09	物の名前（2）	眼鏡ショップの広告を読む。 材質・色・形に関する語彙。
10	物の名前（3）	インターネットで注文する。
11	仕事と通信機器（1）	電話の会話を聴く。 オフィスに関する語彙。
12	仕事と通信機器（2）	SMSを使う。
13	仕事と通信機器（3）	これまでの復習
14	試験	口頭・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では、各テーマで使用する重要語彙の発音と意味を調べます。
・復習として、授業内容の確認・定着のための課題を出します。
・本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ１～２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末に、筆記試験と口頭試験を行います。授業中に必要に応じて小テストも行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（20％）、授業内筆記テスト（50％）、口頭試験（30％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
発音や口頭練習を多く取り入れた授業を展開します。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is a beginner-level German class designed for those learning German for the first time. It is also open to students whose second foreign language is not German. The course focuses on listening and speaking simple expressions, while also covering reading and writing. Lessons are conducted in a way that is understandable even for complete beginners, ensuring an enjoyable learning experience. Additionally, we use videos and other materials to introduce the culture and daily life of German-speaking regions.
【Learning Objectives】 To be able to pronounce German correctly, to be able to understand what others say and actually speak German in certain everyday situations in elementary conversation, and to be able to respect the values of people from different cultural and historical backgrounds by learning German.
【Learning activities outside the classroom】Students will learn the pronunciation and meaning of important vocabulary used in each topic. Homework will be assigned as a review to check and consolidate the class content. Estimated preparation and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria】 At the end of the term, there will be a written and oral exam. Quizzes will be given in class as necessary.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (20%), in-class written test (50%), and oral exam (30%), with a passing grade of 60% or higher.
If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANd100IA（ドイツ語 / German language education 100）

ドイツ語コミュニケーション初級B

新田　誠吾

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を1学期以上学んだことのある人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。
簡単な表現を「聞く」「話す」ことを中心に「読む」「書く」ことも行います。授業は、初修者でも分かるように進め、楽しく学べるようにします。さらに映像等を使って、ドイツ語圏の文化や日常生活を紹介します。

【到達目標】
ドイツ語を正しく発音できるようになり、日常生活の特定の場面において、初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、基本的な言い回しや表現について、発音・意味・使い方を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) 学んだ表現を、ペアワーク、グループワークで口頭練習を行い、再現する力につなげます。
(4) 授業内容の見直しと定着のための課題をその都度提出し、フィードバックとして添削を返却します。必ず間違いを確認し、正確な知識を身に着けます。
(5) グループによる協同学習やパフォーマンス課題も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業の進め方・学び方の再確認。春学期の復習と秋学期の内容確認。
02	趣味（1）	趣味を言う。助動詞können を使った表現。
03	趣味（2）	ドイツ人とスポーツ
04	予定をたずねる（1）	時刻の表現
05	予定をたずねる（2）	約束をする／断る
06	食事について（1）	食べ物の好き嫌いを言う。
07	食事について（2）	レストランで注文する。メニューの読み方。
08	復習	これまでの復習
09	交通機関（1）	交通手段の表現。分離動詞。
10	交通機関（2）	旅や乗り換えに関する表現。
11	今日あったことを話す（1）	現在完了形（1）
12	今日あったことを話す（2）	現在完了形（2）
13	復習	これまでの復習
14	期末試験	口頭・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では、各テーマで使われる重要語彙の発音と意味を学習します。
・復習として授業内容の確認と定着を図るための課題を行います。
・予習・復習時間の目安は各2時間程度です。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・期末に、筆記試験と口頭試験を行います。授業中に必要に応じて小テストも行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（20％）、授業内筆記テスト（50％）、口頭試験（30％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
発音や口頭練習を多く取り入れた授業を展開します。

【その他の重要事項】
春学期の内容を踏まえた授業なので、なるべく春学期の授業も受講してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This class is a beginner-level German course designed for students who have studied German for at least one semester.
It focuses on listening and speaking simple expressions, while also covering reading and writing. Lessons are conducted in a way that is understandable even for beginners, ensuring an enjoyable learning experience. Additionally, we use videos and other materials to introduce the culture and daily life of German-speaking regions.
【Learning Objectives】 To be able to pronounce German correctly, to be able to understand what others say and actually speak German in certain everyday situations in elementary conversation, and to be able to respect the values of people from different cultural and historical backgrounds by learning German.
【Learning activities outside the classroom】Students will learn the pronunciation and meaning of important vocabulary used in each topic. Homework will be assigned as a review to check and consolidate the class content. Estimated preparation and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria】 At the end of the term, there will be a written and oral exam. Quizzes will be given in class as necessary.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (20%), in-class written test (50%), and oral exam (30%), with a passing grade of 60% or higher.
If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語コミュニケーション初級A

余語　毅憲

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的なフランス語表現を学習し、他人との簡単なやり取りができる会話能力を身につける。

【到達目標】
簡単なフランス語を使って個人情報についてのやり取りができるようになる。仏検4級に合格可能なレヴェルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にリアクションペーパーを課する。授業内容に関する質問は次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、日常会話の基礎フレーズ集1	挨拶表現、相手の調子を尋ねる表現
2	日常会話の基礎フレーズ集2	自分の名前を言う、はい／いいえで答える
3	日常会話の基礎フレーズ集3	感謝、謝罪、国籍を伝える
4	日常会話の基礎フレーズ集4	自分の兄弟の数、年齢、住所を答える
5	日常会話の基礎フレーズ集5	「〜したいのですが…」「〜するのが好きです」
6	日常会話の基礎フレーズ集6	「〜はありますか?」「〜してもらえますか？」「〜してもいいですか？」
7	日常会話の基礎フレーズ集7	提案・勧誘、相手の意向や意思を尋ねる
8	日常会話の基礎フレーズ集8	「〜するつもりです」「〜しなければなりません」
9	日常会話の基礎フレーズ集9	どこ？ どれ？ いつ？ どうやって？
10	日常会話の基礎フレーズ集10	数や量、理由や目的を尋ねる
11	日常会話の基礎フレーズ集11	飛行機内、空港、入国審査にて
12	日常会話の基礎フレーズ集12	Taxi、Métro、Busにて
13	日常会話の基礎フレーズ集13	部屋の予約、Çaを使った表現
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の範囲を見直しておく 復習：音読や発音の確認。本授業の準備・復習の目安（計4時間ほど）

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布。

【参考書】
授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：60％ 平常点：40％

【学生の意見等からの気づき】
実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】
In this course, students will study basic French conversation and culture at a beginner level. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 60% ; in class contribution : 40%

LANf100IA（フランス語 / French language education 100）

フランス語コミュニケーション初級B

余語　毅憲

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的なフランス語表現を学習し、他人との簡単なやり取りができる会話能力を身につける。

【到達目標】
簡単なフランス語を使って個人情報についてのやり取りができるようになる。仏検4級に合格可能なレヴェルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動はペアワーク主体で進める。授業最後にリアクションペーパーを課する。授業内容に関する質問は次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、日常会話の基礎フレーズ集1	カフェ、ファストフード店にて
2	日常会話の基礎フレーズ集2	洋服を買う
3	日常会話の基礎フレーズ集3	美術館にて
4	日常会話の基礎フレーズ集4	舞台やコンサートのチケットを買う、観光スポットを探す
5	日常会話の基礎フレーズ集5	予定を尋ねられる、遊びに誘われる
6	日常会話の基礎フレーズ集6	駅や病院にて、体調が悪いことを伝える
7	日常会話の基礎フレーズ集7	電話でホテルを予約する、ホテルのチェックイン／チェックアウト
8	日常会話の基礎フレーズ集8	電話でレストランを予約する、レストランに入る、注文する
9	日常会話の基礎フレーズ集9	ファストフード店、朝市、入国審査にて
10	日常会話の基礎フレーズ集10	風景の感想、盗難に遭う、物を失くす
11	日常会話の基礎フレーズ集11	夕食に招待される、ご飯の感想、時間を尋ねる／教える
12	日常会話の基礎フレーズ集12	許可を取る、遅刻する、気分が悪いことを伝える
13	日常会話の基礎フレーズ集13	雨が降っている、帰国を伝える、別れの挨拶
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の範囲を見直しておく 復習：音読や発音の確認。本授業の準備・復習の目安（計4時間ほど）

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布。

【参考書】
授業内で適宜に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：60％ 平常点：40％

【学生の意見等からの気づき】
実践的なコミュニケーション練習を多く導入する。

【Outline (in English)】
In this course, students will study basic French conversation and culture at a beginner level. At the end of the course, students are expected to reach the Test in Practical French Proficiency Grade 4 level.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination : 60% ; in class contribution : 40%

LANc200IA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語2A

劉　紅

カテゴリ：
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を１年以上受けた人を対象とします（初級からの学生でも構いません）。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。④時々単語テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1☒ 学☒☒（1）	読解　会話
第2回	第1☒ 学☒☒（2）	読解　会話　練習
第3回	第2☒ 吃中餐（1）	読解　会話
第4回	第2☒ 吃中餐（2）	読解　会話　練習
第5回	第3☒ 爬☒城（1）	読解　会話
第6回	第3☒ 爬☒城（2）	読解　会話　練習
第7回	第4☒ 去中国留学（1）	読解　会話
第8回	第4☒ 去中国留学（2）	読解　会話　練習
第9回	第5☒ 中国的留学☒（1）	読解　会話
第10回	第5☒ 中国的留学☒（2）	読解　会話　練習
第11回	第6☒ 去☒家☒（1）	読解　会話
第12回	第6☒ 去☒家☒（2）	読解　会話　練習
第13回	看☒影	映画鑑賞
第14回	まとめ、期末試験	授業期間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中国語はじめの一歩』白水社

【参考書】
中国語の辞書を各自用意すること。電子辞書でも構いません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験は70％で、小テストは30％です。出席状況も参考になります。

【学生の意見等からの気づき】
以上の方針で授業を進め、学生に意見にしたがい、改善していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
中国語だけではなく、中国文化や伝統についても授業を通じて学生に伝えようと思っている。この授業を通じて、中国語に興味を持ち、また中国文化に興味を持つきっかけになってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

LANc200IA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語2B

劉　紅

カテゴリ：
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期しっかり勉強した内容を基礎として、さらなる日常会話を覚えることを目的とする。

【到達目標】
この授業では文法を徐々に基礎を築いていくうえで、単語を増やし、読解力を高めていきます。ある程度単語と文法を身に着けてから作文の練習を増やします。自分が言いたいことを中国語で表現することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
単語をしっかり覚えるうえで、文法を理解してもらい、その応用として本文や練習問題をたくさん練習させます。練習問題の答え合わせは授業中に行います。単語や作文の小テストも行います。小テストのフィードバックは毎回その次の授業で各問題の答え合わせをするという形でに行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7☒ 找☒象（1）	読解　会話
第2回	第7☒ 找☒象（2）	読解　会話　練習
第3回	第8☒ 不当☒老族（1）	読解　会話
第4回	第8☒ 不当☒老族（2）	読解　会話　練習
第5回	第9☒ 找工作（1）	読解　会話
第6回	第9☒ 找工作（2）	読解　会話　練習
第7回	第10☒ 西藏行（1）	読解　会話
第8回	第20☒ 西藏行（2）	読解　会話　練習
第9回	自習コーナー　☒健康（1）	読解　会話
第10回	☒自習コーナー　健康（2）	読解　会話　練習
第11回	自習コーナー　☒程教育（1）	読解　会話
第12回	自習コーナー　☒程教育（2）	読解　会話　練習
第13回	看☒影	映画鑑賞
第14回	期末試験・まとめと解説	授業期間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中国語はじめの一歩』白水社

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験は70％で、小テストは30％で評価します。出席状況も参考になります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考しながら、授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
この授業を通じて中国語と中国文化に興味を持ってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

LANf200IA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション中級A

小室　廉太

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。

【到達目標】
・フランス語の初級文法が習得できる。
・フランス語の表現や語彙を習得できる。
・一般的なフランス語表現を用いて会話ができる。
・仏検４級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。毎回の授業の最後に語彙についての小テストを行います。配布する語彙プリントを暗記してください。
フィードバックについては、練習問題に関しては授業内で解説を行います。また小テストについては次週に採点の上返却します。
楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 仏検４級解説 発音規則	授業、評価方法紹介 仏検４級の出題解説 発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞 数字の聞きとり	前置詞の用法 数字（1〜100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（２時間）。
授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（１時間）。
毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各30分）。

【テキスト（教科書）】
初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（60％）と、小テストおよび平常点（40％）を合算して判定します。
・実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。
・欠席は４回までとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度もフランス語会話のクラスから継続して受講する学生が多くいました。
また、仏検４級を受験した学生はすべて合格しました。
昨年度履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン）

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire a French proficiency while relying on exercises from The Practical French Proficiency Tests（仏検）.
【Learning Objectives】
After taking this course, you will be able to:
- Master basic French grammar.
- Learn various French expressions and vocabulary.
- Have daily conversation in French.
- Reach level 4 of The Practical French Proficiency Test (仏検４級).
【Learning activities outside of classroom】
Preparation:
- Do homework exercises (2 hours).
- Memorize the words and expressions for mini-tests (1hour).
Review:
- Check the answer examples of the exercises (1 hour).
【Grading Criteria / Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANf201IA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション中級B

小室　廉太

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検（実用フランス語技能検定試験）の出題に依拠しながら、フランス語の能力向上をめざします。

【到達目標】
・フランス語の初級文法が習得できる。
・フランス語の表現や語彙を習得できる。
・一般的なフランス語表現を用いて会話ができる。
・仏検３級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。毎回の授業の最後に語彙についての小テストを行います。配布する語彙プリントを暗記してください。
フィードバックについては、練習問題に関しては授業内で解説を行います。また小テストについては次週に採点の上返却します。
楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 仏検４級解説 発音規則	授業、評価方法紹介 仏検４級の出題解説 発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞 数字の聞きとり	前置詞の用法 数字（1〜100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（２時間）。
・授業後の復習として、練習問題の発音練習と意味の確認をしてください（１時間）。
・毎回、語彙暗記小テストをするので、暗記および返却されたテストの復習をしてください（各30分）。

【テキスト（教科書）】
初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（60％）と、小テストおよび平常点（40％）を合算して判定します。
・実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。
・欠席は4回までとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は１年時のフランス語会話のクラスから継続して受講する学生が多くいました。履修をためらった学生や、必修授業と重なって受講できなかった学生もぜひ受講してもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン）

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire a French proficiency while relying on exercises from The Practical French Proficiency Tests（仏検）.
【Learning Objectives】
After taking this course, you will be able to:
- Master basic French grammar.
- Learn various French expressions and vocabulary.
- Have daily conversation in French.
- Reach level 4 of The Practical French Proficiency Test (仏検４級).
【Learning activities outside of classroom】
Preparation:
- Do homework exercises (2 hours).
- Memorize the words and expressions for mini-tests (1hour).
Review:
- Check the answer examples of the exercises (1 hour).
【Grading Criteria / Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANd200IA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語コミュニケーション中級A

阪東　知子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を1年以上学んだ人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を身につけます。日常生活で用いられる基本的な表現を理解し、使えるようにすることで、「ヨーロッパ言語共通参照枠」のA2レベルに相当するドイツ語能力の養成を目指します。ペアワークやグループワークを通じて履修者同士が協力し、ドイツ語を積極的に使いながら学びます。

【到達目標】
(1) 間違いを恐れずにドイツ語を積極的に使うことができる。
(2) ドイツ語の発音とつづりに習熟し、正確に発声できる。
(3) 日常生活に必要な基本的表現やその文法を理解し、運用できる。
(4) 言語学習のさまざまな方略を学び、実践できる。
(5) 言語学習を通じてドイツ語圏の文化や社会について知り、異文化を視野に入れてものを考えたり行動できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・日常生活で使われる基本的な表現を学びます。場面や意味を推測・解釈しながら、理解するプロセスも大切にします。
・学んだ表現をペア・グループワークで練習し、身に付けます。
・ドイツ語圏の生活や雰囲気がわかる実際的な音声データや映像を通じてドイツ語の音声に慣れ、また文化や社会についても学びます。
・宿題によって学んだ内容の定着を図ります。
・受講者は各回の授業後にコメントを書き、互いに読んで共有します。学習内容および新たにできるようになったことを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	イントロダクションと既習事項の復習	・授業の進め方の確認 ・自己紹介
02	旅行（1）	どこへ行き、何をしたいか話す
03	旅行（2）	ドイツ観光の計画をする
04	旅行（3）	ホテルの部屋を予約する
05	旅行（4）	ホテルの受付や観光局に問い合わせる
06	街角で（1）	旅先の街で何をしたか話す
07	街角で（2）	建物や施設を理解する
08	街角で（3）	移動手段について話す
09	街の暮らし、田舎の暮らし（1）	都会と田舎の生活の特徴を把握する
10	街の暮らし、田舎の暮らし（2）	自分が住んでいるところを紹介する
11	街の暮らし、田舎の暮らし（3）	都会と田舎を比較する
12	街の暮らし、田舎の暮らし（4）	住みたい場所について述べる
13	春学期のまとめ	春学期の復習と口頭試験の準備
14	授業内試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題で復習をします。
・家庭学習では丁寧に辞書を引きます（授業中は辞書は使用しません）。
・音楽や動画、教科書の音声等を使って、ドイツ語を聞く時間を増やします。
・新しいテーマを学習する前には、テーマに関する予備知識を得るために準備します。
・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤原三枝子、本河裕子、野村幸宏、Carsten Waychert著：『スタート！　2－コミュニケーション活動で学ぶドイツ語－』(三修社) ISBN: 978-4-384-13096-6

【参考書】
特に指定しません。授業内で適宜紹介します。各自が前年度までに使用した教科書も活用してください。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内小テスト（35％）、期末試験（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
音声・動画教材視聴のためのスマートフォンまたはタブレット

【その他の重要事項】
ドイツ語能力の定着・向上のために春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This is a beginning German class for students who have studied German for at least one year. The aim of this course is to help students acquire fundamental communication skills in the four key areas of language learning: listening, reading, speaking and writing. The course is designed to develop German language proficiency equivalent to CEFR level A2, helping students to understand and use basic expressions in everyday situations. Through pair and group work, students will collaborate with one another while actively using German.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to enable students to actively use German with confidence, master German pronunciation and spelling, and learn to articulate accurately and understand basic expressions and grammar necessary for daily life. Students will also learn and practise various language-learning strategies and gain knowledge of German-speaking cultures and societies. The course also aims to encourage students to think and act with cultural awareness.
【Learning activities outside the classroom】Students will be expected to revise using homework assignments and consult dictionaries diligently during home study (dictionaries are not used in lessons). Increase your exposure to German by listening to music, watching videos and listening to audio recordings from the textbook. Before learning a new topic, students should acquire background knowledge on the subject. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】A short test (listening and written) will be conducted upon completion of each theme. An oral examination will be held at the end of term.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), in-class short test (35%), and oral exam (35%), with a passing grade of 60% or higher. If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANd200IA（ドイツ語 / German language education 200）

ドイツ語コミュニケーション中級B

阪東　知子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を1年以上学んだ人を対象にした初級ドイツ語のクラスです。「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を身につけます。日常生活で用いられる基本的な表現を理解し、使えるようにすることで、「ヨーロッパ言語共通参照枠」のA2レベルに相当するドイツ語能力の養成を目指します。ペアワークやグループワークを通じて履修者同士が協力し、ドイツ語を積極的に使いながら学びます。

【到達目標】
(1) 間違いを恐れずにドイツ語を積極的に使うことができる。
(2) ドイツ語の発音とつづりに習熟し、正確に発声できる。
(3) 日常生活に必要な基本的表現やその文法を理解し、運用できる。
(4) 言語学習のさまざまな方略を知っている。
(5) 言語学習を通じてドイツ語圏の文化や社会について知り、異文化を視野に入れてものを考えたり行動できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・日常生活で使われる基本的な表現を学びます。場面や意味を推測・解釈しながら、理解するプロセスも大切にします。
・学んだ表現をペア・グループワークで練習し、身に付けます。
・ドイツ語圏の生活や雰囲気がわかる実際的な音声データや映像を通じてドイツ語の音声に慣れ、また文化や社会についても学びます。
・宿題によって学んだ内容の定着を図ります。
・受講者は各回の授業後にコメントを書き、互いに読んで共有します。学習内容および新たにできるようになったことを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	イントロダクション	・授業の進め方の確認 ・春学期の復習
02	スポーツ、健康、余暇（1）	スポーツの経験について話す
03	スポーツ、健康、余暇（2）	体調について述べる
04	スポーツ、健康、余暇（3）	アドバイスや提案をする
05	学校と専門教育（1）	憧れの職業について話す
06	学校と専門教育（2）	職業の長所・短所を話す
07	学校と専門教育（3）	ドイツの教育制度を理解する
08	学校と専門教育（4）	就職の問い合わせをする
09	サービス業（1）	スクールに申込む
10	サービス業（2）	修理を依頼する
11	サービス業（3）	日常生活で困ったことについて話す
12	サービス業（4）	購入品の苦情を言う
13	秋学期のまとめ	秋学期の復習と口頭試験の準備
14	授業内試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題で復習をします。
・家庭学習では丁寧に辞書を引きます（授業中は辞書は使用しません）。
・音楽や動画、教科書の音声等を使って、ドイツ語を聞く時間を増やします。
・新しいテーマを学習する前には、テーマに関する予備知識を得るために準備します。
・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤原三枝子、本河裕子、野村幸宏、Carsten Waychert著：『スタート！　2－コミュニケーション活動で学ぶドイツ語－』(三修社) ISBN: 978-4-384-13096-6

【参考書】
特に指定しません。授業内で適宜紹介します。各自が前年度までに使用した教科書も活用してください。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テスト（ヒアリング・筆記）を実施します。期末は口頭試験を行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内小テスト（35％）、期末試験（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上達成で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
音声・動画教材視聴のためのスマートフォンまたはタブレット

【その他の重要事項】
ドイツ語能力の定着・向上のために春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、秋学期からの履修も歓迎します。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This is a beginning German class for students who have studied German for at least one year. The aim of this course is to help students acquire fundamental communication skills in the four key areas of language learning: listening, reading, speaking and writing. The course is designed to develop German language proficiency equivalent to CEFR level A2, helping students to understand and use basic expressions in everyday situations. Through pair and group work, students will collaborate with one another while actively using German.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to enable students to actively use German with confidence, master German pronunciation and spelling, and learn to articulate accurately and understand basic expressions and grammar necessary for daily life. Students will also learn and practise various language-learning strategies and gain knowledge of German-speaking cultures and societies. The course also aims to encourage students to think and act with cultural awareness.
【Learning activities outside the classroom】Students will be expected to revise using homework assignments and consult dictionaries diligently during home study (dictionaries are not used in lessons). Increase your exposure to German by listening to music, watching videos and listening to audio recordings from the textbook. Before learning a new topic, students should acquire background knowledge on the subject. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】A short test (listening and written) will be conducted upon completion of each theme. An oral examination will be held at the end of term.
Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), in-class short test (35%), and oral exam (35%), with a passing grade of 60% or higher. If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

LANf200IA（フランス語 / French language education 200）

ドイツ語セミナーA

北岡　幸代

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方、勉強方法について
第2回	住まいについて(1)	住まいのつくり
第3回	住まいについて(2)	感想や評価の表現
第4回	住まいについて(3)	賃貸住宅の広告を読む
第5回	お気に入りの街角(1)	街の景色
第6回	お気に入りの街角(2)	私の街の紹介
第7回	お気に入りの街角(3)	好みを伝える表現
第8回	ホテルでのトラブル(1)	ホテルの設備
第9回	ホテルでのトラブル(2)	助けを求める表現
第10回	ホテルでのトラブル(3)	予定を伺うメール 言い訳と謝罪の表現
第11回	夢と計画(1)	将来の夢を語る
第12回	夢と計画(2)	どこで何を学んでいるの？
第13回	夢と計画(3)	創造的に書いてみよう
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen Kursbuch A1.2 』(Hueber)

【参考書】
参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材等は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語の学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.
【Learning Objectives】 The goals of the course are to
1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.
【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.
If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200IA（フランス語 / French language education 200）

ドイツ語セミナーB

北岡　幸代

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】
1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、勉強方法について
第2回	身体と健康(1)	体調不良をめぐる表現
第3回	身体と健康(2)	命令形の表現
第4回	身体と健康(3)	身体部位と体調をめぐる表現
第5回	人物評(1)	人物の外見について 過去形の表現
第6回	人物評(2)	人物像について 非分離動詞の使い方
第7回	人物評(3)	驚きの表現
第8回	家事とシェアハウス(1)	日記を読む 命令形
第9回	家事とシェアハウス(2)	家事をめぐる表現
第10回	家事とシェアハウス(3)	シェアハウスについて
第11回	服装について(1)	服装に関する表現
第12回	服装について(2)	評価・感想の表現 比較の表現
第13回	服装について(3)	強調する表現
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと、ヒヤリング・筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】
参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】
ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.
【Learning Objectives】 The goals of the course are to
1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.
【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.
If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200IA（フランス語 / French language education 200）

フランス語セミナーA

桑原　旅人

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	自己紹介	フランス社会における個人性
第3回	出身を語る	フランス人の国民国家意識と共和国
第4回	社会的属性を語る	フランス人の職業・所属意識
第5回	好みを言語化する	「意見を言う」ことの前提
第6回	注文の仕方	フランスのカフェ文化
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	場所・都市・空間感覚	パリについて
第9回	予定と時間意識	フランス人の時間管理
第10回	感情と評価	感情表現の許容度
第11回	依頼提案の仕方	直接性と対等性
第12回	日常会話での衝突	誤解が生まれる場面
第13回	家族を語る	フランス人の家族感
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業のなかで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
二回のレポート50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】
今学期からの授業となります。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200IA（フランス語 / French language education 200）

フランス語セミナーB

桑原　旅人

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・語学
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】
フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	意見を述べる	「意見を持つこと」が前提の社会
第3回	賛成・反対・違和感	対立を前提とする会話文化
第4回	評価と批評	批評文化の基礎
第5回	公共空間で話す	フォーマル／インフォーマルの切替
第6回	世俗主義と宗教	laïcité の基本理解
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	政治・社会問題を「軽く」語る	断定を避けつつ語る技法
第9回	抽象語に慣れる	フランス語の抽象度
第10回	主語をぼかす戦略	曖昧さに伝える技法
第11回	違いを説明する	比較の言語化
第12回	意見交換	文化的テーマ
第13回	言語と権力	フランス語における 非人称主語（on / il faut） の役割
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業ないで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、二回のレポート50%

【学生の意見等からの気づき】
今学期からの担当となります。

【Outline (in English)】
This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

BAM100IA（基礎医学 / Basic medicine 100）

生理学

高見　京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・生理学は、人間の身体がどのように機能を発現・維持し、調節しているかを明らかにする学問です。本授業では、スポーツ健康学部に入学した学生が、どのコースに進む場合であっても理解しておくべき内容として、人間の身体の形態と機能、さらに重要な反応や適応について学びます。
・本授業の目的は、正常な身体の機能を分類して理解し、それらの相互関係を体系的に説明できる理論的な基礎を身につけることです。

【到達目標】
・人間の身体の構造と機能について具体的に説明できる。
・生理機能とその仕組みを体系的に理解し、説明できる。
・生命現象について論理的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に対面形式で実施します。以下の手順に従い、学習を進めてください。
①授業で使用する『配布資料』は、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に公開されます。これをと教科書とを併せて予習を行ってください。
②『配布資料』と同時に『予習』が「テスト」に公開されますので、期限内に実施してください。
③授業開始時には、前回の授業内容の理解度を確認するための『小テスト』を行います。各自のデバイスを法政Wi-Fiに接続し、学習支援システムを開いておいてください。
④授業中、『配布資料』はスクリーンに投影しますが、印刷したものを持参するか、各自のデバイスで閲覧し、メモを取りながら受講してください。
⑤授業終了時に、『復習』が公開されますので、期限内に実施してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人体の成り立ち、生体の持つ調節のメカニズム	人体の成り立ちを確認し、人の重要な生命プロセスを分類する。そして、生体の持つ調節のメカニズムを理解する。
2	細胞膜の生理学、細胞の電気現象	細胞の主要な部分の名称とその役割を学習し、細胞の電気現象を理解する。
3	神経系、体性感覚	神経系のはたらきを理解して、神経伝達の仕組みを学習する。感覚を分類し、体性感覚の受容器の仕組みを理解して、体性感覚の伝達経路を理解する。
4	視覚、スポーツビジョン	眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習して、スポーツビジョンについて学ぶ。
5	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	自律神経系、内分泌系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
8	血液、体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
9	消化、栄養	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	代謝	筋のエネルギー供給機構を学習して分類する。そして、エネルギー代謝について理解する。
11	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
12	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
13	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：『配布資料』と教科書を参考に、学習支援システムに公開される『予習』の設問に解答してください。
復習：『配布資料』の最終ページにある章のまとめを確認し、学習支援システムの『復習』の設問に解答してください。
予習および復習の目安時間は、それぞれ4時間程度です。

【テキスト（教科書）】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版」(照井直人編, 羊土社, 2012年)

【参考書】
「トートラ人体解剖生理学 原書11版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020年)

【成績評価の方法と基準】
予習Sheetへの解答(30%)
小テストの得点(40%)
復習Quizへの解答（30%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して資料の配布や課題の提出を行うため、インターネットに接続可能なデバイス（ノートパソコンやタブレットなど）を準備してください。

【その他の重要事項】
各自の関心領域に基づく授業外学習を通じて基礎知識を習得するとともに、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を確立してください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire be able to classify normal body functions and theoretically explain systematic interrelationships.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Be able to specifically describe the structure and function of the human body.
- Be able to systematize physiological functions and their mechanisms.
- Be able to consider life phenomena.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Answers to Preparation Sheet: 52%, Review Quiz Answers: 48%

BAM100IA（基礎医学 / Basic medicine 100）

機能解剖学Ａ

泉　重樹

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／２単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学では人体構造を主に筋骨格系から理解し、運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件である構造を学ぶ。そしてその成果から外傷・障害予防やパフォーマンス向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】
　人体の運動器系（骨格系と筋系）の構造を理解する。重力に抗して立つ下肢、身体の中心軸となる体幹、人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義では、人の動作の運動学的評価、スポーツ外傷・障害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに必要な人体の構造および機能についてを運動器を中心に理解することを目標とする。そのために骨、筋、関節、靱帯（他軟部組織含む）、神経系などと身体運動を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配１
3	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
4	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
5	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
6	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
7	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
8	下肢（膝関節）	膝関節、靭帯、半月板、筋、運動
9	下肢（足関節）	距腿関節、距骨下関節、靭帯、筋、運動
10	下肢（足部・全体の復習）	足部の骨、静的・動的下肢アライメント、二関節筋、運動、神経
11	脊柱全体・頚部	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
12	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
13	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、仙腸関節、筋、運動
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回 特になし。
第2～14回 前回授業の課題への取り組みと復習。
本授業の準備・復習時間は４時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト１運動器の機能と構造 スポーツ動作の機能解剖. 文光堂(2024)
中村千秋(翻訳), 竹内真希: 身体運動の機能解剖. 医道の日本社(2002)
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学. 医学書院 (2012)
坂井建雄: プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院(2016)
F.H.Netter(著), 相磯貞和(翻訳): ネッター解剖学アトラス原書第6版. 南江堂(2016)
松村譲兒: イラスト解剖学. 中外医学社(2014)
広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂(2019)

【成績評価の方法と基準】
試験５０%、小テスト２５%＋平常点２５%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ほとんどが新しい用語で、さらに用語自体を漢字で覚えるもの多く量も多いため知識を整理するのに苦労しているようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline (in English)】
[Course outline] In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.
[Learning objectives] The goal of this class is to understand the structure of the skeletal and muscular system and joint motion in anatomy.
[Learning activities outside of classroom] Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term end examination: 50%, Short reports: 25%, in class contribution: 25%.

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

スポーツ哲学

小田　佳子

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では「体育とは何か？」「スポーツとは何か？」を考える上で必要な原理・原則について知識を深める。スポーツがもつ価値や社会で果たす役割等について、自らの言葉で語ることができることを目標とする。
スポーツに携わる者は、今後、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られるであろう。
「人はなぜスポーツに魅せられるのか？」「スポーツの魅力とはいったい何なのか。」
自分にとってのスポーツとはどのようなものであり、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについて、より深く考えることがスポーツ科学の専門家には求められる。

【到達目標】
スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察する。
「スポーツ哲学とは」、「オリンピックとオリンピズム」「ドーピングとは」、「体育とスポーツの違い」、「指導者とコーチの違い」、「フェアプレイとは」など、スポーツを取りまく諸課題について、科学的な根拠を踏まえた上で自分自身の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。
　テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、スライドを使用したスクール形式の一斉対面型で、双方向での議論を交えた授業を行う。
　本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々な事象に焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。
　スポーツの素晴らしさと課題を自らの言葉で説明するためにも各々の学生に各々のスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明 体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育・スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何かを考える
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要(なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
5	オリンピックとオリンピズム②	近代オリンピックが目指したものは何か、TOKYO2020の現状と課題を踏まえて考える
6	スポーツと勝利至上主義	スポーツにおける「勝利至上主義」という問題性について自己の経験から考える
7	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史とアンチ・ドーピング活動の必要性、現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
8	スポーツコーチング（ゲスト講師）	スポーツコーチングにおける主観と客観について、理論と現場を踏まえつつ、新たなコーチングの視点を考察する
9	国民スポーツ大会のゆくえ（ゲスト講師）	メディアの視点からスポーツ行政の現場で国民スポーツ大会を考える。体育からスポーツへの転換を踏まえ、大会の魅力再興の術とは何か。
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことなのか考える
11	スポーツ哲学から学び①（発表・評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
12	スポーツ哲学から学び②（発表・評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
13	スポーツ哲学から学び③（発表・評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
14	試験	まとめ (ふりかえりとテスト)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツに関するニュースや新聞記事等を教材として使用するため、各授業のテーマに関する情報収集を心がける。授業では毎回、テキストからの課題を提示し、哲学的思考と共にその思考と論拠を記述し、次回の授業では自らの言葉で発表する。
本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
「教養としての体育原理（新版）-現代の体育・スポーツを考えるために-」
友添秀則・岡出美則編　大修館書店　新版第1刷(2016年7月)
また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内での積極的な意見（発言）は、授業への積極的参画として評価する。
授業内小テストおよび貢献(30%)
定期試験(最終プレゼン20＋試験50＝70%)
上記の項目を総合的に評価する。
なお、授業出席回数が2/3未満の学生は成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
多人数の大講義であり、各学生がそれぞの課題に真摯に取り組み、アクティブな議論とともに思考が深められるような場の設定と授業環境を整えたい。

【学生が準備すべき機器他】
課題やプレゼンに対応するためのノート型PC。
資料配布・課題提出等に学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
中・高の学校現場で保健体育・英語の教員として15年勤務し、その内4年間は文部科学省派遣で海外の在外教育施設での勤務歴を有する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, we discuss Sport and Physical Education. This course is designed to deepen students' knowledge of the principles and basic necessary for considering "What is Physical Education?"and “What is Sport?”
Why are people attracted to sports? What exactly is the appeal of sports?"
Sport science specialists are expected to think more deeply about what sport means to them and the various ways in which they can be involved in sport, depending on their objectives.
【Learning Objectives】
The goal is for students to be able to speak in their own words about the value of sport itself and the role it plays in society.
Those involved in sports will need to talk about sports in their own words in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than 4 hour for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
In-class quizzes and contributions (30%)
Regular exams (20% for final presentation + 50% for exam) =70%

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツ社会学

望月　拓実

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ社会学では、スポーツを社会現象の一つとして捉える、あるいは社会における様々な文化や現象を、スポーツを通じて観測することによって理解することを主眼としている。例えば、スポーツは娯楽としての側面もあれば、政治活動を行う際の交渉道具にもなる。人間とスポーツの関わりを多様な視点から検証することによって、スポーツが持つ社会内の役割を認識することを目的とする。

【到達目標】
1：スポーツと人との多様な関わり方を説明することができるようになる
2：スポーツの人間が関わる際に起こり得る課題に対して、社会理論を用いて具体的な対応策を提示することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた資料および映像資料を用いて講義をすすめる。なお、講義内では多様なグループワークを用いたインタラクティブなコミュニケーション機会も設定する。加えて、教員と受講生間のコミュニケーション機会を確保するためリアクションペーパーも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	なぜ社会の中のスポーツを定義するのか(スポーツ社会学とは何か)	文化と社会を定義する、スポーツの伝統的な定義、オルタナティブな定義、なぜスポーツを学ぶのか
第3回	社会理論を用いた人間とスポーツの関係性	社会学における理論の解説、機能主義論、コンフリクト理論、批判論、フェミニズム理論、相互理論
第4回	スポーツと社会化	スポーツの社会化とは、従来理論からのアプローチ、社会化への新たなアプローチ、社会化研究の限界
第5回	スポーツと逸脱	スポーツにおける逸脱とは何か？、逸脱の定義、スポーツにおける逸脱を研究するときに直面する問題、逸脱の抑制アプローチ
第6回	ジェンダーとスポーツ	なぜ女性のスポーツ参画が増大したのか、参画増大を予測する際に慎重にならざるを得ない理由、イデオロギー問題と権力問題
第7回	人種・民族とスポーツ	人種と民族の違い、人種起源と人種イデオロギー、スポーツにおける人種的・民族的関係の課題と対応
第8回	スポーツと社会階層	スポーツにおいて金銭と権力は重要か？、社会階層と階層関係、社会階層とスポーツ参加、スポーツにおける経済的機会と職業機会
第9回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第10回	スポーツとメディア	スポーツとメディアの双方向性、メディアスポーツにおけるイメージと語りが人々のイメージ、イデオロギー、行動に及ぼす影響
第11回	スポーツと経済	商業スポーツの台頭、商業スポーツの出現と成長、商業スポーツがもたらすスポーツへの関心、商業化とスポーツにおける変化
第12回	スポーツと政治	スポーツと政治の結びつき、スポーツの中の政治(何がスポーツとみなされ、誰がスポーツのルールを決め、誰がイベントを組織し、誰がスポーツに参加する資格を判断し、どのように選手やスポーツ関係者に報酬が分配されるのか？)
第13回	スポーツがもたらす神話	体育会系就職の実態、スポーツがもたらす神話の検討
第14回	最終テスト	学習の総括と最終テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し，授業時に発言，またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備・復習時間は各２時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
現代スポーツの社会学―課題と共生への道のり―　ジェイ・コークリー、ピーター・ドネリー　南窓社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30％
講義内小テスト：20％
最終課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク実施時のアプローチ方法をいくつか追加しました。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】
【Course outline】　The main focus of sports sociology is to understand sports as a social phenomenon, or to understand various cultures and phenomena in society by observing them through sports. For example, sports can be an aspect of entertainment or a bargaining tool for political activities. By examining the relationship between humans and sports from a variety of perspectives, the objective is to recognize the role that sports have within society.
【Learning Objectives】1: Be able to explain the various ways in which people interact with sports.　2: Be able to use social theory to offer specific responses to the challenges that may arise in human involvement in sport.
【Learning activities outside of classroom】　Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】　Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.
In-class quiz: 20%.
Final report assignment: 50%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

ヘルスデザイン論

安藤　正志、林田　はるみ

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では、科学技術の進展や生活環境の変化に伴い、生活習慣の多様化が進み、健康課題との関連が指摘されている。本授業では、偏った食生活や運動不足などの生活習慣が生活習慣病の発症リスクにどのように関与するかを学ぶ。また、健康に関する基礎的知識を理解するとともに、誤った健康情報や不適切な生活習慣について多角的に検討する。さらに、生涯を通じた健康づくりを実践するために必要な知識と具体的な対処方法を修得することを目的とする。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の能力を身につけることである。
生活習慣病の主要な危険因子（食事・運動・睡眠など）を説明できる。
自身の生活習慣を客観的に分析し、改善案を具体的に提案できる。
健康に関する情報の正誤を、根拠を示して判断できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式を基本とし、各回のテーマに沿って最新の健康課題やその対策の現状について解説する。あわせて、理解を深めるために以下のアクティブラーニングを取り入れる。
各回の小テストまたは確認課題
生活習慣のセルフチェックおよび改善案作成ワーク
健康情報の真偽を検討するディスカッションまたはリアクションペーパー
第1回～第6回はオンライン（同期型）で実施し、そのうち一部の課題はオンデマンド（非同期型）教材を用いて学修する。オンデマンド授業の視聴方法および課題提出方法・期限については、第1回授業時に具体的に説明する。
第7回以降は対面形式で実施し、必要に応じて簡単な実践的ワーク（立位での軽運動や姿勢確認等）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論・運動と健康	ヘルスデザインの定義と各論の紹介・運動が健康に及ぼす影響について講義する
2	食事と健康	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康	水分補給の重要性について講義する
4	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
5	トレーナビリティと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
6	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
7	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
8	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
9	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
10	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
11	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
12	歯と口腔内の健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
13	ヘルスデザイン総括	ヘルスデザインについて知識の確認を行う
14	試験・まとめ	ヘルスデザイン論の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】
特に定めず、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の基準により総合的に評価する。
① 平常点（10％）
毎回の課題提出状況および内容の質を評価する。主に、授業内容の理解度、課題への主体的な取り組み、健康課題に対する考察の深さを基準とする。
② 知識確認テスト（45％）
学期中間に実施する。生活習慣病の危険因子や健康に関する基礎知識の理解度、および基本概念の説明能力を評価する。
③ 期末試験（45％）
学期末に実施する。健康課題に関する総合理解、生活習慣の分析力、健康情報を根拠に基づいて判断する力を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを毎回講義前日までに確認し、オンラインで必要な資料を各自印刷あるいはファイルなどで準備する。

【その他の重要事項】
本授業では、理解を深めるために簡単な実践的ワーク（姿勢の確認、軽度の運動実践、生活習慣のセルフチェック等）を行う場合がある。
教室の収容状況や教育環境の安全確保が困難と判断される場合には、授業形態をオンライン（同期型）またはオンデマンド（非同期型）に変更することがある。授業形態の変更および詳細な実施方法については、学内の学習管理システム（LMS）等を通じて事前に連絡する。
オンラインまたはオンデマンド授業に変更した場合は、指定された課題の提出をもって出席とみなし、成績評価に反映する。提出期限および評価基準は事前に提示する。

【Outline (in English)】
Course Outline
In contemporary society, changes in science, technology, and living environments have influenced lifestyle patterns and are associated with increasing health risks. This course examines how unbalanced diets and physical inactivity contribute to the development of lifestyle-related diseases. Students will explore the relationship between social changes and health issues from multiple perspectives.
Learning Objectives
By the end of this course, students will be able to:
Explain the major risk factors for lifestyle-related diseases, including diet and physical inactivity.
Analyze their own lifestyle habits and propose practical strategies for improvement.
Critically evaluate health-related information and distinguish reliable evidence from misinformation.
Learning Activities Outside of Class
Students are expected to complete assigned readings and tasks after each class meeting. Preparation and review for each class should require approximately four hours of independent study.
Grading Criteria / Policy
Final grades will be based on:
Reports and assignments (20%): Evaluation of understanding, critical thinking, and ability to apply course concepts.
Final examination (80%): Assessment of knowledge comprehension and analytical skills related to course objectives.

PSY100IA（心理学 / Psychology 100）

スポーツ心理学Ａ

島本　好平

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：１年次／２単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学とは，スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問であり，応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では，スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は，受講生がスポーツによる心理学的な影響についての知識を深めることである。また「競技者」「指導者」「教育者」等のそれぞれの立場からスポーツにおける心理学的問題・課題について，専門的知見から基礎的説明ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で展開する。また、可能な限りメンバー数名とグループを組み、グループディスカッションを展開してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。スポーツ心理学の意義とその役割について解説する。
2	動機づけを高める目標設定	目標設定による効果、目標設定における原理・原則等について学習する。
3	競技ストレスへの対処	心理検査をもとに自らのストレスパターンを調べ、ストレスとの付き合い方について学習する。
4	アンガーマネジメント	怒りや情動等をコントロールする方法について学習する。
5	ストレスを軽減するソーシャルサポート	ソーシャルサポートの種類とそれらが競技者の心理面に及ぼす影響等を学習する。
6	緊張・あがりへの対処	大事な場面において発生する緊張への対処方法について学習する。
7	メンバーとの関係性とコミュニケーション	コミュニケーションスキルの種類、およびそれらの獲得方法について学習する。
8	チームビルディング	チームのまとまり（集団凝集性）を高めていくための方法について学習する。
9	チームのまとまりを高める個の行動（組織市民行動）	チームのまとまりを高める、構成員の組織市民行動について学習を行う。
10	目標達成へと導くコーチングスキル	コーチングスキルの本質、および望ましいコーチングのあり方について学習する。
11	心理的競技能力を高める	心理的競技能力診断検査をもとに、同能力の構成と自らの現所について学習する。
12	スポーツと人間形成	スポーツが人間形成や行動変容に及ぼす影響について、また、行動変容につながる意識変容の重要性について学習する。
13	行動変容を意図したプログラム開発およびカウンセリング	ここまでの自己理解の深化と目標設定スキルをもとに，自己に合った行動変容（例：身体運動量増加）のためのプログラムを作成する。また、１週間の実践を通じてその達成度を自己評価し、その結果をグループ内で共有しながら相互にカウンセリングを実施する（評価以降の内容は14回目授業で行う予定）。
14	講義内容の総まとめ	ここまでの授業内容をダイジェスト形式で振り返りつつ、本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回に授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それらを参考にしながら更に知識を深めていってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布します。

【参考書】
・「現場で活きるスポーツ心理学」（杏林書院，編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点60％，最終レポート：40％，その他にも加点要素あり。
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業後に感想や質問などを記入するリアクションペーパーを提出してもらいます。そこで記入された意見・感想等については、次回の授業序盤に前回の復習も兼ねてフィードバックを行います。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによっては、授業計画に変更が生じることがあります。また，スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時触れていく予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the basic knowledge of sports psychology about theory and its practical use to students taking this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- understand well about psychological effect on the sport performance.
- explain with evidence about psychological problems from various positions such as coach, teacher, and player.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The participation attitude: 60%, The final report: 40%

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツ史

梶　孝之

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　現在、スポーツは単に競技や遊びとして行うだけでなく、見たり、聞いたりする時代となった。このようにスポーツは、人々の健康や幸福追求にとって欠くことのできない一つの重要な生活文化領域を占めるようになってきている。しかし、そもそも私達が行い、見たり、知っているつもりであるスポーツとは何なのか。本講義ではその手がかりとして、現代スポーツの直接の起源となった歴史について言及する。
上記の学びを、自らがスポーツに携わる現状にひきつけて考えることを目的とする。

【到達目標】
オリンピックやワールドカップなどの巨大スポーツイベントの意義や問題点、各スポーツ種目の発展の経緯、我が゛国の体育・スポーツの歴史的発展と問題点など゛を、具体的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　各回、PowerPoint資料を用いて講義を行う。映像資料が現存している場合には、可能な限り、動画を見ることができるよう配慮する。
　毎回の講義では、当日の講義内容を自分自身でまとめる時間をつくり、加えて、感想及び疑問等のリアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方や本講義の概要を説明する。
2	スポーツの成立過程とは？	古代のスポーツ、中世のスポーツ、近世のスポーツ、時代毎の、スポーツの成立過程とその意味について考える。
3	オリンピックとは何か？ Olympic Truceとは何か？	オリンピックの再興と発展、また古代オリンピックから現代への平和思想の繋がりを学ぶ。
4	スポーツの発生から近代スポーツの成立まで	遊びとしてのスポーツ、祭礼としてのスポーツ、ブラッディスポーツを経て、近代スポーツが成立する過程を学ぶ。
5	テニスの歴史的変遷	古代から現代までのスポーツの成立過程を『テニス』という種目から学ぶ。
6	アイススポーツの歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『アイススポーツ』という種目から学ぶ。
7	格闘技の歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『格闘技』という種目から学ぶ。
8	野球の歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『野球』という種目から学ぶ。
9	バスケットボール・バレーボールの歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『バスケットボール・バレーボール』という種目から学ぶ。
10	バドミントンの歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『バドミントン』という種目から学ぶ。
11	武道の歴史	古代から現代までのスポーツの成立過程を『武道』という種目から学ぶ。
12	54年8ヶ月6日5時間32分20秒3（人物史）	日本陸上競技長距離界の発展に尽力した金栗四三に焦点を合わせる。
13	日本人女性初のオリンピックメダリスト（人物史）	日本女子スポーツ界の発展に尽力した人見絹枝に焦点を合わせる。
14	本講義のまとめ	本講義のまとめを行い、尚且つ、講義内での論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマ毎に準備学習を行う。（予習2時間）
講義終了後、当該テーマを深める。（復習2時間）

【テキスト（教科書）】
講義内では、PowerPoint資料を用いる。
講義内では、テキストは使用しない。

【参考書】
講義中に適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
　「講義ごとに課す課題」(50％)と「最終講義時間に設定する講義内試験」(50％)の提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義のリアクションペーパーから、受講者の声を聞くことができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義では、PowerPoint資料、映像資料などを使用する。学生の側で準備を必要とする機器はない。

【その他の重要事項】
　受講生は，興味関心のあるスポーツの歴史には、特に関心を持ってほしい。

【Outline (in English)】
What is the sport that we play, watch, and think we know? In this lecture, as a clue, we will refer to the history that is the direct origin of modern sports.
Students will gain a concrete understanding of the significance and problems of huge sporting events such as the Olympics and the World Cup, the development history of each sport, and the historical development and problems of physical education and sports in Japan.
Preparation will be done for each theme of each lesson (2 hour preparation). After the lecture, the topic will be studied in depth (4 hour review).
The assignments assigned for each lecture（50％） and the submission of the in-class examination set during the final lecture time（50％） will be comprehensively evaluated.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ生理学

高見　京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ生理学は、競技者のトレーニングや健康運動の指導などの現場で不可欠な基礎学問です。本授業では、スポーツ健康学部で学ぶすべての学生が、いずれのコースを選択する場合でも理解しておくべき、ヒトの身体の形態、機能、および重要な反応や適応について取り上げます。
本授業の目的は、機能解剖学および生理学で学んだヒトの身体構造や働きを基礎に、運動中、運動後、あるいは運動を継続する際に身体にどのような影響や効果が生じるのかを理解することです。これにより、身体の一時的変化や適応的変化のメカニズムを深く理解することを目指します。

【到達目標】
・運動による身体の機能的変化について理解を深める。
・運動やトレーニングがもたらす生理学的な機能や効果、その意義を系統立てて説明できる。
・健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上を目指したトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて構築する知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に対面形式で実施します。以下の手順に従い、学習を進めてください。
①授業で使用する『配布資料』は、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に公開されます。これをと教科書とを併せて予習を行ってください。
②『配布資料』と同時に『予習』が「テスト」に公開されますので、期限内に実施してください。
③授業開始時には、前回の授業内容の理解度を確認するための『小テスト』を行います。各自のデバイスを法政Wi-Fiに接続し、学習支援システムを開いておいてください。
④授業中、『配布資料』はスクリーンに投影しますが、印刷したものを持参するか、各自のデバイスで閲覧し、メモを取りながら受講してください。
⑤授業終了時に、『復習』が公開されますので、期限内に実施してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 運動の発現および制御、ならびに運動トレーニングによる脳・神経系への効果を習得する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	循環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	栄養と運動、体の大きさ、ウエイトコントロール	栄養素の役割とグリコーゲンローディングについて理解する。体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。スポーツ選手と肥満者のウエイトコントロールについて理解する。
10	体力の測定(形態・神経・筋・全身持久力)	体力の測定方法を分類し、体型、身体組成、筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。また、基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	運動様式別の運動条件とその効果、およびライフステージ別の運動理論について理解するために、健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知る。
12	トレーニングとその効果(神経系、筋力と筋量)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果について理解する。
13	トレーニングとその効果(筋パワーと筋持久力)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果について理解する。
14	トレーニングとその効果(全身持久力)	有酸素性運動と無酸素性運動の違いを理解し、至適運動強度や時間の違いによる運動効果の違いについて説明できる。また、日常生活やスポーツなどにおける有酸素性の身体活動を分類できる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：『配布資料』と教科書を参考に、学習支援システムに公開される『予習Sheet』の設問に解答してください。
復習：『配布資料』の最終ページにある章のまとめを確認し、学習支援システムの『復習Quiz』の設問に解答してください。
予習および復習の目安時間は、それぞれ2時間以上です。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第4版」（北川薫編著，市村出版，2020年）

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版」(照井直人編, 羊土社, 2012年)
「トートラ人体解剖生理学 原書11版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020年)
「健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻)」 (財) 健康・体力づくり事業財団

【成績評価の方法と基準】
予習Sheetへの解答(30%)
小テストの得点(40%)
復習Quizへの解答（30%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して資料の配布や課題の提出を行うため、インターネットに接続可能なデバイス（ノートパソコンやタブレットなど）を準備してください。

【その他の重要事項】
本講義は、機能解剖学および生理学の学習を前提に進めます。理解が難しい内容があれば、これらの分野のテキスト等を活用して復習してください。また、各自の関心領域に基づく授業外学習を通じて基礎知識を習得し、講義内での主体的な学びを通じて、スポーツ健康学の基盤を確立することを目指してください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire knowledge of the during effects of exercising, after exercising, or continuing exercising, and the mechanism of temporary or adaptive changes in the body.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to understand the functional changes of the body due to exercise and to systematize the physiological functions and effects of exercise and training and their significance.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Answers to Preparation Sheet: 52%, Review Quiz Answers: 48%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

運動生理学概論

高見　京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ生理学は、競技者のトレーニングや健康運動の指導などの現場で不可欠な基礎学問です。本授業では、スポーツ健康学部で学ぶすべての学生が、いずれのコースを選択する場合でも理解しておくべき、ヒトの身体の形態、機能、および重要な反応や適応について取り上げます。
本授業の目的は、機能解剖学および生理学で学んだヒトの身体構造や働きを基礎に、運動中、運動後、あるいは運動を継続する際に身体にどのような影響や効果が生じるのかを理解することです。これにより、身体の一時的変化や適応的変化のメカニズムを深く理解することを目指します。

【到達目標】
・運動による身体の機能的変化について理解を深める。
・運動やトレーニングがもたらす生理学的な機能や効果、その意義を系統立てて説明できる。
・健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上を目指したトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて構築する知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に対面形式で実施します。以下の手順に従い、学習を進めてください。
①授業で使用する『配布資料』は、前回の授業終了時に学習支援システムの「教材」に公開されます。これをと教科書とを併せて予習を行ってください。
②『配布資料』と同時に『予習』が「テスト」に公開されますので、期限内に実施してください。
③授業開始時には、前回の授業内容の理解度を確認するための『小テスト』を行います。各自のデバイスを法政Wi-Fiに接続し、学習支援システムを開いておいてください。
④授業中、『配布資料』はスクリーンに投影しますが、印刷したものを持参するか、各自のデバイスで閲覧し、メモを取りながら受講してください。
⑤授業終了時に、『復習』が公開されますので、期限内に実施してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 運動の発現および制御、ならびに運動トレーニングによる脳・神経系への効果を習得する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	循環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	栄養と運動、体の大きさ、ウエイトコントロール	栄養素の役割とグリコーゲンローディングについて理解する。体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。スポーツ選手と肥満者のウエイトコントロールについて理解する。
10	体力の測定(形態・神経・筋・全身持久力)	体力の測定方法を分類し、体型、身体組成、筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。また、基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	運動様式別の運動条件とその効果、およびライフステージ別の運動理論について理解するために、健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知る。
12	トレーニングとその効果(神経系、筋力と筋量)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果について理解する。
13	トレーニングとその効果(筋パワーと筋持久力)	健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を知ったうえで、筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果について理解する。
14	トレーニングとその効果(全身持久力)	有酸素性運動と無酸素性運動の違いを理解し、至適運動強度や時間の違いによる運動効果の違いについて説明できる。また、日常生活やスポーツなどにおける有酸素性の身体活動を分類できる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：『配布資料』と教科書を参考に、学習支援システムに公開される『予習Sheet』の設問に解答してください。
復習：『配布資料』の最終ページにある章のまとめを確認し、学習支援システムの『復習Quiz』の設問に解答してください。
予習および復習の目安時間は、それぞれ2時間以上です。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第4版」（北川薫編著，市村出版，2020年）

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版」(照井直人編, 羊土社, 2012年)
「トートラ人体解剖生理学 原書11版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2020年)
「健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻)」 (財) 健康・体力づくり事業財団

【成績評価の方法と基準】
予習Sheetへの解答(30%)
小テストの得点(40%)
復習Quizへの解答（30%)

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して資料の配布や課題の提出を行うため、インターネットに接続可能なデバイス（ノートパソコンやタブレットなど）を準備してください。

【その他の重要事項】
本講義は、機能解剖学および生理学の学習を前提に進めます。理解が難しい内容があれば、これらの分野のテキスト等を活用して復習してください。また、各自の関心領域に基づく授業外学習を通じて基礎知識を習得し、講義内での主体的な学びを通じて、スポーツ健康学の基盤を確立することを目指してください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire knowledge of the during effects of exercising, after exercising, or continuing exercising, and the mechanism of temporary or adaptive changes in the body.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to understand the functional changes of the body due to exercise and to systematize the physiological functions and effects of exercise and training and their significance.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Answers to Preparation Sheet: 52%, Review Quiz Answers: 48%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツマネジメント論

望月　拓実

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マネジメントとは「組織・職場の目標を達成するために、経営資源を効率的・効果的に活用すること」である。スポーツマネジメントにおいて「組織・職場」はプロ・アマを問わない多様なスポーツ組織やスポーツ企業を指し、「目標」とは勝利の追求や営業成績の向上、組織理念の達成を指す。また、「経営資源」とはスポーツ組織・職場に関連するヒト・モノ・カネ・情報を指す。本講義ではスポーツにおける様々な領域(スポーツ経営学、地域振興、ツーリズムなど)のマネジメント方法を学んでいく。

【到達目標】
１：スポーツマネジメントの概念を説明できるようになる
２：講義で学習した理論を用いて、他の課題に対しても考察し意見を出せるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイディアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	体育・スポーツ経営学の考え方	スポーツ経営におけるマネジメントサイクル、体育・スポーツ事業の運営
第3回	するスポーツのマネジメント	運動者の実態、スポーツの断絶性、スポーツ振興の問題と解決策
第4回	指導者資格制度のマネジメント	スポーツ指導者資格の概要、資格の保有理由と必要性
第5回	スポーツと地域振興(地域課題)	地域課題とスポーツの可能性、総合型地域スポーツクラブ
第6回	スポーツと地域振興(まちづくり)	スポーツとまちづくり、スポーツによるコミュニティ再生
第7回	スポーツと地域振興(マネジメント)	地域スポーツの新しいマネジメント、地域内外をつなぐ人的資源管理
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	公営競技のマネジメント	公営競技の特徴と現状、課題に対するマネジメント
第10回	フィットネスクラブのマネジメント	フィットネスクラブ産業の動向、産業の特徴とマネジメント
第11回	スポーツツーリズム(基本構造)	スポーツツーリズムとは何か、スポーツツーリズムの基本構造
第12回	スポーツツーリズム(デスティネーション)	スポーツデスティネーションとは何か、スポーツツーリストの実態
第13回	スポーツツーリズム(マネジメント)	スポーツイベント・ツアーのマネジメント
第14回	最終テスト	学習の総括と最終テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講期間中はスポーツマネジメントに関するニュースや事例を読み、積極的に情報収集すること。本授業の準備・復習時間は各２時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
その都度授業内で紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30％
講義内小テスト：20％
最終課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
スライドの文字サイズおよび授業スピードの調整を行い、より内容を理解しやすくしました。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
授業ではスポーツマネジメント理論や事例を履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Management is "the efficient and effective use of management resources to achieve the goals of an organization or workplace. In sports management, "organizations and workplaces" refer to various sports organizations and sports companies, regardless of whether they are professional or amateur, and "goals" refer to the pursuit of victory, improvement of business performance, and achievement of organizational philosophy. Management resources" refers to people, goods, money, and information related to sports organizations and workplaces. In this lecture, students will learn management methods in various areas of sports (sports management studies, regional development, tourism, etc.).
【Learning Objectives】1: To be able to explain the concept of sports management
2: To be able to use the theories learned in the lectures to consider and formulate opinions on other issues
【Learning activities outside of classroom】
During the course, students are expected to read news and case studies related to sports management and actively and actively collect information on sports management. (The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.
In-class quiz: 20%.
Final report assignment: 50%.

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツビジネス論 I

片上　千恵

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、スポーツ産業の市場規模や特徴を理解するとともに、現在スポーツ業界が直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツ現場のトレンドを知り、直面する問題を明らかにする。また、スポービジネスを展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回授業内容をまとめたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツビジネスの特徴 他のビジネスとの相違点
2	スポーツに関わる人々とビジネス	クラブ、リーグ、選手、メディア、スポンサー、ファンなどステークホルダーとスポーツ関連ビジネス
3	スポーツ施設	スタジアム、アリーナ運営にまつわるビジネス
4	健康ビジネス	フィットネス産業など、競技以外のビジネス
5	スポーツとメディア	放映権、スポーツ中継の変遷
6	スポンサーと広告	企業がスポーツを支える目的、ROI、イメージとリスク
7	ゲストスピーカー招聘（球団関係者）	スポーツ施設に関する最新情報
8	アスリート個人のビジネス	肖像権、SNSと個人ブランディング
9	メディアトレーニング入門	「自由に話す」と「戦略的に話す」
10	ファンビジネス	ファンエンゲージメント 消費者行動
11	スポーツツーリズム	経験価値、補完行動、官民連携
12	デジタル時代のスポーツビジネス	オウンドメディア、D2C
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	期末テスト	授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(80%)および授業内レポートの評価(20%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の感想や気付き、質問を記入してもらいう。その内容をもとに次の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】
(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments.（Learning Objectives）This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.（Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 80%、Short reports : 20%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコーチング論Ａ

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：１年次／２単位
曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解する。新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。

【到達目標】
効果的なスポーツコーチングに必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどに関するコーチングの本質と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、毎時限課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2回	スポーツの意義と価値	スポーツの文化的特性・スポーツ精神 スポーツ基本法とスポーツ基本計画
3回	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「７つの提言」 スポーツインティグリティ
4回	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの参加型スポーツのコーチングパフォーマンススポーツのコーチング
5回	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
6回	コーチの学び	コーチが学ぶための方法論 省察の流れ
7回	コーチのセルフコントロール	自分の心理的、行動的な特徴 セルフコントロールの技法の理解
8回	コーチのコミュニケーションスキル	コミュニケーション プレゼンテーション ファシリテーション
9回	コーチングとリーダーシップ	集団、チーム リーダーシップ理論の流れ リーダーの成長を促す経験
10回	多様な思考法に基づくコーチング	理論的思考法 分析的思考法 創造的思考法 判的思考法
11回	発育発達と女性アスリートのコーチング	成長期の子どものコーチングの特徴 女性アスリートのコーチングの特徴
12回	障がいのある人のコーチング	アダプテッドスポーツ インクルーシブスポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13回	リスクマネージメント	暴力的指導のリスクマネージメント スポーツ事故のリスクマネージメント
14回	試験・まとめと解説	授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に課題を与えることはしないが、参考書に目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間以上を標準とする（準備学習2時間・復習2時間）。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業状況（20%）および授業内に行う課題レポート（30%）、学期末試験（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行が速かったので、丁寧に授業を進行するよう努力します。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course examines the fundamental principles and theoretical foundations of sports coaching for both athlete development and lifelong engagement in sport. Coaching in the contemporary era is understood as a socially responsible practice that carries accountability for the future of athletes and sport as a whole. To realize this responsibility in practice, the course explores coaching philosophy and ethics, intrapersonal and interpersonal competencies, and effective management of coaching environments in real-world settings.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Acquire and apply the specialized knowledge required for effective sports coaching across competitive and recreational sporting contexts.
Understand the core philosophy and ethics of coaching, including the coach's roles, responsibilities, and approaches to self-management and communication.
Demonstrate understanding of coaching principles as they apply to diverse populations, including youth athletes, female athletes, and athletes with disabilities.
Apply risk management strategies to address issues such as abusive coaching practices and sports-related accidents.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students are encouraged to read the designated reference books to supplement their understanding of course content. No mandatory assignments will be given, but reviewing materials covered in each session is strongly recommended. Your required study time is at least four hours for each class meeting (two hours for preparation and two hours for review).
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class participation and attitude: 20%
In-class assignment reports: 30%
Term-end examination: 50%
A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（C）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

小田　佳子

サブタイトル：（A）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

永木　耕介

サブタイトル：（G）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

サブタイトル：（Ｅ）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（B）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

永木　耕介

サブタイトル：（H）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

サブタイトル：（Ｆ）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：１年次／１単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ実習入門

木村　新

サブタイトル：（D）
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：（　）カッコ内アルファベットはクラスを示しています。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することで自己の健康・体力を知り、加えて各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	じゅうどうあそび＆ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	フラッグフットボール①	フラッグフットボール特有のルール、技能等を学ぶ。
5	フラッグフットボール②	フラッグフットボール特有のゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	フットサル	フットサル特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３×３を含み、バスケットボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ハンドボール特有のルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	バドミントン特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	バレーボール特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	硬式テニス特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	卓球特有のルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ベースボール型特有のルール、技能、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成30年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成12年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60点）、スポーツへの理解度（観察、20点）、レポート（20点）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動服、運動靴、体育館シューズ、タオル、水分

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
As part of the first-year education at our faculty, this is a basic practical subject that teaches students how to "learn about health through sports."
（Learning Objectives）
By practicing multiple sports, students will learn about their own health and physical strength, and also deepen their understanding of the skills and mental characteristics of each sport.
（Learning activities outside of classroom）
Pay attention to your daily health and physical strength in order to prepare for the practice.
Also, be sure to study the rules and how to play various sports in advance.
（Grading Criteria /Policy）
Participation attitude score (60 points), understanding of sports (20 points), report (20 points)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村　新

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識(バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等)を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】
・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識(バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等)を理解する。
・各種トレーニング(レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等)の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類(レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等)を解説し、トレーニングを計画する際の注意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクス的な観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクス的な観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集)、Book House HD
・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda、NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).
To learn the fundamentals for designing training plans.
【Learning Objectives】
Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
【Grading criteria/Policy】
Test: 100%

LAW100IA（法学 / law 100）

スポーツ法学Ⅰ

森　浩寿

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、さまざまなスポーツ・ルール（特に規約類）について考えることである。それにより、選手や指導者の活動環境が良くなることが期待される。

【到達目標】
さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。
スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。
事故に関するスポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。
スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。
スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。
適宜、意見の開陳は求めるが、理解の確認や意見表明のためにリアクション・ペーパー類の小テストの提出を求める。
提出された小レポート等については、適宜、次回の授業で紹介し、学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在（条約、規程）、違反と処分
7	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
8	プロスポーツの選手契約(1)	プロ野球の選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
9	プロスポーツの選手契約(2)	サッカーＪリーグの選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約(3)	大相撲、バスケットbjリーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか
12	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任（民事・刑事）
13	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
14	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決（仲裁・調停）、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から、各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。
第1回：シラバスの理解
第2回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第3回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第4回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第5回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第6回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第7回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第8回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第9回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第10回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第11回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第12回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第13回：前回の復習及び提示された予習（4時間）
第14回：前回の復習及び提示された予習（4時間）

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
特に指定しない。適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（30％）…授業実時数の2／3以上の出席が成績評価の対象条件です。授業内での意見発出と数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます。
試験・レポート（70％）…与えられた質問に対して、決められた時間でいかにまとめることができるかが評価の基準です。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline (in English)】
Course outline
There are many legal issues in sports. For example, it is the issue of human rights, a professional player's contract dispute, the tort liability in case of the sports accident. Doping in sports is one of the biggest issue in world sports, and dispute resolution in sports is the big subject of concern too.
The goals of this course are to
(1) obtain the knowledge about sports and law
(2) be able to understand about the dispute resolution in sports
(3) obtain the knowledge about the legal responsibility in sports coaching
We examine the relationship of sports rule and the social norm.
Learning Objectives
The goals of this course are to know the legal issues that exist at various sporting levels and be able to describe solutions, classify the means of resolving sports disputes and explain the differences, and acquire correct knowledge of the legal responsibilities of sports coaches in relation to accidents and be able to explain the duty of care that should be fulfilled.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to be in touch with the news on a regular basis and take an interest in social events. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading Criteria
Final grade will be calculated according to the following process Short reports for each meeting (20%) and term-end examination (80%).

SOM200IA（社会医学 / Society medicine 200）

予防医学概論

瀬戸　宏明

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】
スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。また健康づくり施策や健康運動指導士についても学習する。
3	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
4	日本における健康施策	健康日本２１に代表される日本の健康に対する施策について紹介する。
5	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康日本21」「健康づくりのための身体活動基準2013」などの内容を紹介する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。 またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	整形外科的障害	スポーツによる障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
12	整形外科的外傷	外傷の早期発見と予防、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。また介護予防についても学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間 以上を標準とする。
各講義の約１週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
健康運動指導士試験　要点整理と実践問題（文光堂）
スポーツ運動医学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験で90%
小テストで10％

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline (in English)】
【Course out line】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: study basic knowladge about preventive medicine and sports injuries
2: learn the influence that physical activity and exercise give to health
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
－ definitions, epidemiology, and pathophysiology related to sports medicine.
－ the significance and effect of physical activity and exercise
－ basic sports injuries / disabilities and first aid
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%) and mini test (10%).

SOM100IA（社会医学 / Society medicine 100）

衛生学

笹澤　吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすために必要な衛生に関する基礎的・基本的な知識の理解を深めることである。
衛生学の基本的な考え方、地球環境問題、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質、病原微生物、衣食住の衛生、公害と健康影響について学ぶ。
衛生学の目的は単に病気を防ぐだけでなく、全般に亘る生活の質を向上させ、地球環境の改善にも目を向けられる思考を育むことである。

【到達目標】
１．生命の基盤である地球生態系について説明することができる。
２．環境の評価と環境リスク対策について説明できる。
３．物理的環境要因、化学的環境要因、生物学的環境要因の健康影響と対策について説明できる。
４．空気の衛生と大気汚染について説明できる。
５．廃棄物の現状と対策について説明できる。
６．衣食住の衛生について説明できる。
７．公害と環境問題について説明できる。
８．環境管理の方法と取り組みについて説明できる。
９．産業衛生の課題について説明できる。
１０．予防医学の手法である疫学の指標及び研究デザインについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の概念	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	人間の環境、環境の把握とその評価・対策	生活環境、地球生態系、環境汚染、地球環境問題、環境の認知、環境状態の把握、環境の評価、環境リスク対策について概説する。
4	物理的環境要因、化学的環境要因	気温、湿度、気流、輻射熱、騒音、放射線・紫外線、気圧、化学物質に対する考え方、毒性および毒性試験、化学的環境要因について概説する。
5	生物的環境要因、微生物を中心に	人類と微生物、主な病原微生物、感染症の病態、感染症疫学、感染経路、環境要因と感染症の発生について概説する。
6	空気の衛生と大気汚染、水の衛生と水質汚濁	空気と人間、体温調節と空気、気候、空気の成分と汚染、水と健康、上水、下水、水質汚濁について概説する。
7	廃棄物及び衣食住の衛生	一般廃棄物、産業廃棄物、不法投棄、有害廃棄物の越境移動の管理、マイクロプラスティックの海洋汚染、衣の衛生、食の衛生、住居の衛生について概説する。
8	公害と環境問題、環境の管理	公害の概念と歴史、日本の公害問題、地球規模の環境問題、最近の環境問題、環境管理の必要性、環境管理の方法、国際的取り組み、国内での取り組みについて概説する。
9	産業保健（１）	働く人々の健康、労働災害・事故について概説する。
10	産業保健（２）	職業病、職場における健康診断と健康増進について概説する。
11	産業保健（３）	勤労者の労働時間と余暇、職場復帰について概説する。
12	疫学（１）	疫学とは、疫学の手順と留意事項、疾病分類について概説する。
13	疫学（２）	疾病量の把握、疫学の方法（記述疫学研究、生態学研究、横断研究、コホート研究、症例対照研究、ランダム化比較試験等）について概説する。
14	総合討論	衛生学上の課題について総合討論を行い、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
シンプル衛生公衆衛生学2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。

【参考書】
適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート（50％）及び最終レポート（50％）により評価する。欠席が多い場合には評価の対象とはしないことに留意する。なお、やむを得ず欠席する場合は理由を書面にて提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を取り入れるようにする。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen understanding of the basic and fundamental knowledge about hygiene necessary to protect life and stay healthy throughout one's life.
Students will learn about the basic concepts of hygiene, global environmental issues, environmental sanitation of water and air, chemical substances in our daily lives, pathogenic microorganisms, sanitation of food, clothing and shelter, and pollution and its effects on health.
The purpose of hygiene is not simply to prevent disease, but to improve the overall quality of life and to develop a mindset that also focuses on improving the global environment.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ栄養学

長谷川　祐子

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、食事・栄養について科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、スポーツ栄養学の基礎を学び、簡単な栄養アセスメントを演習します。

【到達目標】
《栄養学基礎》主要な栄養素の特性、栄養素／食品／食事の関係性、望ましい食事の構成等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》1年間の期分けや、1日の練習、試合前後といったタイミングを考慮した食事法について説明できる。また、栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》男女アスリートの3主徴、脱水、減量、増量、貧血など、栄養管理上の主要な課題とその対応策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
0.授業資料の入手…予習時にダウンロード
1.前回の小テストの解説
2.講義（演習問題を含む）
3.小テスト
※出席…小テストの提出により出席とする。
※リアクションペーパー…小テストによる。
※Q&A…授業後対面で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、食事の基礎 《栄養は車にたとえられる》	・授業の進め方について理解する。 ・食生活と健康の関係、食事の基本構成、栄養素の名前・役割・含まれている食品や料理、体に入る経路（消化と吸収）について概要を知る。 【演習】栄養アセスメント（6つのお皿、食品摂取多様性スコア）
2	エネルギー　基礎（エネルギー供給機構と競技分類） 《エンジンの種類と車種、必要なガソリンの量》	・身体活動（生活活動・運動）、身体活動レベル、身体活動量（エネルギー消費量）とその内訳、エネルギー供給機構と競技分類、エネルギー消費量のアセスメント法を知る。 【演習】行動記録の記入、エネルギーのアセスメント（身体組成に基づく基礎代謝量推定、行動記録に基づくエネルギー消費量推定）
3	エネルギー　応用（相対的エネルギー不足） 《ガス欠》	・男女アスリートの3主徴、相対的エネルギー不足（RED-S）について理解する。 ・骨密度およびエネルギー不足のアセスメント法を知る。 【演習】栄養アセスメント（FATチェックシート、EAT-26）
4	たんぱく質　基礎 《車体の維持》	・たんぱく質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理、栄養アセスメント方法を知る。 【演習】たんぱく質目標摂取量の推定
5	脂質　基礎 《レギュラーガソリンの利用》	・脂質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・競技力向上と健康増進に役立つ脂質の機能性について理解する。 【演習】脂質目標摂取量の推定
6	エネルギー・たんぱく質　応用（増量・減量） 《車体の改造》	・競技と体格の関係について知る。 ・増量、減量の方法について理解する。 ・身体組成のアセスメント法を知る。 【演習】減量計画の作成
7	（前回続き）	（前回続き）
8	炭水化物　基礎 《高性能ガソリンの利用》	・炭水化物（糖質）の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理、栄養アセスメント方法を知る。 ・難消化性の炭水化物（食物繊維）の働きを知る。 【演習】食事の基本的な組み立て
9	水分　基礎 《車体を冷やすラジエータ》	・体内における水分およびナトリウムの機能、吸収、効果的な補給法、脱水のアセスメント方法について理解する。 【演習】脱水の身体所見
10	炭水化物・水分　応用（試合前後の食事） 《レース前後の整備》	・グリコーゲンローディングを始め試合前後の食事の概要、タイムスケジュール、注意点について理解する。 ・合宿、遠征時の食事の注意点について理解する。
11	ビタミン 《エンジンオイル、ワックス、グリースの利用》	・ビタミンの定義、過剰症・欠乏症、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理、栄養アセスメント方法を知る。 ・エネルギー代謝、骨代謝、造血、免疫能におけるビタミンの重要性を理解する。 【演習】栄養アセスメント（簡易ビタミンK摂取調査表）
12	ミネラル　鉄と貧血 《車体の維持と修理》	・ミネラルの定義を知る。 ・鉄の機能、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理、栄養アセスメント方法を知る。 ・スポーツ貧血について理解する。
13	ミネラル　その他のミネラル 《車体の維持と修理》 ライフステージ別栄養問題 《メンテナンス長期計画》	・カルシウム、マグネシウム、その他のミネラルの機能、過剰症・欠乏症、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理、栄養アセスメント方法を知る。 ・子どもの成長発達、若年女性のやせ、成人の肥満、高齢者の低栄養など、ライフステージごとの栄養問題と栄養管理について知る。 【演習】栄養アセスメント（カルシウム自己チェック表） 【課題】アスリートの食事改善
14	サプリメント 《チューニング》	・サプリメントのメリット・デメリット、必要性の検討法について理解する。 ・スポーツ現場でよく用いられる機能性成分について知る。 【演習】栄養アセスメント（食習慣・コンディショニング質問紙）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・講義資料の読了…学習支援システムよりダウンロードし読んでおく。
【復習】
・講義資料による復習
・オンライン小テスト…学習支援システムにて次回授業までにやっておく。
・課題
※本授業の準備・復習時間は各2時間以上（合計4時間以上）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（講義資料を毎回配布）

【参考書】
・「リファレンスブック」（日本スポーツ協会）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー　専門科目テキスト第9巻）」（日本スポーツ協会）
・「エッセンシャル・スポーツ栄養学」（市村出版）
・「エビデンスに基づく競技別・対照別スポーツ栄養」（建帛社）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「改訂版『身体活動のメッツ（METｓ）表』」（国立健康・栄養研究所）{https://www.nibiohn.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf}
・「日本人の食事摂取基準　2025年度版」（厚生労働省）{https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html}
・「食品成分データベース」（文部科学省）{http://fooddb.mext.go.jp/}
・「アスリートのわいわいレシピ」（国立スポーツ科学センター）https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/study/sports_nutrition/tabid/1523/Default.aspx}

【成績評価の方法と基準】
評価配分：　定期試験（56％），課題（30％），授業への取り組み（14％）
小テスト未提出が5回以上の場合、出席不足として評価は行いません。
定期試験は大学で定められた期間に行います（授業内試験ではありません）。

【学生の意見等からの気づき】
・演習は、席の近い人と話し合いながらできるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。
・紙の講義資料は配布しません。映写に加え、手元でも資料を見たい人は印刷するか閲覧機器（スマートフォン等）を持参のこと。

【その他の重要事項】
・関連資格：アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者
・授業の展開によって、進行に若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
< Course outline> The aim of this course is to help students acquire the basics of sports nutrition while exercising a few nutritional assessments, so that they will be able to provide evidence-based advice on diet and nutrition.
< Learning Objectives > By the end of the course, students should be able to:
− explain the nature of major nutrients, the relationship between nutrients/foods/diet, and the composition of well-balanced diet.
− explain about the nutritional strategies considering the periodization and the timing in daily training sessions or sports events.
− make suggestion for appropriate diet with the results of some nutritional assessments.
− explain about the dietary approaches for the important issues such as male and female athlete triad, hydration, weight loss/weight gain, sports anemia, and so on.
< Learning activities outside of classroom > Before each class meeting, students will be expected to have a read the handout downloaded from the e-learning support system. After each class meeting, they will be also expected to understand the course content with the handout, the quiz online, and the homework assignments. Their study time will be about four hours in total for a class.
< Grading Criteria /Policy >
Final grade will be calculated according to the following process: Final exam (56%); Assignment(30%); Active participation (14%). If students missed to take the quizzes online 5 times or more, they cannot pass this course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツバイオメカニクス

木村　新

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する。そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する。

【到達目標】
スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し、バイオメカニクス的な運動の見方を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び、キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する。また、キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクス的手法についてもその概要と分析方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の到達目標や流れを概説する。
第2回	並進運動の力学①	位置・速度・加速度、放物運動について説明する。
第3回	並進運動の力学②	並進の力と運動の関係の基礎について学ぶ。
第4回	回転運動の力学①	角度・角速度・角加速度、力のモーメントについて知る。
第5回	回転運動の力学②	回転の力と運動の関係の基礎について学ぶ。
第6回	仕事・エネルギー・パワー	エネルギーの観点から身体運動について考える。
第7回	良い動きの原則	反動動作や緩衝動作について力学的に考える。
第8回	各種動作のバイオメカニクス①	走・跳躍動作の研究成果について紹介する。
第9回	各種動作のバイオメカニクス②	投球・打撃動作の研究成果について紹介する。
第10回	ダイナミカルシステム理論	システム論の観点から身体運動を捉え、動きの安定性やばらつきについて学ぶ。
第11回	運動制御論	冗長性問題とは何か、その問題に対処する説としてどのようなもの提案されているのかを学ぶ。
第12回	骨格筋の力学特性	筋の力-長さ関係、力-速度関係について説明する。
第13回	腱の力学特性	腱の粘弾性的なふるまいについて力学的な説明を行う。
第14回	期末試験とまとめ	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこない、試験後に本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を行うことを必須とする。
本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ授業中に適宜指示する.

【参考書】
阿江 通良・藤井 範久. スポーツバイオメカニクス20講. 朝倉書店、2002
金子 公宥・福永 哲夫. バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎. 杏林書院、2004

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To understand that human movement is an interaction between muscular and internal forces acting within the body and external forces such as gravity and ground reaction forces.
To understand the basics of Newton's mechanics in sports.
【Learning Objectives】
The learning objective is to understand the mechanical basis used in human movement analysis.
【Learning activities outside of the classroom】
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
【Grading Criteria /Policy】
Test: 100%

SOM200IA（社会医学 / Society medicine 200）

公衆衛生学

笹澤　吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウィンスロウ（WHO）の定義にあるように、「公衆衛生は、共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学・技術である」とされ、これに必要な知識を幅広く習得し、実践力を身に付ける。具体的には、主要な健康の決定要因、ライフコースにおける健康課題や対策、関連法規や行政機関の役割、代表的な公衆衛生活動及び予防疫学の手法である疫学を理解し、説明できる力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
１．人の健康に影響を与える、宿主要因、生物的環境要因、社会・経済的要因、物理・化学的要因を説明でき、予防医学の重要性を訴える資質を獲得する。
２．基本的な疫学指標・研究デザインを説明できる。
３．ライフコース（母子・学校・産業・成人・高齢者保健）における主要課題と対策を整理して説明できる。
４．精神保健、国際保健などの公衆衛生の課題と対策を説明できる。
５．主要な関連法規と保健行政機関の役割を説明できる。
６．代表的な公衆衛生活動を事例に即して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	健康の概念と公衆衛生学	健康の定義、生活と健康、健康問題の変遷、公衆衛生活動について概説する。
2	保健統計	健康水準、健康指標、人口統計、その他の統計について概説する。
3	疫学とは	疫学の定義、国際疾病分類、曝露と疾病量について概説する。
4	疫学の方法	疫学研究の分類、症例対照研究、コホート研究、介入研究について概説する。
5	疫学の偏りと因果関係	偏りと交絡、因果関係について概説する。
6	主な疾病の予防	感染症、循環器疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患、不慮の事故、自殺について概説する。
7	地域保健と保健行政	保健所、保健センター、地域保健活動、消費者保健について概説する。
8	母子保健	母子保健の水準、少子化、児童虐待、子どもの貧困、健康格差、母子保健行政について概説する。
9	産業保健	労働災害、職業病、職場の健康診断、ワーク・ライフ・バランス、職場復帰について概説する。
10	高齢者保健・福祉	老化、フレイル、健康寿命、後期高齢者医療制度、介護保険、地域包括ケアシステムについて概説する
11	精神保健	精神障害の分類、主な精神疾患、精神保健福祉活動について概説する。
12	国際保健	国際保健とは、人種と民族と国、発展途上国の健康問題、国際協力、WHOなどについて概説する。
13	保健医療福祉の制度と法規	保健医療行政組織、医療制度の仕組み、医療保険・年金、社会福祉と障害者福祉について概説する。
14	公衆衛生学のまとめ	これまで学んだ公衆衛生の各論を整理し、総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
シンプル衛生学公衆衛生学2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。

【参考書】
国民衛生の動向2026/2027(厚生労働統計協会）

【成績評価の方法と基準】
授業毎のレポート50％、最終レポート50％で評価する。
欠席が多い場合には評価の対象からはずれるので留意すること。欠席の理由は必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
As defined by Winslow (WHO), "Public Health is the science and art of preventing disease, prolonging life, and promoting physical and mental health and efficiency through the organized community efforts," and students acquire a wide range of knowledge necessary for this purpose. Specifically, this includes acquiring a comprehensive understanding of the major determinants of health; health challenges and interventions across the life course; the roles of relevant laws, regulations, and administrative agencies; representative public health activities; and epidemiology as a methodological foundation of preventive medicine and public health practice.

SOM200IA（社会医学 / Society medicine 200）

学校保健

笹澤　吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義の目的は学校における児童生徒の健康課題の理解を深め、学校保健の意義や法的根拠を学び、課題解決に向けての方法論を考究することである。

【到達目標】
1．学校保健，学校安全の基本構成について理解する。
2．児童生徒の心身の健康問題の現状を理解し，学校の役割について理解する。
3．学校保健における保健体育教諭の役割を理解する。
4．学校保健を支える学校環境を理解する。
5．学校における医療的ケア，特別支援教育，インクルーシブ教育を理解する。
6．危険行動（飲酒・喫煙・薬物乱用）への取り組みを理解する。
7．基本的な応急処置が実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学校保健とは	意義、歴史、健康・保健の定義について概説する。
2	学校保健の法的根拠と関係職員	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、校長、保健主事、養護教諭、学校三師、栄養教諭、スクールカウンセラーについて概説する。
3	児童生徒の発育発達と疾病・異常	身体の発育発達、発育曲線、体力・運動能力、こころの発達について概説する。
4	健康診断	健康診断の目的、種類、時期、健康観察、結果の活用について概説する。
5	感染症とその予防対策	感染症対策、種類、出席停止・臨時休業、予防接種について概説する。
6	応急手当と救命処置	意義、けが・急病対処、手順、救命処置について概説する。
7	児童生徒のこころの健康問題	保健室利用状況、児童虐待、不登校、いじめ、自殺について概説する。
8	性教育の課題と指導法	性感染症、人工妊娠中絶、性被害、初経・精通、包括的性教育について概説する。
9	喫煙・飲酒・薬物乱用教育	目的と内容、指導方法、薬物乱用教室について概説する。
10	食育とがん教育	食生活の課題、食育の指導法、学校給食、がん教育の指導方法と配慮事項について概説する。
11	学校安全と危機管理	児童生徒が巻き込まれる事件事故、学校安全管理と教育　について概説する。
12	学校の環境衛生基準と法的根拠	学校環境衛生、法的根拠、定期検査、学校環境衛生基準について概説する。
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	特別支援教育の現状と課題、インクルーシブ教育システム、留意事項について概説する。
14	総合討論とまとめ	学校保健の課題について総合討論を行い、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出が求められる。

【テキスト（教科書）】
学校保健概論（第４版）、渡邊正樹、光生館、2024、2420円。
但し、出版社がなくなったため、入手しづらいので、資料を配ります。

【参考書】
適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
授業後に求める小レポート50％、最終レポート課題50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of the lecture is to deepen understanding of health issues faced by children and students in schools, learn the significance and legal basis of school health, and explore methodologies for solving these issues.【Learning Objectives】1. To understand the basic structure of school health and safety. 2. To understand the current situation of mental and physical health problems of students and the role of schools. 3. To understand the role of health and physical education teachers in school health. 4. To understand the school environment that supports school health. 5. To understand medical care, special support education, and inclusive education in schools. 6. To understand how to deal with risky behaviors (drinking, smoking, drug abuse). 7. To be able to perform basic first aid.【Learning activities outside of classroom】Preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be required to submit a report on the issues presented in the class.【Grading Criteria /Policy】50% for a short report required after class, 50% for a final report assignment.

BAM100IA（基礎医学 / Basic medicine 100）

機能解剖学Ｂ

加藤　基

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：１年次／２単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学Ｂでは、動脈・静脈・リンパ管といった脈管系と脳・脊髄・末梢神経といった神経系について学ぶ。これらの器官はスポーツ領域で学習する機能解剖学においては応用的な分野と考えられることがあるが、スポーツ傷害や運動制御や運動学習について正確に理解するためには、十分に学習しておくことが必要である。本授業では、スポーツ傷害の理解および運動制御、運動学習に関わる脈管系、神経系を学び、傷害評価の新たな視点と運動習得の可能性を見出すことを目標とする。

【到達目標】
・主要な血管の名称と走行を理解する
・リンパ系の構造と機能とを理解する
・脳の構造と機能局在を理解する
・末梢神経系の名称と走行、機能を理解する。
・運動制御に関わる神経系の構造と機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主要な構造について授業内で概説し、触察によって体感を持ちながら学習をする。
より詳細な部分については宿題・レポート課題などへの取り組みによって獲得することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 脈管系の全体像、神経系の全体像
2	脈管系（心臓、頚部・頭部、その他体幹）	心臓の構造と心臓を起点とする脈管の走行、頚部・頭部の脈管の走行と機能、その他体幹における脈管
3	脈管系（上肢）	肩・上腕・肘の血管系、前腕・手の血管系
4	脈管系（下肢）	股関節・大腿・膝の血管系、下腿・足の血管系
5	リンパ系	リンパ系の機能と走行
6	神経系（脳）	脳の機能と機能局在
7	神経系（末梢神経）	脳神経、自律神経、体性神経
8	神経系（自律神経）	走行と機能
9	神経系（上肢）	上肢の末梢神経の走行と機能
10	神経系（下肢）	下肢の末梢神経の走行と機能
11	神経系（反射）	腱反射、筋緊張の制御
12	神経系（運動制御）	小脳、錐体路系、錐体外路系
13	神経系（前庭）	前庭による運動の調整
14	脈管系と神経系	全体のまとめ、関連するスポーツ傷害、運動習得への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で復習用のプリントを配布する。本授業の準備学習２時間、復習時間２時間の合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
持参を求めるテキストはない
授業資料は授業支援システムを使用して提示する

【参考書】
町田 志樹：解剖学 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎) . 羊土社
町田 志樹：Stay's Anatomy 神経・循環器編～99%が理解できた解剖学オンライン講義. 羊土社
町田 志樹：町田志樹の聴いて覚える解剖学 中枢・末梢神経編. 三輪書店

【成績評価の方法と基準】
小テスト(25%)※５点×５回、試験(75 %)

【学生の意見等からの気づき】
各回の復習プリント配布及び事前告知をしたうえで小テストを実施することによって、定期テストのときだけの勉強にならず勉強がしやすいという意見を得た。各回の復習プリントを工夫し、学習内容の定着に役立てたい。
基本的には講義形式であるものの、触診実技をしたり、ゲーム形式の学習をしたりすることで参加型の授業を行うことで取り組みやすかったという意見を得た。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
原則として対面授業で実施する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on the structures and functions of artery, vain and nerve system. Studying these organs is important to understand sports injuries, human movement.
【Learning Objectives】
The objectives of this course is to understand sports injuries, motor control, and the vascular and nervous systems involved in motor learning, and to find new perspectives on injury assessment and the potential for motor learning.
【Learning activities outside of classroom】
Handouts for review will be distributed at each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Quiz (40 %)10 points,4 times
Exam (60 %)

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツ産業論

吉田　政幸

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義において、履修者はこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】
スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：
(1) スポーツ産業の構造および現状
(2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
(3) 米国プロスポーツの特徴と産業規模
(4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書（スポーツ産業論、第7版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツ産業の構造と現状	20世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史的変遷、構造、現状について学習する。
2回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
3回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
4回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
5回	スポーツサービスと消費者行動	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
6回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが災害復興支援に取り組むように、スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的責任がある。その概念規定、種類、特徴を学ぶ。
7回	スポーツメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の構造と特性を踏まえ、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを強める現状について学習する。
8回	北米のプロスポーツ	米国には4大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
9回	プロスポーツ産業	みるスポーツの現状を知るとともに、プロスポーツの熱狂的ファンの心理的・行動的反応として注目されるファンエンゲージメント概念について理解を深める。
10回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約4割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
11回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
12回	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントは開催都市に社会的、経済的恩恵をもたらす。イベント効果の定義、種類、形成方法、そして効果を生み出すことの意義について学習する。
13回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約7割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組みについて学ぶとともに、企業がアスリートに協賛するエンドースメントについても理解を深める。
14回	スポーツ産業のまとめ	日本のスポーツ産業の現状と特徴を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（スポーツ産業論、第7版）や参考資料を事前に読み込み、疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第7版）. 杏林書院：東京. 2,750円

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.
2,640円

【成績評価の方法と基準】
中間テスト：50点
期末テスト：50点
合計：100点

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンなど（携帯電話のみを用いた受講は推奨しない）

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2週目以降は事前に指定された読み物を読んできてください。配付資料は印刷するか、ノートパソコンなどの大きなディスプレイに表示して授業に出席してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.
(Learning objectives)
The purpose of this course is to understand the fundamental elements of the sport industry.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant book chapters and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on mid-term exam (50%) and final exam (50%).

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツビジネス論 II

望月　拓実

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】
１：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
２：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
３：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
４：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイディアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニュースポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR,ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケターの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	最終テスト	学習の総括と最終テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し，授業時に発言，またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30％
講義内小テスト：20％
最終課題：50％

【学生の意見等からの気づき】
グループワークメンバーの定期的な入れ替えを導入しました。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】
グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.
【Learning Objectives】1：To be able to explain the elements necessary to promote sports business　2：To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions　3：To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics　4：To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.
In-class quiz: 20%.
Final report assignment: 50%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

体力測定・評価論

高見　京太、泉　重樹

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】
・各種測定の目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考察の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業はオンデマンド形式で実施します。
健康運動指導士に関連する内容、および日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーに関連する内容について、それぞれ7コマ（合計14コマ）の授業を行います。
配布資料および参考資料を活用しながら、指定された期日までに視聴を進めてください。
試験期間中には、持ち込み不可の筆記試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）【担当：高見】	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）【担当：高見】	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト【担当：高見】	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に5段階または10段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定【担当：高見】	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法につて講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価【担当：高見】	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健常高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定【担当：高見】	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量【担当：高見】	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取，姿勢・アライメントの評価【担当：泉】	HOPS、SOAPノートの作成,姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋周径・全身関節弛緩性の評価【担当：泉】	筋周径および全身関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定【担当：泉】	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価・徒手筋力検査【担当：泉】	筋タイトネス・徒手筋力検査の評価の目的と意義を講義により理解する。
12	整形外科的理学検査1【担当：泉】	腰部・股・膝・足関節・手・肘・肩関節，頸部の整形外科的理学検査について講義する。
13	スポーツパフォーマンスの評価【担当：泉】	アスレティックトレーナーの視点におけるスポーツ動作の評価を理解する。
14	機能的動作の評価【担当：泉】	各種パフォーマンスおよび機能的動作の評価方法について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムで配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 検査・測定と評価
山本利春，測定と評価，ブックハウスHD
C Starkey,J Ryan 著，中里伸也 監訳，スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック，NAP
J. Gross , J. Fetto , E. Rosen 著　石川斉，嶋田智明 監訳，筋骨格系検査法［第2版］，医歯薬出版株式会社，2005
STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
他，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験期間中に、持ち込み不可の筆記試験を実施し、100点満点で採点する。

【学生の意見等からの気づき】
これまで実習を加えた形で行うと学生の理解がより進むことを実感している。本年はオンデマンドの取り組みの中で可能な限り実践に近い形で講義できるように工夫した。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand the general concept and structure of physical fitness and physical functions.
2. Acquire the theory and specific measurement and evaluation methods for various physical fitness components.
3. Acquire practical skills to apply the measurement results of various physical fitness components to various situations.
【Learning activities outside of the classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

運動療法総論

安藤　正志、林田　はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを生理学、解剖学、運動学的観点から理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】
運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特にスポーツ傷害を含めた筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動療法とは	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動療法の効果判定の仕方(柔軟性)	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
3	柔軟性のための運動療法	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
4	運動が生体に及ぼす影響	運動が代謝循環器系に及ぼす影響を解説する
5	運動療法の効果判定の仕方(全身持久性)	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
6	全身持久性強化のための運動療法	全身持久性を強化するための運動方法を解説し実際に体験する
7	運動療法の効果判定の仕方(筋力)	緊張力や筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	運動療法の効果判定の仕方(筋張力および筋持久力)	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
9	筋力強化のための運動療法	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
10	筋持久力強化のための運動療法	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
11	運動療法の効果判定の仕方(協調性)	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
12	協調性のための運動療法	協調性を増加させるための運動方法を 解説し実際に体験する
13	運動療法総論の総括	運動療法について知識の確認を行う
14	試験・まとめ	運動療法総論の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本講義は2単位ですので、本授業の準備・復習時間は各２時間（合計４時間）以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、学習に必要な資料をオンラインで配付する。

【参考書】
日本スポーツリハビリテーション学会JSSR認定トレーナーテキスト/JSSR認定トレーナーテキスト編集委員会

【成績評価の方法と基準】
平常点（10％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する。
習熟度確認テスト（45％）：学期の中間に行う。
期末試験（45％）：学期末に行う。

【学生の意見等からの気づき】
実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義の途中に実技を行うことがあるため運動や実技ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

【Outline (in English)】
Course outline: This courses introduces that what kind of biological response is obtained by exercise. In addition, for learn about the theoretical background and practice of exercise therapy.
Learning Objectives: In this lesson, students will acquire basic knowledge and basic skills in exercise therapy. In particular, students will learn how to measure and respond to disorders of the musculoskeletal system.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy ： Grading will be decided based on reports (20%), and the examination (80%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

リハビリテーション概論

昇　寛

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】
リハビリテーションの基本的知識と技術を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う。
また、レポート、小テストなどの提出、及び提出方法も考慮して進める。
学外での実習・演習においては車いす操作などの演習を行うので公道でのマナーやルールについても理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種について各種説明し、役割や立場について学習する
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造について学習する。特に、ICIDHとICFについて詳しく学習する。
3	障碍者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害につおいて学び具体的な体験も行う。
4	車いす、杖、など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験する。特に車いすについては公道での演習とするのでマナーやルールを学習する。
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助。介助者の役割と立場を理解し、ボディメカニクスについても学ぶ。
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法などの医学的リハビリテーションの基礎的な学習をする。
7	物理療法	赤外線・ホットパックなど、物理療法の中でも運熱療法について学ぶ。
8	物理療法	寒冷療法・アイスパックなど、物理療法の中でも寒冷療法について学ぶ。
9	物理療法	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法など、物理療法の中でも電気、超音波療法について学ぶ。
10	整形外科疾患のリハビリテーション１.	整形外科疾患（主に上肢の障害）の病態とリハビリテーションの基礎について学ぶ。
11	整形外科疾患のリハビリテーション２.	整形外科疾患（主に下肢の障害）の病態とリハビリテーションの基礎について学ぶ。
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害の病態とリハビリテーションの基礎について学ぶ。
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患の病態とリハビリテーションの基礎について学ぶ。
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害の病態とリハビリテーションの基礎について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：授業準備に事前学習を２時間、授業後に復習学習として２時間行う。各授業について 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名：「イラストでまなぶ・わかる　プレリハ　リハビリ・医療福祉系　第３版」
著者：小野田公、他３名
出版年：２０２４年７月１日
出版社：株式会社アイペック
価格：８００円

【参考書】
特に定めず

【成績評価の方法と基準】
評価要素（平常点[50％],定期試験[50％]）の合計点で評価（6割以上が合格）。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の1/3回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
実技をより多く取り入れ理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Understand the rehabilitation policy and outline.
【Learning Objectives】
Understand about basic rehabiritation.
【Learning activities outside of classroom】
Students should research the rehabilitation in the title of the lecture.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be determined by regular exams and reports.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康と疾患

安藤　正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
① 身体の基本的な仕組みを説明できる。
② 代表的な疾患の原因・予防法・治療法を説明できる。
③ 健康と病気の違いを説明できる。
④ 健康指標の基本的な測定方法を実施でき、結果を解釈できる。

【到達目標】
代表的疾患の原因・症状・予防法・治療法を説明できる。
健康の指標となる簡便な測定法を実施でき、その結果を評価・解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
国民病とされる代表的な疾患や外傷について講義を行うとともに、視聴覚教材を活用して理解を深める。また、各回のテーマに応じてグループディスカッションやミニレポート作成を実施し、学生が自ら調べ、考察し、意見を共有する機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	到達目標：授業の内容・学習方法・評価方法を理解する 学習方法：講義でシラバス説明、配布資料確認、簡単な自己紹介 評価方法：成績構成・課題提出・出席の取り扱いを説明 注意事項：実習・教材利用時の安全と準備について確認
2	生活習慣病	生活習慣病（高血圧、不整脈、糖尿病）とはなにかを学ぶ
3	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞、脳出血）
4	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）
5	花粉症	アレルギー性鼻炎（花粉症）などの疾患についての予防と対処方法について学ぶ
6	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折、高齢者の4大骨折）
7	不整脈と心疾患の理解	脈の診かた（代表的不整脈）の基礎と心疾患について学ぶ
8	高血圧と低血圧	高血圧についての基礎知識と予防方法、また低血圧についての基礎知識と予防方法を学ぶ
9	糖尿病	糖尿病の基礎知識と予防方法について学ぶ
10	骨粗鬆症	骨粗鬆症の基礎と高齢者の骨折について学ぶ
11	変形性関節症	変形性関節症（特に膝関節のO脚変形、X脚変形・また変形性股関節症）について学ぶ
12	腰痛症	一般的腰痛症（急性・慢性腰痛症・筋筋膜性腰痛症・椎間板症・椎間板ヘルニア・脊椎分離症・滑り症・脊柱管狭窄症）の基礎知識と予防方法について学ぶ
13	肩障害と肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害、整形外科的疾患	代表的なスポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靱帯損傷）の基礎と予防方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：授業内容のオリエンテーションの確認、配布資料の閲覧
第2〜14回：前回授業で学んだ内容の復習、課題の提出、必要に応じて参考文献や教材の調査
本授業の準備学習・復習時間は各回 2時間 を標準とする

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要な資料を授業前にファイルなどで配布する。

【参考書】
ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論
要点整理と用語解説　改訂第3版　編著　椿原彰夫

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準
平常点（50％）：授業での提出物やリアクションペーパーを通して評価する
定期試験（50％）：学習内容の理解度を筆記試験で評価する
合格基準：総合得点60％以上
※定期試験の受験は、履修要件（出席状況など）を満たした学生に限る

【学生の意見等からの気づき】
専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用することがある。その場合は事前に通達する。

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：ヘルスデザイン論を履修済みであること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the basic structure and functions of the human body and provides an overview of common diseases and health conditions.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
Explain the basic structure and functions of the human body.
Describe the causes, prevention, and treatment of representative diseases.
Interpret basic health indicators and explain the relationship between health and disease.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review lecture materials and research assigned diseases before or after each class. Study time outside of class should be at least four hours per week.
【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on midterm and final examinations and submitted reports.　The evaluation criteria and grading percentages will be explained at the beginning of the course.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

アスレティックトレーナー概論

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスレティックトレーナー（AT）の役割とその業務を理解することが第一の目的である。本邦におけるATおよび日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景を学ぶ。同時に諸外国におけるATやAT同様の資格の状況を理解する。ATの現場での活動および組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、監督・コーチ、ストレングスコーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携をとって選手をサポートしていくかなど、ATが現場で活動する上で必要な知識を養う。

【到達目標】
「アスレティックトレーナー」という役割と業務内容を、欧米・アジアと日本、各競技、他のスポーツ関連資格や各種スポーツ現場における役割などによる様々な違いとともに理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、リアクションペーパーなどで個々の意見や考えをできる限り反映し回答しながら授業を展開していく。講義の後半部分では、実際に現場で活躍している現場のATにお願いする特別講演を予定している。授業内容によってはオンデマンドによる実施もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ATの歴史と現状	日本におけるATの歴史および現状、諸外国におけるATに相当する制度の現状について講義する。
2	ATの任務と役割	ATの任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	ATの業務	ATの具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	ATの活動（合宿・遠征）	ATの実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	ATの活動（練習・試合）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	ATの活動（競技別）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	ATの活動 （外部講師の招聘）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割（医学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割（科学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	ATと関連資格制度（スポーツを含む）	ATに関連する各種資格とその制度のついて、医療系の国家資格（理学療法士、柔道整復師、鍼灸マッサージ師など）を含めて概説する。
11	ATの組織と運営（外部講師の招聘）	ATの組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	ATの法的諸問題	ATに関連する医療関係法規やその判例などから、ATの役割や業務範囲、法律による規制について学ぶ。
13	ATと倫理	ATと倫理として、ATの社会的な立場、ATを取り巻く環境について考える。
14	ATの未来	これまでの講義を通して日本におけるアスレティックトレーナーの今後について議論を行い考えを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は合計４時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・特になし。講義資料は配布可能なものに関しては学習支援システムから各自ダウンロードすることとするが、すべてを配布するわけではない。

【参考書】
1.広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂
2.平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウスHD
3.スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウスHD
4.臨床スポーツ医学（月刊誌），文光堂
5.日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト1級，東洋館出版社
6.日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割，2022

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は、授業への参加（各回の小テスト／別に課すレポートの得点）を合算（各回7点×14回）し、最終的に100点満点で点数化する。

【学生の意見等からの気づき】
授業を通してアスレティックトレーナー（AT）という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。ATを目指す目指さないに関わらず、スポーツに必須の役割であるATの業務内容を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けている。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The primary objective is to understand the role of athletic trainers(AT) and their work. Students learn the historical background of the birth of Japan's AT and the background of the establishment. Students also touch on the activities of AT and learn about the positioning and administration at the sports scene.
【Learning Objectives】 The purpose of this course is to understand the role of the athletic trainer from the perspective of the differences between Europe, the United States, and Japan, and the various sports settings.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Grades for this lecture will be evaluated by adding up the quizzes for each session.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコンディショニング論 I

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】
１．コンディションおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解し、実践できる。
２．スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的疾患およびその救急処置について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は座学中心に行い、一部実技も行う。講義ごとに授業内レポートを課す。毎回の授業の冒頭に、前週の学生のコメントを紹介して質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（下肢）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（体幹）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（上肢）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（ストレッチング）	コンディショニングの手法として、ストレッチングの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
8	コンディショニングの手法（テーピング）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（テーピング・アイシング）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリテーション（トレーニング）の考え方についての講義を行う。
11	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
12	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
13	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は学習支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
・日本スポーツ協会編，リファレンスブック
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・
健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・
測定と評価
・籾山日出樹総監修，臨床スポーツ医学，医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内レポート（60%）と期末試験（40%）で評価を行う。
なお、レポートの提出回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】The aim of this course is to understand the basic concepts of sports medicine. By applying the knowledge of human anatomy and kinesiology, students will be able to learn the methods of strength and conditioning that will minimize the risk of injury and optimize recovery time for athletes. This course will also discuss the common injuries and diseases that occur during training so that students will be able to apply their knowledge into actual practice.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation will be based on reports (60%) and the final exam(40%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツコンディショニング論 II

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義において「コンディション」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】
1.「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2．特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
講義は座学中心に行い、一部実技も行う。講義ごとに授業内レポートを課す。毎回の授業の冒頭に、前週の学生のコメントを紹介して質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（身体的因子）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（環境的因子）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（心理的因子）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディションの評価	コンディションの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を経験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（下肢のストレッチング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
11	傷害予防を目的としたコンディショニング（体幹、上肢のストレッチング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、上肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を経験、習得する。
13	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は学習支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
・日本スポーツ協会編，リファレンスブック
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・
健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・
測定と評価
・籾山日出樹総監修，臨床スポーツ医学，医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】
(1)平常点（授業内レポート）　60%
(2)期末試験　40%
で評価を行う。
なお、授業内レポートの提出回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
「スポーツコンディショニング論Ⅰ」を履修してから本科目を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】The purpose of this course is to understand the theory of strength and conditioning. Students will learn the purposes of conditioning an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a conditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation will be based on reports (60%) and the final exam(40%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツコンディショニング演習Ⅰ

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・演習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
身体各部位の機能解剖や外傷・障害について学んだ上で、テーピング・ストレッチングなどの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論１　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論２　足関節のテーピング１	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論３　足関節のテーピング２	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論４　足関節のテーピング３	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論５　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論６　膝関節のテーピング１	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論７　膝関節のテーピング２	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論８　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論１（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論２（大腿）	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6　予防とコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1)平常点　80%
(2)実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。
・本科目を履修後、続けて秋学期に開講されるスポーツコンディショニング演習Ⅱも履修すること。
・運動器解剖やスポーツ外傷・障害に関する知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分学習した上で履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 20%、Short reports : 80%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

テーピング・コンディショニング指導論 I

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
身体各部位の機能解剖や外傷・障害について学んだ上で、テーピング・ストレッチングなどの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論1　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論2　足関節のテーピング1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論3　足関節のテーピング2	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論4　足関節のテーピング3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論5　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論6　膝関節のテーピング1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論7　膝関節のテーピング2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論8　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論2（大腿）	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6　予防とコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4　リコンディショニング

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1)平常点　80%
(2)実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・本科目を履修後、続けて秋学期に開講されるスポーツコンディショニング演習IIも履修すること。
・運動器解剖やスポーツ外傷・障害に関する知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分学習した上で履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 20%、Short reports : 80%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツコンディショニング演習 II

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング・ストレッチング・アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
身体各部位の機能解剖や外傷・障害について講義した上で、テーピング・ストレッチング・アイシング・ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論3　肩関節のテーピング1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論4　肩関節のテーピング2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
7	テーピング各論6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論2（腰背部）	腰背部のストレッチング
10	ストレッチング各論3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論4（上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（ストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと
授業で行った実技の復習をすること
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6　予防とコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4　リコンディショニング

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1)平常点　80%
(2)実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・春学期に開講されるスポーツコンディショニング演習 I を履修後、本科目を続けて履修すること。
・運動器解剖やスポーツ外傷・障害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 20%、Short reports : 80%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

テーピング・コンディショニング指導論 II

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング・ストレッチング・アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
身体各部位の機能解剖や外傷・障害について講義した上で、テーピング・ストレッチング・アイシング・ウォーミングアップ・クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論3　肩関節のテーピング1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論4　肩関節のテーピング2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
7	テーピング各論6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論2（腰背部）	腰背部のストレッチング
10	ストレッチング各論3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論4（上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（ストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと
授業で行った実技の復習をすること
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6　予防とコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4　リコンディショニング

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1)平常点　80%
(2)実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・春学期に開講されるスポーツコンディショニング演習 I を履修後、本科目を続けて履修すること。
・運動器解剖やスポーツ外傷・障害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline &Learning Objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 20%、Short reports : 80%

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動処方・負荷テスト

木下　訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症、各種負荷方法および装置の特性、運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論、 目的・対象に応じた各種運動処方など運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解・説明できる。
② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を理解・説明できる。
③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解・説明できる。
④ 目的・対象に応じた各種運動処方を理解・説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回で完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
③ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が重要であると理解してほしい。
④ 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆるVT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。降圧剤服薬者における運動について。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。血糖降下剤服薬・インスリン使用者における運動について。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。心疾患治療薬（βブロッカー、強心薬）服薬者における運動について。
14	運動処方症例検討	生活習慣病各疾患の実際の運動処方例について検討する。各疾患に特有のproblemをどのように評価して安全かつ効果的な運動処方・療法を行うか、また降圧剤、血糖降下剤、インスリン、脂質異常症治療薬（HMG-CoA還元酵素阻害剤）など、生活習慣病患者の多くが服薬・使用している薬が運動処方や運動療法の実践にどのように影響するか、実際の患者の症例を通して学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）※資料室収蔵
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）※資料室収蔵）

【参考書】
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）※資料室収蔵
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』※資料室収蔵
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
・Gerard J. Tortora.『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
・岡田隆夫.『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）※資料室収蔵
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』※資料室収蔵
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂3版』（中外医学社）※資料室収蔵
・心電図に関連した電気生理学（静止膜電位など）について深く学びたい場合は以下の図書が参考になる。
酒井正樹『これでわかるニューロンの電気現象』（共立出版）※資料室収蔵
宮川博義、井上雅司『ニューロンの生物物理』（丸善出版）※資料室収蔵
・ハーマン・ポンツァー 『運動しても痩せないのはなぜか』（草思社）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。当該資料は予習および授業内演習に使用するため、各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。
③ 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有疾患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle of exercise test, to understand cardiovascular physiology for exercise prescription, and to obtain the basic skill of implementing the prescribed exercise program appropriately for patients.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

CIM200IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 200）

スポーツ医学Ａ

日浦　幹夫

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：備考参照年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は2年次から履修可能。2023年度以前入学者は3年次から履修可能。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ障害のうち、外傷を除いた全領域の中から、up-to-dateでpracticalな内容を選りすぐって講義する。
スポーツは身体的・精神的・環境的ストレスへの挑戦であり、ヒトは恒常性（ホメオスタシス）を維持するため運動と環境のストレスに巧妙に適応する。その適応が破綻した状態がスポーツ障害である。スポーツ障害を理解するためには以下の点が重要である。
① ヒトはいかにして運動中に体内の恒常性を維持するか
② 運動によってどのような適応が起きるのか
③ いかにしてその適応や恒常性が破綻するのか
④ 適応や恒常性が破綻するといかなる事態に遭遇するか
⑤ その事態にいかに対処するか
本授業では、全身の臓器を系統的に扱いつつ、上記について、運動だけでなく環境ストレスへの適応とその破綻も含めて講義を行う。

【到達目標】
目標１ 巷にはスポーツ医学に関連した誤情報が多い。エビデンスを正しく理解し、フェイクに立ち向かいスポーツをする人々にとってよき助言者になれる。
目標２ 単なる知識ではなく、real worldのアスリートの障害を適切に予防し、対処することができるようになる。
目標３ スポーツを通じて健康を維持・増進し豊かな人生を送るために必要な医学的基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は以下の３部構成で行う。
① 扱う障害に関連した臓器や機能の正常について：解剖、組織、生理学の基本的復習
② 実際のスポーツ障害の症例提示とその検討・解題（グループディスカッションやプレゼンテーションなど）
③ 病的破綻（障害）の各論について解説
・すべての回を対面授業で行う予定である。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
③ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
④ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
⑤ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンディショニングに必要な免疫応答の基礎 ―Long COVIDとアスリートを例に―	スポーツ医学に関係する免疫学分野のトピックスを取り上げる。COVID-19が単なる呼吸器感染症ではなく、全身疾患であること、呼吸器系・神経系の異常が継続する（Long COVID）ことがわかっているが、Long COVIDはアスリートにおいて見過ごされていることも多く、関連する免疫応答のメカニズムを解説する。 ① 新型コロナウイルス感染症 ② 症例提示・検討 ③ COVID-19の合併症およびLong COVIDとアスリートについて学習する。
第2回	スポーツ心臓病学（１）突然死	スポーツ選手の突然死はスポーツドクター、トレーナー、指導者、学校関係者すべてにとっての最重要な課題である。スポーツに携わるものすべてが、絶対にアスリートを競技中に死なせないという使命感を持つべきである。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の突然死の機序・実態・予防法について医学的なエビデンスに基づき学習する。合わせてメディカルチェックについても学習する。
第3回	スポーツ心臓病学（２）スポーツ心臓	どのような時にスポーツ心臓という診断が下されるのか。スポーツ心臓と言われたらどうしたらよいのか、その時学校やスポーツ指導現場では何が重要か。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ心臓の定義、発生機序、心疾患との鑑別、などについて学習する。
第4回	呼吸器疾患・大気汚染とスポーツ	呼吸を知らなければ運動もトレーニングも語ることができないはずだが、スポーツ現場では意外にもその医学・科学に関する理解が十分ではない。 ① 呼吸（換気・ガス交換）とその制御の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 喘息とスポーツ、運動誘発性喘息、運動誘発性喉頭閉塞症、運動（水泳）誘発性肺水腫（浸漬性肺水腫）、過換気症候群などについて学習する。大気汚染とスポーツ活動、呼吸器感染症としてのインフルエンザなどについても学習する予定である。
第5回	熱中症と脱水	発症の病態生理を理解すれば、酷暑のスポーツ活動でも熱中症は予防できる。 ① 体温・体液調節のホメオスタシス ② 症例提示・検討 ③ 熱中症の診断、治療、予防に加え、重篤な合併症である横紋筋融解症についても学習する。
第6回	高所・寒冷環境とスポーツ	ヒトはなぜエベレストに無酸素で登頂できたのか？ 高地トレーニングは本当に効果がるのか？ 実はスポーツ現場でも多い低体温症のサバイバルは？ ① 寒冷環境、低圧環境（高地）における適応の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 登山の医学、高山病、ウィンタースポーツの医学、寒冷障害（低体温症、凍傷など）について学習する。また、いわゆる高地トレーニングについて、その理論的根拠、効果に関するエビデンスなどについても学習する。
第7回	貧血のスポーツ医学	「スポーツ貧血」と言うなかれ。アスリートの貧血の原因はスポーツではない。 ① 造血のメカニズム ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の貧血をどのように考え、予防するかについて学習する。
第8回	内分泌疾患とスポーツ	健康な人が運動しても低血糖にはならないはず？ 不整脈や貧血の原因が甲状腺ホルモン異常？ その疲労は下垂体機能異常が原因かも。内分泌疾患の治療に用いられる薬剤の多くはアンチドーピングの禁止薬物である。その時どうする？ ① 内分泌機能（ホルモン分泌）の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 糖尿病（特にⅠ型）、甲状腺疾患、下垂体・副腎皮質系異常を有するアスリートについて学習する。

第9回	感染症と免疫、アレルギーのスポーツ医学	感染症は選手やチームのパフォーマンスを突如として落とす身近なリスクである。感染から体を守る仕組みが免疫だが、正常に機能しなければ疾患の原因にもなる。 ① 感染と免疫、アレルギー反応の医学・生理学 ② 症例提示 ③ 感染症については伝染性単核球症などの全身感染症や皮膚感染症について、免疫異常については筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群、アレルギーについては（食物依存性）運動誘発アナフィラキシー、運動誘発性蕁麻疹（コリン性蕁麻疹）などについて学習する。
第10回	水辺と海のスポーツ医学―アプネア、潜水、溺水―	息止めの世界最高記録はアプネア競技で11分54秒であり、素潜りの潜水深度記録は214mである（2023年時点）。その時ヒトの体には何が起きているのか？ ① アプネア競技と潜水の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 低酸素血症、減圧症、圧外傷、溺水の機序と対処法について学習する。可能な範囲でマリンスポーツに関連した障害についても扱う予定である。
第11回	女性のスポーツ医学	2023年にREDs（Relative energy deficiency in sport）が再定義された。男性REDsのエビデンスも増えている。アスリートの無月経には本当にピルの処方が必要なのか？ Low energy availabilityは悪くない？ 講義を通じて古い知識や先入観を払拭する。 ① 女性の生殖・性腺機能、energy availability ② 症例提示・検討 ③ スポーツ障害としてのProblematic low energy availability、女性選手の三徴、REDsについて学習する。運動に伴う一過性で正常な適応反応としてのAdaptable low energy availabilityについても触れる。また経口避妊薬（ピル）、妊娠とスポーツについても学習する。
第12回	肝胆膵と消化器系の異常とスポーツ	運動してわき腹が痛くなる（side stitch）のはなぜか？ 試合が近くなると下痢をしてしまう、どうしたらよいか？ ① 消化器系の医学・解剖学・生理学 ② 症例提示・検討 ③ 肝炎、Exercise-related transient abdominal pain（ETAP）、過敏性腸症候群、運動誘発性腸症候群などについて学習する。
第13回	腎臓とスポーツ	若年アスリートのメディカルチェックで多く経験するのが、血尿・蛋白尿である。 ① 酸塩基平衡と電解質バランス、腎機能の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 顕微鏡的血尿、運動後タンパク尿、トレーニングによる肉眼的血尿、IgA腎症、腎疾患（透析）とアスリート・スポーツなどについて学習する。
第14回	神経疾患、精神神経疾患とスポーツ	オーバートレーニングは簡単に診断できる病態ではなく、"over diagnosis"（過剰診断）であることも多い。アスリートの摂食障害は、一般の人の摂食障害と何が違うのか？ 怪我を繰り返すのは心理的原因があるから？ スポーツに関連する頭痛やめまいなどの病態について。 ① ストレス反応と回復・適応について ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の摂食障害、いわゆる「オーバートレーニング」、injury prone athleteなどについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 以下に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習（各2時間）などに積極的に活用すること。
第1回：該当資料無し
第2回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.（http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf）
第3回：木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009年26巻11号．（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
第4回：日本アンチ・ドーピング機構 website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。
第5回：『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本体育協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本体育協会）
（いずれも http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01 より閲覧可能）
第6回：該当資料無し
第7回：木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．臨床スポーツ医学 2012;29(2):153-162.
第8回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf）※第2回の参考文献と同じ。
第9回：該当資料無し
第10回：『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会）
『雷対応マニュアル』（Jリーグ）
第11回：木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
第11回：『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省，2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『性と柔-女子柔道史から問う』（溝口紀子、河出ブックス）
第12回：該当資料無し
第13回：該当資料無し
第14回：日浦幹夫：体調が優れない選手は練習や試合に参加させない、臨床スポーツ医学 33 (7), 652-655, 2016-07.
第14回：日浦幹夫：運動と脳血管障害による突然死、臨床スポーツ医学 26 (11), 1415-1422, 2009-11.

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・"Medical Conditions in the Athlete 3rd Edition" by Katie Walsh Flanagan, Micki Cuppett. (Human Kinetics, 2017)
・（上記の最新版："Medical Conditions in the Physically Active 4th Edition" 2024)
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
・入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic, practical, and up-to-date knowledge of medical conditions in relation to physical activity, exercise, and sports except for traumatic injuries according to the scientific evidences. The lecture consists of the following three parts; 1) physiology of adaptative responses to exercise and environmental stresses, 2) case presentation and discussion (individual or group based) of the medical conditions, and 3) pathophysiology, mechanisms, and treatment of the medical conditions.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is as follows: 1) to understand physiology of homeostasis and acute and chronic adaptation to exercise and environmental stresses, 2) to obtain practical skills of logical assessment of the medical conditions and of developing individual strategy for health promotion through exercise, and 3) to be able to provide evidence-based advice to athletes and all other people in sports field.

[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). Participation in case discussion will be evaluated on basis of quality of opinions and attitudes of students. A quiz (“mini test”) may be provided in the classroom. The score of the discussion and quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination.
CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

生活習慣病と身体活動

木下　訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、生活習慣病とは何か、その概念・定義、生活習慣病の疫学、病態生理、生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序、身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンス、身体活動の意義・効果などの生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンスを学ぶ。

【到達目標】
① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
② 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
③ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOLと身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOLとの関連について学習する。高齢者医療における課題（介護、認知症、社会保障など）について、予防医学としての運動・身体活動の役割を学習する。 キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動、一次予防
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：II型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：LDLコレステロール、HDLコレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症、『運動しても痩せないのはなぜか』（ポンツァー、草思社）
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症, locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 キーワード：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。身体活動と認知症（アルツハイマー型、血管性）との関連について学習する。 キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および （2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 キーワード：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス （2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。 キーワード：健康増進法、健康日本21（第2次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 キーワード：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。【授業計画 / Schedule】内容欄の各回キーワードにも、参考図書・文献を記載している。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index.html）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』
※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。当該資料は予習および授業内演習に使用するため、各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①授業の展開によって、若干の変更があり得る。
②『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医、日本医師会認定産業医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the definition, pathophysiology, epidemiology, and treatment of chronic diseases and to understand the role of physical activity and exercise to prevent chronic diseases and that of physical inactivity and sedentary lifestyle to develop chronic diseases on the basis of scientific evidences.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

リコンディショニングⅠ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、第1にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を学習し理解する。第2にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害の概要を学習する。第3にスポーツ活動に必要な身体機能・体力の回復レベルの学習と必要な手法特にエクササイズ・トレーニング方法を学習し理解する。

【到達目標】
スポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解したうえで、スポーツ外傷・障害の概要を理解する。さらに、スポーツ活動に必要な身体機能・体力の回復レベルの学習と必要な手法特にエクササイズ・トレーニング方法が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
リコンディショニングとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害とその予防方法、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。内容としてはリコンディショニングの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたリコンディショニングのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（総論と代表的手法）	本講義のガイダンスとともに総論さらにリコンディショニングの代表的の手法（エクササイズ、テーピング等、物理刺激等）
2	リコンディショニングにおける評価	スポーツ外傷・障害後のコンディション不良に対する評価およびとスポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニング
3	リコンディショニングにおけるプログラミングの実際	スポーツ外傷・障害の特性を踏まえたプログラミング、競技特性を踏まえたプログラミング、リスク管理・再発予防への配慮、患部外トレーニングのプログラミング
4	組織修復、治癒過程の知識	組織修復，治癒過程の知識（骨・軟骨、靭帯、筋・腱、半月板、神経）
5	機能的，身体的な状態に応じたリコンディショニング	筋力、関節可動性・柔軟性、バランス機能のリコンディショニング
6	コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応	全身持久力、姿勢・アライメント、体重管理、スポーツ動作のリコンディショニング
7	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（頭頚部・胸部）	脳振盪後、頚部捻挫後、胸郭の機能不全のリコンディショニング
8	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（腰部）	筋・筋膜性腰痛後、腰椎間板ヘルニア後、腰椎分離症後のリコンディショニング
9	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（肩）	投球障害後、肩関節脱臼後のリコンディショニング
10	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（肘・前腕）	テニス肘後、投球障害後のリコンディショニング
11	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（骨盤帯・股関節）	グロインペイン症候群後のリコンディショニング
12	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（大腿部）	大腿部打撲後、ハムストリング肉ばなれ後のリコンディショニング
13	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（膝関節）	膝障害後、膝靱帯損傷後のリコンディショニング
14	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（足関節・足部）	足関節捻挫後、足部障害後のリコンディショニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４ リコンディショニング．文光堂. 2022
※授業資料は学習支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
1.日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 コンディショニング．文光堂. 2022
2.広瀬統一他，アスレティックトレーニング学. 文光堂，2019
3.独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 2023
4.広瀬統一, 泉重樹, 福田崇, 稲見崇孝編. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社. 2023

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行う。評価は試験100％である。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The goals of this lecture are as follows: 1. To understand the functions of the locomotor apparatus necessary for sports activities; 2. To learn about sports injuries and disorders as a major factor in the decline of locomotor functions; and 3. To learn training methods necessary for sports activities.
【Learning Objectives】 The goal of this lecture is to understand the specific methods of reconditioning.
【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The end-of-term exam will be used as 100% of the evaluation.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

アスレティックリハビリテーションⅠ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、第1にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を学習し理解する。第2にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害の概要を学習する。第3にスポーツ活動に必要な身体機能・体力の回復レベルの学習と必要な手法特にエクササイズ・トレーニング方法を学習し理解する。

【到達目標】
スポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解したうえで、スポーツ外傷・障害の概要を理解する。さらに、スポーツ活動に必要な身体機能・体力の回復レベルの学習と必要な手法特にエクササイズ・トレーニング方法が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
リコンディショニングとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害とその予防方法、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。内容としてはリコンディショニングの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたリコンディショニングのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（総論と代表的手法）	本講義のガイダンスとともに総論さらにリコンディショニングの代表的の手法（エクササイズ、テーピング等、物理刺激等）
2	リコンディショニングにおける評価	スポーツ外傷・障害後のコンディション不良に対する評価およびとスポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニング
3	リコンディショニングにおけるプログラミングの実際	スポーツ外傷・障害の特性を踏まえたプログラミング、競技特性を踏まえたプログラミング、リスク管理・再発予防への配慮、患部外トレーニングのプログラミング
4	組織修復、治癒過程の知識	組織修復，治癒過程の知識（骨・軟骨、靭帯、筋・腱、半月板、神経）
5	機能的，身体的な状態に応じたリコンディショニング	筋力、関節可動性・柔軟性、バランス機能のリコンディショニング
6	コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応	全身持久力、姿勢・アライメント、体重管理、スポーツ動作のリコンディショニング
7	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（頭頚部・胸部）	脳振盪後、頚部捻挫後、胸郭の機能不全のリコンディショニング
8	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（腰部）	筋・筋膜性腰痛後、腰椎間板ヘルニア後、腰椎分離症後のリコンディショニング
9	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（肩）	投球障害後、肩関節脱臼後のリコンディショニング
10	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（肘・前腕）	テニス肘後、投球障害後のリコンディショニング
11	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（骨盤帯・股関節）	グロインペイン症候群後のリコンディショニング
12	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（大腿部）	大腿部打撲後、ハムストリング肉ばなれ後のリコンディショニング
13	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（膝関節）	膝障害後、膝靱帯損傷後のリコンディショニング
14	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング（足関節・足部）	足関節捻挫後、足部障害後のリコンディショニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４ リコンディショニング．文光堂. 2022
※授業資料は学習支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
1.日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3 コンディショニング．文光堂. 2022
2.広瀬統一他，アスレティックトレーニング学. 文光堂，2019
3.独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 2023
4.広瀬統一, 泉重樹, 福田崇, 稲見崇孝編. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社. 2023

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行う。評価は試験100％である。

【学生の意見等からの気づき】
今年度が初めての授業である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The goals of this lecture are as follows: 1. To understand the functions of the locomotor apparatus necessary for sports activities; 2. To learn about sports injuries and disorders as a major factor in the decline of locomotor functions; and 3. To learn training methods necessary for sports activities.
【Learning Objectives】 The goal of this lecture is to understand the specific methods of reconditioning.
【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The end-of-term exam will be used as 100% of the evaluation.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

リコンディショニングⅡ

鴇田　昌也

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、傷害を負ったアスリートが競技に復帰する際に必要不可欠であるリコンディショニングについて理解することを目標とする。本科目では「リコンディショニングⅠ」で学んだ身体部位別のリコンディショニングを踏まえ、競技種目ごとの復帰期のリコンディショニングについて重点的に学習する。

【到達目標】
リコンディショニングについての理解を深め、実際にアスリートに指導できるようになることを目指す。本科目では主に復帰期について学習するので、各競技種目の特性に合わせたリコンディショニングプログラム作成と指導が出来るようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
各回の前半にテーマに沿った講義を行い、後半は実践する。毎回レポートを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	ガイダンス、総論	リコンディショニングについて。授業の進め方、評価方法
2回目	基本的な動作とコアエクササイズ	各スポーツに共通して求められる基本的な動作、特にコアの機能について学習する。
3回目	コアエクササイズのリコンディショニングへの応用	第2回の内容を発展させ、よりスポーツ復帰のための段階的なリハビリテーションに結び付けられるようにする。
4回目	ジャンプ動作の基礎	基本的なジャンプ動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
5回目	ジャンプ動作のエラー修正エクササイズ	ジャンプ動作で起こりやすいエラーとその修正方法を学習する。
6回目	リコンディショニングにおけるジャンプ動作の実践	様々な種目に合わせたジャンプ動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
7回目	走動作の基礎	基本的な走動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
8回目	リコンディショニングにおける走動作の実践	様々な種目に合わせた走動作を学習・実践し、リコンディショニングを指導できるようにする。
9回目	リコンディショニングにおけるアジリティトレーニング	様々な種目に合わせたアジリティ動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
10回目	スローイング動作の基礎	基本的なスローイング動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
11回目	リコンディショニングにおけるスローイング動作の実践	様々な種目に合わせたスローイング動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
12回目	あたり動作のリコンディショニング	基本的なあたり動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
13回目	キック動作のリコンディショニング	基本的なキック動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
14回目	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし。
第2〜14回：前回授業の復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間で合計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編： 2022 年カリキュラム対応公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 リコンディショニング

【参考書】
アスレティックトレーニング学，広瀬統一ら編，文光堂，2019
その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各講義の平常点と授業内レポート点60％、期末レポート点40％で評価を行う。3分の2以上出席した者を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
各回講義の前半に座学で学んだことを、後半の実技で体感できる点が好評であった。引き続きこの形式で、学生たちの理解がより深まるよう工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで教材の配布等を行う。

【その他の重要事項】
・「リコンディショニングⅠ」を履修済みであることが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the purposes of reconditioning training an athlete and the ways to grade their athletic performance.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to understand the theory of reconditioning. Students will learn the practices of creating a reconditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 40%、a term paper :60%

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

アスレティックリハビリテーションII

鴇田　昌也

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、傷害を負ったアスリートが競技に復帰する際に必要不可欠であるリコンディショニングについて理解することを目標とする。本科目では「リコンディショニングⅠ」で学んだ身体部位別のリコンディショニングを踏まえ、競技種目ごとの復帰期のリコンディショニングについて重点的に学習する。

【到達目標】
リコンディショニングについての理解を深め、実際にアスリートに指導できるようになることを目指す。本科目では主に復帰期について学習するので、各競技種目の特性に合わせたリコンディショニングプログラム作成と指導が出来るようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
各回の前半にテーマに沿った講義を行い、後半は実践する。毎回レポートを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	ガイダンス、総論	リコンディショニングについて。授業の進め方、評価方法
2回目	基本的な動作とコアエクササイズ	各スポーツに共通して求められる基本的な動作、特にコアの機能について学習する。
3回目	コアエクササイズのリコンディショニングへの応用	第2回の内容を発展させ、よりスポーツ復帰のための段階的なリハビリテーションに結び付けられるようにする。
4回目	ジャンプ動作の基礎	基本的なジャンプ動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
5回目	ジャンプ動作のエラー修正エクササイズ	ジャンプ動作で起こりやすいエラーとその修正方法を学習する。
6回目	リコンディショニングにおけるジャンプ動作の実践	様々な種目に合わせたジャンプ動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
7回目	走動作の基礎	基本的な走動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
8回目	リコンディショニングにおける走動作の実践	様々な種目に合わせた走動作を学習・実践し、リコンディショニングを指導できるようにする。
9回目	リコンディショニングにおけるアジリティトレーニング	様々な種目に合わせたアジリティ動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
10回目	スローイング動作の基礎	基本的なスローイング動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
11回目	リコンディショニングにおけるスローイング動作の実践	様々な種目に合わせたスローイング動作を学習・実践し、リコンディショニングプログラムを指導できるようにする。
12回目	あたり動作のリコンディショニング	基本的なあたり動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
13回目	キック動作のリコンディショニング	基本的なキック動作を段階的に実施・指導する方法を学習する。
14回目	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし。
第2〜14回：前回授業の復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間で合計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編： 2022 年カリキュラム対応公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト4 リコンディショニング

【参考書】
アスレティックトレーニング学，広瀬統一ら編，文光堂，2019
その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各講義の平常点と授業内レポート点60％、期末レポート点40％で評価を行う。3分の2以上出席した者を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
各回講義の前半に座学で学んだことを、後半の実技で体感できる点が好評であった。引き続きこの形式で、学生たちの理解がより深まるよう工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで教材の配布等を行う。

【その他の重要事項】
・「リコンディショニングⅠ」を履修済みであることが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the purposes of reconditioning training an athlete and the ways to grade their athletic performance.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to understand the theory of reconditioning. Students will learn the practices of creating a reconditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 40%、a term paper :60%

CIM300IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300）

スポーツ医学Ｂ

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頚部の外傷・障害	主に頚部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	下腿の外傷・障害	下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第1回：特に定めず
　第2〜14回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備学習と復習時間はそれぞれ 2 時間以上 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト1- 9　日本スポーツ協会
2）スポーツ運動医学　編著 ： 高澤祐治/小松孝行　文光堂
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（90%）
小テスト(10%)

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries
【Learning Objectives】
The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma / disability and build a trauma / disability prevention program.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%) and mini test (10%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：備考参照年次／2単位
曜日・時限：月1/Mon.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は1年次から履修可能。2023年度以前入学者は2年次から履修可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課すが、ハンドアウトは予習や授業内で使用することを想定している。
⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」―突然死の機序とスポーツ現場における実態―	人が死ぬときに何が起きているのか？ なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。
4	心肺蘇生（成人と小児のBLS）―スポーツ現場でHands Only CPR―	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場におけるHands Only CPRの役割について学ぶ。
5	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断―	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
9	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
10	環境とスポーツ―熱中症と落雷―	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	スポーツイベントのリスクマネジメント―EAPとAED―	（mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) およびAED （自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 （計 4 時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第1回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第2回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第1章～第6章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵
第3回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009年26巻11号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第4回：

『BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2020準拠』（2022年、シナジー）※資料室収蔵
第5回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
第6回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第7回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf）
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
第8回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
第9回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第10回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
（https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf）
『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会 https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf）
『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）
第11回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第12回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省，2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
（https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947）
第13回：
日本アンチ・ドーピング機構website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）
『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬: 服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020年）※多摩図書館収蔵
『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023年）※多摩図書館収蔵
第14回：
『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで―安全に運営するために』（野口 宏（編）, 山澤文裕（監修）、真興交易医書出版部、2020年）※多摩図書館収蔵
『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998年）．（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
・入澤 充.『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に強く改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。当該資料は予習および授業内演習に使用するため、各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医、日本医師会認定産業医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ジョギング・ウォーキング実習

坪田　智夫

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講により、ジョギング・ウォーキングの運動効果を理解し、年齢層に応じた指導法を習得する。

【到達目標】
ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適切な運動強度を説明・指導できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
第2回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
第3回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力を調べる。
第4回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	心拍数と歩幅から個人の有効な運動強度を調べる。
第5回	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第6回	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第7回	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第8回	適切なジョギングの強度 を測定する①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
第9回	適切なジョギングの強度 を測定する②	異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力を調べる。
第10回	適切なジョギングの強度 を測定する③	心拍数から個人の有効な運動強度を調べる。
第11回	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
第12回	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
第13回	ジョギング実習③	クロカンコースを使い、正しいフォームを身に付ける。
第14回	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを 行う。安全なコース設定をするための 視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回:特になし
第 2 14 回:前回授業への取り組みと復習 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート ７０％
最終レポート ３０％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい

【Outline (in English)】
【Course outline】Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.
【Learning Objectives】
In this course students learn the characteristic and the health benefit of the aerobic exercise for jogging and walking. In addition, students acquire an accurate form of the jogging and walking. With performing jogging and walking, really doing it, each student know the reasonable exercise of strength, and to teach correct exercise strength to the making of health.
【Learning activities outside of classroom】
Class 1 : Special instruction
Class 2　14 : For each two hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【Grading Criteria /Policy】 Each report : 70%　Last report : 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ジョギング・ウォーキング実習

坪田　智夫

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講により、ジョギング・ウォーキングの運動効果を理解し、年齢層に応じた指導法を習得する。

【到達目標】
ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適切な運動強度を説明・指導できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
第2回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
第3回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力を調べる。
第4回	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	心拍数と歩幅から個人の有効な運動強度を調べる。
第5回	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第6回	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第7回	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
第8回	適切なジョギングの強度 を測定する①	万歩計を使い歩幅と心拍数の測定を行う。
第9回	適切なジョギングの強度 を測定する②	異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力を調べる。
第10回	適切なジョギングの強度 を測定する③	心拍数から個人の有効な運動強度を調べる。
第11回	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
第12回	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
第13回	ジョギング実習③	クロカンコースを使い、正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
第14回	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを 行う。安全なコース設定をするための 視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回:特になし
第 2 14 回: 前回授業への取り組みと復習 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート ７０％
最終レポート ３０％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい

【Outline (in English)】
【Course outline】Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.
【Learning Objectives】
In this course students learn the characteristic and the health benefit of the aerobic exercise for jogging and walking. In addition, students acquire an accurate form of the jogging and walking. With performing jogging and walking, really doing it, each student know the reasonable exercise of strength, and to teach correct exercise strength to the making of health.
【Learning activities outside of classroom】
Class 1 : Special instruction
Class 2　14 : For each two hours a standard last time at preparations for action and review learning to each class.
【Grading Criteria /Policy】 Each report : 70%　Last report : 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

フィットネス・トレーニング実習

内田　紘平、高見　京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	身体の機能評価とコンディショニング【担当：内田】1	ストレングストレーニングを実施する上で前提として必要になる、関節可動域や機能的動作について評価方法と改善方法を学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：内田】2	バックスクワット、上肢の水平プッシュ動作、及び垂直プル動作パターンを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：内田】3	フロントスクワット、オーバーヘッドスクワット、上肢の垂直プッシュ動作、水平プル動作をを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
11	ストレングストレーニング【担当：内田】4	デッドリフト、及びスナッチやクリーンの分習動作となるハイプルを学習する。
12	オリンピックリフティング【担当：内田】5	スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
13	プライオメトリックトレーニング【担当：内田】6	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学び、実践的なトレーニング方法を学習する。
14	スピードトレーニング【担当：内田】7	スピードトレーニングの各種実施方法とその評価および指導方法の実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第3回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング－NSCA決定版, 第2版. ブックハウス・エイチディ(2002)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％），各回の実習レポート（30％）
3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this course is to teach the training methods that are required for an athletic trainer or a sports instructor.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To actually practice various training skills by yourself.
To understand the checkpoints when actually teaching various pieces of training.
[Learning activities outside of the classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

フィットネス・トレーニング実習

内田　紘平、高見　京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	身体の機能評価とコンディショニング【担当：内田】1	ストレングストレーニングを実施する上で前提として必要になる、関節可動域や機能的動作について評価方法と改善方法を学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：内田】2	バックスクワット、上肢の水平プッシュ動作、及び垂直プル動作パターンを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：内田】3	フロントスクワット、オーバーヘッドスクワット、上肢の垂直プッシュ動作、水平プル動作をを中心に習熟し、必要な補助種目を実践的に学習する。
11	ストレングストレーニング【担当：内田】4	デッドリフト、及びスナッチやクリーンの分習動作となるハイプルを学習する。
12	オリンピックリフティング【担当：内田】5	スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
13	プライオメトリックトレーニング【担当：内田】6	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学び、実践的なトレーニング方法を学習する。
14	スピードトレーニング【担当：内田】7	スピードトレーニングの各種実施方法とその評価および指導方法の実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第3回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング－NSCA決定版, 第2版. ブックハウス・エイチディ(2002)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70％），各回の実習レポート（30％）
3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this course is to teach the training methods that are required for an athletic trainer or a sports instructor.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To actually practice various training skills by yourself.
To understand the checkpoints when actually teaching various pieces of training.
[Learning activities outside of the classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

エアロビック運動実習

林田　はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火2/Tue.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて、「スポーツ」に発展したものである。エアロビックは、音楽のビートにのって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツであり、その一方で、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。参加者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に着けていることが必要である。本実習では、エアロビック指導者として安全で効果的なプログラムを実施するための基礎知識・技能を習得する。

【到達目標】
・初級段階のエアロビックの示範ができる。
・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	初級段階のエアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチングの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う・エアロビック指導試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・健康運動実践指導者養成用テキスト
・エアロビック指導教本（日本エアロビック連盟）

【成績評価の方法と基準】
平常点（20％）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
エアロビック実技試験（40％）：学期の中間に行う
エアロビック指導実習試験（40％）：学期末に行う
いかなる理由においても、3分の2以上の出席をしていない場合には成績評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。
授業の習得度によって進度を若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: "Aerobic" dance is a familiar health sport that can be performed "anytime," "anywhere," and "by anyone" based on the beat of music. This course introduces "Aerobic," which has recently been positioned as an expressive sport and a lifelong sport.
Learning Objectives: Students will develop the skills necessary to lead safe and effective aerobic programs.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading Criteria /Policy : Grading will be decided based on contribution to the class (20%), and the practical exam (80%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

健康増進施設実習

高見　京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、健康増進施設などの実習先において、実際の運動指導現場での実務を体験することを通じて、健康づくりに必要な運動指導の知識と技術を習得することを目的とします。また、実習前の事前学習として、接遇に関するセミナーを受講し、健康運動指導士の役割について学びます。

【到達目標】
・健康運動を指導するための専門的な知識と技術を習得する。
・実践的なスキルを身につけることで、現場における健康運動指導者としての役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
春学期中に講義および接遇セミナーを受講した後、夏休み期間中に1週間の現場実習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
2	これからの健康増進施設	健康増進施設のあるべき姿について考える。
3	健康運動指導士の役割	健康運動指導士の役割について理解する。
4	現場実習の意義	健康増進施設での実習の意義について理解する。
5	健康状態の把握と体力測定	健康状態の把握と体力測定について理解する。
6	運動プログラムの作成と提供	運動プログラムの作成と提供について理解する。
7	運動の記録と情報管理	運動の記録と情報管理について理解する。
8	現場実習にあたっての基本的心得	実習に臨むにあたっての、一般的心得と、個人情報、プライバシー遵守について理解する。
9	服装・身だしなみ	実習に臨むにあたってふさわしい、名札、服装、髪型・髪、化粧、爪や手、装飾品について理解する。
10	接遇	実習に臨むにあたって、挨拶、表情、身だしなみ、言葉づかい、質問時対応、クレーム時対応について理解する。
11	施設管理業務	健康増進施設の管理業務について理解する。
12	健康状態の把握	安全で効果的なプログラムの作成のために必要となる、健康情報について理解する。
13	体力測定	安全で効果的なプログラムの作成のために必要となる、体力について理解する。
14	運動プログラムの作成・提供	運動プログラムを作成するにあたり重要となる、身体状況との適合性について理解する。
15	運動の記録と情報の管理	運動の記録と情報の管理に付いて理解する。
16	健康増進施設での現場実習（業務内容）	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
17	健康増進施設での現場実習（接遇）	適切なコミュニケーションをとり、相談のしやすい存在になるための接遇能力を身につける。
18	健康増進施設での現場実習（安全管理）	基本的な施設管理業務の実践を通じて理解し、各部所ごとの安全管理が効率よく確実にできるよう工夫・提案する。
19	健康増進施設での現場実習（運動実践の可否）	来所者の健康管理項目について理解し、運動実践の可否について自己判断を促す。
20	健康増進施設での現場実習（運動内容の選択）	対象者の年齢、性、疾病や障害に応じた体力測定の実施方法や留意点を理解する。
21	健康増進施設での現場実習（個別ケース）	個別ケースに応じたプログラム作成を行い、実習者同士でカウンセリングし、ケースごとに集団で論議する。
22	健康増進施設での現場実習（情報管理）	個人情報管理について理解し、守秘義務の遵守の重要性を理解する。
23	健康増進施設での現場実習（運動の記録）	運動の記録の仕方について学び、運動継続効果としての健康状態や体力の変化について把握し、対象者の自己効力感を高める方法について理解する。
24	健康増進施設での現場実習（ニーズ）	個人のニーズや障害に応じた運動プログラムの作成・提供、グループ指導の方法や留意点について体験的に学習する。
25	健康増進施設での現場実習（運動様式）	フィットネス、スタジオ、プールなどでの機器やプログラムについて体験的に学び、運動様式の違いや特徴について理解する。
26	健康増進施設での現場実習（運動プログラム）	施設や施設外で行っている実際のフィットネスプログラムや介護予防運動指導、特定保健指導の実際を観察し、実践方法を理解する。
27	健康増進施設での現場実習（実習日誌）	毎日の実習内容を記録し、当日の実習を反省し、翌日の目標を立てる。
28	実習全体の総括	事前学習と健康増進施設での現場実習を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第10〜26回：実習日誌の記録
実習後のレポート
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団

【参考書】
・健康運動指導士試験 要点整理と実践問題　文光堂

【成績評価の方法と基準】
実習記録と実習後に提出するレポート(50%)
実習担当者による実習の内容の評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】
実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

【その他の重要事項】
本実習は、健康運動指導士資格の取得のための科目である。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The aim of this course is to help students acquire to experience practical experience at sports facilities such as health promotion facilities through actual exercise teaching sites for clients.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・Be able to acquire specialized knowledge and skills for instructing health exercises.
・Be able to understand the role of health and exercise instructors in the field of activities by acquiring practical skills.
[Learning activities outside of the classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following the training record and the report: 50%, the evaluation of the content of the training by the person in charge of the training: 50%

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ａ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、初期評価、二次評価、SOAPノートの記載方法
2	ATルームでの活動（JSPO-ATの役割）	主となる実習場所でのJSPO-ATの活動（ATルーム）、医・科学スタッフおよびアントラージュの関わり
3	ATルーム・トレーニングルームでの活動（JSPO-ATの役割2）	主となる実習場所でのJSPO-ATの活動（トレーニングルーム）、リスクマネジメント
4	安全・健康管理	実習現場におけるリスクの把握と整備
5	スポーツ外傷・障害の予防	重篤なスポーツ外傷・障害・事故の予防、スポーツ活動現場における感染症対策
6	スポーツ外傷・障害の予防（評価と活用）	対象者のコンディションの把握（整形外科的チェック、フィジカルチェック、コンディショニングデータを用いたモニタリング等を含む）とデータ活用
7	安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防	再発予防としての動作の見方、競技・種目特性を踏まえたスポーツ外傷・障害予防の取り組み
8	コンディショニング	パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価指標の活用、対象・目的に応じたプログラムの計画
9	コンディショニング（エクササイズ指導1）	ウォームアップ、リカバリー、動作の評価に基づいたエクササイズ指導
10	コンディショニング（エクササイズ指導2 ストレングス）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　①ストレングストレーニング
11	コンディショニング（エクササイズ指導3 ラン・スプリント）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　②ランニング、スプリントトレーニング
12	コンディショニング（エクササイズ指導4 アジリティ）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　③ストップ、方向転換、アジリティトレーニング
13	コンディショニング（エクササイズ指導5 エンデュランス）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　④各種エンデュランストレーニング
14	コンディショニング（エクササイズ指導6 バランス・ストレッチング）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　⑤バランストレーニング、各種ストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、検査・測定評価、外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ａ

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、初期評価、二次評価、SOAPノートの記載方法
2	ATルームでの活動（JSPO-ATの役割）	主となる実習場所でのJSPO-ATの活動（ATルーム）、医・科学スタッフおよびアントラージュの関わり
3	ATルーム・トレーニングルームでの活動（JSPO-ATの役割2）	主となる実習場所でのJSPO-ATの活動（トレーニングルーム）、リスクマネジメント
4	安全・健康管理	実習現場におけるリスクの把握と整備
5	スポーツ外傷・障害の予防	重篤なスポーツ外傷・障害・事故の予防、スポーツ活動現場における感染症対策
6	スポーツ外傷・障害の予防（評価と活用）	対象者のコンディションの把握（整形外科的チェック、フィジカルチェック、コンディショニングデータを用いたモニタリング等を含む）とデータ活用
7	安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防	再発予防としての動作の見方、競技・種目特性を踏まえたスポーツ外傷・障害予防の取り組み
8	コンディショニング	パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価指標の活用、対象・目的に応じたプログラムの計画
9	コンディショニング（エクササイズ指導1）	ウォームアップ、リカバリー、動作の評価に基づいたエクササイズ指導
10	コンディショニング（エクササイズ指導2ストレングス）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　①ストレングストレーニング
11	コンディショニング（エクササイズ指導3ランニング・スプリント）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　②ランニング、スプリントトレーニング
12	コンディショニング（エクササイズ指導4アジリティ）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　③ストップ、方向転換、アジリティトレーニング
13	コンディショニング（エクササイズ指導5エンデュランス）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　④各種エンデュランストレーニング
14	コンディショニング（エクササイズ指導6バランス・ストレッチング）	競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング　⑤バランストレーニング、各種ストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、検査・測定評価、外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEYHOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ～Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation will be based on the efforts in the practical training(50%) and the field training report(50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ａ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3〜4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAPノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応（安全対策について）	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別W-upの指導・実践
15	スポーツ現場での対応（急性外傷の対応他）	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応（特殊環境での対応）	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応（現場の安全確保他）	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応（性別・年代別の対応他）	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション（上肢）	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション（体幹）	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション（下肢）	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション（球技）	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション（記録競技）	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション（採点競技）	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション（格闘技）	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習１（HOPS）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習を行う
27	総合実習２（現場の安全対応）	これまでのすべての活動を含めたスポーツ現場での対応の復習を行う
28	総合実習３（アスレティックリハビリテーション）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、外傷・障害予防、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
　またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。
　評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとっては1年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ているのも事実である。しかしながら途中で脱落するものもみられている実態もある。そのため受講の際には事前ガイダンスの参加は必須としており、また場合により面接を行うことがある。

【その他の重要事項】
※（再掲）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｂ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リコンディショニングに必要な検査・測定概論	リコンディショニングに必要な検査・測定及び評価結果の活用を見学・実践する。
2	対象に応じた道具を用いた実践について	対象に応じた道具（テーピング、インソール、ブレースなど）を用いたアプローチを見学・実践する。
3	リコンディショニングエクササイズの実践①足関節等	足部〜膝関節部についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
4	リコンディショニングエクササイズの実践②下肢全体	股関節〜下肢全体についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
5	リコンディショニングエクササイズの実践③体幹部	胸部・腰部骨盤股関節複合体についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
6	リコンディショニングエクササイズの実践④肩関節	上肢帯・肩関節についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
7	リコンディショニングエクササイズの実践⑤手部・肘関節	手部・肘関節・上肢についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
8	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング①足部〜下腿	訓練前期から復帰期までの足部〜下腿までのリコンディショニングを見学・実践する。
9	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング②膝関節〜下肢	訓練前期から復帰期までの膝関節〜下肢全体のリコンディショニングを見学・実践する。
10	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング③体幹部	訓練前期から復帰期までの体幹部（胸部・腰部）のリコンディショニングを見学・実践する。
11	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング④肩関節	訓練前期から復帰期までの肩関節のリコンディショニングを見学・実践する。
12	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング⑤手部〜肘関節	訓練前期から復帰期までの手部〜肘関節までのリコンディショニングを見学・実践する。
13	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング⑥頸部・脳振盪	訓練前期から復帰期までの頸部・脳振盪のリコンディショニングを見学・実践する。
14	リコンディショニングのまとめ	リコンディショニングに用いるエクササイズや部位ごとの状態に応じた内容に応じたケーススタディを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｂ

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リコンディショニングに必要な検査・測定概論	リコンディショニングに必要な検査・測定及び評価結果の活用を見学・実践する。
2	対象に応じた道具を用いた実践について	対象に応じた道具（テーピング、インソール、ブレースなど）を用いたアプローチを見学・実践する。
3	リコンディショニングエクササイズの実践①足関節等	足部〜膝関節部についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
4	リコンディショニングエクササイズの実践②下肢全体	股関節〜下肢全体についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
5	リコンディショニングエクササイズの実践③体幹部	胸部・腰部骨盤股関節複合体についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
6	リコンディショニングエクササイズの実践④肩関節	上肢帯・肩関節についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
7	リコンディショニングエクササイズの実践⑤手部・肘関節	手部・肘関節・上肢についてのリコンディショニングエクササイズを見学・実践する。
8	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング①足部〜下腿	訓練前期から復帰期までの足部〜下腿までのリコンディショニングを見学・実践する。
9	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング②膝関節〜下肢	訓練前期から復帰期までの膝関節〜下肢全体のリコンディショニングを見学・実践する。
10	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング③体幹部	訓練前期から復帰期までの体幹部（胸部・腰部）のリコンディショニングを見学・実践する。
11	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング④肩関節	訓練前期から復帰期までの肩関節のリコンディショニングを見学・実践する。
12	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング⑤手部〜肘関節	訓練前期から復帰期までの手部〜肘関節までのリコンディショニングを見学・実践する。
13	部位ごとの状態に応じたリコンディショニング⑥頸部・脳振盪	訓練前期から復帰期までの頸部・脳振盪のリコンディショニングを見学・実践する。
14	リコンディショニングのまとめ	リコンディショニングに用いるエクササイズや部位ごとの状態に応じた内容に応じたケーススタディを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEYHOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation will be based on the efforts in the practical training(50%) and the field training report(50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｂ

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3〜4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAPノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAPノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応（安全対策について）	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別W-upの指導・実践
15	スポーツ現場での対応（急性外傷の対応他）	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応（特殊環境での対応）	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応（現場の安全確保他）	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応（性別・年代別の対応他）	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション（上肢）	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション（体幹）	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション（下肢）	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション（球技）	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション（記録競技）	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション（採点競技）	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション（格闘技）	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習1（HOPS）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習を行う
27	総合実習2（現場の安全対応）	これまでのすべての活動を含めたスポーツ現場での対応の復習を行う
28	総合実習3（アスレティックリハビリテーション）	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。
評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとっては1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前ガイダンスの参加は必須としており、また場合により面接を行うことがある。

【その他の重要事項】
※（再掲）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｃ

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング①陸上競技	陸上トラック競技における動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
2	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング②サッカー	サッカーにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
3	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング③ハンドボール	ハンドボールにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
4	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング④野球	野球における動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
5	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング⑤ラグビー	ラグビーにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
6	緊急時対応計画の立案・作成および緊急時の状況把握および対象評価と救急対応	各現場ごとに緊急時対応計画を作成する。緊急時の状況把握および対象評価と救急対応を実践する。
7	緊急時の状況把握および対象評価と救急対応および対象者に応じた運搬法	緊急時の状況把握および対象評価と救急対応、さらに運搬法を実践する。
8	実習環境に応じた救急対応①陸上競技トラック	陸上トラック競技における救急対応（模擬）を実践する。
9	実習環境に応じた救急対応②サッカー	サッカーにおける救急対応（模擬）を実践する。
10	実習環境に応じた救急対応③ラグビー	ラグビーにおける救急対応（模擬）を実践する。
11	実習環境に応じた救急対応④その他	ラクロス・バドミントン・テニス・アルティメットにおける救急対応（模擬）を実践する。
12	アンチ・ドーピング教育やドーピングコントロールの実際・ICTの活用	アンチ・ドーピング教育やドーピングコントロールのシミュレーションを実施する。
13	一次救命処置（心停止）	心停止の際の一次救命処置の実習を行う。
14	緊急時における初期評価、体位管理と保温、まとめ	緊急時における初期評価、体位管理と保温の実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、検査・測定評価、安全管理と外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｃ

春日井　有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理と外傷・障害予防、救急対応、各種評価、コンディショニング、リコンディショニング（各種エクササイズ含む）の実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできたアスレティックトレーニング分野の知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、プロのアスレティックトレーナー（AT）の指導を受けながら、ATの業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング①陸上競技	陸上トラック競技における動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
2	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング②サッカー	サッカーにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
3	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング③ハンドボール	ハンドボールにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
4	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング④野球	野球における動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
5	スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング⑤ラグビー	ラグビーにおける動作の問題に対するリコンディショニングを見学・実践する。
6	緊急時対応計画の立案・作成および緊急時の状況把握および対象評価と救急対応	各現場ごとに緊急時対応計画を作成する。緊急時の状況把握および対象評価と救急対応を実践する。
7	緊急時の状況把握および対象評価と救急対応および対象者に応じた運搬法	緊急時の状況把握および対象評価と救急対応、さらに運搬法を実践する。
8	実習環境に応じた救急対応①陸上競技トラック	陸上トラック競技における救急対応（模擬）を実践する。
9	実習環境に応じた救急対応②サッカー	サッカーにおける救急対応（模擬）を実践する。
10	実習環境に応じた救急対応③ラグビー	ラグビーにおける救急対応（模擬）を実践する。
11	実習環境に応じた救急対応④その他	ラクロス・バドミントン・テニス・アルティメットにおける救急対応（模擬）を実践する。
12	アンチ・ドーピング教育やドーピングコントロールの実際・ICTの活用	アンチ・ドーピング教育やドーピングコントロールのシミュレーションを実施する。
13	一次救命処置（心停止）	心停止の際の一次救命処置の実習を行う。
14	緊急時における初期評価、体位管理と保温、まとめ	緊急時における初期評価、体位管理と保温の実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、検査・測定評価、安全管理と外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニングの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割. 日本スポーツ協会.2022
2. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防. 日本スポーツ協会.2022
3. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
4. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング. 日本スポーツ協会.2022
5. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応. 日本スポーツ協会.2022
6. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価. 日本スポーツ協会.2022

【参考書】
1. STANLEYHOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行うとともに、面接を課すことがある。
またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜を受けなければ、受講することはできない。評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【学生の意見等からの気づき】
本実習は新カリキュラムの初年度にあたる。

【その他の重要事項】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスを行う。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※スポーツ現場実習Ａ〜Ｄすべてを履修し単位習得したものが「実技確認テスト」を受験することができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation will be based on the efforts in the practical training(50%) and the field training report(50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ現場実習Ｄ

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、態度、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、実際のスポーツ現場およびトレーナールームという実践／臨床場面において、医師やプロのアスレティックトレーナーの指導をうけながら、アスレティックトレーナー業務を実習する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方についてレクチャーをおこなう 現在のスポーツ現場での対応について知識を問う
2	緊急時対応の前半	BLS(CPR・AED)の学習、実践をおこなう
3	緊急時対応の後半	スポーツ現場における救急対応について学習する
4	レクリエーションレベル現場の体験（事前確認）	レクリエーションレベルの現場での流れを確認する
5	レクリエーションレベル現場の体験（傷害予防、治療について）	レクリエーションレベルの傷害予防方法、治療の実際を見学する
6	レクリエーションレベル現場の実地活動	レクリエーションレベルの現場での活動を可能な範囲での実地活動に参加する
7	レクリエーションレベルの現場の実習の振り返り	レクリエーションレベルの現場について実習したことについてディスカッションをおこなう
8	プロレベルもしくはそれに匹敵する現場の体験（事前確認）	プロレベルの現場での流れを体験する
9	プロレベルもしくはそれに匹敵する現場の体験（傷害予防、治療について）	プロレベルの現場での傷害予防方法、治療の実際を見学する
10	プロレベルもしくはそれに匹敵する現場の実地活動	プロレベルの現場の現状について講義をうけて可能な範囲での実地活動に参加する
11	プロレベルもしくはそれに匹敵する現場の実習の振り返り	プロレベルの現場の現状についてディスカッションをおこなう
12	アスレティックトレーナーもしくは健康運動指導士、理学療法士が勤務している医療機関（施設）で見学をおこなう	病院（施設）での評価方法を見学する
13	アスレティックトレーナーもしくは健康運動指導士、理学療法士が勤務している医療機関（施設）での実習と振り返り	病院（施設）で可能な範囲で実習をおこない、病院（施設）での実習についてディスカッションをおこなう
14	総括　プレゼンテーション	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、外傷・障害予防、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　コンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　リコンディショニング
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　救急対応
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　検査・測定と評価

【参考書】
1. STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会，新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
6. 高澤祐治, 小松孝行：スポーツ運動医学, 文光堂, 2025

【成績評価の方法と基準】
※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスをおこなうとともに、面接を課すことがある。またスポーツ現場での実習を別に課しており、授業前に行われる事前ガイダンスに参加し履修者選抜をうけなければ、受講することはできない。
施設での実習は対象者の学生の学修意欲に対するご理解とご厚意により成り立っているものである。従って学生自身が主体的に行動し学修することが大前提であり、十分な学修成果をあげるために自ら積極的に実習に取り組む必要がある。
評価は実習への取り組み（50％）および現場実習報告書（レポート）（50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
（再掲）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたり必修のガイダンスをおこなう。ガイダンスに出ないものは本実習を受講することはできない。
※授業の展開によって、実習先や日程に若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.
【Learning Objectives】 The goal of this practical training is to be able to perform safety management, first aid, evaluation, and various exercises in the sports field, which are the minimum requirements for an athletic trainer.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 The evaluation will be based on the efforts in the practical training (50%) and the field training report (50%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツリハビリテーション実習

安藤　正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、スポーツ傷害の概要を学び、その発生原因や特徴について理解する。さらに、代表的な医学的治療方法および競技復帰までのリハビリテーションの基本的な流れを学び、適切な対応を実施できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の能力を身につけることである。
スポーツ傷害の主な発生要因および病態を説明できる。
スポーツ傷害予防のための留意点を具体的に説明できる。
基本的な応急処置および初期対応を安全に実施できる。
競技復帰までのリハビリテーションの基本的な流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義と実技を組み合わせて実施する。講義では、特に筋骨格系のスポーツ傷害の発生機序、病態、治療方針および競技復帰までのリハビリテーションの理論を学ぶ。
実技では、代表的なスポーツ傷害に対する基本的評価方法、応急処置、テーピング、ならびに段階的リハビリテーションプログラムを実習形式で行う。実技はペアワークやグループワーク形式で実施し、教員の指導およびチェックリストに基づいて技能の到達度を確認する。
必要に応じて、学外施設（トレーニング施設等）において実践的演習を行う場合がある。その際は、実施日程・場所・内容について事前に連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション１	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション２	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション１	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション２	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション１	グローインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション２	グローインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション１	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション２	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション１	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション２	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1〜14回：資料を授業支援システムから印刷し目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、授業に必要な資料を事前に配付する

【参考書】
特に定めず。配布資料に参考文献などを掲載する。

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の基準により総合的に評価する。
① 実技到達度評価（40％）
スポーツ傷害に対する基本的評価・応急処置・リハビリテーション技術について、チェックリストおよびルーブリックに基づき到達度を評価する。
② 筆記試験（40％）
スポーツ傷害の発生機序、病態、治療およびリハビリテーションの理論に関する理解度を評価する。
③ 課題・平常点（20％）
提出課題および授業への取り組み状況をもとに、理解度および考察の深さを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
特に定めず。実習に必要な機器類は大学の備品等を使用する。

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

【Outline (in English)】
Course Outline
This course provides an overview of sports injuries, including their causes, mechanisms, and clinical characteristics. Students will learn fundamental medical treatments and the basic process of rehabilitation leading to safe return to sport.
Learning Objectives
By the end of this course, students will be able to:
Explain the common causes and mechanisms of sports injuries.
Describe appropriate medical treatment and rehabilitation procedures.
Perform basic evaluation and management techniques for sports injuries in a safe and appropriate manner.
Learning Activities Outside of Class
Students are expected to review functional anatomy and related materials before and after each class. Preparation and review should require approximately four hours of independent study per class session.
Grading Criteria / Policy
Final grades will be based on:
Practical skills assessment (40%): Evaluation of students' ability to perform basic assessment and management techniques using a checklist-based rubric.
Written examination (40%): Assessment of knowledge and understanding of sports injuries and rehabilitation.
Assignments and class participation (20%): Evaluation of submitted reports and engagement in class activities.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

体力測定・評価演習

高見　京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：２４年次／2単位
曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康運動やスポーツの指導者にとって不可欠な体力測定の方法とその評価について学ぶことを目的とする。各種体力測定の意義を正しく理解し、実際に測定方法を習得して現場で活用できる実践力を養う。さらに、測定結果を整理・分析し、適切に評価するスキルを身につけることで、指導や運動プログラムの質を向上させる力を育成する。

【到達目標】
・各種測定の目的や方法の意義を理解し、測定に基づいた評価方法を習得する。
・年代や体力レベルなど、対象者に応じた適切な測定・評価方法を選択し、考察する能力を身につける。
・様々な体力レベルを持つ対象者の体力要素の測定方法とその理論を習得する。
・測定後の基本的な統計処理方法を正確に習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、論理的な文章を作成することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義の回は、204教室で実施する。
実習の回は、204教室で当日の実習内容を確認した後、場所を移動して測定を実施する。
なお、4回目は104教室、9回目はフォットネススタジオに、はじめから集合して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(講義1)	体力の測定評価	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順を学ぶ。
2(講義2)	運動能力の測定評価	適正な運動能力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を知る。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価が実施できるようになる。
3(講義3)	身体組成の測定評価	筋肉，骨，脂肪組織といった身体組成の概念，それらの測定方法と限界，測定方法の違いによる結果の差異，測定結果の解釈（データ分析の方法）を正しく習得する.
4(実習1)	身体組成の測定実習	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
5(実習2)	全身パワーの測定実習	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
6(実習3)	敏捷性の測定実習	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
7(講義4)	高齢者の体力測定評価(全身持久力)	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因，低下パターン，低下を抑制する運動トレーニングの意義を理解し，最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）において健康運動指導士として測定補助と測定値の評価ができる.
8(講義5)	身体活動量の測定評価	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動について理解する。
9(実習4)	全身持久力の測定実習	自転車エルゴメータを利用した全身持久力の測定を実施し、身体活動量を測定するための活動量計を装着する。
10(実習5)	身体活動量の測定実習	自身が装着した活動量計の結果をもとに、1日のエネルギー消費量について考察する。また、計算によって1日のエネルギー消費量を推定する。
11(講義6)	フィールドテストの測定評価(子供・中年者)	文部科学省の新体力テスト（子供・中年者）に関する体力測定と評価を理解する。フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、値のあり方について理解し、性・年齢別に5段階または10段階で評価できる。
12(実習6)	フィールドテストの測定実習(中年者)	文部科学省の新体力テストについて理解し、測定と評価を実践する。
13(実習7)	フィールドテストの測定実習(高齢者)	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
14(講義7)	介護予防に関する体力の測定評価	一般の健常高齢者，要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者）を正しく把握する手法を理解する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習時間は、1回につき1時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財)健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財)健康・体力づくり事業財団
これらのテキスト(2冊セット　16,800円税込)は一般の書店(ネット通販も含む)では販売されていませんので、購入方法は初回授業の際に案内します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）
各回の実習レポートまたは復習テスト（40％）

【学生の意見等からの気づき】
測定機器の使い方が難しい測定では説明時間がやや短く、もう少しデモンストレーションがあればよりスムーズに理解できると思いました。との意見があったのでこの点を改善したい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this course is to learn practical methods for measuring and evaluating physical fitness, including strength, endurance, and other key physical functions.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
Understand and apply various physical fitness measurement techniques.
Perform basic statistical analyses of measurement results.
Evaluate fitness functions based on obtained data.
Write clear reports based on evaluations.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected to complete assignments after each class. Study time will be at least one hour per class.
【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on:
Lab reports (40%)
Experimental performance in practical activities (60%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

検査・測定と評価演習

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・演習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：２４年次／２単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスレティックトレーナーに必要な身体の検査測定・評価について、さらに動作の観察・分析の意義と考え方を学んだ上で、必要な内容と正しく実践できる力をみにつけることを目的とする。

【到達目標】
・各種測定の目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考察の方法を理解する。
・エクササイズ・トレーニング効果の分析・フィードバック方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの行う検査・測定と評価に関する内容について授業を行う。講義とともに必要な実習を交えながら、双方向でのやりとりのなかで授業（演習）を進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	検査・測定・評価とは	主にアスレティックトレーナーが行う検査・測定・評価についての概要を理解する。
2	形態の評価	形態の評価に関する意義、姿勢・アライメント評価に関して理解する。
3	関節可動域の評価	関節可動域測定の目的と意義、具体的な方法を理解する。
4	全身関節弛緩性・集計囲の評価	全身関節弛緩性および各部位の集計囲の計測の目的と意義および計測方法について理解する。
5	筋タイトネスの評価	筋タイトネス評価の目的と意義、具体的な方法を理解する。
6	筋力の評価（徒手筋力検査）	徒手筋力検査の目的と意義・具体的な方法を理解する。
7	筋力の評価（等速性筋力測定装置・ウエイトマシーン・フリーウエイト）	等速性筋力測定装置・ウエイトマシーン・フリーウエイトの目的と意義・具体的な方法を理解する。
8	筋パワーの評価	筋パワーについて学ぶとともに筋パワー評価の目的と意義・具体的な方法を理解する。
9	持久力の評価	持久力について目的と意義・具体的な評価方法（生理学的指標・フィールド含む）について理解する。
10	敏捷性の評価・バランス機能の評価	敏捷性・バランス機能の目的と意義・具体的な方法を特にフィールドで行える内容を中心に理解する。
11	一般的な体力測定と心理アセスメント	新体力テスト・運動適正テストについて理解する。現場で用いられることが多い心理アセスメントの評価の意義と内容を理解する。
12	関節不安定検査と整形外科的理学検査	関節不安定性の定義とともにその評価の目的・意義さらに具体的な方法（整形外科的理学検査）を理解する。
13	トレーニング効果の測定と評価	これまでの項目を経時的な変化として評価する具体的な方法について実践例とともに理解する。
14	測定データの活用とデータの活用方法	トレーニング効果の評価を踏まえ、様々なデータをどのように活用していくのか実践例とともに理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６検査・測定と評価. 2022
※授業で必要となる資料は、学習支援システムで配布する。

【参考書】
1.C Starkey,J Ryan 著，中里伸也 監訳，スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック，NAP
2.J. Gross , J. Fetto , E. Rosen 著　石川斉，嶋田智明 監訳，筋骨格系検査法［第2版］，医歯薬出版株式会社，2005
3. 臨床スポーツ医学編集委員会編. スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第2版. 文光堂, 2015

【成績評価の方法と基準】
小テスト50％、期末試験期間中に持ち込み不可の筆記試験50％、計100％で採点する。

【学生の意見等からの気づき】
JSPO-ATの必修科目であるので、しっかりと取り組めている学生が多い印象です。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの必須科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to provide athletic trainers with the ability to correctly practice body measurement and evaluation.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Understand the general concept and structure of physical fitness and physical functions.
2. Acquire the theory and specific measurement and evaluation methods for various physical fitness components.
3. Acquire practical skills to apply the measurement results of various physical fitness components to various situations.
【Learning activities outside of the classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined by an examination at the end of the semester.

CIM300IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300）

運動負荷テスト演習

木下　訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、演習・実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。
④ データを分析して論理的・科学的なレポートが作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
① 演習・実習の性質から少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて演習・実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する授業回がある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 感染症パンデミック下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 またCOVID-19のパンデミックを経て、フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導における感染対策を学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の脈拍の測定を実習する。得られたデータを用いて動脈の機能について考察し、その臨床的意義について学ぶ。
3	バイタルサインの計測（2）	安静時の血圧の測定を実習する。得られたデータを用いて血圧の機能について考察し、その臨床的意義について学ぶ。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準12誘導心電図	標準12誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、標準12誘導との違いを考察、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。得られたデータを分析し、運動時における心血管応答について理解を深める。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。得られたデータを分析し、多段階負荷との違いについて理解を深める。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12誘導心電図を装着し、Bruce法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。得られたデータを分析し、サイクルエルゴメーターとの違いを考察して理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式心肺運動負荷試験を行う。得られたデータからVTを求め、運動処方への活用方法について学習する。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。得られたデータを分析し、サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出。
② 各回の最後に次の授業に行う演習・実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針ー運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）※資料室収蔵
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）※資料室収蔵）

【参考書】
【演習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方ーケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）※資料室収蔵
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』※資料室収蔵
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂4版』（中外医学社）※資料室収蔵
【第2・3回の演習に関する参考書】
・『PWVを知る PWVで診る』（中山書店）※資料室収蔵
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）※資料室収蔵
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）※資料室収蔵
【第4・5回の演習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）※資料室収蔵
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（10%）＋プレゼンテーション（20%）＋ディスカッション（20%）＋レポート（50%）の総合評価とする（カッコ内の数字は目安）。
測定や結果に関する質疑応答の質、ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーションの質などに加えて、レポートを評価して総合評価とする。
【レポートに関して】レポートを課す場合は、測定結果を整理して提示し、これを解析して考察、参考文献を適切に記載して表紙をつけ、次回の講義に提出することを原則とする。レポートごとに評価を行い、得点化したうえで、レポートに関する最終的な評価を算出する。
欠席した場合はその回のプレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどの得点は原則として0点とするので、欠席が多い場合は、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各演習回に合わせて指示する。

なお演習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合る。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の演習は、その後の演習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く演習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学**A**』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、演習・実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。
④ データを分析して論理的・科学的なレポートが作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
① 演習・実習の性質から少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて演習・実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する授業回がある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 感染症パンデミック下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 またCOVID-19のパンデミックを経て、フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導における感染対策を学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の脈拍の測定を実習する。得られたデータを用いて動脈の機能について考察し、その臨床的意義について学ぶ。
3	バイタルサインの計測（2）	安静時の血圧の測定を実習する。得られたデータを用いて血圧の機能について考察し、その臨床的意義について学ぶ。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準12誘導心電図	標準12誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、標準12誘導との違いを考察、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。得られたデータを分析し、運動時における心血管応答について理解を深める。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。得られたデータを分析し、多段階負荷との違いについて理解を深める。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12誘導心電図を装着し、Bruce法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。得られたデータを分析し、サイクルエルゴメーターとの違いを考察して理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式心肺運動負荷試験を行う。得られたデータからVTを求め、運動処方への活用方法について学習する。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。得られたデータを分析し、サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出。
② 各回の最後に次の授業に行う演習・実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）※資料室収蔵
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）※資料室収蔵）

【参考書】
【演習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）※資料室収蔵
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』※資料室収蔵
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂4版』（中外医学社）※資料室収蔵
【第2・3回の演習に関する参考書】
・『PWVを知る PWVで診る』（中山書店）※資料室収蔵
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）※資料室収蔵
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）※資料室収蔵
【第4・5回の演習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）※資料室収蔵
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（10%）＋プレゼンテーション（20%）＋ディスカッション（20%）＋レポート（50%）の総合評価とする（カッコ内の数字は目安）。
測定や結果に関する質疑応答の質、ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーションの質などに加えて、レポートを評価して総合評価とする。
【レポートに関して】レポートを課す場合は、測定結果を整理して提示し、これを解析して考察、参考文献を適切に記載して表紙をつけ、次回の講義に提出することを原則とする。レポートごとに評価を行い、得点化したうえで、レポートに関する最終的な評価を算出する。
欠席した場合はその回のプレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどの得点は原則として0点とするので、欠席が多い場合は、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各演習回に合わせて指示する。

なお演習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合る。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の演習は、その後の演習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く演習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学**A**』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動学実習

安藤　正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、種々の運動や動作、あるいは異なる環境条件下で生体を曝露した際の生体反応を、各種測定機器を用いて体験します。
これにより、運動学・運動生理学・運動解剖学・運動力学的変化を理解し、運動を分析できる力を養います。
さらに、自身のトレーニングや他者への運動処方の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】
グループで課題実習を 実施できる
実習で得られたデータを 整理・処理できる
データの結果を 考察し解釈できる
考察内容を オンラインで報告・提出できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題実習の方法について説明を受け、必要な測定機器や用具を準備する。
小グループに分かれ、各課題を実際に体験し、得られたデータを整理・分析する。
分析結果を基に考察を行い、オンラインで報告（LMSへの提出またはプレゼンテーション形式）する。
教員からコメントやフィードバックを受け、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと模擬授業（ストレッチング方法の検証）	実習課題の概要、進め方を説明する。実習で得られたデーターの処理法や報告の仕方を説明する。模擬授業ではより効果的な大殿筋や上腕二頭筋のストレッチング方法を検証する手順を学ぶ。
2	歩きの分析：時間空間的歩行分析（動作分析の基礎）	ストライド、ピッチ、スピードを測定する方法を知る。
3	走る分析：時間空間的走行分析（早く走る条件を探る）	速度を速めるために最適なストライド、ピッチを探る。
4	動作解析：2次元動作解析アプリを使用して運動学的動作分析（運動中の関節の動き、関節速度を測定する）	歩行、走行、ジャンプ動作などの動作を録画し、アプリを使用して各フェイズの関節角度を測定し動作解析の基本を体験する。
5	効率の分析：移動効率を求め効率的な移動条件を求める。	移動効率を求める。心拍歩行効率を算出し、移動条件間で比較する。
6	姿勢の分析：重錘を使用して姿勢アライメント測定と姿勢観察（からだのゆがみを知る）	立位アライメントの測定し、自分自身に生じている身体のゆがみを知る。また人の姿勢を客観的に評価するトレーニングをする。
7	バランス分析：簡単な測定機器を使用して人の重心とバランスの測定の基礎実習	身体の重心点を求める。また重心動揺計を使用してCOPなどの基本指標でバランス機能を測定してみる。
8	関節の固有感覚受容器の測定（位置覚・運動覚の能力）	関節に固有感覚受容器があることで視覚に頼らなくても自分の手足の位置が把握できる。捻挫や靭帯損傷などの怪我をするとこの機能が低下する。運動覚、位置覚を測定することで関節に備わった固有感覚受容器の能力を確認する。
9	個々の筋力：ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋を測定する実習	ハンドヘルドダイナモメーターや各種筋力計を使用して、筋張力や筋疲労度を測定する。個々の筋力を測定することで度の筋が弱いのかを探る練習をする。
10	重心動揺分析：グラビコーダーを使用して平衡感覚とバランスの測定実習	姿勢や基底面積を変化させることによってより安定した姿勢を作ることができる。これを重心動揺計で実際に確認していく。
11	呼吸機能分析：スパイロメーターを使用して呼吸機能と呼吸筋のトレーニング効果の検証する実習	肺活量など呼吸機能を測定し、横隔膜、腹斜筋群、胸椎などの呼吸関連組織をストレッチやモビライゼーションを加えることで呼吸機能が変化するかどうかを検証する。
12	等速度筋力：バイオデックスを使用して膝関節筋力機能や屈曲伸展比などを測定する実習	等速度筋力測定機器をもちいて種々の角速度で筋力を測定する。
13	筋電図分析：筋電図を使用して各筋の筋活動や収縮の割合を計測する実習	ワイヤレス筋電計DELSYSを使用して筋電図の基礎と応用を実習する。
14	報告書作成	これまでの実習課題結果をもとに報告書を作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1〜14回：授業で使用する資料や配布物に目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は、1単位科目の場合1回につき2時間を標準とします。
授業外では、課題の予習・復習、データ整理・分析、報告作成などを行い、授業での学習内容の定着を図ります。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要な資料を事前に配付する。

【参考書】
運動学実習マニュアル（アイペック）

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）：実習で得られた測定値の整理・報告内容を評価する。
レポート課題点（40％）：各自が選択したテーマについて作成したレポートを提出し、その内容を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：機能解剖学、運動生理学を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
Course Outline / Learning Objectives
Learn to identify and analyze bad and good posture.
Learn to assess and improve flexibility.
Learn to measure and evaluate muscle strength.
Learn to analyze walking and running patterns.
Learn to assess balance and postural control.
Learning activities outside of classroom
Students summarize, interpret, and report the data obtained during class sessions.
Grading Criteria / Policy
Grades will be based on the quality of the reports and presentations submitted by students.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ医科学演習

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学に興味・関心があるものの専門家を目指しているわけではない学生が、スポーツ医学・科学の実際を体験しながら、科学的分析に触れ、論理的思考を鍛える場所とすることが第一の目的である。
その上で、特に専門家を目指す学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場で発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践に必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
① 少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPRなどについて実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、ロコモティブシンドロームに対する測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する場合もある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス スポーツ現場における一次救命処置	①グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。 ②BLSとAEDの使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に、Hands-only CPRの技術を習得する。
2	運動と体温、熱中症	熱疲労の初期治療、熱射病のwhole body coolingなどについて実習する。
3	運動と血液（1） メディカルチェックと血液検査	血液検査（ヘモグロビン、血糖値、CKなど）を行い、スポーツ選手のメディカルチェックに用いられる採血とその項目について学習する。
4	身体組成および骨密度（1） DXA法による測定	体組成評価方法におけるgold standardとしてのDXA法による身体組成および骨密度評価を行う。この授業回では、主として体組成について得られたデータについてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。アスリートにおける体脂肪率の解釈や高齢者のサルコペニアの評価について学習する。
5	運動と血液（2） プレゼンテーションとディスカッション	「運動と血液（1）」の授業で得られた血液データを用いて、プレゼンテーションとディスカッションを行い、スポーツ選手における貧血の診断、運動による各種血液指標の変化などについて学ぶ。
6	身体組成および骨密度（2）	「身体組成および骨密度（1）」で得られたデータのうち、骨密度のデータを利用して、運動と骨の関係について、骨粗鬆症の評価や疲労骨折などについて学ぶ。
7	運動と呼吸・肺機能	運動負荷肺機能検査を行い、アスリートの評価に必要な肺機能（Flow-Volume曲線、最大努力換気量や運動誘発性喘息の評価などについて学習する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCATおよびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	超音波装置について	超音波装置の基礎、臨床応用について学ぶ。
12	筋力測定	求心性、遠心性の筋力測定の実際を通してパフォーマンス向上やリハビリテーションへの理解を深める。
13	物理療法について	物理療法について理論と実際の使用を通して理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
特に指定なし
適時授業内で紹介をする。
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) ※研究室収蔵
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）※資料室収蔵
第1回：
『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020』※資料室収蔵（AHA BLS関連のDVDも資料室にあるので参考にすること）
国際的なハンズオンリーCPRよくある質問（https://international.heart.org/wp-content/uploads/2021/10/FAQ.pdf）
第2回：
木下訓光．熱中症－海外における最近のトピックス－．臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも　https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.htmlより閲覧可能）
第3・5回：
『Newton別冊 からだの検査数値 新装版』※資料室収蔵
第4・6回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（20%）
プレゼンテーション（40%）
ディスカッション（40%）
ただしレポートを課した場合はそれを加味して総合評価とする。
（カッコ内の数字は目安）

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、『スポーツ医学A』の単位取得の有無を考慮し、加えて『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM300IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300）

スポーツ医科学実習

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学に興味・関心があるものの専門家を目指しているわけではない学生が、スポーツ医学・科学の実際を体験しながら、科学的分析に触れ、論理的思考を鍛える場所とすることが第一の目的である。
その上で、特に専門家を目指す学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場で発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践に必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
① 少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPRなどについて実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、ロコモティブシンドロームに対する測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する場合もある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス スポーツ現場における一次救命処置	①グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。 ②BLSとAEDの使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に、Hands-only CPRの技術を習得する。
2	運動と体温、熱中症	熱疲労の初期治療、熱射病のwhole body coolingなどについて実習する。
3	運動と血液（1） メディカルチェックと血液検査	血液検査（ヘモグロビン、血糖値、CKなど）を行い、スポーツ選手のメディカルチェックに用いられる採血とその項目について学習する。
4	身体組成および骨密度（1） DXA法による測定	体組成評価方法におけるgold standardとしてのDXA法による身体組成および骨密度評価を行う。この授業回では、主として体組成について得られたデータについてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。アスリートにおける体脂肪率の解釈や高齢者のサルコペニアの評価について学習する。
5	運動と血液（2） プレゼンテーションとディスカッション	「運動と血液（1）」の授業で得られた血液データを用いて、プレゼンテーションとディスカッションを行い、スポーツ選手における貧血の診断、運動による各種血液指標の変化などについて学ぶ。
6	身体組成および骨密度（2）	「身体組成および骨密度（1）」で得られたデータのうち、骨密度のデータを利用して、運動と骨の関係について、骨粗鬆症の評価や疲労骨折などについて学ぶ。
7	運動と呼吸・肺機能	運動負荷肺機能検査を行い、アスリートの評価に必要な肺機能（Flow-Volume曲線、最大努力換気量や運動誘発性喘息の評価などについて学習する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCATおよびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	超音波装置について	超音波装置の基礎、臨床応用について学ぶ。
12	筋力測定	求心性、遠心性の筋力測定の実際を通してパフォーマンス向上やリハビリテーションへの理解を深める。
13	物理療法について	物理療法について理論と実際の使用を通して理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
特に指定なし
適時授業内で紹介をする。
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) ※研究室収蔵
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）※資料室収蔵
第1回：
『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020』※資料室収蔵（AHA BLS関連のDVDも資料室にあるので参考にすること）
国際的なハンズオンリーCPRよくある質問（https://international.heart.org/wp-content/uploads/2021/10/FAQ.pdf）
第2回：
木下訓光．熱中症－海外における最近のトピックス－．臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（メディカルオンラインより全文閲覧可能）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも　https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.htmlより閲覧可能）
第3・5回：
『Newton別冊 からだの検査数値 新装版』※資料室収蔵
第4・6回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（20%）
プレゼンテーション（40%）
ディスカッション（40%）
ただしレポートを課した場合はそれを加味して総合評価とする。
（カッコ内の数字は目安）

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、『スポーツ医学A』の単位取得の有無を考慮し、加えて『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CLS200IA（外科系臨床医学 / Clinical surgery 200）

整形外科学

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高齢者社会への加速やスポーツ傷害の増加などにより運動器に対する注目は増え続けている。そして運動器領域の傷害予防や治療を学ぶ上で基本となるのは整形外科学である。
本授業では整形外科学の基礎と総論について講義をおこなう。

【到達目標】
１：運動器疾患に関わるにあたって基本的な考え方を理解する
２：運動器疾患に対する診断方法、検査方法、治療方法について理解する
３：スポーツ傷害のみならず高齢者の運動器疾患、全身疾患、慢性疾患などを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドや参考書に沿いながら、整形外科学について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要などを説明する。
2	運動器の基礎（構造など）	運動器の構成組織について学習する。
3	運動器の基礎（神経系など）	疼痛、運動感覚異常などについて学習する。
4	診断総論	診断方法、所見の取り方、各種検査について学習する。
5	治療総論	保存的治療、手術的治療の基礎を学習する。
6	疾患総論（外傷）	外傷の総論について学習する。
7	疾患総論（慢性疾患）	慢性疾患の総論について学習する。
8	疾患総論（感染症）	感染症の総論について学習する。
9	疾患総論（腫瘍）	骨軟部腫瘍の総論について学習する。
10	疾患総論（骨系統疾患）	骨系統性疾患の総論について学習する。
11	疾患総論（先天性疾患）	先天性疾患の総論について学習する。
12	疾患総論（代謝性疾患）	代謝性疾患の総論について学習する。
13	疾患総論（神経・筋疾患）	神経疾患の総論について学習する。
14	総括、単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回テーマについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば骨折とは何か？ など。
・本授業の準備・復習時間は各２時間以上を標準とします。
・各講義の約１週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は
　事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
標準整形外科学（医学書院）
スポーツ運動医学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（90%）
小テスト（10%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The goals of this course are to be able to understand Basics of Orthopaedics.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
－ Understand basic concepts in working with musculoskeletal disorders
－ Understand diagnostic, testing and treatment methods for musculoskeletal disorders
－ Understand sports injuries as well as musculoskeletal, systemic and chronic diseases of the elderly
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%) and mini test (10%).

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

Health and Exercise Sciences

笹澤　吉明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知らずに登録する学生が毎年いるようですので、冒頭にて日本語で伝えます。本授業はすべて英語でおこないます。講義、資料はもとより、受講生が執筆するレポートや発表などもすべて英語です。そのことを理解した上で受講してください。
***
Learn theories related to health and sports science and acquire a broad education in physical exercise and sports culture. Acquire knowledge useful for one's own lifelong health care.

【到達目標】
Students will understand the concept of health, learn about physical fitness, physiological functions of exercise, training, diet, sleep, mental health, alcohol consumption, and smoking necessary to manage health and acquire a healthy lifestyle for life.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Lectures, homework assignments, brainstorming and the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Overview of this course and grading policy.
2	What is Health?	Definition of health by the WHO, etc.
3	What is Physical Fitness?	Components of physical fitness and how to measure them.
4	Physiological Functions of Exercise	Study the functions that control movement (nervous system), express movement (muscles), and maintain movement (respiratory and cardiovascular systems).
5	Physical fitness training	What is Training. Learn the principles of training, aerobic exercise, and resistance training.
6	Sports and Nutrition	Learn about basic nutrients and their relationship to exercise.
7	Physiology of Sleep	Learn about polysomnography, how to measure subjective sleep, and insomnia.
8	Exercise and Sleep	Learn how exercise affects sleep and how sleep affects exercise.
9	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
10	Alcohol intake	Alcohol intake and health and optimal amount of alcohol intake.
11	Smoking	Smoking and health, secondhand smoking, and smoking policy.
12	Energy expenditure	How to estimate energy expenditure using RMR and estimate your own daily energy expenditure.
13	Brainstorming	Brainstorm about healthy lifestyles for students.
14	Final student presentation	Students will have a presentation session regarding an original research article related to human health.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Two hours of preparation and review before and after each class is considered standard. Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】
None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】
Introduce as appropriate.

【成績評価の方法と基準】
40% regular points (participation and contribution in class, discussions, etc.), 30% homework assignment, and 30% final presentation.

【学生の意見等からの気づき】
The course content may be changed according to the students' opinions and level of understanding.

【Outline (in English)】
Learn theories related to health and sports science and acquire a broad education in physical exercise and sports culture. Acquire knowledge useful for one's own lifelong health care.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

Strength training

内田　紘平

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：※グローバルオープン科目として履修する場合の配当年次は2〜4年次

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper warm-up and cool-down techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

【到達目標】
During the semester students will be able to:
1.Identify skeletal muscles and joints used in strength training exercises.
2.Develop knowledge of basic strength training.
3.Create his/her own personal strength training program.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Classes are basically "Gym-style" Class. Class will always meet in the Fitness Studio of the building of Sports and Health Studies. Please dress appropriately to exercise (gym clothes and athletic shoes).
To improve your physical fitness requires regular participation in class activities. Arriving late and leaving class early will affect the participation portion of the grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Strength Training (General Orientation).	Strength Training Technique; Safety and Etiquette. Designing a Strength Training Program, based upon goals.
2	Stretching and Flexibility.	Methods of "warm-up" and dynamic stretching.
3	Body Weight Training and Machine Training	Introduction to Machines. The Bodyweight Challenge.
4	Finalize Individual Routines and Short Review	To complete individual plan of strength training.
5	Free Weight Variations: Overhead pressing	To practice strength training and movement techniques.
6	Free Weight Variations: Horizontal pressing	To practice strength training and movement techniques.
7	Mid-term Review and Measuring Progress 1	To measure the Counter Movement Jump and other physical performances
8	Free Weight Variations: Vertical pulling	To practice strength training and movement techniques.
9	Free Weight Variations: Horizontal pulling	To practice strength training and movement techniques.
10	Free Weight Variations: Squat patterns	To practice strength training and movement techniques.
11	Free Weight Variations: Deadlift patterns	To practice strength training and movement techniques.
12	Free Weight Variations: Power movements	To practice strength training and movement techniques.
13	Cardiovascular Training	To practice circuit training and high intensity interval training.
14	Measuring Progress 2, Final Exam and Feedback	To measure the Counter Movement Jump and other physical performances. Final Exam and Feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Throughout the semester, students will be expected to study two hours outside of class.（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします）

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Evans N. BODYBUILDING Anatomy. Human Kinetics
Contreras B. BODYWEGHT STRENGTH TRAINING Anatomy. Human Kinetics
The National Strength and Conditioning Association. Essentials of Strength Training and Conditioning Fifth Edition. Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】
Attendance, Participation, Attitude, Work Ethic: 80%
Exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
N/A

【その他の重要事項】
1.Students in the faculty of Sports and Health Studies MUST earn the credits of "Functional Anatomy A(機能解剖学)" and "Physical Fitness Measurements and Evaluation(体力測定評価論)" before they resister this class.
2.Students of strength training class must wear athletic attire suitable for strength training, including athletic shoes (walking, running, cross trainers, etc.), shorts or sweats and socks. Students who cannot participate due
to improper clothing will receive a zero on any graded items they miss due to improper attire.

【Outline (in English)】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper warm-up and cool-down techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ安全・健康管理論

泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：月3/Mon.3
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツにおける安全管理の主な目的は、安全な環境の構築、スポーツ選手への安心感の提供、スポーツの価値の保護である。スポーツにおける安全管理は危険のマネジメントだけでなく、スポーツ現場における信頼構築の取り組みも含まれる。スポーツ安全管理はパフォーマンスの向上にもつながり、スポーツ外傷や障害の予防が重要となる。アスレティックトレーナーのコンピテンシーの一つであるスポーツ活動中のスポーツ外傷・障害予防を、スポーツ現場における安全管理の面から学習し理解することが本授業のもう一つの目的である。

【到達目標】
・スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念を理解できる。
・スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるアスレティックトレーナーの役割を理解できる。
・スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種内容と方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーにおける安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防に基づいて行う。授業は講義形式を基本とする。授業内でリアクションペーパーを取ることもあるが、試験期間もしくは授業の最後に試験を行い到達度を測ることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ現場における安全管理とスポーツ外傷・障害の予防	スポーツ現場における安全管理とスポーツ外傷・障害の予防についての意義、その組織と役割、ツールの活用との実際などについて学習する。
2	スポーツ現場における外傷・障害等の実態と各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響	スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態と各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響についてを理解する。
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関連する組織体制	スポーツ医・科学チームにおけるJSPO-ATの役割、組織がもつ力を効果的に発揮するためのポイント、具体的に組織として注意すべき事項について理解する。
4	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を実施するにあたり把握すべき主な情報1 対象者に関する理解	対象者の特性、メディカルチェックによる医学的リスクの把握、フィジカルチェックによる身体的・機能的特徴の把握、トレーニング状況の把握について理解する。
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を実施するにあたり把握すべき主な情報2：環境に関する理解と競技・種目特性の理解	外的危険因子としてのスポーツ環境、競技特性を把握する目的と必要性、競技特性把握にあたっての考え方および留意点、競技特性把握の方法および項目、競技特性把握のためのツール、競技特性の把握におけるJSPO-AT の役割について理解する。
6	健康管理	健康管理システムと JSPO-AT の役割、教育・啓発活動、アンチ・ドーピング、メンタルヘルスについて理解する。
7	スポーツ外傷・障害に対する予防的手段	具体的な予防手段である、装具・防具、ストレッチング、テーピングについて理解する。
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関するデータの理解と活用	フィジカルチェックデータを活用するための基礎知識、身体的特徴に関するデータの活用、身体機能に関するデータの活用について理解する。
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応（用具・防具・設備）	掲題に対して、用具・防具、施設・設備、ウェア、シューズ、サーフェスへの対応を理解する。
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応（競技・種目特性）	掲題に対して、動作特性からみた外傷・障害要因、身体要因への対応、外的負荷による疲労とコンディションへの対応面から理解する。
11	予防・再発予防としての動作の見方1（走動作他）	予防・再発予防としての走動作、跳動作、方向転換動作の見方を学習する。
12	予防・再発予防としての動作の見方2（投球動作他）	予防・再発予防としての投球動作、打撃動作の見方を学習する。
13	予防・再発予防としての動作の見方3（あたり動作他）	予防・再発予防としての泳動作、あたり動作、滑走動作の見方を学習する。
14	まとめ	スポーツ現場における安全管理とスポーツ外傷・障害の予防に関するまとめと試験・フィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト2 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防．日本スポーツ協会，2022

【参考書】
1. 独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 東京. 第1版, 2023
2. 篠田邦彦総監修: ストレングストレーニング&コンディショニング―NSCA決定版, 第4版. ブックハウス・エイチディ. 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内小テスト50％、期末試験50％とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業回ごとに行う小テストと最後の期末試験ともにしっかりとり埋めている印象である。期末試験の形式は変えないが比較的易しい問題が多かったため難易度は再考する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用する。

【その他の重要事項】
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの必須科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to understand sports injury prevention during sports activities and safety management at sports sites.
【Learning Objectives】The goals of this course are threefold: 1. to understand the concepts of sports safety and health management and sports injury prevention; 2. to understand the role of the athletic trainer in sports injury prevention; 3. to understand the various methods for sports safety and health management and sports injury prevention.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Short reports (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動生理学

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】
運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の末梢神経活動の実際	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御するarterial baroreflexについて学習する。
3	運動中の中枢神経活動の実際	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について学習する。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	運動による骨格筋への影響について学習する。
5	運動と骨	各種トレーニングに対する骨の構造、生理機能の変化を学習する。
6	運動と臓器	運動時における臓器の変化について学習する。
7	運動と糖質代謝	運動時における糖質の代謝について学習する。
8	運動とアミノ酸代謝	運動時におけるアミノ酸の代謝について学習する。
9	運動と脂質代謝	運動時における脂質の代謝について学習する。
10	運動と乳酸・核酸代謝	運動時における乳酸や拡散の代謝について学習する。
11	運動と呼吸・循環	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	運動と体温	運動における体温の上昇の影響について学習する。
13	運動生理学の応用	運動生理学のスポーツへの応用について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特に定めず
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。
各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・宮村実春『ニュー運動生理学I、II』　（真興貿易、2015）
・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
・Kenney WL, eta l. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
・McArdle WD, eta l. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams &Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（90%）
小テスト（10％）

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline (in English)】
【Course out line】
We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.
【Learning Objectives】
The goal is to acquire the knowledge necessary to practice physical activity aimed at improving health and training for improving sports performance based on scientific evidence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%) and mini test (10%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ外傷・障害予防論

瀬戸　宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ外傷・障害の予防と現場の安全管理について理解を深める。

【到達目標】
到達目標は具体的な予防プログラムを立案し、適切な介入を行うことで各種要因への対応能力を向上させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドや参考書に沿いながら、スポーツ外傷・障害の予防について基礎的な知識を学習する。必要に応じて視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要などを説明する。骨・筋肉の名称や作用に関する知識を問う
2	スポーツ外傷・障害の疫学調査と事例	スポーツ外傷・障害の疫学調査について基本的な考え方を事例を参考にしながら学習する
3	スポーツ外傷・障害の発生要因	スポーツ外傷・障害において様々な要因が相互に関係して引き起こす過程を学習する
4	スポーツ外傷・障害予防プログラムの立案	スポーツ外傷・障害における予防プログラムの科学的基礎について学習する
5	スポーツ外傷・障害予防プログラムの介入	スポーツ外傷・障害における予防プログラムの実際について総論を学習する
6	スポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応（性別・年齢・感染症）	性差、年齢、感染症とスポーツ外傷・障害の関係や対策について学習する
7	スポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応（環境）	暑熱環境、低温環境、高地環境、時差などとスポーツ外傷・障害の関係や対策について学習する
8	スポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応（用具・防具・競技種目特性）	用具などの外的因子や競技特殊性とスポーツ外傷・障害の関係や対策について学習する
9	重大事故発生に備えた対応（緊急時対応計画）	スポーツ現場におけるEAP（Emergency Action Plan）について学習する
10	重大事故発生に備えた対応（緊急時の対応スキルの習得）	スポーツ現場におけるBLS（Basic Life Support）やその他救急処置について学習する
11	スポーツ外傷・障害予防プログラムの実際（膝外傷）	代表的なスポーツ外傷・障害（膝外傷）における予防プログラムの実際について学習する
12	スポーツ外傷・障害予防プログラムの実際（足関節・足部外傷）	代表的なスポーツ外傷・障害（足関節・足部）における予防プログラムの実際について学習する
13	スポーツ外傷・障害予防プログラムの実際（肉離れ、投球傷害など）	代表的なスポーツ外傷・障害（肉離れ、投球傷害など）における予防プログラムの実際について学習する
14	総括・単位認定試験	総括・単位認定試験 講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第1回：特に定めず
　第2〜14回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト2　日本スポーツ協会
2）スポーツ運動医学　編著 ： 高澤祐治/小松孝行　文光堂
その他適時講義内で指示する

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則70％）
レポート　　（原則30％）
ただし授業内で小テストを課すことがある。
小テストは単位認定試験とレポートの点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this lecture is to build a comprehensive understanding of sports injury prevention and on-site safety management.
【Learning Objectives】
The goal of this lecture is to cultivate the skills needed to design targeted prevention programs and implement evidence-informed interventions across diverse risk factors.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%) and report(30%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

体力測定・評価実習

高見　京太、泉　重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】
・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。
・運動器の機能評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　授業の前半は、体力測定の目的と意義を理解し、その日実施する測定の手順と評価法を確認し、受講者自身が験者または被験者となって、測定をする側だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。
　後半は、全身の各部位の機能評価をできる能力を習得する。さらにそれぞれの運動器の機能評価をカルテに残す能力も磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
3	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
4	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
5	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
6	フィールド(子供、中高年者)における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト(高齢者、介護予防)における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節の評価【担当：泉】	手関節・手部のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
9	肘関節の評価【担当：泉】	肘関節のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
10	肩関節の評価【担当：泉】	肩関節のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
11	足関節の評価【担当：泉】	足関節のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
12	膝関節の評価【担当：泉】	膝関節のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
13	股関節の評価【担当：泉】	股関節のHOPSに基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
14	頸部・腰部の評価【担当：泉】	頸部・腰部のHOPSに基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき1時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、学習支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト(上巻) (財)健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト(下巻) (財)健康・体力づくり事業財団
・日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価
・山本利春，測定と評価，ブックハウスHD
・広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂
・臨床スポーツ医学編集委員会編，スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド第2版，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％），各回の実習レポート（40％）
3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Learn how to measure physical fitness and the theory of subjects with various physical fitness.
-Learn the basic statistical processing method after measurement.
-Consider based on the obtained measurement results and write a sentence.
-Can evaluate the function of the locomotor.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%)

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

レジャー論

谷本　都栄

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金2/Fri.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、レジャーの概念、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、スポーツ、観光、教育、文化、健康福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、将来社会におけるレジャーの方向性を考察する。

【到達目標】
・レジャーの形成過程について、歴史的な背景を含めて理解を深める。
・レジャーの多様性、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
・ワークシートやリアクションペーパーを活用し、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	レジャーの概念	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第3回	遊びの諸理論	「遊び」の諸理論、人間と遊び、遊びを源とする文化の発展について学ぶ。
第4回	レジャーの形成過程	近代以降レジャーが大衆化、多様化した経緯とその社会的背景について学ぶ。
第5回	レジャーの商業化	レジャーが拡大・発展した技術的・社会的・経済的要因と現代レジャーの特徴について学ぶ。
第6回	戦後日本のレジャーの発展	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第7回	日本におけるレジャー動向	日本の社会構造やライフモデルの変化とレジャーの動向について学ぶ。
第8回	レジャーの大衆化と多様化	第7回までの授業内容の総括
第9回	日本人のレジャー行動の特性	各種統計データから、日本人のレジャー行動の特性について学ぶ。
第10回	日本の余暇関連行政	日本の余暇関連行政、レジャー環境に関わる課題について学ぶ。
第11回	ライフスタイルとレジャー行動	世代やライフステージで異なる価値観や志向性とレジャー行動の関係について学ぶ。
第12回	余暇教育とレジャー	余暇教育、生涯学習の視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第13回	スポーツとレジャー	スポーツとまちづくりの視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・レポートは、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・ワークシートおよびリアクションペーパー75％
・期末レポート25％
総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Leisure is an essential, unchanging part of human nature above utility or usefulness. Leisure is associated with behaviours outside of work such as play, sport, recreation, cultural pursuits, social activities and education. This course focus on the role of leisure and recreation in society emphasizing historical processes of development and change, recent phenomena, and leisure behaviours.
【Learning Objectives】
The program has the following objectives.
1.Introduce students to the field of Leisure Studies
2.Provide a basic understanding of the theory and specific issues of leisure
3.Encourage students to engage in a wide variety of leisure organizations and events
【Learning activities outside of classroom】
・Read materials introduced in lecture to deepen your understanding.
・Prepare for each assignment by referring to the procedure explained in lecture.
・The standard time for preparation and review for this class is 4 hour each.
【Grading Criteria /Policy】
・Worksheets and reaction papers 75%
・Report 25%

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツと経済

得田　進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーの提出、講義中に発表をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス、コンプライアンス	ガバナンスおよびコンプライアンスとは何か、それらの必要性を知る。 組織体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを実際の事例を基に理解する。
4	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
5	アカウンタビリティー	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームの公開情報を読み取り、スポーツチームの「いま」を知る。
6	スポーツイベントの経済効果	2026年に開催されるビッグイベントについて、ビジネスの視点から理解する。 経済効果について正しく理解する。
7	スタジアム・アリーナの現状	国内のスタジアム・アリーナの現状を知る。 海外との比較により課題を抽出し、対応策を考える。
8	スタジアム・アリーナの事例	実際のスタジアム・アリーナの開発事例を基に、スタジアム・アリーナ開発の実務を理解する。
9	スポーツマーケティング	マーケティングとは何か、基本知識を知る。 スポーツマーケティングの特徴を理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー、授業態度（発表やグループディスカッションの内容含む）：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生からの要望を基に、講義中は積極的にグループディスカッションや意見発表を求めるようにします

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
・To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツ経済論

得田　進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーの提出、講義中に発表をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス、コンプライアンス	ガバナンスおよびコンプライアンスとは何か、それらの必要性を知る。 組織体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを実際の事例を基に理解する。
4	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
5	アカウンタビリティー	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームの公開情報を読み取り、スポーツチームの「いま」を知る。
6	スポーツイベントの経済効果	2026年に開催されるビッグイベントについて、ビジネスの視点から理解する。 経済効果について正しく理解する。
7	スタジアム・アリーナの現状	国内のスタジアム・アリーナの現状を知る。 海外との比較により課題を抽出し、対応策を考える。
8	スタジアム・アリーナの事例	実際のスタジアム・アリーナの開発事例を基に、スタジアム・アリーナ開発の実務を理解する。
9	スポーツマーケティング	マーケティングとは何か、基本知識を知る。 スポーツマーケティングの特徴を理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツチームの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー、授業態度（発表やグループディスカッションの内容含む）：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生からの要望を基に、講義中は積極的にグループディスカッションや意見発表を求めるようにします

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
・To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
・To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
・To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

MAN100IA（経営学 / Management 100）

地域スポーツ経営論

髙橋　誠

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域スポーツの現状と課題を統計データ・行政計画・総合型地域スポーツクラブの事例などを用いて分析します。クラブ運営に必要な組織づくり、資金計画、事業運営、地域連携などを学び、グループワークを通じて地域スポーツクラブ（総合型を含む）の運営を想定した事業計画書を作成する力を身につけます。

【到達目標】
地域スポーツクラブの事業計画書を作成するために必要な手順と方法を理解し、実際に計画書を作成できる基礎的な力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎時間のテーマに沿って、統計データ・行政計画・総合型地域スポーツクラブの事例などを活用しながら地域スポーツの現状と課題について理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域スポーツとは何か	地域スポーツの役割や地域社会におけるスポーツの多面的な価値について考える。
第2回	地域スポーツの現状と課題	日本のスポーツ政策や地域スポーツが抱える課題と今後について考える。
第3回	地域スポーツクラブの仕組みと運営	総合型地域スポーツクラブの事例を紹介し、経営や運営について考える。
第4回	スポーツイベントと地域活性化	総合型地域スポーツクラブや企業などの社会貢献活動を紹介し、社会貢献の意義について理解を深める。
第5回	マーケティング1	「誰に対してどのような課題を解決するのか」ターゲット層や価値の提案について考える。
第6回	マーケティング2	集客のための方法およびデータ活用と地域メディアについて考える。
第7回	財務の基礎	収支について学び、簡易的な収支計画書を作成する。
第8回	スポンサーシップとファンドレイジング	スタートアップに不可欠な資金調達の考え方を学び、寄付・助成金・スポンサー獲得などのファンドレイジング手法を理解し、これらを踏まえ、地域スポーツクラブに適した資金調達戦略について考える。
第9回	総合型地域スポーツクラブの運営と地域活性化	総合型地域スポーツクラブの運営を見学し、その活動が地域活性化にどのように寄与しているのか実際の活動を見て地域社会における役割について考える。
第10回	危機管理とリスクマネジメント1	安全対策や感染症、災害時の対応など運営に必要と思われる対応について考える。
第11回	危機管理とリスクマネジメント2	参加者・保護者からの要望や問い合わせについて事例をもとに対応について考える。
第12回	地域スポーツと学校の連携	中学校の運動部活動の地域移行の現状と今後、課題について考える。
第13回	事業計画書作成に関して1	事業計画書作成にむけて事業計画書の構成要素について振り返り、考えをまとめる。
第14回	事業計画書作成に関して2	事業計画書に関する質疑や授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の住んでいる自治体のスポーツ振興計画や総合型地域スポーツクラブまたはスポーツ少年団の活動について調べ、自分の考えや疑問をまとめ、授業に参加してください。本授業の準備・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
特に設けないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業内に行う課題レポート（30％）、授業内のプレゼンやディスカッションなど（70％）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ミニレポートやグループディスカッションを取り入れ、学生が自ら考え、理解を深められるように進めていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course analyzes the current state and challenges of community sports by drawing on statistical data, governmental policy plans, and case studies of comprehensive community sports clubs. Students will learn about essential components of club management, including organizational development, financial planning, program operations, and community collaboration. Through group work, they will develop the ability to create a practical business plan for operating a community sports club, including comprehensive models.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the procedures and methods necessary to develop a business plan for a community sports club and to acquire the fundamental skills to create such a plan.
【Learning activities outside of classroom】
Please research the sports promotion plan of your local municipality and theactivities of a community sports club or a local youth sports organization. Summarize your thoughts and questions, and come prepared to participate in class. The standard preparation and review time for each class is four hours.
【Grading Criteria /Policy】
Students will be evaluated based on in class written assignments (30%) and in class presentations and discussions (70%).

MAN100IA（経営学 / Management 100）

スポーツ組織論

得田　進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では、組織の基礎知識を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）に学び、スポーツ組織が実際に行なっている組織運営の実務において最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメントについて明確に理解する。
・組織論の基礎知識を理解する。
・スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーの提出、講義中に発表をしてもらいます。
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	授業の概要説明、授業評価方法の説明。 日本のスポーツ組織の構造を理解する。
2	スポーツ組織とは	スポーツ組織にはどのような組織があるのかを理解する。
3	スポーツ組織におけるリーダーシップとマネジメント	監督・GM・フロントの役割の違いを理解する。 スポーツ組織を動かすリーダー像について考察する。
4	スポーツ組織における人材マネジメント	コーチ、選手、スタッフの採用・育成・評価の仕組みを理解する。
5	プロスポーツクラブの経営戦略と収益モデル	収益源、スポンサーシップなどビジネスモデルを理解する。
6	スポーツ組織の実務	実際のプロスポーツチームおよび中央競技団体の事例を基に、組織の実務を理解する。
7	スポーツ組織の財務分析	クラブの公開情報から経営状態を分析して、クラブの健全性を理解する。
8	スポーツ組織におけるイノベーションとテクノロジー活用	データ分析、AI、ウェアラブルなど、「スポーツ ×IT技術」を理解する。
9	スポーツイベントの組織運営	五輪・W杯など大規模イベントの運営の仕組みとその後の影響を知る。 スポーツとメディアの関係性、放映権ビジネスを学ぶ。
10	スポーツ組織のガバナンスとコンプライアンス	不祥事が起きる構造や、透明性をどう確保するか、実例を基に理解する。
11	スポーツ組織の危機管理とリスクマネジメント	不祥事などへの対応、クラブとしての体制づくりを考察する。
12	地域スポーツクラブとまちづくり	Jリーグの「ホームタウン制」とシャレンを理解する。 スタジアム・アリーナ開発とまちづくりについて考える。
13	スポーツ組織の社会的責任（CSR）とサステナビリティ	環境配慮、地域貢献、社会課題解決に向けた取り組みを理解する。
14	講義まとめ	今までの講義の総括を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界や組織における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、インプットとアウトプットが適切にできているかで評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー、授業態度（発表やグループディスカッションの内容含む）：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生からの要望を基に、講義中は積極的にグループディスカッションや意見発表を求めるようにします

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの組織運営や組織体制強化に実際に携わっている経験を踏まえて、組織で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
社会に存在している組織がどのような運営を行なっているのか、スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn basic knowledge of organizations from various perspectives (management organization theory, human resource management theory, business management theory, management strategy theory, etc.), with the aim of acquiring the minimum necessary professional skills in the actual organizational management practices of sports organizations.
【Learning Objectives】
・To clearly understand management.
・To understand the basic knowledge of organizational theory.
・To understand the theory of effective management of sports organizations.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review the content to see if you understand it.
After attending the class, please review the content by using the related articles and other materials. The standard review time for this class is about 4 hours.
【Grading Criteria/Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツ文化論

梶　孝之

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでスポーツは、人々の文化活動の一つとして発展してきた。本講義は、社会の発展にしたがって日々変化するスポーツ文化の特徴を踏まえ、過去から現在のスポーツ文化の経緯を学ぶ。これらの学びを発展させ、スポーツ文化の在り方を考えることを目的とする。

【到達目標】
　スポーツ文化の発展は、政治や経済とも密接に関わっており、様々な社会問題ともなっている。このような実情を学び、現代社会の中でのスポーツ文化の在り方を考え、自身にとっての答えを導き出すことを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　各回、PowerPoint資料を用いて講義を行う。映像資料が現存している場合には、可能な限り、動画を見ることができるよう配慮する。
　毎回の講義では、当日の講義内容を自分自身でまとめる時間をつくり、加えて、感想及び疑問等のリアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方や本講義の概要を説明する。
2	スポーツと政治	古代・中世で行われていたスポーツイベントの意味等、スポーツと政治の関係性、またスポーツ政策まで言及する。
3	スポーツとジェンダー	近年までのスポーツは、男性を中心としたイメージを深く残してしまっている。ここでは、女性スポーツの発展について学ぶ。
4	学校教育とスポーツ	学校体育として、スポーツが取り入れられた過程、学生スポーツや部活動の文化について学ぶ。
5	プロスポーツの発展	プロスポーツの成立形態ならびに企業スポーツの発展とその課題について学ぶ。
6	地域社会の中のスポーツ	総合型地域スポーツクラブとは何か？ またスポーツを通じた地域活性化の施策について考える。
7	日本のスポーツ文化と海外のスポーツ文化	日本と海外におけるスポーツ文化の成立過程及び発展過程を比較検討してみる。
8	スポーツとマンガ	社会の変化を表象するスポーツマンガに焦点を合わせ、概観する。
9	生涯スポーツのあゆみと障害者スポーツ	『いつでも、どこでも、だれでも、なんでも、いつまでも』という生涯スポーツの理念について学ぶ。
10	スポーツ科学の発展と健康	スポーツ科学の発達、スポーツ用品の発達にともない、重視される健康志向に着目する。
11	スポーツとメディア	新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネットへと進化を遂げるメディアとスポーツの関係性について考える。
12	スポーツと消費文化	スポーツは『商品』として取り扱われるのか。スポーツの商品化の成立と課題について学ぶ。
13	スポーツ文化と社会問題	スポーツの中の社会問題を取り上げ、現代社会の中での望ましいスポーツ文化の在り方を考える。
14	本講義のまとめ	本講義のまとめを行い、尚且つ、講義内での論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマ毎に準備学習を行う。（予習2時間）
講義終了後、当該テーマを深める。（復習2時間）

【テキスト（教科書）】
講義内では、PowerPoint資料を用いる。
講義内では、テキストは使用しない。

【参考書】
講義中に適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」(50％)と「最終講義時間に設定する講義内試験」(50％)の提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義のリアクションペーパーから、受講者の声を聞くことができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義では、PowerPoint資料、映像資料などを使用する。学生の側で準備を必要とする機器はない。

【その他の重要事項】
　受講生は，興味関心のあるスポーツ文化には、特に関心を持ってほしい。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn about the history of sports culture from the past to the present, taking into account the characteristics of sports culture that change daily as society develops.
The development of sports culture is closely related to politics and economics, and it also poses various social problems. The goal is to learn about these realities, think about the nature of sports culture in modern society, and come up with an answer for yourself.
Preparation will be done for each theme of each lesson (2 hour preparation). After the lecture, the topic will be studied in depth (2 hour review).
The assignments assigned for each lecture(50%) and the submission of the in-class examination set during the final lecture time(50%) will be comprehensively evaluated.

SOC200IA（社会学 / Sociology 200）

スポーツ取材論

増島　みどり

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。取材における「5Ｋ」とは何か考える。オリンピックも題材にする。

【到達目標】
授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「五感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話しを聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話しを聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。
6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するために、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスペクト、遠すぎても、近過ぎてもうまくいかない理想の距離感について。
8	新しい取材分野としてのサッカー	９３年、サッカーJリーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると３００人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	ADカードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらう
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえでの取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50％）、授業への取り組み（25％）、レポート（25％）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手
１０年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏
１１年＝サッカーなでしこジャパンW杯優勝メンバー・GK山郷のぞみ選手
１２年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏
１３年＝サッカー「なでしこリーグ」ＩＮＡＣ神戸専属トレーナー＆澤穂希コンディショングトレーナー・山田晃広氏
１４年＝サッカー「なでしこジャパン」狭山ＡＳＧＫ・山郷のぞみ選手
１５年＝陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏
１６年＝リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美選手
１７年＝リオデジャネイロ五輪400Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１８年＝リオデジャネイロ五輪400Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１９年＝９６年アトランタ五輪1600Mリレー5位、日本記録保持者・大森盛一氏
２０年＝プロマラソンランナー・川内優輝選手
２１年＝陸上女子ハンマー投げアテネ五輪出場・室伏由佳氏
２２年＝サッカー日本代表キットマネージャー・麻生英雄氏
２３年＝２０００年シドニー五輪柔道男子81kg金メダリスト瀧本誠氏
２４年＝ＦＩＦＡ（国際サッカー連盟）公式代理人・奥出真士氏
２５年＝２０２５年デフリンピック　サッカー・銀メダリスト　松元卓巳氏

【Outline (in English)】
【Course outline】
We learn the coverage method of sports to be formed on a new custom of the everyday life.
Using a moving image and the interview of sports, We acquire the power of bservation.

【Learning Objectives】
Through the approach to the competition of the top athlete, we can learn philosophy not only a technique, physical strength .
It becomes the hint to live.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to read a newspaper, the Internet article well and are interested in sports and athletes.
Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
【Grading Criteria /Policy】
1 Class attendance（50%）
2 Term-end report(25%)
3 Approach to a class(25%)

POL200IA（政治学 / Politics 200）

スポーツと政治

赤堀　宏幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピックや世界的な競技会などのイベントに見られるように、スポーツと政治の関係は多面的で、切っても切り離せないようになっている。国際的にも世界各国の事情を見ても、スポーツと政治のつながりがなく進んできた例は非常に少なく、政治的に利用されたり利権などに絡んだことやモスクワ五輪への「不参加」など政治的に利用されたことが歴史にも刻まれている。過去のオリンピックや競技会などのイベントの計画から実施までの過程、政策などを通じ、スポーツと政治はどうあるべきかを考察し、視野を広げていく。

【到達目標】
スポーツ政策、スポーツ法、スポーツと外交など多くの国際的な事例、事象を考察しながら、今後の日本のスポーツと政治の関係性、さらには国際的イベントとの関連にも関心を持てるようにする。そのため、多岐にわたる情報収集、分析、対処法、方向性も含めて多種多様な考え方を通じ、実際のスポーツイベント実施や運営に携わる場合に必要ないくつかの事項を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義、小レポート、学期末レポート提出。映像もふまえ、元オリンピック選手、スポーツ政策、スポーツ外交に関わった政治家、日本スポーツ協会で各種競技に携わってきた関係者の話などを通じ、国内外のスポーツイベント、スポーツ政策などの決定までの過程、問題点などをたどり、多角的に考察する時間を設ける。新たな提言などレポートの記述を増やして学習していく。、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要説明、及び全般的なスポーツと政治に関する授業計画説明。
2	外交関係のない国とのスポーツ交流	外交関係のない国でのスポーツイベントに参加したアスリートの事例、国交正常化との関係
3	オリンピックと政治の関係1	オリンピックにおける政治との関係、近代オリンピックにおいて支配化を意図した事例などを考察する
4	オリンピックと政治の関係2	オリンピックを外交関係回復への道にするか、2か国統一チーム結成模索の実例、
5	オリンピックと政治の関係3	オリンピック開催の誘致、選手の参加、不参加への政治的な介入の例
6	オリンピックと政治の関係4	オリンピックの開催、選手育成はどういう理由で始まったか。日本の実状
7	オリンピックと政治の関係5	モスクワオリンピックへの米国などのボイコット（日本も不参加）と現在までの事象
8	オリンピックと政治の関係6	ロサンゼルスオリンピックへのボイコット（ソ連など）と現在までの事象
9	政治と国民のスポーツ活動1	ドイツ分断時、東ドイツ、西ドイツにおける国民のスポーツ活動の目的と方針、状況
10	政治と国民のスポーツ活動2	スポーツとアパルトヘイトとの関係・変遷。オリンピックなどでの実例、状況
11	政治と国民のスポーツ活動3	幻の東京オリンピック、第二次世界大戦後の日本のスポーツ復活まで
12	政治とスポーツ政策1	国民体育大会（現国民スポーツ大会）の発想、開催までと現在まで
13	政治とスポーツ政策2	日本のスポーツ基本法をはじめとするスポーツ振興政策。スポーツくじの成り立ちと現状
14	政治とスポーツ政策3	世界のスポーツに関する禁止令。歴史的なスポーツとレジャーの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞のニュース記事、解説、社説、コラム、書籍のニュースや特集などに目を通し、スポーツと政治に関するテーマについてメモする。オリンピック、スポーツ政策に関する事例、キーワードは逐次、レポートなど記述的小レポートのテーマとして挙がることもある。授業の予習に2時間、復習に2時間を。、

【テキスト（教科書）】
新聞（スポーツ紙含む）、雑誌、書籍からテーマアップしたり、資料として説明、配布する場合もある。

【参考書】
スポーツ関連の書籍、雑誌。特にスポーツと政治、スポーツ政策、オリンピック関連書。授業で推奨書籍を説明する場合も。

【成績評価の方法と基準】
授業内で実施する小レポート４０%、学期末の最終レポート６０%。

【学生の意見等からの気づき】
テーマに沿った資料の配付。

【Outline (in English)】
(Corse outline)lecture and write reports(Learning Objectives)Expand the field of view to learn　the relationship between sports and Politics.Olympic and Politics are insepeparable.Political use the sporting event was in the past.Moscow Olympic games there is non-participation for political reasons.(Learning activities outside of classroom)Get into the habit of reading books newspapers and magazines.Especially,read Olympics and SportsPoliciys.Prepare for lessons 2hours and review 2hours.(Grading Creteria/Policiy)Short-report:40% termend-repprt:60%

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツマーケティング論

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】
スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。
本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけではなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこない、プロジェクターを使用します。
本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケターの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際（国内の事例）	国内のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際（国外の事例）	国外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年

【参考書】
特に設けない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(60%)および授業内レポート(40%)の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline (in English)】
(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments.（Learning Objectives）This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport management.（Learning activities outside of classroom）Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、Short reports : 40%.

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツメディア論

片上　千恵

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの進化はスポーツ中継の進化と言われるほど、スポーツはメディア、とりわけテレビ技術の発展とともに繁栄してきた。衛星放送が可能になったことで、世界中のスポーツ競技がリアルタイムに視聴できるようになり、競技レベルの高度化やファン層の拡大に大きく貢献してきた。一方で、テレビ視聴に適したルール変更が行われるなど、スポーツはメディアの影響を受けながらその姿を変えてきた。近年では、スポーツ競技やリーグ自体がオウンドメディアを所有するようになり、メディアとスポーツの関係は時代とともに変化し続けている。
本講義では、スポーツとメディアの変遷を辿り、メディアがスポーツに与えてきた影響と、今後の関係性について考察する。さらに、SNSの出現以降、アスリートは従来のメディアを介さずに自ら情報発信を行うことが可能となった。本講義では、スポーツの価値を高める情報発信を支援する「メディアトレーニング」についても学ぶ。

【到達目標】
・スポーツとメディアの関係性を歴史的、社会的な視点から理解できる。
・スポーツにおけるメディアトレーニングの機能を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを活用した講義形式。毎授業の冒頭に、履修者からスポーツに関するトピックを提供してもらいディスカッションする時間を設ける。学期後半ではグループに分かれ、模擬記者会見を通してメディアトレーニングを実践的に学ぶ。中間テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアスポーツとは何か？
2	活字メディア（雑誌・新聞）	メディアの成り立ちと宗教の関係。グーテンベルグによる印刷革命から新聞・雑誌メディアが誕生する過程でスポーツはどのように扱われてきたか。
3	ラジオ①	電波メディアの誕生。1920年アメリカのKDKAにおける世界最初のラジオ放送とスポーツ中継の始まり。ラジオが生んだ日本独自のスポーツ文化であるラジオ体操と高校野球について考える。
4	ラジオ②	ラジオが伝えたオリンピックについて。「実感放送」やオリンピックが生んだスポーツ実況スタイルを事例に時代ごとにメディア技術の発達とスポーツが社会に与えた影響について考える。
5	映画	1936年ナチス政権下で行われたベルリンオリンピックで製作された記録映画はプロパガンダの様相を帯びているとされる。その他にも社会の常識やルールに変革をもたらしたスポーツ映画を題材にスポーツの歴史を振り返る。
6	テレビ	戦後の経済発展とともにテレビはスポーツを大衆化した。「メディアスポーツ」の概念を理解し、「メディアイベント」としての箱根駅伝や高校野球を例にスポーツとメディアの関係を考察する。
7	ニューメディア①	SNSをはじめとするインターネットメディアの出現により、情報発信の仕方が大きく変化した。スポーツ取材現場の変化とともにインターネットメディアの功罪を考える。
8	ニューメディア②	テクノロジーの進化に伴い、従来のメディア企業はビジネスモデルの変革時期に直面している。特にスポーツエンターテインメントの分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）がもたらす変化は目覚ましい。スポーツ界におけるDX化事例から未来のスポーツとメディアの関係について考える。
9	放映権	放映権の高騰はスポーツのルールにまで影響を及ぼした。オリンピックとサッカーW杯を事例に放映権ビジネスについて学ぶ。
10	中間テスト	これまでの授業のまとめ
11	メディアトレーニング	スポーツにおけるメディアトレーニングとは何か？ 日本や世界における歴史と現状を把握し、その機能を理解する。
12	危機管理対応	スポーツを取り囲む様々なリスクを整理し、過去の様々な事例から、状況に応じたリスクマネジメントとメディア対応を考える。
13	模擬記者会見 ゲスト招聘（PRコンサルタント）	スポーツ組織における不祥事案件を想定した模擬記者会見を実施。グループに分かれて適切な対応を議論し、想定問答の作成から記者会見の対応までを体験する。
14	総括	模擬記者会見の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（30％）、授業内発表（20％）、期末テスト(50％)の評価から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
好評だった模擬記者会見において、入念に事前準備ができるよう資料を充実させ、学生がリアリティを持ってより多くの学びを得られるような仕様にブラッシュアップさせる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will track the evolution of sports and media, examine the impact of media on sports, and consider future relationships. We will also learn about media training to support information dissemination that enhances the value of sports.
【Learning Objectives】
The goals of this course are:
A) To understand the relationship between sports and media from historical and societal perspectives.
B) To be able to explain the function of media training in sports.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Midterm exam (50%), in-class reports (20%), and in-class presentations (30%).

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツ行政論

川崎　登志喜

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1.国・都道府県・市区町村の3つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2.身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】
1.スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2.地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3.諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。
授業形態については対面。
グループまたは個人によるプレゼンテーションがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
2	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の組織と役割について理解できる
3	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
4	スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画	スポーツ振興法の役割と課題について理解する。 スポーツ振興基本計画の役割と課題について理解する。
5	スポーツ立国戦略	スポーツ立国戦略についてその役割とその評価について理解する。
6	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	スポーツ基本法について理解する。 スポーツ基本計画について理解する。
7	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
8	都道府県のスポーツ推進計画と課題	都道府県のスポーツ推進計画についてグループ発表
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
10	市区町村のスポーツ推進計画と課題	市区町村のスポーツ推進計画についてグループ発表
11	スポーツ予算と財源	スポーツ振興の財源について理解する
12	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する
13	諸外国のスポーツ行政	欧米のスポーツ行政を中心に、諸外国からみた我が国のスポーツ行政の特徴を理解する
14	まとめ	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】
小笠原正ほか「スポーツ六法」2011
日本スポーツ法学会編「詳解　スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】
(1)出席確認：毎時間確認する
(2)試験方法：レポート2編　80%
(3)評価基準：平常点（小レポート・プレゼンテーション・学習態度を含む）20%
（2／3以上の出席が必要）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this lecture, we will learn the basics of sports administration from the national level to the municipal level, as well as touch on sports administration in other countries.
（Learning Objectives）
1. It can explain the mechanism and policies of sports administration at three levels, national, prefecture, municipality.
2. It is possible to think about the problem and sports business on sports from the perspective of sports administration.
（Learning activities outside of classroom）
It is necessary to contact the local government when creating the report.
（Grading Criteria /Policy）
1.Attendance confirmation: Confirm every class
2.Test method: 2 reports 80%
3.Evaluation criteria: Normal score (including short report, presentation, learning attitude) 20%
(2/3 or more attendance required)

MAN300IA（経営学 / Management 300）

スポーツ消費者行動論

吉田　政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業において、受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者と良好で持続的な関係性を形成する方法について理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
(2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
(5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章や参考資料を読んで授業に出席する。授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。アクティブラーニングとなるよう、学期を通じて様々なアンケートに回答し、授業内で分析結果について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	消費と消費社会	消費という活動は人々の社会階級、習慣、そして時代の流行を反映している。初回の授業では現代社会を特徴づける消費社会とそこでの消費という行動について理解を深める。
2回	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義、類型、特性および意思決定過程について学ぶ。
3回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
4回	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
5回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（認知と魅力の段階）	スポーツ観戦者の意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルの中でも、特に認知と魅力の段階について学ぶ。
6回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル（愛着と忠誠の段階）	心理的連続モデルの愛着と忠誠の段階について学ぶ。
7回	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
8回	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
9回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考えるとともに、ロイヤルティとブランド価値の関係性について理解する。
10回	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
11回	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。
12回	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアやｅクチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。
13回	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
14回	スポーツ消費者行動のまとめ	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性と今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は教科書（よくわかるスポーツマーケティング，ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房．2,640円

【参考書】
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第7版）．杏林書院：東京．2,750円

【成績評価の方法と基準】
レポート1（心理的連続モデルの診断）：10点
レポート2（スポーツ消費者の社会的アイデンティティの診断）：10点
レポート3（ブランドエクスペリエンスの診断）：10点
小テスト：20点
期末テスト：50点
合計：100点
【レポートの評価基準】
10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問についてフィードバックを行い、授業内で議論したいと思います。スポーツ界の事例をできるだけ多く紹介し、分かりやすい授業となるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】
教科書に沿って授業を行います。2週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, students will learn the basic principles of sport consumer behavior at the undergraduate level. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong and enduring relationships with sport consumers.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on three short reports (30%), short exam (20%), and final exam (50%).

LAW200IA（法学 / law 200）

スポーツ法学 II

渡邉　健太郎

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木1/Thu.1
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代においてスポーツに対する関心は非常に高まっており、スポーツに関する話題は常に報道で取り上げられ、その社会的栄養力は非常に高い。
これに伴い、スポーツに関連する様々な問題も生じており、これを法的な側面から分析し解決していくためには、法的な知識の理解はもちろん、スポーツ特有の制度等、幅広い知識を習得しておく必要がある。
本授業では、現実にスポーツ界で起きている様々な事象を題材としながら、背景にある法制度や関係する法律知識を理解し、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力の習得を目的とする。

【到達目標】
スポーツ界で起きている様々な出来事を通して、背景にある法制度や法的視点を習得することができる。
スポーツにおいて特徴的な裁判やスポーツ仲裁等の紛争事例を学ぶことで、将来スポーツ団体やスポーツ指導者といったスポーツの世界で活動するために必要な法的思考力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中は受講生との間で質疑応答を行う形を積極的に取り入れる双方向型の授業を実施する形で進めていく。
できる限り、各テーマに関係する具体的な事例を紹介しながら解説を行う予定である。
また、毎回の授業において、前回授業以降に起きたスポーツ界の話題について、法的問題や解決策、検討事項などを発表してもらうことや、リアクションペーパーの提出も予定している（詳細は授業にて説明する）。
なお、時事問題の発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・スポーツ法の体系	本授業の位置付けや意義、授業の進め方、参考テキスト、成績評価の方法についての説明する。また、スポーツ法を理解する上で必要な基礎知識やスポーツに関する法律について解説する。
第2回	スポーツと人権①（スポーツ権とは、性別、人種）	スポーツ基本法に定めるスポーツ権の内容や、スポーツをするうえで発生する性別上の問題、人種差別等の問題について検討する。
第3回	スポーツと人権②（子どもの権利、障がい者の権利）	スポーツをする子どもや障がい者の権利やその保護について、具体的な法律やルール上の制限等をふまえて解説する。
第4回	アスリートに対する新たな権利侵害（SNSにおける誹謗中傷、盗撮など）	インターネットの普及に伴い、アスリートに対して新たに発生している権利侵害の問題点（主に、誹謗中傷や盗撮）やその解決策について検討する
第5回	スポーツ事故と責任	スポーツ事故における学校（指導者）・選手・主催者等の法的責任（注意義務・安全配慮義務）について、実際の裁判例等を通して検討する。
第6回	代表選考を巡る問題	代表選考を巡る問題の所在、代表選考のあるべき姿とは、実際に起きた紛争事例にも触れながら検討を行う。
第7回	スポーツ団体のガバナンス	ガバナンスとは何か、また競技団体のガバナンスの意義や重要性について、具体的な不祥事事案等を通して検討する。
第8回	スポーツ選手の法的地位	スポーツ選手（プロ・アマ）が法的にどのような地位にあるのか、選手の移籍等に関する法的問題等を、実際の事例に触れながら理解を深める。
第9回	スポーツと契約	アスリートの選手契約、スポンサー契約、スポーツ会員契約、スポーツ観戦契約などを取り上げ、契約の仕組みや内容について検討する。
第10回	スポーツと知的財産	スポーツ選手の肖像権やパブリシティ権、スポーツ映像に関する権利関係等、一般的な知的財産との関係もふまえて、法制度の理解を深める。
第11回	スポーツのインテグリティ①（アンチ・ドーピング、八百長等）	アンチ・ドーピングに関する基本的なルールとその課題を理解し、紛争事例の検討を行う。 また、八百長の問題点、無気力試合との違いなどの検討を通じて問題の本質について考える。
第12回	スポーツのインテグリティ②（暴力・ハラスメント）	スポーツ界における暴力・ハラスメントの問題点やスポーツ界における暴力等の根絶に向けた活動、今後どのようにすれば暴力・ハラスメントをなくすことができるのかを検討する。
第13回	スポーツ紛争と解決手段	スポーツ紛争が一般的な法的紛争と異なりスポーツ仲裁という制度を必要としている点や、スポーツ紛争の解決にあたって求められること等を、具体的な事案を通じて理解を深める。
第14回	まとめと授業内テスト	すべての配布資料、参考文献の持込みを可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、４時間を標準とします。
【準備学習】
１週間に起きたスポーツに関する報道等を確認し、その法的な問題点等をあらかじめ検討しておく（授業中に発表を求めることがある。）。
また、事前に次回の授業計画に対応する事例を提示した場合には、あらかじめ当該事例に関するリサーチを行う必要がある。
【復習】
事前検討事項を中心に授業で学んだことを整理する。必要に応じて課題を課すことがあるので、調査・検討を行う。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、必要に応じてパワーポイントなど資料を配布する。

【参考書】
「標準テキスト：スポーツ法学（第3版）」日本スポーツ法学会監修（エイデル研究所）
「スポーツの法律相談」青林書院
「スポーツ法への招待」道垣内正人　他（ミネルヴァ書房）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正　他（不磨書房）
「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
その他、随時、参考になるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験　　：７０％
中間レポート　：１０％
毎回の授業における取組み（スポーツニュースの発表、リアクションペーパーの提出）：２０％
とする予定である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的にはパワーポイントや配布資料を用いて講義を進行する予定である。

【その他の重要事項】
本科目は、新しい法改正や制度改正が行われたリ、スポーツに関するホットなトピックの発生した場合には、講義内容や順序を変更することがある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Interest in sports is growing rapidly these days, with sports-related topics constantly featured in the media and a significant social impact. As a result, a variety of sports-related issues have arisen, and in order to analyze and resolve these from a legal perspective, it is necessary to not only understand legal knowledge, but also acquire a wide range of knowledge, including systems specific to sports.
In this class, from the various cases in the fields of sports, to understand the legal system and knowledge, and to learn the ability of
legal thinking and management which is necessary as a person who will engage in the fields of sports in the future.
（Learning Objectives）
The goals of this course are as follows;
- You will be able to learn about the legal systems and legal perspectives through various events occurring in the world of sports.
- You will be able to acquire the legal thinking skills necessary for future careers in the sports world, such as working for sports organizations or as sports instructors by learning about sports-related lawsuits and dispute cases such as sports arbitration.

（Learning activities outside of classroom）
Before/After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours.
- Pre Lesson Study
Check sports-related articles and consider them from a legal perspective. Consider the topics and issues to be examined.
It is necessary to conduct research on the case study in advance if a case study is presented in advance that corresponds to the next lesson plan,.
- Review
Organize what you have learned in class in your own way.
You may be given assignments, conduct research and examination.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation is based on;
1) class participation, such as the status of presentation of sports news, submission of reaction papers : 20%
2) Mid-term report : 10%
3) Term-end examination : 70%

SOC300IA（社会学 / Sociology 300）

スポーツジャーナリズム論（新聞）

片上　千恵

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞メディアにおけるスポーツ事象の描かれ方とその記事（テキストや写真）が読者・視聴者にどのような印象を与え、社会にどのような影響を及ぼしたかを客観的に分析することで、自分なりのイズム（主義）を持ち、それを表現できることを目的とする。

【到達目標】
・スポーツを多角的に観察し、その背景を正しく理解し、本質を見極める力をつける。
・メディアリテラシーに基づく判断力・表現力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎授業掲げるトピックに関するニュース分析とディスカッション。またプロのライター、カメラマンをゲストスピーカーに招聘し、スポーツライティングやフォトジャーナリズムについて学ぶ機会を提供する。授業での学びの集大成として、プロスポーツチームの公式戦において学外授業（試合観戦と取材活動）を行い、そこでの体験もとに記事を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。ジャーナリズムとは何か？ スポーツジャーナリズムの歴史から読み解く。
2	スポーツジャーナリズムの自由と責任	スポーツジャーナリズムの「自由」とは何か。メディアの法制度について理解する。
3	スポーツとナショナリズム	オリンピック・パラリンピックの新聞報道から「国民」を考える
4	スポーツとLGBT＋	スポーツ界における多様性の理解と対策の現状を新聞紙面によるキャンペーンや報道から考える。
5	スポーツ界における不祥事	野球界、角界の賭博問題やドーピングなどの事例とともにガバナンスを考える。
6	外部講師：スポーツライター	スポーツ取材からライティングのノウハウまでを学ぶ。
7	スポーツとジェンダー	新聞報道における女性アスリートの描かれ方とその変遷からジェンダーギャップについて考える。
8	スポーツとハラスメント	体罰、上下関係、性的、あらゆるハラスメントをスポーツインテグリティの視点から考える。
9	外部講師：報道カメラマン	フォト・ジャーナリズムを学ぶ。報道写真が語り伝えてきたものとは何か。スポーツシーンにおける撮影技術も伺う。
10	学外授業の準備①	対象競技の解説：興味と課題を見つける
11	学外授業の準備②	取材の仕方。グループに分かれて取材に関する資料収集を行う。
12	スポーツ現場での取材（学外授業）	プロスポーツの試合会場におけるメディアの仕事を学び、実際に取材を経験する。
13	作成記事の発表①	学外授業で経験した取材から記事を作成し、発表を行う。
14	作成記事の発表②	学外授業で経験した取材から記事を作成し、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（20％）、授業内発表(30％)、作成記事（50％）の評価から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
好評だったスポーツ現場での学外授業をより充実したものにするため、グループワークによる事前準備の時間を増やす。

【その他の重要事項】
日々のスポーツ報道に関心を持って目を通すこと。
※毎回、担当者による課題発表があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The objective of this course is to enable students to develop their own perspectives (or "isms") and express them by objectively analyzing how sports events are portrayed in the media, including both text and images, and examining the impressions they create on readers or viewers, as well as the societal impacts they generate. Through this analysis, students will gain insight into how media representation of sports phenomena influences public perceptions and societal dynamics, thereby fostering the ability to articulate their own ideologies.
【Learning Objectives】
The goals of this course are:
A) To develop the ability to observe sports from various perspectives, accurately understand their background, and discern their essence.
B) To enhance judgment and expressive skills based on media literacy.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy)】
Classroom participation (20%), in-class reports and assignments (30%), and
Creating an article (50%).

SOC300IA（社会学 / Sociology 300）

スポーツジャーナリズム論（放送）

加茂　明

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「大学に入って一番面白い授業だった」「今後の生き方に大きく影響した」（2025年12月アンケートより）と評価される、秋学期限定の短期集中型授業です。イラストや動画を取り入れながら、受講生一人ひとりが集中して考える時間を大切にします。毎回のレポートを通して、AIの答えを鵜呑みにせず、自分の考えを整理し、言葉にする力を養います。
大勢の前で突然意見を求めることはありませんので、安心して講義に集中してください。
静かな学習環境を維持するため、私語が見られる場合には授業を中断することがあります。本講義は、集中して受講する意思のある学生の参加を前提としています。

【到達目標】
AI時代に必要なのは、AIに任せることと人間にしかできないことを切り分けることです。最終的な判断は常に人間の役割であり、AIの答えをそのまま信じない力こそが、これからの学力であると捉えます。正解のない問題について多様な視点から考え、「自分はどう考えるか」を言葉とプレゼンで示す力の育成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
全編に字幕を付けた講義形式で、内容理解に追われることなく、思考に集中できる環境を整えています。授業時間内に自分の意見をレポートとしてまとめることを重視します。
毎回、舞台公演を観ているような臨場感のある講義を通して、講師自身の失敗経験を現代社会の文脈と照らし合わせながら検証し、「信頼関係の築き方」や「心の整え方」について自分自身の財産として捉えることを目指します。自己評価の低い学生も置き去りにせず、一人ひとりに寄り添いながら、段階的に自信を育てていく授業です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	AIの答えを鵜呑みにしない〜自分の意見の作り方	本授業は、「自分の意見をどのように作るか」という点から始まる。正解のない問題にどのように向き合うかを、受講者とともに考えていく。成績評価は、出席およびレポートを重視し、欠席や遅刻は評価に影響する。授業初回には、受講者理解を目的としたアンケートを実施する。最終的な目標は、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力を身につけることである。
2	スポーツの力とメディアの影響力〜大谷翔平と幸せな国	少子高齢化が進む日本社会において、多くの人に勇気や希望を与えるスポーツの力は、ますます大きな意味を持つようになっています。本講義では、野球という競技そのものを更新し続ける 大谷翔平 と、世界で最もスポーツに親しんでいる国の一つである フィンランド を取り上げながら、スポーツの持つ力と、それを伝えるメディアの在り方について考えます。
3	新しい価値観と教訓〜クリティカル・シンキング	パリ五輪からロサンゼルス五輪に向けて、アスリートたちが示してきた新しい価値観や、さまざまな意思決定を確認する。あわせて、「なぜあの人は炎上したのか？」という事例を手がかりに、教訓に満ちた数々のトラブルを分析し、身につければ大きな武器となるクリティカル・シンキングの考え方を学ぶ。
4	メディアの条件〜リスペクトと信頼	講師自身の衝撃的な失敗経験を、現代のメディア環境に照らし合わせて検証する。そのうえで、相互尊敬・相互信頼に基づく共感的な態度がいかに重要であるかを明らかにし、「信頼関係の築き方」や「トラブルの対処法」について、受講者とともに考える。
5	グッドコーチの条件〜サーバントリーダーシップ	「選手自身が自らの成長に目を向けられるよう寄り添うコーチ」がいる一方で、「選手に気づきを与えず、威圧的に指導するコーチ」も存在する。本講義では、根拠なき精神論が残るハラスメントの問題や競技人口の減少を踏まえ、傾聴と共感を重視するサーバントリーダーシップの考え方に着目し、これからの指導や人との関わり方について考える。
6	メンタルマネジメント〜嫌われる勇気	就職活動や社会に出ていく過程において、メンタルヘルスは重要な課題の一つである。本講義では、レジリエンス（心の弾力性・回復力）をどのように身につけるかを、「嫌われる勇気」や「ありのままを受け止める柔らかさ」という視点から考える。心に残るアスリートやコーチの言葉を手がかりに、日常生活を穏やかに送るための考え方や、困難への向き合い方を学ぶ。
7	インタビューの実践〜沈黙の金メダリスト	言葉を発するまでに時間を要する人がいることを前提に、「待つこと」の意味と価値について考える。沈黙の後に発せられ、今なお語り継がれている金メダリストの言葉を手がかりに、人の言葉を引き出すために必要な姿勢とは何かを考察する。
8	ドキュメンタリー番組の視点〜ロッカールームの真実	若者から高い支持を集めるドキュメンタリー番組を題材に、「知りたいこと」に応えつつ、伝えたいこと」に思いを込める企画意図とは何かを考える。講師が NHKスペシャルやクローズアップ現代 の制作に携わってきた経験をもとに、出来事の裏側にある文脈や人の思いをどう切り取るのかという、ジャーナリストに求められる「視点」にスポットを当てる。
9	ネット時代の生き方〜情報過多から自分を守る	「でっち上げ」や「誹謗中傷」によって、個人の生活や人生が大きく損なわれる事例が相次いでいる。この回では、誤情報がどのように拡散し、どのような影響を及ぼすのかを確認したうえで、情報が過剰にあふれる社会の中で自分を守るために必要な、ネットとメディアのリテラシーについて考える。
10	スポーツとAI〜ロボット審判と厚底靴	MLB では、今季オープン戦からロボット審判を導入、テクノロジーの進化が競技の在り方に大きな変化をもたらしている。こうした事例を通じて、スポーツの現場における AI と人間の関係について考える。あわせて、長距離・短距離の両分野で急速に普及する厚底シューズに注目し、ナイキ 一強の時代から、アディダス や アシックス がシェアを伸ばす「戦国時代」へと移行する箱根駅伝に焦点をあてる。
11	Z世代をどう生きるか〜α世代の足音が迫る	「α世代の足音」とは、努力やまじめさだけでは測れない時代が、すでに始まっていることを示す合図である。ハラスメントの温床になると指摘されてきた厳しい指導が影を潜める一方で、若い世代が自らを律し、判断しなければならない局面は、確実に増えている。こうした環境変化を踏まえ、Z世代にとって「酷な時代」とも言える現代を、どのような姿勢で生きていくのか、そのヒントを探る。
12	プレゼンテーション ― 伸びたコミュニケーション力を実感する①	これまでの授業を通して培ってきたコミュニケーション力を、プレゼンテーションという形で確かめる回とする。「できた」という実感を得ることで、自信につなげることを目的とする。発表は立候補制とし、無理に前に出ることは求めない。

13	プレゼンテーション ― 伸びたコミュニケーション力を実感する②	聞き手は、たとえ自分とは異なる価値観であっても受け止め、視野を広げる姿勢を大切にする。発表者と聞き手がともに関わり合い、みんなで学びを創る時間を目指す。
14	試験	試験は、レポート形式で実施する。授業資料、ノート、スマートフォン等の参照は不可とし、講義を通じて身につけた考え方や視点を、自分の言葉で整理し、表現する力を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●準備として、毎回、シラバスに示しているメインテーマについて、２時間程度、自分の考えを整理して臨んでください
●復習として、毎回、全てのレポートの中から、印象に残ったレポートとその理由をメールでお知らせするので、２時間程度、自分の書いたレポートと比べてみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わず、放送やYouTube、新聞や雑誌、などの素材を随時使用します。

【参考書】
参考書などは、授業内で適宜お伝えします。

【成績評価の方法と基準】
◎出席とレポートを重視し、毎回、採点します。（６０％）
◎プレゼンテーション参加者を加点します。（１０％）
◎最後の試験で、加点します。（３０％）
(採点基準)
●毎回、授業の最後に一定の時間を設け、その日のテーマに基づいた短いレポートを提出してもらいます。評価基準は、テーマの理解度や多様な視点、自分の考え方を示しているかどうかなどです。(5点満点で採点×11回=55点＋5点＝６０点)
●12回目と13回目の授業で立候補制でプレゼンテーションを実施します。(参加すれば10点)（参加しない人は3点満点で採点）
●最終週に授業内試験として、講義を通じて身につけた考え方や視点を、自分の言葉で整理し、表現する力を問う。

【学生の意見等からの気づき】
●「大学に入って一番面白かった」と評価される授業をブラッシュアップします。
●「自分の意見が持てるようになった」授業内レポートを充実させます。
●「やればできるんだと自信をつかんだ」プレゼンへの参加を後押しします。
●「静かな中で授業に集中する素晴らしさを知った」環境を維持・継続していきます。

【その他の重要事項】
●３年間、採用面接官をつとめた経験を活かして就活について適宜アドバイス。学生と向き合いながら授業を進めていきます。
●受講者一人ひとりが集中し考え続けることを大切にしているため、学習環境を守る観点から、私語等が見られる場合には授業の進行を一時中断することがあります。
●度重なる遅刻や欠席はマイナス評価にします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This short, intensive course, offered only in the fall semester, has been praised as “the most interesting class I’ve taken since entering university” and “a class that had a major impact on my future life” (December 2025 student survey).
Using illustrations and videos, the course emphasizes the time each student spends concentrating and thinking deeply. Through reports submitted in each class, students are encouraged to organize their own thoughts and develop the ability to express them in words, rather than simply accepting answers generated by AI.
Students will not be asked to share their opinions suddenly in front of a large group, allowing them to focus fully on the lecture.
To maintain a quiet learning environment, the class may be temporarily suspended if private conversations are observed. This course is intended for students who are willing to concentrate and think seriously.
【Learning Objectives】
In the age of AI, it is essential to distinguish between what can be delegated to AI and what only humans can do. While AI can generate answers, the final judgment must always be made by humans. We believe that the ability to question AI’s answers rather than accept them uncritically will be a key academic skill of the future.
This course aims to develop the ability to think about problems that have no single correct answer from multiple perspectives, and to express one’s own ideas clearly through writing and presentations.
【Learning Activities Outside the Classroom】
Preparation:
Before each class, students should spend approximately two hours organizing their thoughts on the main theme outlined in the syllabus.
Review:
After each class, students will receive an email introducing selected memorable reports along with explanations of why they were effective. Students should spend approximately two hours reviewing these examples and comparing them with their own reports.
【Grading Criteria / Policy】
Attendance and in-class reports: 60%
(Attendance and written work are evaluated every class.)
Presentation participation: 10%
(Students who volunteer to present will receive bonus points.)
Final examination (report format): 30%
(Additional bonus points may be awarded based on content and originality.)

POL300IA（政治学 / Politics 300）

スポーツ政策論

森岡　裕策

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国のスポーツ政策の動向と、諸外国のスポーツ政策を学んだ上で、平成23(2011)年制定の「スポーツ基本法」に基づき、平成24(2012)年に策定された「第1期スポーツ基本計画」及び平成28(2016)年に改定された「第2期スポーツ基本計画」及び令和4(2022)に改定された「第3期スポーツ基本計画」における具体的施策について習得する。さらに、令和7(2025)年、14年ぶりに改正された「改正スポーツ基本法」についても学ぶ。加えて、文部科学省・スポーツ庁及び地方公共団体のスポーツ施策・事業への反映状況やスポーツ団体の動向等について学ぶ。また、平成27(2015)年のスポーツ庁創設に伴い、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省、外務省等などのスポーツ関連政策の総合的な推進等に関する行政方針について学ぶ。さらには、コロナ禍により2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ大会）や2027年に延期されたワールドマスターズゲームズ関西などのメガスポーツイベントの状況等を観察しながら、大会開催に向けた政策課題について学ぶ。

【到達目標】
国及び地方公共団体のスポーツ行政施策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことにより、行政が推進するスポーツ施策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ヒト」、「モノ」、「カネ」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを習得する。「ヒト」は、スポーツ指導者、組織運営者、政策立案及び執行者等、「モノ」は、スポーツ施設、設備等の在り方、「カネ」は、事業を執行するための予算、スポーツ施設の管理・運営の手法などを学ぶ。今後、受講生が、教育職や行政職をはじめとする、スポーツ関連の職域において活躍することができる基礎的な知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を踏まえつつ、発信される国や地方公共団体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、日本スポーツ振興センター(JSC)、日本スポーツ協会(JSPO)、日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(JPSA)、各競技団体(NFs)等のスポーツ統括団体や中央競技団体等から発出されるスポーツに関する推進方策や時事問題（インテグリティ、不祥事等を含む。）を解説するとともに、社会的な貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）に関連する報道等を活用して授業を進める。なお、時事的な情報や問題発生により講義内容の変更や順序の変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説及び授業進行や評価方法等に関する説明
2	我が国のスポーツ政策の変遷と国及び地方公共団体のスポーツに関する振興計画等	我が国のスポーツ政策の経緯と諸外国のスポーツ政策（ユネスコのスポーツ憲章、ドイツのゴールデンプラン等）
3	「スポーツ基本法」と「スポーツ基本計画にみる主要提言と政策課題	文部科学省の政策（審議会答申、立国戦略、基本計画等）、地方公共団体の政策（審議会答申、地方スポーツ推進計画等）
4	公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)の設立経緯と事業構造	我が国におけるスポーツ界の構造とスポーツ統括団体としての役割・任務、展開する事業を解説
5	総合型地域スポーツクラブの育成と社会的効果	我が国の地域スポーツクラブ政策の流れ、総合型クラブの登録・認証制度の意義、クラブに対する中間支援組織の現状
6	国際オリンピック委員会(IOC)オリンピック憲章に基づく2020東京オリパラの開催と検討課題	オリンピズムの根本原則に基づくオリパラ開催の意義、東京2020大会後のレガシー創出における課題
7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性化、経済効果	国民スポーツ大会の価値、各種競技大会やスポーツイベントの開催、ワールドマスターズゲームズ2027関西開催等の意義、国際総合競技大会の誘致、スポーツツーリズムの活用
8	障がい者スポーツ政策とパラリンピック開催に関する現状と課題	障がい者スポーツの動向、障がい者スポーツ指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	新しい時代にふさわしいコーチング・コーチの確立、公認スポーツ指導者養成制度の概要	スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）を踏まえたコーチング環境の改善・充実に向けた取組、「モデル・コア・カリキュラム」の概要
10	運動部活動の改革についてのこれまでの経緯と今後の方向性	運動部活動の現状と課題、新たな運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン、運動部活動の地域展開への取組の概要
11	一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)の設立と検討課題	UNIVAS（日本版NCAA)創設に係る検討の経緯、設立理念・社会的意義、その役割と将来像
12	子供のスポーツ機会の確保	子供の体力・運動能力の現状と課題、スポーツ機会の確保における問題点
13	スポーツ・インテグリティの確保	スポーツ団体におけるガバナンス・コンプライアンスの強化、「スポーツ団体ガバナンス・コード」に基づくスポーツ・インテグリティの確保に向けた取組内容
14	授業内テストの実施	すべての資料を持込み不可とし、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツ政策については、国（文科省をはじめ厚労省、国交省、厚労省、経産省、外務省等）や地方公共団体（都道府県、市区町村）及びスポーツ関係団体（JSPO、JOC、JSC、各NF等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織のＨＰ等で常にチェックしていること。公立中学校の運動部活動の地域連携・地域展開に関連する情報を随時確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時に、適時、スポーツ政策、スポーツ行政に関する報道記事や資料を配布する予定であり、講義を進行する。

【参考書】
文部科学省、スポーツ庁のＨＰ（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）、都道府県のスポーツ所管課（教育委員会・知事部局）のＨＰ（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）
「よくわかるスポーツマネジメント」柳沢和雄他　編集（ミネルヴァ書房）
公益財団法人日本スポーツ協会のHP（主要事業）
「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行
笹川スポーツ財団のHP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】
授業中に使用した資料等は持込み不可とする。講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、毎回の講義に対する集中度や理解度を問い、その平常点に３０％、最終講義日に設定する授業内テストに７０％を評点化し、その評点の合計点が６０点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内テストの結果やプレゼンテーション、ディベートなどを踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認し、逐次改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】
授業時に、パワーポイントやＤＶＤ等を使用する。

【その他の重要事項】
本科目は、社会科学の分野であり、例えば、行政・政策の変動や社会的な問題の発生など、重要な時事問題等の発生により、講義の順序や内容の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Student will acquire concrete measures of “The 1st Sport Basic Plan” established in 2012 and “The 2nd Sport Basic Plan” revised in 2016 based on “The Basic Act on Sport” enacted in 2011 after learning the trend of the sports policy of our country and foreign countries. Focuses on the reflection status of MEXT and local governments on sports politics and projects, trends of sports organizations, and the administrative policy on comprehensive promotion, etc. of each relevant ministries and agencies’ sport related policies along with the establishment of the Sport Agency in 2015. Topics include the policy challenges for success while observing the preliminary conditions for hosting the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and the World Master Games 2021 Kansai.
By learning how sports administration policies of the national and local governments have progressed and reached the current situation, students will understand the issues of sports policies promoted by the government. In particular, learn how sports are reflected in the social apparatus of "people," "things," and "money," and what policies should be emphasized in the future. “People” refers to sports instructors, organization managers, policy planners and executors, etc. “Things” refers to sports facilities and equipment, and “money” refers to budgets and management of sports facilities. ・ Learn management methods. We will also consider how sports policy should be aimed at realizing a tangible and intangible sports legacy after the Tokyo 2020 Olympics and Paralympics. In the future, the goal is for students to acquire basic knowledge that will enable them to play an active role in sports-related occupations, including educational and administrative positions.
Regarding sports policy, the government (Ministry of Education, Ministry of Health, Labor and Welfare, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Ministry of Health, Labor and Welfare, Ministry of Economy, Trade and Industry, Ministry of Foreign Affairs, etc.), local governments (prefectures, municipalities), and sports-related organizations (JSPO, JOC) , JSC, each NF, etc.), and constantly check the information, etc. regarding policies, measures, reports, proposals, notices/notices, survey results, research, etc. sent by the media, the organization’s website, etc.
In 2023, check information related to community collaboration for sports club activities on public junior high school holidays. The standard time for preparation and review for this class is 4 hours each.
Documents distributed during class cannot be brought into the classroom. A descriptive in-class test will be conducted to check the degree of understanding of the important points of the lecture theme. The grade evaluation method asks the degree of concentration and understanding for each lecture, and grades 30% of the usual score and 70% of the in-class test set on the last lecture day, and the total score is 60 points or more. shall pass.

ECN300IA（経済学 / Economics 300）

スポーツビジネス論III

吉田　政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツビジネス論IIIでは企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。受講者はスポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の学習をとおして、スポーツ組織がスポンサーを獲得する仕組みについて理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりとする：
(1) スポーツスポンサーシップの定義を説明できる。
(2) スポーツスポンサーシップにおいて協賛企業が期待できる効果を説明できる。
(3) スポーツスポンサーシップにおいてスポーツ組織が期待できる効果を説明できる。
(4) スポンサー企業と協賛対象の間の整合性とその関係性に応じたアクティベーション・プログラムの重要性を説明できる。
(5) スポーツ組織と協賛企業の双方にとって有益かつ持続可能なスポンサーシップ契約の企画書の内容を理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であり、授業で用いるパワーポイントスライドの配付資料は学習支援システムにアップロードしてあり、各自でダウンロードし、印刷する。資料はキーワードが穴埋め形式になっており、受講者は授業を聞きながら空欄を埋めることで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツスポンサーシップの基礎的理解	スポーツスポンサーシップの定義、誕生および発展の背景、現在の市場規模について学習する。
2回	スポンサーシップの種類	企業がスポーツに協賛する代表的なものとして、チーム、リーグ、選手、試合、施設を取り上げ、それらのスポンサーシップの事例および特徴について学ぶ。
3回	スポンサーシップを通じたマーケティング活動	スポーツスポンサーシップを通じたマーケティング活動について、スポーツ組織と協賛企業の両方の視点から理解する。
4回	スポンサーシップにおける消費者の意思決定過程	スポーツイベントの参加者や観戦者が協賛企業を認知し、興味を抱き、実際に製品やサービスを購入するまでにはいくつかの段階がある。ここでは消費者の意思決定過程に着目し、スポンサーシップの効果について考える。
5回	スポンサーシップと広告	スポンサーシップにおける企業の宣伝活動は間接的かつ支援的であるのに対し、広告における企業の宣伝活動は直接的かつ説得的である。こうした違いを学ぶとともに、スポンサーシップが発展してきた背景についても広告との違いから理解する。
6回	アスリート・エンドースメント	プロスポーツや国際試合で活躍する選手は使用しているスポーツ用品の推奨者としての役割を持つ。彼らは試合以外の場面でも、車、腕時計、嗜好品などを推奨している。今回はアスリートが製品を推奨するエンドースメントについて学ぶ。
7回	スポンサーシップにおける整合性	業のイメージが協賛するスポーツ関連の対象のイメージと一致している度合いのことを整合性と呼ぶ。本授業では整合性の種類、役割、高め方などについて学習する。
8回	スポンサーシップのアクティベーション	スポンサーシップを活性化させ、効果を高める工夫のことをアクティベーションと呼ぶ。今回の授業ではアクティベーションの概念、種類、特徴を、スポンサーの種類と併せて理解する。
9回	スポンサーシップの企画書	スポーツ組織が企業に協賛を提案する際に作成する企画書の構成、内容、注意点について学び、実際にグループに分かれて企画書の作成に取り掛かる。
10回	価格設定	企業がスポーツ組織に支払うスポンサー権料は露出方法、アクティベーションの度合い、契約年数などによって異なる。ここではスポンサー権料の価格設定について学ぶ。
11回	スポンサーシップの評価：メディア露出と認知度	スポンサーシップは寄付ではない。企業は支払ったスポンサー権料に対してマーケティング目標の達成を期待する。本授業ではこの費用対効果を説明する評価方法について、特にメディア露出と認知度の形成の観点から学ぶ。
12回	スポンサーシップの評価（イメージ、購買への影響）およびソーシャルスポンサーシップ	スポンサーシップの評価について、イメージの向上と購買行動の観点から学習する。授業の後半ではスポーツへの協賛活動を通じて社会問題の解決するソーシャルスポンサーシップについて理解を深める。
13回	アンブッシュマーケティングへの対応	スポンサーシップ契約を正式に結んでいない企業が、特定のイベントに関連づけて商業活動を行うことを「アンブッシュマーケティング」と呼ぶ。ここではスポンサーシップの倫理的問題と対応策について学習する。
14回	スポーツスポンサーシップのまとめ	学期を通じて学習したスポーツスポンサーシップの理論と実践を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業計画において参考文献の情報（著者名、年度）が示されています。学習支援システムにアップロードしてありますので、授業時間外の学習に活用してください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配付する）

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを用いたショートアンサー：30点（3点×10回）
学期前半の内容に関する中間テスト：30点
期末テスト：40点
合計：100点
【リアクションペーパーの評価基準】
学期を通じてショートアンサー形式の問いを10回出題します。授業の最後の時間を使ってリアクションペーパーに解答を記入してください。各問いは以下の3段階で評価します：
1点：授業の内容を踏まえている
2点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら説明している
3点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、課題に対して合理的な説明を行っており、高い文章力で書かれている。

【学生の意見等からの気づき】
受講者がリアクションペーパーに記入した質問に対してフィードバックするとともに、双方向の授業となるよう授業中に議論の機会を作るようにします。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンなど（携帯電話のみを用いた受講は推奨しない）

【その他の重要事項】
配付資料に沿って授業を行います。資料を印刷するか、ノートパソコンなどの大きなディスプレイに資料を表示して授業に出席してください。2週目以降は事前に指定された読み物を読んできてください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course provides a detailed examination of sport sponsorship. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the theoretical rationale for sponsorship and strategic communications through sponsorship.
(Learning objectives)

The goals of this course are to learn (1) the strategic relationships between events, teams, athletes, fans, and corporate sponsors and (2) understand professional techniques used to sell sponsorship packages.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on short report (30%), short exam (30%), and final exam (40%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ実習

山口　和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3〜4年次／1単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
・課題に対して、仮説を立てることができる。
・仮説を調査票にすることができる。
・回答しやすい調査票作成ができる。
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査を行うことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点や調査をする上での心構えを学ぶ。
第2回	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
第3回	調査課題の立て方	調査課題とは何かを複数の例に基づいて考える。
第4回	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
第5回	調査課題の立て方に関するまとめ	第４回でまとめた調査課題について発表し、ブラッシュアップする。
第6回	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
第7回	調査の種類を学ぶ	定量調査や定性調査の研究を学ぶ。
第8回	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
第9回	定量調査の調査票作成	第５回でまとめた調査課題についての簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップを図る。
第10回	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成を学ぶ。
第11回	定性調査の調査票作成	第５回と第９回の結果を踏まえて定性調査の調査票を作成する。
第12回	定量調査の実践	第９回の調査票について実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
第13回	定性調査の実践準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作成する。
第14回	定性調査の実践	インタビュー調査を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】
調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.
(Grading Criteria / Policy)
The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ演習

山口　和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
・課題に対して、仮説を立てることができる。
・仮説を調査票にすることができる。
・回答しやすい調査票作成ができる。
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義の具体的な内容は、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
第2回	スポーツに関する調査概要	調査に関する概要について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
第3回	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
第4回	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
第5回	事前調査の実施	事前調査を実施し、課題の妥当性や仮説の方向性をまとめる。
第6回	事前調査結果の発表	第５回で得られた結果を発表し、ブラッシュアップを図る。
第7回	定量調査の調査票設計	課題解決や仮説検証のための調査票設計を行う。
第8回	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計についての妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップを図る。
第9回	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認および調査方法のシミュレーションを行う。
第10回	定量調査の実施	定量調査を実施する。
第11回	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
第12回	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
第13回	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
第14回	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します。

【参考書】
授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】
調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】
履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】
(Course outline and Learning Objectives)
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.
(Grading Criteria / Policy)
The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

MAN100IA（経営学 / Management 100）

Sport Consumer Behavior

徐　子淵

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
備考（履修条件等）：※グローバルオープン科目として履修する場合の配当年次は2〜4年次

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、スポーツ消費者行動に関する理論と実践をグローバルな視点で学びます。スポーツ消費者が持つ文化的、心理的、行動的、社会的特性について深く理解し、それらがスポーツ業界や市場に与える影響を探求します。具体的には、スポーツ消費者の動機や意思決定プロセス、消費者行動における文化の役割などを考察します。

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) Understand the cultural and social characteristics of sport consumers,
(2) Gain knowledge about important concepts, ideas, and practices related to the psychology and behavior of sport consumer behavior,
(3) Explain how traditional and more recently developed theories can be applicable to sport consumer behavior.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The course will be conducted through lectures and there are in-class questions for students to answer during the lecture time.
Students will be required to complete a short-answer question after each class, and a final exam will be held during the last class.
All lectures will be delivered online using Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduce the course requirements, objectives, strategy, textbook, and outline
第2回	Sport consumption at stadium	Sport consumer behavior in the US: Big 4 leagues and college sport The unique American Sport Business: Suites and club seats
第3回	Various types of sport consumption	Media consumption, social media consumption, and team-lisenced merchandise
第4回	Fan socialization	The definition, process, and outcomes of fan socialization in childhood and adolescence
第5回	Fan Socialization and connection to sport	Fan socialization among young and older adults, psychological connection to sports and teams
第6回	Culture and subcultures	The definition and elements of culture and subculture and their influence on sport consumer behavior
第7回	Personal Needs, Values, and Goals	The concepts and theories of personal needs, values, and goals in sport consumer behavior
第8回	Spectator motivation	The definition, measurement, and application of sport consumer motivation
第9回	Observer motives and fan motives	Observer motives, fan motives, and “Fig Five” motives of why people watch sport
第10回	Consumer perceptions: Awareness	The definition, elements, and decision-making process of sport consumer perception
第11回	Consumer perceptions: Interest and Evaluation	Consumer interest, consumer evaluation, and brands as stimulus characteristics
第12回	Sport consumer decision-making models	The historical development and current models of consumer behavior theories in marketing
第13回	Theories of sport consumer behavior	Various attitudinal models of consumer behavior and their applications to the sport context
第14回	In-class Final Exam	The final exam will be held in-class through WebClass (No zoom meeting)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします.
After each class, short questions regarding the topic will be sent to students, and they have to answer them. Their answer will be a criterion for how much the students understand each topic through the lecture. Students can read the textbook to get information on the contents for answering the short questions.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Trail, G.T., &James, J.D. (2015). Sport Consumer Behavior. Seattle, WA: Sport Consumer Research Consultants LLC
Trail, G.T. (2019). Sport Consumer Behavior (4th ed).

【成績評価の方法と基準】
The distribution of grades is structured as follows:
1. Participation and Attendance: 15%
(This evaluates regular attendance of students and the active involvement such as answer the questions during each lecture)
2. Completion of Assignments After Each Class: 50%
In total 10 short question will be published. This evaluates the quality of answers submitted following each class session.
3. Final Exam: 35% (Mandatory, students who do not take the final exam will not get the credit)
Total: 100%

【学生の意見等からの気づき】
I will review emails from students and address their concerns at the beginning of each class. Additionally, I will provide as many industry examples as possible each week to clearly illustrate the class topics. Furthermore, I encourage students to actively participate by answering questions posed during the class.

【学生が準備すべき機器他】
Microsoft Office, laptop computer, Zoom software

【Outline (in English)】
From a global perspective, this course is intended to provide students a general overview of the traditional and more recently developed theories and practices related to sport consumers. Students will learn important concepts and theories related to the cultural, psychological, behavioral, and social characteristics of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how individuals become loyalty sport consumers and even positive contributors to the development of unique sport culture.

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

トップアスリート論

増島　みどり

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピックイヤーとなった2021年、22年、メダリストや世界記録保持者といったトップアスリートたちを中心に、彼らが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素にフォーカスし、自分たちで検証していく。

【到達目標】
トップアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。選手を、メディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一流を超えた「超」一流選手たちの思考，技術，肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトップアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストに呼んで授業を行ってもらい、「トップアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トップアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トップアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトップアスリートを発表してもらう。
3	トップアスリートの「心技体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトップアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トップアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	２代に渡るトップアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、２代競技者を考える。
6	女性アスリートの台頭と活躍	日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた１９８０年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する２０００年後半までの歴史と進歩の詳細について。２０１６年W杯で連覇を狙うなでしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。
7	オンリーワン思考と技術	日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらう。
8	怪我とリハビリ、復帰への道程	一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。
9	オリンピックムーブメント	IOC（国際オリンピック委員会)、JOC（日本オリンピック委員会)の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。
10	トップアスリートを支える環境	不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。
11	トップアスリートのメンタルトレーニング	大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。
12	薬物問題とパフォーマンス	過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終らない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらう。
13	トップアスリート長寿の理由	近年、３０代、４０代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考える。
14	グループでの討論、発表など	グループでの討論、発表など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
第1回：特になし
第2〜14回：新聞を読む。ニュースの中でもトップアスリートについて情報を持って授業に臨む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
教材は、トップアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50％)、授業への取り組み（25％)、レポート（25％）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝サッカー元日本代表・名波浩氏
１０年＝バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏
１１年＝大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手
１２年＝陸上男子四百㍍障害世界陸上メダリスト・為末大選手
１３年＝パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手
１３年＝プロサッカーリーグ「Ｊリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏
１４年＝競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手
１５年＝成立学園コーチ・山郷のぞみ氏
１６年＝リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び４位・鈴木徹選手
１７年＝世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリスト・鈴木徹選手
１８年＝W杯取材のため、なし。
１９年＝電動車椅子サッカー日本代表・永岡真理選手
２０年＝パリ世界陸上銅メダリスト・末續慎吾選手（オンライン）
２１年＝東京五輪・パラリンピック旗手・佐藤真海選手（オンライン）
２２年＝４２歳の現役スプリンター・末續慎吾選手
２３年＝４３歳の現役スプリンター・末續慎吾選手
２４年＝４４歳の現役スプリンター・末續慎吾選手
２５年＝サッカー元日本代表・井原　正巳氏

【Outline (in English)】
【Course outline】
We learn the physical of top athletes, technique, strength of mental. In addition, We consider it what kind of factor they have other than these.
【Learning Objectives】
Through the approach to the competition of the top athlete, we can learn philosophy not only a technique, physical strength .
It becomes the hint to live.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to read a newspaper, the Internet article well
and are interested in sports and athletes.
【Grading Criteria /Policy】
1 Class attendance（50%）
2 Term-end report(25%)
3 Approach to a class(25%)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論 II

木村　新

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ場面におけるパフォーマンスの構造を理解した上で、競技種目やレベルに応じて適切なトレーニング計画がデザインできるようになることを目的とする。

【到達目標】
・トレーニング論における基礎コンセプトであるパフォーマンスについてその内容と構造について理解すること。
・自身が行ってきた競技を例にトレーニング内容とトレーニングの効果を測定する方法を計画できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。
実際にトレーニング計画をデザインしてもらい、発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。トレーニング計画の発表者を決める。
第2回	スポーツパフォーマンスの構造とその発達 ①	トレーニング科学におけるパフォーマンスとは何か、およびその構造モデルを説明する。
第3回	スポーツパフォーマンスの構造とその発達 ②	トレーニングによってパフォーマンスが向上していく際のメカニズムについて概説する。
第4回	スキルトレーニングの理論と実践	スキルの定義を解説した後に、それをトレーニングによって向上させるための考え方について説明する。
第5回	コーディネーションおよびファンクショナルトレーニングの理論と実践	コーディネーションおよびファンクショナルトレーニングの目的および問題の捉え方、トレーニング手段について解説する。
第6回	力およびスピード系トレーニングの理論と実践	力およびスピード発揮能力を適切に向上させるためのトレーニング理論について解説する。
第7回	持久性トレーニングの理論と実践	競技者の課題に応じた持久性トレーニングの内容と計画のデザイン方法について、トレーニング論Ⅰよりも発展的な内容について説明する。
第8回	トレーニングと試合	トレーニングを考える上での試合の位置づけについて説明し、試合の本質と機能について説明する。
第9回	ピリオダイゼーション	トレーニング周期の階層システム(ピリオダイゼーション)について説明する。
第10回	トレーニング計画における留意点	トレーニング計画をデザインする際の様々な留意点について解説する。
第11回	トレーニング計画のデザイン①	実際のトレーニング計画のデザイン例を紹介し、その計画の根拠や意図を説明する。
第12回	トレーニング計画のデザイン②	これまでに学習してきたことを踏まえて、自身が行ってきた競技を例にトレーニング内容とトレーニングの効果を測定する方法を考える。
第13回	トレーニング計画のデザイン③	トレーニング計画をプレゼンテーション形式で発表し、さらに洗練させるためには何が必要かを考える。
第14回	期末テスト	1〜13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業の各回で資料を作成して学習支援システムの「教材」にアップロードする）

【参考書】
・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集)、Book House HD
・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda、NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積と講義内で作成したトレーニング計画書は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
トレーニング計画を作成するためのソフトウエア（エクセルなど）。

【その他の重要事項】
トレーニング論Ⅰを発展させた内容となっているため、トレーニング論Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
To understand the structure of performance in sports situations.
To be able to design appropriate training plans.
【Learning objectives】
To be able to design appropriate training plans and methods of measuring the effectiveness of training, using their own athletic experience as an example.
【Learning activities outside of classroom】
Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
【Grading criteria/Policy】
Test: 100%

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ運動学

工藤　裕仁

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し，運動および動きの評価の基礎を学習することによって，実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ．
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する．

【到達目標】
運動の質的評価の方法について，その流れ，手続き，注意点の概要を理解し，学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し，動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する．学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
身体運動を構成する要素について概説し，身体構造と発達，身体構造と機能，動きのとらえ方（主観と客観）を理解し，その評価方法とストラテジーを学ぶ．運動指導のための評価として，モルフォロギーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り，その概要を学ぶ．またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動の概念と構造	運動の概念と構造、運動観察の歴史の概説
2	運動・動きの構造	運動の形態，種類，原理，局面構造の理解
3	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
4	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
5	量的評価と質的評価	定量化と定性化
6	運動の評価と指導	モルフォロギーとバイオメカニクスによる評価を知る
7	力学の基礎１	並進運動における物理量を知り、その関係を学ぶ
8	力学の基礎２	回転運動における物理量を知り、その関係を学ぶ
9	統計学的手法での運動評価	運動の要点を分析に統計学的手法を用いることを学ぶ。
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上（計4時間以上）を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】
試験　100%

【学生の意見等からの気づき】
具体例の提示を出来るだけ多くとり，理解を助ける．
web情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【Outline (in English)】
To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise. To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.
（Learning Objectives）
Understand the outline of the flow, procedures, and points to note regarding the method of qualitative evaluation of movement, apply this to each competition in which each student is involved, and acquire the basic knowledge to observe and consider movement. Students will be able to observe the "movement" in the competition in which each student participates, and to extract its characteristics concretely from the viewpoint of body structure or biomechanics.
（Learning activities outside of classroom）
Standard preparation and review time is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading criteria are exams(100%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツコーチング論Ｂ

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、コーチングを成功させるための基礎となるスポーツ科学の知識や技能の習得に焦点を当てる。学生は、スポーツ科学の原理を理解し、それを実際のコーチング現場で効果的に応用する方法を学ぶ。さらに、様々な環境や条件に適応するためのコーチング技術についても深く探求する。
授業を通じて、学生は以下を学ぶことが目的とされる:
スポーツ科学の基本原理と、それらがコーチングにどのように応用されるかを理解する。さまざまなコーチング環境（チームスポーツ、個人スポーツなど）や、異なる年齢、性別、競技レベルに適したコーチング方法を学ぶ。
コーチングにおいて効果的なコミュニケーション技術とリーダーシップを展開する方法を習得する。
この授業は、将来的にコーチやトレーナーとして成功したい学生、またはスポーツ科学に基づいた健全なトレーニング方法を理解したいすべての学生にとって価値のある内容となっている。

【到達目標】
年齢・性・競技レベルに応じたコーチングの理解:
異なる年齢層、性別、競技レベルに適したコーチングアプローチを理解し、それぞれのニーズに応じたトレーニング方法を学ぶ。
スポーツ医科学の実践的応用:
スポーツ医科学の基本原理を理解し、その知識を選手のパフォーマンス向上、怪我の予防、リハビリテーションに活かす方法を学ぶ。
コーチや教育者としての責任の認識:
選手や生徒に対する責任を深く理解し、倫理的なコーチングスタンスを保ちながら、適切な指導を行うことの重要性を学ぶ。
心理的要素の理解と指導への統合:
技術、戦術、フィジカルな指導に先立ち、選手の心理状態を理解し、適切な心理的サポートを提供することの重要性を学ぶ。
ストレス管理、モチベーション向上、自己効力感の育成など、現場で活かせる心理的なツールを習得する。
この授業を通じて、学生はコーチングに必要な包括的な知識とスキルを獲得し、実際のスポーツ現場でそれらを効果的に適用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、学生の積極的な参加と実践的な学習を促進するために、講義形式とグループディスカッションをバランス良く組み合わせて進める。以下は授業の進め方と具体的な方法についての概要です。
講義形式:
各セッションでは、スポーツ科学、コーチング技術、心理学的アプローチなど、特定のトピックに関する基礎知識と理論を専門家から学ぶ。
講義では、実際のコーチング事例や最新の研究結果を取り入れ、理論と実践の結びつきを強調する。
グループディスカッション:
講義に続いて、学生はグループに分かれて特定のトピックについてディスカッションを行う。この形式は、異なる視点からの意見交換を促進し、問題解決能力や批判的思考力を養うことを目的とする。
実際のコーチングシナリオを取り上げ、グループメンバーと一緒に解決策を考えたり、戦術やトレーニングプログラムを設計する実践的な演習も含まれる。
相互フィードバックとリフレクション:
ディスカッションの終わりには、グループメンバー間で相互フィードバックを行い、学んだ内容を深める。
自己反省を通じて、学生は自身の理解度を確認し今後の学習方針を見直す機会を持つ。
授業の進め方は、学生に理論だけでなく、現実のコーチング現場で直面する課題に対する実践的な解決策を考え、それを適用する能力を身に付けさせることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	全体ガイダンス	授業の進め方について説明
2回	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング国内、海外
3回	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4回	コーチング学概論、コーチングとは	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5回	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6回	様々なコーチング現場④	コーチングの原理・哲学
7回	様々なコーチング現場⑤	指導の目的と設定
8回	様々なコーチング現場⑥	コーチングスタイル
9回	様々なコーチング現場⑦	選手とのコミュニケーション
10回	様々なコーチング現場⑧	勝つチーム文化の構築
11回	様々なコーチング現場⑨	選手のモチベーション向上
12回	様々なコーチング現場⑩	ゲーム形式のコーチング方法
13回	コーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外と国内の取組み
14回	理解度確認テスト	確認テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なコーチング現場における現状の準備学習、及びグループで課題の発表を作成することがが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
Martens, R. (2012). Successful coaching (4th ed.). Champaign, IL: Human Kinetics.
Bloom, B. (Ed.). (1985). Developing talent in young people. New York: Ballantine.
Burton, D., &Raedeke, T.D. (2008). Sport psychology for coaches.
Côté, J., Young, B., North, J., &Duffy, P. (2007). Towards a definition of excellence in sport coaching. International Journal of Coaching Science, 1(1), 3-17.
コーチング学への招待，大修館書店，2017
競争闘争理論，ソル・メディア，2022
エコロジカル・アプローチ，ソル・メディア，2023

【成績評価の方法と基準】
グループワークによる成果発表や課題提出（30％）、個人課題への取り組み（30％）、14回目の理解度確認テスト（40％）
なお、授業回によっては小テストあるいはレポートを課す場合がある。これらの評価は「個人課題への取り組み」に加算して評価する。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録音することを禁止する。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。授業の内容に無関係な作業は禁ずる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントや映像資料を使う。スマートフォンやタブレットを用いた簡易アンケートを実施する場合があるが、必携ではない。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course provides a comprehensive foundation in the sports science essential for successful coaching. Students will bridge the gap between scientific theory and practical application, learning how to implement evidence-based principles in real-world environments. The curriculum explores how to adapt coaching methodologies across diverse conditions and contexts — including team and individual sports, varying age groups, gender, and competitive levels — to maximize athlete potential. Topics also include communication skills, leadership, psychological support, and long-term athlete development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand age-, gender-, and level-appropriate coaching approaches and apply suitable training methods to meet the needs of diverse athletes.
- Apply foundational principles of sports medicine and science to enhance performance, prevent injury, and support rehabilitation.
- Recognize the ethical responsibilities of coaches and educators, and demonstrate an understanding of the importance of principled, athlete-centered coaching.
- Understand the psychological dimensions of coaching, including stress management, motivation, and self-efficacy, and integrate appropriate psychological support strategies into coaching practice.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to prepare for each session by researching current practices across various coaching environments, and to collaborate with group members to develop and present group assignments. Your required study time is at least four hours for each class meeting (two hours for preparation and two hours for review).
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Group work presentations and assignment submissions: 30%
- Individual assignment performance: 30%
- In-class comprehension test (Session 14): 40%

Additional quizzes or reports may be assigned during specific sessions and will be added to the individual assignment score. A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ戦略・戦術論

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要:
この授業では、スポーツにおけるパフォーマンス分析の重要性に焦点を当てる。スポーツで戦略や戦術を立てるためには、選手やチームのパフォーマンスを深く理解することが必要。パフォーマンスは、選手の意欲や動機づけといった心理的要因、体力や持久力といった生理的要因、そして技術や技能といった技術的要因の総合的な結果だ。この授業ではこれらの要素をどう分析するか、スポーツにおけるパフォーマンスを全面的に理解する方法を学ぶ。
授業の目的:
スポーツパフォーマンスを分析するために必要な心理的、生理的、技術的要因を理解する。スポーツにおける戦略や戦術を策定するための、パフォーマンス分析の手法を学ぶ。各種スポーツのパフォーマンスの特徴を理解し、それを戦略や戦術にどう反映させるかを考える。
この授業を通じて、学生はスポーツのパフォーマンスを多角的に分析し、その分析結果を戦略や戦術の策定に役立てるための知識と技術を得られるようになる。

【到達目標】
この授業を受けることによって、学生は以下の能力を身につけることが期待される。
スポーツのパフォーマンスを分析する意義と目的を深く理解する。
パフォーマンスを分析する様々な方法とそれらの適用場面を把握する。
分析技法のいくつかを実際に習得し、実践的に使用できるようになる。
分析結果をスポーツにおける戦略や戦術の策定に効果的に活用する能力を開発する。
この授業を通して、学生はスポーツパフォーマンス分析の基本から応用までを学び、実際のスポーツシーンでの戦略や戦術の策定に役立てられる知識とスキルを身に付けることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、スポーツパフォーマンスの多面的な分析に焦点を当て、戦略的な視点と怪我の予防についての知識を統合し、実践的な技法の習得を目指す。
前半の授業:
個人種目における様々な分析方法を紹介し、選手のパフォーマンス向上にどのように寄与するかを探る。
映像撮影とGPSデータ収集の基礎を説明し、これらが個人種目のパフォーマンス分析にどのように役立つかを学ぶ。
実際に学生に映像撮影やGPSデータの収集を行ってもらい、そのデータの編集と分析方法について指導する。
特定の技法に焦点を当て、実際にデータの収集や分析を行うことで、学生がこれらの技術を自身のスポーツ分析に活用できるようにする。
戦術と怪我予防の関係について学ぶ。特に、適切な戦術が怪我のリスクをどのように減少させるか、また怪我を避けるための戦術的な配慮について理解を深める。
後半の授業:
球技などの団体種目における量的分析と質的分析の方法について学ぶ。
ゲームモデルの理解を深め、それをゲーム分析に如何に活用するかを考える。
実際のゲームや試合の映像を用いた分析演習を行い、学んだ理論と技法を実践的な状況で適用する経験を提供する。
授業形式:
授業は対面とオンライン方針で行う。これにより、資料の共有、演習の実施、質疑応答の時間などがより効率的に行える。
講義、デモンストレーション、実践的な演習を組み合わせることで、学生が能動的に学ぶ環境を提供する。
この授業を通じて、学生はスポーツのパフォーマンス分析、戦術の策定、そして怪我予防の重要性について深い理解を得るとともに、これらの知識を実際のスポーツシーンで活用できる実践的なスキルを獲得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2回	スポーツパフォーマンス分析の意義と目的	これまで実践されてきた例を紹介しながら意義と目的を説く ・量的分析と質的分析の整理 ・記述的分析と自動分析の整理
3回	スポーツ映像データの収集①	ノーマル撮影によって映像データを収集する際の知識を説き、実際にデータ収集を試みる
4回	スポーツ映像データの収集②	ハイスピード撮影によって映像データを収集する際の知識を説く
5回	スポーツ映像データの収集③	映像データ編集ソフトウエアの原理と活用を紹介する
6回	ＧＰＳによるデータの収集	ＧＰＳの原理を説き、スポーツの中でのデータ収集例を紹介する
7回	GPS機能がついてない機器に移動体・リカバリー解析	練習、試合や日常生活における負荷、又は回復の測定方法の紹介
8回	球技におけるデータを得る前に	スポーツ競技の背景を考え、どのような視点でデータを取得するのかを学ぶ
9回	球技における量的分析と質的分析①	球技の分析で用いられている、量的な分析と質的な分析について学ぶ
10回	球技における量的分析と質的分析②	自身が選んだスポーツ競技を用いて、そのスポーツ競技の背景と明らかにしたい内容についての考慮して、量的分析指標と質的分析指標を作成する
11回	球技における量的分析と質的分析③	前回講義で作成した量的・質的分析指標を用いて、実際にゲーム分析を行い、ゲーム分析手法を学ぶ　1
12回	球技における量的分析と質的分析④	前回行った分析について発表する　1
13回	球技における量的分析と質的分析⑤	自分で作成した量的・質的分析指標を用いて、前回と違う方法、又はソフトを使用し、実際にゲーム分析を行う　2
14回	まとめと発表	前回行った分析について発表する　2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で収集したデータの分析を試みる。
授業で出された課題について調べ、レポートを提出する場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
・「スポーツパフォーマンス分析入門」ピーター・オドノヒュー、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
レポート5回（50％）　13回目の授業中にテストを行う （50％）
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン
データ分析に用いるソフトウエア（エクセルなど）
映像を取り込める携帯電話

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course explores the critical role of performance analysis in modern sports. Developing effective strategies and tactics requires a profound understanding of both individual and team performance. We view performance as a holistic outcome — the intersection of psychological drivers (motivation and mindset), physiological factors (fitness and endurance), and technical proficiency. Students will master the methodologies used to analyze these variables, applying both quantitative and qualitative approaches, video and GPS data collection, and game modeling to gain a comprehensive understanding of athletic output.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Understand the significance and purpose of sports performance analysis, and identify the psychological, physiological, and technical factors that influence athletic performance.
Apply a range of performance analysis methods — including quantitative, qualitative, descriptive, and automated approaches — and select appropriate techniques for different sporting contexts.
Collect and edit video and GPS data, and conduct practical game analysis using analytical software.
Translate analysis results into actionable insights to inform the development of strategies and tactics in real sporting situations.
Learning Activities Outside of Classroom:

Students will be expected to attempt analysis of data they have collected independently, research topics introduced during class, and submit reports as assigned. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Reports (x5): 50%
In-class Test (Session 13): 50%
Additional minor assignments may be given during specific class sessions. The collective results of these tasks may contribute to the final examination grade. A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

PSY200IA（心理学 / Psychology 200）

スポーツ心理学Ｂ

島本　好平

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はアスリートに対する心理的援助活動の理論と応用について学習することを目的とする。具体的には競技パフォーマンスを発揮させるために必要な自己理解と心理的スキルの基礎を学び，体験を通してそれらのスキルを獲得するための方法を学ぶ。

【到達目標】
最終的には受講生が各心理的スキルを身につけ，そのスキルを実践場面や生活全般の中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式にて授業を展開する。毎回授業後にリアクションペーパーの提出をもって授業出席とカウントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。メンタルトレーニングの意義とその役割について解説する。
2	自己理解が確かな成長を促す	成長を望むなら自己理解は必須であることを理解する。自己理解を促すグループワークを行う。
3	自己理解を促す他者理解	ペア活動によりある他者と密にコミュニケーションを取ること他者理解を深め、それをさらなる自己理解へとつなげる。
4	キャリア形成に及ぼす自己理解の重要性	本学部卒業生に登壇してもらい、自己理解が卒業後のキャリア形成に及ぼす影響について講演してもらう。
5	「メンタルが強い」が意味するところを知る	「メンタルが強い」という言葉が意味するところを明確に確認し、メンタル強化に向けた具体的な目標設定につなげる。
6	自らの心理的な競技能力への理解を深める	「心理的競技能力診断検査」に実際に回答することで、自己の心理的な競技能力への理解を深める。
7	心身相関の考え方をもとに自己コントロール能力を身につける	その時の感情に流されるのではなく、逆に感情をコントロールする手法を心身相関の考え方から学ぶ。
8	ネガティブ感情や思考のコントロール	自分の中でのネガティブワード（緊張、不安、失敗）の定義を書き換え、負の感情をより適切にマネジメントできるようにする。
9	イメージ技法の実施及びその評価	イメージトレーニングの科学的根拠を解説し，イメージの種類，イメージトレーニングの手順・展開方法を説明する。体験を通してイメージトレーニングの基礎を学ぶ。
10	注意集中技法の実施及びその評価	「注意」や「気持ち」の切り替え等に活用される各種心理技法を紹介し，その実践方法と評価法について学ぶ。
11	チームのまとまりにつながる個々のメンバーの行動とは	チームのまとまり（集団凝集性）に影響を及ぼす、個々のメンバーの行動（組織市民行動）について解説します。
12	人間力の競技パフォーマンスへの影響	メンタルや競技スキル以外の要素である人間力が、パフォーマンスの発揮に及ぼす影響をエビデンスにもとづき解説する。
13	人間力が引退後のセカンドキャリアに及ぼす影響	現役時のスポーツキャリアが、引退後のセカンドキャリアやアスリートの生涯に及ぼす影響を人間力をもとに考察します。
14	まとめ	これまで行った授業の総復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回の授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それを基に，興味のあるトピックについてさらに知識を深めていってください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布する予定です。

【参考書】
・「スポーツメンタルトレーニング教本　三訂版」（大修館書店，著：日本スポーツ心理学会）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点60％，最終レポート：40％，※その他にも加点要素あり。
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出された受講生からの質問、意見、感想については、翌週の授業序盤に前回の復習も兼ねて可能な限りフィードバックします。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによって，授業計画に変更が生じることがあります。また，パフォーマンス発揮につながる心理的スキルに関する近年の研究やトピックについても随時提示していく予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the learning opportunity about psychological skills which could promote athletic performance and how to improve these skills through experiences.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to acquire psychological skills showed in the course and have practical ability in the athletic field and others.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The participation attitude: 60%, The final report: 40%

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

保健体育概論

永木　耕介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
[概要]日本の中学校・高等学校における「保健体育」（主に体育）のあり方について、教科の目標・内容論、教材の歴史等から学修する。
[到達目標]保健体育のあり方について、知識の獲得と思考力を養う。
[授業時間外の学習]予習としてトータルで複数回のHomeworkを行う。
[成績評価の方法と基準]参加態度等の平常点（40％）、リアクションペーパーによる理解度（20％）、テスト（40％）

【到達目標】
受講生が、これまでの日本の保健体育の新しいあり方について、教科の目標・内容、教材の歴史等の視点から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による講義を中心とするが、内容によって受講生のアクティブな活動参加を採り入れる。また、受講生のリアクションペーパーを毎時チェックし、優れた質問や内容を取り上げて次回の講義で紹介する。なお、リアクションペーパーの内容も成績評価の対象とする（評価全体の20％）。最終回にテストを実施し、解説とまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバリゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標・内容	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体つくり運動」の内容と特性	「体つくり運動」の実際的内容と特性について、知識および運動、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
9	「水泳」＋「野外活動」の内容と特性	「水泳」＋「野外活動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業において「課題」に対する感想やコメント（リアクションペーパー）の提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成29年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　平成30年版（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）
中学保健体育（学研教育みらい）

【参考書】
新版・体育科教育学入門　（大修館書店）他

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度（４０％）、毎時のリアクションペーパーによる理解度（２０％）、テスト（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーによる振り返りが効果的であるため、本年度もそれを行い、受講生の主体的な学修への取り組みを充実する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを所持することが望ましい。スマートフォンでは画面が小さくて見にくい。

【その他の重要事項】
（保健体育科）教職課程の履修者は本授業を受講することが望ましい。特に1年次の受講が望ましいが、3年次までに本授業を履修しておくと教職専門科目（特に保健体育科教育法Ⅲ）の基礎知識として役立つ。
なお、授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline] Students will learn about the state of "health and physical education" (mainly physical education) in Japanese junior and senior high schools, from the goals and content of subjects, the history of teaching materials, etc.
[Learning objective] Acquisition of knowledge and development of thinking ability regarding health and physical education.
[Learning activities outside of classroom] As a preparation, we do homework several times in total.
[Grading criteria/policy] Participatory attitude (40%), understanding by reaction paper (20%), test (40%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ戦術論（サッカー）

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技力向上ならびに普及、育成を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】
サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかせる分析方法、指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サッカーに関する戦術を講義・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第2回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第3回	サッカーとは何か①	サッカーの歴史について学ぶ
第4回	サッカーとは何か②	サッカーの競技特性について学ぶ
第5回	サッカーにおける戦術とは何か①	サッカーにおける戦術の考えかたを理解する
第6回	サッカーにおける戦術とは何か②	サッカーにおける戦術の考えかたについて、辞令を用い、より理解を深める
第7回	サッカーにおける個人・グループ戦術（攻撃）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち攻撃について理解する
第8回	サッカーにおける個人・グループ戦術（守備）	サッカーにおける個人グループ戦術のうち守備について理解する
第9回	サッカーにおけるチーム戦術①	サッカーにおけるチーム戦術について理解する
第10回	サッカーにおけるチーム戦術②	サッカーにおけるチーム戦術について、事例を用いより理解を深める
第11回	サッカー戦術の実践現場・指導現場での活用方法①	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（チームづくり）を学ぶ
第12回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法②	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（トレーニング）を学ぶ
第13回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法③	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（映像編集、ミーティング）を学ぶ
第14回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容に関するリアクションペーパー80％、学期末レポートまたは課題20％で評価する
全講義における出席（リアクションペーパーの提出）が70％以上の者を成績評価対象者とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline
This course aims to provide students with a comprehensive understanding of both the theoretical foundations and practical applications of football. Through systematic study, students will develop the knowledge and skills necessary to enhance individual and team performance.
Learning Objectives
Upon completion of the course, students will be able to:
Explain and evaluate a range of soccer tactics from multiple perspectives.
Apply basic methods of tactical analysis.
Demonstrate an understanding of instructional approaches applicable to both players and coaches.
Learning activities outside of classroom
Students are expected to engage in preparatory study and review by collecting and analyzing information on soccer tactics across different competitive levels, age groups, genders, and both domestic and international contexts.
The standard amount of time required for preparation and review for this course is approximately four hours per class session.
Grading Criteria / Policy
Student performance will be assessed based on the following criteria:
Class reports and assignments related to each lesson: 80%
Final report or final examination: 20%
Only students who attend at least 70% of the classes and submit the required reports will be eligible for final evaluation.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ技術論

NEMES　ROLAND　JANOS

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、スポーツおよび身体運動におけるスキル習得（Skill Acquisition）と運動学習（Motor Learning）の理論と実践について体系的に学ぶ。
従来の情報処理的アプローチ（段階理論、スキーマ理論等）から、近年のエコロジカル・ダイナミクス、制約主導型アプローチ（Constraints-Led Approach）、ノンリニア・ペダゴジー、アスレティック・スキル・モデル（ASM）までを包括的に扱う。
本授業では、運動スキルを「正しい動作の再現」としてではなく、個体・課題・環境の相互作用の中で創発する適応行動として捉え、個人競技およびチーム競技の両環境における実践的応用を検討する。
また、映像観察や動作体験を含む実習を通して、理論と現場を結び付け、将来のコーチング、指導、トレーニング設計に活用できる応用力の習得を目指す。

【到達目標】
本授業を履修することにより、学生は以下の能力を身につけることを目標とする。
1. スキル習得および運動学習に関する主要理論を体系的に理解する
2. 古典的理論と現代的アプローチの相違点と限界を批判的に説明できる
3. 制約、知覚- 行動結合、変動性が運動学習に果たす役割を理解する
4. 個人競技・チーム競技におけるスキル習得の実践的応用を説明できる
5. 動作観察および映像分析を通して技能の特徴を分析できる
6. 科学的根拠に基づいた練習環境・指導方法を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は、運動学習およびスキル習得に関する科学的根拠に基づく講義と、理解を深めるためのアクティブ・ラーニングを組み合わせて進める。
古典的な情報処理モデルから、制約主導型アプローチ、エコロジカル・ダイナミクス、ノンリニア・ペダゴジーといった現代的理論までを体系的に講義し、それぞれの特徴とスポーツ現場への応用可能性について理解を深める。
また、映像資料を用いた運動スキルの観察・分析や、制約を操作した運動課題の体験を通じて、理論と実践の結びつきを学ぶ。
授業内ではディスカッションや小テストを適宜実施し、学習内容の定着を図る。
本授業を通して、理論を理解するだけでなく、スポーツ指導やトレーニング設計に応用するための思考力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業概要、評価方法、スキル習得研究の位置づけ
2回	古典的理論①	運動学習の段階理論（Fitts & Posner、Gentile）
3回	古典的理論②	情報処理モデルとスキーマ理論
4回	運動制御と学習の基礎	運動制御理論、協調、自由度問題
5回	現代的理論①	ダイナミカルシステム理論とエコロジカル・ダイナミクス
6回	現代的理論②	制約主導型アプローチの理論と実践
7回	現代的理論③	ノンリニア・ペダゴジー（非線形教育）
8回	指導法	フィードバックと練習構造
9回	実習①	運動スキルの観察と映像分析
10回	実習②	制約を用いた練習課題の設計
11回	応用①	個人競技におけるスキル習得
12回	応用②	団体競技におけるスキル習得
13回	熟達化と発達	長期的発達、最新動向
14回	まとめと試験	総括および期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の予習・復習として、関連文献の読解および講義内容の整理を行うこと。
準備学習・復習時間は 各回2時間 を標準とする。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content through reading relevant literature and reviewing lecture materials.

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜指示する。

【参考書】
【参考書（和文）】
シュミット／リー著『運動学習とパフォーマンス』大修館書店
マグイル著『運動学習と運動制御』大修館書店
日本コーチング学会編『スポーツコーチング学』大修館書店
杉原隆編『運動学習の心理学』杏林書院
中込四郎編『スポーツ心理学事典』大修館書店
高橋健夫『体育科教育学の基礎』大修館書店
【参考書（英文）】
Skill Acquisition in Sport: Research, Theory and Practice
Motor Learning in Practice: A Constraints-Led Approach
Motor Behavior
The Athletic Skills Model
Nonlinear Pedagogy and the Athletic Skills Model
Motor Learning and Skill Acquisition: Applications for Physical Education and Sport
Motor Learning and Performance: From Principles to Application
Motor Learning and Control: Concepts and Applications

【成績評価の方法と基準】
5回講義内小テスト（クイズ）：25％ 14回目の授業にて試験（筆記）：75％

【学生の意見等からの気づき】
理論と実践の結びつきを重視し、学生の理解度を確認しながら双方向的な授業運営を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course introduces students to the theories and practices of skill acquisition and motor learning in sport and physical activity. The course covers classical information-processing approaches (e.g., stage theories, schema theory) as well as contemporary perspectives including ecological dynamics, constraints-led approach, nonlinear pedagogy, and the Athletic Skills Model. Students will examine motor skills not as the reproduction of correct movements, but as adaptive behaviors emerging from the interaction of individual, task, and environment constraints. Practical sessions involving video observation and movement experiences will be incorporated to connect theory with coaching and training applications.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Systematically understand major theories related to skill acquisition and motor learning.
Critically explain the differences and limitations between classical and contemporary approaches.
Understand the roles of constraints, perception-action coupling, and variability in motor learning.
Explain practical applications of skill acquisition in individual and team sport contexts.
Analyze technical characteristics through movement observation and video analysis.
Propose evidence-based practice environments and coaching methods.
Learning Activities Outside of Classroom:
Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content through reading relevant literature and reviewing lecture materials. Your required study time is at least four hours for each class meeting (two hours for preparation and two hours for review).
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class quizzes (x5): 25%
Term-end examination (Session 14): 75%
A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ戦術論（ハンドボール）

NEMES　ROLAND　JANOS

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、ハンドボールの歴史的な発展と戦術的な要素を詳しく紹介する。理論的かつ実践的な授業が計画されている。ハンドボールの試合における簡単な戦術動作を認識し、説明できるようになる。
ハンドボールにおける基本的な戦術手段と戦略について、他の侵攻スポーツにも応用できる知識を得る。また、個人や集団の戦術的要素を認識し説明するために、簡単なビデオ分析も行う。実践的な授業も行い、視覚化と個人的な体験を通して理解を深める。

【到達目標】
ハンドボールの歴史や戦術を理解しながら、他球技の考え方、又はルール変更の影響も理解する。戦術を理解した上で、ゲーム分析を学ぶ。ハンドボール競技における基礎戦術について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
基礎と基本を重視しながら、学生が積極的に参加し、学びを深めるための方法として、以下のアプローチを取ります。
模擬授業:
授業の中心に模擬授業を配置します。この模擬授業では、ハンドボール競技の基礎から始め、徐々に高度なテクニックや戦術に進んでいきます。
学生はコート上での実際のプレーと練習を通じて、理論を実践に結びつけます。模擬授業は学生がアクティブに参加し、ハンドボール競技を体験的に学ぶ場です。
グループワーク:
学生はグループに分かれて課題や演習に取り組みます。グループワークは協力して学ぶ機会を提供し、異なる視点やアイデアの交換を促します。
実践的な学習と映像活用:
コート上での実際のプレーと映像資料の活用を組み合わせて、ハンドボール競技に関する理解を深めます。映像は実際の試合や練習のシーンを分析し、戦術的な要素を示すために使用されます。
グループ・個人による発表:
学生はグループまたは個人のプレゼンテーションを通じて、学んだ内容を他のクラスメートに伝えます。発表は自己表現の機会を提供し、理解度を確認するための重要な要素となります。
このアプローチを通じて、学生は基本から始めて徐々にスキルを向上させ、ハンドボール競技に関する深い理解を築くことができます。模擬授業、グループワーク、発表などの活動を通じて、学生は自己表現能力を向上させ、実践的な経験を積むことができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	全体ガイダンス	授業の進め方について説明
2回	ハンドボール競技の歴史	映像を利用して、ハンドボールの歴史を紹介する
3回	ゲームの局面構造	球技の試合における学習
4回	オフェンスにおける技術と戦術の構造	オフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
5回	ディフェンスにおける技術と戦術の構造	ディフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
6回	技術・戦術の発達	技術と戦術の関係性を学習する
7回	ルールの変更と技術・戦術の発達との関係	ルール変更の影響について分析し、理解する
8回	個人戦術力(技術力と戦術的思考力)の構造	個人に求められているオフェンスとディフェンス技術と戦術
9回	グループ戦術とチーム戦術の構造	2- 3人の協力によるグループプレー
10回	セットオフェンスにおける技術力と戦術力の養成	セットオフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
11回	セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成	ディフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
12回	速攻における技術力と戦術力の養成	速攻における典型的なオフェンスを紹介する
13回	ゲームパフォーマンスの分析と評価	ゲーム分析における基本考え方を紹介する
14回	まとめ	ハンドボールの試合を視察しながら戦術におけるディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で出された課題について調べ、レポートを提出する場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
日本ハンドボール協会 編 『ハンドボール指導教本』 大修館書店
必要であればその際に資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業の総合評価 40％　テスト 60％
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course provides an in-depth exploration of the historical development and tactical evolution of handball. Through a blend of theoretical lectures and practical applications, students will learn to identify and articulate fundamental tactical movements within a match. The curriculum focuses on core strategic principles that are not only essential to handball but also transferable to other invasion-based team sports. To bridge the gap between theory and reality, students will utilize basic video analysis to break down individual and collective tactical elements. Practical sessions are integrated to reinforce learning through visualization and hands-on experience.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Explain the historical development of handball and understand how rule changes have influenced the evolution of techniques and tactics.
Identify and describe fundamental tactical movements in handball matches, including individual, group, and team-level offensive and defensive strategies.
Analyze game performance using basic video analysis tools, applying tactical frameworks to evaluate player and team behavior.
Apply knowledge of handball tactics to other invasion-based team sports, demonstrating transferable tactical understanding.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to research topics introduced in class and submit reports as assigned. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Overall Class Performance: 40%
Written Test: 60%
Additional minor assignments may be given during specific class sessions. The collective results of these tasks may contribute to the final examination grade. A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

ダンス実習

望月　拓実

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ダンス」にも様々な捉え方があり、学校体育におけるダンスや競技として行うダンス、娯楽として楽しむダンスなどがある。近年は学校体育の必修化やSNSの普及もありダンスが身近になってきているものの、依然として抵抗感を持つ人が多いのも事実である。一方で、プロスポーツとしてのダンスが誕生していることや新社会人に対する研修の一つとしてダンスが用いられるなど、日常生活の中にダンスが存在していることから今後ダンスと触れ合う機会は多く存在するであろう。そこで本講義ではダンスの特性を理解した上で、基礎的な技術を習得し、身体で表現することの楽しさを体感する。そして、身体表現を通じて仲間と共感し、融合することを重視し、ダンスに親しむ資質や能力を育てることで、ダンスに対する抵抗感をなくしていくことを目的とする。

【到達目標】
１：ダンスの特性を理解し、基礎的な技術を習得し再現できる。
２：他者の作品やさまざまなダンスジャンルの作品を観賞することで「観る」能力を獲得する。
３：自身が表現したいイメージを具現化し、他者へ伝達する能力を身につけることから、ダンスを「創る」能力を獲得する。
４：適切なコミュニケーションによって集団的活動を円滑に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
実技授業を中心に、一部講義等も取り入れながら授業を進めていく。本講義で取り扱う様々なダンスの特徴と基本的技能を理解したうえで実践を行う。講義の後半では単に決められた踊りを踊るだけでなく、グループによる創作活動を通じた作品制作と発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業科目の目標と進め方について説明を行い、身体表現を行うための身体を準備する。
第2回	ストレッチ、アイソレーション	ダンスを行ううえで必要となる基本的な身体の動かし方を理解し、実践する
第3回	アップ、ダウンの基礎	リズムの取り方の基本となるアップ、ダウンそれぞれの特徴を解説したうえで実践する
第4回	アップ、ダウンのバリエーション	シンコペーション、アフタービートなどリズムの取り方を工夫しながらアップ、ダウンの実践する
第5回	ダウンのリズムを用いたステップ１	ランニングマン、スティーブマーティンなどダウンのリズムを用いたステップを実践する
第6回	ダウンのリズムを用いたステップ２	クラブステップ、チャールストンなどダウンのリズムを用いたステップを実践する
第7回	アップのリズムを用いたステップ１	ウォーターゲート、トゥエルロックなどアップのリズムを用いたステップを実践する
第8回	アップのリズムを用いたステップ２	ポップコーン、キックウォークなどアップのリズムを用いたステップを実践する
第9回	リズムのバリエーション	前ノリ、後ろノリ、ジャッキング、スイングなど基本以外のリズムの取り方を実践する
第10回	ステップのバリエーション	ムーンウォーク、シャムロック、2ステップ、ウェーブなど基本以外のステップを実践する
第11回	作品創作１	作品創作に必要となる基本的な考え方をふまえ、使用するステップを選択する
第12回	作品創作２	選択したステップをもとに、ステップの応用と隊形・群の動きを考える
第13回	作品創作３	ひとながれのまとまりを創り、ひとつのダンス作品として発表できるものにする
第14回	創作作品発表会	グループごとの作品発表を行い、作品を相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後学習に必要な資料・テキストは適宜オンラインで配信する。本授業の準備学習・復習時間は各 2時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
・レポート等課題提出物（10%）：定期的に提出するノートやレポートの内容を評価する。
・実技（50%）：自身の身体や舞踊文化、音楽に対する理解を深めながら踊ることができているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
全身を動かせるステップの追加、およびいくつか初心者に習得が難しいリズムを変更しました。

【その他の重要事項】
これまでダンスをやったことのない人の受講も積極的に受け入れます。ただし、使用教室の都合上人数制限があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 There exist diverse ways to comprehend the notion of "dance," which include dance as part of physical education in schools, dance as a competitive sport, and dance as a form of entertainment. In recent years, dance has become more pervasive due to mandatory school physical education and the widespread use of social media; however, despite this trend, many individuals still feel apprehensive about engaging in dance. Conversely, there will be ample opportunities in the future to encounter dance, as it has become an essential part of daily life, including the emergence of dance as a professional sport and the integration of dance into new employee training programs. The purpose of this lecture is for students to comprehend the fundamental characteristics of dance, acquire fundamental skills, and revel in the joy of physical expression. The primary goal is to eliminate any resistance to dance by nurturing the qualities and abilities required to become acquainted with dance, while emphasizing empathy and fostering social cohesion through physical expression.
【Learning Objectives】 1: Understand the characteristics of dance and acquire and reproduce basic techniques. 2: Acquire the ability to "see" by viewing the works of others and various dance genres. 3: Acquire the ability to "create" dance through the realization of the image they wish to express and the ability to communicate it to others. 4 : To be able to facilitate group activities through appropriate communication.
【Learning activities outside of classroom】 Materials and texts necessary for pre- and post-learning will be provided online as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Regular marks (40%): Overall evaluation of the students' attitude toward the class. Submissions (10%): The contents of notes and reports submitted regularly will be evaluated. Practical skills (50%): Students will be evaluated on their ability to dance while deepening their understanding of their own bodies, dance culture, and music.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

ダンス指導論演習

杉山　りん

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校体育における『ダンスの授業』とは、ただ自身が踊って楽しむだけではなく、表現力や他者とのコミュニケーション能力を育てる教育活動である。そのため、自身が踊れるようになるだけでなく、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、学校体育における主要なダンスを体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指す中で、中学・高校における『表現活動』について指導できる力を習得する。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンス領域を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
学校体育の現場で主に採用されている創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスについての概要と基礎を学ぶ。これら基礎を基に、自ら踊る生徒側を体験すると同時に指導する教師としての立場を体験するため、ダンス領域の学習指導案の作成を行う。さらに、作成した学習指導案を元に模擬授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学校体育におけるダンスの役割	学習指導要領におけるダンスの説明を通じて、学校体育で行われるダンスの役割を理解する
第2回	ダンスウォームアップ	授業の導入として行う活動（アイスブレイクやストレッチなど）の方法を理解する
第3回	リズムダンスと即興表現	リズムに乗って即興的に動いたり、即興表現の方法を理解する
第4回	フォークダンス・スポーツいろいろ・ミニ発表会	フォークダンスを体験する・スポーツを題材とした創作ダンスの方法と発表会の開催方法を理解する
第5回	フォークダンス・運動課題からの創作	フォークダンスを体験する・対極の動きの連続を手掛かりとした創作ダンスの方法を理解する
第6回	現代的なリズムのダンス・ダンスバトル	ステップを組み合わせて創作した作品をバトル形式で発表する方法を理解する
第7回	ものを使った表現	もの（新聞紙など）を使った創作ダンスの方法を理解する
第8回	群の変化	集団の動き方のバリエーションを理解する
第9回	イメージ課題	提示されたイメージを動きで表現する方法を理解する
第10回	はこびとストーリー	「はじめ―なか―おわり」の展開を意識した創作方法を理解する
第11回	模擬授業準備	学んだ内容を基に学習指導案を作成する
第12回	模擬授業（1、2班）	作成した学習指導案を元に1、2班が模擬授業を実施する
第13回	模擬授業（3、4班）	作成した学習指導案を元に3、4班が模擬授業を実施する
第14回	模擬授業（5、6班）	作成した学習指導案を元に5、6班が模擬授業を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後学習に必要な資料・テキストは適宜オンラインで配信する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、授業内にて適宜レジュメを配布

【参考書】
① https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1336654.htm
『表現運動系及びダンス指導の手引き』　文部科学省
② https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編
③ https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育偏　体育偏
④全国ダンス・表現運動授業研究会 編（2021）『改訂版　明日からトライ！ダンスの授業　動画付き』大修館書店　2,420円（本体2,200円+税10%）

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
・学習指導案および模擬授業（30%）：学習指導案および模擬授業から評価する。
・最終レポート（30%）：期末に実施するレポートから評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ダンス経験にかかわらず楽しめる授業の体験と、その指導方法を提示してまいります。

【学生が準備すべき機器他】
講義内で用いる資料を学習支援システムから配布することがあります。

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。同一の授業が2コマ開講されますが、どちらの時限にするかご自身の予定をよく考えたうえで履修してください。原則、履修確定後の受講時限の変更は受け付けません。
また、「ダンス実習」の講義を履修しておくとダンスにおける基礎的な知識・技能を把握した状態で本講義に臨めます。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The dance classes offered in physical education programs at schools are not solely for the purpose of allowing students to engage in dance and enjoy themselves, but they also serve as a means for students to enhance their capacity to express themselves and communicate with others, just like other physical activities. As a result, it is crucial not only for students to possess the ability to dance but also for teachers to have a comprehension of "dance expression" and the proficiency to express themselves. Throughout this course, students will have the opportunity to experience significant dance forms offered in school physical education and acquire the capability to teach "expressive activities" in junior high and high schools while focusing on enhancing their expressive and communication skills.
【Learning Objectives】(1) As a physical education instructor, it is essential to possess the ability to teach "expressive activities" in dance. This necessitates the acquisition of knowledge regarding the utilization of the body and the techniques necessary for the expression of dance, fostering a positive attitude towards self-expression, and the capacity to instruct such activities.　(2) The development of communication skills is paramount.　Students can acquire the "expressing one's own opinions while accepting the opinions of others" mentality, as well as the necessary traits to become an effective instructor through group work, including experience in creating works, on an hourly basis.
【Learning activities outside of classroom】The required materials and texts for pre- and post-class studies will be accessible online, as required. The customary time allocated for class preparation and review is two hours.
【Grading Criteria/Policy】Regular points (40%): Overall evaluation of student's attitude toward the class.　Instructional plans and mock classes (30%): Evaluation will be based on instructional plans and mock classes.
Final report (30%): Evaluation will be based on the final report at the end of the term.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

ダンス指導論演習

杉山　りん

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校体育における『ダンスの授業』とは、ただ自身が踊って楽しむだけではなく、表現力や他者とのコミュニケーション能力を育てる教育活動である。そのため、自身が踊れるようになるだけでなく、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、学校体育における主要なダンスを体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指す中で、中学・高校における『表現活動』について指導できる力を習得する。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンス領域を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
学校体育の現場で主に採用されている創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスについての概要と基礎を学ぶ。これら基礎を基に、自ら踊る生徒側を体験すると同時に指導する教師としての立場を体験するため、ダンス領域の学習指導案の作成を行う。さらに、作成した学習指導案を元に模擬授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学校体育におけるダンスの役割	学習指導要領におけるダンスの説明を通じて、学校体育で行われるダンスの役割を理解する
第2回	ダンスウォームアップ	授業の導入として行う活動（アイスブレイクやストレッチなど）の方法を理解する
第3回	リズムダンスと即興表現	リズムに乗って即興的に動いたり、即興表現の方法を理解する
第4回	フォークダンス・スポーツいろいろ・ミニ発表会	フォークダンスを体験する・スポーツを題材とした創作ダンスの方法と発表会の開催方法を理解する
第5回	フォークダンス・運動課題からの創作	フォークダンスを体験する・対極の動きの連続を手掛かりとした創作ダンスの方法を理解する
第6回	現代的なリズムのダンス・ダンスバトル	ステップを組み合わせて創作した作品をバトル形式で発表する方法を理解する
第7回	ものを使った表現	もの（新聞紙など）を使った創作ダンスの方法を理解する
第8回	群の変化	集団の動き方のバリエーションを理解する
第9回	イメージ課題	提示されたイメージを動きで表現する方法を理解する
第10回	はこびとストーリー	「はじめ―なか―おわり」の展開を意識した創作方法を理解する
第11回	模擬授業準備	学んだ内容を基に学習指導案を作成する
第12回	模擬授業（1、2班）	作成した学習指導案を元に1、2班が模擬授業を実施する
第13回	模擬授業（3、4班）	作成した学習指導案を元に3、4班が模擬授業を実施する
第14回	模擬授業（5、6班）	作成した学習指導案を元に5、6班が模擬授業を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後学習に必要な資料・テキストは適宜オンラインで配信する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、授業内にて適宜レジュメを配布

【参考書】
① https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1336654.htm
『表現運動系及びダンス指導の手引き』　文部科学省
② https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　保健体育編
③ https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育偏　体育偏
④全国ダンス・表現運動授業研究会 編（2021）『改訂版　明日からトライ！ダンスの授業　動画付き』大修館書店　2,420円（本体2,200円+税10%）

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
・学習指導案および模擬授業（30%）：学習指導案および模擬授業から評価する。
・最終レポート（30%）：期末に実施するレポートから評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ダンス経験にかかわらず楽しめる授業の体験と、その指導方法を提示してまいります。

【学生が準備すべき機器他】
講義内で用いる資料を学習支援システムから配布することがあります。

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。同一の授業が2コマ開講されますが、どちらの時限にするかご自身の予定をよく考えたうえで履修してください。原則、履修確定後の受講時限の変更は受け付けません。
また、「ダンス実習」の講義を履修しておくとダンスにおける基礎的な知識・技能を把握した状態で本講義に臨めます。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The dance classes offered in physical education programs at schools are not solely for the purpose of allowing students to engage in dance and enjoy themselves, but they also serve as a means for students to enhance their capacity to express themselves and communicate with others, just like other physical activities. As a result, it is crucial not only for students to possess the ability to dance but also for teachers to have a comprehension of "dance expression" and the proficiency to express themselves. Throughout this course, students will have the opportunity to experience significant dance forms offered in school physical education and acquire the capability to teach "expressive activities" in junior high and high schools while focusing on enhancing their expressive and communication skills.
【Learning Objectives】(1) As a physical education instructor, it is essential to possess the ability to teach "expressive activities" in dance. This necessitates the acquisition of knowledge regarding the utilization of the body and the techniques necessary for the expression of dance, fostering a positive attitude towards self-expression, and the capacity to instruct such activities.　(2) The development of communication skills is paramount.　Students can acquire the "expressing one's own opinions while accepting the opinions of others" mentality, as well as the necessary traits to become an effective instructor through group work, including experience in creating works, on an hourly basis.
【Learning activities outside of classroom】The required materials and texts for pre- and post-class studies will be accessible online, as required. The customary time allocated for class preparation and review is two hours.
【Grading Criteria/Policy】Regular points (40%): Overall evaluation of student's attitude toward the class.　Instructional plans and mock classes (30%): Evaluation will be based on instructional plans and mock classes.
Final report (30%): Evaluation will be based on the final report at the end of the term.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

剣道指導論演習

小田　佳子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
中学校および高等学校において保健体育教師として武道（剣道）の授業を展開することができる知識・技能、および実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、暗黙知を形式知に置きかえ理論的に剣道を理解することができるように授業をすすめる。
実技については、授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技・返し技
8	技のふりかえりと模擬授業準備	・指導案作成 ・模擬授業について
9	模擬授業１	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
10	模擬授業２	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
11	模擬授業３	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
12	模擬授業４	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
13	模擬授業５	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
技能習得の段階では、実技レポートを作成すること。
模擬授業を実施するための指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版

【参考書】
（授業において適時、資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教員採用試験を受験するために「剣道実技」対策を必要とする履修生も積極的に歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については大学で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かしわかりやすく指導します。
剣道の理念を考慮しつつ、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めます。

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo) , 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. There is a report assignment after each class.
（Grading Criteria /Policy）
(1) Attitude and contribution to class participation 30%.
(2) Simulated class evaluation 30%
(3) Skills evaluation 40

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

剣道指導論演習

小田　佳子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
中学校および高等学校において保健体育教師として武道（剣道）の授業を展開することができる知識・技能、および実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、暗黙知を形式知に置きかえ理論的に剣道を理解することができるように授業をすすめる。
実技については、授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技 ・返し技
8	技のふりかえりと模擬授業準備	・指導案作成・模擬授業について
9	模擬授業１	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
10	模擬授業２	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
11	模擬授業３	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
12	模擬授業４	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
13	模擬授業５	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
技能習得の段階では、実技レポートを作成すること。
模擬授業を実施するための指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版

【参考書】
（授業において適時、資料を配布する。）

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教員採用試験を受験するために「剣道実技」対策を必要とする履修生も積極的に歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については大学で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かしわかりやすく指導します。
剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めます。

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo) , 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. There is a report assignment after each class.
（Grading Criteria /Policy）
(1) Attitude and contribution to class participation 30%.
(2) Simulated class evaluation 30%
(3) Skills evaluation 40

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

器械運動実習

島本　好平

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業では2つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
また、この授業では複数のグループを形成し、受講者は自らが所属するグループの中で各運動課題の達成に向けた教え合い・学び合いを実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点30%、運動課題の達成状況70％により行う。
教員による運動課題の達成状況の確認（評価）は，一度限りではなく随時何度でも行う。評価は5段階（◎，○，△+，△，△- ）で実施し，努力した分だけ自らの成長を実感できるようになっている

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box. This course also provides skill building about safety on the floor.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The participation attitude: 30%, Gymnastic skills level: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

器械運動指導論演習

島本　好平

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導方法について、主体的に関わる演習形式を通して学習する。

【到達目標】
1)中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を習得できる。
2)指導法を工夫・改善することを習慣化する
3)安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画や評価の方法等について説明を行う。また、ストレッチの重要性や安全面に配慮したグループ学習の意義等について理解を深める。
2	基本学習１	段階的目標設定（スモールステップ）等の効果的なコーチングについてについて理解を深める。
3	基本学習２	指導案計画の作成について学ぶ。
4	模擬授業（マット運動1）【第1グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
5	模擬授業（マット運動1）【第2グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
6	模擬授業（マット運動2）【第1グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
7	模擬授業（マット運動2）【第2グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
8	模擬授業（マット運動3）【第1グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
9	模擬授業（マット運動3）【第2グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
10	模擬授業 （跳び箱1）【第1グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
11	模擬授業 （跳び箱1）【第2グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
12	模擬授業 （跳び箱2）【第1グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
13	模擬授業 （跳び箱2）【第2グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
14	まとめ	授業のまとめと振り返り 器械運動指導演習における気づきや指導方法について、グループディスカッションし、学習した成果を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間 とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
①高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008 ②金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984 ③高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009 ④高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、先生役での模擬授業の実践70％

【学生の意見等からの気づき】
学生からの感想や要望を可能な限り取り入れながら、授業計画を構成していきます。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・シューズ・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the practice opportunities about teaching and coaching skills for facilitating gymnastic class, mat and jumping box exercises safety and effectively.
【Learning Objectives】
By the end of the course, each individual student is expected to have facilitate experiences the gymnastic classes, mat or jumping box exercises, two times.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following

The participation attitude: 30%, Facilitating gymnastic classes: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

器械運動指導論演習

島本　好平

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導方法について、主体的に関わる演習形式を通して学習する。

【到達目標】
1)中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を習得できる。
2)指導法を工夫・改善することを習慣化する
3)安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画や評価の方法等について説明を行う。また、ストレッチの重要性や安全面に配慮したグループ学習の意義等について理解を深める。
2	基本学習１	段階的目標設定（スモールステップ）等の効果的なコーチングについてについて理解を深める。
3	基本学習２	指導案計画の作成について学ぶ。
4	模擬授業（マット運動1）【第1グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
5	模擬授業（マット運動1）【第2グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
6	模擬授業（マット運動2）【第1グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
7	模擬授業（マット運動2）【第2グループ】	「マット運動 接転系技群の基本技2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
8	模擬授業（マット運動3）【第1グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
9	模擬授業（マット運動3）【第2グループ】	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
10	模擬授業 （跳び箱1）【第1グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
11	模擬授業 （跳び箱1）【第2グループ】	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
12	模擬授業 （跳び箱2）【第1グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第1グループ】
13	模擬授業 （跳び箱2）【第2グループ】	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。【第2グループ】
14	まとめ	授業のまとめと振り返り 器械運動指導演習における気づきや指導方法について、グループディスカッションし、学習した成果を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間 とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
①高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008 ②金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984 ③高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009 ④高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、先生役での模擬授業の実践70％

【学生の意見等からの気づき】
学生からの感想や要望を可能な限り取り入れながら、授業計画を構成していきます。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・シューズ・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the practice opportunities about teaching and coaching skills for facilitating gymnastic class, mat and jumping box exercises safety and effectively.
【Learning Objectives】
By the end of the course, each individual student is expected to have facilitate experiences the gymnastic classes, mat or jumping box exercises, two times.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following

The participation attitude: 30%, Facilitating gymnastic classes: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

体つくり運動指導論演習

小野田　桂子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火1/Tue.1
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修者は体育授業において、生徒を体つくり運動に親しませることができる指導力を身に付ける。体つくり運動には「体ほぐし運動」と「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」の領域がある。「体ほぐし運動」は心と体の密接な関係があること、仲間と関わり合うことや気づきの観点がねらいであり、「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」は体力向上の行い方を知ることがねらいである。中学生・高校生を指導する際に運動をすることの楽しさを実感させることを基本に学習し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る力を身につける。

【到達目標】
1)履修者が、中学校・高等学校において体つくり運動の授業を展開することのできる指導力、知識　A1)、A2)、A3)、態度などを主体的、自主的、能動的に力を身につけることができる。
2)環境と運動との関係や世界の諸問題についてを考え、指導法を工夫・改善することを習慣化することにより、「自由と進歩」の実践知を獲得し、思考力・判断力・表現力を身に付けることができる。
3)安全に配慮することができる。
＜レポート課題１＞自己の体力認識
＜レポート課題2＞ 自己の体力維持・改善（実生活に生かす運動計画及び実施報告）
A1)体つくり運動単元の「特性、伸ばしたい資質や能力、指導の留意点、評価のポイント」について説明することができる
A2）学びに向かう力について独自の考えを深め、 論じることができる
A3)学習活動全体を省察し、「履修者自身がどのような資質や能力を伸ばすことができたのか。授業全体を通して考えたこと」について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、グループワークによる協働的な演習を行いアクティブラーニングによる授業展開をしていく。主体的に学習に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進める。毎授業でのリアクションペーパー提出あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本学習　①	授業ガイダンス、体つくり運動理論、【体の動きを高める運動】コーディネーショントレーニング、柔軟1【レポート課題１】自己の体力認識
2	基本学習　②	【体ほぐし運動】道具を使った運動（ボール）【体の動きを高める運動】ストレッチ（携帯電話利用）
3	基本学習　③	【体ほぐし運動】模倣運動・リズムステップ　【体の動きを高める運動】なわとび１、コーディネーショントレーニング
4	基本学習　④	【課題運動提示】ステップ１基本【体ほぐし運動】リズムジャンプグループ【体の動きを高める運動】」コーディネーショントレーニンググループ（ゴム段）【課題運動】リズムステップ２応用
5	基本学習　⑤	【体ほぐし運動】音楽を使った運動、【体の動きを高める運動】なわとび２、【課題運動】リズムステップ３創作と発表練習（タブレットなど利用し、改善点を見つけ学習を進める）
6	基本学習　⑥	【実技試験】リズムステップ（グループ）【レポート課題2】実生活に生かす運動の計画（自身の運動計画）
7	指導案計画確認	グループ分け・指導計画・相談【ICT】タブレットなど利用し、道具を使った運動（なわとび指導）学習をする
8	模擬授業（長縄・柔軟）	「体ほぐし運動・柔軟向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（表現運動・調整力）	「表現運動を取り入れた体ほぐし運動・調整力を高める」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業（ボール・持久力）	「道具を使った（ボール）体ほぐし運動・持久力向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（音楽・瞬発力）	「道具を使った（長縄）体ほぐし運動・柔軟向上」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（フープ・筋力）	「フープを取り入れた体ほぐし運動・筋力向上のため、実生活に生かす運動の計画をする」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。

13	模擬授業（模倣運動・ゲーム（瞬発力））	「模倣運動」「ゲーム・鬼ごっこ」を取り入れた体ほぐし運動・筋力向上のため、実生活に生かす運動の計画をする」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
14	まとめ	体つくり運動授業振り返りとまとめ 【レポート課題３】 A1),A2),A3)について（ディスカッションおよびレポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模擬授業の指導案づくりに際する調べ学習等本授業の準備学習・復習時間は合わせて、4時間となる。アナロゴンを積極的にとりいれる。自らの生活に運動をとり入れ実践することを推奨する。世界の諸問題について体力や生涯スポーツとしての側面から、自身との関係を考える習慣を身につける。

【テキスト（教科書）】
教科書使用なし

【参考書】
【保健体育編　体育編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf
【保健体育編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説
https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf

【成績評価の方法と基準】
【参加態度】40％
①毎回の振り返りにおける「知識・理解」「考える力」「気づき」「独創性」「伝える力」を評価する。
②仲間と協力し、能力を高あう授業への取り組み姿勢と指導方法習得のための積極的な「態度」を評価する。
③自己の指導に問題意識を持ち、改善しようとする「態度」を評価する。
④自己の体調管理ができ、体調不良による不参加を防ぐ「態度」を評価する。
【実技試験】20％
課題運動　リズムステップ
仲間と協力し、想像力を磨き、実践・発表する力を評価する。
【模擬授業点】20％
①体つくり運動の指導案作成により、「理解と知識」を評価する。
②体つくり運動の模擬授業により、指導力と実技力の「実践力」を評価する。
③動機付けについての工夫に対して「取り組む力」を評価する。
【課題レポート】20％
A1)A2)A3)について
記述内容の独創性や自身の考えを後押しする文献などの引用を使い記述されているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実技力の向上や履修者の体力向上にもつながる内容を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
日頃から、自身の体力向上や体調管理に努めていただきたい。水分やタオルは各自用意してください。水分やタオルを各自準備し、体調管理の上、参加する。
リアクションペーパーを毎回記録する。
終了後、自他の体調を振り返り、気づきを記録する。授業の復習をし、自身に不足な体力について考え、生活に運動を取り入れていただきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
There are two types of karadatukuri undou (physical training exercises): karadahogushiundou (body relaxation exercises) and karadanougokiwotakameruundou (physical fitness enhancing exercises). While the purpose of the former is awareness, coordination, and interaction, that of the latter is an understanding of how to improve physical fitness. When teaching junior high and high school students, it is imperative for them to realize the joy of exercising, which will allow them to become involved in physical education and exercise.
【Learning Objectives】
1) Students will be able to acquire leadership, knowledge, and attitudes that enable them to design physical education classes in junior high school and high school independently, voluntarily, and actively.
2) By thinking about the relationship between the environment and exercise and various problems in the world as well as devising and improving teaching methods, students will gain practical knowledge of freedom and progress, enjoy the ability to think and judge, and be able to express appropriately.
3) Safety will be considered.
【Learning activities outside of the classroom】
Two hours will be allocated each to preparatory learning and an opportunity to review the lesson. It is recommended that you incorporate exercise in your own life. Furthermore, acquire a habit of thinking about relationships with yourself from the aspects of physical fitness and lifelong sports with regard to various problems in the world.
【Grading Criteria /Policy】
[Participation attitude] 40%
(1) The attitude of working on lessons that enhance abilities in cooperation with colleagues and a positive attitude related to learning teaching methods will be evaluated.
(2) An awareness of problems in self-guidance and attitude to improve will be evaluated.
(3)The attitude that allows you to manage your own physical condition and prevent non-participation because of one's poor physical condition will be evaluated.
[Practical test] 20%
Exercise rhythm step
Your collaboration with your colleagues, use of imagination, and ability to practice and present will be assessed.
[Mock lesson points] 20%
(1) Understanding and knowledge of developing a teaching plan for physical exercise will be evaluated.
(2) Practical leadership ability and practical skills will be assessed through a mock physical exercise lesson.
(3) Ability to work for ingenuity in motivation will be evaluated.
[Issue Report] 20%
(1) Knowledge and understanding, thinking ability, awareness, creativity, and ability to convey in each review report will be evaluated.
(2) Whether the description is based on the originality thereof and the citations of documents that support one's own ideas will be assessed.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

サッカー実習

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針～U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト(80%), 実技テスト(20%)により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー(U-12) からユース(U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応(個人) 2、対敵での対応(グループ)
4	コミュニケーションの重要性(実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート(実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション(実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本(リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法(スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション(実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3人目の動き(オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム(実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける(体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う(個人・グループ)	アプローチ(インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う(個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論(講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニングⅠ	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針～U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト(80%), 実技テスト(20%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
(Learning Objectives)
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
(Learning activities outside of classroom)
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
(Grading Criteria /Policy)
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

サッカー実習

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針～U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。
成果の評価方法と基準は指導テスト(80%), 実技テスト(20%)により評価する。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー(U-12) からユース(U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』基本的には屋外での講義で身体を動かしながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応(個人) 2、対敵での対応(グループ)
4	コミュニケーションの重要性(実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート(実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション(実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	基本技術のまとめ	キック、トラップ、ドリブルなどのテスト形式でのまとめ
8	フィジカルの基本(リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法(スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション(実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3人目の動き(オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム(実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける(体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う(個人・グループ)	アプローチ(インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う(個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論(講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニングⅠ	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針～U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
成果の評価方法と基準は指導テスト(80%), 実技テスト(20%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.
(Learning Objectives)
Aiming to hold the official qualification of the Japan Football Association, the goal is to acquire skills and tactics that can be used as teachers and soccer instructors.
(Learning activities outside of classroom)
The practice of instruction is the purpose of this class. Prepare for the theme and content in advance. (To be able to create a teaching plan)
① Understand the contents of the Japan Football Association U-12 Guidance Guidelines to U18 Guidance Guidelines.
(2) Prepare for the training with the Japan Football Association instructional textbook.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.
(Grading Criteria /Policy)
The evaluation method and criteria for the results will be evaluated by the instruction test (80%) and the practical skill test (20%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

サッカー指導論演習

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー(U-12)からユース(U-18)レベル(女子も含む)の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方(講義)	●ジュニア(U-12)〜ユース(U-18)までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング(実技) ②ワンタッチ・コントロール(実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践(テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック(実技) ②ヘディング(実技) ③リ・スタート(実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践(テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス(実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション(アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導案の作成	グループにて指導案の作成を行う
13	指導実践	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践の評価	指導者の観点および参加者の観点から指導案と指導内容について評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針〜U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
(財)日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・Jクラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング(大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認Ｃ級コーチ）(公)日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践(60%)，レポート(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実(受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く
3限の授業は経験者を対象としたレベル・強度設定とします。
4限の授業は未経験者を対象としたレベル・強度設定となります。

【Outline (in English)】
(Course outline)This course is to learn about the practice and theory of football.（Learning Objectives） Students will be able to understand how they conduct coaching of football. （Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following coaching practice: 60%、Short reports : 40%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

サッカー指導論演習

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー(U-12)からユース(U-18)レベル(女子も含む)の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方(講義)	●ジュニア(U-12)〜ユース(U-18)までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング(実技) ②ワンタッチ・コントロール(実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践(テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック(実技) ②ヘディング(実技) ③リ・スタート(実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践(テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス(実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション(アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導案の作成	グループにて指導案の作成を行う
13	指導実践	学生が３名(監督１名、コーチ２名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践の評価	指導者の観点および参加者の観点から指導案と指導内容について評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
①(財)日本サッカー協会U-12指導指針〜U18指導指針内容を理解しておく。
②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
(財)日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・Jクラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング(大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認C級コーチ）(公)日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践(60%)，レポート(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実(受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く
3限の授業は経験者を対象としたレベル・強度設定とします。
4限の授業は未経験者を対象としたレベル・強度設定となります。

【Outline (in English)】
(Course outline)This course is to learn about the practice and theory of football.（Learning Objectives） Students will be able to understand how they conduct coaching of football. （Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.（Grading Criteria）Your overall grade in the class will be decided based on the following coaching practice: 60%、Short reports : 40%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バレーボール実習

湯浅　暁子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パス、スパイク、サーブといったバレーボールの基本的な技術を習得するとともに、ゲームを通じて6人制バレーボールの特性について理解することを目的とする。前半の授業では、特にパス，サーブ，スパイクの練習にペアやグループで取り組み、スキルの向上をはかるとともに、指導方法についても学ぶ。後半の授業では，ゲームを通してバレーボールのルール、戦術、審判法を理解する。

【到達目標】
・バレーボールの基本的な技術（パス、スパイク、サーブ）を身につけ、ゲームの中で実践できる。
・チームで競争する楽しさ体験し、仲間と協力しながらゲームを行うことができる。
・6人制バレーボールの特性を理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、バレーボールの基本的な技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブの)の習得のため、主にペアや3人組等のドリル練習を行う。授業の後半は、グループに分かれ、ゲームを中心に展開し、6人制バレーボールのルール、戦術、審判法を解説する。授業の最後に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのスキルチェックテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・バレーボールに有効なストレッチとウォーミングアップ	・授業計画、評価方法の説明 ・用具の名称、使用方法、ネットの設営方法について
2	・オーバーハンドパスのポイント	・オーバーハンドパスを使った二人組のドリル ・ミニゲーム（2対2）
3	・オーバーハンドパスのスキルアップ ・スパイク動作の3局面 ・三段攻撃の練習	・オーバーハンドパスを使った3人組のドリル練習 ・スパイク動作の説明 ・ミニゲーム（3対3）
4	・アンダーハンドパスのポイント ・ディグ	・パスのスキルアップトレーニング ・ディグのポイント解説と練習方法の紹介 ・ミニゲーム（4対4または5対5）
5	・サーブのポイント ・サーブレシーブからの攻撃 ・ローテションなしのゲーム	・サーブのポイント解説と練習方法の紹介 ・サーブレシーブの練習 ・6対6のミニゲーム
6	・「プレーの前後」を理解する ・ブロックの跳び方 ・セッターを固定したゲーム	・これまでのドリル練習の復習 ・ブロックのポイント解説と練習方法紹介 ・Wフォーメンションの説明と実践
7	・ポジションとローテーションの確認 ・基本的なルールの確認 ・ゲーム	・各ポジションの役割を解説 ・ローテーションのルールを理解し、ゲームを行う
8	・ブロックとディグ ・ゲーム ・審判法の確認	・組織的なディフェンスシステムを理解し、ゲームの中で実践する ・審判法を確認し、ゲーム運営も行う
9	・スパイクのテンポ ・リーグ戦①	・スパイクのテンポについて解説し、ゲームの中で実践する ・チーム分けを行い、総当たりのリーグ戦を行う
10	・バックアタック ・リーグ戦②	・バックアタックについて解説し、ゲームの中で実践する ・前回のゲームを振り返り、個人、チームの課題を設定してゲームに取り組む
11	・リベロの役割 ・リーグ戦③	・リベロの役割について解説する ・これまでのゲームを振り返り、個人、チームの課題を設定して、ゲームに取り組む
12	・リーグ戦④ ・スキルチェック（オーバーハンドパス）	・チームを再編成し、リーグ戦を行う ・オーバーハンドのスキルチェックを実施
13	・リーグ戦⑤ ・スキルチェック（アンダーハンドパス）	・前回のゲームを踏まえ、個人、チームの課題を設定してゲームに取り組む ・アンダーハンドパスのスキルチェックを実施
14	・リーグ戦⑥ ・スキルチェック（再テスト）	・これまでのゲームを踏まえ、個人、チームで課題を設定してゲームに取り組む ・希望者を対象にスキルチェックの再テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画を参考に各回の授業前に授業内容に関する下調べや予習を行うとともに、授業後には、個人やチームの課題を整理し、次回授業に備えるため復習を行うこと。各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
公益財団法人日本バレーボール協会編（2017）コーチングバレーボール（基礎編）、大修館書店.

【成績評価の方法と基準】
・バレーボールの基本的な技術に関するテスト20％（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのスキルチェック。授業内に示すチェックポイントに基づき評価する）
・平常点 70％（授業への取り組み、参加状況、チームへの貢献、グループ活動における積極性を評価する）
・レポート 10％（6人制バレーボールの競技特性について、授業での学びを踏まえ、論述する）

【学生の意見等からの気づき】
特に授業の前半はバレーボールの基本的な技術の習得を目的とした授業を展開する。パスやスパイク等に着目した簡易的なゲームを実施し、より実践的にバレーボールの競技特性について学ぶ。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
本授業は秋に開講される「バレーボール指導論演習」の履修に先立って受講することを前提とした内容になっている。教員免許状の取得を希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball basic theory. It also enhances the development of students' skill in Volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball basic theory and skills.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to preparatory learning and review time. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process final report (10%), Volleyball skills test (20%), and in-class contribution (70%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バレーボール指導論演習

湯浅　暁子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの主な戦術、技術(パス、スパイク、ブロック、サーブ、ディグ、セット)の指 導体系と方法論について学ぶ。授業の前半は、バレーボールの基本的な技術を確認しつつ、スキルアップを目指す。授業の後半は、それぞれテーマを決めて授業計画を立案し、模擬授業を実施する。バレーボールの競技特性やコーチングのポイントについて理解を深め、安全に授業を展開できる指導方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】
・バレーボールの戦術、技術、審判法、歴史、用語を説明できる。
・バレーボールの指導に求められる理論的な思考を身につける。
・バレーボールの競技特性を踏まえた指導方法を学び、効果的かつ安全な授業を実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、バレーボールの基本的な技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ等)の向上のため、主にペアや3人組等のドリル練習を行う。授業の後半は、*それぞれ*テーマを決めて模擬授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の確認	・授業計画及び成績評価の説明 ・パスのポイントの確認と練習
2	・パスのコーチング	・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの確認練習 ・指導上のポイントや注意点の解説
3	・スパイクのコーチング	・スパイク動作の確認 ・指導上のポイントや注意点の解説
4	・サーブとサーブレシーブのコーチング	・サーブの打ち方の確認 ・サーブレシーブの練習方法の確認 ・指導上のポイントや注意点の解説
5	・ブロックとディグのコーチング	・ステップの確認 ・ディグの練習方法の紹介 ・指導上のポイントや注意点の解説
6	・レセプションアタックのコーチング	・テンポの確認 ・レセプションアタックに関する練習方法の紹介 ・指導上のポイントや注意点の解説
7	・トータルディフェンスのコーチング	・トータルディフェンスの考え方について学ぶ ・指導上のポイントや注意点の解説
8	・模擬授業テーマの決定と計画の立案	・模擬授業で取り扱うテーマの決定 ・指導案作成のための準備と意見交換
9	・模擬授業の実施①（パス） ・フィードバックとディスカッション	・パスに関する模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
10	・模擬授業の実施②（スパイク） ・フィードバックとディスカッション	・スパイクに関する模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
11	・模擬授業の実施③（サーブとサーブレシーブ） ・フィードバックとディスカッション	・サーブに関する模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
12	・模擬授業の実施④（ブロックとディグ） ・フィードバックとディスカッション	・ブロックに関する模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
13	・模擬授業の実施⑤（レセプションアタック） ・フィードバックとディスカッション	・レセプションに関する模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
14	・ゲームの運営 ・本授業のまとめ	・グループに分かれて、ゲームを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業計画を参考に各回の授業前に授業内容に関する下調べや予習を行うこと。
・授業後には、個人やチームの課題を整理し、次回授業に備えるため復習を行うこと。
・模擬授業の準備、指導計画を作成すること。
・各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
公益財団法人日本バレーボール協会編（2017）コーチングバレーボール（基礎編）、大修館書店.

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業の指導計画内容と実施内容に関する評価30％（授業内に示すチェックポイントに基づき評価する）
・平常点 60％（授業への取り組み、参加状況、チームへの貢献、グループ活動における積極性を評価する）
・レポート 10％（6人制バレーボールの競技特性および指導上のポイントとについて、授業での学びを踏まえ、論述する）

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業の評価に関しては、担当教員から個別のフィードバックを行います。また、学生同士による相互評価も実施し、授業実施者にコメントシート形式で返却します。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
本授業は春学期に開講される「バレーボール実習」の単位修得後に受講することを前提とした内容になっている。教員免許状の取得を希望する学生の履修を基本とする。本授業は、高等学校教員経験を有する教員が担当する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball Teaching Theory and Teaching Techniques. It also enhances the development of students' skill in How to do teaching volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball skills and instruction.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to Preparatory learning and review time. Your required study time is at least four hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the Volleyball mock lesson (30%),final report(10%) and in-class contribution（60%）.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バスケットボール実習

清水　貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大40名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に1対1や2対2を行う
6	実技による対人及び集団技能	1対1、2対2、3対3など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び3対3、4対4を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4対4など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50％）
実技試験による評価（50％）

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第1回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子20名、女子20名の計40名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces basic ability of basketball, learn about the way of refereeing in basketball and the history of basketball to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to basic basketball skills and be able to practice basic movements in a game by understanding the position and role of each player.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected reread the materials distributed in class. Your study time will be more than one hour for class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following overall evaluation of leadership and class participation attitude 50%、evaluation by practical examination 50%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バスケットボール実習

岩見　雅人

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボールの特性やルールを理解し、競技を実施する上で必要となる身体能力や基礎的な技術（ドリブル・パス・シュートなど）について学習する。また，巧みに身体とボールを操作する方法について実践し、その向上法について学ぶ。グループ練習や試合を通じて、基本的なチーム戦術、ならびにプレーおよびコミュニケーションの両方における「積極性」と「協調性」の重要性を理解するとともに，個人・チーム技能向上の喜びや多角的なスポーツの楽しみ方を学ぶ。

【到達目標】
1) バスケットボールの特性やルールについて学び、競技を実施する上でどのような身体能力や基礎的技術が必要となるかを理解し、安全に競技を実践することができる。
2) バスケットボールで求められる基礎的技術について、自身のスキルを正しく分析し、積極的にスキルを改善・向上させ、技能の変化を適切に評価することができる。
3) グループでの取り組みを通じて、「する」「みる」「ささえる」の観点から，スポーツの多角的な楽しみ方を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技で必要な知識や技術について、実技を中心に習得できるように展開していきます。個人技術のスキル評価から、個人技能練習、チーム戦術練習、ゲーム形式へと、段階的に発展させながら進めます。単にプレーをするだけではなく、個人やチーム内でパフォーマンスを分析し、振り返りながら実施していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、履修上の諸注意などのガイダンス、希望者が多い場合は受講者の選抜
2	バスケットボールの歴史・ルール・競技特性について、スキルテストについて	・バスケットボールの歴史、ルール、競技特性について解説 ・スキルテストの内容について説明 ・ミニゲーム
3	スキルテストの実施、基礎的スキルの練習	・スキルテストの実施、結果の分析法について説明 ・基礎的スキルの練習方法について
4	グループ分け、個人技能の練習①	・スキルテストの結果を参考にグループ分け ・個人技能（ドリブル、パス、シュート）の練習法について
5	個人技能の練習②、練習計画の立て方	・個人技能（1対1のオフェンス、ディフェンス）の練習 ・練習計画の立て方（計画表の作成）について
6	個人技能の練習③、3人制（3x3）について	・個人技能（2対2、3対3、スペーシング） ・3人制（3x3）の実施
7	チーム戦術の練習①、3x3の実施	・チーム戦術（ゲームライク・トレーニング）の練習 ・3x3のゲーム実施
8	チーム戦術の練習②、スクリメージ	・チーム戦術（チームオフェンス・ディフェンス）の練習 ・スクリメージの実施
9	チーム戦術の練習③、5対5のゲーム	・チーム戦術（ゲームに向けた戦術）の練習 ・リーグ戦の実施方法について
10	リーグ戦の実施と運営①	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価① ・スカウティングデータの活用について
11	リーグ戦の実施と運営②	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価② ・チームワークについて
12	リーグ戦の実施と運営③	・リーグ戦の実施と運営、ゲームの振り返りと評価③ ・スキルテストの内容確認
13	スキルテストの実施、スキル分析レポートについて	・スキルテストの実施 ・スキル変化の分析レポートの作成について ・ピックアップゲーム
14	授業のまとめ、レポート提出	・授業のまとめと振り返り ・レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バスケットボールの基本的ルールや、基礎的技能の練習法などについて予め準備学習をします。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」，大修館書店，2015.
「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」，大修館書店，2016.
「ファンドリル」，ベースボール・マガジン社，2019.
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）：授業への参加度、態度、意欲等を総合的に評価します。
実技点（30％）：実技における積極性や協調性を総合的に評価します。
課題点（30％）：スキルテストの分析レポートなどの課題から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
積極的に身体を動かしながら、バスケットボールのスキルや戦術を学んでいきます。球技が苦手な人でも、基本的な技術を向上できるメニューを取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には毎回実技を行いますので、運動に適した服装、屋内シューズを準備してください。タオルや水分補給用のボトルを持参し、感染対策が必要な方はスポーツ用マスクを用意することを推奨します。
課題について、Googleフォームを経由して提出していただくことがあります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は、初回授業にて選抜を行います。選抜方法は上級生を優先とし、計40名を上限とします。基本的には、秋学期に行う「バスケットボール指導論演習」を同年度に履修することを条件とします。
＊授業の内容は人数や進捗によって随時変更いたします

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on learning about the essential basketball skills and physical fitness requirements and developing knowledge of the basketball principles, rules, and safety issues. In addition, students will learn how to improve body control with/without the basketball. Through group practice, students will understand basic basketball strategies and the importance of "activeness" and "cooperation" in behavior and communication. Students will also learn the pleasure of improving individual and team performance and how to enjoy sports with others.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-1) Learn about the characteristics and rules of basketball, understand what physical abilities and basic skills are required to conduct the basketball game, and be able to practice safety.
-2) Be able to analyze the basic skills required in basketball, actively improve and enhance their skills, and appropriately evaluate changes in their basketball skills.
-3) Through group activities, be able to discover multifaceted ways to enjoy sports from the perspectives of "doing," "watching," and "supporting.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before each class meeting, students will be expected to have learn the basic rules of basketball and how to practice basketball skills. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class activity: 40%、in class contribution: 30%、skill test report : 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バスケットボール指導論演習

清水　貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。
また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム（運営）展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。）
2	模擬授業（ボールハンドリング・ドリブルについて）	グループ及び1名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業（パス・シュートについて）	グループ及び1名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業（ディフェンス・ボールマンに対する守り方について）	グループ及び1名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業（オフェンス・カッティングプレーについて）	グループ及び1名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業（オフェンス・スクリーンプレーについて）	グループ及び1名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業（オフェンス・アウトナンバープレーについて）	グループ及び1名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業（マンツーマンディフェンスについて）	グループ及び1名がマンツーマンチームディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業（ゾーンディフェンスについて）	グループ及び1名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業（戦術・チームオフェンス、セットプレーについて）	グループ及び1名がオフェンスの戦術（セットプレー）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業（戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて）	グループ及び1名がディフェンスの戦術（ローテーション）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
12	模擬授業（授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて）	グループ及び1名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる（レポート作成）
14	まとめ　各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表（レポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜12回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）
第13回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく
第14回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準 とします

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店
バスケットボール用語辞典　監修　小野修二　小谷究　廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】
参加態度40点　指導案の評価20点　模擬授業の評価20点　レポート20点

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】
※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大40名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール実習の受講後の学生を優先とする。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces acquire knowledge as an instructor or teacher, learn how to teach advanced students and beginners.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to to acquire the leadership skills and knowledge to develop basketball lessons in junior high and high schools as a leader.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected prepare a summary of your reflections on the mock class and areas for improvement. Your study time will be more than one hour for class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following attitude 40%, evaluation of teaching plan 20%, evaluation of mock class 20%, report 20%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バスケットボール指導論演習

岩見　雅人

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、バスケットボールで必要となる基礎的・発展的技術を学び、身体やボールを「安全」かつ「巧み」に操作するための指導法について学習する。バスケットボールの個人技能とチーム戦術についても理解を深め、オンボール（ボールを持っているとき）とオフボール（ボールを持たないとき）の動きなど、「ゴール型競技」に特徴的なルールや戦術、またその指導法について学ぶ。指導実践やゲーム実践を通して振り返りや改善を繰り返すことで、スポーツや身体運動の指導能力を向上させていく。

【到達目標】
1) バスケットボールの特性やルールについて理解し、安全かつ協調的に競技を実施することができる。
2) バスケットボールで求められる身体能力や基礎的技術について理解し、適切に指導計画を立案、指導実践することができる。
3) 指導実践やゲーム実践における自身や他者の指導や活動を振り返り、より適切かつ効果的な指導へと改善していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
指導実践を中心として授業を展開していく。教員やコーチとして指導現場に立った際に、どのように指導計画を立て、指導するかを実践しながら学んでいく。グループワークを積極的に取り入れ、協力・協働して演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明、履修上の諸注意などのガイダンス、指導実践について
2	指導・コーチング方法について、ミニゲーム	・学習指導要領の確認 ・指導やコーチングにおいて重要となるポイントについて ・ミニゲーム
3	グループ分け、安全管理、指導計画の作成方法について	グループ分けし、安全に運動するためのポイント、指導計画の立案・作成方法について解説する
4	指導実践①（ウォーミングアップ）、ゲーム実践	担当者が指導役となり、ウォーミングアップの指導実践をする。生徒役はその実践に対する感想や評価をフィードバックする。
5	指導実践②（ボールハンドリングスキル）、ゲーム実践	ボールハンドリングスキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
6	指導実践③（ドリブルスキル）、ゲーム実践	ドリブルスキルの指導実践をする。生徒役はその実践に対する感想や評価をフィードバックする。
7	指導実践④（パススキル）、ゲーム実践	パススキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
8	指導実践⑤（シュートスキル）、ゲーム実践	シュートスキルの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
9	指導実践⑥（ディフェンス）、ゲーム実践	ディフェンスの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
10	指導実践⑦（チームオフェンス、スペーシング）、ゲーム実践	チームオフェンスなどの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
11	指導実践⑧（ピック＆ロール）、ゲーム実践	ピック＆ロールの指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
12	指導実践⑨（ゲームライク・プラクティス）、ゲーム実践	ゲームライクな練習の指導実践をする。生徒役は実践に対するフィードバックをする。
13	指導実践やゲーム実践の振り返りとまとめ、レポート課題について	・指導実践やゲーム実践の内容を振り返り、自己成長計画を立てる。 ・レポート課題についての説明
14	授業のまとめ、レポート提出	・授業のまとめと振り返り ・レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
バスケットボールの基本的ルールや、スキル・戦術の練習法・指導法などについて予め準備学習をします。指導実践においては、与えられたテーマに対する指導計画を作成します。準備学習や計画作成は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」，大修館書店，2015.
「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」，大修館書店，2016.
「ファンドリル」，ベースボール・マガジン社，2019.
「バスケットボールの動き向上トレーニング」，ベースボール・マガジン社，2021.
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）：授業への参加度、態度、意欲等を総合的に評価します。
実践点（40％）：指導実践や実技の取り組みを総合的に評価します。
課題点（20％）：授業内で課すレポート等の提出物から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体を動かしながらバスケットボールの教授法を体感するとともに、自らが教師（コーチ）役となって指導実践する機会を設けております。バスケットボールだけでなく、様々な競技にも応用できる指導法を扱っていきます。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には毎回実技を行いますので、運動に適した服装、屋内シューズを準備してください。タオルや水分補給用のボトルを持参し、必要に応じてスポーツ用マスクを準備することを推奨します。
課題について、Googleフォームを経由して提出していただくことがあります。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は、受講者の選抜（Google form）を行います。選抜方法は上級生を優先とし、計24名を上限とします。基本的には、春学期開講の「バスケットボール実習」を履修していることを条件とします。
＊指導実践のテーマ等は、人数や授業の進捗に応じて随時変更します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on understanding fundamental/advanced basketball skills and students will learn how to teach to manipulate the body and basketball "safely" and "skillfully". Students also learn characteristics of individual skills and team tactics about "Goal-Oriented Game". Through the teaching practice and basketball game, students will be developing their teaching skills.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-1) Understand the game characteristics and rules of basketball and be able to conduct the game in a safe and cooperative.
-2) Understand the physical abilities and basic skills required for basketball, and be able to plan basketball practice and instruct appropriately.
-3) To be able to reflect on their own and others' basketball practices, and to be able to improve their instruction to make it more appropriate and effective.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before each class meeting, students will be expected to have learn the basic rules of basketball and how to practice and teach basketball skills. Your required study time is at least two hours for each class meeting
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class activity: 40%、in class contribution: 40%、Short reports : 20%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

テニス実習

植村　直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、テニスの基礎技術を学習し、将来、中学校・高等学校の体育授業でのテニス指導ができる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの基本ショットの打ち方、動作を学ぶことができる。
② ルール、マナー、歴史等テニスの専門知識を学ぶことができる。
③ テニス指導法の基礎である段階的指導法とボール出し（フィーディング）の技術を学ぶことができる。
④ 地域のテニス指導者を目指す上での、生涯スポーツ及び競技力向上のコーチングの基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、オンライン・オンデマンド型での開講となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、基本ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第2回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第3回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第4回	グランドストロークの指導法	段階的指導法の実践、フィーディング（ボール出し）の技術
第5回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第6回	ボレーの指導法	段階的指導法、フィーディング（ボール出し）の実践
第7回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第8回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第9回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第10回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第11回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第12回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTAツアーの仕組み
第13回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第14回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
本授業の準備・復習時間は各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTAテニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70％）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30％）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻3回は1回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。
個別に連絡、相談等がある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this class, students will learn the basic skills of tennis that will be necessary in the future when they are involved in tennis instruction, improve their practical skills, and teach tennis technical instruction methods, communication skills, rules, etc. for beginners. The purpose is to learn specialized knowledge.
【Learning Objectives】
The goal is for students to acquire leadership skills, knowledge, and attitudes that will enable them to teach tennis in junior and senior high school physical education classes in the future.
① You can learn specialized knowledge of tennis such as history, rules, and manners.
② You can learn step-by-step teaching methods and ball-feeding techniques, which are the foundation of tennis teaching methods.
③ Learn the basics of lifelong sports and coaching to improve competitiveness in aiming to become a local tennis instructor.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Research the rules and manners of tennis in advance on the Internet and increase your preliminary knowledge.
Make sure you are in good physical condition the day before the practice.
Every time, check the learned technique next time and give feedback.
The standard total time for preparation and review for this class is 1 hour.
【Grading Criteria/Policy】
Comprehensive evaluation will be made based on ordinary points (70%) such as attitude to participate in classes, positiveness, and class attitude, as well as class contents, rules, degree of understanding of specialized knowledge, and level of practical skill (30%). This evaluation is in principle, and we will respond and evaluate visitors due to their health condition on an individual basis.
Please note that being late 3 times will count as 1 absence, so be careful about being late or absent.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

テニス実習

植村　直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、テニスの基礎技術を学習し、将来、中学校・高等学校の体育授業でのテニス指導ができる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの基本ショットの打ち方、動作を学ぶことができる。
② ルール、マナー、歴史等テニスの専門知識を学ぶことができる。
③ テニス指導法の基礎である段階的指導法とボール出し（フィーディング）の技術を学ぶことができる。
④ 地域のテニス指導者を目指す上での、生涯スポーツ及び競技力向上のコーチングの基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、オンライン・オンデマンド型での開講となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、基本6ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第2回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第3回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第4回	グランドストロークの指導法	段階的指導法の実践、フィーディング（ボール出し）の技術
第5回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第6回	ボレーの指導法	段階的指導法、フィーディング（ボール出し）の実践
第7回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第8回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第9回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第10回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第11回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第12回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTAツアーの仕組み
第13回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第14回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTAテニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70％）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30％）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻3回は1回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
各ショットの基礎技術を分かりやすく、上達できるように指導する。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。
体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。
個別に連絡、相談等がある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this class, students will learn the basic skills of tennis that will be necessary in the future when they are involved in tennis instruction, improve their practical skills, and teach tennis technical instruction methods, communication skills, rules, etc. for beginners. The purpose is to learn specialized knowledge.
【Learning Objectives】
The goal is for students to acquire leadership skills, knowledge, and attitudes that will enable them to teach tennis in junior and senior high school physical education classes in the future.
① You can learn specialized knowledge of tennis such as history, rules, and manners.
② You can learn step-by-step teaching methods and ball-feeding techniques, which are the foundation of tennis teaching methods.
③ Learn the basics of lifelong sports and coaching to improve competitiveness in aiming to become a local tennis instructor.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Research the rules and manners of tennis in advance on the Internet and increase your preliminary knowledge.
Make sure you are in good physical condition the day before the practice.
Every time, check the learned technique next time and give feedback.
The standard total time for preparation and review for this class is 1 hour.
【Grading Criteria/Policy】
Comprehensive evaluation will be made based on ordinary points (70%) such as attitude to participate in classes, positiveness, and class attitude, as well as class contents, rules, degree of understanding of specialized knowledge, and level of practical skill (30%). This evaluation is in principle, and we will respond and evaluate visitors due to their health condition on an individual basis.
Please note that being late 3 times will count as 1 absence, so be careful about being late or absent.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

テニス指導論演習

植村　直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、テニスの基礎技術を学習し、将来、中学校・高等学校の体育授業でのテニス指導ができる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの基本ショットの打ち方、動作を学ぶことができる。
② ルール、マナー、歴史等テニスの専門知識を学ぶことができる。
③ テニス指導法の基礎である段階的指導法とボール出し（フィーディング）の技術を学ぶことができる。
④ 地域のテニス指導者を目指す上での、生涯スポーツ及び競技力向上のコーチングの基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。
⑤本授業は、原則対面で実施します。但し、オンライン・オンデマンド型での開講となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、基本ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第2回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第3回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第4回	グランドストロークの指導法	段階的指導法の実践、フィーディング（ボール出し）の技術
第5回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第6回	ボレーの指導法	段階的指導法、フィーディング（ボール出し）の実践
第7回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第8回	ルール、マナー、ゲーム方法	ルール・マナー全般、ゲーム形式
第9回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターン基礎技術練習
第10回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第11回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第12回	テニスの歴史、世界プロテニスツアーの仕組み	グランドスラム大会の歴史、ATP・WTAツアーの仕組み
第13回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第14回	ダブルスゲーム	ダブルス応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックしフィードバックする。
本学学則に鑑みた場合、本授業の準備学習と復習時間は1回につき各2時間を基準として、合わせて4時間以上を基準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「テニス指導教本Ⅰ 公益財団法人日本テニス協会編」(大修館書店)
「JTAテニスルールブック」(日本テニス協会)
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
授業への参画姿勢、積極性、授業態度等の平常点（70％）ならびに授業内容、ルール、専門知識の理解度、実技の上達度（30％）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻3回は1回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
春学期科目のテニス実習を併せて履修することが臨ましい。
体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。
個別に連絡、相談等がある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this class, students will learn the basic skills of tennis that will be necessary in the future when they are involved in tennis instruction, improve their practical skills, and teach tennis technical instruction methods, communication skills, rules, etc. for beginners. The purpose is to learn specialized knowledge.
【Learning Objectives】
The goal is for students to acquire leadership skills, knowledge, and attitudes that will enable them to teach tennis in junior and senior high school physical education classes in the future.
① You can learn specialized knowledge of tennis such as history, rules, and manners.
② You can learn step-by-step teaching methods and ball-feeding techniques, which are the foundation of tennis teaching methods.
③ Learn the basics of lifelong sports and coaching to improve competitiveness in aiming to become a local tennis instructor.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Research the rules and manners of tennis in advance on the Internet and increase your preliminary knowledge.
Make sure you are in good physical condition the day before the practice.
Every time, check the learned technique next time and give feedback.
The standard is 2 hours each for preparation and review, totaling at least 4 hours.
【Grading Criteria/Policy】
Comprehensive evaluation will be made based on ordinary points (70%) such as attitude to participate in classes, positiveness, and class attitude, as well as class contents, rules, degree of understanding of specialized knowledge, and level of practical skill (30%). This evaluation is in principle, and we will respond and evaluate visitors due to their health condition on an individual basis.
Please note that being late 3 times will count as 1 absence, so be careful about being late or absent.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バドミントン実習

升　佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術1	グリップと技術習得
2	基本技術2	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク1	ドライブ
4	基本ストローク2	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク3	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク4	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク5	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編1	オールロング
9	基本技術　応用編2	オールショート
10	シングルス1	フットワーク
11	シングルス2	ゲーム組立
12	ダブルス1	フォーメーション
13	ダブルス2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン　基本と練習法」
出版社：コスミック出版　出版年：2023年

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
技術練習と指導理論の学習をバランス良く行い、ゲームを発展させていく。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バドミントン指導論演習

升　佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論1	講義と実技　「基本ストローク」
3	バドミントン技術論2	講義と実技　「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論3	講義と実技　「フットワーク」
5	バドミントン競技指導1	講義と実技　「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導2	講義と実技　「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論1	講義と実技　「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論2	講義と実技　「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技　「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技　「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技　「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析1	講義と実技　「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析2	講義と実技　「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回〜14回：準備学習、復習、課題
本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】
升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン　基本と練習法」
出版社：コスミック出版　出版年：2023年

【参考書】
DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術練習と指導理論の学習をバランス良く行い、ゲームを発展させていく。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】 This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】) Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ソフトボール実習

北川　純也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：火1/Tue.1
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，基礎的技術を生かしながらゲーム形式の活動に取り組むことができるようになることを目的とする．

【到達目標】
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールのゲームに必要な知識および安全面への配慮や留意点を理解し，説明することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
基本的技術を習得するため，屋外での実技を基本とする．ただし，ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には，屋内での講義も実施する（天候等による急な変更もあり得る）．また,毎授業にリアクションペーパーの提出を必須とする．
授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問等は，その次の授業の際に取り上げて全体に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第2回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第3回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第4回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第5回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第6回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第7回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第8回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第9回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第10回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第11回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第12回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第13回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第14回	学期末まとめと試験	まとめ・理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：授業のスケジュールや準備事項等の確認．
第２〜１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（５０%）・授業時の課題提出（２０%）・テスト（３０%）から評価する．
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールのゲームに必要な知識および安全面への配慮や留意点を理解し，説明することができる．
・授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この科目（ソフトボール実習）の単位取得後、「ソフトボール指導論演習」についても履修することを推奨．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The aim of this course is to acquire fundamental softball skills — throwing, catching, hitting, and running— and to learn knowledge of the rules and safety considerations, thereby enabling students to engage in game-based activities while applying these basic skills.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain the knowledge, safety considerations, and important points required to play softball games.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Experiment/Practice(one-credit)
1：Check class schedule and preparations
2 13 ： Review of the previous class and preparation for the next class(including short reports)
14：Comprehensive review
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50%, Short reports : 20%, Term-end examination: 30%.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ソフトボール指導論演習

北川　純也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：火2/Tue.2
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技，ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための屋内での講義を実施する(天候等による急な変更もあり得る)．指導方法を習得するための実技では，小グループでの相互指導（模擬授業）を行う．また,毎授業にリアクションペーパーの提出を必須とする．
授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問等は，その次の授業の際に取り上げて全体に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第2回	さまざまな練習方法（守備・ピッチング）	守備とピッチングについての練習方法の紹介とその意図
第3回	さまざまな練習方法（打撃・走塁）	打撃と走塁についての練習方法の紹介とその意図
第4回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリーへの指導方法と留意点
第5回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第6回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第7回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第8回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第9回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第10回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第11回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第12回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第13回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第14回	学期末まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：ソフトボール実習の復習（基本的な技術およびルールの理解）.
第２〜１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）.
第１４回：総合的な復習.
本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（４０%）・授業時の課題提出（２０%）・相互指導（模擬授業）レポート（２０%）・学期末レポート課題（２０%）から評価する．
・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．
・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．
・ソフトボールの指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
・授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この授業は，「ソフトボール実習」を理解することが前提となる．
「ソフトボール指導論演習」のみの履修は基本的には認めない．

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.
【Learning activities outside of classroom】
Lecture/Exercise(two-credits)
1：Preparation for basic skills and rules
2 13 ： Review of the previous class and preparation for the next class(including short reports)
14：Comprehensive review
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 40%, Short reports : 20%, Mock lesson : 20%, Term-end reports: 20%.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Students can demonstrate the basic skills of softball in the game.
-B. Students can understand and explain the characteristics, rules, and tactics of softball competition.
-C. Students can understand and explain necessary knowledge, safety considerations and points to keep in mind in order to teach softball.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

陸上競技実習

苅部　俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の「走・跳・投」における身体技法と基礎理論を、実技を通じて深く理解する。受講者の習熟度に応じた段階的な指導プロセスを実習し、動作分析に基づく的確な助言や、安全かつ効果的な練習プログラムの立案・遂行能力を養成する。実技指導の反復により、現場で通用する実践的な指導技術を習得する。

【到達目標】
陸上競技の「走・跳・投」の実技能力を磨き、指導者に不可欠な理論と技術を体得する。各種目の特性に応じた指導法やトレーニング計画の立案を実践し、教員採用試験にも対応し得る高度な技能とパフォーマンス能力を習得する。学生同士の模擬指導や動作分析を通じ、現場の課題に即応できる実践的な指導力を総合的に養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
陸上競技の「走・跳・投」に関する技術習得と、科学的知見に基づく指導法を実践する。生理学やバイオメカニクスの視点から動作特性を理解し、実技を通じ技能の習熟を図る。さらにトレーニング理論や心理学を応用した計画立案とコーチングを学び、発育発達に応じた適切な指導実践能力と高度なパフォーマンス力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の歴史・特性について学習する。
第2回	陸上競技の基礎	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第3回	走運動の理論 （短距離走）	短距離走のルールを学び、その指導法、疾走動作について学習する。
第4回	走運動の実技 （短距離走）	スタート、疾走動作の実践、タイムトライアルの実施。
第5回	走運動の理論 （ハードル走）	ハードル走のルールを学び、その指導法、ハードリング動作について学習する。
第6回	走運動の実技 （ハードル走）	ハードル走の実践、タイムトライアルを行う。
第7回	走運動の理論 （長距離）	長距離競技の特性、ルール、指導法を学習する。
第8回	走運動の実技 （長距離）	長距離競技の実践、タイムトライアルを行う。
第9回	跳躍運動の理論 （走幅跳）	走幅跳の特性、ルール、指導方法、跳躍動作について学習する。
第10回	跳躍運動の実技 （走幅跳）	走幅跳の実践、トライアルを行う。
第11回	跳躍運動の理論 （走高跳）	走高跳の特性、ルール、指導法を学習する。
第12回	跳躍運動の実技 （走高跳）	走高跳の実践、トライアルを行う。
第13回	投運動の理論 （砲丸投）	砲丸投の特性、ルール、指導法を学習する。
第14回	投運動の実技 （砲丸投）	砲丸投の実践、トライアルを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習復習を必須とするが、特に実技を実施する授業の前に、前回授業に実施する競技特性、ルールなどの復習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技初級編
財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（60％）と実技得点（40％）による。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides a scientific foundation for mastering and coaching track and field (running, jumping, and throwing). Students will apply principles of exercise physiology and biomechanics to practical techniques, while learning to design training programs based on training theory and sport psychology.
【Learning Objectives】
The objective of this course is to enhance practical skills in track and field (running, jumping, and throwing) while acquiring the essential coaching theories and techniques required for future instructors. Specifically, students will master effective instructional methods tailored to the characteristics of each event and learn to develop training plans based on scientific principles.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: practical examination (60%) and usual performance score (40%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

陸上競技指導論演習

髙橋　誠

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の実技を通じて理論を学習し、将来の指導者としてのあり方を学び、指導方法やトレーニングの計画法を身につける。教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
陸上競技の走・跳・投についての技術習得および指導の為の科学的な知識を得る事を目的に、運動生理学やバイオメカニクスなどといったスポーツ科学の視点から陸上競技を捉え理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導方法を学習する。また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案方法について学習する。
第2回	走運動の理論・指導（短距離走）	短距離走のルールを学び、その理論および指導法を学習する。
第3回	走運動の実践及び指導実践（短距離走）	走運動を実践し、その指導方法を学ぶ。
第4回	走運動の理論および指導法（リレー競技）	リレー競技を実施し、その指導法を学ぶ。
第5回	走運動の理論および指導法（ハードル競技）	ハードル走のルールを学び指導法を学習する。
第6回	跳躍運動の理論および指導（走幅跳・三段跳）	走幅跳・三段跳のルールを学び、その理論および指導法を学習する。
第7回	跳躍運動の理論および指導（走高跳・棒高跳）	走高跳・棒高跳のルールを学び、その理論および指導法を学習する。
第8回	跳躍運動の実践および指導実践（走幅跳）	跳躍運動を実施し、その指導法を学ぶ。
第9回	投運動の理論および指導（砲丸投・円盤投）	砲丸投・円盤投のルールを学び、その理論および指導法を学習する。
第10回	投運動の理論および指導（やり投げ・ハンマー投げ）	やり投げ・ハンマー投げのルールを学び、その理論および指導法を学習する。
第11回	投運動の実践および指導実践（砲丸投）	投運動を実施し、その指導法を学ぶ。
第12回	走運動の指導案作成と指導実習	走運動の指導案を作成し、模擬授業を行う。
第13回	跳躍運動の指導案作成と指導実習	跳躍運動の指導案を作成、模擬授業を行う。
第14回	投運動の指導案を作成と指導実習	投運動の指導案を作成し、模擬授業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし、第2〜14回：陸上競技の指導法について予習復習を実施する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー16・19基礎からに身につく陸上競技初級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店、陸上競技指導教本アンダー16・19レベルアップの陸上競技上級編　財）日本陸上競技連盟　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献（60％）、提出物（40％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度は、授業担当者が変更となったため、アンケート結果はありません。授業内でのコミュニケーションを重視し、学生の意見を授業改善に積極的に取り入れていき、学生にとって有意義な時間となる講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course,students will learn and master the training theories and Coaching methods of track-and-field.
【Learning Objectives】
The goals of this course learn to the training theories and coaching methods of track-and-field.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process:
Practical examination (40%)and usual performance score(60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

野外教育実習（スノー）

高見　京太、島本　好平

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：スプリングセッション/Spring Session ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウインタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウインタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】
ウインタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウインタースポーツの技術と指導及び野外教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、
①受講者全員がスキーならびにスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。
②SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。
③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメーキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・11月下旬と1月上旬にそれぞれ1回ずつ事前学習を実施する。
・スキー場での実習は、2月下旬の日程で上信越地方のスキー場にて実施する。
・実習前半の日程でスキーを、後半の日程でスノーボードを、それぞれ自身に合ったレベルの班に所属し実践する。
・実習期間中には日誌に、実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載して、自らの能力向上と野外教育指導者として活動できる基盤の養成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第１回事前学習（11月下旬）	スノー・スポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
2	第２回事前学習（1月上旬）	スキーまたはスノーボードの基本事項を確認し、滑走運動のメカニズムについて学習する。
3	開講式・班編成	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループ編成をする。
4	１日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎および基本技術の練習を行う。
5	１日目夜の講義	ビデオ映像をもとに、基礎および基本技術について議論する。
6	２日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本および初級技術の練習を行う。
7	２日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本および初級技術の到達状況を確認する。
8	２日目夜の講義	ビデオ映像をもとに、基本および初級技術について議論する。
9	３日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級および中上級技術の練習を行う。
10	３日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級および中上級技術の到達状況を確認する。
11	３日目夜の講義	野外教育について議論する
12	４日目午前の実技講習	様々な滑走技術やグランドトリックの練習を行う。
13	実技テスト	ＳＡＪの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する
14	閉講式・実習の振り返り	実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】
・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟(スキージャーナル社)

【成績評価の方法と基準】
・実習前講義を、正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点(11%)
・レポート課題(20%)
・実習の平常点(34%)
・ワークショップの平常点(15%)
・実技テスト(10%)
・実習日誌(10%)

【学生の意見等からの気づき】
現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Experience the wonders and charms of skiing or snowboarding.
-Obtain objective evidence based on the SAJ (Ski Association of Japan) badge test.
-Aim to become a leader who has acquired the necessary qualities and attitudes as a practical skill, life management, decision-making leader, which is necessary when engaging in youth education in the future.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
・the quality of the students' experimental performance(11%)
Report assignment (20%), Normal point of training (34%), Workshop normal points (15%), Practical test (10%), Training diary (10%)

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

柔道実習

佐藤　伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：1〜4年次／1単位
曜日・時限：土1/Sat.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
・学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。
・礼法を習得する。
・受け身を習得し、安全に柔道ができるようにする。
・柔道の基本動作（構え、組み方、歩き方、体さばき）を習得することで投げ技と固め技がスムーズに行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順1	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順2	体落とし
5	練習法の理解とその実際1	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順1	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順2	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際2	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順1	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順2	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
・まず受け身を身につけることが肝要であり、安全にも結びつくので、授業以外でも場所を見つけて受け身の練習をしてください。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢と礼法　40％
・受け身テスト（後ろ、横、前、前まわり）20％
・技能テスト（授業で取り上げた投げ技と固め技）40％

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の柔道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Judo is a culture unique to Japan that originated from Jiu-jitsu, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, To be able to enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat.
【Learning Objective】
To be able to attack and defend with the throwing techniques and katame-techniques.
To master “Rei-hou".
To master "ukemi" so that students can perform judo safely.
To master the basic movements of Judo (stance, kumi-kata, way of walking, and bodywork) so that students can smoothly execute nage-waza and katame-waza.
【Learning activities outside of classroom】
The first thing to do is to learn “ukemi", which will lead to safety, so please find a place outside of class to practice “ukemi".
The standard total preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation in class and courtesy 40%
“Ukemi" test (back, side, front, and forward): 20%.
Skills test (“nage” and “katame’ techniques covered in class) 40%

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：土1/Sat.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・原則として対面授業を行う。
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案の発表し、それに対して全員でコメントおよび修正できるようにする。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	仮模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	仮模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	仮模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	仮模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	仮模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	仮模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
柔道独特の特殊な動作が多いので、デモンストレーションができるようにその習得に時間をかけてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 1.5 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50％
グループを作り先生役と生徒役に分かれ模擬授業を行います。授業のテーマの選び方、テーマに対する授業の組み立ての整合性、デモンストレーションの巧拙、言葉のわかりやすさなどを評価します。
・平常点　（小レポート）　　50％
積極的な授業参加度合いと小レポートで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Martial arts is a culture unique to Japan that originated from martial arts, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, It is an exercise where you can enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat. Practice making the martial arts class.
【Learning Objective】
To be able to conduct safe and effective classes that take advantage of the characteristics of martial arts.
To choose words that are easy for students to understand, and to give effective demonstrations that help them understand.
For those who wish to advance their skills, we will introduce opportunities for dan promotion and other means to help them become dan masters.
【Learning activities outside of classroom】
The students will be instructed in class, but they should also read the Health and Physical Education section of the Courses of Study for Junior High Schools and High Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology). Since there are many special movements unique to judo, please take time to learn them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Practice class exam 50%.
Students will be divided into groups and take on the roles of teacher and students to conduct a mock class. The teacher and students will be evaluated on how they choose the theme of the class, the consistency of the class structure with respect to the theme, the skill of their demonstration, and the clarity of their language.
Ordinary score: 50%.
Evaluation will be based on the degree of active participation in class and comments made.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位
曜日・時限：土2/Sat.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・原則として対面授業を行う。
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案の発表し、それに対して全員でコメントおよび修正できるようにする。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	仮模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	仮模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	仮模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	仮模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	仮模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	仮模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。
柔道独特の特殊な動作が多いので、デモンストレーションができるようにその習得に時間をかけてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　　50％
グループを作り先生役と生徒役に分かれ模擬授業を行います。授業のテーマの選び方、テーマに対する授業の組み立ての整合性、デモンストレーションの巧拙、言葉のわかりやすさなどを評価します。
・平常点　（小レポート）　　50％
積極的な授業参加度合いと小レポートで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が30名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline 】
Martial arts is a culture unique to Japan that originated from martial arts, etc., and by learning basic movements and basic techniques according to the movement of the opponent, attacking the opponent and defending the opponent's technique, It is an exercise where you can enjoy the fun and joy of competing for victory or defeat. Practice making the martial arts class.
【Learning Objective】
To be able to conduct safe and effective classes that take advantage of the characteristics of martial arts.
To choose words that are easy for students to understand, and to give effective demonstrations that help them understand.
For those who wish to advance their skills, we will introduce opportunities for dan promotion and other means to help them become dan masters.
【Learning activities outside of classroom】
The students will be instructed in class, but they should also read the Health and Physical Education section of the Courses of Study for Junior High Schools and High Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology). Since there are many special movements unique to judo, please take time to learn them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Practice class exam 50%.
Students will be divided into groups and take on the roles of teacher and students to conduct a mock class. The teacher and students will be evaluated on how they choose the theme of the class, the consistency of the class structure with respect to the theme, the skill of their demonstration, and the clarity of their language.
Ordinary score: 50%.
Evaluation will be based on the degree of active participation in class and comments made.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スイミング実習

金田　和也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての心構え・安全管理・指導法・水中運動の特性理解を学ぶ。
同時に、4泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく楽しく泳げるようになること。
水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4泳法の基本技能（泳法・ターン・スタート）を説明し実践できる。
100m個人メドレーを完泳できる
水中運動の基本理論（抵抗・揚力・推進力等）を説明できる。
安全管理上の留意点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	学習内容の理解	授業の流れや課題を確認し、水の特性から中高年者や障がいをもった人、有疾患者への活用が推奨される水中運動の基本的な理論を理解する
実技	自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
実技	自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション(呼吸付き) コンビネーション
実技	自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
実技	背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
実技	背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
実技	背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする。
実技	平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
実技	平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
実技	平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする。
実技	バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
実技	バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
実技	バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする。
実技	個人メドレー①	4種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎ（日本選手権の決勝の映像・ストローク回数や選手の呼吸時の顔の向き、体の浮き方など）を予習復習すること。メモを残す程度で構いませんので、気になったこと気づいたことを箇条書きで提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と100m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【Outline (in English)】
Students will learn the mindset required of a coach, safety management, teaching methods, and an understanding of the characteristics of underwater exercise.
At the same time, they will be able to swim all four strokes (freestyle, backstroke, breaststroke, and butterfly) correctly and enjoyably.
As well as deepening their understanding of the historical background of swimming and the characteristics of underwater exercise, they will master resistance, lift, and propulsion through underwater exercise.
Through practical exercises, they will learn common swimming style errors and teaching methods for each event.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スイミング実習

金田　和也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての心構え・安全管理・指導法・水中運動の特性理解を学ぶ。
同時に、4泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく楽しく泳げるようになること。
水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4泳法の基本技能（泳法・ターン・スタート）を説明し実践できる。
100m個人メドレーを完泳できる
水中運動の基本理論（抵抗・揚力・推進力等）を説明できる。
安全管理上の留意点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。
他施設をお借りしての授業となります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	授業の流れや課題などを確認いたします。	授業の流れや課題を確認し、水の特性から中高年者や障がいをもった人、有疾患者への活用が推奨される水中運動の基本的な理論を理解する
実技	自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 水中運動。
実技	自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション(呼吸付き) コンビネーション
実技	自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
実技	背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
実技	背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
実技	背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする。
実技	平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
実技	平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
実技	平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする。
実技	バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
実技	バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
実技	バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする。
実技	個人メドレー①	4種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎ（日本選手権の決勝の映像・ストローク回数や選手の呼吸時の顔の向き、体の浮き方など）を予習復習すること。メモを残す程度で構いませんので、気になったこと気づいたことを箇条書きで提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と100m個人メドレーを行う）受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline (in English)】
Students will learn the mindset required of a coach, safety management, teaching methods, and an understanding of the characteristics of underwater exercise.
At the same time, they will be able to swim all four strokes (freestyle, backstroke, breaststroke, and butterfly) correctly and enjoyably.
As well as deepening their understanding of the historical background of swimming and the characteristics of underwater exercise, they will master resistance, lift, and propulsion through underwater exercise.
Through practical exercises, they will learn common swimming style errors and teaching methods for each event.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スイミング指導論演習

金田　和也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「指導の心構え、安全管理、指導法、泳法の科学的理解」を学ぶ。
中高生が水泳に親しめるように、安全で効果的な指導を計画・実施するための視点を獲得する。
中高生向けの水泳授業の指導案を作成できる／４泳法の基本的誤りを指摘し、改善のための指導ができる

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4種目(自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ)の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として100m個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。
水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス 基本	技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
基本技能の復習	自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
基本技能の復習	背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
基本技能の復習	背泳ぎの模擬授業	３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
基本的技能の復習	平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
基本的技能の復習	平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
基本的技能の復習	バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
基本的技能の復習	バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
基本的技能の復習	個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
基本的技能の復習	個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
指導案作成	模擬授業 自由形 背泳ぎ	6〜8名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
指導案作成	模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6〜8名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
実技	救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
講義	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方: ８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と100m個人メドレーのタイム測定を行う）
他施設をお借りしての授業となります

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【Outline (in English)】
Learn about "teaching mindset, safety management, teaching methods, and a scientific understanding of swimming strokes."
Gain the perspective to plan and implement safe and effective lessons so that junior and senior high school students can enjoy swimming.
Be able to create lesson plans for swimming lessons for junior and senior high school students. / Be able to point out basic mistakes in the four swimming strokes and provide guidance for improvement.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スイミング指導論演習

金田　和也

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「指導の心構え、安全管理、指導法、泳法の科学的理解」を学ぶ。
中高生が水泳に親しめるように、安全で効果的な指導を計画・実施するための視点を獲得する。
中高生向けの水泳授業の指導案を作成できる／４泳法の基本的誤りを指摘し、改善のための指導ができる

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4種目(自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ)の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として100m個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。
水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	技能の復習	自由形について　　個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
基本	自由形について	
基本技能の復習	自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
基本技能の復習	背泳ぎ 背泳ぎの基本的指導について学ぶ。	背泳ぎの模擬授業 ３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する
基本技能の復習	平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
基本技能の復習	平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
基本技能の復習	バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
基本技能の復習	バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
基本技能の復習	個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
基本技能の復習	個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
基本技能の復習	自由形 背泳ぎ	6〜8名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
基本技能の復習	平泳ぎ バタフライ	6〜8名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
指導案作成　模擬授業	救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
指導案作成　模擬授業	講義	指導者の役割と責務、安全管理の原則
実技	講義2	事故対応のケース、学校現場の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方: ８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と100m個人メドレーのタイム測定を行う）
他施設をお借りしての授業となります

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】
将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。

【Outline (in English)】
Learn about "teaching mindset, safety management, teaching methods, and a scientific understanding of swimming strokes."
Gain the perspective to plan and implement safe and effective lessons so that junior and senior high school students can enjoy swimming.
Be able to create lesson plans for swimming lessons for junior and senior high school students. / Be able to point out basic mistakes in the four swimming strokes and provide guidance for improvement.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ハンドボール実習

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要：
本授業では、ハンドボールの基礎理論、技能、そして指導方法について深く学びます。小学校、中学校、高等学校での体育の授業における学習指導要領に基づき、ハンドボールの指導に必要な知識と技能を修得します。
目的：
ハンドボールの歴史、基本的な技術の名称、試合ルール、試合運営の方法、戦術や戦略、技能の動作原理、指導法、効果的な練習方法などについて理解を深めることを目的としています。また、これらの理論的知識を基に、指導に必要な実践的技能を身に付けることを目標とします。
この授業を通して、学生はハンドボールの指導者として必要な、包括的な知識と技術を習得することができるようになります。授業では、理論的な学習だけでなく、実技を通じた体験学習も重視され、学生はハンドボールの技能だけでなく、指導する際のポイントも学ぶことができます。

【到達目標】
ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し，ハンドボールの各ポジション・ゲームに求められる技術や戦術を理解できる。ハンドボール試合にてプレーできる。
ポジション別の役割理解：
ハンドボールの各ポジションにおける役割と重要性を理解する。
ポジションごとの基本的な動きや必要なスキルを学ぶ。
技術と戦術の習得：
ゲームに必要な基本的な技術（パス、シュート、ドリブル、守備など）を修得する。
ゲーム中における戦術的な判断やポジショニングについて学び、理解を深める。
ゲーム展開能力の向上：
ゲームを通して実際のプレイ状況における応用力を養う。
チームとしての協調性やゲーム展開に関する意識を高める。
実戦でのプレイ能力：
実際のハンドボール試合に参加し、学んだ技術や戦術を実践する。
ゲームを通じて、実戦での判断力、技術力、チームワークを向上させる。
この授業を通して、学生はハンドボールの理論だけでなく、実際のゲームで必要とされる技術、戦術、チームプレイについて深い理解を得ることができます。また、実際の試合を通じて、理論を実践に活かす能力を養成し、ハンドボール指導者としての基礎を固めることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
GSA(game sense approach), 様々なサイドゲームを導入し,常に戦術的な課題解決しながら必要な技術とルールを学ぶ。学生によるグループディスカッション形式にて課題解決を行う。
実践的な学習：
GSA（Game Sense Approach）を採用し、実際のゲーム状況をシミュレーションすることで、戦術的な判断力と技術を同時に養います。
様々なサイドゲーム（ゲーム形式の練習）を導入し、実戦に近い状況での学習を促進します。
戦術的課題解決：
ゲーム中に遭遇する様々な戦術的な課題に対して、適切な技術と戦術の選択を行います。
学生は、ゲームを通じて出会う課題に対し、必要な技術とルールを理解し、適用することを学びます。
グループディスカッション：
学生はグループディスカッション形式で課題解決を行います。これにより、チームとしての協力性やコミュニケーション能力が向上します。
各グループはゲーム中に遭遇する様々な状況について討議し、最適な解決策を共同で導き出します。
総合的なスキルの習得：
この授業方法により、学生は単なる技術習得に留まらず、ゲームを読む力、状況判断力、チームで働く力など、ハンドボールにおける総合的なスキルを身に付けます。
本授業では、ゲームセンスアプローチを核とし、実際のゲームに近い形での学習を通じて、学生がハンドボールの技術だけでなく、戦術的な理解と実践能力を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認
2回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム①	ハンドボールボールの投げ方、キャッチ
3回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム②	基本的なシュート（ランニング、ステップ、ジャンプ）を学ぶ
4回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム③	有効なステップワーク（ステップワーク／オフザボール動きを学ぶ）
5回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム④	ディフェンスの基本技術を習得する
6回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑤	各ポジションにおけるシュート技術を習得する
7回	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑥	各ポジションにおけるディフェンスの考え方、及技術を習得する
8回	シュート技術・ルールテスト	シュートフォームの評価を行い、ルールに関する理解を深める
9回	ゴールキーパーの基礎技術、ゲーム	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
10回	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム①	２〜３人で連携してプレーする。スペースの作り方。
11回	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム②	防御における２〜３人の連携、及ゴールキーパーとの連携
12回	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム①	基本的な攻撃と防御システムを学ぶ。マンツーマンディフェンスとそれに対する攻撃
13回	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム②	ゾーンディフェンスとそれに対する攻撃
14回	まとめ、ハンドボール紅白試合	学生達が運営したハンドボール試合を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ハンドボール試合視察
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
ルールテスト 25%, 技術テスト 25%, 授業の総合評価(ゲームの理解、及び取り組み） 50%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course offers an immersive exploration of handball through the dual lenses of athletic mastery and pedagogical expertise. Aligned with the National Curriculum Standards for elementary and secondary education, the program equips students with the specialized knowledge required to lead physical education classes with confidence. Participants will analyze the historical evolution of the sport, master technical terminology, and gain a sophisticated understanding of game management, officiating, and strategic play. Beyond theoretical study, the course emphasizes the biomechanics of movement and the implementation of high-impact training methodologies. Through a blend of rigorous theory and hands-on practical application, students will develop the ability to break down complex skills for learners, ensuring they graduate as well-rounded educators capable of delivering safe, effective, and inspiring handball instruction across all school levels.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Understand the roles and responsibilities of each position in handball and apply position-specific skills and movement patterns in game situations.
Execute fundamental techniques — including passing, shooting, dribbling, and defense — and demonstrate tactical awareness in game play.
Apply game-sense thinking to make appropriate tactical decisions during matches, contributing effectively to team play and cooperation.
Participate in actual handball matches, putting learned skills and strategies into practice with sound judgment and teamwork.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to observe handball matches — whether live or recorded — to deepen their understanding of game tactics and player movement. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Rules Test: 25%

Skills Test: 25%
Overall Class Performance (game comprehension and engagement): 50%
A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

ハンドボール指導論演習

ＮＥＭＥＳ　ＲＯＬＡＮＤ　ＪＡＮＯＳ

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要：
この授業は、中学生および高校生を対象としたハンドボールの指導方法に特化しています。年齢とスキルレベルに応じた指導の重要性を理解し、それぞれの段階で求められる指導のアプローチを学びます。ハンドボールの種目特性を深く理解し、生徒がこのスポーツを楽しむことができるような体育授業の展開方法を掌握します。
目的：
指導力の養成：
年齢とスキルレベルに合わせた指導技術を習得し、中学生および高校生の生徒に適切な指導ができるようにします。
生徒がハンドボールに親しむことができる教育的なアプローチを学びます。
種目特性の理解：
ハンドボール特有の動きやルール、戦術などの種目特性を深く理解し、指導に活かす能力を養成します。
ルールと安全管理：
ハンドボールのルール、審判法に関する知識を深め、試合の公平性を保つための理解を高めます。スポーツとしての安全管理に関する知識を身に付け、生徒が安全にスポーツを楽しめる環境を整える能力を養成します。
フェアプレイの促進：
フェアプレイを遵守する態度についての教育を重視し、スポーツマンシップを育む指導力を身に付けます。
この授業を通じて、学生は中高生を対象としたハンドボール指導に必要な総合的なスキルと知識を習得し、教育者としての資質を高めることができます。

【到達目標】
基礎的な技術、戦術、知識、態度の習得と授業展開能力の向上。
基礎的な技術の習得と指導：
生徒に対して、ハンドボールの基本技術（パス、シュート、ドリブル、守備など）を効果的に指導し、習得させる能力を身に付けます。
戦術的理解と指導：
ゲーム中心の授業を通じて、生徒がハンドボールの戦術的な側面（ポジショニング、チームプレイ、戦略など）を理解し、実践できるように指導します。
知識の伝達と理解：
ハンドボールのルール、歴史、重要な戦術などに関する知識を生徒に伝え、深い理解を促します。
正しい態度の育成：
スポーツマンシップ、チームワーク、リーダーシップ、フェアプレイなど、ハンドボールを通じて正しい態度を育成します。
授業展開能力の向上：
小学校、中学校、高等学校の各教育段階に応じた、ゲームを中心としたハンドボール授業を展開できる能力を養います。
生徒の興味を引き、積極的に参加させる授業計画と実施技術を身に付けます。
この授業を通して、履修者はハンドボールの基礎的な技術、戦術、知識を生徒に効果的に伝え、育成することができるようになります。また、生徒にポジティブな態度を促し、スポーツとしての価値を理解させることで、全体的な教育的成果を向上させることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業アプローチ：主体的な学習と協働的演習
模擬授業の展開：
授業は、基礎と基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めます。
生徒一人一人が教師の役割を経験し、実際の授業展開を模擬的に行うことで、指導力の向上を目指します。
主体的な学習：
履修者は自ら積極的に授業に参加し、自分の学びを深める姿勢を重視します。それぞれが教育者としての視点を持ち、自発的に教材の研究や授業計画の立案を行います。
協働的な演習：
グループワークを通じて、協働的な学習と演習を行います。これにより、コミュニケーション能力やチームで働く能力が養われます。
各グループは共同で授業計画を立案し、模擬授業を実施することで、実践的な指導力を磨きます。
反省とフィードバック：
模擬授業の後は、参加者全員で反省会を行い、互いにフィードバックを与え合います。
客観的な意見を取り入れることで、指導力の向上と自己改善を目指します。
この授業方法により、履修者は教育者としての基本的なスキルを習得するとともに、協働することの重要性と効果を実感することができます。また、主体的に学び、実践することで、より深い理解と実践的な指導力を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認、指導に関する原理・原則の解説
2回	ハンドボールの歴史と現況	ハンドボール競技の発展、ルール・戦術の発達
3回	ハンドボールの特性及び指導理論	ハンドボールのゲーム構造 攻撃と防御の技術と戦術、一貫指導、年代別指導、学校体育での指導
4回	個人技能の習得	コートプレーヤーの基礎技術とゲーム
5回	個人戦術力の習得	コートプレーヤーの個人戦術とゲーム
6回	グループ戦術力の習得	コートプレーヤーのグループ・チーム戦術とゲーム
7回	ゴールキーピング技能の習得	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
8回	まとめとテスト 指導案作成	ルールのテスト ２〜３名のグループに分かれ、担当する模擬授業の指導案を作成する
9回	模擬授業１	担当グループが「攻撃の基礎技術（パス・シュート）」をテーマとし、伝統的な指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
10回	模擬授業２	担当グループが「攻撃の基礎技術（ドリブル・フットワーク）」をテーマとし、伝統的な指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
11回	模擬授業３	担当グループが「防御の基礎技術」をテーマとし、伝統的な指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
12回	模擬授業４	担当グループが「防御の基礎技術」をテーマとし、ゲーム形式の指導法を使い、模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
13回	模擬授業５	担当グループが「攻撃におけるグループ戦術」をテーマとし、ゲーム形式の指導法を使い、。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
14回	まとめ、紅白試合	模擬授業のまとめと振り返り ・試合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループプレゼンの準備が求められる。
未定本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
必要に応じて資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【参考書】
必要に応じて資料を配布する。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【成績評価の方法と基準】
発表25％、指導案の評価25%、授業の総合評価25%、テスト25%
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズを準備すること。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course provides a comprehensive foundation in the theory and practice of teaching handball to Junior and Senior High School students. Participants will master the art of age-appropriate instruction, learning to adapt technical drills and tactical concepts to match the developmental stages of secondary students. The curriculum focuses on three core pillars: Tactical Mastery, where students analyze the unique movement patterns and strategies of handball; Professional Management, covering the intricacies of refereeing, official rules, and rigorous safety protocols; and Character Education, emphasizing the promotion of Fair Play and sportsmanship. By the end of the term, students will have developed a robust instructional toolkit, enabling them to design safe, high-energy, and inclusive physical education environments that foster both athletic excellence and a lifelong passion for the sport.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Effectively instruct fundamental handball techniques — including passing, shooting, dribbling, and defense — to secondary school students.
Guide students in understanding and applying tactical elements such as positioning, team play, and game strategy within a game-centered learning framework.
Communicate the rules, history, and key tactics of handball clearly and accurately to students.
Foster positive attitudes including sportsmanship, teamwork, leadership, and fair play through handball instruction.
Plan and deliver age-appropriate, game-centered handball lessons suited to junior high and senior high school physical education settings.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to prepare group presentations and lesson plans outside of class time, including researching teaching materials and designing mock lesson content in collaboration with group members. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation: 25%
Lesson Plan Evaluation: 25%
Overall Class Performance: 25%
Written Test: 25%
Additional minor assignments may be given during specific class sessions. The collective results of these tasks may contribute to the final examination grade. A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導演習（サッカー）

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、日本サッカー協会（JFA）公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、青少年期のサッカー指導に必要な基礎的知識および実践的指導力を身につけることを目的とする。具体的には、サッカーの技術・戦術に関する基本的理解に加え、発育発達段階に応じた指導方法、安全管理、指導者としての倫理観やコミュニケーション能力について学ぶ。さらに、実技演習や指導実践を通して、指導計画の立案、トレーニングの構成、指導の振り返りができる指導者としての基礎的能力の習得を目指す。

【到達目標】
サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認 C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形態を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント メディカル	チーム運営の方法を学ぶ。 医学的な理解を深める。
第4回	ゲーム	ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニック	サッカーにおけるテクニックについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】
JFAサッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
日本サッカー協会公認 C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本授業は集中形式で行う。受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format.
Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.
Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.
Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' understanding of both the theory and practice of football coaching.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to understand and conduct basic football coaching.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to complete required assignments after each class meeting, and the expected study time is more than four hours per week.
【Grading Criteria / Policy】
The overall grade will be determined based on practical coaching assessment (90%) and a written quiz related to the course content (10%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導実習（サッカー）

井上　尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、日本サッカー協会（JFA）公認C級コーチライセンス講習会のカリキュラムに準拠し、青少年期のサッカー指導に必要な基礎的知識および実践的指導力を身につけることを目的とする。具体的には、サッカーの技術・戦術に関する基本的理解に加え、発育発達段階に応じた指導方法、安全管理、指導者としての倫理観やコミュニケーション能力について学ぶ。さらに、実技演習や指導実践を通して、指導計画の立案、トレーニングの構成、指導の振り返りができる指導者としての基礎的能力の習得を目指す。

【到達目標】
サッカー指導者としての初歩として、指導に必要な基本的な知識、スキルを身につけ、育成年代の選手に対する指導が適切に行えるようにする。
日本サッカー協会公認 C級コーチライセンスを取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導に関し、講義・ディスカッション・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第2回	発育発達と一貫指導 サッカーの競技精神	発育による心と身体の変化を知る。 プレーする心がまえについて理解を深める。
第3回	チームマネジメント メディカル	チーム運営の方法を学ぶ。 医学的な理解を深める。
第4回	ゲーム	ゲームから課題を見つける。受講生同士でディスカッションを行い、観る眼を養う。
第5回	テクニック	サッカーにおけるテクニックについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第6回	戦術	サッカーにおける戦術についての講義から実際に指導実践に取り組む。
第7回	ゴールキーパー	サッカーにおけるゴールキーパーについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第8回	プランニング	トレーニングのプランニングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第9回	コーチング	コーチングについての講義から実際に指導実践に取り組む。
第10回	指導実践①	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第1グループ1回目。
第11回	指導実践②	設定されたテーマにおいて、コーチ役が実際にプランニングからコーチングを行う。第2グループ1回目。
第12回	指導実践③	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第1グループ2回目。
第13回	指導実践④	前回の指導実践の反省を踏まえて指導実践を行う。第2グループ2回目。
第14回	筆記試験	本講義全体を通した内容についての試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておく。1回につき4時間以上が望ましい。

【テキスト（教科書）】
JFAサッカー指導教本
公益財団法人日本サッカー協会

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
日本サッカー協会公認 C級コーチライセンス講習会の基準に基づき採点をする
指導実践評価（90％）
筆記テスト（本授業に関する内容に関する小テストを行う）（10％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本授業は集中形式で行う。受講人数を制限して行うため、受講者選抜を後期開始時に行う
必要に応じてオンラインによる講義を実施する可能性がある
指導実践ならびにに実技実践を伴うため、そうした活動ができる学生に限る
This class is basically conducted in an intensive format.
Guidance and online lectures (during the second semester) will be given in advance for the 2nd and 3rd lectures.
Since the number of participants is limited, student selection will be conducted at the beginning of the second semester.
Limited to students who can perform such activities because it involves teaching practice and practical skill practice.

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' understanding of both the theory and practice of football coaching.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to understand and conduct basic football coaching.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to complete required assignments after each class meeting, and the expected study time is more than four hours per week.
【Grading Criteria / Policy】
The overall grade will be determined based on practical coaching assessment (90%) and a written quiz related to the course content (10%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導演習（陸上）

苅部　俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、学童期から少年期（ジュニア期）におけるスポーツ指導のあり方を、理論と実践の両面から多角的に探究する。対象時期の発育発達（身体・心理・社会性）の特性を深く理解した上で、個々の成長段階に適した効果的な指導プログラムの立案・実施能力を養う。具体的な事例検討や模擬指導を通じて、安全管理、モチベーション維持、技術指導のポイントを体験的に学習し、将来の指導現場で即戦力となる実践的指導力を身に付ける。

【到達目標】
学童期から少年期（発育発達期）を対象としたスポーツ指導の方法について、理論と実践の両面から学習する。青少年のスポーツ（特に陸上運動、陸上競技）の指導者に必要な専門知識を深め、成長段階に応じた安全かつ効果的な指導計画の立案・実施能力を養うことを目的とする。発育発達の特性（身体的・心理的・社会的側面）を理解し、現場で直面する具体的な指導課題に対応できる実践的指導力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発育発達期におけるトレーニング理論、指導法、および学童期から少年期特有のスポーツ障害や心理的特性について学習する。理論習得後、ジュニアクラブチームでの指導実習を通じて実践的理解を深める。実習期間中は指導計画の立案と実施方法の検討を行い、終了後には活動成果、反省点、および今後の改善策についての報告・プレゼンテーションを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、クラブチームの紹介、総合型地域スポーツクラブの紹介
第2回	発育発達① 身体、運動能力の発達	身体と運動の発育発達を学ぶ。
第3回	発育発達② 心の発達・スポーツ心理	心の発育発達について理解を深める。
第4回	発育発達③ トレーニングと障害、危機管理	発育発達期におけるトレーニング法や疾病、傷害、さらに危機管理を学ぶ。
第5回	学童期の指導法 体力指導	学童期の指導法 陸上運動を軸とした基礎、体力要素の指導法を学ぶ。
第6回	ジュニアの指導法 技術指導	ジュニア期の指導法 陸上競技を軸とた運動の基礎、技術要素の指導法を学ぶ。
第7回	スポーツクラブの実際	総合型地域スポーツクラブ 部活動、外部指導の実際について理解を深める。
第8回	指導実習① 学童（低学年） 導入	低学年の陸上運動の指導 陸上運動の導入、基礎動作の指導を実習する。
第9回	指導実習② 学童（低学年） 技術	低学年の陸上運動の指導 陸上運動の基礎、技術の指導を実習する。
第10回	指導実習③ 学童（高学年）の指導 導入	高学年の陸上運動の指導 導入、基礎動作の指導を実習する。
第11回	指導実習④ 学童（高学年）の指導 技術	高学年の陸上運動の指導 陸上運動の基礎、技術の指導を実習する。
第12回	指導実習⑤ 中学生の指導	中学生の陸上競技の指導 陸上競技の基礎の指導を実習する。
第13回	指導実習⑥ 高校生の指導	高校生の陸上競技の指導 陸上競技の技術の指導を実習する。
第14回	まとめと解説	指導の報告と発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習前は指導法の確認、実習後は報告書の作成を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度(50%)、実習(50%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course integrates theory and practice to explore coaching methodologies for youth sports. Students will examine developmental characteristics to design age-appropriate programs, while acquiring essential skills in safety management, motivation, and technical instruction through practical exercises.
【Learning Objectives】
This course integrates theory and practice to explore coaching methodologies for youth sports, specifically track and field. Students will examine developmental characteristics to design age-appropriate programs, while acquiring the practical skills and scientific knowledge required for effective instruction.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Assessment is based on active contribution to class discussions and activities (50%) and the evaluation of practical field experience (50%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

青少年指導実習（陸上）

苅部　俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、学童期から少年期（ジュニア期）におけるスポーツ指導のあり方を、理論と実践の両面から多角的に探究する。対象時期の発育発達（身体・心理・社会性）の特性を深く理解した上で、個々の成長段階に適した効果的な指導プログラムの立案・実施能力を養う。具体的な事例検討や模擬指導を通じて、安全管理、モチベーション維持、技術指導のポイントを体験的に学習し、将来の指導現場で即戦力となる実践的指導力を身に付ける。

【到達目標】
学童期から少年期（発育発達期）を対象としたスポーツ指導の方法について、理論と実践の両面から学習する。青少年のスポーツ（特に陸上運動、陸上競技）の指導者に必要な専門知識を深め、成長段階に応じた安全かつ効果的な指導計画の立案・実施能力を養うことを目的とする。発育発達の特性（身体的・心理的・社会的側面）を理解し、現場で直面する具体的な指導課題に対応できる実践的指導力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
発育発達期におけるトレーニング理論、指導法、および学童期から少年期特有のスポーツ障害や心理的特性について学習する。理論習得後、ジュニアクラブチームでの指導実習を通じて実践的理解を深める。実習期間中は指導計画の立案と実施方法の検討を行い、終了後には活動成果、反省点、および今後の改善策についての報告・プレゼンテーションを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、クラブチームの紹介、総合型地域スポーツクラブの紹介
第2回	発育発達① 身体、運動能力の発達	身体と運動の発育発達を学ぶ。
第3回	発育発達② 心の発達・スポーツ心理	心の発育発達について理解を深める。
第4回	発育発達③ トレーニングと障害、危機管理	発育発達期におけるトレーニング法や疾病、傷害、さらに危機管理を学ぶ。
第5回	学童期の指導法 体力指導	学童期の指導法 陸上運動を軸とした基礎、体力要素の指導法を学ぶ。
第6回	ジュニアの指導法 技術指導	ジュニア期の指導法 陸上競技を軸とた運動の基礎、技術要素の指導法を学ぶ。
第7回	スポーツクラブの実際	総合型地域スポーツクラブ 部活動、外部指導の実際について理解を深める。
第8回	指導実習① 学童（低学年） 導入	低学年の陸上運動の指導 陸上運動の導入、基礎動作の指導を実習する。
第9回	指導実習② 学童（低学年） 技術	低学年の陸上運動の指導 陸上運動の基礎、技術の指導を実習する。
第10回	指導実習③ 学童（高学年）の指導 導入	高学年の陸上運動の指導 導入、基礎動作の指導を実習する。
第11回	指導実習④ 学童（高学年）の指導 技術	高学年の陸上運動の指導 陸上運動の基礎、技術の指導を実習する。
第12回	指導実習⑤ 中学生の指導	中学生の陸上競技の指導 陸上競技の基礎の指導を実習する。
第13回	指導実習⑥ 高校生の指導	高校生の陸上競技の指導 陸上競技の技術の指導を実習する。
第14回	まとめと解説	指導の報告と発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習前は指導法の確認、実習後は報告書の作成を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度(50%)、実習(50%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course integrates theory and practice to explore coaching methodologies for youth sports. Students will examine developmental characteristics to design age-appropriate programs, while acquiring essential skills in safety management, motivation, and technical instruction through practical exercises.
【Learning Objectives】
This course integrates theory and practice to explore coaching methodologies for youth sports, specifically track and field. Students will examine developmental characteristics to design age-appropriate programs, while acquiring the practical skills and scientific knowledge required for effective instruction.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Assessment is based on active contribution to class discussions and activities (50%) and the evaluation of practical field experience (50%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

野外教育実習（マリン）

井上　尊寛、木下　訓光

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義2	水上および水中での活動環境について
4	講義3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習2	スキューバダイビングの機材について ダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習3	スキューバダイビングの技術について1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習4	スキューバダイビングの技術について2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習1 ボードセイリング	機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深め、操作技術について学習する
10	現地実習2 スキューバダイビング	水中で自由に移動する技術の獲得(中性浮力)、さらに、教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
11	現地実習3 シーカヤック	カヤックやパドルの形状や機能、および潮の満ち引きや川の流れ、風との関係についても理解し、自由に操れるような操作技術について学習する
12	現地実習4 ウェイクボード	器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解し、水面に立ち、ボードをコントロールするための技術について学習する
13	現地実習5 スタンドアップパドル	用具の理解や特徴を捉え、自由に海面を進めるような技術について学習する
14	総括	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて資料を配布する
本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度(30%)、授業内に行う小レポート(30%)、終了後の課題レポート(40%)などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline
This course aims to provide students with the knowledge and practical skills necessary to enjoy marine sports throughout their lives, as well as to develop a foundational understanding required to act as leaders in marine sports activities at Ishigaki Island.
Learning Objectives
By the end of the course, students will be able to:
Demonstrate a positive and proactive attitude toward outdoor and marine activities.
Understand the basic knowledge and safety considerations necessary for participating in marine sports.
Show readiness to support and lead group activities in marine sports settings.
Learning activities outside of classroom
Students are expected to complete assigned tasks and review class content after each session.
The standard amount of time required for preparation and review for this course is approximately four hours per class session.
Grading Criteria / Policy
The final grade will be determined based on the following components:
Final report: 40%
Short reports and assignments: 30%
In-class participation and contribution: 30%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

野外教育実習（キャンプ）

島本　好平、望月　拓実、笹澤　吉明

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近郊に豊かな自然を有する多摩キャンパスの立地を活かし、自然に親しみ、自然環境への理解と関心を深めることを目的とした野外教育実習を実施する。

【到達目標】
自然に親しむゲーム・アクティビティを通して自然環境への理解と関心を深めるとともに、今日の野外教育の動向や自然に潜む危険性に対する認識も高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
事前学習として、大学校内において野外教育に関する講義と簡易な実習、野外における衛生管理に関する講義を受ける。その後、校外において宿泊を伴う野外実習を行い、自然に親しみ、自然に対する理解や認識を深め、自己の気付きや変化等に対するレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	校内学習および校外学習に関する説明、服装等の準備物、健康上の諸注意、授業評価について、等
2	野外教育について（講義）	社会環境の変化等による自然への理解や認識の不足、自然への対応力の不足が指摘される中で、今日に求められる野外教育について学習する。
3	野外での健康・衛生管理について	怪我・疾病に対する応急処置、細菌性及び自然毒食中毒発生防止のための衛生管理の配慮事項等について学習する。
4	自然に親しむ簡易ゲーム①：自然を観る	大学校内で「自然を観る」ゲームを実践する。
5	自然に親しむ簡易ゲーム②：自然を探す	大学校内で「自然を探す」ゲームを実践する。
6	自然に親しむ簡易ゲーム③：生態系を感じる	大学校内で「生態系を感じる」ゲームを実践する。
7	校外実習①-「自然を観る」	多摩近郊の野外において「自然を観る」活動やゲームを実践する。
8	校外実習②-「自然を触る」	多摩近郊の野外において「自然を触る」活動やゲームを実践する。
9	校外実習③-「自然を味わう」	多摩近郊の野外において「自然を味わう」活動を実践する。
10	校外実習④-「自然を聴く」	多摩近郊の野外において「自然を聴く」活動を実践する。
11	校外学習⑤－「自然を探す」	多摩近郊の野外において「自然を探す」活動を実践する。
12	振り返り①「グループ・ディスカッション」	自然への気づき、認識、理解という点から、感得したものや学習成果についてグループ・ディスカッションを行う。
13	校外実習⑤-「自然への対応」	自然を利用した冒険教育系の野外活動を実施。
14	振り返り②「レポート提出」	自己の自然への気づき、認識、理解の深まり等について振り返りを行い、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は2時間、復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度配付する。

【参考書】
自然体験活動研究会編『野外教育の理論と実践』
熊條歩『学校教育を活かす自然体験教育』

【成績評価の方法と基準】
積極的な体験活動への参加とその態度（60％）、振り返り（最終）レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
記載不要

【学生が準備すべき機器他】
野外での活動に適した服装、シューズ等

【その他の重要事項】
体調を整えて参加すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the valuable opportunities to have experiences natural environment of Okutama in western area of Tokyo.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to learn the positive attitude toward outdoor activities.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The main outdoor activities: 60%, The final report: 40%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

体つくり運動実習

田丸　由紀子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／1単位
曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つの領域がある。それぞれのねらいについて、前者は、自他の心身への気付きや、互いに交流することであり、後者は、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動を行うことである。履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
その他、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「体くつり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で,その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例(1)・柔軟(静的ストレッチ)	気付くという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例(2)・柔軟(動的ストレッチ)	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本と発展	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の基礎と発展方法を学ぶ 覚えた動きを多人数に指導する
6	個人・ペア・グループで動く組体操の基本と発展	体の使い方と組体操について基本と発展を学ぶ
7	ペア・グループで行う組立て体操の基本と発展	体の使い方と組立体操について基本と発展を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展(1)	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展(2)	Gボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展(3)	縄を用いて,その特性に応じた体つくり運動の基本と発展を学ぶ
11	日用品を用いた動きの基本と発展	ペーパー類を用いて,その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習1	これまでに習得した運動を小グループで相互に指導することで,指導方法に関する基礎的な能力を身に着ける
13	小グループによる指導演習2	これまでに習得した運動を小グループで相互に指導することで,指導方法に関する発展的な能力を身に着ける
14	試験・まとめと解説	各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ,発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－
体操教本　株式会社図書出版

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。試験の評価には、毎時間行われる課題の達成度も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
運動量を増やし、実際の課題への達成度が高くなるよう柔軟性や律動性をあげられるようにする。
他者の動きや作った作品を見るにあたり、評価の観点をより明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
動きやすい服装・体育館シューズ・筆記用具・水分補給できるもの

【その他の重要事項】
授業テーマにより、レスリング場での実施もあるため、毎時間の使用教室を各自確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
This course introduces Body-building exercise and learn about the safety aspects of body-building exercise to students taking this course.
The aim of this course is to help students acquire understanding body-relaxing exercise” , “exercise to enhance body movement and instructional method.
This course deals with the gymnastics toold and daily nexcessities. It also enhances the development of students’ skill in teaching method.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:Movement andexecution of body-building exercises according to the various aims of the exercise, Develop basic teaching skills.
Learning activities outside of classroom
・Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to be encouraged to adopt and practice body building exercises in their own lives. Your study time will be more than 1 hours for a class.
】
Grading Criteria /Policies
例1： Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Usual performance score : 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

安藤　正志

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らあるいは他人の健康管理ができるようになることが授業の目的である。
検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ
健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める
健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を学ぶ

【到達目標】
上級生あるいは教員と協同して課題に取り込むことで、身体機能の測定やメンテナンスを指導できる能力を身につけ、健康管理と指導の実践に必要な知識と技術を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業形態は、運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し自ら学ぶ課題解決型学習と実習形態である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	機能解剖学実習（運動器を中心に復習する）	共同で復習と学習する
3	機能解剖学知識のまとめ	健康管理やトレーニングに必要な機能解剖学を獲得しているかを確認する
4	ストレッチング実習１（頚部・上半身）	共同でストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
5	ストレッチング実習２（体幹・下半身）	共同でストレッチングの技術を実習をしながら獲得する
6	ストレッチング実習３（復習）	ストレッチングの基礎テクニック30手技を復習する
7	ストレッチング知識と技術のまとめ	健康管理やトレーニングに必要なストレッチング技術を獲得しているかを確認する
8	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習２１（頚部・上半身）	共同でマッサージの技術を実習をしながら獲得する
9	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習２（頚部・上半身）	共同でマッサージの技術を実習をしながら獲得する
10	筋・筋膜リリース（マッサージ）実習３（復習）	マッサージが代表的な筋（30）に実施できるか確認する
11	マッサージ知識と技術のまとめ	健康管理やトレーニングに必要なマッサージ技術を獲得しているかを確認する
12	検査測定実習１（バイタルサイン）	バイタルサイン（血圧・脈拍・呼吸）の測定実習
13	検査測定実習２（頚部・上肢の可動域測定）	頚、肩、肘、手関節の可動域測定実習
14	検査測定実習３（体幹・下肢の可動域測定）	体幹、股、膝、足関節の可動域測定実習
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	検査測定実習４（上肢・筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
17	検査測定実習５（下肢・筋力測定）	ハンドヘルドダイナモメーターを使用して個々の筋力を測定する
18	検査測定実習（四肢長・周径測定）	四肢長・四肢周径の測定方法を学び実習する
19	検査測定実習（まとめ）	基本的な検査測定技術が獲得されたかを確認する
20	トレーニング実習１（健康増進）	健康増進を目的とするトレーニングを立案し実施する
21	トレーニング実習２（筋力増大）	筋力増強を目的とするトレーニングを立案し実施する
22	トレーニング実習３（全身持久力増大）	全身持久力増大を目的とするトレーニングを立案し実施する
23	トレーニング実習４（器具・マシーン）	トレーニング器具やマシーンを使用したトレーニングを体験する
24	検査測定で得られたデーター処理方法を学ぶ	データ分析 t検定、相関分析、分散分析など
25	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表１	発表資料作成（３名程度の学生）
26	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表２	最終課題発表（前回以外の３名程度の学生）
27	健康科学・トレーニング科学に関する文献調査と課題発表３	最終課題発表（前回以外の３名程度の学生）
28	同じゼミ生の卒業研究発表会に参加する	研究発表の仕方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の調査、報告書のまとめなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツリハビリテーション学会監修　JSSR認定トレーナー教本（※この授業を履修するとJSSR認定トレーナー試験資格が得られます）

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点；積極的発言や態度、単元ごとの検定やテストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】
より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。
実技を中心に体験型の授業とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

【Outline (in English)】
Course outline:
The course outline is as follows. We will learn about basic health fitness tests, functional anatomy, stretching techniques, training techniques, and relaxation techniques.
Learning Objectives:
Learning Objectives is about getting basic health care and implementing health promotion programs.
Learning activities outside of classroom:
For Learning activities outside of classroom, please review and practice what you learned in class.
Grading Criteria:
Grading Criteria is determined by the performance of the assignment and the results of the certification exam.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

泉　重樹

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける2年次のテーマは以下の3つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】
本ゼミにおける2年次の到達目標は以下の3点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対してHOPSに基づいた評価ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際（図書館実習）	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学：筋骨格系／上肢	機能解剖学（筋骨格系／上肢）の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学：筋骨格系／下肢	機能解剖学（筋骨格系／下肢）の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学：筋骨格系／体幹	機能解剖学（筋骨格系／体幹）の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学：神経系	機能解剖学（神経系）の演習・小テストを行う。
8	実技演習：テーピング・下肢	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・下肢）を習得する。
9	実技演習：テーピング・上肢	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・上肢）を習得する。
10	実技演習：テーピング・体幹	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・体幹）を習得する。
11	実技演習：他のコンディショニング	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（ストレッチング）を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価：診察学	HOPSおよびSOAPについて学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価：応急処置	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価：まとめ	ロールプレイを通してHOPSを実践する。
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価：夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。
16	肩関節の外傷・障害に関する発表	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害に関する発表	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
18	頚部の外傷・障害に関する発表	頚部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習：肩関節の評価	これまでの肩関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
20	実技演習：膝関節の評価	これまでの膝関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
21	実技演習：頚部の評価	これまでの頚部の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
22	実技演習：総合演習	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
23	腰部の外傷・障害に関する発表	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害に関する発表	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害に関する発表	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害に関する発表	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習：これまでの総合演習	これまでの評価について、実技による実践練習・試験の練習を行う。
28	実技試験とフィードバック	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行うとともにフィードバックをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
第15回：春学期の復習
第16〜28回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】
1. 日本スポーツ協会編：日スポ協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１〜６. 2022
2. 坂井建雄，松村譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系. 医学書院. 2011
3. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編. 大修館. 2011
4. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング. 医歯薬出版. 2013
5.Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
6. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第2版. 文光堂. 2015
7. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
8. 独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 2023
9. 広瀬統一, 泉重樹, 福田崇, 稲見崇孝編. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社. 2023

【成績評価の方法と基準】
平常点（80％），ゼミ内容や課外活動への取り組み（20％）　出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等も鑑みながら、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
アスレティックトレーナーはスポーツ科学と医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で受講生達はよく頑張ってくれている。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purposes of the athletic training seminar 1 are as follows, 1.learning knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. to have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. 3. to conduct a literature search for previous research.
【Learning Objectives】The following are the three goals of this seminar: 1. to acquire knowledge of functional anatomy; 2. to be able to do a literature search; 3. to be able to do a HOPS-based evaluation.
【Learning activities outside of the classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Evaluated comprehensively based on normal scores(80%), seminar content(20%), and extracurricular activities.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

伊藤　真紀

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての基本となる知識を総合的に学習する。「マネジメント（基本と原則）」を読み、マネジメントの基本を学修した後、スポーツマネジメント並びにスポーツ組織行動論の基礎知識を学習する。

【到達目標】
１．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
２．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる。
３．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前期の授業では、マネジメントならびにスポーツマネジメントに関わる基礎理論について講義を行い、スポーツマネジメント学についての基本となる知識を習得する。後期の授業では、スポーツ組織行動論に関する講義を行い、総合的にスポーツマネジメントを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則)、マネジメントの生成と発展について学習する。 マネジメントの生成から現代までの一連の流れを学習する。
3	マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義、スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
5	スポーツビジネスとは	スポーツビジネスの現状、市場について学ぶ。
6	スポーツとメディア	スポーツとメディアの関係について学習する。スポーツ組織とメディアリレーショ ン・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは? 戦略の立て方について学習する。
7	スポーツリーグマネジメント	スポーツビジネスとお金に関わる事例 を経営学的な視点から考えていく。ス ポーツリーグ運営について学習する。
8	スポーツチームマネジメント	スポーツビジネスとお金に関わる事例 を経営学的な視点から考えていく。ス ポーツチーム運営について学習する。
9	企業の社会的責任とスポーツ	スポー ツを使ったCorporate social responsibility(CSR)事例研究)について学習する。
10	ケーススタディー１	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例について課題に取り組む
11	ケーススタディー２	第９回の授業に続き、ケーススタディーについてグループディスカッションを行う
12	プレゼンテーションの方法について	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	プレゼンテーション準備	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う 準備を行う
14	前期最終プレゼンテーション	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う
15	後期授業オリエンテーション	後期の授業の進め方について説明を行う。次年度に向けた授業方針の確認を行う。
16	スポーツ組織について	スポーツ組織における組織形態について学習する。日本のスポーツに関する 政策各スポーツ団体の組織構造について学び、スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、そ れらの評価手法について学習する。
17	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1.リーダーシップ特性論 2.リーダーシップ行動論 3.リーダーシップ条件適応理論 4.変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、 スポーツ組織における効果的なリー ダーシップの在り方について学習する。
18	スポーツ組織におけるガ バナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央 競技団体のコンプライアンス強化に関 する現状と課題について学ぶ。
19	スポーツ組織におけるモ チベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズム について理解する。
20	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを 行うかについて学習する。
21	スポーツマネジメントに関する調査について学ぶ	量的調査・質的調査の研究の手法について学ぶ
22	調査の分析方法について学ぶ	基本的な統計的分析の手法について学ぶ（カイ二乗検定、平均値の差の検定、回帰分析など）
23	調査テーマについて学	スポーツマネジメントに関する調査・研究事例を学美、各グループの調査テーマを決める準備を行う。
24	調査研究決定	スポーツマネジメントに関する調査テーマを決め、調査方法を決定する
25	質問項目の決定	質問紙を作成し、質問項目の妥当性、信頼性について確認する
26	調査の実施	スポーツマネジメントに関する調査を行う。データを収集し、データを打ち込む。
27	調査データの分析・考察・まとめ	調査データの分析を行い、その分析をもとに考察、結果のまとめを行う
28	最終グループ発表	各グループで行った調査結果についてグループプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では必ず予習として教科書「マネジメント−基本と原則」や「スポーツマネジメント」を読んでから授業に参加して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マネジメント」[エッセンシャル版] 」基本と原則（ピーター・F・ドラッカー 上田惇生）ダイヤモンド社
「スポーツマネジメント」(改訂版)（原田宗彦・小笠原悦子編著）大修館書店
「図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント」/ 山下秋二/編著 中西純司/編著 松岡宏高/編著　大修館書店

【参考書】
特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（100％）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
Comprehensively learn the basic knowledge about sports management studies through management science, social psychology, and sociology. After studying the fundamentals of management by reading " Principle of Management)", you will study the basic knowledge of sports management and sports organization behavior theory.
(Learning Objectives)

The goals of this course are 1. You can clearly express what management is.2. Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Understand the basic knowledge to effectively manage a sports organization.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Grade evaluation is judged by the report assignment (100%) imposed at each class.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

井上　尊寛

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第2回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第3回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第4回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第5回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第6回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第7回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第8回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第9回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第10回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第11回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第12回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第13回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第14回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
第15回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第16回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などについて学ぶ。
第17回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第18回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリー変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法ついて学習する。
第19回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
第20回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第21回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検証の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t検定、分散分析について学ぶ。
第22回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第23回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第24回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第25回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第26回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第27回	分析結果の報告：第1グループ	データを収集・分析した結果について、第1グループが発表する。
第28回	分析結果の報告：第2グループ	データを収集・分析した結果について、第2グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】
(Course outline) This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. (Learning Objectives) Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research. (Learning activities outside of classroom) Your study time will be more than four hours for this seminar. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%) and usual performance score (60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習Ⅰ

小田　佳子

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。
保健体育教師になるという覚悟をもって、教職を志す仲間と共に「よりよい授業づくり」を目指して切磋琢磨する。

【到達目標】
学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校の『学習指導要領解説・保健体育編』および体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解く。「授業づくり」については、授業者が指導案を作成し、学習指導要領に示された各運動領域＋体育理論の演習（模擬授業）に生徒として参加し体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 指導案確認	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する
2	「体つくり運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体つくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
3	「球技：ネット型」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技:ネット型」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
4	「球技：ベースボール型」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技：ベースボール型」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
5	「球技：ゴール型」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技：ゴール型」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
6	「陸上競技（ハードル）」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技（ハードル）」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
7	「陸上競技（リレー）」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技（リレー）」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
8	「武道：柔道」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道:柔道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
9	「武道：剣道」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道：剣道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
10	「器械運動：マット」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動：マット」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
11	「器械運動：跳び箱」の理論的検討（教員採用試験対策）	「器械運動：跳び箱」の体育実技に関する文献等を読み解き、理解する
12	「ダンス：創作・フォーク」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
13	「ダンス：現代的なリズム」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める
14	模擬授業の反省とまとめ	模擬授業のふりかえりとまとめを行う 修正指導案を提出する
15	「陸上競技」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
16	「球技：ゴール型」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
17	「球技：ベースボール型」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
18	「体つくり運動：体ほぐし」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
19	「体つくり運動：体の動きを高める運動」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
20	「球技：ネット型（バレー）」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「球技（バレー）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
21	「球技：ネット型（バドミントン）」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「球技（バドミントン）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
22	「武道：武道（柔道）」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「武道（柔道）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
23	「武道：武道（剣道）」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「武道（剣道）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
24	「ダンス：現代的なリズムのダンス」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
25	「ダンス：創作・フォーク」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
26	「器械運動：マット」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
27	「器械運動：跳び箱」の模擬授業の実施	専門演習Ⅰグループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
28	「体育理論」の指導案の検討とまとめ	「体育理論」に関する指導案を検討し、秋学期模擬授業の授業整理会での総括をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で各自が文献資料・データを収集して教材研究を行い、指導案を作成する必要がある。
本授業の（模擬授業）準備学習は6時間、復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』平成29年版（東山書房）平成３０年３月
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』平成３０年版（東山書房）令和６年１２月　一部改訂

【参考書】
岩田靖（2012）『体育の教材を創る』大修館書店
杉山重利・高橋健夫他 編（2009）『保健体育科教育法』大修館書店
坂本拓哉（2025）『子どもたちのための体育をつくる哲学』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
参加状況・授業貢献度（５０%）
プレゼン・模擬授業（３０%）
指導案・レポート（２０%）
上記の項目を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り学生参加型による対面方式で授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this seminar students learn the basic theories of Physical Education and class creation.
Students work hard to create "better class management" with fellow students who are preparing to become health and PE teachers and will to become teachers.

【Learning Objectives】
The goals of this course are to deepen student's understanding of how to make a lesson plan, how to teach in class and how to evaluate from both theory and practice.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to make class plans and have completed the required assignments after each class meeting.
Your study time will be about six hours before the training class and 2 hours after the class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following; presentation and training class: 30%, Teaching plan and Short reports : 20%, in class contribution and Attitude: 50%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

片上　千恵

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツメディアを中心にスポーツマネジメントを実践的に学ぶことを目的とする。特に重視している活動は情報発信であるが、スポーツマーケティングにおける情報発信は他の業種に比べてより広範囲に伝わり大きな影響力を持つ一方で、近年のソーシャルメディアの進化によりその難易度は高まっている。今やアスリートが個人レベルでSNSを通していつでも自由に情報を発信することで組織からの発信以上の効果を生み出すことも多い。同時にアスリートが発信することによる自らの責任とリスクを伴う難しさもある。
本演習では講義と実践を通じて、現代のスポーツ界においてステークホルダーの満足度を高め、かつアスリートとスポーツの価値をともに高める情報発信のあり方を探る。

【到達目標】
・スポーツにメディアが果たす役割を理解し説明できる
・ソーシャル・メディア活用を通じて高いメディア・リテラシーを獲得する
・スポーツにおけるメディアトレーニングの役割を説明できる
・演習の活動を通して、自分の追求したい研究テーマを設定できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回指定の文献を読み、担当者はスライドにまとめてプレゼンテーションを行う。グループで企画を立案し、スポーツ組織のSNS発信サポートに携わり、効果測定、フィードバックを重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介。授業の進め方と評価方法の説明。
2	スポーツ広報①	スポーツ組織の広報業務の内容と目的を理解する。
3	スポーツ広報②	広報と宣伝広告の違い、プロモーション機能としての広報業務を学ぶ。
4	スポーツ広報③	プロリーグ広報とプロクラブ広報それぞれの役割と連携を理解する。
5	プレゼンテーション・トレーニング	伝わるプレゼンテーションの基礎を実践的に学ぶ。
6	ケーススタディ① SNS（テキスト）	スポーツ組織が発信するSNS（テキストベース）を対象にグループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
7	ケーススタディ② SNS（動画）	スポーツ組織が発信するSNS（動画）を対象に分析。グループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
8	ケーススタディ③ フラッシュインタビュー	アスリートの試合後フラッシュインタビューを対象にグループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
9	スポーツの情報発信①	これまでの事例研究と文献調査をもとにSNS企画を考案し、プレゼンテーション発表を行う。
10	スポーツの情報発信②	企画案を具体化するためのプランを練る
11	スポーツの情報発信③	企画提案書とプレゼンスライド作成
12	ゲスト招聘	スポーツ組織の広報スタッフの前でアイデア企画をプレゼンテーション発表し、ディスカッションする。
13	SNS企画作成	企画のブラッシュアップを行う。
14	総括	夏季休業中の計画と課題の説明をする。
15	後期授業オリエンテーション	夏季休業中の活動報告と後期授業の進め方説明。
16	メディアトレーニングの歴史	メディアトレーニングの成り立ちと政治との関係を学ぶ。
17	メディアトレーニング事情	世界と日本のメディアトレーニングの現状と違いを理解する。
18	メディアトレーニングの種類	一般のメディアトレーニングとスポーツのメディアトレーニングをステークホルダーの特性から比較する。
19	アスリート向けメディアトレーニング	個人競技と団体競技、若手選手とベテラン選手など対象別の特性を考える。
20	インタビュー分析方法①	先行研究から基本的なテクスト分析の方法を学ぶ。
21	インタビュー分析方法②	先行研究から基本的な映像分析の方法を学ぶ。
22	インタビュー調査計画	調査分析のためのインタビューを準備する。インタビューイーの予備調査。インタビュアーの質問項目を考える。
23	インタビュー実践	学内アスリートを対象に競技についてインタビューを実践する。インタビューは機材を使用し収録する。
24	インタビュー分析①	収録したインタビューを学習した方法論に基づき分析作業を行う。
25	インタビュー分析②	分析結果を考察する。
26	フィードバック	インタビュー分析結果をまとめてフィードバックし、改善策を考案する。
27	ゲスト招聘	マンガケースメソッド型メディアトレーニング実践とディスカッションする。
28	総括	各自、来年度に向けた研究テーマを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業、文献を紹介する。各自で読みこんでディスカッションできるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション課題（100％）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で学んだことをスポーツ現場で実践できる場を設ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to explore, through both lectures and practical exercises, methods of information dissemination aimed at enhancing stakeholder satisfaction and concurrently elevating the value of athletes and sports in the modern sports industry.
【Learning Objectives】
The goals of this course are:
A) To understand and explain the role of media in sports.
B) To acquire high media literacy through the use of social media.
C) To be able to set one's own research topic of interest.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Presentation assignment (100%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

苅部　俊二

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学に関する文献購読や調査・研究を通じて、専門的知見を深化させる。既習の理論を批判的かつ主体的に捉え直し、自らの研究課題やスポーツ現場での実践に応用・具現化する能力を養う。また、理論と実践の往還を通じて、客観的データに基づく論理的思考力と、課題解決に向けた専門的な探求姿勢を確立する。

【到達目標】
少人数制の徹底した指導のもと、スポーツ科学に関する報告・討論・実践を展開する。理論への深い洞察に加え、現場で即戦力となる実践的な指導力の修得を目指す。理論と実践を統合し、専門的知見を深化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
スポーツ科学（体育学・コーチ学・心理学等）における論文構成や調査・分析手法の習得を目指す。既存研究のクリティカルな読解とプレゼンテーション、および討論を通じ、論理的思考力と多角的な視点を養う。先行研究の検討から自らの研究課題を明確化し、研究立案に不可欠な基礎的能力と専門的技法を総合的に構築する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
第2回	情報・文献の検索1 図書館	図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
第3回	情報・文献の検索2 インターネット検索	インターネットなど様々な手法での情報収集、文献検索の方法について学習する。
第4回	統計解析1 （統計の基礎）	実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
第5回	統計解析2 （データの収集）	実験・研究に必要な統計解析（データの収集法）について理解を深める。
第6回	統計解析3 （データの解析）	実験・研究に必要な統計解析（データの解析法）について理解を深める。
第7回	研究法1 （研究法）	スポーツ科学に関する研究法を学習する。
第8回	研究法2 （実験法）	スポーツ科学に関する実験法を学習する。
第9回	研究法3 （調査法）	スポーツ科学に関する調査法を学習する。
第10回	文献の検索と輪読1 （文献検索）	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。
第11回	文献の検索と輪読1 （文献検索）	興味のあるテーマを選択し、文献を検索、輪読する。
第12回	文献の検索と輪読3 （文献の要約・レジュメの作成）	興味のあるテーマを選択し、文献を要約しレジュメを作成する。
第13回	文献の検索と輪読4 （プレゼンテーション）	興味のあるテーマを選択し、レジュメを使用し、発表を行う。
第14回	文献の検索と輪読5 （グループワーク・ディスカッション）	興味のあるテーマを選択し、グループワーク、ディスカッションを行う。夏休み期間の課題研究について話し合う。
第15回	春学期の振り返り	春学期授業のまとめを行う。夏休み期間の課題研究の計画祖実施。
第16回	秋学期受講ガイダンス 夏期研究のまとめ	秋学期授業のガイダンスを行う。夏期研究のまとめを行う。
第17回	実験・調査の方法1 予備実験（実験機器）	研究・実験に必要な機器について理解を深める。
第18回	実験・調査の方法2 予備実験（機器の使用）	実験方法に基づき、実際に機器を使用する。
第19回	実験・調査の方法3 予備実験（社会調査法）	社会調査の方法を学習する。
第20回	実験・調査の方法4 予備実験（データの収集）	予備実験からデータを収集、整理の方法を学習する。
第21回	実験・調査の方法5 予備実験（データの解析）	予備実験からデータの解析方法を学習する。
第22回	実験・調査の方法6 予備実験（データの解釈）	予備実験からデータの解釈方法を学習する。
第23回	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールを学習する。
第24回	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
第25回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション1 研究テーマの検討	各自の研究テーマを模索し検討する。
第26回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション2 研究テーマの発表	各自の研究テーマについて発表を行う。
第27回	今後の研究課題の方向性発表　1 研究課題の発表	論文作成に向けた各自の研究課題について検討する。
第28回	今後の研究課題の方向性発表　2 研究計画の発表	論文作成に向けた各自の研究課題についての実験・調査の計画を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の資料、レジュメなどの作成。
本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）とプレゼンテーション（60％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will deepen their expertise through research and investigation in sports science. The course aims to foster an attitude of proactively re-evaluating theories acquired in lectures and applying them effectively within their own research and practical fields.
【Learning Objectives】
This seminar conducts reports, discussions, and practical exercises specialized in the field of coaching under thorough, small-group instruction. The objective is to facilitate a deep understanding of theory while acquiring practical leadership skills that are effective in the field.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on class participation (40%) and presentation (60%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

木下　訓光

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的測定・調査を学ぶ

【到達目標】
科学的測定・調査を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
様々な科学的測定・調査を実践して結果を分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーションの基礎	[演習] 2年生による自己紹介（英語）。
3	プレゼンテーションの方法論	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する基礎。
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3年生による研究課題報告を聴講し、プレゼンテーションの構造・質疑応答について学習する。
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第1回）。
6	AIリテラシー	[演習] 生成系AIを用いる上で注意すべきポイント。オプトアウト、倫理的問題、ハルシネーションなど。
7	DXAによる体組成測定	[実習] DXAで体組成を測定する。
8	InBodyの測定	[実習] InBodyで体水分量・体組成を測定する。
9	DXAによる骨密度測定	[実習] DXAで骨密度を測定する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第2回）。
11	VO2maxの測定 ①	[実習] 2年生の最大酸素摂取量の測定を行う。
12	VO2maxの測定 ②	[実習] 引き続き前回行っていない2年生の最大酸素摂取量の測定を行う。
13	VO2maxの分析	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を分析する。
14	VO2maxの比較検討	[演習] 分析データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を比較検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第3回）。
16	LTの測定 ①	[実習] 2年生の LTを測定する。
17	LTの測定 ②	[実習] 前回行えなかった2年生の LTを測定する。
18	LTの分析	[演習] 測定データをもとに、被検者のLTを検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第4回）。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定 ①	[実習] 運動や身体活動に伴う2年生のエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定 ②	[実習] 前回行えなかった2年生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	[演習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果を分析する。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	[演習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習]前回の研究課題報告から進捗させた3年生の研究発表を聴講し、研究の構造について学ぶ。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第5回）。
26	スポーツ栄養の基礎	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 2年生の栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は1時間程度

【テキスト（教科書）】
・ツノダフミコ.『いちばんわかりやすい問題発見の授業』ワニブックス.（2024）
※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習 I を通して本書を読破することを強く勧める
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）
※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習 I ・ II を通して本書を読破することを強く勧める
・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかた―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』. 筑摩書房.（2023）
※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習 I ・ II を通して本書を読破することを強く勧める
・本多勝一.『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社.（2004）※研究室収蔵
・福澤一吉.『議論のレッスン』. 生活人新書.（2002）※資料室収蔵
・小笠原 喜康、片岡 則夫.『中高生からの論文入門』. 講談社現代新書.（2019）※資料室収蔵

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) ※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) ※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams &Wilkins; 5th ed (2019) ※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※資料室収蔵
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。
専門演習IIIで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までにそのリサーチクエスチョンを決めて提出すること。提出できなかった場合は専門演習 I の成績はD判定となる可能性がある。
② 抄読会（20%）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20%）：発表のstructure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skillの水準。
④ 実習参加（20%）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20%）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
測定の順番は適宜変更され、また繰り返し行う可能性がある。
したがってすべての測定を予定通り行えるとは限らない。
この授業は測定体験型授業ではない。「ただそこにある機器」で「とりあえず測定を行ってみる」だけでは学びとは言えない。背景にある生理学的基礎、医学的知識に基づく測定の実践、データの科学的分析、批判的解釈が行えるようにすることが必要であり、そのために実習を行うので、学びは高度で膨大である。「たくさんの科学的測定を体験できるゼミ」といった勘違いをすることの無いように。したがって知識の習得やデータの分析に関連するスキルを取得するために、学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。
なお測定を積み重ねていく中で実習室の利用ルールや機器の扱い方を十分習熟すること。
測定以外にも課題図書を指定してモデレーターを決め、読解力を評価し、テーマを議論する回を適宜行う。

【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide opportunities to conduct scientific measurements.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of measurements and evaluations in sports medicine and science.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; in class contribution (20%), reviewing scientific and medical literature (20%), presentation of measurement data (20%), participation in experiments (20%), and submitting reports related the topics in the classroom (20%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

木村　新

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、日常生活の機能改善からスポーツ場面における競技力向上および障害予防についてスポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学の観点から研究していくことを目指す。その上で、2年次は、先行研究を検索し整理する方法、実験手法、データ分析手法の習得を目的とする。

【到達目標】
本ゼミにおける2年生次の到達目標は以下の3点となる。
(1) バイオメカニクスおよびトレーニング科学における基礎的知識を習得すること
(2) 読解力と論文の検索力を向上させること
(3) 実験機器の適切な使用方法を習得すること
(4) プログラミング技術を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期は、主にバイオメカニクス、トレーニング科学、統計学の教科書を読み込んでもらいその内容の発表を行ってもらうことで、研究を行うための基礎的知識の習得を目指す。加えて、研究に必要な実験機器の使用方法の習得を目指した実習を行う。
秋学期は、論文抄読を通じて読解力や検索力を向上させる。加えて自らの関心に沿ったデータの習得・解析した後に、その成果を発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：春学期の概要の説明	本演習の進め方やスケジュールに関して説明する。
第2回	プレゼンテーションの練習	2年生に自己紹介を行ってもらう。
第3回	実験方法の習得①：モーションキャプチャーシステム	光学式モーションキャプチャーシステム(Vicon)の使用方法を習得する。
第4回	実験方法の習得②：BIODEX	BIODEXの使用方法の習得を目指す。
第5回	実験方法の習得③：筋電図	ハイスピードカメラおよび筋電計の使用方法の習得を目指す。
第6回	文献の検索方法の習得	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
第7回	バイオメカニクスの基本的知識の習得①：並進運動の力学	並進運動の力学を習得する。
第8回	バイオメカニクスの基本的知識の習得②：回転運動の力学	回転運動の力学を習得する。
第9回	プログラミングスキルの獲得①：動作分析	第3回で取得したデータの読み込みや解析・グラフ化を行えるようにする。
第10回	プログラミングスキルの獲得②：筋力解析	第4回で取得したデータの読み込みや解析・グラフ化を行えるようにする。
第11回	プログラミングスキルの獲得③：筋電図解析	第5回で取得したデータの読み込みや解析・グラフ化を行えるようにする。
第12回	統計学の基礎的知識の習得①：誤差とばらつき	誤差とばらつきについて習得する。
第13回	統計学の基礎的知識の習得②：相関関係	変数同士の相関について習得する。
第14回	春学期のまとめ	春学期の総括を行うとともに、振り返りを行ってもらう。
第15回	論文抄読①：先行研究の調査	自身のテーマに沿った先行研究についてその内容をまとめて発表してもらう。
第16回	論文抄読②：先行研究同士の関連付け	第15回とは別の先行研究についてその内容と、前回の先行研究との差異や関係性について発表してもらう。
第17回	実動作のデータ取得①：予備的なデータの取得 (1回目)	自身のテーマに沿ったデータを取得してもらう。
第18回	プログラミングを用いたデータ解析①：1回目の予備データの解析	第17回で取得したデータについて、前期で学んだプログラミングスキルを活かして解析を行う。
第19回	解析結果の要約①：1回目の予備データの考察	解析結果をまとめた上で、先行研究を適宜参照しながら結果を考察する。
第20回	分析結果の報告①：1回目の予備データの報告	第18-19回で解析を行いまとめた内容について発表してもらう。
第21回	トレーニング科学の基本的知識の習得①：トレーニング理論	指定した教科書の内容をまとめて発表を行ってもらう。
第22回	トレーニング科学の基本的知識の習得②：トレーニング動作のバイオメカニクス	指定した教科書の内容をまとめて発表を行ってもらう。
第23回	実動作のデータ取得②：予備的なデータの取得 (2回目)	第17回-20回で行ったことの反省も踏まえながら再度自身のテーマに沿ったデータを取得してもらう。
第24回	プログラミングを用いたデータ解析②：2回目の予備データの解析	第23回で取得したデータについて、前期で学んだプログラミングスキルを活かして解析を行う。
第25回	分析結果の報告②：2回目の予備データの報告	第24回の解析結果について発表してもらう。
第26回	統計学の基礎的知識の習得③：仮説検定	変数同士の量的な比較の仕方について習得する。
第27回	統計学の基礎的知識の習得④：因果推論	交絡因子と因果関係について習得する。
第28回	秋学期のまとめ	春学期の総括を行うとともに、振り返りを行ってもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・スポーツバイオメカニクスの復習を行う。
・トレーニング科学Ⅰ・Ⅱの復習を行う。
・測定の準備（消耗品の確認、充電、授業前の電源）をする。
・測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。
・先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
① 平常点 (50%) : 発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。
② 発表内容 (50％) : レビューの妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
課題ややるべきことは多いものの多くの学生が充実感を得ており、学んだことを将来に活かすことができると感じている。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
測定の順番は適宜変更される可能性がある。
学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to study improving quality of life, sports performance enhancement, and injury prevention from the viewpoint of sports biomechanics and training science. Students will learn how to search for and organize previous studies and experiment methods for this aim.
【Learning objectives】
To learn basic knowledge in biomechanics and training science.
To improve reading and article-searching skills.
To master the proper use of laboratory equipment.
【Learning activities outside of classroom】
To review sports biomechanics, training science I and II.
To analyze the results of the experiments and summarise them.
To read and introduce previous studies.
【Grading criteria/Policy】
Usual performance score (50%)
Content of presentation (50%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

笹澤　吉明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、現代の健康問題について、予防医学の観点から研究できる資質を身につけることを目指す。そのために、2年次では、衛生・公衆衛生学、疫学、学校保健学、睡眠学の分野における論文を読解する能力を得るために、それぞれの学問の基礎的内容を学び習得する。特に疫学、統計学、睡眠学の基礎知識を学び、予防医学の考え方を理解して、自身のリサーチクエスチョンを見出すことを目的とする。

【到達目標】
1．衛生・公衆衛生学の基礎的知識を習得し、現代の衛生・公衆衛生学上の課題を説明することができる。
2．学校保健学の基礎知識を習得し、現代の学校保健学上の課題を説明できる。
3．疫学、統計学の基礎的知識を習得し、研究方法やデータの分析方法を選択・実行できるようになる。
4．睡眠学の基礎的知識を習得し、現代の睡眠学上の課題を説明できる。
5．上記学問の学術論文を読解する力を身につけ、自身のリサーチクエスチョンを見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
衛生学、公衆衛生学、学校保健学の基礎的な知識を学部の授業と並行して学ぶ。疫学の教科書を輪読し、課題を討論しながら疫学を理解を深める。統計学は基本統計量や推定および検定を学び、単変量解析や多変量解析をエクセルや統計解析ソフトSPSSを用いて演習的に学ぶ。睡眠学においても睡眠脳波、運動と睡眠、食と睡眠、環境と睡眠などの基本的な知見を学ぶ。関連する文献を抄読し、討論を行い次年度に繋げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についてオリエンテーションを行う。
2	衛生学の基礎知識	衛生学の基礎知識を概説する。
3	公衆衛生学の基礎知識	公衆衛生学の基礎知識を概説する。
4	学校保健の基礎知識	学校保健の基礎知識を概説する。
5	疫学の輪読１（疫学とは、疾病頻度の測定）	疫学とは、疾病頻度の測定について輪読する。
6	疫学の輪読２（既存のデータ、疫学研究方法）	既存のデータ、疫学研究方法について輪読する。
7	疫学の輪読３（偏りと交絡、因果関係）	偏りと交絡、因果関係について輪読する。
8	疫学の輪読４（スクリーニング、サーベイランス）	スクリーニング、サーベイランスについて輪読する。
9	疫学の輪読５（疫学の倫理、社会への応用）	疫学の倫理、社会への応用について輪読する。
10	統計学１（母集団と標本、サンプリング、標本誤差、尺度水準）	母集団と標本、サンプリング、標本誤差、尺度水準を概説する。
11	統計学２（基本統計量、図表の見方と作り方、正規分布、パラメトリックとノンパラメトリック、対応のないデータと対応のあるデータ）	基本統計量、図表の見方と作り方、正規分布、パラメトリックとノンパラメトリック、対応のないデータと対応のあるデータを概説する。
12	統計学３（単変量解析（相関、独立性の検定、t検定））	単変量解析（相関、独立性の検定、t検定）の例題を解く。
13	統計学４（単変量解析（U検定、一元配置分散分析））	単変量解析（U検定、一元配置分散分析）の例題を解く。
14	統計学５（多変量解析（重回帰分析、多重ロジスティック回帰モデル））	多変量解析（重回帰分析、多重ロジスティック回帰モデル）の例題を解く。
15	睡眠学１（睡眠脳波、終夜睡眠脳波実験、睡眠段階等の睡眠生理）	睡眠脳波、終夜睡眠脳波実験、睡眠段階等の睡眠生理を概説する。
16	睡眠学２（運動と睡眠）	運動と睡眠について概説する。
17	睡眠学３（食と睡眠）	食と睡眠について概説する。
18	睡眠学４（環境と睡眠）	環境と睡眠について概説する。
19	文献検索	和文文献、英文文献の収集法と整理法を概説する。
20	文献紹介と討論①（衛生学分野のテーマ）	衛生学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
21	文献紹介と討論②（公衆衛生学分野のテーマ）	公衆衛生学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
22	文献紹介と討論③（学校保健分野のテーマ）	学校保健分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
23	文献紹介と討論④（疫学分野のテーマ）	疫学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
24	文献紹介と討論⑤（運動疫学分野のテーマ）	運動疫学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
25	文献紹介と討論⑥（睡眠と運動分野のテーマ）	睡眠と運動分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
26	文献紹介と討論⑦（睡眠と食分野のテーマ）	睡眠と食分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
27	文献紹介と討論⑧（睡眠と環境分野のテーマ）	睡眠と環境分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
28	研究計画とまとめ	各自の研究のテーマと研究計画を発表し、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミニレポートの作成、輪読の資料作り、文献紹介の資料作り、文献検索など本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学ぶ楽しい疫学第４版、中村好一、医学書院、2020、3520円。

【参考書】
シンプル衛生公衆衛生学2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。
学校保健概論（第３版）、渡邊正樹、光生館、2024、2420円。
適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
評価は、ミニレポート20％、資料作り30％、授業への参画状況（出席、発言など）50％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や意見を参考に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
【Course outline】 This class aims to equip students with the skills to research modern health issues from the perspective of preventive medicine. To this end, in the second year, students will study and master the basics of each academic field in order to gain the ability to read and understand papers in the fields of hygiene and public health, epidemiology, school health, and sleep science. 【Learning Objectives】 In particular, the aim is to learn the basics of epidemiology, statistics, and sleep science, understand the concepts of preventive medicine, and identify their own research questions. 【Learning activities outside of classroom】The standard time for preparatory study and review for this project, including writing a mini-report, preparing materials for group reading, preparing materials for literature introductions, and literature research, will be four hours each.【Grading Criteria /Policy】Evaluation will be based on 20% mini-report, 30% document preparation, and 50% class participation (attendance, speaking, etc.).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

笹澤　吉明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、現代の健康問題について、予防医学の観点から研究できる資質を身につけることを目指す。専門演習Ⅰで習得したものをベースに、3年次では、卒業論文を作成するための準備を行う。具体的には、リサーチクエスチョンの確立、研究テーマの設定、研究・調査方法の習得、研究計画書の作成、序論と方法の執筆、予備実験（調査）及びこれらのプレゼンテーションを遂行する。

【到達目標】
4年次の卒業論文作成に向けて以下の目標を達成する。
1．衛生・公衆衛生学、疫学、学校保健学、睡眠学等の学問分野における健康課題についてのリサーチクエスチョンを確立する。
2．研究テーマを設定する。
3．研究・調査方法を習得し、自身の研究テーマの方法を設定する。
4．研究計画書を作成する。
5．卒業論文の序論と方法を執筆する。
6．予備実験（調査）を行い、研究デザインを発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期はリサーチクエスチョンの確立のため、自身の興味ある文献を収集し、抄読会を行なう。他のゼミ生の発表に対しても、質問やコメントを積極的に行い、研究に対する批判的思考を身につけ、研究を深く理解し、自身の研究テーマの設定に活かす。2年次に対しても積極的に指導助言して研究に対する資質を高める。秋学期は研究テーマを設定し、関連する文献を収集して、研究テーマの背景を整理する。研究方法を設定して、研究計画書を作成する。卒業論文の序論と方法を執筆する。予備実験（調査）を行い、研究デザインを最終発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についてオリエンテーションを行う。
2	リサーチクエスチョンとは	リサーチクエスチョン確立のために必要な知識を概説する。
3	文献紹介と討論①（衛生学分野のテーマ）	衛生学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
4	文献紹介と討論②（公衆衛生学分野のテーマ）	公衆衛生学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
5	文献紹介と討論③（学校保健分野のテーマ）	学校保健分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
6	文献紹介と討論④（疫学分野のテーマ）	疫学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
7	文献紹介と討論⑤（運動疫学分野のテーマ）	運動疫学分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
8	文献紹介と討論⑥（睡眠と運動分野のテーマ）	睡眠と運動分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
9	文献紹介と討論⑦（睡眠と食分野のテーマ）	睡眠と食分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
10	文献紹介と討論⑧（睡眠と環境分野のテーマ）	睡眠と環境分野のテーマで文献を紹介し、討論する。
11	リサーチクエスチョンの発表	ゼミ生がそれぞれのリサーチクエスチョンを発表し、批評を受け修正する。
12	リサーチクエスチョンに関連する研究レビュー	リサーチクエスチョンに関連する研究をレビューする
13	リサーチクエスチョンに関連する研究レビューの発表	リサーチクエスチョンに関連する研究のレビューを発表して、批評を受ける。
14	仮研究テーマの発表	仮研究テーマを設定し、研究の背景や必要性、研究目的、研究方法等を発表して実現可能性を討論する。
15	文献紹介と討論⑨（1人目、2人目、3人目のテーマに関連した文献1組目）	ゼミ生の1人目、2人目、3人目に研究テーマに関連した文献を紹介し討論して研究方法を検討する。
16	文献紹介と討論⑩（4人目、5人目、6人目のテーマに関連した文献2組目）	ゼミ生の4人目、5人目、6人目に研究テーマに関連した文献を紹介し討論して研究方法を検討する。
17	文献紹介と討論⑪（7人目、8人目のテーマに関連した文献3組目）	ゼミ生の7人目、8人目に研究テーマに関連した文献を紹介し討論して研究方法を検討する。
18	文献紹介と討論⑫（2、3人のテーマに関連した文献4組目）	2，3名の各々に研究テーマに関連した文献を紹介し討論して研究方法を検討する。
19	研究計画書の作成	研究計画書を作成し発表する。ゼミ生皆で検討する。
20	「緒言」執筆	論文の緒言を執筆し、ゼミ生で共有して、推敲する。
21	「方法」執筆	論文の方法を執筆して、ゼミ生で共有して、推敲する。
22	予備実験の準備	予備実験に使用する質問紙の作成や、実験のデバイスの準備を行う。
23	パイロットスタディ	予備実験に使用する質問紙や、実験を少数の被験者に行い、方法の検討や修正を行う。
24	予備実験（調査）を行う	予備実験（調査）を行ない、データを収集する。
25	予備実験（調査）の解析	予備実験（調査）のデータを解析する。
26	発表資料の作成	抄録、パワーポイントによる発表資料の作成を行う。
27	発表（プレゼン）の練習	研究デザイン発表の予演会を行い、発表内容と発表資料の修正を行う。
28	研究デザイン発表	予備実験の結果を含めた、研究デザインを最終発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献紹介や研究発表の資料作り、文献検索など、本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学ぶ楽しい疫学第4版、中村好一、医学書院、2020、3520円

【参考書】
シンプル衛生公衆衛生学2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。
学校保健概論（第3版）、渡邊正樹、光生館、2024、2420円。
適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
評価は、発表資料作り30％、発表（プレゼン）20％、授業への参画状況（出席、発言など）50％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や意見を参考に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
【Course outline】This seminar aims to equip students with the skills to research modern health issues from the perspective of preventive medicine. Based on what they learned in Specialized Seminar I, students in their third year will prepare to write their graduation thesis. Specifically, they will establish a research question, set a research theme, learn research and survey methods, create a research plan, write an introduction and methodology, conduct preliminary experiments (surveys), and make presentations on these.【Learning Objectives】Students will achieve the following goals in preparing their fourth-year graduation thesis. 1. Establish a research question about health issues in academic fields such as hygiene/public health, epidemiology, school health, and sleep science. 2. Define a research theme. 3. Master research and survey methods and define the methodology for their own research theme. 4. Prepare a research plan. 5. Write an introduction and methods for the graduation thesis. 6. Conduct a preliminary experiment (survey) and present the research design.【Learning activities outside of classroom】The standard time for preparation and review for this class, including introducing literature, preparing materials for research presentations, and literature searches, is four hours each.【Grading Criteria /Policy】Evaluation will be based on 30% preparation of presentation materials, 20% presentation, and 50% participation in class (attendance, comments, etc.).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

島本　好平

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフスキルコーチングの基礎理論について学びます。

【到達目標】
ライフスキルへの理解を深めることを主な目的とします。ライフスキルの具体像やその性質、特にアスリートが現役時のスポーツキャリア、および引退後に新たなキャリアを形成させていく上での、ライフスキル獲得の意義を確認していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ライフスキルに関する専門書等の資料を教員側から提示します。学生はそれらを事前に通読し、その内容を要約した上で次週にプレゼン発表を行います。その内容について全体ディスカッションを行い、内容についての理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミ（ライフスキルコーチング）の趣旨説明を行う
2	ゼミの内容と春学期の進め方	ゼミで扱う内容と毎週のゼミの進め方について説明を行う
3	ライフスキルに関する資料の提示（学校保健関連）	教員側より、学校保健に関連するライフスキルの資料を提示する
4	ライフスキルに関する資料の提示（体育授業関連）	教員側より、体育授業に関連するライフスキルの資料を提示する
5	ライフスキルに関する資料の提示（運動部関連）	教員側より、運動部活動に関連するライフスキルの資料を提示する
6	ライフスキルに関する資料の提示（セカンドキャリア関連）	教員側より、トップアスリート等のセカンドキャリアに関連するライフスキルの資料を提示する
7	ライフスキルプログラムに関する資料の提示	教員側より、ライフスキルの獲得を支援する教育プログラムに関連する資料を提示する
8	ライフスキルに関するプレゼン発表（学校保健関連）	学校保健関連のライフスキルについての学生によるプレゼン発表
9	ライフスキルに関するプレゼン発表（体育授業関連）	体育授業関連のライフスキルについての学生によるプレゼン発表
10	ライフスキルに関するプレゼン発表（運動部関連）	運動部活動に関連するライフスキルについての学生によるプレゼン発表
11	ライフスキルに関するプレゼン発表（セカンドキャリア関連）	アスリートのセカンドキャリアに関連するライフスキルについての学生によるプレゼン発表
12	ライフスキルに関するプレゼン発表（ライフスキルプログラム関連）	ライフスキルの教育プログラムについての学生によるプレゼン発表
13	全体討論	これまでの発表の中で見られた各論点について、全体でディスカッションを行う
14	まとめ	各専門書に見られるライフスキルの基礎理論についての理解を深める
15	秋学期の進め方	秋学期のゼミの進め方について説明を行う。
16	学術論文の探し方	ライフスキルに関する学術論文を収集するための方法を説明する。
17	ライフスキルに関する学術論文の紹介（学校保健関連／国内）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（学校保健関連／国内文献）
18	ライフスキルに関する学術論文の紹介（学校保健関連／海外）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（学校保健関連／海外文献）
19	ライフスキルに関する学術論文の紹介（体育授業関連／国内）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（体育授業関連／国内文献）
20	ライフスキルに関する学術論文の紹介（体育授業関連／海外）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（体育授業関連／海外文献）
21	ライフスキルに関する学術論文の紹介（運動部関連／国内）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（運動部関連／国内文献）
22	ライフスキルに関する学術論文の紹介（運動部関連／海外）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（運動部関連／海外文献）
23	ライフスキルに関する学術論文の紹介（セカンドキャリア関連／国内）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（セカンドキャリア関連／国内文献）
24	ライフスキルに関する学術論文の紹介（セカンドキャリア関連／海外）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（セカンドキャリア関連／海外文献）
25	ライフスキルに関する学術論文の紹介（教育プログラム関連／国内）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（教育プログラム関連／国内文献）
26	ライフスキルに関する学術論文の紹介（教育プログラム関連／海外）	学生によるライフスキルの先行研究の紹介（教育プログラム関連／海外文献）
27	全体討論	ライフスキルに関する先行研究に見られる問題点等について、全体でディスカッションを行う。
28	まとめ	ライフスキルに関する研究の動向について理解を深める。また、次年度のゼミへのつながりと展望を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外の時間で専門書、学術論文を読み込み、発表資料を作成する必要があります。本授業の準備学習は3時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０%）、プレゼンテーション発表（５０%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業方法で進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the basic knowledge of life skills and psychological research.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to investigate the research plan of their senior thesis based on life skills study.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The attitude: 40%, The comprehension: 60%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

瀬戸　宏明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】
①運動器疾患についての知識の獲得。
②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 研究倫理について	本演習のガイダンスをおこなう。 捏造、改ざん、盗用等について
2	プレゼンテーションの方法と実際１	2年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際２	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会９	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
15	頭頚部について/抄読会	頭頚部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会１	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会２	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会１	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会２	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と3年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回　特になし
第2-14回：前回授業の復習
第15回：春学期の復習
第16-28回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点70点
②各内容や課題への取り組み30点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.

【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ Acquiring knowledge about locomotor disorders.
－ Can evaluate locomotor disorders based on findings.
－ Acquire the basic ability of scientific analysis and logical thinking ability.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

高見　京太

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表する。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	発表する論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表のための資料を作成する。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサルを行う。
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定を実施する。
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータを整理する。
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察する。
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	実施した健康づくり教室について振り返りをする。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定方法を理解する。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートを発表する。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定方法を理解する。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートを発表する。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定を理解する。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定を理解する。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートを発表する。
24	筋力の測定方法	筋力の測定方法を理解する。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートを発表する。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実施方法を理解する。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートを発表する。
28	1年間の反省	1年を振り返って意見交換をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業への参加(40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2)課題の提出および発表(60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ｉでは研究テーマを探索するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A. Understand how to proceed with research.
- B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
- C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

永木　耕介

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】
学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校の『学習指導要領解説・保健体育編』および体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解く。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域＋体育理論の演習（模擬授業）に参加し、体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する。
2	「体つくり運動」の理論的検討	「体つくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
3	「体つくり運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体つくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
5	「器械運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
7	「陸上競技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
9	「球技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
11	「武道」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
13	「ダンス」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
15	「体つくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
16	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
17	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
18	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
19	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
20	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
21	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
22	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
23	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
25	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
27	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
28	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は6時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成20年版・平成29年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）
中学保健体育（学研教育みらい）

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０%）、プレゼンテーション・模擬授業（３０%）、レポート点（２０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生参加型で主体的な学びを深めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline] This seminar is for students to study Physical Education pedagogy through the examination of fundamental theories and looking at the design of lesson plans.
[Learning Objectives] Deepen your understanding of how to create lessons based on each exercise area indicated in the course of study.
[Learning activities outside of classroom] It is necessary to collect and read literature materials and data for creating a teaching plan.
[Grading Criteria /Policy] Regular score (50%) based on participation status/attitude, presentation/trial lesson (30%), report score (20%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

NEMES　ROLAND　JANOS

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要：
この授業では、球技におけるトップレベルの選手とコーチに求められる能力と知識に焦点を当てます。球技の各分野での最高水準のパフォーマンスを支える育成方法やコーチング戦略について学びます。年齢や性別に応じた育成のアプローチや、エリートレベルでのコーチング手法についての理解を深めることを目指します。
目的：
トップレベルでの要求理解：
球技におけるトップレベルの選手やコーチに求められる技術、戦術、メンタルなどの要素について理解を深めます。
年齢・性別に応じた育成法の学習：
異なる年齢層や性別に適した育成アプローチとプログラムについて学び、それぞれのニーズに合った指導法を習得します。
エリートレベルのコーチング技術：
トップレベルで競技する選手への効果的なコーチング方法について学びます。これには、戦術的な指導、技術の微調整、メンタルトレーニングなどが含まれます。
スポーツコーチング学と研究の紹介：
球技におけるコーチングの最新の研究と理論について学び、現代のスポーツコーチング学における主要な概念や理論を理解します。
この授業を通じて、履修者は球技におけるトップレベルのコーチングと選手育成に必要な先進的な知識と技術を習得し、競技スポーツの高みを目指す選手やチームのサポートに貢献できるようになります。

【到達目標】
スポーツコーチングに関する深い理解と研究の推進。
スポーツコーチングへの理解の深化：
スポーツコーチングに関する包括的な知識の獲得を目指し、コーチングの基本原理、技術、戦略、メンタルトレーニングなどについて学びます。
コーチングにおける倫理、コーチと選手の関係、チームマネジメントなどの側面についても理解を深めます。
スポーツコーチングの多様な分野への理解：
スポーツコーチングを構成するさまざまな分野（心理学、生理学、運動科学など）について学び、多角的な視点からコーチングを理解します。
球技をはじめとする各種スポーツにおけるコーチングの特性とアプローチについて学習します。
研究テーマの発見と設定：
履修者が自ら調査し、研究し、発表することを通じて、スポーツコーチングに関する深い理解を目指します。発表された研究や調査から着想を得て、次年度以降の研究テーマを見つけ、設定することを目標とします。
この授業を通じて、履修者はスポーツコーチングに関する理論と実践の両面での知識を深め、将来的な研究や実践における基盤を築くことができます。また、自らの調査や研究を通じて、新たな研究テーマを発見し、スポーツコーチングの分野に貢献するための一歩を踏み出すことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
学術的研究とプレゼンテーションに基づく学習。
学術論文の読解と理解：
学術論文や先行研究の読解を通じて、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などの運動科学分野における理論や研究手法について学びます。
研究論文の構造、研究方法、データ分析手法などについて理解を深めます。
研究方法の学習：
実証的な研究デザイン、質的・量的研究手法、統計分析の基礎など、研究を行う上での基本的な方法論を学びます。
分析方法の理解：
スポーツ科学分野におけるデータ収集と分析手法について学び、データを解釈し、有効な結論を導き出す能力を養います。
プレゼンテーションと討論：
履修者は研究テーマに基づいてプレゼンテーションを行い、その内容についてクラス内で討論します。
プレゼンテーションと討論を通じて、コミュニケーション能力と批判的思考能力を養います。
研究テーマの深化：
討論を通じて、自身の研究テーマに対する理解を深め、次年度以降の研究方向性や問題点の洗い出しを行います。
この授業を通じて、履修者はスポーツコーチングに関する学術的知識を習得し、研究方法やデータ分析のスキルを身に付けます。また、プレゼンテーションと討論を通じて、コミュニケーション能力や批判的思考能力を養い、自らの研究をさらに発展させるための土台を築きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	自己紹介。本演習について説明と意見交換を行う。 情報収集の方法について学習する
2回	スポーツコーチングについて	国際的なスポーツコーチに求められている様々な能力
3回	国際的なコーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外の取組み
4回	トップレベルまでの選手育成	年齢・性に応じたコーチング、長期的なアスリート開発（LTAD）、一貫指導
5回	ジュニア期の育成について①	海外で行う一貫指導における論文を紹介する
6回	ジュニア期の育成について②	国内の一貫指導における情報をグループ別発表を行う
7回	ジュニア期の育成について③	球技における様々なコーチング方法、Game Centred Approachに着目して
8回	ジュニア期の育成について④	ジュニア期の選手育成についてグループ１とグループ２の発表とディーベート
9回	ジュニア期の育成について⑤	ュニア期の選手育成についてグループ３とグループ４の発表とディーベート
10回	実技	Game Centred Approachを実践的に学習する
11回	トップレベル・国際レベルコーチング①	トップアスリートのコーチングに求められている能力、環境
12回	トップレベル・国際レベルコーチング②	アスリートのパーフォマンスにおける情報収拾、研究法論
13回	トップレベル・国際レベルコーチング③	現場視察
14回	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表。
15回	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表。
16回	選手育成・コーチングについて①	コーチングの目的とコアバリューについてグループ発表とディスカッションを行う。
17回	選手育成・コーチングについて②	コーチング哲学とバリューについてグループ発表とディスカッションを行う。
18回	選手育成・コーチングについて③	選手のモチベーションについて発表とディスカッションを行う。
19回	選手育成・コーチングについて④	技術指導ついて発表とディスカッションを行う。
20回	選手育成・コーチングについて⑤	戦術指導ついて発表とディスカッションを行う。
21回	ゲーム分析	試合分析用のソフトを利用し、ゲーム分析について学習する。
22回	コーチング評価方法論	コーチング成果の評価法についてグループ発表とディスカッションを行う。
23回	指導案の検討①	興味がある球技種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24回	指導案の検討②	興味がある個人種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
25回	指導案の検討③	指導案の作成におけるまとめを行う。
26回	大会、又は指導現場の見学①	コーチングが行われている現場の視察を行う。
27回	大会、又は指導現場の見学 ②	現場視察における評価発表、ディスカッションを行う
28回	まとめ	1年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布します。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定です。

【参考書】
各授業時間に資料を配布します。支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定です。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（25％）、プレゼンテーション発表（25％）、レポート（50％）より評価します。
なお授業回によっては小課題を課す場合があります。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合があります。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音すること。また授業を録音・録画すること。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めません。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course provides an advanced exploration of the elite sporting landscape, focusing on the sophisticated competencies required by top-tier athletes and high-performance coaches. Students will dissect the mechanics of world-class performance, analyzing the intersection of technical precision, tactical intelligence, and psychological resilience. The curriculum moves beyond basic instruction to examine specialized developmental pathways, teaching students how to tailor elite-level programs to specific age groups and genders. Key areas of focus include high-performance coaching methodologies — such as tactical micro-adjustments and mental conditioning — alongside an in-depth introduction to contemporary Sports Coaching Science. By engaging with the latest global research and coaching theories, participants will acquire the advanced analytical and practical tools necessary to support elite teams and athletes in their pursuit of competitive excellence at the highest levels of sport.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to:
Demonstrate a comprehensive understanding of the technical, tactical, and psychological demands placed on top-level athletes and coaches in ball sports.
Apply age- and gender-appropriate developmental approaches and coaching strategies to support athlete growth at different stages.
Analyze and evaluate high-performance coaching methods, including tactical instruction, skill refinement, and mental training.
Engage critically with current research and theory in Sports Coaching Science, and identify a potential research theme for subsequent years of study.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to complete group-based assignments outside of class, including developing interview questions, planning and conducting surveys, analyzing results, and preparing presentations in sequence. Students should collaborate with group members and work in a planned and systematic manner. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class participation and attitude (平常点): 25%
Presentation: 25%
Report: 50%
Additional minor assignments may be given during specific class sessions. The collective results of these tasks may contribute to the final examination grade. A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習Ⅰ

望月　拓実

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマネジメントに関する基本的な知識および学術的文章作成に必要な基本技能を習得する。具体的には、学術的文章を書くうえで必要となる基本的な文章技法、文献の適切な読み方・要約方法および調査研究の基礎的な手法を学習する。

【到達目標】
１：学術的文章作成技法の基礎を理解できている
２：スポーツマネジメント領域の文献内容を理解し要約できる
３：量的調査における基本を理解したうえで、分析を実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前期の授業では学術的文章作成技法を一通り習得したうえで、実際に小レポートを作成する。また、スポーツマネジメント領域の文献を章ごとに輪読し要約を発表する。後期は量的調査の基本を講義形式で進めながら、適宜実際のデータを統計ソフトを用いて分析していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と到達目標の確認、前期の学習方法を段階的に整理し理解する
第2回	スポーツマネジメント領域における学術的文章作成の基本	高校までの文章と大学における文章の違いは何かを理解したうえで、学術的文章の作成を試みる
第3回	学術的文章技法における基本的思考	文章の目的を設定する、文章の体裁を整える、他者の論と自分の論を分ける方法を学ぶ
第4回	学術的文章技法１	一文一義による文章構成、用いる言葉を明確にする、序論・本論・結論を意識する
第5回	学術的文章技法２	パワーライティング・トピックセンテンスを用いた文章構成、様々な引用方法を学ぶ
第6回	学術的文章技法３	これまでの学術的文章技法をふまえたレポートを作成する
第7回	スポーツマネジメント領域における文献の読み方	第１章　現代社会と体育・スポーツ経営学の要約と解説
第8回	文献輪読１	第２章　体育・スポーツ経営の概念と構造、第３章　体育・スポーツ経営と運動生活の要約と発表
第9回	文献輪読２	第４章　体育・スポーツ事業と経営資源の要約と発表
第10回	文献輪読３	第５章　体育・スポーツ事業の運営(前半・後半)の要約と発表
第11回	文献輪読４	第６章　体育・スポーツ経営とマネジメントの要約と発表
第12回	文献輪読５	第７章　体育・スポーツ経営の実践領域、第８章　「みるスポーツ」の経営の要約と発表
第13回	文献輪読の再要約と総括	これまでの文献輪読内容を再要約し、全体を通しで確認する
第14回	前期学習内容のまとめと後期への準備	前期に実施した学術的文章技法、文献の読み方、要約方法を再確認し、後期に向けた夏休み期間の課題を理解する
第15回	後期授業オリエンテーション	夏休み期間の課題を確認した後、後期に実施する学習内容全体を概観し具体的な進め方を確認する
第16回	スポーツ領域における量的・質的調査の基本	社会科学としてのスポーツ科学の在り方と方法論的問題、概念化の論理
第17回	量的調査研究の種類と手順	学術調査における量的研究と質的研究、それぞれの特徴と手順について
第18回	調査用紙の作成方法	調査用紙作成の基本とデザイン、倫理に関する問題について
第19回	調査手法に関するスキル	調査の手順と企画・設計、サンプリングと倫理的配慮について
第20回	データ処理に関するスキル	データ取得と解析用のデータ作成、調査研究における妥当性・信頼性・客観性について
第21回	量的データ分析手法１	単純集計、クロス集計、カイ二乗検定の理解
第22回	量的データ分析手法２	ｔ検定、対応のあるｔ検定、一元配置分散分析の理解
第23回	質的調査研究の種類と手順	質的研究方法の利点と限界、種類と方法
第24回	質的調査活動に関するスキル	質的調査活動の基本ステップ、質的調査方法のセンスとモチベーション
第25回	データ分析の実践	サンプルデータを用いたデータ解析の実践
第26回	分析結果の整理	解析したデータ(結果)に対する整理と考察の実践
第27回	グループ発表１	グループ１によるプレゼンテーションの実施
第28回	グループ発表２	グループ２によるプレゼンテーションの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の課題として、小レポートの作成や輪読資料の作成、グループによるデータ分析の実践などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中西純司 2024年　はじめて学ぶスポーツマネジメントの基礎と実践 みらいスポーツライブラリー　3300円

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内で実施するレポート課題(100％)で判断する

【学生の意見等からの気づき】
履修者増加に伴うグループワークの形式変更を行いました。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
レポートの作成およびデータの分析にはパソコンが必須となりますので、各自持参してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, pupils will acquire fundamental understanding of sports management and the essential competencies requisite for scholarly composition. Specifically, students will be instructed in the fundamental techniques of scholarly writing, appropriate methods of literature review and synthesis, and fundamental research methodologies.
【Learning Objectives】
1: Understand the basics of academic writing techniques
2: Understand and summarize the content of literature in the field of sport management.
3: Understand the basics of quantitative research and be able to conduct analysis.
【Learning activities outside of classroom】
Assignments outside of class time will include writing short reports, preparing reading materials, and practicing data analysis in groups. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
To be judged by a report assignment (100%) to be conducted in class.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

吉田　政幸

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習において、履修者はスポーツマーケティングに関する理論と実践について総合的に学習する。演習後、履修者は（1）スポーツマーケティングに関する重要テーマとそれに関連する概念や理論を説明できるようになるとともに、（2）自分自身の研究テーマを明確に定めることができるようになる。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマネジメントにおけるスポーツマーケティングの位置づけを説明することができる。
2. スポーツマーケティングに関する重要概念の定義を述べることができる。
3. スポーツマーケティングに関する現象を説明する代表的な理論を説明することができる。
4. 演習の議論を踏まえ、自分自身の研究テーマを明確に設定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期はスポーツマーケティングに関する基本的知識を身に付けるため、学習支援システムにアップロードされる資料を事前に読み、演習ではそれらに基づいて議論する。秋学期はスポーツメーカー、観戦型スポーツイベント、参加型スポーツイベントのマーケティングのそれぞれについて、調査を実施・分析したり、現場の実務担当者の話を聞いたり、海外の研究者のレクチャーを受けたりするなどして、理論と実践の両面から総合的に学習する。春学期も秋学期も学期末に予定されたグループ発表において、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション：春学期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
2回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
3回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルインパクト	五輪やサッカーW杯のようなメガスポーツイベントには社会を変える力がある。これをソーシャルインパクトと呼ぶが、その定義、種類、考え方について学ぶ。
4回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルキャピタル	スポーツはプレイヤー、仲間、対戦相手、ファンなどの人々の相互作用で成立しており、その過程において人々を結び付ける働きを担っている。それをソーシャルキャピタルと呼ぶことができ、その定義、種類、重要性を理解する。
5回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ウェルビーイング	国際連合が発表したSDGsの3番目の開発目標がウェルビーイングである。このウェルビーイングとスポーツマーケティングの関係性について学習する。
6回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの登場により、スポーツを消費する人々の心理や行動に変化が生じている。今回はスポーツ消費者行動におけるソーシャルメディアの意味と役割について学ぶ。
7回	スポーツマーケティングの重要テーマ：観戦スタイルの変化と態度変容	テクノロジーの技術革新や社会環境の変化（温暖化、大規模災害、感染症蔓延など）はスポーツの観戦スタイルに影響を与える。こうした変化に対する人々の適応方法を理解する。
8回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
9回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
10回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
11回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する。
12回	卒業研究を知る	4年生の卒業研究の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
13回	情報を報告する：前半グループ	スポーツマーケティングに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
14回	情報を報告する：後半グループ	スポーツマーケティングに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
15回	秋学期の概要の説明	秋学期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
16回	スポーツメーカーのマーケティングに関するテーマ設定	プレゼンテーションの方法を学ぶとともに、グループのテーマを決め、発表の役割を分担する。
17回	スポーツメーカーのマーケティングに関する資料作成	グループで協力して発表資料を作成する。
18回	スポーツメーカーのマーケティングに関する討論	ゲスト講師（現場の実務担当者）の前で発表するとともに、課題解決に向け、ディスカッションする。
19回	海外のスポーツマーケティング：テーマ設定	ゲスト講師（海外のスポーツマーケティングの専門家）の資料を事前に学習し、質問を考える。
20回	海外のスポーツマーケティング：討論	ゲスト講師（海外のスポーツマーケティングの専門家）によるスポーツビジネスの授業を受講し、英語でディスカッションに参加する。
21回	スポーツマーケティング研究：観戦型スポーツの先行研究	観戦型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
22回	スポーツマーケティング研究：参加型スポーツの先行研究	参加型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
23回	スポーツマーケティング研究：拡大産業に関する先行研究	スポンサーシップ、ツーリズム、インターネットなどに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
24回	スポーツマーケティング研究：構想発表会	3年生の卒業研究の構想発表会に参加する。
25回	参加型スポーツイベントのマーケティング：ケースの理解	ケースメソッドのアプローチから、東京マラソンのマーケティングの仕組みを理解する。
26回	参加型スポーツイベントのマーケティング：考察	ケースメソッドのアプローチから、東京マラソンのマーケティングの成功理由と今後の課題を考察する。
27回	演習のまとめ	1年間に渡って取り組んできたゼミの専門的な学習を振り返り、まとめとする。
28回	卒業研究発表会	4年生の卒業研究の発表会に参加する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備、レポートの作成などがあります。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房．2,640円
原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第7版）．杏林書院：東京．2,750円

【成績評価の方法と基準】
（1）スポーツマーケティングの重要概念に関する課題レポート（10点、春学期）
（2）スポーツマーケティング調査：データ収集（10点、春学期）
（3）スポーツマーケティング調査：結果の集計と報告（10点、春学期）
（4）スポーツメーカーのマーケティングに関する課題（10点、秋学期）
（5）スポーツマーケティング研究に関する課題（20点、秋学期）
（6）観戦型スポーツマーケティングに関する課題（20点、秋学期）
（7）参加型スポーツマーケティングに関する課題（20点、秋学期）
合計：100点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では海外の事例や文献に加え、身近な日本のスポーツや文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的学習してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This is sport marketing seminar at the undergraduate level. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) understand some concepts and theories relevant to important themes in sport marketing and (2) clearly identify their own research topics.
(Learning objectives)
The goal of this seminar is to learn theories and practices related to sport marketing.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on short report (10%), data collection and analysis (10%), group presentation (10%), mid-term report (30%), and final report (40%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

越智　英輔

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身体活動や運動トレーニングがもたらす身体への応答・適応に関して運動生理学の視点から学びます。過去の先行研究を検索する方法、まとめる方法、仮説の立て方など、実際に実験を計画する上で必要な手法を習得することを目的とします。

【到達目標】
1. 必要な図書・論文の検索が自分でできる。
2. 検索した文献をレビューできる。
3. 理解した内容を、プレゼンテーションができる。
4. 先行研究の位置付けを把握し、実験を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期前半は、文献のインターネット検索法、レビュー法を学んでもらい、まとめた内容を発表してもらいます。その後、実際に実験を実施してもらいます。最後に研究の立案、実験計画の手順（倫理、統計）などを学んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容を説明し、履修人数に応じて授業の進め方を調整する
2	文献の紹介	文献の種別を学ぶ
3	図書検索	図書の検索方法を理解する
4	論文検索	科学論文の検索法を学ぶ
5	文献の分類	検索した文献のレビュー法を学ぶ
6	文献の総括	プレゼンテーション法を学ぶ
7	文献のレビュー発表	実際に文献をまとめて発表する
8	実験の準備	紹介した文献で実施している測定を行うための準備をする
9	実験実習の実施	実験を実施する
10	実験データの解析	得られたデータを分析し、統計解析を行う
11	データのプレゼンテーション法	実験データのプレゼンテーション法を学ぶ
12	プレゼンテーション	実験データを発表し、過去の論文との再現性を確認する
13	筋電図法の紹介	文献、測定法を紹介する
14	筋電図測定の実施	実際に測定する
15	筋電図データのまとめ	分析結果をまとめる
16	筋力測定の紹介	文献・測定法を紹介する
17	筋力測定の実施	実際に測定する
18	筋力測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
19	筋厚、筋硬測定の紹介	文献、測定法を紹介する
20	筋厚、筋硬測定の実施	実際に測定する
21	筋厚、筋硬測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
22	生化学的分析の紹介	文献、測定法を紹介する
23	生化学的分析の実施	実際に実施する
24	生化学的分析の解析	データを解析する
25	生化学的データのプレゼンテーション	分析結果をまとめて発表する
26	研究の仮説立案	これまでの文献レビューと実習を踏まえて研究の仮説を立てる
27	研究計画書の作成	仮説に基づく実験計画書を作成する
28	研究計画書の紹介	作成した計画書を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を検索してもらったり、入手した文献をレビューしてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容60%、実習を含めた授業への参加姿勢40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
文献検索、プレゼンテーションのためのPCが必要です。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential components of exercise training and physical activity on human body to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of research strategy.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports and presentations (60%)and in-class contribution (40%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 I

中澤　史

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：2年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年次における卒業論文の作成を前提として、調査研究の基礎的手法について学習する。具体的には、次のことに取り組む。①スポーツ心理学に関する文献の講読等を通して当該領域の動向について理解する。②体験的学習やフィールドワークを通してデータを収集し、分析した結果について考察する。③これらの取り組みを踏まえ、卒業論文に関するテーマについてまとめた研究構想を発表する。

【到達目標】
1. スポーツ心理学領域の動向について説明することがきる。
2. スポーツ心理学に関するデータを収集し、分析することができる。
3. 分析した結果について考察し、発表できる。
4. 研究テーマを抄録にまとめ、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
アスリートの心理サポートやチームビルディングを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告の内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深めるとともに各自の研究テーマを絞り込み、卒業論文の完成を目的とした研究構想をまとめる。また、講義、体験的学習、フィールドワークなどにより、卒業研究の遂行に不可欠となる基礎的な調査方法について学ぶ。なお、授業で取り組むプレゼンテーションやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	スポーツ心理学で用いられるグループワークへの参加を通して、その方法、意義などについて学習する。
3	体験的学習によるデータ収集	体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	データの入力・分析	収集したデータをエクセルシートに入力し、統計ソフトを用いて集計・分析する。
5	データの整理	集約したデータを基礎集計としてまとめ、図表を作成する。
6	発表用資料の作成	整理したデータをパワーポイントにまとめて発表する。
7	心理検査	心理検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
8	心理的競技能力の診断	心理的競技能力診断検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
9	チームワークの診断	チームワークを診断する心理検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
10	対人関係能力の診断	対人関係能力を診断する質問紙を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
11	実践報告を読む	スポーツ心理学に関する実践報告の講読を通して研究論文のまとめ方について学習する。
12	研究構想と抄録のまとめ方	ゼミ内の研究構想報告会に参加し、抄録のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究構想の発表	今後取り組む予定の研究構想を抄録にまとめるとともに発表する。
15	研究構想の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	文献の収集	スポーツ心理学に関する先行研究、図書、雑誌等の文献の収集方法について学習する。
17	研究倫理	研究倫理、同意書、調査概要の説明の仕方等について学習する。
18	調査の方法	個別調査におけるインタビューガイドの作成や調査方法等について学習する。
19	質的研究の理論と方法	スポーツ心理学領域における質的研究の理論と方法について学習する。
20	心理統計法の理論と実践（データ集約について学ぶ）	欠損値の処理や新しい変数の作成など、データハンドリングの方法を学習する。
21	心理統計法の理論と実践（相関関係について学ぶ）	2変数間の相関関係を分析する方法を学習する。
22	心理統計法の理論と実践（有意差検定について学ぶ）	2群間の平均値差を分析する方法を学習する。
23	効果的なプレゼンの技術	相手に「伝わる」プレゼン資料の作成と発表の方法を学習する。
24	研究構想を練る	研究テーマを絞り込み、研究構想について検討する。
25	調査研究の流れを知る	ゼミ内の発表会に参加し、研究計画のまとめ方や発表の仕方について学習する。
26	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文発表会に参加し、卒業論文について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
27	研究構想の発表（第１グループ）	第1グループが、研究構想を抄録にまとめるとともに発表する。
28	研究構想の発表（第２グループ）	第2グループが、研究構想を抄録にまとめるとともに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1.先行研究の講読や予備調査等に取り組んでください。
2.データの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、その準備に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1.中澤　史「アスリートの心理学」日本文化出版　2016

2.小宮あすか・布井雅人「Excelで今すぐはじめる心理統計　簡単ツールHADで基本を身につける」講談社　2018
3.マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院　2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1.研究構想書、リアクションペーパー等の提出物が50％、プレゼンテーション、授業への参画状況が50％です。
2.やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、半期で欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回（半期）を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5.研究構想書、リアクションペーパー等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8.授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
1.競技スポーツの現場で役立つ心理スキルの理論と方法について、受講生間で情報交換を行います。
2.チームビルディングの促進に役立つ体験的学習への取り組みを通して、受講生間の新規的人間関係の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
データの分析や資料の作成等が可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業に変更される場合があるため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3.授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on learning fundamental research methods for the purpose of writing a graduation thesis in the fourth year.　Specifically, students will engage in the following activities: ① Gain an understanding of current trends in the field of sports psychology through reading and analyzing relevant literature.　② Collect data through experiential learning and fieldwork, then analyze and reflect on the results. ③ Based on these activities, present a research proposal outlining a thesis topic for their graduation research.
【Learning Objectives】
1.to be able to explain trends in the field of sports psychology.
2.to be able to collect and analyze data related to sports psychology.
3.to be able to reflect on and present the results of the analysis.
4.to be able to summarize a research theme in an abstract and present it.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review time for this course is 2 hours each, and the specific tasks are as follows:
1.Please engage in reading prior research and conducting preliminary investigations.
2.Opportunities for data collection, analysis, and presenting the results will be provided; please prepare accordingly.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.
1.Submission of research plan, reaction paper, etc.: 50%
2.Presentations and class participation: 50%.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

安藤　正志

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
検査祖測定学分野：種々の検査器具を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ

【到達目標】
各種検査器具の原理と使用方法を説明できる
身体機能の基本的な測定技術を実施できる
測定結果を整理・分析し、評価できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
少人数グループに分かれ課題を定め課題解決のために実験を実施しデーターをまとめ報告する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　1	グループに分かれ課題決定
2	オリエンテーション　2	各課題発表。オリエンテーションを行う
3	クラス別課題	クラスに分かれ文献を探す
4	調査・まとめ・発表のしかた	検索方法・調査方法について教員の助言を受けながら列挙し確認する。また調べた事項をまとめる方法や発表の方法を確認する。
5	クラス別課題	「筋力測定方法の比較」に関する文献をグループで調査・発表
6	クラス別課題	「柔軟性評価の手法と課題」に関する文献を調査・発表
7	クラス別課題	「バランス能力測定の臨床的意義」に関する文献をグループでまとめ発表
8	クラス別課題	「運動能力評価の信頼性・妥当性」に関する文献を調査・報告
9	クラス別課題	「加齢による身体機能変化の評価」に関する文献をグループで発表
10	全体課題	実験計画を作成する
11	クラス別課題	実験計画に基づき予備実験を行う
12	クラス別課題	実験計画に基づきゼミ内で実験を行う
13	クラス別課題	実験計画に基づき本実験を行う
14	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する
15	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する
16	全体オリエンテーション	後期課題タイムスケジュールを発表。オリエンテーションを行う
17	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
18	文献検索	関連のある文献を収集し報告する。測定方法に関する文献 例：筋力測定、柔軟性測定、バランス能力測定など、各種評価法の原理や特徴を調べる
19	文献検索	関連のある文献を収集し報告する。測定結果の信頼性・妥当性に関する文献 例：測定機器や手法の再現性や正確性に関する研究をまとめる
20	文献検索	関連のある文献を収集し報告する。特定集団の身体機能評価に関する文献 例：加齢者、障害者、スポーツ選手など、対象集団別の評価法を調査
21	文献検索	関連のある文献を収集し報告する新技術・機器の応用に関する。文献 例：最新のセンサー、アプリ、ウェアラブル機器を用いた測定法の研究をまとめる
22	中間報告会	調査した文献に基づき課題解決のための研究計画書を作成する
23	実験計画作成	実施する測定や実験の目的・方法・手順を計画書にまとめる
24	データ収集・測定実施	計画に沿って身体機能測定や実験を行い、必要なデータを正確に記録する
25	データ整理・前処理	収集したデータを整理・入力し、欠損値や異常値の確認など前処理を行う
26	データ分析・評価	計測結果を統計手法やグラフ化を用いて分析し、意味のある情報に変換する
27	結果報告・考察作成	分析結果を文章や図表でまとめ、考察や結論を記載し、報告書を作成する
28	発表会	履修生全員の前で成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：配付資料を持参する
第4回：ディスカッションで決まった事項をまとめる
第5〜6回：翌週までに発表の準備をする
第7〜8回：翌週までに課題について調べまとめる
第9回：報告資料をコピーし配布しておく
第16回：配付資料を持参する
第18〜22回：発表原稿のコピーと配布
第23〜27回：資料のコピーと配布
第28〜29回：プレゼンテーション資料の作成
第30回：意見をまとめ整理する

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて教員が資料を配付する

【参考書】
特に定めず、学生が課題解決のため決定する

【成績評価の方法と基準】
出席状況、授業への積極性、発表資料のできばえあるいは仕方

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生アンケートおよび授業内フィードバックを踏まえ、理論中心であった講義内容に具体的事例や実践的ワークを追加した。特に、ヘルスデザインの実社会への応用例を増やし、ディスカッションおよびグループワークの時間を拡充した。また、評価基準をより明確化し、授業資料を事前配布することで学習効果の向上を図った。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンなど

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces the field of Measurement and Evaluation Sciences, focusing on techniques for assessing physical function using various diagnostic and measurement instruments. Students will learn both theoretical principles and practical applications of commonly used evaluation tools in sports and rehabilitation.
Learning Objectives
By the end of the course, students will be able to:
Explain the principles and uses of different physical assessment instruments.
Perform basic physical function measurements using standard instruments.
Analyze and interpret measurement results to evaluate physical function.
Learning activities outside of classroom
Review lecture materials and practice measurement techniques using videos or manuals.
Complete assigned exercises or mini-reports on selected assessment methods.
Spend approximately 2 – 3 hours per week preparing for practical exercises and reviewing prior class content.
Grading Criteria / Policy
Practical exercises and reports (50%): Evaluation based on accuracy of measurements, completeness of reports, and participation in practical sessions.
Written exams (50%): Assessment of theoretical understanding of measurement principles and interpretation of results.
Passing criteria: Achieving at least 60% of the total score.
Attendance is required to meet course prerequisites; excessive absences may make students ineligible to take practical assessments.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

泉　重樹

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける3年次のテーマは以下の3つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】
アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、一年間を通して活動ができることが 3年次の本ゼミナールの到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　2年時から引き続き、春学期では事前準備の上で実技を含む発表が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定とゼミの年度最後には研究デザイン発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹部全体のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて実技を伴う発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。
15	研究の方法とは	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
16	機器の操作方法実習：バイオデックス他	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。
17	機器の操作方法実習：フォースプレート	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法実習：筋電図	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法実習：フレームディアス	フレームディアスの使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法実習：超音波診断機器	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
21	研究計画の作成および抄読会	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
22	研究計画の添削および抄読会	研究計画を作成し、添削する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	現場実習報告の書き方	アスレティックトレーナー現場での活動の報告書の書き方を講義する。
24	現場実習報告の実施	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。
25	研究計画の推敲と予備実験	卒業研究の準備として各自の研究計画から、予備実験を行う。
26	予備実験結果の検討	予備実験として行った内容を検討し研究計画に反映する。
27	研究デザイン発表会	卒業研究の研究デザイン発表会を行う。
28	まとめ	研究計画発表の振り返りとともに3年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜15回：前回授業への取り組みと復習
第16回：春学期の復習
第17〜30回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内で適宜、紹介する。

【参考書】
１．日スポ協会編：日スポ協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１〜６．2022
２．ドナルド・A．ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー．医歯薬出版．2012
３．坂井建雄，松村讓兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
４．日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館書店．2011
５．小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
６．Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
７．臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第2版．文光堂．2015
８．広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
９．独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 2023
10．広瀬統一, 泉重樹, 福田崇, 稲見崇孝編. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社. 2023

【成績評価の方法と基準】
平常点70%、種々の活動への取り組み30%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などの活動実態を通して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
　アスレティックトレーナーはスポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場（スポーツ現場）の経験が大変重要であることを実感している。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purposes of the athletic training seminar 2 are as follows. 1. to learn knowledge and skills necessary as an athletic trainer. 2. to have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. 3. to review the study along a graduation study theme and set a problem to reach the graduation thesis.
【Learning Objectives】 The seminar goal is for the student trainer to understand the duties and roles of an athletic trainer in a sports setting and to be able to work with them throughout the year.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Evaluated comprehensively based on normal scores, seminar content, and extracurricular activities.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

伊藤　真紀

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業では、スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。後期の授業では、コミュニケーション能力を高めるために、毎回プレゼンテーション行う。専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】
１．スポーツマネジメントを深く学ぶこと。
2.4年次に挑戦することとなる卒業研究のテーマを把握すること。
3.受講者は専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定すること。
4.自身が選んだ研究を実行するために必要な先行研究を読み、適切な研究方法を他の受講者と共に検討すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
３年次を対象に、少人数でのプレゼンテーション・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した基礎的な理論を理解し、２年次の専門演習Ⅰにおいて学んだ知識ならびに本講義で学んだ理論をもとに卒業研究テーマの決定を目標とし、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究に向けた準備の進め方、調査の手法などについて説明する
2	マネジメントとは１ マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは２ マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	組織とは スポーツの組織化 スポーツ組織の文化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）ならびに、組織文化ついて学習する。
6	スポーツ組織のコントロールシステム 組織コミットメント	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
8	スポーツ組織におけるモチベーションマネジメント	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	プレゼンテーションの方法について　1	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
12	プレゼンテーションの方法について　2	効果的なプレゼンテーション方法について視覚的なアプローチから考える。
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行う準備をする。
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。
15	後期演習の概説	後期の演習の概要及び卒業研究の意義を理解する。卒業論文執筆に向けた今後の進め方に確認する。
16	研究の進め方について１	量的研究の手法について解説する。
17	研究の進め方について２	質的研究の手法について解説する。
18	情報・文献の検索について	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
19	先行研究について	先行研究の読み方について解説する。
20	過去の卒業研究の検討１	各自のテーマにあった過去の卒業研究を読み、各自（１）文献の要約（２）研究群の整理、（３）問題点の特定を行う。
21	過去の卒業研究の検討２	第２０回の授業で行った各自のテーマにあった過去の卒業論文について、（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点について発表を行う。
22	先行研究の検討１	先行研究について、各自（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点の特定と行う。
23	先行研究の検討2	第２２回の授業で行った各自のテーマにあった先行研究について、（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点について発表を行う。
24	研究課題の選択 研究課題発表	各自興味をもった研究テーマに関する、（１）研究背景、（２）研究目的、（３）方法について発表する。
25	論文の構成	各自研究テーマに沿った論文の構成について学ぶ。
26	緒言の書き方について	緒言の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。
27	研究背景の書き方について	研究背景の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。
28	研究目的、方法の書き方について	研究目的、方法の書き方について学び、各自のテーマに沿った緒言を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習として授業での各プレゼンテーションへのフィードバックを行い、予習として、次週のグループプレゼンテーションの準備を行なう。準備学習・復習にそれぞれ2時間ずつ要する。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関する過去の卒業論文と一般論文

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（70％）、卒業研究のプロポーザル内容（30％）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの行う機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
Comprehensively learn the basic knowledge about sports management studies through management science, social psychology, and sociology. After studying the fundamentals of management by reading " Principle of Management)", you will study the basic knowledge of sports management and sports organization behavior theory.
(Learning Objectives)
The goals of this course are 1. You can clearly express what management is.2.　Explain the definition of "sports management" based on an academic background.3. Understand the basic knowledge to effectively manage a sports organization.
(Learning activities outside of classroom)
As a review of the class, give feedback on each presentation in the class, and as a homework, prepare for the next week's group presentation.The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Grade evaluation is judged by the report assignment (100%) imposed at each class.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

井上　尊寛

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は4年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
(2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
(3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
3年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第2回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第3回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第4回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第5回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第6回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第7回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第8回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第9回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わりの強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第10回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第11回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第12回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤルティ	スポーツにおける顧客ロイヤルティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第13回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第14回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
第15回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第16回	過去の卒業研究の検討：第1グループ	第1グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第17回	過去の卒業研究の検討：第2グループ	第2グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第18回	過去の卒業研究の検討：第3グループ	第3グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第19回	先行研究（一般の研究）の検討：第1グループ	第1グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第20回	先行研究（一般の研究）の検討：第2グループ	第2グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第21回	先行研究（一般の研究）の検討：第3グループ	第3グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第22回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1）研究の背景、(2）研究目的、(3）学術的な重要性、(4）実践的な重要性をまとめ、発表する。
第23回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第24回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第25回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第26回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第27回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第28回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
(1）研究手法に関するレポート：10点（前期）
(2）研究テーマの発表：10点（前期）
(3）過去の卒業研究のレビュー：10点（後期）
(4）一般の先行研究のレビュー：10点（後期）
(5）序論（緒言、問題の所在）の執筆：20点（後期）
(6）序論（目的、重要性）の執筆：20点（後期）
(7）序論（概念的枠組み）の執筆：20点（後期）
合計：100点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
専門演習は論文を作成することを最終的な目標とし、専門演習ⅠからⅢまでの3年間、理論だけでなく、多くのフィールドワークや課題に取り組む必要があります。よって、専門演習Ⅱを履修するためには以下の条件を満たすことが求められます。授業への参加だけでなく、課外活動に対する取り組みや各課題に対する一定以上の評価が得られていること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar introduces the basic elements of sport marketing research.
(Learning Objectives)
Students will learn how to collect data, analyze results, and interpret and report findings. Upon successful completion of this seminar, students will be able to conduct sport marketing research.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to spend more than four hours per class on preparation and review.
(Grading Criteria /Policy)
Final grades will be calculated based on the following components: oral presentation (40%) and class participation and performance (60%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

小田　佳子

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。
保健体育教師になるという覚悟をもって、教師を志す仲間と共に「よりよい授業づくり」を目指して切磋琢磨する。

【到達目標】
指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体つくり運動」の実践的検討	授業担当者が「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
3	「球技：ネット型」の実践的検討	担当者が「球技（ネット型）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「球技：ベースボール型」の実践的検討	担当者が「球技（ベースボール型）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
5	「球技：ゴール型」の実践的検討	担当者が「球技：ゴール型」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の実践的検討	担当者が「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
7	「陸上」の実践的検討	担当者が「陸上」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「武道:柔道」の実践的検討	担当者が「武道（柔道）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
9	「武道：剣道」の実践的検討	担当者が「武道（剣道）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「器械運動：マット」の実践的検討	担当者が「器械運動（マット）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る
11	「器械運動：跳び箱」の実践的検討	担当者が「器械運動（跳び箱）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス：創作・フォークダンス」の実践的検討	担当者が「ダンス（創作）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
13	「ダンス：現代的なリズム」の実践的検討	担当者が「ダンス（現代的なリズム）」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	授業整理会とまとめ	全ての模擬授業を振り返り、担当者相互に指導案を再検討する。
15	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（陸上競技）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
16	「球技：ゴール型」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（球技）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
17	「球技：ベースボール型」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案（球技）について、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
18	「体つくり運動：体ほぐし」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（体つくり運動：体ほぐし）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
19	「体つくり運動：体の動きを高める運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（体つくり運動：体の動きを高める運動）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「球技：ネット型（バレー）」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（ネット型：バレー）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
21	「球技：ネット型（バドミントン）」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（ネット型：バドミントン）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
22	「武道：柔道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（柔道）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
23	「武道：剣道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（剣道）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「ダンス：現代的なリズムのダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（ダンス）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
25	「ダンス：創作・フォークダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案（ダンス）について、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
26	「器械運動：マット」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（器械運動）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
27	「器械運動：跳び箱」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案（器械運動）について、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
28	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業（体育理論）を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は6時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』平成29年版（東山書房）平成３０年３月
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』平成30年版（東山書房）令和6年12月 一部改訂

【参考書】
岩田靖（2012）『体育の教材を創る』大修館書店
杉山重利・高橋健夫他 編（2009）『保健体育科教育法』大修館書店
坂本拓哉（2025）『子どもたちのための体育をつくる哲学』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０%）
プレゼン・模擬授業（３０%）
指導案・レポート（２０%）
上記の項目について総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生参加型の対面式授業により進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。
授業形態についても感染拡大状況によって柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduce the basic theories of P.E., class creating the "better P.E. class management" to students taking this course with other students who has will to be a P.E. teacher and will to become teachers.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to deepen student's understanding of how to make a lesson plan, how to teach in class and how to evaluate from both theory and practice.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to make class plans and have completed the required assignments after each class meeting.
Your study time will be about six hours before the training class and 2 hours after the class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the Presentation and Training class: 30%, Teaching plan and Short reports : 20%, in class contribution and Attitude: 50%.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習 II

片上　千恵

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツメディアを対象とした卒業論文作成を視野に入れ、理論的知識と実践的経験を積みながら研究計画を構築することを目的とする。スポーツ報道、SNS、広報活動、スポンサーシップ、アスリートのメディア対応などを事例として取り上げ、スポーツマネジメントやメディア論など基礎理論を踏まえつつ、現代スポーツを取り巻くコミュニケーション構造を分析する。また、実際のメディア事例分析や簡易的な調査設計（インタビュー・内容分析・アンケート設計等）を通して、研究テーマの設定から研究計画書の作成までを行う。3年次終了時には、明確なリサーチクエスチョンと研究方法を含めた卒業論文計画を完成させることを目標とする。

【到達目標】
・スポーツメディアを理論的に説明できる
・研究課題（Research Question）を明確に設定できる
・適切な研究方法を選択できる
・卒業論文の研究計画書を作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎回指定の文献を読み、担当者はスライドにまとめてプレゼンテーションを行う。グループで企画を立案し、スポーツ組織のSNS発信サポートに携わり、効果測定、フィードバックを重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介。授業の進め方と評価方法の説明。
2	「卒論」とは何か	スポーツメディア研究の領域整理
3	スポーツメディアの構造	メディアの機能 スポーツ報道の特殊性 ステークホルダー整理
4	先行研究の読み方	論文の構造（目的・方法・結果・考察） 方法論の読み方（量的／質的）
5	論文検索の仕方	図書館活用の仕方
6	ケーススタディ① SNS（テキスト）	スポーツ組織が発信するSNS（テキストベース）を対象にグループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
7	ケーススタディ② SNS（動画）	スポーツ組織が発信するSNS（動画）を対象に分析。グループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
8	ケーススタディ③ フラッシュインタビュー	アスリートの試合後フラッシュインタビューを対象にグループごとに事例研究し、プレゼンテーション発表を行う。
9	スポーツの情報発信①	これまでの事例研究と文献調査をもとにSNS企画を考案し、プレゼンテーション発表を行う。
10	スポーツの情報発信②	企画を具体化するためのプランを練る。
11	スポーツの情報発信③	企画提案書とプレゼンスライド作成。
12	ゲスト招聘	スポーツ組織の広報スタッフの前でアイデア企画をプレゼンテーション発表し、ディスカッションする。
13	研究計画プレゼンテーション	興味のある研究テーマをプレゼンテーションする。
14	総括	夏季休業中の計画と課題の説明をする。
15	後期授業オリエンテーション	夏季休業中の活動報告と後期授業の進め方説明。
16	研究テーマの絞り込み	リサーチクエスチョンの作り方。
17	研究デザイン	量的研究、質的研究とは？ インタビュー/アンケート/内容分析
18	スポーツメディア実践①	記者会見映像分析 SNS投稿分析
19	スポーツメディア実践②	簡易インタビュー実践 記事作成 広報リリース文作成
20	インタビュー分析方法①	先行研究から基本的なテクスト分析の方法を学ぶ。
21	インタビュー分析方法②	先行研究から基本的な映像分析の方法を学ぶ。
22	インタビュー調査計画	調査分析のためのインタビューを準備する。インタビューイーの予備調査。インタビュアーの質問項目を考える。
23	インタビュー実践	学内アスリートを対象に競技についてインタビューを実践する。インタビューは機材を使用し収録する。
24	序論の書き方	問題意識 研究の意義
25	先行研究の整理	問題意識 先行研究マップ作成
26	分析・考察の書き方	結果と考察の違い
27	最終プレゼン	研究計画書提出 4年次への課題を整理する
28	総括	各自、来年度に向けた研究テーマを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業、文献を紹介する。各自で読みこんでディスカッションできるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション課題と出席を含む授業態度で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で学んだことをスポーツ現場で実践できる場を設ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The objective is to build a research plan by accumulating theoretical knowledge and practical experience, with a view to writing a graduation thesis focused on sports media. The research will analyze the communication structure surrounding modern sports, utilizing case studies such as sports journalism, social media, public relations activities, sponsorships, and athletes' media interactions, based on foundational theories like sports management and media studies. Furthermore, the process will involve setting a research theme and preparing a thesis proposal through actual media case analyses and basic research design (e.g., interviews, content analysis, questionnaire design).
【Learning Objectives】
The goal is to complete a graduation thesis plan with clear research questions and methodologies by the end of the third year.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be determined based on a comprehensive evaluation of presentation assignments and class participation.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

苅部　俊二

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学、体育学、コーチ学等の運動科学分野における文献購読・分析を通じ、自らの関心領域を明確化する。既存研究の検討から理論的背景を整理し、卒業論文の核となる研究課題を模索・特定する。先行研究の批判的検討を通じて、適切な問いを立てるプロセスを学び、研究計画の立案に向けた基礎力を養う。

【到達目標】
自らの研究テーマに基づき、適切な研究手法、実験計画、データ分析の手法を修得する。一連のプロセスを主体的に実践することで、論理的思考力と研究遂行に必要な専門的スキルを総合的に高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
3年次を対象に、少人数による綿密な指導のもと、コーチング分野に関する報告・討論・実践を通じて学習を深化させる。これまでに修得した理論を主体的に捉え直し、2年次の「専門演習Ⅰ」で設定した各自のテーマについて、より専門的な視点から掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第2回	合同研究の情報収集1（文献）	興味のある研究テーマについて文献検索を行う。
第3回	合同研究の情報収集2（ネット情報など）	合同で行う研究テーマについてインターネットを利用して文献検索を行い、プレゼンする。
第4回	合同研究のテーマの検討	合同で行う研究についてテーマを決定する。
第5回	合同研究テーマの方法の検討	合同研究のテーマに関する研究方法を検討し、担当者を決定する。
第6回	合同研究計画の解析と立案	合同研究のテーマについて、解析方法を検討し、予備実験の準備を行う。
第7回	予備実験	合同テーマについて予備実験を行う。
第8回	予備実験の解析	合同研究のテーマ予備実験のデータの解析を行い、プレゼンする。
第9回	合同研究の本実験1（第１課題）	合同研究のテーマのテーマの課題に応じて本実験を行う。
第10回	合同研究の本実験2（第2課題、予備）	合同研究のテーマのテーマの課題に応じて本実験を行う。第2課題もしくは、第１課題の予とする。
第11回	合同研究の解析1（データの集積と解析）	合同研究のテーマの本実験により集積されたデータの解析を行う。
第12回	合同研究の解析2（考察）	合同研究のテーマの本実験により集積されたデータの考察を行う。
第13回	合同研究の発表1（研究結果のまとめ）	合同研究のテーマの論文をまとめ、プレゼン資料を作成する。
第14回	合同研究の発表2（プレゼン）	合同研究のテーマの論文のプレゼンを行う。
第15回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。春学期研究の成果を発表する。
第16回	合同研究のポスターの作成	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスターを作製する。
第17回	合同研究のポスターの発表	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスターを使用し発表する。
第18回	合同研究のポスター発表のフィードバック	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスター発表のフィードバックを行う。
第19回	論文計画書作成	4年時の卒業研究とする各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う
第20回	研究テーマの検索	各自の研究テーマについて、先行研究やネットを利用し、模索する。
第21回	研究テーマの決定・発表	各自の研究テーマについて、先行研究やネットを利用し、模索する。
第22回	研究テーマのディスカッション	各自の研究テーマについてディスカッションする。
第23回	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
第24回	実験計画書の発表	各自の研究テーマの計画の発表を行う。
第25回	予備実験1（実験）	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
第26回	予備実験2（解析）	各自研究テーマの予備実験の解析を行う。
第27回	予備実験の発表	各自研究テーマの予備実験の結果を発表する。
第28回	今後の研究課題の方向性発表	論文の検索、および余技実験から、卒業論文作成に向け研究課題の方向性について検討、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表資料、レジュメの作成など
次回授業への準備学習・前回授業の復習時間は各2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）とプレゼン（40％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義となる講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.
【Learning Objectives】
The aim is to increase specialist knowledge for graduation thesis writing.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: oral presentation (40%) and usual performance score (60%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

木下　訓光

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】
春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿って調査活動を行う。
研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。
英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。
各学生の研究に必要な実験・測定を行う。
ヒューマンカロリメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生の目標設定、長期的な学習計画についてガイドする。
2	プレゼンテーション・スキル	[演習] 英語によるプレゼンテーションを実践する。
3	プレゼンテーションの方法論（応用編）	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義。特殊なグラフやインフォグラフィクスの作成など高度なスキルについて。
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 卒業研究の課題を報告する。
5	Book Club ①	課題図書について討議する（第１回）。
6	学術へのAIの応用	[演習] レポートや論文作成に活かすAIのスキル訓練。プロンプトエンジニアリングなど。
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent modelについて理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA法による実際に体組成評価を行う。 DXA法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	課題図書について討議する（第２回）。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 最大酸素摂取量の測定のためのプロトコール理論を実習する。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 最大酸素摂取量を測定する。
13	持久力③：最大酸素摂取量の分析	[演習] 測定データをもとに、最大酸素摂取量測定における各種パラメーターの解釈を行う。
14	持久力④：最大酸素摂取量の比較検討	[演習] 最大酸素摂取量を分析し、先行研究などと比較検証する。
15	Book Club ③	課題図書について討議する（第３回）。
16	LTの測定①	[実習] LT測定のためのプロトコール理論を実習する。
17	LTの測定②	[実習] LT測定を測定する。
18	LTの分析	[演習] 測定データをもとに、LTの分析を行い、先行研究などと比較検証する。
19	Book Club ④	課題図書について討議する（第４回）。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定 ①	[実習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費測定の基礎的技術を学習する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定 ②	[実習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費を測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果の分析を行う。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を先行研究などと比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習]研究課題の進捗を発表する。
25	Book Club ⑤	課題図書について討議する（第５回）。
26	スポーツ栄養の応用	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの高度な機序について深く理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表を発表し、先行研究などと比較する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
【注意】専門演習IIIで取り組む卒業研究に関して、年度末の２月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）
　※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかた―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』. 筑摩書房.（2023）
　※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018)
　※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020)
　※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019)
　※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams &Wilkins; 5th ed (2019)
　※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※資料室収蔵
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。
② 専門演習IIIで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習IIの成績はD判定となる可能性があり、かつ専門演習IIIの履修を認めない。
③ 参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。
④ 抄読会・Book Club（5%）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
⑤ プレゼンテーション（10%）：発表のstructure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skillの水準。
⑥ 実習参加（10%）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑦ 演習およびレポート作成（10%）：科学的分析能力。
⑧ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to determine the theme of a graduation thesis by the end of the spring term and to start research in the summer vacation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hour beforehand and 2 hour afterward. Students must report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; whether or not the students can determine the theme of their graduation thesis and can start research by the deadline as mentioned above (60%), in class contribution (5%), reviewing scientific and medical literature (5%), presentation of measurement data (10%), participation in experiments (10%), and submitting reports related the topics in the classroom (10%). If a student can't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February, the grading of the student will be "D". Furthermore, the student is not permitted to take the seminar III in the next year.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

木村　新

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、日常生活の機能改善からスポーツ場面における競技力向上および障害予防についてスポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学の観点から研究していくことを目指す。その上で、3年次では研究テーマを設定し、研究計画書を作成することを目的とする。

【到達目標】
本ゼミにおける3年生次の到達目標は以下の3点となる。
(1) 複数の先行研究を関連付けながら研究における問いを設定すること
(2) 設定した問いに対する研究デザインを構築すること
(3) 予備的な調査を実施すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期は、関心があるテーマの先行研究を関連づけていくことで、検討すべき問いを設定する。加えて、自らの研究において主要な先行研究と同様の実験を行ってみることでその再現性を確認しつつ、2年生に測定法を指導する。秋学期は、設定したテーマに関する予備実験を複数回繰り返すことで、本実験のための実験デザインや分析手法の確立を目指す。加えて、研究計画書の作成を通じて、論理的な文章執筆能力を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概要の説明	本演習の進め方やスケジュールに関して説明する。
第2回	研究テーマの構想の発表	春休みの間に考えてきてもらった研究テーマについて発表し、フィードバックをもらいながら深めていく。
第3回	フィードバックを受けた研究テーマの構想の発表	フィードバックを受け修正した構想について再度発表する。
第4回	検討すべき問いの設定	先行研究を関連づけながら、検討すべき問いを設定する。
第5回	設定した問いの発表	どのような問いを設定したかプレゼンテーション形式で発表する。
第6回	研究テーマの発展	第5回での発表のフィードバックを踏まえた上で、検討すべき問いを洗練させていく。
第7回	発展させた研究テーマの発表	設定した問いの位置づけや意義を考えたのちに、発表を行ってもらう。
第8回	先行研究の再現実験	主要な先行研究と同様の実験を行う。
第9回	再現実験のデータ分析	再現実験で取得されたデータを先行研究と同様の手順で分析する。
第10回	再現実験の分析結果の考察	再現実験で取得されたデータの解析結果と先行研究の結果が一致するかを確認する。また、先行研究の考察の妥当性を確認する。
第11回	再現実験の結果報告	第8回～第10回で行ってきたことについてプレゼンテーション形式で発表する。
第12回	フィードバックを受けた再現実験の結果報告	フィードバックを受け修正した内容について再度発表する。
第13回	予備実験のための実験・分析デザインの考案	どのような予備実験を行い、得られたデータについてどのような分析を行うかについて報告する。
第14回	春学期のまとめ	春学期の総括を行うとともに、振り返りを行ってもらう。
第15回	1回目の予備実験の実施	第13回目で発表した予備実験を実施する。
第16回	1回目の予備実験の追加実験	第15回の予備実験で上手くいかなかった場合、再度同様の予備実験を行う。余裕があれば、被験者を追加した予備実験を行う。
第17回	1回目の予備実験のデータ分析	第13回目で発表した分析デザインに沿ったプログラムを構築する。
第18回	1回目の予備実験の考察	分析結果をまとめて考察を行う。
第19回	1回目の予備実験の背景・方法の発表	予備実験を行った背景、実験方法を発表する。
第20回	1回目の予備実験の結果報告	分析結果と結果の解釈を発表する。
第21回	2回目の予備実験の実施	1回目の予備実験の反省を踏まえた上で、実験プロトコルを修正したりする。また、1回目の予備実験と同様の結果が得られるかテストする。
第22回	2回目の予備実験の追加実験	第21回の予備実験で上手くいかなかった場合、再度同様の予備実験を行う。余裕があれば、被験者を追加した予備実験を行う。
第23回	2回目の予備実験のデータ分析	1回目の予備実験を踏まえて、分析デザインを修正したりプログラムを修正する。
第24回	2回目の予備実験の考察	分析結果をまとめて考察を行う。
第25回	2回目の予備実験の背景・方法の発表	予備実験を行った背景、実験方法を発表する。
第26回	2回目の予備実験の結果報告	分析結果と結果の解釈を発表する。
第27回	研究計画書の作成	研究計画書の書き方について講義を行う。
第28回	秋学期のまとめ	秋学期の総括を行うとともに、振り返りを行ってもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 先行研究のレビュー作成
② データ解析
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、1月下旬までに研究計画書を提出すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
① 平常点 (50%) : 発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。
② 発表内容 (50％) : レビューの妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
課題ややるべきことは多いものの多くの学生が充実感を得ており、学んだことを将来に活かすことができると感じている。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
進捗によっては授業内容の変更を行う可能性もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to study improving quality of life, sports performance enhancement, and injury prevention from the viewpoint of sports biomechanics and training science. Students will establish a research theme and write a research proposal.
【Learning objectives】
To formulate a research question.
To develop a research design to address the question.
To conduct a preliminary experiment.
【Learning activities outside of classroom】
To prepare reviews of previous studies.
To analyze experimental data.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Students are required to submit a research plan by the beginning of February for the graduation thesis.
【Grading criteria/Policy】
Usual performance score (50%)
Content of presentation (50%)

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

島本　好平

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート等に対する予備調査や予備的な実践を通じて、ライフスキルに関する調査研究または実践研究を実施していくための方法論の習得を目指します。

【到達目標】
質問紙法によるアンケート調査の実施から、分析結果を導き出すまでの一連の手順について理解し、次年度の卒業研究の実施につなげていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
まず、質問紙法によるアンケート調査実施に係る各種知識について理解を深める。その後、実際に仮のテーマにもとづきアンケート用紙を作成、調査を実施し、データを解析した上で分析結果を導き出すまでの一連の流れを体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習の流れについて確認を行う。
2	仮の研究テーマの検討	卒業研究に係る一連の流れを体験するための仮のテーマについて検討を行う。
3	仮の研究テーマの決定	関連する先行研究等を入念に確認した上で、仮の研究テーマを決定する。
4	仮のテーマにおける研究目的の検討	何をどこまで明らかにしようとするのか、研究の目的について検討する。
5	研究目的の決定と調査計画の検討	研究目的を決定した後、それを達成するための調査計画の検討を行う。
6	調査計画のプレゼン発表	調査計画をゼミメンバーにプレゼンし、ディスカッションを通して細部にわたり検討する。
7	アンケート用紙の作成（調査内容の検討）	実際にデータを収集する調査内容について検討を行う。
8	アンケート用紙の作成（レイアウトの検討）	信頼のあるデータの確保につながる、調査票のレイアウトについて検討を行う。
9	調査対象と調査時期の検討	データを収集する対象を決め、それに適した調査時期を検討する。
10	手続きの検討	確実に調査を実施するための依頼の手順と、回答者への倫理的配慮について検討を行う。
11	データ入力フォーマットの検討	回収したデータを効率良く入力していくためのフォーマットについて検討を行う。
12	データの回収から入力まで	データ入力作業に移るまでに必要な作業について学習を行う。
13	データ入力時注意事項の確認	データケースの採用・不採用を区別するための視点等について学習する。
14	まとめ	春学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深めていく。
15	秋学期における目標設定	秋学期の学習の見通しを示すとともに、各自目標の設定を行う。
16	統計的分析方法の確認	仮テーマにおける研究の目的を達成するために必要な分析手法について確認する。
17	統計的分析手法の学習	確実に分析が実施できるよう、サンプルデータ等をもとに分析手法への理解を深める。
18	統計的分析の実施	回収したデータに対して実際に分析を実施する。
19	統計的分析の実施（追認）	再度同様の分析を実施し、先に得られた結果に間違いがないかを確認する。
20	分析結果の解釈	個々の分析結果を適切に解釈するための視点について学ぶ。
21	分析結果の提示	個々の分析結果を順序良く提示していくための視点について学ぶ。
22	分析結果の考察の意味	考察とは何かの視点を学ぶ。
23	分析結果への考察を深める	より深い考察を行うための視点を学ぶ。
24	発表資料の構成の検討	各章（序論、方法、結果、考察）に割り当てる内容を検討する。
25	発表資料の作成	パワーポイントを用いて発表資料の作成に取り組む。
26	プレゼン発表の練習	一通り発表を行い、改善点を確認した上で発表資料に修正を加える。
27	仮のテーマにもとづく研究発表会	次年度の本番さながらの研究発表会を行う。
28	まとめ	秋学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は それぞれ2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（６０%）、最終のプレゼン発表（４０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course give students the opportunity to practice pre-life skills study with some examinations for high quality senior thesis.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn the survey research method which would be needed to conduct the senior thesis effectively.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The survey plan: 30%, The process: 30%, The main finding: 40%

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

瀬戸　宏明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】
①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる
②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する
③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう
2	プレゼンテーションの方法と実際	3年生の自己紹介を例に実践してみる
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	Introductuionについて/抄読会	リサーチクエスチョンの重要性について講義する。
12	Material and Methodについて/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	統計について/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodexなど）/抄読会	主にBiodexの操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMGなど）/抄読会	主にEMGの操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DXA）/抄読会	DXAの原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）
21	研究計画の検討（リサーチクエスチョンに妥当性）/抄読会	リサーチクエスチョンの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の検討（対象と方法の妥当性）/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する
23	研究計画の検討（使用予定の統計方法の妥当性）/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験の設定	各自課題を設定して予備実験を行う
25	予備実験の報告	予備実験の結果と考察について報告する
26	予備実験の総括	予備実験のlimitationの討議と総括
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1：3年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回　特になし
第2-14回：前回授業の復習
第15回：春学期の復習
第16-28回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点70点
②各内容や課題への取り組み30点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− can evaluate locomotor disorders based on your findings and the knowledge you have acquired.
− Acquire the application of scientific analysis and logical thinking ability.
− Searching for research themes and setting assignments for graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

高見　京太

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表の資料作成。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	模擬的に実践した健康づくり教室を相互評価する。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力の測定方法	筋力の測定。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1年間の反省	1年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業への参加(40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2)課題の提出および発表(60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱでは研究デザインを策定するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A. Understand how to proceed with research.
- B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
- C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

永木　耕介

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】
指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体つくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当者が「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当者が「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当者が「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当者が「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当者が「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当者が「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の模擬授業の実施	担当者が「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
15	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講者に対する指導的役割の確認を行う。
16	「体つくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
17	「体つくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
18	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
19	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
21	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
22	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
23	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
25	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
26	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
27	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
28	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は6時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説・保健体育編、文部科学省、東山書房、平成29年7月（令和6年12月　一部改訂）、定価：723円
高等学校学習指導要領解説・保健体育編・体育編、文部科学省、東山書房、平成30年7月（令和6年12月　一部改訂）、定価：770円

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（50％）、プレゼンテーション（30％）、レポート（20％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の対面式授業により進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline] This seminar is for students to study deepen Physical Education pedagogy through teaching theory and practice.
[Learning Objectives] Deepen your understanding of how to make a lesson plan, how to teach in class, how to evaluate, etc. from both theory and practice.
[Learning activities outside of classroom] It is necessary to collect and read literature materials and data for creating a teaching plan.
[Grading Criteria /Policy] Regular score (50%) based on participation status/attitude, presentation/trial lesson (30%), report score (20%)

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

NEMES　ROLAND　JANOS

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要：
この授業では、体育学やコーチ学といった運動科学分野における文献を深く分析し、それに基づいて自らの研究テーマを選定します。選択したテーマに関して、問題点や課題を自ら定義し、先行研究のレビュー、実地の実験や調査、そしてデータの分析を通じて、これらの問題を解決する方法を学びます。
目的：
文献分析のスキル習得：
運動科学分野の学術文献を効果的に解析し、研究の背景や現状を正確に把握する能力を養います。
研究テーマの選定と問題定義：
文献分析に基づき、自ら関心を持つ研究テーマを選定し、そのテーマに関する具体的な問題点や課題を明確に定義します。
実践的な研究方法の学習：
先行研究の調査、実験・調査の設計と実施、データ分析の方法を学び、研究問題の解決に向けた実践的なアプローチを習得します。
研究遂行のための基礎固め：
実際の研究を行うにあたって必要な、文献分析からデータ収集・分析までの一連のプロセスを経験し、研究者としての基本的なスキルを身に付けます。
この授業を通じて、学生は運動科学分野における研究を自ら企画し、遂行するための基礎を学び、問題解決能力を高めることができます。また、学術的な文献の理解から実践的な研究方法まで、幅広い知識とスキルを身に付けることができるでしょう。

【到達目標】
1. 論文検索能力の習得：
特定の目的に合ったデータが掲載されている論文を効果的に検索し、適切な情報を収集する能力を身に付けます。
2. プレゼンテーションの作成と実施能力：
論文や研究から得た知見を、発表資料にまとめ、聴衆が理解しやすい形でプレゼンテーションを行う能力を養います。
3. 論文の方法論理解：
論文に記載されている実験・調査方法や分析法を正確に理解し、それらの意義と適用の仕方を把握します。
4. 基本的な実験・調査の実施能力：
基本的な実験、測定、調査を自ら計画し、実践することができます。また、これらのプロセスを通じて得られたデータの初歩的な分析を行う能力も身に付けます。
この授業を通じて、学生は自ら研究テーマを設定し、必要な文献を収集・分析し、その成果を効果的に他者に伝えるための基本的なスキルを習得します。また、実際の実験や調査を計画し、実施する経験を通じて、理論だけでなく実践における研究の進め方も学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業形式：
この授業は、３年次生を対象にした少人数での綿密な指導のもと行われるアドバンスト演習です。学生は少人数グループに分かれ、国内外の文献を検索し、発表することを通じて、コーチングに関連する様々な研究法と論文の書き方について学びます。
1. 少人数グループでの学習：
- 各グループは、担当教員の専門分野に即したテーマに基づいて、研究と学習を進めます。
- 国内外の文献の検索と発表を行い、コーチングに関連する研究法と論文作成方法を学習します。
2. 報告・討論・実践：
- 少人数での報告と討論を通じて、研究テーマに関する理解を深めます。
- 実践的な演習を行い、理論だけでなく実際の研究方法を学びます。
3. テーマの掘り下げと理論の応用：
- これまでの講義で学んだ理論を活用し、2年次の専門演習Ｉで設定したテーマをさらに掘り下げます。
- 主体的な学習を通じて、設定した研究テーマに関する深い理解と実践的なスキルを獲得します。
この授業を通じて、学生はコーチング科学における先進的な研究方法と論文作成スキルを習得し、自らの研究テーマに対する深い洞察と実践的なアプローチを身に付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介では、演習生IIらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められ,連絡系統の確認をする
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討
3	文献検索の方法と実際①	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
4	プレゼンテーション制作①	演習生Ｉの制作をサポートする
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表し、意見交換から過不足の検討
6	統計解析の基礎	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
7	研究法①	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケートとその考え方を議論する
8	研究法②	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する
9	研究法③	スポーツコーチング科学の特徴に関する研究法について学習する
10	プレゼンテーション方法	パワーポイントプレゼンテーションについて学習する。
11	プレゼンテーション方法②	前週制作のパワーポイントを演習生IIの代表数人が提示、議論する。
12	文献検索と輪読①	国内のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
13	文献検索と輪読②	海外のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り①	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り②	夏季休業中に実施した研究成果の発表
17	研究計画書の書き方①	緒言，目的，方法の記載の仕方について学ぶ
18	研究計画書の書き方②	期待される結果、研究の意義
19	研究計画書の書き方③	進み方・フローチャートにおける考え方
20	研究計画作成①	小人数のグループでコーチング現場におけるテーマを設定し、研究計画を作成する
21	研究計画作成②	前回グループで設定した研究計画を発表し、意見交換する
22	論文作成①	研究計画に基づいて、小論文を作成する（目的と方法）
23	論文作成②	研究計画に基づいて、論文を作成する（結果と考察）
24	論文作成③	研究計画に基づいて、論文を作成する（目次と参考文献含め、全文）
25	発表①	グループ1が論文発表を行う。発表後、他の受講生および担当教員からのフィードバックをもとに質疑応答・討論を行う。
26	発表②	グループ2が論文発表を行う。発表後、他の受講生および担当教員からのフィードバックをもとに質疑応答・討論を行う。
27	発表③	グループ3が論文発表を行う。発表後、他の受講生および担当教員からのフィードバックをもとに質疑応答・討論を行う。
28	総括	演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随 時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。 ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25%）、プレゼンテーション（50%）、論文・レポート（25%）によって評価する。
なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。
禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
① リモート授業になる可能性があるため、高速インターネット回線に接続できる環境
② ビデオ会議システムを円滑に行うためのコンピューター（スマートフォンは不可の場合がある）
③ 統計解析を行うためのソフトウェアを利用できる環境確保

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course Outline
Main Objective:
The primary goal of this course is to provide a comprehensive understanding of sports coaching, integrating both theoretical knowledge and practical application. Students are expected to explore and present topics of interest within the realm of sports coaching. Third-year students will have the responsibility of guiding second-year students, aiding in presentation preparations, and facilitating debates. The curriculum includes the use of international research papers on coaching science to stay abreast of the latest findings, learn the nuances of scientific report writing, and prepare for diploma work. A secondary objective is to identify a suitable topic and develop a research plan for the upcoming graduation thesis.
Students will be equipped to:
Efficiently search for articles that contain the specific data needed.
Create clear and comprehensible presentation materials, and deliver effective presentations.
Comprehend the methodologies of experiments, investigations, and analyses detailed in the research papers.
Conduct basic experiments, measurements, and investigations.
Learning Objectives
To proficiently search for articles containing the needed data.
To prepare and deliver presentations that are easily understood by the audience.
To understand the methods of experiments, investigations, and analyses described in the papers.
To execute basic experiments, measurements, and investigations.
Learning Activities Outside of Classroom
After establishing a theme and determining the project's field and direction, it's crucial to actively engage with relevant organizations and groups. Embrace a multi-perspective approach by not restricting interactions to a single entity. Visit laboratories as necessary, engaging in discussions to gain a deeper understanding of the subject matter. From a journalistic perspective, diligently review articles and papers related to the research theme. The standard preparation and review time for this course is set at 2 hours per session.
Grading Criteria/Policy
Evaluation will be 25% based on the student's participation and attitude, 25% on their presentation skills and content and 50% on the final report.
Additional minor assignments may be assigned during specific class sessions. The collective results of these tasks may contribute to the final examination grade.
Prohibitions
Unauthorized photography, recording, or video capturing of class materials, including slides and videos, is strictly prohibited. Similarly, recording or videotaping the class proceedings is not allowed. Students infringing upon these rules will be barred from taking regular examinations. Those who wish to access materials related to class slides must seek approval or guidance from the course instructor.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

望月　拓実

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマネジメント分野における学術論文作成の基本的な知識および先行研究の検討方法を習得する。具体的には、学術論文の構造を理解するためのパートごとの解説、パートごとに対応した先行研究の渉猟と分析およびその結果の発表を行う

【到達目標】
１：学術論文の構造を理解している
２：スポーツマネジメント領域の文献内容を理解し要約できる
３：先行研究の内容を整理し自身の研究に引用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前期の授業では学術論文の構造の理解を深めるためパートごとの座学による解説を行ったうえで各自で興味関心のある領域における事例を確認しイメージを固める。後期は自身の研究テーマに関連した先行研究の渉猟方法を学習したうえで実際に文献を抄読し、卒業論文作成に向けた具体的な内容を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と到達目標の確認、前期の学習方法を段階的に整理し理解する
第2回	学術論文構造の理解（研究背景）	研究背景の概要を理解し設定方法を学習する
第3回	学術論文構造の理解（リサーチクエスチョン）	リサーチクエスチョンの概要を理解し、設定方法を学習する
第4回	学術論文構造の理解（研究目的）	研究目的の概要を理解した上で、序論全体からみた調整及び設定方法を学習する
第5回	学術論文構造の理解（先行研究の渉猟）	先行研究の概要を理解した上で文献の渉猟方法を学習する
第6回	学術論文構造の理解（先行研究の整理）	渉猟した先行研究の整理と問題点の導出方法を学習する
第7回	学術論文構造の理解（研究方法）	研究方法の概要を理解した上で設定方法を学習する
第8回	学術論文構造の理解（分析方法）	分析方法の概要を理解した上で設定方法を学習する
第9回	学術論文構造の理解（調査対象）	調査対象者の設定及び選定方法を学習し、データ収集方法の事例を検討する
第10回	学術論文構造の理解（研究結果）	研究結果の概要を理解した上で提示方法を学習する
第11回	学術論文構造の理解（考察）	考察の概要を理解した上で、記述方法を事例をもとに学習する
第12回	学術論文構造の理解（結論）	結論の概要を理解した上で設定方法を学習する
第13回	学術論文構造の理解（研究の限界と今後の展望）	研究の限界と今後の展望の概要を理解した上で設定方法を学習する
第14回	学習のまとめ	前期に学習した学術論文構造の全体を復習した上で、後期の学習に向けた予習内容を紹介する
第15回	オリエンテーション	夏季休業期間の課題の確認および演習の目的と到達目標の確認、後期の学習方法を段階的に整理し理解する
第16回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（研究背景）	研究の背景部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第17回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（リサーチクエスチョン）	リサーチクエスチョン部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第18回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（研究目的）	研究目的部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第19回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（先行研究）	先行研究部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第20回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（研究方法）	研究方法部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第21回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（分析方法）	分析方法部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第22回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表（調査対象者）	調査対象者の選定部分に必要な資料を収集し整理・発表する
第23回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表(研究結果)	研究結果部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第24回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表(考察)	考察部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第25回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表(結論)	結論部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第26回	卒論作成に向けた先行研究の分析と発表(研究の限界と今後の展望)	研究の限界と今後の展望部分の作成に必要な資料を収集し整理・発表する
第27回	進捗報告会(前半)	卒業論文の作成に向けた進捗報告会をグループごとに実施する(前半)
第28回	進捗報告会(後半)	卒業論文の作成に向けた進捗報告会をグループごとに実施する(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の課題として、小レポートの作成や発表資料の作成、グループによる先行研究整理の実践などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内で実施するレポート課題(100％)で判断する

【学生の意見等からの気づき】
講義内で用いる資料について、より初学者でもわかりやすいように表現を修正しました。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this seminar, students will acquire the basic knowledge for writing academic papers in the field of sports management and learn how to examine previous studies.　Specifically, the course will include explanations of each part of an academic paper to understand its structure, methods for exploring and analyzing previous studies corresponding to each part, and techniques for presenting the results.
【Learning Objectives】
1: Understands the structure of academic articles
2: Understand and summarize the content of literature in the field of sport management
3: To be able to organize the contents of previous studies and cite them in one's own research
【Learning activities outside of classroom】
Assignments outside of class include writing a short report, preparing presentation materials, and organizing previous research in groups. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
To be judged by a report assignment (100%) to be conducted in class.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

吉田　政幸

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学期は各自の卒業研究のテーマを設定する。秋学期は4年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する先行研究をレビューするとともに、各自の研究構想を立案し、それに基づいて卒業論文の序論を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
(3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性、仮説を示すことができる。
(4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。
(5) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2年次の専門演習 I において興味をもった研究テーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション：春学期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
2回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
3回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルインパクト	五輪やサッカーW杯のようなメガスポーツイベントには社会を変える力がある。これをソーシャルインパクトと呼ぶが、その定義、種類、考え方について学ぶ。
4回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルキャピタル	スポーツはプレイヤー、仲間、対戦相手、ファンなどの人々の相互作用で成立しており、その過程において人々を結び付ける働きを担っている。それをソーシャルキャピタルと呼ぶことができ、その定義、種類、重要性を理解する。
5回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ウェルビーイング	国際連合が発表したSDGsの3番目の開発目標がウェルビーイングである。このウェルビーイングとスポーツマーケティングの関係性について学習する。
6回	スポーツマーケティングの重要テーマ：ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの登場により、スポーツを消費する人々の心理や行動に変化が生じている。今回はスポーツ消費者行動におけるソーシャルメディアの意味と役割について学ぶ。
7回	スポーツマーケティングの重要テーマ：観戦スタイルの変化と態度変容	テクノロジーの技術革新や社会環境の変化（温暖化、大規模災害、感染症蔓延など）はスポーツの観戦スタイルに影響を与える。こうした変化に対する人々の適応方法を理解する。
8回	研究テーマの設定	グループに分かれて研究テーマを設定し、分析するための変数と尺度を特定する。
9回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の設計	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の質問項目を設定するとともに、実際の調査方法を計画する。
10回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の実施	作成した質問項目と調査計画に基づき、データを収集する。
11回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査の実施の分析	収集したデータを入力・分析し、プレゼンテーションの資料を作成する。
12回	卒業研究を知る	4年生の卒業研究の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
13回	ゼミ内プレゼンテーション1	設定した研究テーマに関するプレゼンテーションを行う：前半グループ
14回	ゼミ内プレゼンテーション2	設定した研究テーマに関するプレゼンテーションを行う：後半グループ
15回	秋学期の演習の概要の説明	秋学期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
16回	先行研究（卒業研究）の検討	先行研究（卒論2本）ついて、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
17回	先行研究（一般の論文）の検討	先行研究（一般の論文1本）ついて、(1) 文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
18回	スポーツマーケティング研究：観戦型スポーツの先行研究	観戦型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
19回	スポーツマーケティング研究：参加型スポーツの先行研究	参加型スポーツに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
20回	スポーツマーケティング研究：拡大産業に関する先行研究	スポンサーシップ、ツーリズム、インターネットなどに関する先行研究の発表を聞き、ディスカッションに参加する。
21回	研究テーマの設定	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 重要概念、(3) 目的、(4) 研究の重要性をパワーポイントでまとめる。
22回	研究テーマの発表	パワーポイントで作成した各自のテーマを発表する。
23回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
24回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
25回	序論の執筆：研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
26回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
27回	演習のまとめ	1年間に渡って取り組んできたゼミの専門的な学習を振り返り、まとめとする。
28回	卒業研究発表会	4年生の卒業研究の発表会に参加する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文。
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房．2,640円
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第7版）．杏林書院：東京．2,750円

【成績評価の方法と基準】
(1) 研究テーマの設定：10点（春学期）
(2) スポーツマーケティング調査の実施：10点（春学期）
(3) スポーツマーケティング調査の分析：20点（秋学期）
(4) スポーツマーケティング調査の結果報告：20点（秋学期）
(5) 先行研究のレビュー：20点（秋学期）
(6) 卒業研究の構想発表：20点（秋学期）
合計：100点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では海外の事例や文献に加え、身近な日本のスポーツや文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的に学習してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course is a seminar of sport marketing research. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.
(Learning objectives)
The goal of this seminar is to learn how to conduct sport marketing research based on students' own interests and research questions.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on short report (10%), data collection and analysis (10%), literature review (20%), and the end-of-term report (60%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

越智　英輔

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身体活動や運動トレーニングがもたらす身体への応答・適応に関して運動生理学の視点から学びます。過去の先行研究を検索する方法、まとめる方法、仮説の立て方など、実際に実験を計画する上で必要な手法を習得することを目的とします。

【到達目標】
1. 必要な図書・論文の検索が自分でできる。
2. 検索した文献をレビューできる。
3. 理解した内容を、プレゼンテーションができる。
4. 先行研究の位置付けを把握し、実験を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
春学期前半は、文献のインターネット検索法、レビュー法を学んでもらい、まとめた内容を発表してもらいます。その後、実際に実験を実施してもらいます。最後に研究の立案、実験計画の手順（倫理、統計）などを学んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容を説明し、履修人数に応じて授業の進め方を調整する
2	文献の紹介	文献の種別を学ぶ
3	図書検索	図書の検索方法を理解する
4	論文検索	科学論文の検索法を学ぶ
5	文献の分類	検索した文献のレビュー法を学ぶ
6	文献の総括	プレゼンテーション法を学ぶ
7	文献のレビュー発表	実際に文献をまとめて発表する
8	実験の準備	紹介した文献で実施している測定を行うための準備をする
9	実験実習の実施	実験を実施する
10	実験データの解析	得られたデータを分析し、統計解析を行う
11	データのプレゼンテーション法	実験データのプレゼンテーション法を学ぶ
12	プレゼンテーション	実験データを発表し、過去の論文との再現性を確認する
13	筋電図法の紹介	文献、測定法を紹介する
14	筋電図測定の実施	実際に測定する
15	筋電図データのまとめ	分析結果をまとめる
16	筋力測定の紹介	文献・測定法を紹介する
17	筋力測定の実施	実際に測定する
18	筋力測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
19	筋厚、筋硬測定の紹介	文献、測定法を紹介する
20	筋厚、筋硬測定の実施	実際に測定する
21	筋厚、筋硬測定のまとめ	分析結果をまとめて発表する
22	生化学的分析の紹介	文献、測定法を紹介する
23	生化学的分析の実施	実際に実施する
24	生化学的分析の解析	データを解析する
25	生化学的データのプレゼンテーション	分析結果をまとめて発表する
26	研究の仮説立案	これまでの文献レビューと実習を踏まえて研究の仮説を立てる
27	研究計画書の作成	仮説に基づく実験計画書を作成する
28	研究計画書の紹介	作成した計画書を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を検索してもらったり、入手した文献をレビューしてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容60%、実習を含めた授業への参加姿勢40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
文献検索、プレゼンテーションのためのPCが必要です。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential components of exercise training and physical activity on human body to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of research strategy.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports and presentations (60%) and in-class contribution (40%).

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習 II

中澤　史

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：3年次／4単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰにおいて習得したスポーツ心理学に関する知識や調査手法についてより深く学び、卒業論文作成に向けた研究テーマを確定するとともに研究計画書を作成する。演習の後半では学生は予備調査に取り組み、その結果を基に研究計画を精査する。

【到達目標】
1.数量的・質的分析法を習得し、活用できる。
2.予備調査から得たデータを分析し、その結果について発表できる。
3.予備調査から明らかとなった課題を整理し、発表できる。
4.先行研究や予備調査の結果を基に研究テーマを設定し、研究計画書を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
先行研究の講読や実践的な調査手法に関する学びを通して、専門演習Ⅰで習得した知識の向上を図る。仮説検証に向けた予備調査の結果を発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	グループワークが自己理解・他者理解を深める一手段となることを体験的に学習する。
3	体験的学習を通したデータ収集	スポーツを用いた体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	研究の仕方・データの整理	スポーツ心理学に関する調査・研究の進め方およびデータの整理の仕方について学習する。
5	データの比較	統計ソフトを用いた分析方法（t検定、分散分析等）について学習する。
6	データの関係性	統計ソフトを用いた分析方法（相関関係等）について学習する。
7	質的研究法	スポーツ心理学における質的研究の理論と方法について学習する。
8	質問紙法	質問紙を用いた調査方法およびそのまとめ方について学習する。
9	チームを対象とした事例検討	チームを対象とした事例報告を通して競技活動によるチームワークの変化について学習する。
10	個人を対象とした事例検討	個人を対象とした事例報告を通して競技活動による心理社会的能力の変化について学習する。
11	対人関係に焦点付けた事例検討	対人関係に焦点付けた事例報告を通して競技活動による対人関係能力の変化について学習する。
12	研究計画書	研究計画書のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究計画の発表	今後取り組む予定の研究計画（案）を抄録にまとめ発表する。
15	研究計画の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	先行研究の検討（第1グループ）	第1グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
17	先行研究の検討（第2グループ）	第2グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
18	先行研究の検討（第3グループ）	第3グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
19	質的研究の検討（第1グループ）	第1グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
20	質的研究の検討（第2グループ）	第2グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
21	質的研究の検討（第3グループ）	第3グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
22	研究課題の選定	各自のテーマについて（1）研究の背景、（2）研究目的、（3）学術的な意義について検討する。
23	研究の背景	先行研究を渉猟し、何が未解明の研究課題なのかを特定することによって各自の研究テーマを絞りこむ。
24	研究の目的・意義	研究の目的を設定し、その研究の社会的な意義を明確にする。
25	研究の枠組み	各自の研究で扱う対象者、分析方法などの枠組みを明確にするとともに、予想される結果についての仮説を立てる。
26	予備調査の研究計画	仮説検証を目的とした予備調査に関する準備状況を踏まえた研究計画を発表する。
27	予備調査の実施	予備調査の準備を整え、調査を実施し、その結果をまとめる。
28	研究計画の発表	先行研究および予備調査の結果を踏まえて研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1.先行研究の講読や予備調査等に取り組んでください。
2.データの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、その準備に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1.中澤　史　「アスリートの心理学」日本文化出版　2016
2.小宮あすか・布井雅人「Excelで今すぐはじめる心理統計　簡単ツールHADで基本を身につける」講談社　2018

3.マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院　2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1.研究構想書、リアクションペーパー等の提出物が50％、プレゼンテーション、授業への参画状況が50％です。
2.やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、半期で欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回（半期）を超過する場合は、別途相談に応じます。
3. やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5.研究構想書、リアクションペーパー等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8.授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
1.競技スポーツの現場で役立つ心理スキルの理論と方法について受講生間で情報交換を行います。
2.チームビルディングの促進に役立つ体験的学習への取り組みを通して受講生間の新規的人間関係の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
データの分析や資料の作成等が可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業に変更される場合があるため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3.授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In Advanced Seminar I, students will deepen their understanding of sports psychology knowledge and research methods acquired in previous courses. They will finalize their research topics for their graduation thesis and develop research proposals. In the latter half of the seminar, students will conduct preliminary research and refine their research plans based on the findings.
【Learning Objectives】
1. Acquire and apply quantitative and qualitative analysis methods.
2. Analyze data obtained from preliminary research and present the results.
3. Organize and present issues identified through preliminary research.
4. Set a research theme based on prior studies and preliminary research findings, and create a research proposal.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this exercise is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.
1.you are expected to read and conduct preliminary research on previous studies.
2. you are expected to plan for opportunities to collect and analyze data and to present your findings.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.
1. Submission of research plan, abstract, reaction paper, etc.: 50%
2. presentations and class participation: 50%.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

安藤　正志

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に,少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文，あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
4年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見いだし，それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告，討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データーの報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行う主にグループ①の学生を対象とする。	文献を検索しこれを報告する。他の学生は意見を述べる。グループの特質を報告に盛り込ませる。
5	関連した文献報告を行うグループ②の学生を対象とする。	文献を検索しこれを報告する。他の学生は発表を聞き、意見を述べる。前回(4回目の授業)の報告を基にグループ②の報告を積み上げて、グループ①との違い意を示す。
6	文献検索の方法の手順を振り返る。	文献を検索の手順を振り返り、手順に問題はなかったかを検討する。
7	文献検索におけるキーワードの設定方法を知る。	文献検索におけるキーワードの設定の仕方を検討させる。
8	グループ①の検索項目と検索キーワードを発表させる。	グループごとに検索したキーワードの設定で苦労した点を報告させる。
9	グループ②の検索項目と検索キーワードを発表させる。	グループごとに検索したキーワードの設定について工夫したポイントを報告する。
10	グループ③の検索項目と検索キーワードを発表させる。	グループごとに検索したキーワードの設定で発見した点を報告する。
11	グループ①の学生の取り組みの相談、テーマ設定における問題点を述べさせる。	面談で個々に論文指導を行う。学生たちの興味を聞き出す。
12	グループ②の学生の取り組みの相談、キーワード設定の問題点を述べさせる。	面談で個々に論文指導を行う。学生たちの検索のグルーピングを聞き出す。
13	グループ③の学生の取り組みの相談、検索論文の収集についての問題点を述べさせる。	面談で個々に論文指導を行う。検索の方法論を聞き出す。
14	まとめ	総括を行う。
15	中間報告会	中間報告会(前半部分の進行具合を確認する）
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会に参加することで欠点や利点を学ぶ
17	卒論論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会に参加して意見を聞き、研究計画の欠点を発見をする。
18	卒論論文報告会で指摘された事項を修正	下学年ゼミ生徒の合同報告会で出された意見を集約し計画書を修正する。
19	下級学年と小グループで試験的実験をする 個人面接指導①	研究協同実験 計画書にもとづき２～３名の被検者に試験的実験を行う。 順番で面接指導
20	下級学年と小グループで実験計画の完成度を高め実験する 個人面接指導②	協同実験 前回の試験的実験で気が付いた欠点を修正しながら更に2～3名の実験を行う。 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで目的の被検者数に達するよう実験数をこなす。 人面接指導③	協同実験 順番で面接指導 問題点を指摘する
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導 2回目の指導では指摘事項が修正されているかをチェック
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導 3回目の指導では完成度を高める。
24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導 4回目の指導では報告会に提示できる形式をチェック
25	報告会前半グループ	報告会を行い最終チェックをする 後半のグループは意見を述べる
26	報告会後半グループ	報告会を行い最終チェックをする 前半のグループは意見を述べる
27	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
28	学術大会への参加	学会へ参加し学術的雰囲気を体験する（日程未定） 順番で面接指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文に仕上げるまでの課程を学ぶ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自関連した文献を１０論文以上検索し読む。

【参考書】
各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】
発表会の成績（30%）、論文の完成度（60%）、宿題等論文の作成のための課題（10%）

【学生の意見等からの気づき】
個人面接による指導を中心とする

【学生が準備すべき機器他】
研究に関する参考文献や図書を各自が検索しみつける。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

【Outline (in English)】
Course Outline:
Individual graduation research guidance is conducted, supporting students in completing their bachelor thesis.
Learning Objectives:
The goal of this class is for students to complete their graduation research and write the bachelor thesis.
Learning activities outside of classroom:
First, students develop a research idea and plan their research methods.
Next, they collect data, analyze it, and interpret the results.
Finally, students complete their research papers and prepare for presentation.
Grading Criteria / Policy:
Presentation of research: 30%
Bachelor thesis (completeness and quality): 60%
Assignments related to thesis preparation: 10%

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

伊藤　真紀

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰ・Ⅱの講義を通して学んだ内容から研究課題を決定し、学生自身が選んだ研究テーマについて先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし、計画的に研究を実施し、データ収集・分析、考察を行い、研究成果をまとめ卒業論文を執筆し、発表することを目的とします。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1.研究テーマの設定
2.先行研究の検討
3.研究の目的、重要性、要因の定義、仮説の設定
4.研究方法を適切に設定し、データを収集
5.データを分析し、標本の特性と仮説の検証
6.結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し、1年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に支持された点について準備し、記述・分析内容について演習で添削を受ける。各自の研究計画にあわせて、全体・個別に学指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。
2回	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、各自1年を通して取り組む研究計画を立てる。
3回	研究テーマの設定	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
4回	序論:研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。
5回	序論:研究の目的および重要性	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差（独創性）について明確にする。
6回	序論:概念的枠組み	卒業論文のデータを収集する卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
7回	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
8回	方法:研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。
9回	方法：調査票の作成	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。
10回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17回	結果：基本的属性と行動的特性の集計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析や重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に解釈し、そこから引き出した知見について記述する。仮説に対する答え、先行研究との比較検討、問題点を記述する。
23回	考察:実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
24回	結論	考察から言えること、仮説への答え、この研究で示されたことを結論として記述する。
25回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26回	引用文献、巻末資料	引用文献や巻末資料を整え、卒業論文を完成させる。
27回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付,書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表：10点
調査計画の発表：10点
中間発表：10点
最終発表：20点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤結論、⑥その他文章力、論理性、書式など）：50点
合計：100点

【学生の意見等からの気づき】
各自の卒論テーマに合わせて、自主的に卒論を進めていく準備ができるように授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
１年を通じて各自積極的にかつ計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Student decide research theme based on the contents learned through the lectures of the specialized exercises I and II, find the direction from the research of the previous research on the research theme chosen by the student himself/herself. Student conduct the research in a systematic manner and aim at considering, summarizing research results, writing graduation thesis, and presenting it.
(Learning Objectives)

The goals of this course are as follows:
1. Setting the research theme
2. Examination of previous research
3. Research objectives, importance, factor definitions, hypothesis setting
4. Appropriately set the research method and collect data
5. Analyze the data and test sample characteristics and hypotheses
6. Creating results, considerations and conclusions
(Learning activities outside of classroom)
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
The grade evaluation is as follows:
Theme announcement: 10 points
Announcement of survey plan: 10 points
Interim announcement: 10 points
Final announcement: 20 points
Bachelor thesis ((1) Introduction, (2) Method, (3) Result, (4) Consideration, (5) Conclusion, (6) Other writing skills, logic, format, etc.): 50 points
Total: 100 points.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

泉　重樹

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践・実験をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告（デザイン発表）を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
スポーツ医学、アスレティックトレーニング、特にスポーツ外傷・障害予防分野に関する観察研究、実験研究、調査研究、症例集積研究、実践的な取り組み等具体的な事例に対する報告などの研究を行い、卒業論文を執筆し、発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
　本ゼミでは観察研究、実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験、日々のスポーツ現場での観察を通して、卒業論文を仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認と全体の確認を行う。
2	研究テーマの立案1	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
3	研究テーマの立案2／検討	研究テーマのディスカッション結果から修正した新たな内容を検討する。
4	予備実験の準備	研究テーマに基づいた予備実験を計画する。
5	予備実験（機器の使い方）	予備実験を通して、実験機器の使用方法・注意点を学習する。
6	予備実験（測定の練習）	実験に用いる機器を使用して、自身で実験を試みる。
7	予備実験実施	予備実験を行い、データをとる。
8	予備実験解析	予備実験結果を解析し、実験データから研究計画の検討を行う。
9	予備実験のまとめ	修正内容を踏まえ、予備実験を通して研究の方向性を決定する。
10	これまでの振り返り	予備実験を振り返り、本実験へ向けた最終的な検討の上、実験計画を完成させる。
11	倫理書作成と本実験準備	倫理書を作成し、本実験を行う。
12	本実験開始	被験者・検者とともに実験を開始する。
13	本実験実施	引き続き、本実験を行う。
14	本実験実施と振り返り	実験を行いながら、データ解析を行い、結果を振り返る。
15	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマに基づいたこれまでの活動のプレゼンテーションを行う。
16	本実験／追加実験	中間発表会の結果に基づき、本実験・追加実験を行う。
17	本実験／追加実験（予備）	被験者・検者への協力の下、本実験もしくは追加で実験を行う。
18	本実験／追加実験の振り返り	本実験・追加実験を行いながら、データを検討し方向性を確認する。
19	本実験／追加実験（再検討）	振り返りを踏まえ、本実験・追加実験のさらなる実施や終了を検討する。
20	本実験／追加実験（完成）	すべての本実験・追加実験を終了し、データ解析の準備を行う。
21	データ集計	本実験のデータの集計および分析を開始する。
22	データ解析	集計したデータをを解析するとともに、内容を検討する。
23	論文執筆開始	データ解析を継続するとともに、卒業論文の執筆を開始する。
24	結果の振り返りと考察	研究結果をまとめあげ、考察の執筆に取り掛かる。
25	考察の完成	卒業論文の考察を完成させる。
26	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
27	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を同領域のゼミ生達と合同で発表し、ディスカッションを行う。
28	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1〜14回　研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。
15〜28回　先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. 田中喜代次，西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法．NAP，2004
2. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
3. 独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター編. アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画. 2023
4. 広瀬統一, 泉重樹, 福田崇, 稲見崇孝編. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社. 2023

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究計画書（10％）、プレゼンテーション（デザイン発表・中間発表・卒業論文発表）（20％）、卒業論文（70％）

【学生の意見等からの気づき】
　研究を一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生や大学院生である上級生・ゼミ他の下級生たちの協力なしには行えない。本ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間達とのコミュニケーションをとりながら、皆で積極的に「卒業研究」に取り組んでもらいたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】 A purpose of the athletic training seminar 3 is to finish writing the graduation thesis of the athletic training and/or sports science field.
【Learning Objectives】 Students will conduct experimental research and survey research on the prevention of sports injuries and disorders, and write a graduation thesis.
【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Evaluation will be based on research plan (10%), presentation (20%), and graduation thesis (70%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

井上　尊寛

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、卒業論文を作成することを目的とする。自らが選択したテーマに則した研究方法、調査および分析の方法などを踏まえた研究成果をまとめることを目的とする。

【到達目標】
本演習の到達目標は、自らが定めたテーマに沿った目的の設定、研究の重要性、仮説の設定、先行研究のレビューなどを適切に記載できること。適切な情報収集と分析の手法を用いて記述すること。最終的には得られた結果から結論を導くことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
年間を通して論文の執筆を計画的に進める。受講者は事前に資料を用意し、授業内にて添削を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義について学ぶ。また、各自研究計画を立てる。
2回	研究の背景と問題点の整理	スポーツマネジメントの視点で、研究対象とする組織などが抱える課題を特定する。
3回	研究の目的および重要性	研究課題を受け、目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的・実務的な貢献を果たすことができるのかについて検討する。
4回	概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因を定義し、概念的枠組みについて検討する。
5回	仮説の設定および導出根拠の記述	仮説を理論的根拠とともに導出する。
6回	研究環境および対象の決定	研究対象とする母集団およびサンプルを設定する。
7回	調査計画	データ収集を行うための計画を立てる。
8回	質問項目の検討①	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を検討する。
9回	質問項目の検討②	調査対象者の心理的・行動的特性を測定するための要因を検討する。
10回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
11回	統計的手法の検討	標本の特性を示すために必要な統計的な手法について学ぶ。
12回	尺度の妥当性および信頼性の検討	研究に用いる尺度や分析の手法が統計的、内容的に妥当性や信頼性を担保しうるか検討する。
13回	調査計画の発表準備	卒業論文の緒言、目的、方法、研究の意義などをまとめた抄録を作成する。併せてスライド資料を作成する。
14回	調査計画の発表	スライドを用いて発表し、指摘された内容を踏まえ再度検討する。
15回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認し、完成に向けた計画を立てる。
16回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17回	調査データの分析①	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を記述する。
18回	調査データの分析②	対象者の心理的特性を分析した結果を記述する。
19回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20回	仮説の検証①	分析結果（基礎集計）を用い、仮説を検証する文章を記述する。
21回	仮説の検証②	分析結果（各種検定や回帰分析など）を用い、その結果を記述する。
22回	考察①	得られた分析結果の考察をおこない、設定した仮説の検証をおこなう。
23回	考察②	仮説検証およびより深い考察を行っていく。必要に応じて追加分析を行う。
24回	実践的示唆	実務として貢献しうる結果について検討し、記述する。
25回	研究の限界	取り組んできた研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述し、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26回	結論	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。
27回	最終発表の準備	論文発表のスライドを作成するとともに、卒業論文の抄録も併せて作成する。
28回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として与えられた課題に取り組み、授業内にて添削を受けてください。授業で指摘された内容を修正し、次の課題へ取り組むように。本授業の準備学習・復習時間は1回の授業につき，準備・復習時間を合わせて4時間以上（準備・復習時間の配分は均等でなくても可）とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表：10点
調査計画の発表：10点
中間発表：10点
最終発表：20点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50点
合計：100点

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うために必要な機材やソフトウェア

【Outline (in English)】
(Course outline) This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. (Learning Objectives) Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.The aim of this seminar is read an academic paper and to do oral presentation. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%)

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

小田　佳子

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「スポーツ哲学（体育原理）」および「保健体育科教育法」の専門領域に関する学術的・実践的知識を深め、卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。
専門演習Ⅲ(卒論指導)では、個別指導を通して卒業論文のより高い水準での完成をめざす。

【到達目標】
学術的な精度とオリジナリティのある卒業論文を完成する。
研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。
4年生の卒論草稿と3年生の模擬授業の検討を行い、演習自体はグループディスカッション形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	先行研究の検索	先行研究・文献等の検索方法を知る
3	テーマの選定	卒業論文のテーマを絞り込む
4	先行研究①抄読	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
5	先行研究②発表と検討	先行研究の抄読内容を発表し検討する
6	先行研究③抄読	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
7	先行研究④発表と検討	先行研究の抄読内容を発表し検討する
8	先行研究⑤抄読	自己の課題、テーマに沿った先行研究を抄読する
9	先行研究⑥発表と検討	先行研究の抄読内容を発表し検討する
10	卒論テーマと目的の確定	主要文献となる先行研究抄読をまとめ、卒論テーマと目的を確定する
11	卒論構想プレゼン	先行研究をまとめ、卒論テーマとその研究の背景と目的を発表する
12	研究方法の検討	卒論の研究方法を検討する
13	研究方法の確定	研究方法を確定し、調査・検討を開始する
14	研究目的の執筆	研究目的を執筆する
15	研究方法の執筆	研究方法を執筆する
16	調査および実験・実習（模擬授業等）	研究目的と方法に沿った調査用紙の作成し実施する
17	調査および実験・実習（模擬授業等）	研究目的と方法に沿った実習・実験等の準備し実施する
18	結果・分析①	調査・実験の結果を踏まえてまとめる
19	結果・分析②	研究結果をまとめた上で、分析する
20	卒論中間報告会	結果を踏まえて、卒論執筆をすすめながら、随時発表と報告を行う
21	考察①	研究結果①から先行研究を踏まえて考察をすすめる
22	考察②	研究結果②から先行研究を踏まえて考察をすすめる
23	考察③	最終的な論文全体のまとまりを検討しながら、最終的な考察を深める
24	卒論発表準備	卒論の最終発表会の準備としてスライド等を作成する
25	卒論最終報告会	個別指導により、卒論執筆をすすめながら、随時発表報告する
26	発表抄録作成	発表抄録を作成する
27	卒論最終発表会（学内）	卒論の最終発表を行う
28	まとめ	形式を整えて、最終確認を行い卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。
本授業の準備学習・復習時間は各 6 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋建夫編著『新版・体育科教育学入門』大修館書店
友添秀則・岡出美則編著『教養としての体育原理』大修館書店

【参考書】
随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文内容（８０%）、卒業論文発表（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
研究のモデルや具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつ、情熱をもって研究の思索に取り組めるよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具、パソコン、記録用媒体（USB等）

【その他の重要事項】
「学び続ける教師」を目指して、常に知的好奇心を駆りたてながら、研究と実践の両輪を大切にし情熱をもって卒業論文を完成させよう！

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this seminar students deepen their academic and practical knowledge of the specialized areas of "Philosophy of Sport (Principles of Physical Education)" and "Health and Physical Education Methods," and complete their graduation research. Students learn how to set research themes and objectives, how to select research methods, and how to analyze and discuss the results.
【Learning Objectives】
In this Seminar(graduation thesis guidance), students aim to complete their graduation thesis at a higher level through individual guidance.
【Learning activities outside of classroom】
Students will need to make efforts outside class hours to write their graduation thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours preparing and reviewing.
【Grading Criteria / Policy】
Graduation thesis content (80%)
Graduation thesis presentation (20%)

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

片上　千恵

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】
研究テーマの設定に際する先行研究の検討、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、論文としてまとめる力、プレゼンテーション力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	研究テーマ構想	関心のある研究テーマについて発表する。
3	研究テーマの検討	研究テーマについてディスカッションし、課題を抽出する。
4	先行研究の検討①	自分の研究テーマに沿った先行研究を検索し抄読する
5	先行研究の検討②	先行研究から自分の研究テーマのこれまでの系譜をまとめて発表する
6	リサーチクエスチョンの設定	研究で何を明らかにしたいのかリサーチクエスチョンを明確にする
7	分析方法①質的調査	質的調査の分析手法について理解を深める
8	分析方法②量的調査	量的調査の分析手法について理解を深める
9	卒論テーマと目的の確定	主要文献となる先行研究抄読をまとめ、卒論テーマと目的を確定する
10	研究方法の検討	先行研究をもとに卒論の研究方法を検討する
11	調査対象などの手続き	調査対象と実施時期の検討と倫理的配慮についての検討を行う
12	質問紙作成	各自、調査票、質問紙の作成と検討する
13	データ収集の準備	アンケート、インタビュー等、調査に向けた準備を行う
14	夏期の実施計画	春学期の振り返りを行い、さらに研究を進めるための夏期計画を立てる
15	進捗報告	プレゼンテーション形式で進捗状況・調査結果を発表する
16	緒言と目的の検討	論文の緒言と目的を見直し、再検討する
17	統計的分析の実施①	回収データについて、文字起こし、データ入力など分析のための整理をする
18	統計的分析の実施②	回収データを分析し、問題点の抽出や修正作業を行い、考察する
19	統計的分析の実施③	分析結果を図表化し、プレゼンテーションし、解釈を深める
20	剽窃	剽窃や研究対象の倫理的配慮について学ぶ
21	研究方法の執筆と指導	論文の「研究方法」を執筆し、検討・推敲を行う
22	結果と考察の執筆と指導	論文の「結果」「考察」を執筆し、検討・推敲を行う
23	結論の執筆と指導	論文の「結論」を執筆し、検討・推敲を行う
24	研究の限界と今後の展望の執筆と指導	研究で明らかにできなかった点や問題点について、検討と推敲を行う
25	最終確認	完成論文の最終的な推敲・構成を行い完成させる。引用参考文献や目次なども最終確認する
26	抄録の作成	卒論の構成を見直し。抄録を作成する
27	発表資料の検討	パワーポイントを用いた発表資料を検討・作成する
28	プレゼン発表練習	研究発表会に向けたスライドを使用しとプレゼン練習に取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献調査
・データ解析
・論文執筆
・プレゼンテーションの準備
予習・復習のため 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
特に定めない

【成績評価の方法と基準】
卒業論文80％、プレゼンテーション20％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course aims to complete the graduation research by learning how to set research themes and objectives, choose appropriate research methods, analyze results, and conduct discussions.
【Learning Objectives】
Students will develop the ability to review previous studies when setting a research theme, evaluate the validity and reliability of research methods, analyze and discuss results, compile findings into a research paper, and enhance their presentation skills.
【Learning activities outside of classroom】
Literature Review, Data Analysis, Thesis Writing, Presentation Preparation
A standard of 2 hours is expected for preparation and review.
【Grading Criteria /Policy】
Graduation Thesis: 80%, Presentation: 20%

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

苅部　俊二

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自ら設定した研究テーマについて、先行研究の批判的検討および調査・分析を行い、その成果を卒業論文として執筆・発表する。研究計画の立案から執筆、口頭発表に至る一連のプロセスを通じ、論理的な記述力、客観的な分析力、および説得力のある報告能力を習得する。自立した研究遂行に必要な専門的技法を総合的に確立する。

【到達目標】
スポーツ科学、特にコーチング分野における報告・討論・実践を通じ、専門的知見を深化させる。活動で得た知見を基盤に、論理的整合性を備えた卒業研究を完成させるとともに、最終報告会での発表を通じて、高度な記述力と口頭発表能力を習得する。一連のプロセスにより、自立した研究者・指導者に必要な専門的能力を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
「専門演習Ⅰ・Ⅱ」で修得した専門知識と研究方法論を基盤に、運動科学分野における各自の研究課題を完遂する。独自性のあるテーマ設定から、計画立案、調査・実験の実施、データ解析、論文執筆、最終発表に至るプロセスを体系的に実践する。一連の活動を通じ、客観的分析力と論理的発信力を備えた、自立した研究遂行能力を確立する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第2回	演習Ⅰ・Ⅱの振り返り	演習Ⅰ・Ⅱで検討した各々の研究についての再確認を行う。
第3回	卒業研究1（研究テーマの決定）	卒業研究のテーマを検討・決定する。
第4回	卒業研究2（研究テーマの構想発表）	卒業研究のテーマについて構想を発表する。
第5回	卒業研究3（研究方法の検討）	卒業研究の研究方法を検討する。
第6回	卒業研究4（実験・調査計画書の作成）	卒業研究の研究方法の検討に基づき、実験・調査計画書を作成する。
第7回	卒業研究5（予備実験・調査の計画発表）	卒業研究の予備実験、予備調査の計画を発表する。
第8回	卒業研究6（予備実験・調査の実施）	卒業研究の予備実験、予備調査を実施し解析、発表する。
第9回	卒業研究7（実験・調査の実施）	卒業研究の実験、調査を実施する。
第10回	卒業研究8（実験・調査の経過発表）	卒業研究の実験、調査の実施および経過を発表する。
第11回	卒業研究9（データの収集と整理）	卒業研究の実験、調査により、データを収集し、整理する。
第12回	卒業研究10（データの解析）	卒業研究の実験、調査により得られたデータを解析する。
第13回	中間発表1（中間発表資料の作成）	中間発表資料を作成する。
第14回	中間発表2（中間発表）	中間発表を行う。
第15回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。
第16回	卒業研究1（夏期の研究の経過発表）	夏期休暇中の研究の経過・成果を発表する。
第17回	卒業研究2（データの整理）	卒業論文作成を行う。収集されたデータを整理する。
第18回	卒業研究3（論文構成の検討）	卒業論文作成を行う。論文構成を検討する。
第19回	卒業研究4（ディスカッション）	卒業論文の構成についてディスカッションを行う。
第20回	卒業研究5（論文の執筆：先行研究）	卒業論文作成。先行研究を整理する。
第21回	卒業研究6（論文の執筆）	卒業論文作成。実験・調査の結果の解析をもとに緒言、研究方法を執筆する。
第22回	卒業研究7（論文の執筆：考察）	卒業論文作成。実験・調査の解析から考察・結論を導き出す。
第23回	卒業研究8（論文の執筆：推敲・校正）	卒業論文作成。論文の推敲・校正を繰り返し行う。
第24回	論文の執筆および中間発表の資料準備	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を準備する。
第25回	論文の執筆および中間発表資料の作成	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を作成する。
第26回	中間発表2次	卒業論文の進捗状況などを発表する。
第27回	卒業論文の完成	卒業研究発表会の資料作成　卒業論文を完成させ、卒業研究発表会の資料を作成する。
第28回	卒業研究発表会	卒業研究発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
年間を通じ先行研究の探索など論文の執筆に必要な情報の収集に努めること。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文(70%)と卒業研究発表(30%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will conduct research on their chosen themes, review existing literature, and compile their findings into a bachelor's thesis to be presented. Through this series of processes, students will acquire logical writing and reporting skills.
【Learning Objectives】
Students will deepen their specialized knowledge through reports, discussions, and practical exercises aligned with the field of coaching. Building on the insights gained from these activities, students will complete their graduation research and acquire logical writing and oral presentation skills through their final report presentation.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the bachelor's thesis (70%) and the research presentation (30%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

木下　訓光

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】
卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。
本授業専門演習IIIは集中授業と考えるべきではない。専門演習は毎週水曜5限に行うので、同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献検索	Clinical questionに沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主としてPubmedとCiNiiを用いて先行研究を確認する。
2	研究のdelimitation	研究のdelimitationを明確にし、選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journalの実態などに習熟し、Scopusを活用する。
3	先行研究のmethodology	先行研究のmethodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。
4	先行研究の総括	各論文における仮説に対応したdelimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesisの適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
5	Research questionの設定	先行研究の総括を踏まえてclinical questionを十分distilateし、より高度でsimpleかつ具体的なResearch questionを設定するための議論を行う。
6	Research questionのdistillation	Research questionの倫理的・科学的妥当性検証と最適化を行い、最終的に決定する。この時点で学生は「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。
7	仮説立論	Research questionに対応した適切で強力な仮説を設定する。学生は十分なエビデンスをもってこれを過不足なく説明することを要求される。
8	研究目的の決定	仮説に沿って適切な研究目的を設定する。その倫理的・科学的妥当性について検証する。
9	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。方法の倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究倫理	本学部における研究の多くはヒトを対象にして行われる。卒業研究でも文部科学省・厚生労働省『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』にしたがって行う必要もあり、その場合、倫理審査を受けたうえで許可される。倫理委員会に研究計画の審査を申請するために必要な、同指針の基本について学ぶ。
11	倫理委員会における卒業研究審査の対策	倫理審査申請書作成指導。実際にスポーツ健康学部倫理委員会に提出し審査を受けるための申請書の作成方法について学習する。
12	研究論文導入部の論述	研究論文導入部について議論、指導を受ける。学生は研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できることが求められる。
13	パラグラフライティング	適切な論理的表現をするために必要な日本語力、すなわち論理的文章の作成について学ぶ。導入部をパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。指導を踏まえて次週までに研究論文導入部の草稿を完成させる。
14	研究論文導入部の提出	研究論文導入部の完成稿を提出し指導を受ける。 夏休み期間中に調査・測定を進めておくこと。
15	調査・実験機器のメカニズム	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。ただし本科目では、学生は夏休み期間中にも調査・測定を行い、定期的に成果の報告を行わなければならない。したがってこの回のテーマに調査・実験機器（1）とあるが、実際には第１回目ではないことに注意すること。あらゆる調査・測定において、「ただそこにある機器を使って無批判に計測を行う」という姿勢では、得られたデータはすでに「研究成果」とは呼べない代物となってしまう。いかにして信頼性・妥当性のある調査・測定を行いえるか、その基本ともいえる機器類の工学的メカニズムについて学習する。
16	調査・実験機器の操作	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。準備、整備、検定・較正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、最低限習得しておかなければならない技能を習得する。
17	分析手法の検討	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べることができるようにする。なお実際の測定は夏休みを含め、授業時間以外に行うことがほとんどである。前回までの理解を踏まえて授業時間以外に速やかに調査・測定を進めること。
18	分析の実践	この時点までに得た測定データを総括し報告を行い議論する。
19	研究方法の執筆	この回までに研究方法のセクションを完成させて提出する。研究方法についてプレゼンテーションを行う。
20	研究結果の執筆	この回までに研究結果のセクションを完成させて提出する。研究結果についてプレゼンテーションを行う。
21	考察の発表	研究結果の考察を行う。研究結果を考察した内容をプレゼンテーションする。
22	考察の執筆	この回までに研究考察セクションを完成させて提出する。
23	結論の執筆	この回までに結論セクションを完成させて提出する。
24	卒業論文の推敲	論文初稿の推敲水準は低いものである。「書き上げた」だけでは論文として仕上がっていないことが多いと心得てほしい。特に参考文献の記載をルールに則り最初から正確に記載できる学生は少ないであろう。そこで、どのようなポイントに留意して推敲するか、また校閲・校正の作業も経験し、正式に論文と呼べる成果物に仕上げるために必要な手続きについて学習する。

25	卒業論文完成稿の提出	この回までに卒業論文を完成させて提出する。提出した論文の査読・指導を受ける。
26	卒業論文発表	ゼミ生を対象に卒論を発表する。
27	卒業研究発表会の準備	スライドを作成して提出、指導を受ける。なおスライドはすべて英語で作らなければならない。
28	卒業研究発表会予演会	ゼミ生を対象に卒業研究発表会の予演会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 研究データ解析
② 調査活動
③ 学会・研究会参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100％）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。推敲水準の低い論文には単位を与えない。
なお10月終わりまでに先行研究の総括から始まって測定・調査を終了し、緒言部分の執筆が終了していない場合は卒論の執筆中止を言い渡す可能性があるので注意すること。その場合、専門演習IIIの単位取得は出来ない。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。
【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習IIIは集中授業と考えるべきではない。専門演習は毎週水曜5限に行うので、同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが望ましい。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にEメールなどでアポイントメントをとり相談すること。
【注意事項-2】専門演習IIの過程において、年度末の2月上旬までに専門演習IIIで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習IIIの履修を認めない。
【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は12月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習IIIの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to complete writing the graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the graduation thesis (100%). The student who couldn't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February in the former year of the seminar II is not permitted to take the seminar III.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

木村　新

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱにおいて設定した研究テーマに関する卒業論文を執筆した後に、プレゼンテーションを行う。

【到達目標】
・先行研究を十分に検討できている
・測定・分析が適切になされている
・適切な結果の解釈ができる
・設定したテーマについて論文としてまとめることができる
・完成した論文をプレゼンテーションできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。
本専門演習Ⅲは集中授業ではなく原則として毎週水曜5限に行うものとし、同時限に卒論作成の進捗報告を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュール確認
第2回	先行研究の整理	先行研究の背景や実験およびデータ解析方法、解釈や考察内容いついて批判的に検討する。
第3回	先行研究の総括とResearch questionの設定	先行研究同士の関係性を把握することで、検討すべき問いを設定する。
第4回	研究目的の設定	検討すべき問いに沿った研究目的を設定し、その研究を行う意義つまり、その研究を行うことが学術的あるいは実践的観点からどんな利益をもたらすのかを検討する。
第5回	研究方法の設定	実験方法や取得されたデータの分析方法を設定する。
第6回	本実験開始	被験者・検者とともに実験を開始し、データを取得する。
第7回	本実験実施	引き続き、本実験を行う。
第8回	データ集計	得られたデータを集計し、分析できる形にまで整理する。
第9回	データ分析	集計したデータを解析するとともに、分析結果をまとめる。
第10回	分析結果の考察	得られた分析結果に対して妥当な解釈を与えて、考察を深める。
第11回	研究背景の発表	研究背景について執筆方法の指導を受け、研究背景についてプレゼンテーションを行う。
第12回	研究背景の執筆	適切な論理的表現をするために必要な論理的文章の作成方法について学び、背景を完成させる。
第13回	研究方法の発表	研究方法について執筆方法の指導を受け、研究方法についてプレゼンテーションを行う。
第14回	研究方法の執筆	方法セクションの執筆を完成させる。
第15回	研究結果の発表	研究結果について執筆方法の指導を受け、研究結果についてプレゼンテーションを行う。
第16回	研究結果の執筆	結果のセクションの執筆を完成させる。
第17回	考察内容の発表	考察内容について執筆方法の指導を受け、プレゼンテーションを行う。
第18回	考察の執筆	考察のセクションの執筆を完成させる。
第19回	結論の執筆	結論のセクションの執筆を完成させる。
第20回	論文の推敲①	この段階では、ひとまず書き上げた状態であることが予想されるために、論文として仕上がっていないことが多い。ここから推敲を重ねることで仕上げていく。
第21回	論文の推敲②	設定した問いに対して、実験方法、分析内容、考察に一貫性があるのかを確認する。パラグラフの過不足を確認する。
第22回	論文の推敲③	論理的飛躍が無いか、適切な論理的表現が用いられているか、参考文献が適切に引用されているのかを確認する。
第23回	論文完成稿の提出	卒業論文を完成させて指導教員に提出し、提出した論文の査読・指導を受ける
第24回	論文完成稿の修正①	論文の査読・指導内容を基に適宜修正する。
第25回	論文完成稿の修正②	引き続き、論文の修正え行う。
第26回	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
第27回	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を発表し、ディスカッションを行う。
第28回	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献調査
・データ解析
・本実験
・論文執筆
・プレゼンテーションの準備
これらの準備学習・復習時間 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
完成度ならびにプレゼンテーション (100%)

【学生の意見等からの気づき】
課題ややるべきことは多いものの多くの学生が充実感を得ており、学んだことを将来に活かすことができると感じている。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
専門演習Ⅱの過程において、年度末の1月下旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない可能性がある。

【Outline (in English)】
[Course outline] The course intends to provide basic and advanced knowledge and skills for writing a graduation thesis.
[Learning objectives] The goal of the course is to complete writing the graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom] Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis.
[Grading criteria/policy] Graduation thesis (100%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

笹澤　吉明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、設定した研究課題について先行研究を踏まえて研究を進め、論文に仕上げる過程を体験し、卒業論文としてまとめあげることで、研究の流れと意義を学ぶことである。
研究課題を探索し、その課題に関して現在までに報告されている知見についてまとめる。そのうえで、新規性のある知見を得るための研究方法を検討し、調査の実施とともに得られた結果を分析・考察する。一連の成果を論文としてまとめられるようにする。この学びは社会にでてからでも役に立つことを学ぶ。

【到達目標】
学術論文を構成するそれぞれのパーツがどのように構成され、どのような研究手法があるのかを理解できるようにする。卒業論文を仕上げることにより、研究とは何かについて認識を深めるとともに、新たな知見をまとめ上げて報告することの重要性に気付くようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、実施しようとする課題（研究テーマ）により進捗状況が異なるので個別に指導を行う。開始に当たっては、研究計画を立てるために全員により共通理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の探索	学生の研究対象と考える領域について資料や論文を提供し、読み込む。
2	卒業研究の進め方	卒業研究の進め方について全体把握できるようにする。
3	卒業研究の課題抽出	興味関心のある研究テーマについて意見交換し、研究対象について絞り込む。
4	研究テーマに関わる先行研究の方法の分析	研究テーマに関連する先行研究を読み込み、様々な研究方法があることを理解できるようにする。
5	新規となる研究課題の分析方法	先行研究を事例とし、統計学的手法など分析の進め方について理解できるようにする。
6	先行研究の報告	課題とする研究テーマに関連する先行研究について文献検索により入手し、読み込んでまとめる。
7	研究対象となる課題の絞り込みと研究方法の検討	得られた知見をもとに新規の研究課題を絞り込むとともに、研究方法について検討する。
8	質的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、質的調査の方法について検討する。
9	量的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、量的調査の方法について検討する。
10	文献学的研究の検討	統計学的手法と取らない場合の文献学的研究、実践研究について理解できるようにする。
11	リサーチクエスチョンの設定と研究計画の立案	研究で明らかにしようとするリサーチクエスチョンの明確化と研究計画の立案をはかる。
12	予備調査	研究計画に基づき、本調査に先立つ予備調査の計画と実施。
13	予備調査の結果解析	得られた結果について解析するとともに課題を抽出する。
14	まとめ	調査方法を確定するとともに、これまでに得られた成果を整理する。
15	本調査実施に向けての研究計画の修正立案	これまでに得られた成果をもとに、本調査に向けての研究計画を再度作成する。
16	調査（実践）の実施	本調査又は教育実践の実施。
17	調査（実践）の進捗状況の確認と課題の確認	調査の進捗状況についてレポート作成するとともに、問題点について確認する。
18	調査及び実践結果の確認	得られた結果を整理・入力し、データの確認を行う。　実践については効果評価の進め方について検討する。
19	分析結果の解析と解釈	統計解析を実施する。実践については問題点の洗い出しとともに修正作業を行う。
20	結果の視覚化	得られた結果について図表として視覚化し、整理し、評価する。
21	結果と考察の作成	結果のまとめ方と考察の進め方について理解し、自分なりの考え方をレポートする。
22	関連する論文の整理	進めてきた研究と関連する内容の論文を整理し、まとめる。
23	剽窃	卒業論文執筆に際し、剽窃について理解できるようにする。
24	問題と目的の執筆指導	卒論の問題と目的に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
25	結果と考察の執筆指導	卒業論文の結果と考察に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
26	卒業論文の修正	執筆した卒業論文の推敲と校正を加える。
27	論文完成	卒業論文の校正作業と課題の抽出。
28	プレゼンテーションにむけて	発表に向けてのプレゼンテーションの指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学術論文を要約する。
与えられた課題を仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教育実践をテーマとする場合は高等学校保健体育科教科書

【参考書】
教育実践をテーマとする場合は適宜参考資料を配布

【成績評価の方法と基準】
進捗状況のレポート２０%、卒業論文８０%

【学生の意見等からの気づき】
テーマごとに学生個別に対応することで、適宜学生の意見を組み入れる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】　The purpose of this course is to learn the flow and significance of research by experiencing the process of conducting research on a set research topic based on previous research, completing it into a thesis, and summarizing it as a graduation thesis.
Students will search for a research topic and summarize the findings reported to date on that topic. Then, research methods to obtain novel findings will be examined, and the results obtained will be analyzed and discussed along with the implementation of the research. The results of this series of studies will be compiled in the form of a thesis. Students will learn that this study will be useful even after they enter the workforce. 【Learning Objectives】 Students will be able to understand how each part of an academic paper is structured and what research methods are available. By completing their graduation thesis, students will deepen their understanding of what research is and realize the importance of summarizing and reporting new findings. 【Learning activities outside of classroom】 Summarize an academic paper. Complete assigned assignments. The standard preparation and review time for this class is 3 hours each. 【Grading Criteria /Policy】 Progress report 20%, graduation thesis 80%.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

島本　好平

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフスキル獲得に関する調査研究または実践研究を、アスリート等を対象として実施し、その一連の成果を卒業論文としてまとめる。

【到達目標】
関連する先行研究をもとに仮説を立て、科学的手続きにもとづく研究を通してその検証を行い、その結果について種々の先行研究をもとに考察を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
専門演習IIまでの習得した統計解析手法や質問紙法等の一連の方法論を駆使し、主体的かつ着実に卒業研究を遂行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習の流れについて確認を行う。
2	仮の研究テーマの検討	卒業研究に係る一連の流れを体験するための仮のテーマについて検討を行う。
3	仮の研究テーマの決定	関連する先行研究等を入念に確認した上で、仮の研究テーマを決定する。
4	仮のテーマにおける研究目的の検討	何をどこまで明らかにしようとするのか、研究の目的について検討する。
5	研究目的の決定と調査計画の検討	研究目的を決定した後、それを達成するための調査計画の検討を行う。
6	調査計画のプレゼン発表	調査計画をゼミメンバーにプレゼンし、ディスカッションを通して細部にわたり検討する。
7	アンケート用紙の作成（調査内容の検討）	実際にデータを収集する調査内容について検討を行う。
8	アンケート用紙の作成（レイアウトの検討）	信頼のあるデータの確保につながる、調査票のレイアウトについて検討を行う。
9	調査対象と調査時期の検討	データを収集する対象を決め、それに適した調査時期を検討する。
10	手続きの検討	確実に調査を実施するための依頼の手順と、回答者への倫理的配慮について検討を行う。
11	データ入力フォーマットの検討	回収したデータを効率良く入力していくためのフォーマットについて検討を行う。
12	データの回収から入力まで	データ入力作業に移るまでに必要な作業について学習を行う。
13	データ入力時注意事項の確認	データケースの採用・不採用を区別するための視点等について学習する。
14	まとめ	春学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深めていく。
15	秋学期における目標設定	秋学期の学習の見通しを示すとともに、各自目標の設定を行う。
16	統計的分析方法の確認	仮テーマにおける研究の目的を達成するために必要な分析手法について確認する。
17	統計的分析手法の学習	確実に分析が実施できるよう、サンプルデータ等をもとに分析手法への理解を深める。
18	統計的分析の実施	回収したデータに対して実際に分析を実施する。
19	統計的分析の実施（追認）	再度同様の分析を実施し、先に得られた結果に間違いがないかを確認する。
20	分析結果の解釈	個々の分析結果を適切に解釈するための視点について学ぶ。
21	分析結果の提示	個々の分析結果を順序良く提示していくための視点について学ぶ。
22	分析結果の考察の意味	考察とは何かの視点を学ぶ。
23	分析結果への考察を深める	より深い考察を行うための視点を学ぶ。
24	発表資料の構成の検討	各章（序論、方法、結果、考察）に割り当てる内容を検討する。
25	発表資料の作成	パワーポイントを用いて発表資料の作成に取り組む。
26	プレゼン発表の練習	一通り発表を行い、改善点を確認した上で発表資料に修正を加える。
27	仮のテーマにもとづく研究発表会	次年度の本番さながらの研究発表会を行う。
28	まとめ	秋学期の一連の学習内容について振り返りを行い、さらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は それぞれ2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（４０%）、卒論論文（６０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのフォードバックをもとに、より望ましいコーチングの実現に努めていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
During this course, students can focus on their life skills research including examination or practice toward student athletes and so on.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to write up the graduation thesis with valuable research findings.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The process: 40%, The main finding: 40%, The appearance of the thesis: 20%

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

瀬戸　宏明

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習IIで決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
1：卒業論文完成までの作成過程の学習
2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
1：実験より得られたデータの分析
2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第2回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第3回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第4回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第5回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第6回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第7回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第8回	データの収集	データの収集をおこなう。
第9回	データの解析	データの解析をおこなう。
第10回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第11回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第12回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第13回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第14回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第15回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第16回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第17回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第18回	結果報告 実験の継続	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第19回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第20回	実験のlimitationについて	実験のlimitationについて検討する。
第21回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第22回	対象と方法の作成	方法について精査する
第23回	結果の作成	結果について精査する
第24回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第25回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第26回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第27回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第28回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定論文の精読
データの解析
学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文完成にいたる論理の構築　50％
卒業論文　50％

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターなど

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Learning the process of writing a graduation thesis.
− Completion of graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%),

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習III

高見　京太

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。
主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。

【到達目標】
・解決すべき現象・問題・疑問事項などの研究課題を明らかにし、研究目的を明らかにできる。
・研究目的にそって研究計画をたてられる。
・研究計画にそってデータを収集し、分析を行える。
・得られた結果の意味や意義について考察できる。
・研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
春学期は、受講者全員が1週間に1回集合し、進捗状況の報告およびディスカッションを行う。秋学期は研究テーマごとに個別指導により論文完成を目指し、完成後にはゼミ内で発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュールを確認する。
2	進捗状況の報告およびディスカッション1	研究デザインの検討および先行研究の調査をする。
3	進捗状況の報告およびディスカッション2	研究デザインの修正と検討をして、緒言の作成に取り掛かる。
4	進捗状況の報告およびディスカッション3	研究デザイン発表し、議論する。
5	進捗状況の報告およびディスカッション4	研究デザインを確定する。
6	進捗状況の報告およびディスカッション5	調査・測定法の確認と練習を行う。
7	進捗状況の報告およびディスカッション6	データ分析法の確認と練習を行う。
8	進捗状況の報告およびディスカッション7	トライアルとしての調査・測定の実施する。。
9	進捗状況の報告およびディスカッション8	実際の調査・測定を実施する。
10	進捗状況の報告およびディスカッション9	実際の調査・測定を実施する。
11	進捗状況の報告およびディスカッション10	調査・測定によって得られたデータ整理をする。
12	進捗状況の報告およびディスカッション11	調査・測定によって得られたデータを分析をする。
13	進捗状況の報告およびディスカッション12	分析したデータの結果を図表にする。
14	進捗状況の報告およびディスカッション13	分析したデータを基に結果を記述を始める。、
15	結果	結果を完成させる。
16	考察1	結果を受けての考察すべき内容を検討する。
17	考察2	必要な個所への先行研究の引用をする。
18	考察3	考察全体を精査する。
19	考察4	考察を完成させる。
20	結果・考察を受けて1	全体の構成を確認し、結論を導く。
21	結果考察を受けて2	全体の論旨を確認する。
22	結果・考察を受けて3	論文として完成させる。
23	推敲	完成させた論文を推敲する。
24	抄録の作成	学部へ提出する抄録を完成させる。
25	卒業論文の完成	卒業論文として学部へ提出する。
26	プレゼンテーションの準備	ゼミ内卒業研究発表会に向けて、プレゼン資料の作成に取り掛かる。
27	プレゼンテーション完成	プレゼン資料を完成させ発表練習をする。
28	ゼミ卒論発表会	2,3年生の前で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方 出村 慎一 , 山次 俊介 (著)

【成績評価の方法と基準】
科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。
研究計画の作成（30%）、卒業論文(50%)、発表(20%)。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションによって仲間の進捗状況を知り、お互いに助け合ったり競争し合いながら卒業論文の作成に取り組む環境を作る。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for creating a graduation thesis. Students will read the previous studies and conduct measurements and surveys. After writing the introduction and method of the dissertation, the student analyzes the data obtained by the measurement and survey and writes the results, considerations, and conclusions. Students take the initiative in these tasks to understand the scientific approach to research and acquire a research attitude.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A. Clarify research issues such as phenomena, problems, and questions to be solved, and clarify the research purpose.
-B. You can make a research plan according to your research purpose.
-C. Data can be collected and analyzed according to the research plan.
-D. Be able to consider the meaning and significance of the obtained results.
-E. Summarize the findings obtained from the research, prepare papers and abstracts, and make oral presentations.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Credit will be awarded only upon completion of a graduation thesis that is based on scientific data, presents logical analysis, and is written in the prescribed format.
Evaluation will be based on the research plan (30%), graduation thesis (50%), and presentation (20%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

永木　耕介

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学・スポーツ教育学領域における卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】
研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの紹介①	指導教員が「体育」の「目標論」に関する研究論文を紹介する。
2	研究テーマの紹介②	指導教員が「体育」の「カリキュラム論」に関する研究論文を紹介する。
3	研究テーマの紹介③	指導教員が「体育」の「教材論」に関する研究論文を紹介する
4	研究テーマの紹介④	指導教員が「体育」の「学習環境論」に関する研究論文を紹介する
5	研究テーマの紹介⑤	指導教員が「体育」の「学習指導論」に関する研究論文を紹介する
6	研究テーマの紹介⑥	指導教員が「体育」の「学習評価論」に関する研究論文を紹介する
7	研究テーマの紹介⑦	指導教員が「体育」の「国際比較論」に関する研究論文を紹介する
8	研究テーマの紹介⑧	指導教員が「運動部活動論」に関する研究論文を紹介する
9	研究テーマの紹介⑨	指導教員が「体育」の「教師養成論」に関する研究論文を紹介する
10	研究テーマの紹介⑩	指導教員が「体育」の「教師行動論」に関する研究論文を紹介する
11	研究テーマの設定と方法の選択①	「目標論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
12	研究テーマの設定と方法の選択②	「カリキュラム論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
13	研究テーマの設定と方法の選択③	「教材論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
14	研究テーマの設定と方法の選択④	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
15	研究テーマの設定と方法の選択⑤	「学習指導論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
16	研究テーマの設定と方法の選択⑥	「学習評価論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
17	研究テーマの設定と方法の選択⑦	「国際比較論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
18	研究テーマの設定と方法の選択⑧	「運動部活動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
19	研究テーマの設定と方法の選択⑨	「教師養成論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
20	研究テーマの設定と方法の選択⑩	「教師行動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
21	調査方法の指導①	質問紙調査法についてレクチャーする。
22	調査方法の指導②	観察法についてレクチャーする。
23	統計分析法の指導①	単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等についてレクチャーする。
24	統計分析法の指導②	T検定、分散分析、多重比較等についてレクチャーする。
25	統計分析法の指導③	調査項目・内容の設定の仕方、因子分析等についてレクチャーする。
26	質的分析法の指導①	内容分析・カテゴリー分析等についてレクチャーする。
27	質的分析法の指導②	テキスト分析、記録法等についてレクチャーする。
28	まとめ方とプレゼンテーションの指導	まとめ方とプレゼンテーションの行い方についてレクチャーする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。本授業の準備学習・復習時間は各 3時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『三訂版・体育科教育学入門』、友添秀則ほか、大修館書店、2022、2640円

【参考書】
随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文内容（８０%）、卒業論文発表（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつ、学生がスムーズに卒業研究に取り組めるように指導していく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、記録用媒体（USB等）

【その他の重要事項】
上記以外、特に無し。

【Outline (in English)】
[Course outline] This seminar is for students to study the making of a Physical Education/Sports Education thesis from the viewpoint of setting a purpose, selecting appropriate methodology, analyzing data, and examining contents.
[Learning Objectives] Acquire the ability to investigate previous research when setting a research theme, the ability to consider the validity and reliability of research methods, the ability to consider results, and the ability to summarize.
[Learning activities outside of classroom] Collection of materials for writing papers, analysis of previous research, etc.
[Grading Criteria /Policy] Graduation thesis content (80%), graduation thesis presentation (20%)

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

NEMES　ROLAND　JANOS

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要: この演習では、学生が自ら選択した研究テーマに基づき、緻密な計画の下で研究活動を行い、4年間の学びの集大成として研究成果をまとめ、発表するプロセスを支援します。学生は自身の研究テーマについて深く考察し、体系的な研究を実施します。
目的:
卒業研究の意義と内容理解:
- 卒業研究の目的、重要性、およびその内容と構成について総合的に理解し、自らの研究テーマとその意義を明確にします。
研究方法の学習:
- 研究の計画立案、実施方法、データ収集の技術、結果の分析と考察方法について学びます。
アカデミック・ライティング:
- 研究成果を明瞭かつ効果的に伝えるためのアカデミック・ライティングの基本を学び、論文の書き方についてのスキルを獲得します。この演習を通じて、学生は卒業研究の意義を深く理解し、研究計画の立案か ら実施、結果の分析・考察、そしてアカデミック・ライティングに至るまで、研究遂行の全過程を経験します。これにより、学生は自らの研究テーマに関する深い理解と、研究を遂行するための実践的なスキルを身に付けることができます。

【到達目標】
3 年次に設定した専門演習 II の研究テーマをもとに、研究内容をさらに深化させる。 研究計画の立案から実施、データの収集と分析、結果の考察、そして論文の執筆に至るまでのプロセスを経て、最終的に高品質な卒業論文を完成させること。この目標達成のために、学生は自らの研究テーマに対する理解を深め、体系的な研究プロセスを通じて、自己の学びを集大成とする形で卒業論文を完成させる能力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
卒業論文作成に向けた研究演習
1. 問題点の整理と検討:
- 3年次に調査研究したテーマに関する問題点を深く整理・検討し、研究をさらに進展させます。
2. 定期的な報告と検討:
- 定期的に研究の進捗状況を報告し、指導教員や同僚との間で検討を行います。これにより、研究の方向性を適切に保ち、必要な修正を行うことができます。
3. 研究データの集積と分析指導:
- 研究に必要なデータの収集方法と分析手法について指導を受けます。データの集積から分析までのプロセスを適切に実施できるようにします。
4. 研究計画書の作成:
- 研究の全体計画を明確にするために、研究計画書を作成します。この計画書は、研究の方向性を定め、進行を管理するための重要なドキュメントです。
5. 学会発表のための指導:
- 内容が優れている研究については、学会での発表を目指して、発表の準備とプレゼンテーションスキルについての指導を受けます。
6. 個別指導:
- 学生一人一人の研究進捗に応じて、個別指導を行います。これにより、各学生のニーズに合わせた具体的なアドバイスを提供し、研究の質を高めるサポートをします。この授業を通じて、学生は自らの研究テーマを深化させ、体系的な研究手法を駆使し、最終的には卒業論文としての成果をまとめ上げる能力を獲得します。また、学会での発表に向けた準備も行い、研究者としてのキャリアをスタートさせる基盤を築きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	年間計画と進み方について説明受ける
2回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する
3回	研究課題の設定①	グループ1のテーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する
4回	研究課題の設定②	グループ2テーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する
5回	資料収集と分析①	グループごとにミニ研究の計画を発表し，グループ1が作成した内容に関して論議する
6回	資料収集と分析②	グループごとにミニ研究の計画を発表し，グループ2が作成した内容に関して論議する
7回	調査方法の指導	コーチング学の研究に必要される統計学について学ぶ
8回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受け,グループで研究計画書を作成する
9回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする
10回	個人研究の発表	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する
11回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う
12回	論文の執筆: 方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する
13回	収集データ・分析結果の発表	収集データを分析して発表し、全体で論議する
14回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	進捗状況に応じて、卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する
15回	ガイダンス	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する
16回	中間発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する
17回	論文の執筆: 結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する
18回	論文の執筆: 考察	文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する
19回	論文の執筆: 全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う
20回	卒業論文作成①	個別の課題解説
21回	卒業論文作成②	前回の遂行を踏まえて卒業論文の内容・構成を再度検討する
22回	卒業論文作成③論文の執筆	卒業論文作成。 実験・調査の結果の解析をもとに緒言、研究方法を執筆する
23回	卒業論文作成④論文の執筆(考察)	実験・調査の解析から考察・結論を導き出す
24回	卒業論文作成⑤論文の執筆（推敲・校正）	論文の推敲・校正を繰り返し行う
25回	卒業論文作成⑥	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を準備する
26回	論文発表	完成した卒業論文を発表し、意見交換を行う
27回	最終確認	卒業論文の内容・構成を再度検討し、抄録作成する
28回	まとめ	形式を整えて卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文のテーマについての参考文献収集と分析を行い、研究データ解析、調査活動。本授業の準備学習・復習時間は各 2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文(100 %):科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】
Course Outline:
This seminar serves as the definitive culmination of the four-year academic journey, providing a structured framework for students to execute an independent research project from inception to defense. Participants will engage in the complete lifecycle of academic inquiry: defining a significant research problem, designing a rigorous methodology, and mastering advanced data collection and analytical techniques. A core focus is placed on professional Academic Writing, where students learn to synthesize complex findings into a formal thesis that meets high scholarly standards.
Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to:
Develop and refine an original research theme building on the work conducted in Seminar II.
Plan and implement a systematic research process, including data collection, analysis, and interpretation.
Produce a complete, high-quality graduation thesis that meets academic standards in structure, argumentation, and formatting.
Communicate research findings effectively through written thesis submission and oral presentation.
Learning Activities Outside of Classroom:
Students will be expected to collect and review relevant literature related to their research theme, conduct data analysis and fieldwork as required, and make continuous progress on thesis writing between sessions. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria / Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Graduation Thesis (100%) — Credit is granted solely upon submission of a completed graduation thesis that is logically argued based on scientific data and written in accordance with the prescribed format.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

望月　拓実

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、スポーツマネジメント分野における卒業論文作成に必要な知識とスキルを習得することを目的とする。具体的には、これまでの演習で学んだ学術的文章作成、先行研究のレビュー、量的・質的調査の基礎を踏まえ、卒業論文の構成要素を理解し、実際に論文を執筆する能力を養成する。

【到達目標】
1．学術論文の構造を理解している
2．スポーツマネジメント領域の文献内容を理解し要約できる
3．先行研究の内容を整理し自身の研究に引用できる
4．量的調査・質的調査のデータに基づいた分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
講義形式: 卒業論文作成に必要な知識やスキルを講義形式で説明します。
グループワーク: 研究テーマに関する議論やデータ分析をグループで行います。
個別指導: 学生の研究テーマに応じた個別指導を行います。
発表会: 研究成果を共有し、相互にフィードバックを行う機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の目的と到達目標の確認、前期の学習方法を段階的に整理し理解する
第2回	卒業論文の構成要素の確認（序論）	論文の構成と各要素の役割を理解する、序論を執筆する
第3回	卒業論文の構成要素の確認（先行研究レビュー）	先行研究レビューの目的と方法を再確認し、適切な文献の探し方、引用方法を用いて執筆する
第4回	卒業論文の構成要素の確認（研究方法）	研究方法の種類を再確認する（量的研究、質的研究）、研究計画を立てる
第5回	研究テーマの明確化	設定した既存の研究目的を再考し、改めて研究目的および下位目的を設定する
第6回	研究計画書の作成	研究テーマ、目的、方法、計画をまとめ、研究計画書を作成する
第7回	先行研究の深化（文献調査）	研究テーマに関連する文献を収集し、分析する
第8回	先行研究の深化（分析）	収集した文献を整理し、自身の研究との関連性を明確にする
第9回	データ収集（量的調査）	量的調査の手順を理解し、データ収集を開始する
第10回	データ収集（質的調査）	質的調査の手順を理解し、データ収集を開始する
第11回	論文執筆（序論、先行研究）	論文の序論と先行研究レビュー部分を執筆する
第12回	論文執筆（研究方法）	論文の研究方法部分を執筆する
第13回	データ収集(夏季期間の計画)	夏季期間にデータ収集を完了させ、分析するためのデータクリーニング方法を学ぶ
第14回	前期学習内容のまとめと後期への準備	前期の学習内容を振り返り、後期の準備を行う
第15回	後期授業オリエンテーション	後期の学習内容と進め方を確認する
第16回	論文執筆（結果）	論文の結果部分を執筆する
第17回	論文執筆（考察）	論文の考察部分を執筆する
第18回	論文執筆（結論）	論文の結論部分を執筆する
第19回	論文執筆（研究の限界と今後の展望）	研究の限界と今後の展望部分を執筆する
第20回	論文執筆（全体構成の見直し）	論文全体の構成を見直し、修正する
第21回	論文執筆（推敲）	論文の表現、構成を推敲する
第22回	論文発表準備（発表資料作成）	発表資料の作成方法を学ぶ
第23回	論文発表準備（発表練習）	発表練習を行い、質疑応答の準備をする
第24回	論文最終チェック	論文の形式、内容を最終確認し、提出できる状態にする
第25回	質疑応答練習	想定される質問への回答を準備するための思考方法を学ぶ
第26回	卒業論文発表会１	卒業論文の発表を行う(前半グループ)
第27回	卒業論文発表会２	卒業論文の発表を行う(後半グループ)
第28回	授業全体の振り返り	授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の課題として、文献調査、データ分析、論文執筆、発表準備などがあります. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容と発表を総合的に評価します(100％)

【学生の意見等からの気づき】
人数の増加による指導時間の管理方法を変更しました。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This seminar aims to provide students with the necessary knowledge and skills to complete their graduation thesis in the field of sports management. Building upon previously acquired skills in academic writing, literature review, and basic quantitative and qualitative research methods, students will understand the components of a graduation thesis and develop the ability to write an academic thesis. The course combines lectures, group work, individual guidance, and presentation sessions to achieve these goals.
【Learning Objectives】
Upon completion of this course, students will be able to:
Understand the structure of academic papers and appropriately describe each component
Collect and analyze relevant literature based on their research topic and properly cite sources in their thesis
Conduct analysis based on quantitative and qualitative research data and present results in their thesis
Complete and present their graduation thesis
Understand and summarize literature in the field of sports management
Organize prior research findings and incorporate them into their own research
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected to engage in various activities outside of class, including:
Conducting literature reviews
Analyzing research data
Writing thesis drafts
Preparing presentations
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
【Grading Criteria/Policy】
Assessment will be based on course assignments (100%) with the following considerations:
Comprehensive evaluation of the graduation thesis content and presentation
Assessment of research planning
Evaluation of thesis structure and organization
Quality of research content
Presentation performance
Each component will be evaluated based on its completeness, accuracy, and adherence to academic standards. Students must submit all required assignments and present their research to receive a final grade.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

吉田　政幸

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習において、履修者は卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
1年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が１年を通して取り組む研究計画を立てる。
2回	序論：緒言	卒業研究の序論の冒頭の文章の書き方について理解し、実際に執筆する。
3回	序論：問題の所在、研究の目的	先行研究の問題点と自分の研究の目的を明確に述べる。
4回	序論：重要性	卒業研究の学術的重要性と実践的重要性を説明する。
5回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義する。
6回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を立て、それを説明するための図表を作成する。
7回	序論：仮説導出根拠	仮説を示した図表を説明するとともに、仮説の導出根拠を理論的に記述する。
8回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
9回	方法：質問項目の設定	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を設定する。
10回	方法：質問項目の確定	調査対象者の心理的要因を測定するための心理的尺度を確定し、表と本文にまとめる。
11回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
12回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
13回	調査計画の発表練習	作成したスライド資料を使って発表の練習を行うとともに、内容について他の受講者と討論する。
14回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の序論と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15回	オリエンテーションおよび秋学期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16回	方法	卒業論文の第2章「方法」を書き上げる。
17回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
18回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
20回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
21回	結果：仮説の検証	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
22回	結果：追加分析	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
23回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
24回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は4時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配付する）。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文。
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房．2,640円
原田宗彦（編）(2021) スポーツ産業論（第7版）．杏林書院：東京．2,750円

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表：10点
調査計画の発表：10点
中間発表：10点
最終発表：20点
卒業論文（①序論、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50点
合計：100点
【評価基準】
4回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。
100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。
80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。
60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。
40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。
20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動などの影響により、学生によって研究の進捗状況が異なりますが、特に遅れている学生を支援したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
吉田ゼミナールの専門演習Ⅲは専門演習Ⅰ・Ⅱに加え、スポーツ産業論とスポーツ消費者行動論の単位取得が完了していないと履修できません。研究（research）とは、繰り返し（re）探求（search）を続けることです。１年を通じて計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.
(Learning objectives)
The goals of this seminar are to (1) understand the purpose, importance, and benefit of a graduation thesis, (2) conduct research focusing on their own interests, (3) collect and analyze data in the sport industry, and (4) interpret conclusions drawn from their findings.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, students are expected to analyze data and write the introduction, method, result, and discussion sections and spend four hours to understand the course content.
(Grading criteria)
Grading will be decided based on each student's topic of interest (10%), research plan (10%), mid-term presentation (10%), final presentation (20%), and the quality of the graduation thesis (50%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

越智　英輔

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、卒業論文の作成にあたって必要な研究の構想、計画、実験・調査の実施、データ分析を行います。あわせて、得られた結果の解釈や考察をすすめます。最終的に卒業論文としてまとめるとともにプレゼンテーションも行います。

【到達目標】
1. 研究テーマを設定できる
2. 適切な研究計画を立案できる
3. 適切な結果の解釈ができる
4. 上記を論文としてまとめることができる
5. 完成した卒業論文をプレゼンテーションできる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰ、Ⅱで学習した内容をさらに深めていきます。研究計画書を作成し、実際に調査、実験を行いデータを取得します。得られたデータを分析し、結果の解釈を行います。最終的に卒業論文としてまとめるとともにプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文の作成へ向けてタイムラインを確認する
2	研究テーマの設定	研究の意義と目的に照らしてテーマを設定する
3	研究デザインの立案	設定した研究テーマに基づき大まかなデザインを検討する
4	研究デザインの公表	研究デザインのプレゼンテーションを行う
5	先行研究のレビュー	先行研究を調査し、研究の背景と意義を確認する
6	先行研究の紹介	先行研究をまとめてプレゼンテーションを行う
7	緒言の作成	緒言の作成法を学ぶ
8	緒言の紹介	作成した緒言をプレゼンテーションする
9	実験・調査法の基本	実験・調査法の基本を学ぶ
10	実験・調査法の紹介	研究テーマに沿った適切な実験・調査法をプレゼンテーションする
11	実験・調査の分析法	得られるデータを分析するための統計手順を学ぶ
12	実験・調査の分析法の紹介	研究テーマに沿ったデータ分析法を紹介する。
13	関連する実験・調査方法の確認	直接的に関係しないものの関連がありそうな手法を再度検討し、測定法とアウトカムを確定する
14	方法の作成	方法の作成法を学ぶ
15	方法の紹介	作成した方法をプレゼンテーションする
16	予備実験・調査	本実験に向けて予備実験を行う
17	予備実験・調査データの分析	得られた予備実験データを解析する
18	予備実験・調査データの紹介	実際の調査・測定を実施し、データを取得する
19	予備実験・調査結果のプレゼンテーション	実際の実験・調査のデータを分析してプレゼンテーションを行う
20	緒言と方法の再検討	緒言と方法に問題がないかを再確認する
21	倫理的検討と研究の限界について検討	研究対象の倫理的配慮、測定で明らかになる範囲を確認する
22	本実験・調査の実施	本実験・調査を実施する
23	本実験・調査の解析	結果をまとめる
24	本実験・調査結果の解釈と考察	結果を図表にしてプレゼンテーションし、結果の解釈を深める
25	結果と考察の作成	結果と考察の作成法を学ぶ
26	結果と考察の紹介	作成した結果と考察をプレゼンテーションする
27	結論の作成	研究全体の結論、限界と現場への応用を検討する
28	卒論の完成	要旨などを含めて卒論全体の構成を最終確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での文献を調べてもらったり、解析を行ったり、プレゼンテーションの準備を進めてもらいます。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文を100％として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline:　This course introduce how to write the bachelor thesis such as purpose, experimental design, interpretation of results, discussion to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should complete the bachelor thesis.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on bachelor thesis (100%).

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

中澤　史

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱにおいて設定した研究計画書に基づき、計画的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめて発表する。本演習では、卒業論文の目的、意義、方法、結果、考察等について総合的に学習する。

【到達目標】
1. 研究の目的、意義、仮説について説明できる。
2. 研究目的の解明に適した調査方法を設定できる。
3. 適切にデータを収集・分析し、得られた結果について考察し結論を導き出せる。
4. 卒業論文を完成し、卒業研究発表会において発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅱにおける取り組みを踏まえ、卒業論文の完成に向けた調査研究に取り組む。受講者は収集したデータや分析結果をまとめ、授業でその進捗状況を発表し、個別指導やグループディスカッションを通して卒業論文の完成度を高めていく。なお、授業で取り組むプレゼンテーションや提出物等に対する講評やフィードバックは、都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究計画の確認	本演習の進め方を理解するとともに、研究計画について確認する。
2	研究の背景	先行研究や予備調査から得た知見を踏まえて研究課題を導出し、研究目的について確認する。
3	研究の目的と意義	研究目的を達成することによって、どのような社会的意義があるのかについて確認する。
4	枠組みの整理	研究で扱う用語や重要概念を定義し、概念的な枠組みを整える。
5	研究仮説	調査対象となる要因間の関係性に関する仮説を立てる。
6	対象者の設定	調査の対象となる環境や対象者を設定する。
7	対象者の属性調査	対象者の属性を確認するためのフェイスシートを作成する。
8	調査方法の設定	対象者の心理的要因を測定する質問項目を精査し、質問紙を選定する。
9	事例調査の方法	対象者の心理的変容過程の詳細を解明するための調査方法を確定する。
10	調査資料の整理	フェイスシート、同意書、質問紙、インタビューガイド等の調査資料を整え、調査を開始する。
11	属性項目の整理	対象者の属性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
12	データの入力・分析	収集したデータを入力し、統計的方法を用いて分析する。
13	データの質的分析	収集した逐語データ等を質的に分析し、その結果を説明する図表および文章を作成する。
14	中間発表	これまでの研究成果を抄録にまとめて発表し、指摘を受けた箇所を中心に修正を図る。
15	今後の研究計画の確認	秋学期の流れを理解するとともに、今後の研究計画について確認する。
16	結果の修正	中間発表での指摘を修正した内容について確認する。
17	統計分析の結果の考察	統計的分析を施した結果について考察する。
18	質的分析の結果の精査	質的分析を施した結果の信頼性・妥当性を高めるためにトライアンギュレーションを行う。
19	質的分析の結果の考察	質的分析を施した結果について考察する。
20	全体の考察	これまでの結果およびその考察の内容について総合的に考察する。
21	今後の課題・研究の限界	研究方法における問題点、研究で解明できなかった課題、本研究の限界などについて記述する。
22	緒言の完成	すでに整理した研究の背景、目的、意義などをまとめて緒言の部分を完成する。
23	方法の完成	調査対象者の属性、分析方法等をまとめて方法の部分を完成する。
24	結果の完成	統計的・質的分析を通して得た結果を図表や文章にまとめて完成する。
25	考察の完成	総合考察としてまとめた内容を精査し、その内容を図表と文章にまとめて完成する。
26	結論・まとめ	本研究を通して導出された結論、今後の課題・研究の限界等について記述する。
27	引用文献・資料の整理	引用文献および巻末資料を整理し、卒業論文を完成する。
28	卒業論文の発表	卒業論文の内容を抄録にまとめ、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
１．卒業論文の作成に役立つ文献の講読に取り組んでください。
２．データの収集、分析、考察などの調査研究に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1.中澤　史「アスリートの心理学」日本文化出版
2.小宮あすか・布井雅人「Excelで今すぐはじめる心理統計　簡単ツールHADで基本を身につける」講談社
3.マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。

1.卒業論文が60％、研究計画書等の提出物、プレゼンテーション、授業への参画状況が40％です。
2.やむを得ない理由がない限り、全授業への出席を原則とします。やむを得ない理由がある場合に限り、半期で欠席4回までの受講者を評価対象とします。やむを得ない理由による欠席が4回（半期）を超過する場合は、別途相談に応じます。
3.やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
4.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
5.卒業論文、研究計画書等の提出物では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8.授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文の質的向上を目的とした個別指導や受講生間の情報交換の機会を積極的に設けます。

【学生が準備すべき機器他】
データの分析や資料の作成等が可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業に変更される場合があるため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3.授業計画は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Based on the research proposal established in Specialized Seminar II, students will conduct research systematically and compile the results into a graduation thesis for presentation. This seminar provides comprehensive learning on the purpose, significance, methodology, results, and discussion of the graduation thesis.
【Learning Objectives】
1.to be able to explain the purpose, significance, and hypotheses of the research.
2.to be able to set up research methods suitable for clarifying the purpose of the research.
3.to be able to collect and analyze data appropriately, consider the results obtained, and conclude on the results.
4.to complete a graduation thesis and present it at the graduation research presentation.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this exercise is 2 hours each, and the specific content of the efforts is as follows.
1.Students are expected to engage in reading of research papers that will assist in the preparation of their graduation thesis.
2.Students are expected to engage in research studies including data collection, analysis, and discussion.
【Grading Criteria /Policy】
The graduation thesis accounts for 60%, while research proposals and other submitted materials, presentations, and participation in classes account for 40%.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習III

林　容市

カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／4単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起して，先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし，これまでに修得した知識，経験，手法等を用いて実際に情報収集，データ収集・分析，文章作成を行い，卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
1. 研究テーマ・課題を設定でし，適切な研究計画を立案できる。
2. 妥当な方法を用いてデータ収集・分析し，適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して，論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し，グループでミニ研究を行い，論文作成に向けた準備を行います。その後，研究課題・研究仮説の設定，実験・測定・調査，統計解析方法を検討して研究計画書を作成し，全体で論議を行います。計画が立案した後は，各自でデータ収集や分析を行い，結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ，内容のプレゼンテーションを行います。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第2回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第3回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第4回	研究計画の立案1	複数のグループを設定し，この週の担当のグループがミニ研究の計画を発表した上で，その内容に関して全体で論議する。
第5回	研究計画の立案2	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，その内容に関して全体で論議する。
第6回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第7回	研究の実践1	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第8回	研究の実践2	グループごとに，データ分析，結果のまとめ・解釈を行う。
第9回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第10回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第11回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする。
第12回	個人研究の発表1	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第13回	個人研究の発表2	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第14回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し，まとめる。
第15回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第16回	研究計画発表	研究計画を発表し，問題点などを含めて全体で論議する。
第17回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第18回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する。
第19回	収集データ・分析結果の発表1	収集データを分析して発表し，全体で論議する。
第20回	収集データ・分析結果の発表2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し，発表する。
第21回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第22回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第23回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し，意見交換を行う。
第24回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う。
第25回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ，発表する。
第26回	プレゼンテーション（1）	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第27回	プレゼンテーション（2）	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第28回	口頭発表練習	指定の時間内で卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行い，討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での予習・復習の作業が，論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って，資料作成や発表準備を行って下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など，必要な作業をしてください。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏，山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】
1）研究実施状況・研究論文の内容：70%，2）発表・質疑応答の内容20%、3）発表への質問状況・論議への参加状況：10%，として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業内容を踏まえて，受講者とのコミュニケーションを密に行い，卒業論文の作成に向けた作業を計画的に進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合，タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため，自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】
・シラバスの内容については，授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to write a graduation thesis. To achieve this objective, students raise their research questions and experimental designs, as well as, collect and analyze data based on the knowledge, experience, and methods learned in previous classes.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Set research themes and issues and formulate appropriate research plans.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using charts and tables.
3. Think logically about the results obtained.
4. Write academic papers using appropriate notation and expressions.
5. Effectively presentation of the results obtained.

【Learning activities outside of the classroom】Preparation and review work outside of class is an essential requirement for completing the paper and various presentations. Students must conduct experiments, research, and prepare for presentations outside of class according to the assigned tasks. The standard time for these preparatory studies and reviews is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the content of the research and paper conducted(70%), presentation and Q&A(20%), and participation in the discussion to the presentation(10%).

EDU200IA（教育学 / Education 200）

保健体育科教育法Ⅰ

小林　稔

カテゴリ：教職講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠である学習指導要領（保健体育）の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領（中学校・高等学校）に示される目標・内容・学習指導計画・指導評価などについて理解し、修得する。加えて、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野)学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。
講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについてする。
※本講義は対面型を基本とし、新型コロナ感染症の拡大状況によりオンライン型に切り替えるなど柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とは何か
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷(1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷(2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点(1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点(2)	領域及び内容の取扱い 授業時数 小テスト
8	授業づくり①	A 体つくり運動 B 器械運動
9	授業づくり②	C 陸上競技 D 水泳
10	授業づくり③	E 球技 F 武道
11	授業づくり④	G ダンス H 体育理論
12	学習指導案作成(1)	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理) 学習評価のねらい、方法
13	学習指導案作成(2)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	まとめ →期末試験	学習指導案の提出 学習指導要領の理解確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
(Each class should have a one-page A4 summary of the content.)
・学習指導要領の各領域について熟読すること
(Read carefully each area of the Courses of Study)
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
(The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.)

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説(平成29年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説(平成30年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』(大修館書店)
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】
・試験60%（中間テスト30％，期末テスト30％）
〔Examination：60% (midterm test：30%, final test：30%)〕
・課題レポート・発表20%
〔Assignment Report and Presentation：20％〕
・最終版学習指導案20%
〔proposed plan of study and instruction：20％〕

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など毎回の授業に精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces physical education goals, learning content and programme of teaching to students taking this course.
[Learning objectives]
The goals of this course are to understanding the objectives and content of the Courses of Study.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to read carefully about each area of the courses of Study. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 20%、proposed plan of study and instruction: 20%

EDU200IA（教育学 / Education 200）

保健体育科教育法 II

笹澤　吉明

カテゴリ：教職講義
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位
曜日・時限：金1/Fri.1
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について理解・習得する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
「保健」の指導内容や効果的な指導法などについて理解を進めるとともに、教材活用や授業づくりのためのポイントについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	保健科教育の概念・必要性	保健科教育とはなにか
第2回	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
第3回	学習指導要領要点(1)	中学校(保健分野)の目標
第4回	学習指導要領要点(2)	高等学校(科目保健)の目標　ヘルスプロモーションの意義
第5回	保健における各単元内容(1)	中学校(4単元)の主なねらい・留意点
第6回	保健における各単元内容(2)	高等学校(4単元)の主なねらい・留意点
第7回	授業づくり(1)	学習形態(効果的な展開方法)　学習過程(種類と利点・欠点)
第8回	授業づくり(2)	学習環境(実習・実験などを効果的に行うためのICT活用方法)
第9回	授業づくり(3)	学習評価(テスト作成方法　発問方法) 指導計画(年間・単元・単元時間/導入・展開・整理)
第10回	学習指導案作成	単元目標・単元時間計画・単元/本時の目標・本時案・学習活動における評価規準の設定方法
第11回	模擬授業と省察(1)	グループごとでの模擬授業と反省(運動・休養・食事)
第12回	模擬授業と省察(2)	グループごとでの模擬授業と反省(環境問題)
第13回	模擬授業と省察(3)	グループごとでの模擬授業と反省(性教育)
第14回	まとめ(実践研究)	現状と問題点、授業設計向上を目指した学習指導案修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4一枚程度のレポートを作成すること。
・中学校及び高等学校の保健の教科書は熟読することを求める。
・日常的に保健の授業内容に関わる関連情報について敏感に収集し、発言できるようにしておくこと。
　準備学習・復習時間は各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領解説　保健体育編』文部科学省　東山書房
『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』文部科学省　東山書房
『中学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）

【参考書】
『保健科教育の基礎』吉田瑩一郎　教育出版
『評価規準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【中学校　保健体育】』文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター
『評価規準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【高等学校　保健体育】』文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター
『保健科教育法入門』日本保健科教育学会　大修館書店
『中学校・高等学校　保健科教育法』森良一　東洋館出版社
『中学校　新学習指導要領の展開　保健体育編』佐藤豊　明治図書
『高等学校　新学習指導要領の展開　保健体育科編』高等学校保健体育授業改善研究会　明治図書
『平成30年度　学習指導要領改訂のポイント　高等学校保健体育体育』佐藤豊　明治図書

【成績評価の方法と基準】
定期試験40%（但し6割取れない場合は0点となるので注意、教員採用試験対策でもあることから） 学習指導案作成20% 授業で求める発言・発表 20% 毎回のリアクションペーパー又は小レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
積極的な取り組みと発言を期待する。

【その他の重要事項】
授業の進展状況に応じ、内容の若干の変更が予想されるので、進捗状況について留意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】　Understand and master the objectives, contents, and evaluation of “health” studies at junior high and high schools as indicated in the Courses of Study.
　In addition, students will examine the basic and practical aspects of learning and teaching, and learn how to create learning and teaching plans and how to evaluate learning.
【Learning Objectives】To understand the objectives of health and physical education subjects and subjects in secondary education, points to keep in mind regarding learning content, learning evaluation, etc., to study and analyze classes focusing on class theory and teaching theory, to learn the basic knowledge of creating health classes utilizing ICT (PCs and tablets) and teaching materials, and to develop the “power to live” by creating learning and teaching plans. The course aims to cultivate the ability to contribute to the development of the “power to live” and to health and safety in personal and social life through the creation of learning and teaching plans.
【Learning activities outside of classroom】Students are required to write a one-page A4 report for each class. Students are required to read the health textbooks of junior high school and high school carefully. Students are expected to read the health textbooks of junior high school and high school carefully, and to be sensitive to the information related to the content of health class on a daily basis, and to be able to speak up. The standard preparation and review time is 4 hour each.
【Grading Criteria /Policy】Periodic examinations 40% Preparation of instructional plans 20% Classroom remarks and presentations 20% Reaction papers or small reports 20% Each class.

EDU300IA（教育学 / Education 300）

保健体育科教育法III

永木　耕介

カテゴリ：教職講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する（PDCAサイクル）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事前テストと模擬授業用の指導案の確認
2	模擬授業① 陸上競技（ハードル走） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
3	模擬授業② 陸上競技（リレー） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
4	模擬授業③ 球技・ゴール型 （フットサル） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
5	模擬授業④ 球技・ベースボール型 （ベースボール・ファイブ） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業⑤ 武道（剣道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業⑥ 武道（柔道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業⑦ 器械運動（マット） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑧ 球技・ネット型 （バレーボール） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑨ 球技・ゴール型 （バスケットボール3人制） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑩ 体つくり運動（動きを高める） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑪ ダンス（創作ダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業⑫ ダンス（現代的なリズムのダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
14	合評会および総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）
中学保健体育（学研教育みらい）

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
事前テスト（２０%）、参加状況・態度による平常点（７０%）、改善指導案提出（１０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については学習支援システムを使用する。
模擬授業の教具は各グループで事務課から借用すること（借用願を1週間前までに提出）。

【その他の重要事項】
事前ガイダンス（8月初め）に必ず出席すること。
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.
The goal is to enable students to create lesson plans and consider evaluation methods, as well as to acquire practical teaching skills, such as improved explanatory and communication abilities through mock lessons.
Each group will be required to meet outside of class hours to prepare a learning instructional plan and mock class. After conducting the mock class, each group should reflect on the class based on class evaluations, class records, etc.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Ordinary points based on participation and attitude(70％)
Test [mainly Course of Study〕(20％)
report [mainly proposed plan of study and instruction 〕(10％)

EDU300IA（教育学 / Education 300）

保健体育科教育法III

永木　耕介

カテゴリ：教職講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する（PDCAサイクル）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事前テストと模擬授業用の指導案の確認
2	模擬授業① 陸上競技（ハードル走） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
3	模擬授業② 陸上競技（リレー） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
4	模擬授業③ 球技・ゴール型 （フットサル） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
5	模擬授業④ 球技・ベースボール型 （ベースボール・ファイブ） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業⑤ 武道（剣道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業⑥ 武道（柔道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業⑦ 器械運動（マット） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑧ 球技・ネット型 （バレーボール） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑨ 球技・ゴール型 （バスケットボール3人制） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑩ 体つくり運動（動きを高める） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑪ ダンス（創作ダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業⑫ ダンス（現代的なリズムのダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
14	合評会および総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）
中学保健体育（学研教育みらい）

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
事前テスト（２０%）、参加状況・態度による平常点（７０%）、改善指導案提出（１０%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については学習支援システムを使用する。
模擬授業の教具は各グループで事務課から借用すること（借用願を1週間前までに提出）。

【その他の重要事項】
事前ガイダンス（8月初め）に必ず出席すること。
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.
The goal is to enable students to create lesson plans and consider evaluation methods, as well as to acquire practical teaching skills, such as improved explanatory and communication abilities through mock lessons.
Each group will be required to meet outside of class hours to prepare a learning instructional plan and mock class.After conducting the mock class, each group should reflect on the class based on class evaluations, class records, etc.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Ordinary points based on participation and attitude(70％)
Test [mainly Course of Study〕(20％)
report [mainly proposed plan of study and instruction 〕(10％)

EDU300IA（教育学 / Education 300）

保健体育科教育法Ⅳ

小田　佳子

カテゴリ：教職講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／2単位
曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健分野」の学習指導要領に示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力，責任などを認識し理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて学習指導案を作成する。ICT(PCやタブレット)や教材を活用し、授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱ（保健）で学んだ内容を発展・具体化して模擬授業を実施する。ただし、指導法の基本である板書や教材づくりの工夫を大切にする。
授業後は、相互に授業評価をして振返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 教育法Ⅱの振り返り 学習指導要領の確認	本授業の進め方（成績評価と各担当 単元の確認） 指導要領確認テスト 学習指導案の確認と修正
2	模擬授業及び省察 中学校①	健康な生活と病気の予防① (中学校1年)
3	模擬授業及び省察 中学校②	心身の機能の発達と心の健康① (中学校1年１～４)
4	模擬授業及び省察 中学校③	心身の機能の発達と心の健康② (中学校1年２～８)
5	模擬授業及び省察 中学校④	健康な生活と病気の予防② (中学校２年)
6	模擬授業及び省察 中学校⑤	傷害の防止① (中学校２年)
7	模擬授業及び省察 中学校⑥	健康な生活と病気の予防③ (中学校３年)
8	模擬授業及び省察 中学校⑦	健康と環境 (中学校3年)
9	模擬授業及び省察 高校①	現代社会と健康① （１～８）
10	模擬授業及び省察 高校②	現代社会と健康② （９～１７）
11	模擬授業及び省察 高校③	安全な社会生活
12	模擬授業及び省察 高校④	生涯を通じる健康
13	模擬授業及び省察 高校⑤	健康を支える環境づくり
14	模擬授業ふりかえり 合評会・まとめ	模擬授業反省のプレゼンテーション、 振り返りを踏まえた学習指導案の修 正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校の学習指導要領及び教科書(保健部分)を熟読し、
保健分野の内容を理解している必要があります。（確認テストを実施）
事前に、単元目標・単元計画・単元における評価規準、教材観・生徒観・指導観を記述した授業指導案を作成することを課題とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健科教育の基礎　(教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導要領(事前テスト)20%
・模擬授業の教材研究と実践 20%
・模擬授業への参加貢献（授業評価)40%
・指導案作成 10%
・模擬授業反省と指導案修正 10%
※模擬授業型講義であるため3/4以上の出席を要する

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業時間と振り返りの時間確保
・模擬授業を受ける学生(生徒役)は、授業者が行う授業から、
　参考になったこと(良かった点)、改善すべきこと(改善点)を
　具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、若干の内容変更があり得る。
夏休み前に事前の履修ガイダンスを実施し、模擬授業の指導案作成（課題）を提示する。

【Outline (in English)】
(Learning Objectives)
To create the "health education" teaching plans based on the goals, contents, learning guidance plan and learning evaluation through the course of study for junior high school and high school.
Then students can recognize and understand teachers' qualities, abilities, and responsibilities through the experience of mock lessons.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class guide plane: before and after(30 %), Teaching skill and Attitude for the class(30%), Feedback for others(20%), in class contribution and feedback(10%)

EDU400IA（教育学 / Education 400）

教職実践演習（中・高）

熊野　真司

カテゴリ：教職講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：4年次／2単位
曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育科教員になる上で、自己の教育的実践の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより4年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。
①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す。
②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける。
③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える。
④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導法について知識を深める。
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション(人の前に立つこと)の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として取り上げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 課題の発見	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け ・教育実習の振り返りと自己の課題発見
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会に求められる教職の専門性」をめぐるテーマ設定を行う 「教育実習から見えた求められる教師像」とは？
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める 「教育実習を通した最も大きな課題は何か？」
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育科教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科 保健・体育)	テーマ：「教科の指導力と適正な評価」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する教師の責任と危機管理」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級内の人間関係形成と学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「健康安全・体育的行事の効果的実施」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「キャリア教育・社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「教員の働き方改革－生徒指導と部活動顧問－」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7月の事前オリエンテーションへの参加必須
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『中学保健体育』（学研）or（大日本図書）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行(40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成(30%)
・最終レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】
4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく。
現場に出る前に、抱えている課題の共有や解決方法を見出すことで、不安をやわらげ自信をもって教職に向かう態度を養う。
生徒や保護者に対して想定する様々な対応を事例を賭して学ぶことで、確かな実践力を育成する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【その他の重要事項】
教育実習の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
7月に事前の履修ガイダンスを開催する

【Outline (in English)】
[Course outline］
In order to become a P.E. teacher at (junior) high school in the future, grasp the issues of each educational practice and supplement the lack of knowledge, skills, and teacher qualifications as necessary.
Through this class, we complete the four-year teaching training course at the university.
[Learning objectives]
Students will be able to achieve the following with regard to "professionalism required of society's teaching profession in the future."
(1) Discover your own challenges in terms of a sense of mission, responsibility, enthusiasm and affection in education.
(2) Acquire social skills and interpersonal skills as a teacher.
(3) Identify problems such as student understanding and class management, and think about ways to solve them.
(4) To deepen knowledge of teaching material research, creation of teaching materials, and teaching methods in specialized subject areas.
⑤ Aim to improve communication and presentation/presentation skills (standing in front of people).
[Learning activities outside of classroom]
Participation in pre-orientation in July is mandatory
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Grading criteria/policy]
Group work such as drafting discussion and content, fulfilling roles (40%)
Participate in discussions and write reaction papers (30%)
Final report (30%)

EDU300IA（教育学 / Education 300）

教育実習（事前指導）

熊野　真司

カテゴリ：教職講義
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：3〜4年次／単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、その意義や重要性を踏まえて、教師としての自覚や責任などを理解する。
教育実習に向けた心構えを構築することを目的とする。

【到達目標】
教育実習に向けて、教師としての責任と自覚を認識し、各学校現場における充実した教育実習を実施する心構えを備える。
教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施により、教育実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導技術や実践的な指導方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教育実習にかける心構えや実習校での生徒指導や生徒対応を学ぶ機会を設ける。
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。
また、教育実習を経験した４年生から教育実習報告を聴き、各自の教育実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	教育実習の心構え 模擬授業準備	教育実習生としての心構え 自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級）
3	簡易模擬授業 (教壇指導練習)	自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級での発表を想定） ＊４年生とともに
4	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 ＊４年生とともに
5	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成 教壇指導練習 ＊４年生とともに
6	模擬授業① 体育理論(1)及び省察	領域：体育理論の担当Aグループによる 模擬授業及び講評
7	模擬授業② 体育理論(2)及び省察	領域：体育理論の担当Bグループによる 模擬授業及び講評
8	模擬授業③ 道徳(1)及び省察	領域：道徳の担当Cグループによる 模擬授業及び講評
9	模擬授業④ 道徳(2)及び省察	領域：道徳の担当Dグループによる 模擬授業及び講評
10	模擬授業⑤ 学級活動の授業及び省察	領域：学級活動の担当Eグループによる 模擬授業及び講評
11	教育実習報告① 登壇実習（教科指導）について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
12	教育実習報告② 実習生活について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
13	教育実習報告③ 学級経営・生徒指導について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと 実習に向けての取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成(模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(30%) ＋事前プレゼンテーション（10%）
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成(20%)
・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度(10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野(体育・保健、特別活動、道徳)を決めるため参加必須。　遅刻・無断欠席は厳禁とする。
・教育実習事前指導は、○×の評価となる(×の評価を受けると、次年度の教育実習が行えない)。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、PC/プロジェクター等を使用して授業展開をします。

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.
To understand the awareness and responsibilities as a teacher based on its significance and importance for the teaching training at schools in next year.
The purpose of this class is to build up the proper attitude for the teaching training at each school.
[Learning objectives]
Through teaching practice, students become aware of their responsibilities and self-awareness as teachers, and are prepared to implement fulfilling teaching practice at each school.
By researching teaching materials, creating learning guidance plans, and conducting mock classes, students will become aware of their attitude toward practical teaching and aim to acquire basic teaching skills and practical teaching methods.
[Learning activities outside of classroom]
Creation of lesson plans
Preparatory work for mock class
Evaluation sheet creation after mock class
Revision work of the learning guidance plan after the mock class
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Grading criteria/policy]
・Creation of learning instruction plan (before mock lesson + after mock lesson) (30%)
・ Mock class (30%) + Pre-presentation (10%)
・Creating reaction papers for mock classes of other students (20%)
・Attitude and attitude toward guidance and advice from fourth graders (10%)
・ At the orientation in July, the field of charge (physical education, health) of the mock class.
Participation is required to make a decision.
Tardiness and unauthorized absence are strictly prohibited.
・Pre-teaching practice guidance will be evaluated as ○× (If you receive an evaluation of ×, you can't do teaching practice for the next year.)

EDU400IA（教育学 / Education 400）

教育実習（高）

小田　佳子、永木　耕介

カテゴリ：
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／3単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4年次春学期(または秋学期)に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知り，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導(現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導(3年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習(2〜4週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業(教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会(研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導①	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える3年生へのアドバイス ③実習校で行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後	事後指導②	次年度教育実習予定者（3年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後	事後指導③	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3年次事前指導評価(20%)
・実習校の指導教員による採点(60%)
・事後指導(事前指導を受ける3年生への指導・サポート)(10%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート(10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the "preparatory training" held in the fall semester of the third year, students will acquire basic knowledge about the teaching profession and practical skills for teaching in the class.
In the spring semester (or fall semester) of the fourth year, students will learn through on-site training at a school, and in the "follow-up training" held in the fall semester, they will reflect on their on-site training and develop the qualities and abilities necessary to become a teacher in the future.
【Learning Objectives】
Through experiencing the diverse educational practices and work of teachers in the field, students will learn about the importance, challenges, and difficulties of "education."
The goal is to develop the basic leadership skills of future teachers and to establish their responsibility and awareness.
【Learning activities outside of classroom】
Create lesson plans for the unit content you are responsible for.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
3rd year: Pre-guidance evaluation(20％),
Score at the teaching training school(60%),
4th year: Post guidance(10%),
Practical training report and diary(10%)

EDU400IA（教育学 / Education 400）

教育実習（中・高）

小田　佳子、永木　耕介

カテゴリ：
開講時期：年間授業/Yearly　｜　配当年次／単位：4年次／5単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。
4年次春学期(または秋学期)に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知る。未来の教師としての基礎的指導力を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導(現職教師の特別講義を含む)
②中学校・高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導(3年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習最終ガイダンス	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習(3〜4週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業(教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会(研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後①	事後指導① 教育実習後のまとめ	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える3年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後②	事後指導② 教育実習報告	次年度教育実習予定者（3年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後③	事後指導③ 指導案の補助指導	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業の指導案作成に当たり助言を行う。
実習後④	事後指導④ 模擬授業の補助指導	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業に当たり、総括的な助言を行う。
実習指導巡回	教育実習指導① （付属中高）	教育実習校での実習事前オリエンテーションおよび実習のまとめと総括
実習指導巡回	教育実習指導② （付属中高）	付属中高における教育実習での研究授業の実施と評価 (実習期間中の教育相談を含)。
実習指導巡回	教育実習指導③ （東京都・各自治体）	公立中高における教育実習現場での研究授業の実施と評価（実習期間中の教育相談を含)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3年次事前指導評価(20%)
・実習校の指導教員による採点(60%)
・事後指導(事前指導を受ける3年生への指導・サポート)(10%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート(10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。
【2026年度秋学期】
　初回授業などについては、学習支援システムを確認してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the "preparatory training" held in the fall semester of the third year, students will acquire basic knowledge about the teaching profession and practical skills for teaching in the class.
In the spring semester (or fall semester) of the fourth year, students will learn through on-site training at a school, and in the "follow-up training" held in the fall semester, they will reflect on their on-site training and develop the qualities and abilities necessary to become a teacher in the future.
【Learning Objectives】
Through experiencing the diverse educational practices and work of teachers in the field, students will learn about the importance, challenges, and difficulties of "education."
The goal is to develop the basic leadership skills of future teachers and to establish their responsibility and awareness.
【Learning activities outside of classroom】
Create lesson plans for the unit content you are responsible for.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
3rd year: Pre-guidance evaluation(20％),
Score at the teaching training school(60%),
4th year: Post guidance(10%),
Practical training report and diary(10%)

法政大学
HOSEI University